

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第333集

上野平遺跡発掘調査報告書

緊急地方道路藤沢・津谷川線整備事業関連遺跡発掘調査

(財) 岩手県文化振興事業団

埋蔵文化財センター

うわ の たいら

上野平遺跡発掘調査報告書

緊急地方道路藤沢・津谷川線整備事業関連遺跡発掘調査

序

岩手県には旧石器時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地が各地にあり、平成11年度の岩手県教育委員会のまとめでは10,100箇所を超えております。先人の残したこれらの埋蔵文化財を保護し、保存してゆくことは私達県民に課せられた重大な責務であります。一方、本調査の原因ともなりました緊急地方道整備事業を例にあげるまでもなく、現代社会を豊かにし、快適な生活をおくるために道路交通網の整備もまた県民の切実な願いでもあります。このため埋蔵文化財の保護・保存と地域開発という、相容れない要素をもつ事業の調和のとれた施策が今日的な課題となっております。財團法人岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターの創設以来、埋蔵文化財保護の立場にたって、県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむをえず消滅する遺跡について発掘調査を行い、その記録を残す措置をとってまいりました。

本書は、平成8年度から発掘調査が開始された緊急地方道藤沢・津谷川線整備事業に関連した、上野平遺跡の調査結果をまとめたものであります。遺跡は、黄金山南西麓の丘陵上に立地した縄文時代中期から後期にかけての集落跡であることが明らかになりました。堅穴住居跡や巨大な掘立柱建物跡及び豊富な土器・石器の発見は当地域の状況を知る上で貴重な資料を提供することができました。本書が広く活用され、考古学の研究に寄与するとともに、埋蔵文化財に対する关心と理解をいっそう深めることに役立つことを切に希望します。

最後になりましたが、発掘調査および報告書作成にご協力とご援助を賜りました千厩地方振興局土木部や藤沢町教育委員会をはじめとする多くの関係諸機関・関係各位に衷心より感謝申し上げます。

平成11年12月

財團法人 岩手県文化振興事業団

理事長 船 越 昭 治

例　　言

1. 本報告書は、岩手県東磐井郡藤沢町保呂羽字上野平33-1ほかに所在する上野平遺跡の発掘調査の結果を収録したものである。
2. 本遺跡の調査は、緊急地方道路整備事業(藤沢・津谷川線)に関わる事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会文化課と岩手県土木部千厩土木事務所(現在千厩地方振興局土木部)との協議を経て、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
3. 岩手県遺跡台帳に登録される遺跡番号と遺跡略号は次のとおりである。

遺跡番号　O F 22-2019

遺跡略号　UNT-95(平成8年度調査)、UNT-95(平成9年度調査)

4. 調査面積は2,526m²で、2カ年にわたり調査を行った。各年度の対象面積と調査終了面積及び調査担当者は以下のとおりである。

期　間	平成8年度	4月9日～6月5日	平成9年度	4月8日～9月11日
調査対象面積	平成8年度	1,283m ²	平成9年度	2,054m ²
調査面積	平成8年度	472m ²	平成9年度	2,054m ²
調査担当者	平成8年度	阿部勝則・鈴木 聰	平成9年度	酒井宗孝・布谷義彦

5. 室内整理期間及び担当者は次のとおりである。

平成8年度　期　間：1月1日～3月31日　　担当者：阿部勝則・鈴木 聰

平成9年度　期　間：11月1日～3月31日　　担当者：酒井宗孝・布谷義彦

平成10年度　期　間：平成10年4月1日～平成11年3月31日　　担当者：酒井宗孝

6. 出土遺物の鑑定及び分析に当たっては次の個人・機関に委託・依頼した。(敬称略)

石質鑑定……………佐藤二郎(長内水源工業)、矢内桂三・柳沢忠昭(花崗岩研究会)

焼獣骨の種別同定…熊谷 賢(陸前高田市立博物館)

7. 基準点測量・写真測量及び空中写真の撮影・石器実測・トレースは、次の機関に委託した。

基準点測量……………第一航業株式会社

写真測量……………株式会社シン技術コンサル

空中写真撮影……………株式会社ハイマーテック

石器実測・トレース……株式会社アルカ

8. 発掘調査や整理・報告書の作成において次の機関・個人のご協力及びご指導をいただいた。(順不同)

機関：藤沢町教育委員会・藤沢町役場建設課・株式会社マエダ

個人：高橋龍三郎(早稲田大学)、熊谷常正(盛岡大学)、中村良幸(大迫町教育委員会)、島山 駿雄(千厩町教育委員会)、沼山源喜治・稻野祐介(北上市立埋蔵文化財センター)、稻村晃嗣(川崎市立橘高等学校)、石井 寛(横浜市ふるさと歴史財團)

9. 野外調査では、藤沢町・千厩町をはじめとする地元の方々の多大なる協力を得た。また、室内整理においては当埋蔵文化財センターの臨時職員の皆様にご協力をいただいた。

10. 本書の執筆は、平成8年度検出遺構分は阿部勝則、平成9年度検出遺構分と出土遺物及びまとめを酒井宗孝が分担した。編集は酒井、校正は酒井と阿部が行った。

11. 本遺跡で出土した遺物及び各種実測図・写真等の資料は、岩手県立埋蔵文化財センターに保管している。

目 次

序
例言
報告書抄録

[本文]

I 調査に至る経過.....	3	7. 遺物包含層.....	85
II 遺跡の立地と環境.....	3	(1)層相と形成過程.....	85
1. 遺跡の位置及び地理的環境.....	3	(2)出土遺物.....	85
2. 周辺の地形と基本層序.....	3	1. 土器.....	85
3. 周辺の遺跡.....	5	2. 石器.....	92
III 考査の方法と整理.....	10	3. 石製品.....	98
1. 調査の方法.....	10	4. 土製品.....	99
2. 整理.....	12	5. 土器片円盤.....	99
IV 検出された遺構と遺物.....	14	6. 自然遺物.....	100
1. 堅穴住居跡.....	14	V まとめ.....	329
2. 掘立柱建物跡・柱穴群.....	34	1. 遺構.....	329
3. 土坑.....	55	2. 遺物.....	330
4. 焼上遺構.....	66	3. おわりに.....	332
5. 埋設土器.....	82	VI 分析・鑑定.....	341
6. 集石遺構.....	82	1. 上野平遺跡出土の焼獸骨の種別同定.....	341

[表]

上器観察表.....	269	石製品観察表.....	320
石器観察表.....	308	土製品観察表.....	322
石器観察表.....	312	上器片円盤観察表.....	323

[図版目次]

第1図 岩手県図に見る遺跡の位置.....	1	第7図 グリッド配置図2.....	11
第2図 遺跡周辺地形図.....	2	第8図 実測図凡例.....	13
第3図 遺跡周辺地形分類図.....	4	第9図 RA01・02.....	15
第4図 基本土層柱状図.....	5	第10図 RA03(1).....	17
第5図 藤沢町の遺跡分布図.....	7・8	第11図 RA03(2).....	18
第6図 グリッド配置図1.....	10	第12図 RA04・05・06.....	21

第13回	RA04	23	第47回	RH01・02	82
第14回	RA05	24	第48回	遺構配置図	83・84
第15回	RA06(1)	27	第49回	土器出土量分布図	86
第16回	RA06(2)	28	第50回	石鐵出土分布図	93
第17回	RA07	30	第51回	黒曜石製石器出土分布図	94
第18回	RA08(1)	32	第52回	土器片・円盤出土分布図	99
第19回	RA08(2)	33	第53回	遺構内出土遺物(住居跡)	101
第20回	RB01	35	第54回	遺構内出土遺物(住居跡)	102
第21回	RB02	36	第55回	遺構内出土遺物(住居跡)	103
第22回	RB03	37	第56回	遺構内出土遺物(住居跡)	104
第23回	B区西側柱穴群	39	第57回	遺構内出土遺物(住居跡)	105
第24回	B区西側柱穴群(断面)	40	第58回	遺構内出土遺物(住居跡)	106
第25回	B区西側柱穴群(断面)	41	第59回	遺構内出土遺物(住居跡)	107
第26回	B区東側柱穴群	42	第60回	遺構内出土遺物(住居跡)	108
第27回	B区西側柱穴群(断面)	43	第61回	遺構内出土遺物(住居跡)	109
第28回	B区西側柱穴群(断面)	44	第62回	遺構内出土遺物(住居跡)	110
第29a回	C区柱穴群	45・46	第63回	遺構内出土遺物(住居跡)	111
第29b回	C区柱穴群	47・48	第64回	遺構内出土遺物(住居跡)	112
第30回	C区柱穴群(断面)	49	第65回	遺構内出土遺物(住居跡)	113
第31回	C区柱穴群(断面)	50	第66回	遺構内出土遺物(住居跡)	114
第32回	C区柱穴群(断面)	51	第67回	遺構内出土遺物(住居跡)	115
第33回	RD04・08・13・09	67	第68回	遺構内出土遺物(住居跡)	116
第34回	RD14・16・20・23・24	68	第69回	遺構内出土遺物(住居跡)	117
第35回	RD21・54・25・55・53・70・71	69	第70回	遺構内出土遺物(住居跡)	118
第36回	RD61・62・63・65・73・64・66 67・68・72・69・77・12・76	70	第71回	遺構内出土遺物(住居跡)	119
第37回	RD01・02・03・05	71	第72回	遺構内出土遺物(住居跡)	120
第38回	RD06・07・22・26 27・58・19・59・74・75	72	第73回	遺構内出土遺物 (掘立柱建物跡・柱穴)	121
第39回	RD28・29・30・31・80・32 84・33・34	73	第74回	遺構内出土遺物(柱穴)	122
第40回	RD35・36・37・40・43・41・42	74	第75回	遺構内出土遺物(柱穴)	123
第41回	RD44・49・45・85・50	75	第76回	遺構内出土遺物(柱穴・土坑)	124
第42回	RD46・47・51・60・52	76	第77回	遺構内出土遺物(土坑)	125
第43回	RD56・78・57	77	第78回	遺構内出土遺物(土坑)	126
第44回	RD79・81・82・83・86・87・48	78	第79回	遺構内出土遺物(土坑)	127
第45回	RF01・02・03・RZ01	80	第80回	遺構内出土遺物(土坑)	128
第46回	RF04・05・06・07	81	第81回	遺構内出土遺物(土坑)	129
			第82回	遺構内出土遺物(土坑)	130
			第83回	遺構内出土遺物(土坑)	131

第84回	遺構内出土遺物(土坑).....	132	第122回	包含層出土遺物(土器・C区).....	170
第85回	遺構内出土遺物(土坑).....	133	第123回	包含層出土遺物(土器・C区).....	171
第86回	遺構内出土遺物(土坑).....	134	第124回	包含層出土遺物(土器・C区).....	172
第87回	遺構内出土遺物(土坑).....	135	第125回	包含層出土遺物(土器・C区).....	173
第88回	遺構内出土遺物(土坑).....	136	第126回	包含層出土遺物(土器・C区).....	174
第89回	遺構内出土遺物(土坑).....	137	第127回	包含層出土遺物(土器・C D区).....	175
第90回	遺構内出土遺物(土坑).....	138	第128回	包含層出土遺物(土器・D区).....	176
第91回	遺構内出土遺物(土坑).....	139	第129回	包含層出土遺物(土器・D区).....	177
第92回	遺構内出土遺物(土坑).....	140	第130回	包含層出土遺物(土器・D区).....	178
第93回	遺構内出土遺物(炉跡・埋設土器).....	141	第131回	包含層出土遺物(土器・D区).....	179
第94回	包含層出土遺物(土器・D区細分).....	142	第132回	包含層出土遺物(土器・D区).....	180
第95回	包含層出土遺物(土器・D区細分).....	143	第133回	包含層出土遺物(土器・D区).....	181
第96回	遺構内出土遺物(土器・D区細分).....	144	第134回	包含層出土遺物(土器・D区).....	182
第97回	遺構内出土遺物(土器・D区細分).....	145	第135回	包含層出土遺物(土器・D区).....	183
第98回	遺構内出土遺物(土器・D区細分).....	146	第136回	包含層出土遺物(土器・D区).....	184
第99回	包含層出土遺物(土器・D区細分).....	147	第137回	包含層出土遺物(土器・D区).....	185
第100回	包含層出土遺物(土器・E区細分).....	148	第138回	包含層出土遺物(土器・D E区).....	186
第101回	包含層出土遺物(土器・E区細分).....	149	第139回	包含層出土遺物(土器・E区).....	187
第102回	包含層出土遺物(土器・E区細分).....	150	第140回	包含層出土遺物(土器・E区).....	188
第103回	包含層出土遺物(土器・E区細分).....	151	第141回	包含層出土遺物(土器・E区).....	189
第104回	包含層出土遺物(土器・E区細分).....	152	第142回	包含層出土遺物(土器・E区).....	190
第105回	包含層出土遺物(土器・F区細分).....	153	第143回	包含層出土遺物(土器・E区).....	191
第106回	包含層出土遺物(土器・F区細分).....	154	第144回	包含層出土遺物(土器・E区).....	192
第107回	包含層出土遺物(土器・F区細分).....	155	第145回	包含層出土遺物(土器・E区).....	193
第108回	包含層出土遺物(土器・F区細分).....	156	第146回	包含層出土遺物(土器・E区).....	194
第109回	包含層出土遺物(土器・F区細分).....	157	第147回	包含層出土遺物(土器・E区).....	195
第110回	包含層出土遺物(土器・F区細分).....	158	第148回	包含層出土遺物(土器・E区).....	196
第111回	包含層出土遺物(土器・J区細分).....	159	第149回	包含層出土遺物(土器・E区).....	197
第112回	包含層出土遺物(土器・J区細分).....	160	第150回	包含層出土遺物(土器・E区).....	198
第113回	包含層出土遺物(土器・A区).....	161	第151回	包含層出土遺物(土器・E F区).....	199
第114回	包含層出土遺物(土器・A区).....	162	第152回	包含層出土遺物(土器・F区).....	200
第115回	包含層出土遺物(土器・A区).....	163	第153回	包含層出土遺物(土器・F区).....	201
第116回	包含層出土遺物(土器・B区).....	164	第154回	包含層出土遺物(土器・F区).....	202
第117回	包含層出土遺物(土器・B区).....	165	第155回	包含層出土遺物(土器・F区).....	203
第118回	包含層出土遺物(土器・B区).....	166	第156回	包含層出土遺物(土器・F区).....	204
第119回	包含層出土遺物(土器・C区).....	167	第157回	包含層出土遺物(土器・F区).....	205
第120回	包含層出土遺物(土器・C区).....	168	第158回	包含層出土遺物(土器・F G区).....	206
第121回	包含層出土遺物(土器・C区).....	169	第159回	包含層出土遺物(土器・G区).....	207

第160図	包含層出土遺物(土器・G区).....	208
第161図	包含層出土遺物(土器・G区).....	209
第162図	包含層出土遺物(土器・G区).....	210
第163図	包含層出土遺物(土器・G区).....	211
第164図	包含層出土遺物(土器・G区).....	212
第165図	包含層出土遺物(土器・G H区).....	213
第166図	包含層出土遺物(土器・H区).....	214
第167図	包含層出土遺物(土器・H区).....	215
第168図	包含層出土遺物(土器・H区).....	216
第169図	包含層出土遺物(土器・H区).....	217
第170図	包含層出土遺物(土器・H I区).....	218
第171図	包含層出土遺物(土器・I区).....	219
第172図	包含層出土遺物(土器・I区).....	220
第173図	包含層出土遺物(土器・I区).....	221
第174図	包含層出土遺物(土器・I区).....	222
第175図	包含層出土遺物(土器・I区).....	223
第176図	包含層出土遺物(土器・J区).....	224
第177図	包含層出土遺物(土器・J区).....	225
第178図	包含層出土遺物(土器・K L区).....	226
第179図	包含層出土遺物(土器・L MN区).....	227
第180図	包含層出土遺物(土器・N O D C区).....	228
第181図	包含層出土遺物(土器・C区).....	229
第182図	包含層出土遺物(土器・C D A区).....	230
第183図	包含層出土遺物(石器1).....	231
第184図	包含層出土遺物(石器2).....	232
第185図	包含層出土遺物(石器3).....	233
第186図	包含層出土遺物(石器4).....	234
第187図	包含層出土遺物(石器5).....	235
第188図	包含層出土遺物(石器6).....	236
第189図	包含層出土遺物(石器7).....	237
第190図	包含層出土遺物(石器8).....	238
第191図	包含層出土遺物(石器9).....	239
第192図	包含層出土遺物(石器10).....	240
第193図	包含層出土遺物(石器11).....	241
第194図	包含層出土遺物(石器12).....	242
第195図	包含層出土遺物(石器13).....	243
第196図	包含層出土遺物(石器14).....	244
第197図	包含層出土遺物(石器15).....	245
第198図	包含層出土遺物(石器16).....	246
第199図	包含層出土遺物(石器17).....	247
第200図	包含層出土遺物(石器18).....	248
第201図	包含層出土遺物(石器19).....	249
第202図	包含層出土遺物(石器20).....	250
第203図	包含層出土遺物(石器21).....	251
第204図	包含層出土遺物(石器22).....	252
第205図	包含層出土遺物(石器23).....	253
第206図	包含層出土遺物(石器24).....	254
第207図	包含層出土遺物(石器25).....	255
第208図	包含層出土遺物(石器26).....	256
第209図	包含層出土遺物(石器27・石製品1).....	257
第210図	包含層出土遺物(石製品2).....	258
第211図	包含層出土遺物(石製品3).....	259
第212図	包含層出土遺物(石製品4).....	260
第213図	包含層出土遺物(土製品1).....	261
第214図	包含層出土遺物(土製品2).....	262
第215図	包含層出土遺物(土器片凹盤1).....	263
第216図	包含層出土遺物(土器片凹盤2).....	264
第217図	包含層出土遺物(土器片凹盤3).....	265
第218図	包含層出土遺物(土器片凹盤4).....	266
第219図	包含層出土遺物(土器片凹盤5).....	267
第220図	包含層出土遺物(土器片凹盤6).....	268
第221図	土器集成図1.....	333
第222図	土器集成図2.....	334
第223図	土器集成図3.....	335
第224図	土器集成図4.....	336
第225図	土器集成図5.....	337
第226図	土器集成図6.....	338
第227図	土器集成図7.....	339
第228図	土器集成図8.....	340

[写真図版]

写真図版1	(調査区全景).....	347
写真図版2	(住居跡・掘立柱建物跡).....	348
写真図版3	(RA03複式炉・B区柱穴断面).....	349
写真図版4	(RD01遺物出土状況・出土遺物).....	350

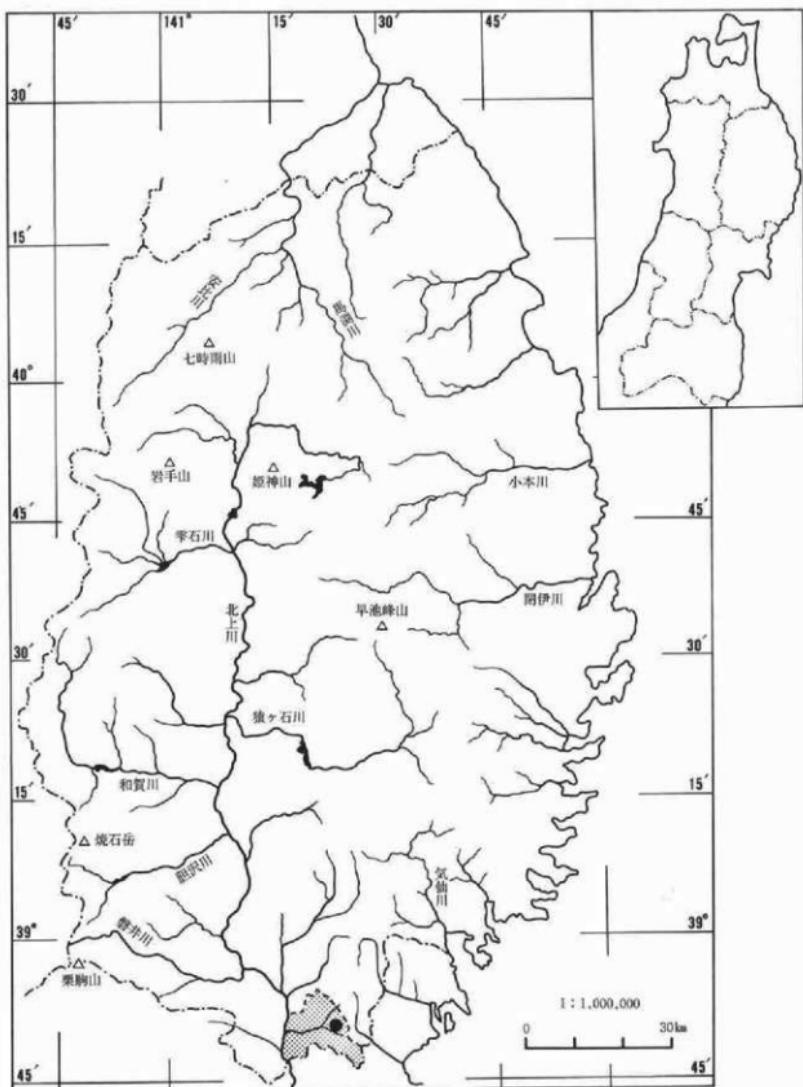
写真図版5	(包含層断面).....	351	写真図版43	(RD35~37・40).....	389
写真図版6	(包含層土器出土状況).....	352	写真図版44	(RD41~44).....	390
写真図版7	(RA01・RA02).....	353	写真図版45	(RD45~48).....	391
写真図版8	(RA03[1]).....	354	写真図版46	(RD49~52).....	392
写真図版9	(RA03[2]).....	355	写真図版47	(RD53~56).....	393
写真図版10	(RA03[3]).....	356	写真図版48	(RD57~60).....	394
写真図版11	(RA04[1]).....	357	写真図版49	(RD61・62・73・78・79).....	395
写真図版12	(RA04[2]).....	358	写真図版50	(RD81~83・86).....	396
写真図版13	(RA05[1]).....	359	写真図版51	(RD87・RF01).....	397
写真図版14	(RA05[2]).....	360	写真図版52	(RF02~05).....	398
写真図版15	(RA06[1]).....	361	写真図版53	(RF06・07・RH01・02).....	399
写真図版16	(RA06[2]・RA07).....	362	写真図版54	(RH02・RZ01・ D II区包含層断面).....	400
写真図版17	(RA08).....	363	写真図版55	(D III IV V区・ E II III区包含層断面).....	401
写真図版18	(RB01).....	364	写真図版56	(E III区・ F II III IV区包含層断面).....	402
写真図版19	(RB02・RB03).....	365	写真図版57	(F IV V区・ J II III IV V区包含層断面).....	403
写真図版20	(柱穴B 3区).....	366	写真図版58	(遺跡遠景・調査風景).....	404
写真図版21	(柱穴B 3区).....	367	写真図版59	(出土遺物1~11).....	405
写真図版22	(柱穴B 3区).....	368	写真図版60	(出土遺物12~26).....	406
写真図版23	(柱穴B 3区).....	369	写真図版61	(出土遺物27~45).....	407
写真図版24	(柱穴C 2区).....	370	写真図版62	(出土遺物46~58).....	408
写真図版25	(柱穴C 2区).....	371	写真図版63	(出土遺物59~84).....	409
写真図版26	(柱穴C 2区).....	372	写真図版64	(出土遺物85~135).....	410
写真図版27	(柱穴C 2・C 3区).....	373	写真図版65	(出土遺物136~158).....	411
写真図版28	(柱穴C 3・B 2・B 3区).....	374	写真図版66	(出土遺物159~181).....	412
写真図版29	(柱穴C 2・B 3区).....	375	写真図版67	(出土遺物182~189).....	413
写真図版30	(柱穴C 2区).....	376	写真図版68	(出土遺物190~207).....	414
写真図版31	(柱穴C 2区).....	377	写真図版69	(出土遺物208~227).....	415
写真図版32	(柱穴C 2区).....	378	写真図版70	(出土遺物228~239).....	416
写真図版33	(柱穴C 2区).....	379	写真図版71	(出土遺物240~258).....	417
写真図版34	(柱穴C 2区).....	380	写真図版72	(出土遺物259~281).....	418
写真図版35	(柱穴C 2区).....	381	写真図版73	(出土遺物282~296).....	419
写真図版36	(RD01~03).....	382	写真図版74	(出土遺物297~324).....	420
写真図版37	(RD04~07).....	383	写真図版75	(出土遺物325~366).....	421
写真図版38	(RD07~09・12・13).....	384	写真図版76	(出土遺物367~402).....	422
写真図版39	(RD14・16・19・20).....	385			
写真図版40	(RD21~23・25・26).....	386			
写真図版41	(RD27~30).....	387			
写真図版42	(RD31~34・80・84).....	388			

写真図版77	(出土遺物403~436)	423	写真図版115	(出土遺物1393~1422)	461
写真図版78	(出土遺物437~462)	424	写真図版116	(出土遺物1423~1453)	462
写真図版79	(出土遺物463~499)	425	写真図版117	(出土遺物1454~1465)	463
写真図版80	(出土遺物500~582)	426	写真図版118	(出土遺物1466~1478)	464
写真図版81	(出土遺物583~602)	427	写真図版119	(出土遺物1479~1498)	465
写真図版82	(出土遺物603~622)	428	写真図版120	(出土遺物1499~1509)	466
写真図版83	(出土遺物623~648)	429	写真図版121	(出土遺物1510~1521)	467
写真図版84	(出土遺物649~684)	430	写真図版122	(出土遺物1522~1536)	468
写真図版85	(出土遺物685~725)	431	写真図版123	(出土遺物1537~1554)	469
写真図版86	(出土遺物726~749)	432	写真図版124	(出土遺物1555~1562)	470
写真図版87	(出土遺物750~774)	433	写真図版125	(出土遺物1563~1588)	471
写真図版88	(出土遺物775~813)	434	写真図版126	(出土遺物1589~1607)	472
写真図版89	(出土遺物814~861)	435	写真図版127	(出土遺物1608~1620)	473
写真図版90	(出土遺物862~885)	436	写真図版128	(出土遺物1621~1631)	474
写真図版91	(出土遺物886~910)	437	写真図版129	(出土遺物1632~1641)	475
写真図版92	(出土遺物911~946)	438	写真図版130	(出土遺物1642~1656)	476
写真図版93	(出土遺物947~979)	439	写真図版131	(出土遺物1657~1672)	477
写真図版94	(出土遺物980~1016)	440	写真図版132	(出土遺物1673~1687)	478
写真図版95	(出土遺物1017~1041)	441	写真図版133	(出土遺物1688~1701)	479
写真図版96	(出土遺物1042~1068)	442	写真図版134	(出土遺物1702~1718)	480
写真図版97	(出土遺物1069~1093)	443	写真図版135	(出土遺物1719~1728)	481
写真図版98	(出土遺物1094~1119)	444	写真図版136	(出土遺物1729~1750)	482
写真図版99	(出土遺物1120~1138)	445	写真図版137	(出土遺物1751~1772)	483
写真図版100	(出土遺物1139~1154)	446	写真図版138	(出土遺物1773~1789)	484
写真図版101	(出土遺物1155~1187)	447	写真図版139	(出土遺物1790~1802)	485
写真図版102	(出土遺物1188~1221)	448	写真図版140	(出土遺物1803~1816)	486
写真図版103	(出土遺物1222~1242)	449	写真図版141	(出土遺物1817~1830)	487
写真図版104	(出土遺物1243~1250)	450	写真図版142	(出土遺物1831~1850)	488
写真図版105	(出土遺物1251~1260)	451	写真図版143	(出土遺物1851~1878)	489
写真図版106	(出土遺物1261~1273)	452	写真図版144	(出土遺物1879~1890)	490
写真図版107	(出土遺物1274~1282)	453	写真図版145	(出土遺物1891~1894)	491
写真図版108	(出土遺物1283~1304)	454	写真図版146	(出土遺物1895~1901)	492
写真図版109	(出土遺物1305~1316)	455	写真図版147	(出土遺物1902~1911)	493
写真図版110	(出土遺物1317~1332)	456	写真図版148	(出土遺物1912~1923)	494
写真図版111	(出土遺物1333~1348)	457	写真図版149	(出土遺物1924~1953)	495
写真図版112	(出土遺物1349~1367)	458	写真図版150	(出土遺物1954~1965)	496
写真図版113	(出土遺物1368~1379)	459	写真図版151	(出土遺物1966~1977)	497
写真図版114	(出土遺物1380~1392)	460	写真図版152	(出土遺物1978~1984)	498

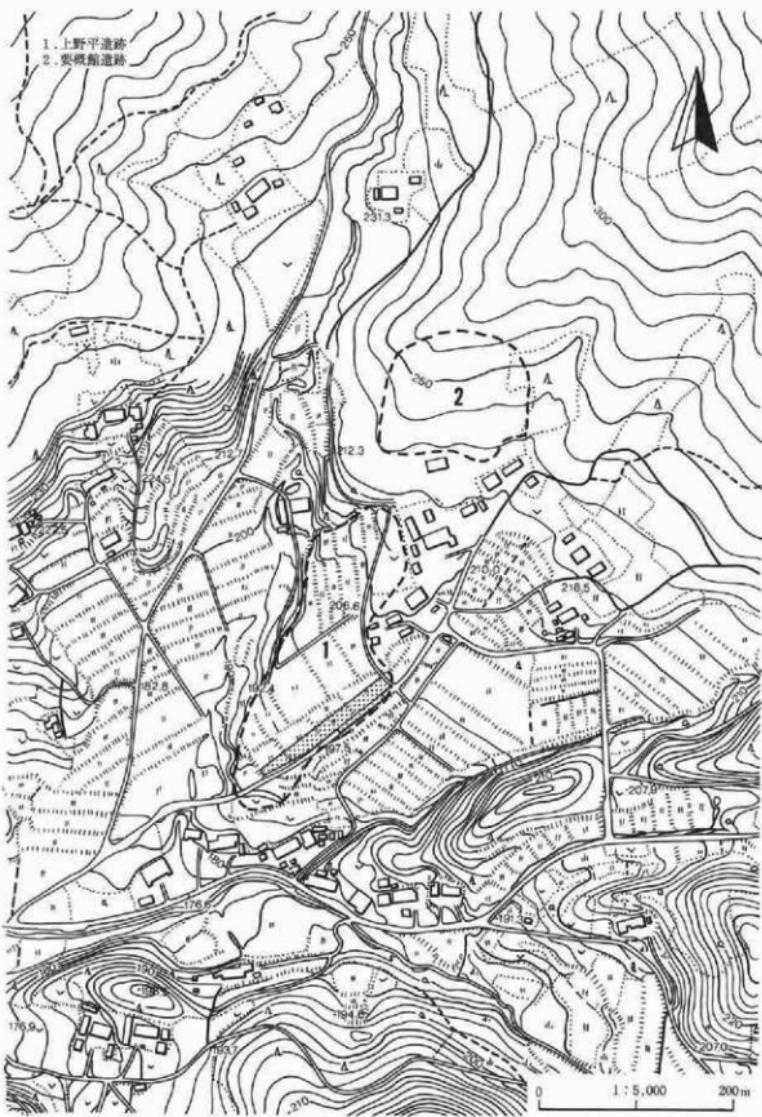
写真図版153	(出土遺物1985~2002)	499	写真図版173	(出土遺物2502~2530)	519
写真図版154	(出土遺物2003~2035)	500	写真図版174	(出土遺物2531~2557)	520
写真図版155	(出土遺物2036~2053)	501	写真図版175	(出土遺物2558~2591)	521
写真図版156	(出土遺物2054~2063)	502	写真図版176	(出土遺物2592~2606)	522
写真図版157	(出土遺物2064~2071)	503	写真図版177	(出土遺物2607~2616)	523
写真図版158	(出土遺物2072~2086)	504	写真図版178	(出土遺物2617~2628)	524
写真図版159	(出土遺物2087~2108)	505	写真図版179	(出土遺物2629~2644)	525
写真図版160	(出土遺物2109~2125)	506	写真図版180	(出土遺物2645~2664)	526
写真図版161	(出土遺物2126~2150)	507	写真図版181	(出土遺物2665~2679)	527
写真図版162	(出土遺物2151~2172)	508	写真図版182	(出土遺物2680~2694)	528
写真図版163	(出土遺物2173~2191)	509	写真図版183	(出土遺物2695~2716)	529
写真図版164	(出土遺物2192~2217)	510	写真図版184	(出土遺物2717~2728)	530
写真図版165	(出土遺物2218~2252)	511	写真図版185	(出土遺物2729~2746)	531
写真図版166	(出土遺物2253~2303)	512	写真図版186	(出土遺物2747~2770)	532
写真図版167	(出土遺物2304~2353)	513	写真図版187	(出土遺物2771~2811)	533
写真図版168	(出土遺物2354~2397)	514	写真図版188	(出土遺物2812~2860)	534
写真図版169	(出土遺物2398~2426)	515	写真図版189	(出土遺物2861~2898)	535
写真図版170	(出土遺物2427~2462)	516	写真図版190	(出土遺物2899~2928)	536
写真図版171	(出土遺物2463~2485)	517	写真図版191	(出土遺物2929~2949)	537
写真図版172	(出土遺物2486~2501)	518	写真図版192	(出土遺物2950)	538

報告書抄録

ふりがな	うわのたいらいせきはくつちょうきはうこくしょ						
書名	上野平遺跡発掘調査報告書						
副書名	緊急地方道路藤沢・津谷川線建設事業関連遺跡発掘調査						
卷次							
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第333集						
編著者名	酒井宗孝・阿部勝則						
編集機関	財団法人 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター						
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯町11-185 Tel 019-638-9001						
発行年月日	2000年 3月 24日						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
所取遺跡名	所 在 地	市町村	遺跡番号				
上野平遺跡	岩手県藤沢町保呂羽字上野平33-1ほか	03422	OF22-2019	38度 50分 37秒	141度 23分 35秒	19960409 ~ 19970408 ~ 19970911	472m ² 2,054m ²
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
上野平遺跡	集落跡	縄文時代	堅穴住居	8棟	縄文土器(早・前・中期後期初頭期主体)	大型柱穴群を多数検出。6本柱による建物跡を構成する可能性もある。ただし、配置が不規則な柱穴も多い。	
			掘立柱建物跡 炉・焼土遺構 土坑 柱穴 集石遺構 埋設土器 遺物包含層(捨て場)	3棟 7基 80基 385基 2基 1基 自然遺物(アスファルト・焼獸骨・琥珀・炭化栗等)	土器(動物形土器有) 土製品		
	弥生時代	平安時代			弥生土器(若干)	中期後業~末葉期の住居跡の変遷がたどれる。包含層からは豊富な遺物が出土。 該期土器編年の一助となろう。	
			土坑	1基	土師器坏・壺(若干)		



第1図 岩手県図に見る遺跡の位置



第2図 遺跡周辺地形図

I 調査に至る経過

上野平遺跡は「緊急地方道路整備事業（千厩一津谷川線）」に関連する遺跡として緊急発掘調査が行われた。この事業に関する遺跡の取り扱いについては、岩手県教育委員会と岩手県千厩地方振興局土木部との間で協議が重ねられ、上野平遺跡については平成7年3月7日～8日に岩手県教育委員会文化課により内容確認のための試掘調査が行われた。その結果、事業地内に遺構・遺物が確認されたことから、文化課の調整のもとに平成8年度の岩手県文化振興事業団の委託事業として、埋蔵文化財センターが本調査を行うことになった。

平成8年度は、4月9日～5月30日の期間で、面積1,283m²の調査を行ったが、多量の遺構・遺物が出土したため472m²について6月5日に調査を終了し、残り811m²と未賃収地分を次年度に調査することとした。平成9年度は当初4月8日～6月30日の期間で面積1,054m²の調査を開始したが、工事施工区域にさらに600m²の遺物・遺構分布域が存在することが判明した。このため再度三者間で協議が持たれ、6月中旬に追加分を含む2,054m²を対象とし、期間も9月11日まで延長することとなった。

II 遺跡の立地と環境

1. 遺跡の位置及び地理的環境

上野平遺跡の所在する藤沢町は岩手県の南端に位置し、西は西磐井郡花泉町、北は東磐井郡川崎村、千厩町、東は室根村、南は宮城県本吉郡本吉町、登米郡東和町に接する。面積122.88Km²、人口10,746人である¹⁾。町域は西側が黄金山（482.4m）、保呂羽山（433.8m）を中心とする山地、東側に広がる丘陵地が大部分を占める。町域のはば中央を保呂羽山南麓に源を発する黄海川が西流して北上川に注ぎ、黄海川及びその支流域に僅かに低地が開け、耕地・集落が点在する。年平均気温は10.5度、年間降水量は1130.3mmで、盆地に立地するため気温の較差はやや大きい。現在の藤沢町は健康と福祉の里づくりをすすめ、なかでも有料ホームヘルプサービス制度を導入したボランティアセンターは評価が高い。昭和51年度から毎年8月に開催されている野焼き祭りや、モトクロスレースが開催されるなど、スポーツやイベントが盛んに行われている。またキリスト教の地として大龍は有名で、多くの史跡が残されている。

藤沢町の成立について簡単に触ると、昭和30年に藤沢町と黄海・八沢の両村と大津保村の一部（大龍・保呂羽地区）が合併して町制を施行し、現在に至る。

上野平遺跡は、岩手県東磐井郡藤沢町保呂羽字上野平33-1ほかに所在し、藤沢町役場の東南東約3.7km付近に位置する。同地点は北緯38度50分37秒、東經141度23分35秒付近で、国土地理院発行の5万分の1地形図「千厩」(NJ-54-14-11) 及び2万5千分1地形図「津谷川」(NJ-54-14-11-2) の図幅に含まれる。

2. 周辺の地形と基本層序

(1) 遺跡周辺の地形

周辺部の地形分類図を第3図に示した。藤沢町内はそのほとんどが山地丘陵で、町面積の60%以上が山林・丘陵で占められている。遺跡周辺の地形を分類すると山地・丘陵地・低地に分けられるが、大半が山地及び山地の裾野である丘陵地で占められている。低地は、町の中央を西流する黄海川とその支流に僅かに狭く点在し、耕地・集落も同地点に散在する。

上野平遺跡は、賀黄金（標高482m）山麓の南南西の山麓緩斜面の裾野に立地し、今回の調査区は、山麓から流れる二つの小河川に東西を挟まれ舌状を呈する丘陵の末端部に位置する。遺跡の範囲は東西最大130m・南北最大340mで面積は約28,167m²である。標高は194～200mで、北西から南西へ傾斜している。遺跡の現況は水田・畑地で、水田造成時にかなり改変された形跡がある。なお、遺跡の北東側70m付近には要書館がある。

(阿龍)

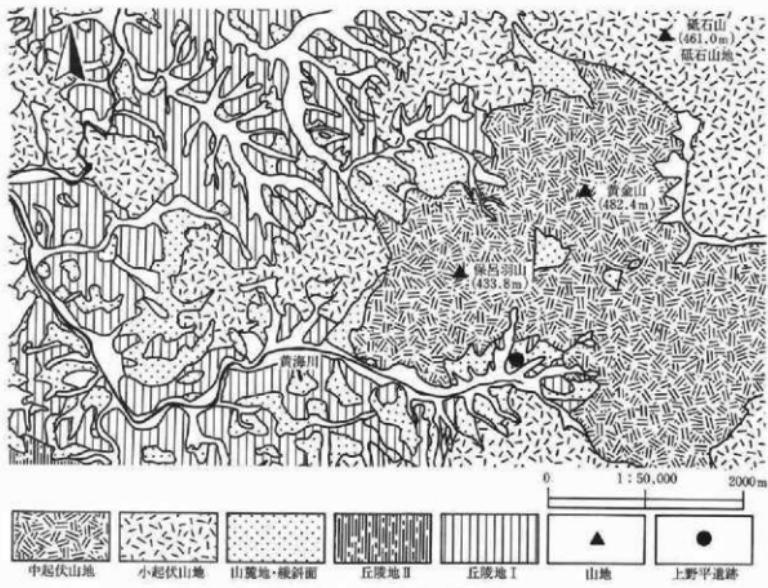
(2) 基本圖序

調査区の全域にわたり昭和30年代初めの水田造成時の削平と盛土によって、元來の地形を推定できないほどの改変を受けている。削平の深さは地点によって異なるが、ほとんどの遺構は上部を削られた状態で検出されている。第4図には比較的削平の浅い2B24B区と遺物包含層内のE III区の土層を略図化した。

0層 黒褐色土～暗褐色土(混合土) 層厚30-155cm。現地形を構成する盛土層(現表土を含む)で、最大1.5m以上の層厚を持つ。層中には顕平時に混入したと考えられる縄文時代の遺物を含む。

I層 黒褐色土 層厚0~10cm。旧表土層で、削平のためほとんど残存していない。僅かに遺物包含層と埋蔵道場の一部に分布するだけである。

II層 黒色土-暗褐色土 層厚0-150cm。包含層が確認される前の段階で、旧表土から遭検査出面までの層として暫定的に命名した層位で、広義の包含層に当たる。遺物包含層の精査の段階は下部に中揮浮石層と考えられるバミス層を挟むことや、これの上部・下部の層も細分されることが確認された。基本層位としては、下記の1~4層に大別した。



第3図 遺跡周辺地形分類図

II 1 : 層黑色土～黒褐色土 層厚0～110cm。中揮浮石層上位の層である。人為的な廃棄土で、包含層の主体をなし、地点により数層に細分される。層中には主に縄文時代中期～後期の土器・石器や焼獸骨が多数含まれる。

II 2 : 暗褐色土 層厚10～20cm。しまりのないシルト層で、灰白色を呈する粉状のバミス純層をブロックとして含む。十和田火山を噴出起源とする中揮火山灰(安家火山灰)層と考えられる。調査区内では包含層域の中央部(沢状地形の中央)にのみ堆積する。全体が渴っていることや純層が極端にしか観察されないことから、周囲からの再堆積層と考えられる。層の上下からは縄文時代前期の土器が出土する。降下年代としては約5,400年前(早川、1983)が得られており、土器の出土状況に層位的な矛盾はない。

II 3 : 黒褐色土 層厚10～40cm。中揮火山灰より下位の層で、縄文時代前期前葉の土器が出土する。

II 4 : 暗褐色土～褐色土 層厚10～20cm。下部のローム層との漸移層で、遺物はほとんど含まれない。なお、調査区東側(沢地形東岸部)では、II 3以下の層は確認されず、II 2の下位はV層となっている。

V層 黄褐色土 層厚20cm。新鮮なローム層で、当層が造構の最終検出面である。

VI層 明褐色土 層厚17cm。約1～2mmの発砲のよいバミスと石英粒を含む。

VII層 明褐色土 層厚14～15。 石英粒を含む。

VIII層 明褐色土 層厚40cm。 上部の石英粒を含むa層と、色調がやや明るく石英粒を含まないb層に分けられる。

VIII層 橙色土 層厚22～25cm。約0.5～3cmの発砲のよいバミス層で水分を含み全体にグスグスした感じを受ける。なお、第V層～第VII層のローム層について、詳細な検討は行っていないが、菊池強一氏(元当埋文センター資料課長)より、「上部は鳴子火山灰、下部は黒沢尻火山灰に相当するものではないか」とのご教示を受けた。

雑層 にぶい黄褐色土 層厚不明。当地区の基盤層と考えられる層で、層中にはホルンフェルスの亜角礫を含む。下部はグライ化し、粘性を持つ。

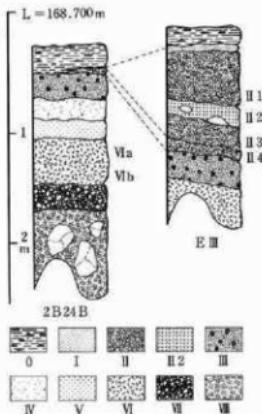
(酒井)

3. 周辺の遺跡

藤沢町内では現在93遺跡が確認されて登録されている¹¹⁾。遺跡の調査事例は少なく、平成4年に十文字遺跡、平成5年に富岡館が藤沢町教育委員会により調査が行われており、平成7・8年に相ノ沢遺跡、平成8・9年に上野平遺跡が岩手県埋蔵文化財センターにより調査が行われているのを挙げるに留まる。93遺跡を時代別に見ると、縄文49、弥生0・古代7、中世33、近世7であるが、詳細は不明な部分が多い。

旧石器時代では、「藤沢町史」に後期旧石器時代と推定される局部磨製石斧が本町公民館に所蔵されている旨の記載があるが、出土地点は不明とされている。

縄文時代の遺跡49遺跡のなかで、遺跡の内容が詳細に把握されているものは少ない。早期では北上橋下遺跡があり、縄文時代早期の土器とシカ・イノシシなどの骨や鹿角が採取されている¹²⁾。前期の遺跡につい



第4図 基本土層柱状図

ては詳細は不明だが、上野平遺跡から縄文時代前期の遺物が出土している。中期では、上野平遺跡の他に十文字遺跡が挙げられる。平成4年の調査成果では、時代は中期中葉から末葉、後期初頭の遺跡で、堅穴住居跡4棟、掘立柱建物跡1棟、石壺炉1基、集石遺構1基、土坑13基、焼土遺構4基、上器捨て場が見つかっている。後・晚期では、昭和47年に町指定史跡に指定された相ノ沢遺跡がある。平成7・8年度に行われた調査の成果では、縄文時代後期・晚期の捨て場、上坑、柱穴・配石遺構・炉跡・埋設上器、中世末期の土器、溝跡、近代の窯跡など、多数の遺構が検出された。捨て場からは多量の土器・石器・土製品・石製品が出土している。他に調査は行われていないが、後期の遺跡として、玉ノ沢、長昌寺、山ノ坊、中島の4遺跡、晚期の遺跡として舟木・七郎五郎の2遺跡が該期の可能性を指摘されている。

古代の遺跡には古室・天堀I・天堀II・長昌寺・粉香木・粉香木2・板橋1の7遺跡が挙げられるが、詳細は不明である。「藤沢町史」によると黄海の長昌寺には古墳時代後期と考えられる埴瓶が保管されている。

中世では城館33が知られている。このうち西口に位置する富岡館は、資料の検討が残されているものの葛西氏家臣佐藤氏、後に及川氏が居住したとされる館跡で、平成5年に調査が行われた。調査の結果、空堀1条、掘立柱穴跡13棟、溝状遺構2状、氏神社床下遺構1基、陥し穴状遺構1基が検出され、陶磁器141点、鉄製品21点などが出土している。出土遺物から存続時期は16世紀中葉以降と考えられている。

近世の遺跡では、渡し場跡である黄海川岸場、西光寺供養塔、墳墓の大塚、藩境塚の新町の4遺跡がある。なおキリシタン殉教の地、大籠地区では隠れキリシタンによる多くの史跡が残されている。また、ドウメキ沢製鉄跡では、1978年道路の切り通しから炉床断面が検出されたことにより、町教育委員会が調査を実施し、ほぼ完形な製鉄炉1基を確認した。

なお町外に目を向けると、近年、県南の兩鰐井地区における発掘調査の増加とともに、縄文時代の遺跡の調査事例が増えつつある。大東町の中の台遺跡や花泉町の下館銅屋遺跡、一関市の清水遺跡などいずれも大規模な縄文集落で、時期はいずれも縄文時代中期から後期初頭である。上野平遺跡の調査成果についても、これら周辺地域の遺跡群との比較検討が今後の課題である。

(阿部)

註

- 1) 岩手日報社 1998『岩手年鑑』1999年版。
- 2) 岩手県教育委員会 1999『岩手県遺跡台帳』所属年度11年。
- 3) 北上鶴下遺跡は『藤沢町史』上に記載があるが「岩手県遺跡台帳」には同遺跡の名称が記されていない。遺跡の位置から『岩手県遺跡台帳』に登録される「黄海川岸場遺跡」に比定されるものと思われる。

参考文献

- 岩手県教育委員会 1996『岩手県内遺跡発掘調査報告書(平成7年度)』岩手県文化財調査報告第98集。
岩手県教育委員会 1999『岩手県遺跡台帳』。
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1996『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報(平成7年度)』岩文振第246集。
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1997『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報(平成8年度)』岩文振第266集。
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1998『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報(平成9年度)』岩文振第282集。
岩手日報社 1998『岩手年鑑』1999年版。
- 北上山系開発地域 土地分類基本調査「千絆」 1975 岩手県企画開発室(北上山系開発)。
- 「角川日本地名大辞典」編纂委員会・竹内理三編 1985『角川日本地名大辞典3 岩手県』角川書店。
- 藤沢町史編纂委員会 1979『藤沢町史 本編上』。
- 藤沢町史編纂委員会 1981『藤沢町史 本編下』。
- 藤沢町教育委員会 1993『十文字遺跡 平成4年度十文字遺跡発掘調査概報』藤沢町文化財調査報告書第12集。
- 藤沢町教育委員会 1994『富岡館遺跡発掘調査報告書』藤沢町文化財調査報告書第13集。
- 藤沢町教育委員会 1997『十文字遺跡発掘調査報告書』藤沢町文化財調査報告書第14集。
- 有限会社 平凡社地方資料センター編 1990『日本歴史地名大系 第三巻 岩手県の地名』平凡社。



第5図 藤沢町の遺跡分布図

周辺の遺跡一覧

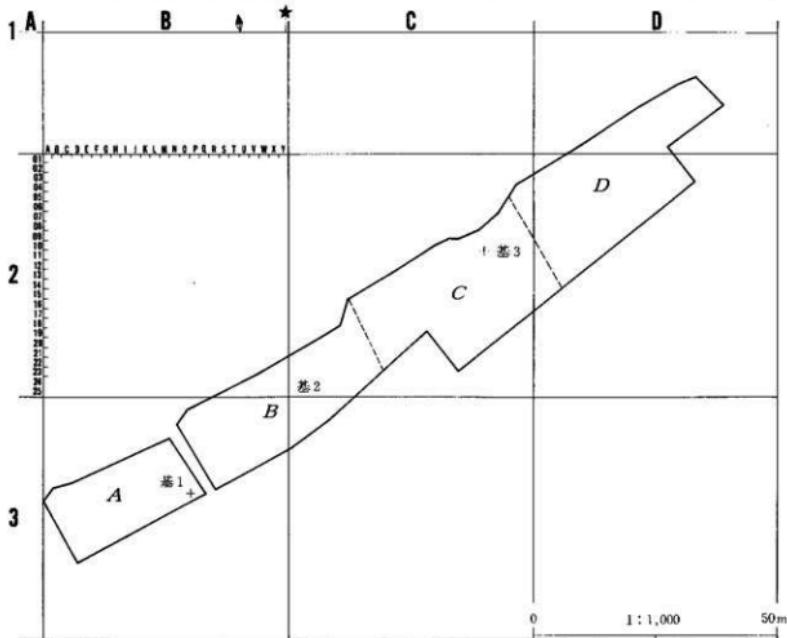
No.	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物	備考	No.	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物	備考
1	古浜木記入	城館跡	中世	曲輪・堀?	H110新規	48	正時原(安者)	城館跡	中世	土塁、空堀	
2	古横木記入	散布地	縄文	純文七體	H10新規	49	和子館	城館跡	中世	三輪、平塁、若	
3	朝ノ沢	散布地	縄文	純文七體(馬)	37-攝式新規	50	七郎五郎	散布地	縄文	馬上土塁、馬、馬頭、馬舌	
4	十六桟	散布地	縄文	純文七體、石器		51	深瀬原(黄色城)	城館跡	中世	土塁、馬頭、馬舌	
5	上海館	城館跡	中世	空堀、土器		52	山ノ坊	散布地	縄文	取手遺跡、汚	
6	大木本(大木下屋)	城館跡	中世	郭状の平場		53	粉香木	散布地	平安	土器器	地点不明
7	辻山館	城館跡	中世	土塁、石垣、塔		54	蓬沢城	城館跡	中世	土塁、石垣、塔	
8	黄海川岸場	港跡	近世			55	新町駅	港跡	近世		
9	シダ森	散布地	縄文	純文七體、石器		56	佐々木船(佐物館)	城館跡	中世	土塁、石頭、土器	
10	鶴城(鶴居ヶ城)	城館跡	中世	石垣、土塁、石器		57	中島	散布地	縄文	取手遺跡、鶴	
11	川口館	城館跡	中世	石垣、土塁、石器		58	下逸久	城館跡	中世		
12	藤の巻館	城館跡	中世	空堀、土器		59	宇和田	散布地	縄文	純文七體、石斧	
13	鶴来塚(小丘形塚)	城館跡	古代?	土塁、石垣、二重		60	長沢	散布地	縄文	純文七體	
14	聖徳寺跡	寺院跡	古代?			61	陣ヶ森館	城館跡	中世	土塁、石頭、二重	
15	磐治里塚	製鉄跡	古代?	鐵津		62	丸置	散布地	縄文	瓦器、石器、石	
16	曲出塚(大西館)	城館跡	中世	井戸跡、經塚		63	要害跡B	城館跡	中世	空堀、平場	
17	黄海経塚	経塚	中世?			64	上野原	散布地	縄文	軋轍、馬頭	報告遺跡
18	久手船(船)	城館跡	中世	石垣、石塁、二重		65	金山塚船	城館跡	中世	土塁	
19	東立石	散布地	縄文(?)	土器片	H 3 新規	66	粉香木2	散布地	縄文	純文七體	
20	要書館A	城館跡	中世	空堀		67	平塁	散布地	縄文	石塁	
21	六十單	散布地	縄文	純文七體、石器		68	粉香木5	散布地	縄文	純文七體	
22	切付	散布地	縄文	純文七體、石器		69	粉香木1	散布地	縄文	純文土器	
23	狐田館(城の城)	城館跡	中世	主郭、二の堀、土器		70	粉香木3	散布地	縄文	純文土器	
24	十文字留の森	散布地	縄文	純文七體、石器		71	粉香木4	散布地	縄文	純文七體	
25	集落跡	縄文		石頭、石器	H 1 新規	72	塙	散布地	中世	純文七體	
26	金山沢	散布地	縄文	純文七體、石器		73	板塙1	散布地	縄文	縄文土器	
27	新城館	城館跡	中世	土塁、石垣、二重		74	舟木	散布地	縄文	縄文土器	
28	砂子館	城館跡	中世	空堀		75	板塙2	散布地	縄文	縄文土器	
29	袖ノ沢	散布地	縄文	純文土器		76	板塙3	散布地	縄文	縄文土器	
30	馬場館(勝岡城)	城館跡	中世	腰郭		77	人冢城	散布地	縄文	縄文土器	
31	西光寺供養塔	その他の施設	近世	一字石柱		78	嶺沢1	散布地	縄文	純文土器、石斧	
32	天神山	城館跡	中世	空堀		79	山谷	散布地	縄文	羽片	
33	山口山の塚	城館跡	中世			80	板塙4	散布地	縄文	縄文土器	
34	坂氏房館	城館跡	中世	馬頭各、鹿鳴		81	板塙5	散布地	縄文	縄文土器	
35	吉塩	散布地	縄文	石器、土器		82	洞木2	散布地	縄文	縄文土器	
36	人塚	墳墓	近世	塚		83	洞木3	散布地	縄文	縄文土器	
37	勝沢館	城館跡	中世	平場、腰郭		84	又木沢金山	金山跡	近世	縄文土器	
38	白篠	散布地	縄文	純文土器		85	洞木1	散布地	縄文	純文七體	
39	宮高塚	城館跡	中世	寺塁、土塁、平場	H 3 新規	86	休場	散布地	縄文	純文土器	
40	正ノ沢	散布地	縄文	純文七體		87	曲木	散布地	縄文	見立看(跡)	
41	古堂西平	城館跡	中世	客室跡の下槽	H 3 新規	88	猶の沢1	散布地	縄文	純文土器	
42	古堂館(小室館)	城館跡	中世	主郭、二の堀、三の堀、土器		89	猶の沢2	散布地	縄文	純文土器	
43	古館	城館跡	中世	主郭、二の堀、土器		90	崩沢2	散布地	縄文	縄文土器	
44	天塹I	散布地	古代	土器片	H 3 新規	91	沼尾館	城館跡	中世		
45	平舌	散布地	縄文(?)	土器片		92	沢入堀周敷	製鉄跡	近世?	鐵津	
46	長昌寺	散布地	古代	馬頭各(後)		93	大池カリシタン	祭祀跡	近世		
47	天塹II	散布地	古代	須恵器	H 3 新規	94	台帳未記入				台帳に記入のない 台帳未記入

III 調査の方法と整理

1. 調査の方法

(1) グリッドの設定と遺構名

平面位置の測定及び表示に際しての基本グリッドは、平面直角座標(第X系)に合わせた。調査区全体が収まる位置に原点O ($X = -128,100,000$ ・ $Y = 48,550,000$)を設け、これから南東方向に $50 \times 50\text{m}$ のメッシュで全体を大きく区割した。この大区画には、原点から南方に1・2・3の数字、東方向へA・B・Cのアルファベットを付してA 1・B 2と表示した。さらに大グリッドを25等分して $2 \times 2\text{ m}$ に区割し、北西隅から南方向には01~09の数字、東方向にはA~Yの記号を与え、大グリッド名と組み合わせてA 1 B 02・B 3 H25等の小グリッドを設定した。調査区内には、小グリッドに沿った地点に基1 ($X = -128,220,000$ ・ $Y = 48,580,000$)、基2 ($X = -128,200,000$ ・ $Y = 48,600,000$)、基3 ($X = -128,170,000$ ・ $Y = 48,640,000$)と補1~6を設置して区割り及び実測の基準点とした。ただし、包含層部分ではこのグリッドの輪郭が地形に対して斜めにかかるところから、基2と基3を結ぶ線を軸として新たに地形に沿った $4 \times 4\text{ m}$ メッシュで独自のグリッド設定を行っている(第7図参照)。なお、平成8年度の調査時点では区内に未買収地が存在したことや、これに伴う排土処理等の理由から、便宜上水田及び畠地の区画に合わせてA~D調査区という設定を



第6図 グリッド配置図1

行っている。試掘及び粗掘り段階での出土遺物の取り上げや柱穴の分布図においては、この調査区名を使用しているものもある(第6図参照)。

(2)粗掘と遺構検出

遺構検出面までの深さ及び層序の把握のため、10箇所に小規模なトレンチを入れた。この結果、昭和30年代の開田に伴い、調査区のほぼ全域にわたって削平及び盛土による土地の改変が行われていることが確認された。盛土は最大で1.5m以上に達し、削平地では基本層序第Ⅳ層まで上部層が削り取られており、Ⅲ表上層はほとんど存在しなかった。このため、盛土及び現耕作土は重機(パワーショベル)を使用し、この後人力によって遺構の有無を確認しながら第Ⅲ層面まで掘り下げた。

(3)遺構の命名

検出された遺構は、遺構の種類別に下記の記号に発見された順に番号を付して表した。なお、欠番となっているものについては調査進行、または整理作業の課程で別の種類に分類したものや、遺構としての認定から除外したものである。

堅穴住居跡：R A01～ 挖立柱建物跡：R B01～ 土坑：R D01～ 炉・焼土遺構：R F01～

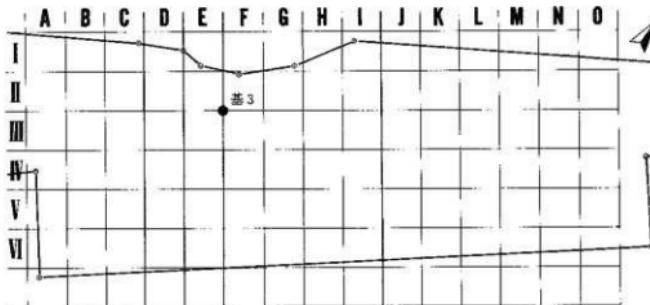
その他：R Z01～。なお、柱穴については、大グリッド毎にB 3 -PP1、C 2 -PP2…と表記した。

(4)遺構の精査と実測・遺物の取り上げ

検出された遺構は堅穴住居跡は4分法、土坑や大型の柱穴については2分法を原則として精査を行ったが、必要に応じてその他の方法も併用した。精査の各段階において、記録として必要な図面及び写真の撮影は適宜これを行った。

遺構の平面実測に当たっては、平成8年度は期間的関係から写真測量を行い、平成9年度は原則として光波測距儀(トータル・ステーション)によって基準点を設定する、簡易的な造り方測量を行った。なお、焼上遺構の一部については平板測量で平面図を作成している。実測図の縮尺は1/20を基本とし、平面図と断面図を作成するよう努めたが、一部の土坑頸と柱穴に関しては断面図を作成していないものもある。なお、堅穴住居跡の炉跡等の細部の断面図については1/10の縮尺を用いている。

遺構外出上の遺物は、埋土の場合上部・中部・下部に分けて取り上げ、床面及び床面直上の遺物は必要に応じて番号を付け、写真撮影・図面作成後に取り上げた。遺構外出土遺物については、前述の調査区名及び



第7図 グリッド配置図2

大グリッド名毎に出土層位を記して取り上げた。また、層位が不明なものや盛上及び擾乱部から出土した遺物は0層と表記した。遺物包含層は前述の別グリッドに沿って60~80cmの上層観察用ベルトを残し、ベルト部については細分層位を記して取り上げ、グリッド内については上部・下部の大別のみを記して取り上げた。精査及び遺物取り上げの詳細については後述する。

(5)写真撮影

野外での写真撮影は、6×7cm判カメラ(モノクロ)をメインカメラとし、35mm判カメラ2台(モノクロ・カラーリバーサル)を補助カメラ、このほかにボラロイドカメラ1台をメモ的な用途として使用した。住居跡と土坑、規模の大きな柱穴については、基本的に断面と平面を撮影しているが、一部土坑類と小規模な柱穴はこれを省略したことがある。また、不手際により写真撮影を行っていない遺構も存在する。撮影に当たっては、撮影状況を記した「撮影カード」を事前に写し、整理時の混乱を防止した。なお、調査終了間近にラジコンヘリコプターによる空中写真(6×6cm判:モノクロ・カラー)の撮影を実施している。

2. 室内整理

(1)整理の概要

平成8年度は図面及び写真の整理、遺物復元を行った。平成9年度は、野外作業中に洗浄できなかった遺物コンテナ約250箱分の洗浄と一部仕分けに主眼を置き、平行して実測図面と写真の整理を行った。

平成10年度の整理に当たっては、期間と検出遺構数及び出土した遺物量から作業を大幅に簡略化せざるを得ないことが予想されたため、「①精製土器を優先させる。②出土量の少ない上製品と石製品は全て掲載する。③出土量の多い石器・土器片円盤は選択して掲載する。掲載遺物全ての写真を掲載する」という基本の方針の基に作業を進めた。

先ず作業員21名によって9年度調査で出土した土器の接合復元と注記作業を4月1日から7月10日まで行い、これと併行して土製品等の抽出と第1次の仕分けをした。接合作業は4×8間(約100m²)の部屋で遺構毎、グリッド毎に行なったが、包含層出土の上器は1グリッドでも一度に広げきれない状態であった。作業にあたっては、先の基本方針に則り時期の判断要素となる文様を有する上器を優先したが、文様が希薄となる胴部下半から底部にかけては、作業スペースや時間的な事情により綿密な照合をしてない。このため実測した上器の多くは底部を欠損した状態になっている。また、仕分け作業に当たっても接合作業と同様な基準で行ったため、粗製土器はかなり大型破片でも実測及び採拓をしていない。注記は主に機械(ジェットマーカー)を使用したが、作業の主力を接合・復元に置いたため遺構内出土の上器と包含層出土の土器の内細分層位で取り上げたもの一部にしか行っていない。石器についてはチップとフレークを除くツケル類は全て小袋(ユニバッカ)に分け、この袋に出土地点と層位を記入した。また、土製品・石製品についても同様に処理した。この後、上器については第2次の仕分け作業を行い掲載候補として台帳に登録した。土器以外の遺物についてもこの期間で種別の分類と登録を行い、出土量の多い石器と土器片円盤については各器種の代表的な形態についてのみ掲載することとした。

7月中旬から11月初旬にかけて遺物の実測と採拓作業(断面の実測を含む)を行ったが、作業の効率化を図るために遺物実測器の導入と一部石器の実測・トレースを業者に外注している。遺物実測器の導入は、当遺跡の土器に特徴的な立体的文様の削付作業も容易にでき、かなりの成果が上がった。なお、これと併行して実測図の点検と各種遺物の写真撮影を行っている。

11月1日から平成11年3月までは、作業員6名により遺物と遺構実測図面のトレースとこれらの図版及び

写真図版の作成を行った。遺構の点検・合成に当たっては、断面図と平面図が合致しない等の問題があったが、確実に修正が可能なもののみこれを行った。各種の図版作成に関する方法及び縮尺と凡例は下記の通りである。

(2) 遺構

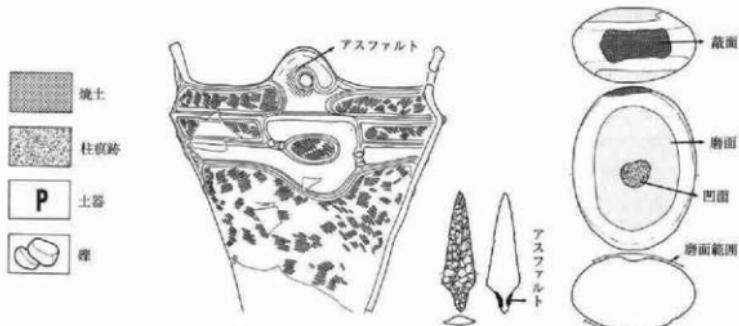
遺構配置図は発掘調査時に作成した図面を基に1/200の縮尺図を作成し、仕上がり1/400で掲載した。各遺構図面は以下の縮尺を原則としたが、一部に変更もあり、図面にはそれぞれスケール・縮尺率を付している。堅穴住居跡・掘立柱建物跡の平面・断面図…1/50・1/60、炉等細部の断面図…1/25・1/30、土坑の平面・断面図…1/40、柱穴分布図…1/100、柱穴の断面図…1/40、焼土遺構・埋設土器の平面・断面図…1/20。また、平面図における北印は座標北を示す(基2における真北方向角は、 $0^{\circ} 21' 04''$ 西偏する)ほか、位置の表示には小グリッド名を使用した。堅穴住居跡等の床面積は、壁面の下端をデジタル式のプランジャー(エリアカーブメーター)によって3回計測し、この平均値を記載した。なお、写真図版における縮尺は不定である。

(3) 遺物

土器の実測図は原則として、反転実測が可能なもの(口縁部・底部が1/4以上残存するもの)に限ったが、器面の凹凸が著しく、拓本では表現できないものや大型の破片については平面実測して掲載した。また、地文のみが施されているものや、文様が単純なものは中軸線の左側のみを図化したり、拓本を添付したものもある。掲載遺物の縮尺は下記を原則としたが、図版を組むにあつたてできるだけ1ページ内の掲載点数を増やすことを心がけたため、図版内には縮尺率のみを記しスケールは割愛した。なお、縮尺率の正誤については校正段階で整合している。

土器の実測図…1/4(大型のもの…1/5・ミニチュア土器…1/2・原寸)、土器拓本…1/3(大型のもの…1/4)、石鎌・石錐…2/3、その他の剥片石器・磨製石斧・打製石斧…1/2、砾石器…1/3(大型のもの…1/4)、石製品・土製品…1/2(小型のもの…原寸)

写真図版の縮尺については、ほぼ実測図に準じている。また、実測図中の遺構・遺物の表現や、使用した記号・スクリントーンの指示は下図のとおりである。
(酒井)



第8図 実測図凡例

IV 検出された遺構と遺物

1. 竪穴住居跡

住居跡としては8棟を登録したが、いずれも重複及び作り替えが行われており、これらを含めると実数は増える。しかし、上部を削平されたものや著しい重複(立て替え)のため、個々の規模や形状を把握できないものも多い。時間的に充分な検討を加えたわけではないが、分解できるものについてはa・b・cとして記述する。なお、登録は炉・焼土遺構に分類したが、埋設土器を有するものは本来住居跡に伴う炉であったものと考えられる。

RA01竪穴住居跡

遺構(第9図、写真図版7)

〈検出状況・重複関係〉 B 2 X25～C 3 A03グリッドに位置する。Ⅲ層で土器埋設炉と周辺に柱穴状土坑が検出したことから住居跡と認識した。床面まで削られているものと推定される。南西側1mにR A02竪穴住居跡(土器埋設炉)が位置するが、新旧関係は不明である。

〈規模・平面形〉 径4m～5m前後と推定されるが詳細は不明である。平面形も不明。

〈壁土〉 全体に削平され、残存しておらず不明である。

〈壁・床面〉 壁は残存していない。床面はⅢ層まで掘り込んでつくられているものと推定されるが、現況より削られているものと判断され、詳細は不明である。壁溝も確認されていない。

〈柱穴〉 周辺部から検出されたPP1～49を住居跡に伴う可能性があるものとして登録したが、出土遺物等からこれらの中には住居跡より新しいものが存在する。配置及び規模からPP7・PP13・PP21・PP26が柱穴となる可能性がある。

〈炉〉 土器埋設炉で、2個体が正位(2)で1個体は横位(1)に埋設されていた。検出状況から正位の埋設上器が東側の横位の埋設上器を切っていると判断された。同地点での建て替えの可能性もある。

遺物(第53図、写真図版59)

〈出土状況〉 上器埋設炉の土器が3個体と柱穴埋土から繩文土器片が数点出土している。

〈七器〉 1～3は、第Ⅲ群上器の中でも新しい3b類、5・6は小破片であるがⅣ群土器と考えられる。

時期 埋設土器から繩文時代中期末葉期の住居跡と思われる。

RA02竪穴住居跡

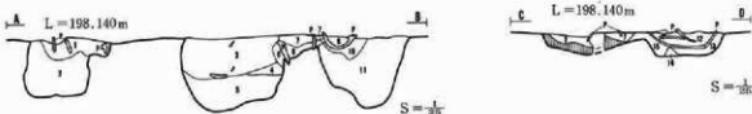
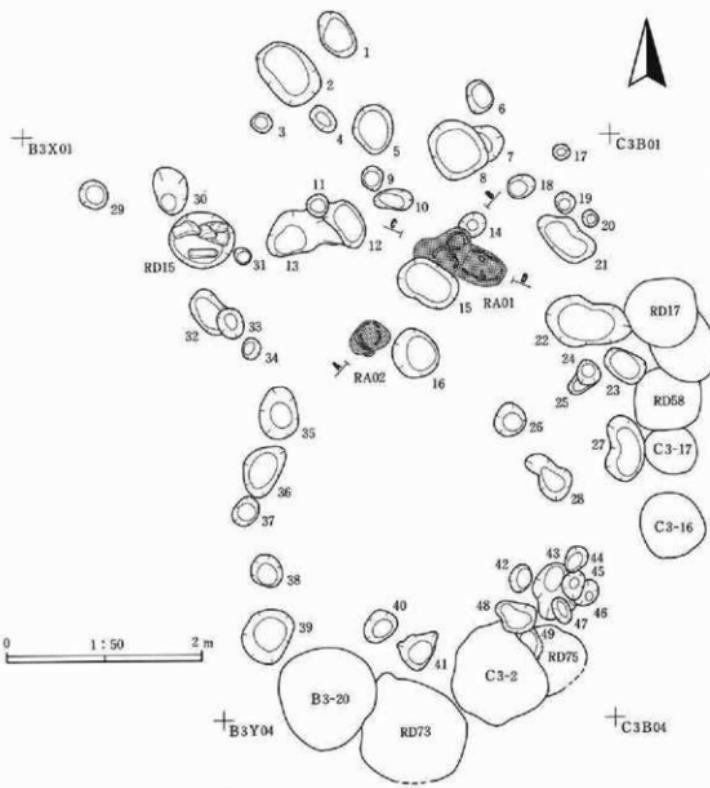
遺構(第9図、写真図版7)

〈検出状況・重複関係〉 B 2 X25～C 3 A03グリッドに位置する。Ⅲ層で土器埋設炉と周辺に柱穴状土坑が検出したことから住居跡と認識した。北東側1mにR A01竪穴住居跡(土器埋設炉)が位置するが、新旧関係は不明である。

〈規模・平面形〉 径4m～5m前後と推定されるが、平面形と共に詳細は不明である。

〈壁土〉 全体に削平され、残存しておらず不明である。

〈壁・床面〉 壁は残存していない。床面はⅢ層まで掘り込んでつくられているものと推定されるが、現況より削られているものと判断され、詳細は不明である。壁溝も確認されていない。



- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 1. 10YR4/6 砂 淡化物 1% 粘土10% | 8. 10YR4/4 砂 淡化物 1% 粘土含む |
| 2. 10YR4/4 砂粘土 淡化物 1% 粘土ブロック含む | 9. SYR5/5 明るい 砂 黄褐色ブロック含む |
| 3. 10YR5/6 黄褐色 | 10. 10YR4/4 黄褐色ブロック含む |
| 4. 10YR3/2 黄褐色 黄褐色含む 淡化物 1% | 11. 10YR4/4 黄褐色 粘土ブロック含む 淡化物 1% |
| 5. 10YR4/4 黄褐色 黄褐色ブロック-粘土ブロック含む | 12. 10YR4/4 黄褐色 黄褐色含む |
| 6. 10YR3/2 黄褐色 黄褐色含む | 13. SYR5/5 明るい 黄褐色ブロック含む 淡化物 1% |
| 7. 10YR4/6 砂 粘土含む | 14. 10YR5/5 砂 粘土ブロック含む |
| | 15. 10YR5/6 黄褐色 粘土含む |

第9図 RA01・02

〈柱穴〉 RA01同様周辺部から検出されたPP 1~49を住居跡に伴う可能性があるものとして登録したが、確実なものはない。配置からPP14・PP26・PP33・PP36が柱穴となる可能性がある。

〈炉〉 土器埋設炉で、深鉢の側部が正位で埋設されていた。

遺物（第53図、写真図版59）

〈出土状況〉 土器埋設炉の土器と柱穴埋上から縄文土器片が数点出土している。

〈土器〉 8は地文のみが施されている。7は小破片であるが、IV群土器と考えられる。

時期 出土した遺物から縄文時代中期末葉～後期初頭と考えられる。

PP	径	深さ	PP	径	深さ	PP	径	深さ	PP	径	深さ
1	51×32	18	14	28×24	36	27	67×38	15	40	36×28	26
2	71×49	50	15	62×43	39	28	50×34	19	41	44×33	34
3	23×21	21	16	51×45	27	29	31×28	41	42	29×22	17
4	30×20	31	17	17×16	15	30	49×32	12	43	44×(35)	28
5	51×42	19	18	29×23	44	31	18×16	14	44	28×22	21
6	32×26	15	19	22×20	5	32	50×30	8	45	30×22	30
7	38×36	46	20	18×16	11	33	31×26	19	46	27×(25)	29
8	61×(58)	18	21	62×36	18	34	21×18	20	47	28×18	25
9	26×23	19	22	88×52	28	35	53×40	24	48	43×35	23
10	41×20	13	23	43×31	97	36	56×37	21	49	(35)	42
11	24×22	小窓	21	25×24	34	37	32×25	19			
12	51×30	37	25	18	小窓	38	35×31	19			
13	(35)×45	30	26	35×32	38	39	57×47	18			

RA03豎穴住居跡

遺構(第10・11図、写真図版8~10)

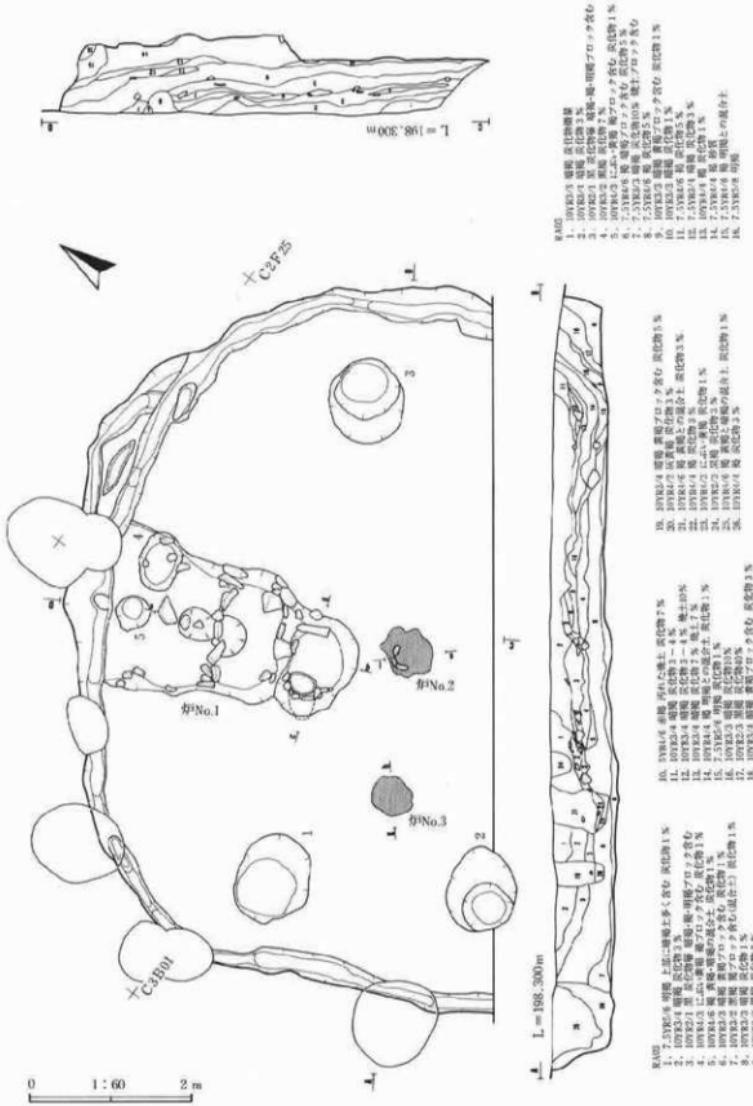
〈検出状況・重複関係〉 C 2 E24-C 3 B4 グリッドに位置する。Ⅲ層面で黒褐色土及び暗褐色土の広がりとして検出された。多くの土坑や柱穴と重複するが当住居跡が最も古い。なお、南東半分は現道によって破壊されている。精査の結果複数の炉跡と壁溝が検出され、同地点での数回の立て替え(重複?)が行われているのが確認された。埋土の観察では最終形が最も新しく、最大の規模を持つ。壁溝を基に分解可能なものをa~cとしたが、柱穴の分布状況からはさらに多くの住居跡が存在していたものと考えられる。

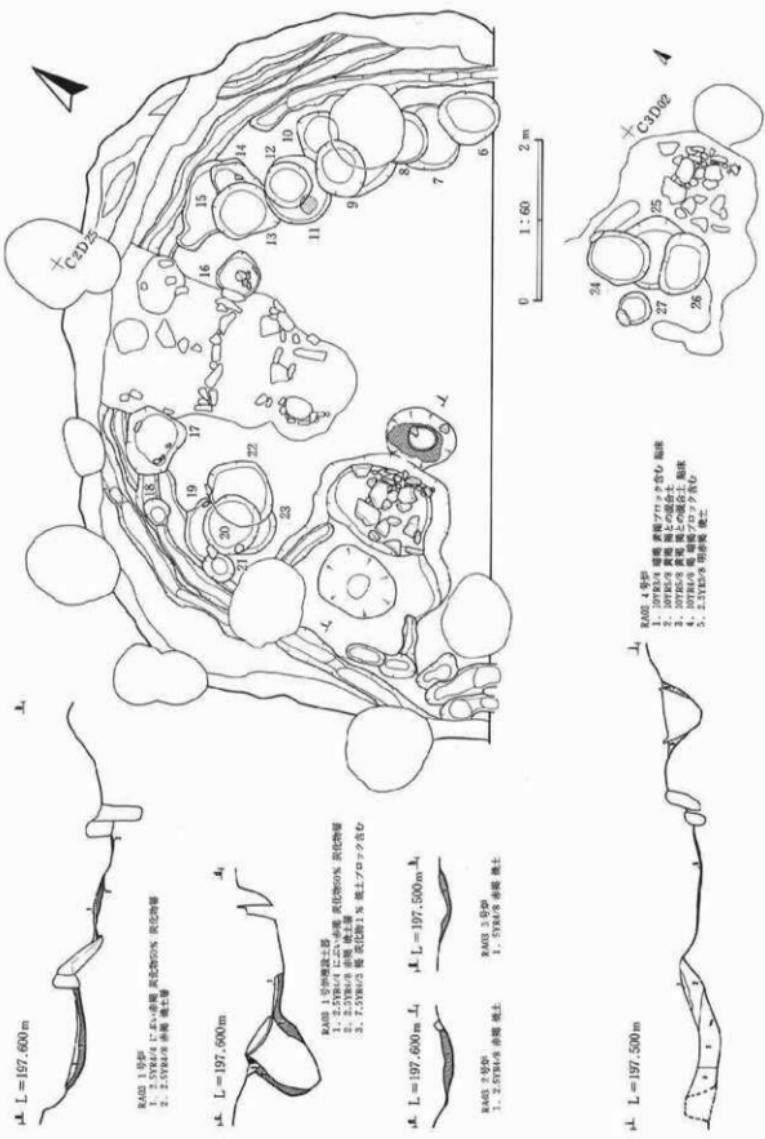
a住居跡：最新段階のものをa住居跡とした。

〈規模・平面形〉 前述のとおり規模は最大である。残存部では東壁-西壁間8.8mで、これを直徑とする円形、またはこれを短軸とする橢円形を呈するものと考えられる。この場合床面積の推定値は約60m²前後となる。なお、北壁東側には約3.5mの範囲で、最大50cmの幅を持つ張り出しが検出された。この部分の壁高は最大21cmで、床面との比高は約35cmである。壁際には壁溝を持ち、先行する住居跡の可能性もあるが、全体に緩いスロープ状となっていることから、住居跡に伴う出入り口等の施設の可能性もある。

〈埋土〉 重複する遺構のため諸所で擾乱を受けているが、全体としてはレンズ状の堆積状況を示し、上部の暗褐色土層、中部の黒褐色土層、下部の暗褐色～褐色土層に大別される。中部の黒褐色土層は炭化物層と遺物を多量に包含する汚れの強い土層から構成され、埋没過程で投げ込まれた人為的な堆積である。なお、埋土の最下部は粒度が細かく、幾分粘性を持つシルト層が床面全体を覆っていた。

〈壁・床面〉 開出時の削平をあまり受けなかつたものか、壁はいずれも残存状態がよく、僅かに外傾して立ち上がる。壁高は東壁で最大52cm、北壁54cm、西壁68cmである。検出された部分のほぼ全域に幅30~17cm、深さ15~20cmの壁溝が巡る。床面は第VI層まで掘り込まれており、褐色土からなる貼り床が施されていた。





第11図 RA03(2)

しかし、降雨時の水没と上位水田からの湧水により床面各部分の詳細は観察できなかった。

〈柱穴〉 全体では26個の柱穴状土坑を検出した。この内PP 1～3 中には住居跡の埋土から炭化物層が連続的に落ち込んで堆積しており、検出された位置からも主柱穴であろう。なお、埋土の堆積状況から推定して、住居跡廃絶時にはこれらの柱穴は抜き取られていた可能性が高い。

〈炉〉 検出面から推定して、a 住居跡に伴う可能性がある炉は3基検出された。No 1は北壁際から中央部に延びる複式炉である。長さ3.2m、最大幅2mで、石組部(1)・石組部(2)・前庭部から構成され、長軸方向は南から20°弱東に傾く。石組部の構成礫は、10～40cm大の扁平な角礫を使用しているが、側面部には疎らで廃絶時点に抜き取られた可能性がある。石組部(1)は、床面から約20cm掘り込まれ、西側に大型の深鉢が斜位(直立から約40°)に埋め込まれている。底面には最大4cmの厚さで焼土層が形成されているが、埋設土器の周辺部が特に良く焼けており、焼土の厚さは7cmになる。(2)は床面から30～40cmほど掘り込まれ、底面には最大3cmの厚さで焼土層が形成されている。前庭部は床面から25～35cm掘り込まれており、底面には焼土は認められず、堅くしまる。なお、内部からPP 4とPP 5が検出された。No 2は床面のほぼ中央部に位置する。10cm大の礫3個を伴うが本来石囲炉であったと考えられる。55×60cmの範囲に最大6cmの厚さで焼上層が形成されている。No 3は地床炉で、50×52cmの範囲に最大4.5cmの厚さで焼上層が観察された。

b 住居跡：a 住居跡の内側に巡る壁溝をもって b 住居跡とする。

〈規模・平面形〉 東西の壁溝外側間は約7.5m、これを直径とする円形、またはこれを短軸とする橢円形を呈するものと考えられる。

〈埋土〉 a 住居跡の貼り床が埋土となるが、湧水等のため厚さや範囲等は不明である。

〈壁・床面〉 ほぼ全体に幅20～35cm、深さ20～32cmの壁溝が巡る。東壁の一部ではa 住居跡の壁溝に接し、この部分では壁を共有していた可能性もある。床面は第VI層中と考えられるが、詳細は不明である。

〈柱穴〉 PP 6～23が伴う可能性がある柱穴である。重複の新旧関係が把握できたPP 6・PP13・PP22等が主柱穴を構成する可能性がある。

〈炉〉 a 住居跡のNo 1～No 3を使用していた可能性がある。なお、小規模であるため炉として登録しなかつたが、PP11の上部からは直径20cmの焼上が検出された。焼土の厚さは1cmほどである。

c 住居跡：b 住居跡の内側に巡る壁溝をもって c 住居跡とする。

〈規模・平面形〉 東西の壁溝間は約7m、これを直径とする円形、またはこれを短軸とする橢円形を呈するものと考えられる。

〈埋土〉 a 住居跡の貼り床が埋土となるが、湧水等のため各部の厚さや範囲等の詳細は不明である。

〈壁・床面〉 固有の壁は持たない。一部途切れるが幅20～35cm、深さ12～25cmの壁溝が巡る。床面はb 住居跡と同じ面であるが、前述のとおり詳細は不明である。

〈柱穴〉 多数あるが、位置から推定してPP 3(a 住居と共に)・PP20・PP11・PP 8・PP 7等によって主柱穴が構成されていた可能性がある。

PP	径	深さ	PP	径	深さ	PP	径	深さ	PP	径	深さ
1	112×89	96	8	74×(60)	40	15	(129×67)	34	22	75×80	41
2	105×83	103	9	73×58	86	16	52×50	35	23	(68)	31
3	104×90	81	10	(61×55)	54	17	84×71	42	21	76×66	54
4	67×50	37	11	85×83	27	18	33×32	30	25	91×(75)	48
5	45×42	53	12	58×55	73	19	(82)	34	26	80×55	65
6	76×65	87	13	85×72	67	20	74×60	61	27	40	40
7	84×(77)	28	14	(61)×48	45	21	40	33			

〈炉〉 烧溝の在り方から推定して、No 4 が住居に伴う可能性がある。西壁から中央に延びる複式炉である。長さ3.2m、最大幅2mで、石組部(1)・石組部(2)・前庭部から構成され、長軸方向は東から10° 痴北に偏る。炉は全体に褐色一黄褐色土によって貼り床(間座)が施され、特に右組部(2)の上部ではしまりのある土質による貼り床が観察された。石組みは(1)と(2)を区切る部分では割合残存状況が良いが、この他の部分ではほとんど抜き取られている。なお、両石組部を構成していたと考えられる10~40cm大の角礫20数個が(2)内から検出された。石組部(1)は中央に正位の埋設土器を伴う。土器は上半部を欠損するが、他の施設の残存状況から推定して、元々下半部のみを埋設したものと考えられる。土器の周囲には67×45cmの範囲に最大4cmの厚さで焼土層が形成されている。石組部(2)は床面から30~35cm掘り込まれており、底面には最大1cm前後の焼土層が形成されている。前庭部は床面より25~50cm掘り下げられており、両側には幅15~20cm、深さ18~23cmの溝を作り、底面は堅くする。なお、この下部からPP24~27が検出された。PP24は炉に伴う可能性もあるが、C住居に先行する住居跡の存在が予想される。

遺物(第53~62図・写真図版59~66)

〈出土状況〉 出土遺物は非常に多く、全体では105kg以上に及びこの内土器が約98%を占める。しかし、埋土下部や床面からの遺物は少なく、No 1 炉とNo 3 炉の埋設土器の他には若干の破片が出上しただけである。そのほとんどは、埋土中部に堆積する投げ込み土からの出土である。土器の他には石器・石製品・土製品があるが、これらも埋土の中部からの出土品が多い。

〈土器〉 前期(II群上器)~中期(III群土器)の土器群が出土しているが、後期(IV群土器)に分類できるものはない。時期別では中期末葉期の土器が卓越しており、後葉期ものは少ない。9~103を掲載した。

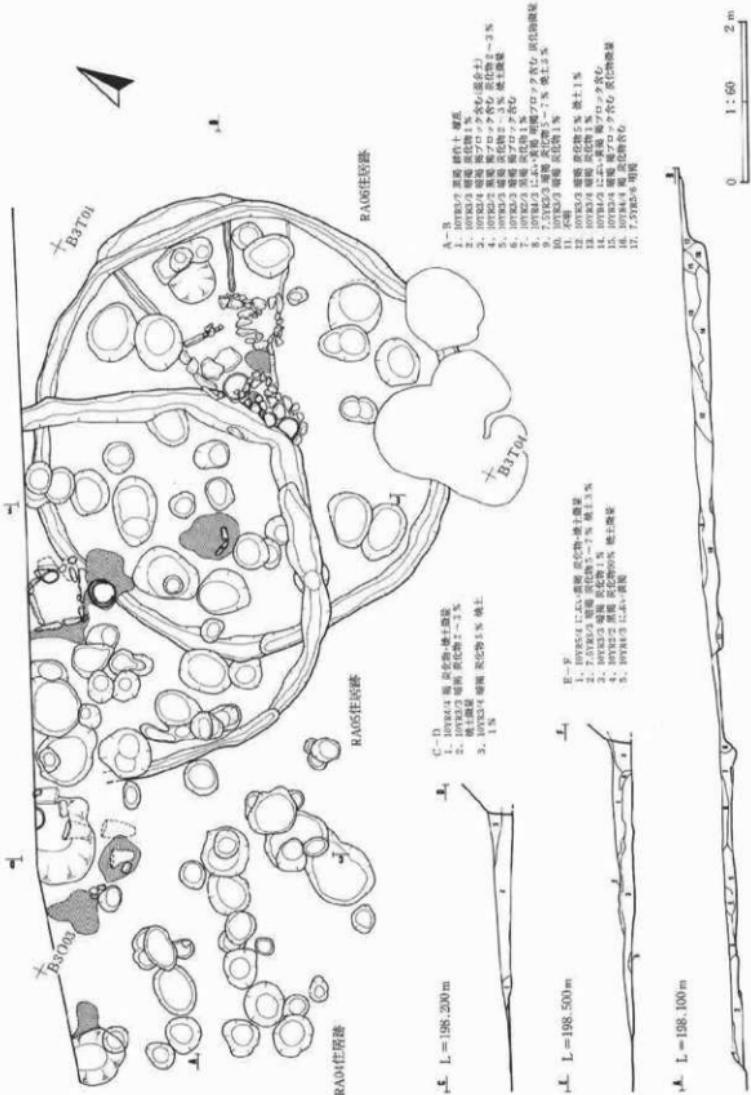
9はNo 3 がの埋設土器で、縄文帯が胴下部まで延びること、下端が閉じないことや隆帯(貼り付け)による装飾を有することから大木9式(III2類)と考えられる。10はNo 1 炉の埋設土器で、文様は隆帯によって描かれ、区画内には充填手法によって縄文が施される、大木10式(III3類)の深鉢である。11~63は10回模様線が隣番のIII3類土器、64~67は沈線による同類深鉢である。78~88はIII2類とした。89~103はII群土器で、型式名では大木2~6式に比定される。

〈石器〉 登録した点数は90個である。104~160を掲載した。104~135は石鏃で、器種別では最も多く42個が出上している。136~138は石鏃、139~141は石匙、142~144は不定形石器である。145は側辺部に両面からの人気な剥離加工が施される石器で、礫器とした。146・147は磨製石斧でいずれも破損品である。146は小型で薄く、所謂「石爪」であろう。148~156は砾石器類である。157は打製石斧か?、158~159は石刀石劍類とした。160は石棒で、上部にくびれを有する。

〈石製品〉 161は軽石製の石製品で、台上の突起を持つ。突起部には貫通孔が穿たれ、鍛飾品の可能性がある。162は玉で、器面は複雑な研磨加工が施されている。当住居跡の北約50cmに位置するRD01土坑から同様の玉類が多数出土していることから、これの一部が擾乱等により紛れ込んだものと考えられる。

〈土製品〉 163は環状の土製品で、周囲が緩くほんでいることから耳飾りと考えられる。164~180は土器片円盤である。いずれもII群上器で、165~169は全周研磨、170~176は部分研磨、177~180は打ち欠きによる加工痕を持つ。

時期 炉の埋設土器から、中期後葉~末葉期にかけての住居跡である。しかし、この期間をとおして継続使用されたものか、窪地等の再利用形態であるのかは不明である。



第12図 RA04 · 05 · 06

RA04住居跡

遺構(第12・13図・写真図版11・12)

〈検出状況・重複関係〉 3B4P-3B2Qグリッドに位置する。Ⅲ層面で黒褐色～暗褐色土の広がりとして検出された。東側でRA05住居跡、中央部でRD61・62と重複しこれらを切る。北半部は調査区域外に延びる他、西端部は開田時の掘削のため破壊されている。柱穴の検出状況や貼り床の存在及び炉の形態から、同地点における数回の建て替えが行われていたことが確認されたが、側々のプランや柱穴配置を把握するまでには至っていない。

〈規模・平面形〉 壁を検出した部分はなく、壁溝も伴わることから詳細は不明である。柱穴の分布状況から推定すると、直径4.5～5m前後の円形または梢円形を呈していたものではないかと考えられる。

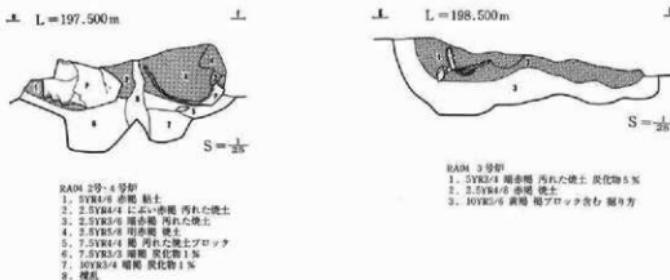
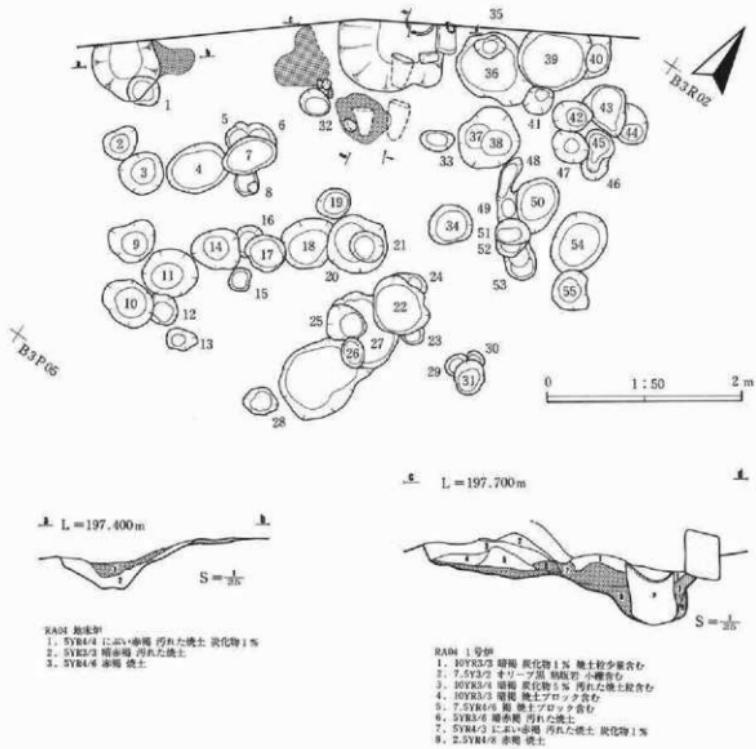
〈埋土〉 開拓時に削平を受けたものか、全体に薄い。炭化物を僅かに含む暗褐色土が主体をなし、黒褐色土や褐色土のブロックが混入する。

〈壁・床面〉 明確に壁が検出された部分はないが、調査区域の断面では約20cmの比高で外傾して立ち上がる土層の変化が認められた。壁溝は検出されていない。床はⅢ層～Ⅳ層中まで掘り込まれており、旧転跡や柱穴の上面には黄褐色土や青灰色土によって貼り床(踏塞土)が施されている。

〈柱穴〉 周辺部から検出された55個(RA05内に15個)を、当住居跡に伴う可能性があるものとして登録した。配置については充分な検討を行っていないがこの内、50cm内外または以上の深さを有するPP9・PP11・PP14・PP17・PP19～PP22・PP25・PP26・PP31・PP37～PP39・PP42・PP43・PP47・PP49～PP52・PP54・PP55等が主柱穴を構成するものと考えられる。

PP	径	深さ	PP	径	深さ	PP	径	深さ	PP	径	深さ
1	33×29	47	15	21		15	29	25	15	43	55×42
2	38×31	23	16	34		36	30	18	27	44	42
3	44×44	20	17	40×36		56	31	35×29	65	45	(32)
4	63×18	33	18	60×45		21	32	33×26	21	46	28
5	(30)	13	19	35×30		56	33	34×20	29	47	30×32
6	(30)	17	20	64×62		85	31	45×40	21	48	50×23
7	58×34	52	21	(34)×28		92	35	30×24	20	49	23×16
8	25	24	22	62×50		65	36	82×65	14	30	48×42
9	46×44	54	23	25		26	37	(55×45)	74	51	35×23
10	53×46	37	24	(26)		34	38	(55×45)	76	52	30×24
11	56×50	72	25	41×35		45	39	(80×76)	46	53	(35)×32
12	(35)×28	29	26	32×22		46	40	31×22	44	54	68×53
13	31×20	41	27	79×(75)		35	41	(30)	27	35	41×34
14	48×41	84	28	34×28		35	42	39×32	64		

〈炉〉 推定される住居跡の範囲内からは、2基の炉が検出された。No1炉は床面中央の西側に位置する地床炉で、35×25cmの不整形な範囲に最大2cmの厚さで焼土層が形成されている。なお、焼上の西側には67×(60)cm、深さ30cmの不整梢円形のくぼみが検出されている。No2炉は床面のほぼ中央部に位置する。120×(70)cmの緩くくほんだ範囲の東側に35×25cm、厚さ18cm、20×15cm、厚さ8cmの扁平な瓦礫2個を構え、これらに接するように粗製土器の胸部を正面に埋設している(1号)。埋設土器の周辺部には最大10cmの厚さで焼土層が形成されている。周囲には第Ⅳ層起源の小砾を含む青灰色土やⅢ層以下のローム質土によって貼り床が施され、貼り床の下部からは焼土層と斜位の埋設土器3個(2～4号)が検出された。2号埋設土器はNo1炉の南壁際に、水平位よりいくぶん斜め(約20°強)に埋設されており、周囲には最大10cmの厚さで焼土層が



第13図 RA04

形成されている。なお、他の2基に比べて残存状態が良いことから1号と共に最終形の炉に伴う埋設土器の可能性がある。3号埋設土器は2号埋設土器の南約15cmに、水平位より約35°の角度で2個体分の土器が埋設されており、周囲には最大15cmの厚さで焼土層が形成されている。4号埋設土器は3号埋設土器の西約15cmに、水平位より約15°弱の角度で2個体分の土器が埋設されており、周囲には最大13cmの厚さで焼土層が形成されている。なお、この他にもNo1炉の西側には汚れた焼土層には分布しているほか10cm大の礫が検出されしており、これらもNo1炉に先行する炉跡の可能性が高い。

遺物(第63~65図・写真図版66~69)

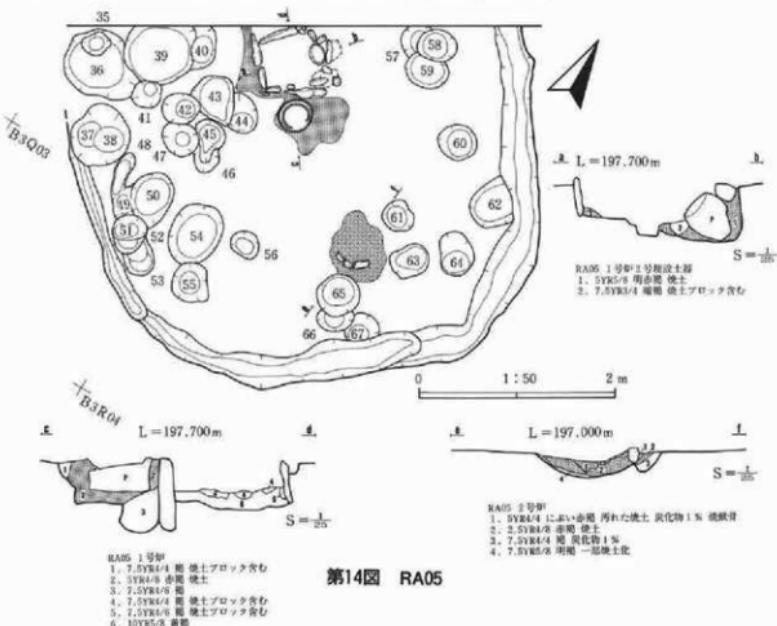
〈出土状況〉 全体で約15kg弱の遺物が出土しているが、土器が最も多く14.5kgを占める。土器以外では出土量は少ないと、石器と土製品(土器片円盤)がある。いずれも壙土中からのものが多い。

〈土器〉 181~198を掲載した。前期の土器僅かにあるが、大半は大木10式期(Ⅲ3類)の土器である。181~186は1号~4号の炉内埋設土器である。文様は沈線によって描かれ、三日月(鱗)状の隆帯装飾が付く。187はNo1炉の直上(壙土下部)からの出土である。196は注口深鉢で、隆帯に沿う刺突列が装飾となっている。197は前期後葉期、198は前期前葉~中葉期の土器である。

〈石器〉 199~200は石錐で、200は未製品と考えた。201は石錐、202は石匙、203~206は不定形石器である。207は基部と刃部を欠損する磨製石斧である。208~211は砾石器で、いずれも小型で208は磨面と敲打痕を合わせ持つ。209は周囲に顯著な敲打痕を有する。212は有溝砥石である。

〈土製品〉 土器片円盤で、中期の土器を利用している。いずれも周囲全体を研磨加工して成形している。

時期 炉内に埋設された土器の特徴から、中期末葉期の住居跡と考えられる。



第14図 RA05

RA05住居跡

遺構(第12・14図・写真同版13・14)

〈検出状況・重複関係〉 B3Q2～B3S3グリッドに位置する。Ⅲ層面で黒褐色～暗褐色土の広がりとして検出された。北半部は調査区域外に延びる。西側でRA04住居跡、東側でRA06住居跡と重複し前者に切られ、後者を切っている。柱穴の検出状況や炉の状態から、同位置で数回の建て替えが行われていたものと考えられるが、個々の詳細についての検討は行っていない。

〈規模・平面形〉 調査部分からの推定であるが、端軸4.8m、長軸6.5m前後の楕円形または隅丸長方形を呈する住居跡ではないかと考えられる。

〈埋土〉 開田時の削平を受けたものか、全体に薄い。西側では暗褐色土、東側では黒褐色土が主体を占め黄褐色土が部分的に堆積する。各層は全体に数%炭化物を含むが、埋土中部には10%程度を包含する層を挟み、層中には5cm大の塊も見られた。また、この層は焼上粒も包含する。

〈壁・床〉 壁を明確に検出できた部分は東壁の北端(調査区境)だけで、床面とは約20cmの比高を持ち、ほぼ垂直に立ち上がる。西端部ではRA04住居跡との重複のため不明瞭となるが、ほぼ全体に幅18～40cm、深さ16～37cmの壁溝が巡る。なお、調査区境の十層断面では、壁溝の外側に3cmほどの厚さで壁財痕跡と考えられる土層の変化が観察された。床はⅢ層～Ⅳ層中で、炉の周辺や古期の柱穴等には褐色土や黄褐色土による貼り床(閉塞上)が施されている。

〈柱穴〉 西側ではRA04住居跡に伴う可能性がある15個を含むが、27個を登録した。この内配置や深さからPP39・PP50・PP55・PP65・PP64・PP60・PP59・PP68等が主柱穴を構成していたものと考えられる。

PP	径	深さ	PP	径	深さ	PP	径	深さ	PP	径	深さ
35	30×24	20	45	(32)	12	53	(35)×32	13	62	48	12
38	(55×45)	76	46	28	30	56	31×26	16	63	38×33	42
39	(80×70)	46	47	39×32	48	57	40	22	64	41×34	87
40	31×22	44	49	23×16	70	58	38×(35)	70	65	44×43	88
42	39×32	64	50	48×42	83	59	45×(35)	70	66	37	23
43	55×42	68	51	35×23	94	60	40×36	47	67	35	22
44	42	41	52	30×24	48	61	32×30	21			

〈炉〉 床面から2基の炉が検出された。No1炉は、床面中央部と考えられる部分に位置する。北半部は調査区域外にかかるため詳細は不明であるが、埋設土器部と石組部が検出されており、複式炉の形態を持つ。埋設土器部は、石組部の南側に2個体の土器の脚部を入れ子状態で埋設されており、底面には粗製土器の大形破片を敷いている。周辺部には60×80cmの不整な範囲で最大20cmの厚さに焼土層が形成されている。石組部は30～10cm大の扁平な角礫10数個による70×80cmの歪な長方形で、東側に2基の斜位埋設土器(2・3号)を伴う。内部の焼土層は薄く、最大で1cm前後ある。2号埋設土器は水平位から約45°の角度で埋設されており、開口部が石組部内に開くことから1号埋設土器と共に炉の最終形に伴う可能性が高い。3号埋設土器は2号埋設土器の南に接して、水平位より約40°前後の角度で埋設されている。土器の残存状態が悪いことや、開口部が礫によって塞がれていることから最終形に先行する施設と考えられる。2基の土器の周辺には最大7cmの厚さで焼土層が形成されていた。No2炉は、床面中央南側やや東寄りに位置し、40×50cmの範囲に焼土層と10～15cm大の礫3個を伴う。抜き取り痕は明確ではなかったが、本来石團炉であったと考えられる。焼土層は最大で9cmの厚さで形成されていた。No1炉とは直接的な新旧関係は認めなかつたが、構成礫が欠如することや柱穴PP65に焼土層が切られることから、No1炉の最終形に先行する炉と考えられる。

遺物(第66~68図・写真図版69~71版)

〈出土状況〉 炉の埋設土器の他に埋土や床面から土器、石器、土器片円盤等が出土している。なお、東西両側で重複するRA04・05に伴う遺物が一部混入している可能性がある。

〈土器〉 出土遺物では最も多く、全体で12.6kgが出土した。217~249を掲載した。大半は中期の土器で、末葉期のⅢ3類が卓越し、僅かに前期の土器が出土している。271~228は炉の埋設土器である。217・218・224・228等は降帯による文様を持つ。223~227は沈線によって文様が描かれるが、沈線の縁が僅かに隆起し半肉彫り的な表現となっている。230は埋土の下部~床面直上にかけて出土した。4単位の波状口縁を持つ深鉢で、文様は沈線と降帯によって表現され、隆帯の末端は三日月状の装飾となっている。なお、縄文帯と無文帯が曖昧となる部分がある。243・244はⅢ2類の土器で、いずれも沈線による文様を持つ。

〈石器〉 250~254を掲載した。250・251は石獅、252・253は不定形石器である。254は磨面、敲打痕、凹痕を合わせ持つ礫石器である。

〈土器片円盤〉 255・256の2点が出土している。いずれも周囲は部分的に研磨加工されている。

時期 炉の埋設土器の特徴から中期末葉期の住居跡と考えられる。

RA06住居跡

造構(12・15・16図・写真図版15・16)

〈検出状況・重複関係〉 B3 R01~B3 T04グリッドに位置する。Ⅲ層面で暗褐色土~黒褐色土の広がりとして検出された。西側でRA04住居跡、北側でB3-10~12・25柱穴と重複しこれらに切られ、東側でRD21・54を切る。炉の在り方から同位置、同規模の2棟の重複(建て替え)とさらにこれらに先行する1棟の重複が確認された。しかし、先行する1棟については規模及び形状を把握できなかった。ここでは新規のものからa~c住居跡として報告する。

a住居跡

〈検出状況・重複関係〉 b・c住居跡床面の上位約15cmからNo1炉が検出された。位置的にはこれらのプランのほぼ中央に当たるが、炉の検出面では焼・床面及び柱穴は明確に確認できなかった。ただし、b・c住居跡の北東壁際には約2mにわたって最大幅25cmの弧状の張り出しが検出されており、底面が炉の検出面と同レベルであることから、この部分がa住居跡に伴う壁の可能性もある。

〈埋土〉 上部は暗褐色土を主体とし、下部及び壁際では褐色土と黄褐色土の混土が主体をなす。なお、中央部に堆積する暗褐色土層は炭化物をいくぶん多く包含する。

〈柱穴〉 炉の検出面での把握・確認はできなかったが、RA06住居跡に伴うものとしては個を登録した。完掘時の配置や重複状況から推定して、PP78・PP85・PP74・PP68等による台形の配置をとる可能性がある。

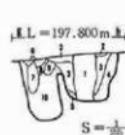
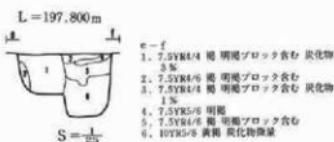
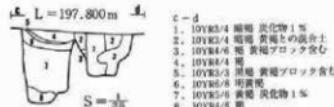
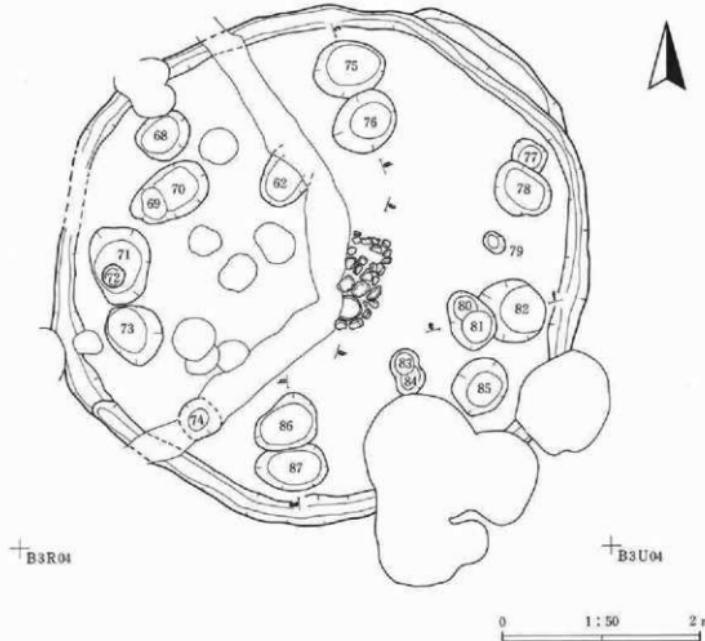
〈炉〉 西側をRA05住居跡の壁溝に切られる。埋設土器を伴う石組部(1)と石組部(2)から構成される複

PP	径	深さ									
68	55×55	63	74	25×(22)	40	80	(35)×33	49	86	70×62	49
69	42×(40)	53	75	70×(60)	75	81	53×(50)	42	87	75×(30)	72
70	58×54	45	76	65×58	51	82	66×(65)	67	88	30×21	34
71	80×60	47	77	35	40	83	(33)×28	22	89	33×(30)	16
72	25×23	83	78	62×50	62	84	36×26	21			
73	64×55	62	79	23×21	11	85	61×51	39			

式炉であるが、前部は確認されていない。全長は約1mである。石組部(1)は10~15cm大の僅円及び亜角礫を幅約50cmの弧状に組み、中央に深鉢の胴下半部を正位より僅かに(2)方向に傾けて埋設している。石組

+ B3R01

+ B3U01



第15図 RA06(1)

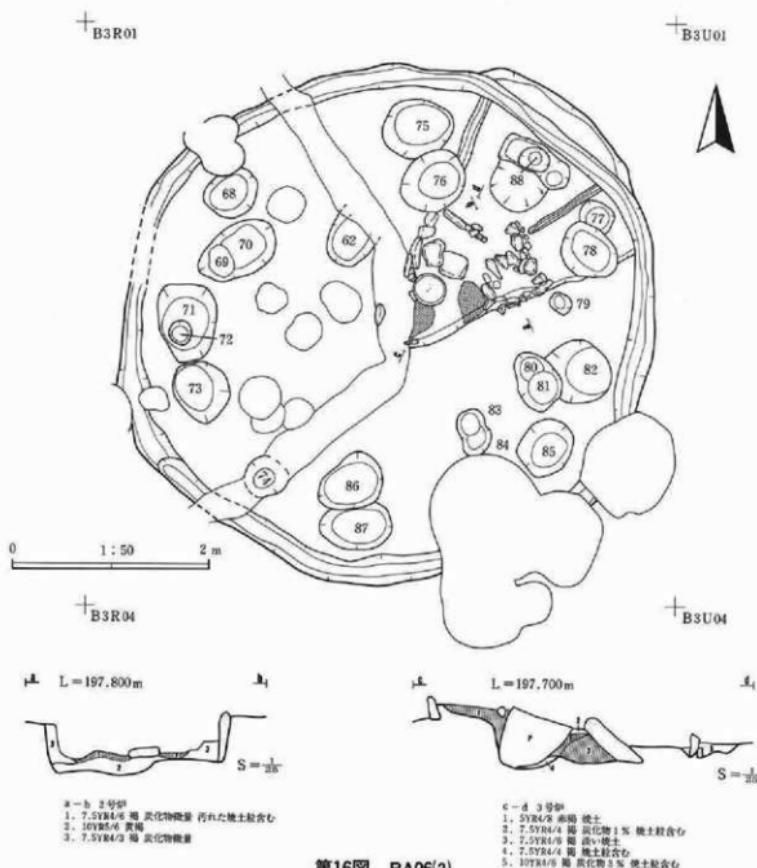
部(2)は8~20cm大の幅平な礫を約50×65cmの略方形に組み、底面には疊らながら約10cm大の礫を敷いている。焼土層は(1)では土器の周辺部に最大5cm、(2)では4cmの厚さで形成されているが、(2)ではプロック状である。

b 住居跡

〈規模・平面形〉 直径5.4mの円形(隅丸六角形)を呈し、床面積は約22m²である。なお、前述の張り出し部は炉の構築位置に接しており、出入り口の可能性も考えられる。

〈埋土〉 調査時の不手際により確認できた部分は少なかったが、暗褐色~褐色土が主体となっていた。

〈柱穴〉 重複関係と配置から推定して、PP76~PP82~PP86~PP70・PP69の四角形の配置が想定でき



第16図 RA06(2)

る。なお、これらの柱穴の断面には直径20cm前後の柱痕跡が観察された。

〈壁・床面〉 壁は北壁の一部から東壁が検出された。最大で42cmの高さを持つ。また、全域に幅15~25cm、深さ15~30cmの壁溝が巡る。床面はⅢ~Ⅳ層中で、古期の柱穴や炉の上部には褐色~黄褐色土による貼り床(閉塞)が施されており、全体に平坦で堅い。

〈炉〉 No 2 炉が伴う。a 住居跡による擾乱をうけており残存状態は良くないが、北東壁際から中央に向かって延びる複式炉である。推定長2.5m、推定幅1.5mで、石組部(1)?・石組部(2)・前庭部から構成される。石組部(1)はほとんど残存しないが、RA05の壁溝中や際に15~25cm大の扁平な亜角礫2個が検出されており、これが炉端部の構成礫と考えられる。内部は緩くくぼみ、底面付近には汚れた焼土層が観察された。なお、No 3 炉ではこの部分に埋設土器を伴うが、位置的にみて埋設土器を共有していた可能性もある。石組部(2)も南側の構成礫のみが検出された。残存部では10~25cm大の礫を埋置し、底面にも疎らに敷いている。内部は床面から20cmほど掘りくぼめられ、最大3cmの厚さで焼土層が形成されている。前庭部も北側の範囲が不明確であるが、床面より10~15cm掘りくぼめられ、底面は堅くしまる。

○住居跡：規模・平面形、埋土、壁・床面の状況はb 住居跡と同じである。

〈柱穴〉 重複関係と検出位置から推定して、PP75~PP82・PP87~PP71の四角形を構成する主柱穴の配置が考えられる。

〈炉〉 No 3 炉が伴う。RA05及びa・b 住居跡の擾乱のため破壊されている部分も多いが、No 2 炉に比べ残存状況は良い。推定長2.5m、推定幅1.5mで、石組部(1)・石組部(2)・前庭部から構成される複式炉である。設置位置はNo 2 炉より70cmほど北に寄る。なお、No 2 炉と重複する部分では黄褐色土や褐色土による貼り床(閉塞土)が施されていた。石組部(1)は前述のとおりほとんど残存しない。掘り方や僅かに残存する構成礫から推定して長さ約90cm、幅約60cmの規模をもつものと考えられる。石組の中央壁よりの部分には上端部を欠損する土器を開口部を外に向ける斜位(垂直より約30°)に埋設しており、周辺部には最大8cmの厚さで焼土層が形成されている。特に上器の周囲が良く焼けており、この部分の焼土が最も厚い。石組部(2)は南半部をNo 2 炉によって破壊されている。残存部からの推定すると、10~35cm大の扁平な構成礫による長さ約80cm、幅約60cmの台形を呈していたものと考えられる。内部は床面から20~30cm掘りくぼめられ、最大5cmの厚さで汚れた焼土層が観察された。前庭部は床面から10~25cm掘りくぼめられ、両側に幅6~15cm、深さ10~25cmの溝を伴う。底面は全床面中最も堅くしまる。なお、壁際から不整な楕円形を呈するPP88・PP89が検出された。

遺物(第68~70図・写真図版71~73)

〈出土状況〉 墓土及び床面、柱穴や壁溝内から土器、石器、土器片円盤が出土している。

〈土器〉 最も量が多く、7kg弱が出土した。中期後葉期の土器(Ⅲ2類)が主体となる。257はNo 1 炉の埋設土器で、胴上部に沈線区画による文様を持つ。文様部分の残存が僅かで意匠等の詳細は不明であるが、施措位置から推定して末葉期(Ⅲ3類)の土器と考えられる。258はNo 3 炉の埋設土器で、沈線区画された綱文帯と無文帯による文様をもつ、Ⅲ2類土器である。259~270は埋土からの出土で、いずれもⅢ2類土器を考えられる。259は縦帯による文様・装飾、他の多くは沈線による文様を持つ。

〈石器〉 217~275は石鏃、277・278は尖頭器様石器とした。274~275は形状が歪である。279は抉入部を複数持つ異形石器、280は不定形石器である。281は両端に敲打痕、周囲に磨面を合わせ持つ。

〈土器片円盤〉 282は中期の土器片を利用し、周囲が打ち欠きによって整形されている。

時期 炉の埋設土器の特徴から、a 住居跡は中期末葉期、b・c 住居跡は後葉期の遺構と考えられる。

RA07住居跡

遺構(第17図・写真図版16)

〈検出状況・重複関係〉 B 3 Y04-C 3 A04グリッドに位置する。Ⅲ層面で炉跡を検出したことにより住居跡と認識した。周辺部にはRD04、B 3-20・C 3-2・3柱穴が分布しこれらと重複すると考えられるが、新旧関係は不明である。

〈規模・平面形〉 開田時に削平されたものか、壁を検出することができなかつた。また、壁溝も持たないため、規模・平面形とも不明である。しかし、炉の検出状況や周囲の遺構の残存状態から推定して、掘り込みは元々浅いものであったと考えられる。

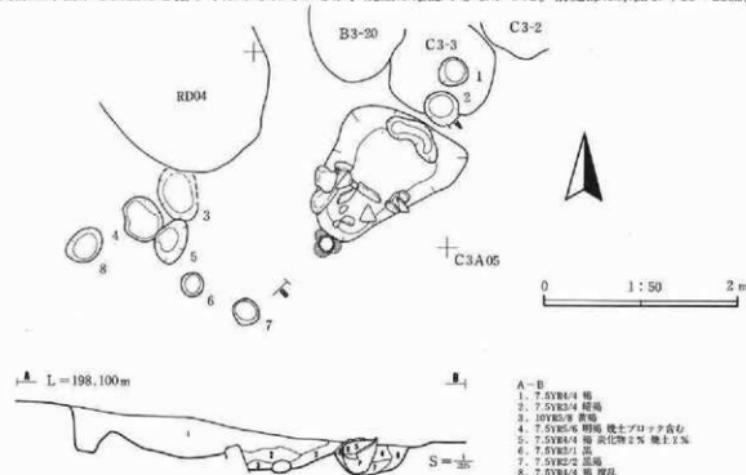
〈埋土〉 ほとんど残存しない。炉検出時の観察では、炉内は褐色土を主体とする埋土をもち、この東側にでも同様な土壤が確かに分布していた。

〈壁・床面〉 壁及び壁溝は検出されていない。床面は全体にⅢ～Ⅳ層面であるが、削平のため地形に沿って緩く西に傾斜し、明確に把握できた部分はほとんどない。

〈柱穴〉 周辺部から検出された小土坑8個を登録したが、帰属も含めて詳細は不明である。

PP	径	深さ	PP	径	深さ	PP	径	深さ
1	30×30	33	4	48×40	11	7	28×26	10
2	37×33	24	5	47×32	31	8	40×30	12
3	(58×40)	38	6	25×23	17			

〈炉〉 炉も削平のため変形されている可能性もあるが、埋設土器・石組部・前庭部から構成される全長1.75m、最大幅1.3cmの複式炉である。埋設土器部は径30cm、深さ16cmの掘り方に土器の下半部が正位に埋設され、周囲には25×30cmの範囲に最大3cmの厚さに焼土層が形成されている。石組部は一部構成難を欠くが、掘り方等から推定して10～40cm大の扁平な亜角礫による60×100cmほどの台形を呈していたものと考えられる。内部は床面から34cmほど掘りくぼめられているが、焼土は確認できなかった。前庭部は床面より15～28cm掘



第17図 RA07

りくぼまれており、底面は堅くしまる。なお、端部から長さ65cm、幅20cm、深さ25cmの不整梢円形を呈する小土坑が検出された。

遺物(第70図・写真図73版)

〈出土状況〉 遺物は土器のみで量も少ない。埋設土器と検出時に周辺から出土した上器片を登録した。

〈土器〉 283~289を掲載した。283は継走する縞文部のみが残存する。284~289は沈線による文様を持つⅢ群土器である。

時期 炉の形態と土器の特徴から推定して、中期後葉~末葉の住居跡と考えられる。

RA08住居跡

遺構(第18・19図・写真図版17)

〈検出状況・重複関係〉 2CH16~2CJ19グリッドに位置する。Ⅲ層~Ⅳ層で石開炉を検出したことで住居跡と認識した。周辺部には多数の柱穴や土坑が分布するが、明確に新旧関係を把握できたものは少なく、RD32とRD52が当住居に先行する遺構であることが確認されただけである。

〈規模・平面形〉 開田時の削平のため、壁は検出されていない。また、壁溝も持たないため規模・平面形とも不明である。周辺の柱穴及び中穴状小土坑の分布と配置から想定すると、径6.5m前後の規模を有していた可能性もある。

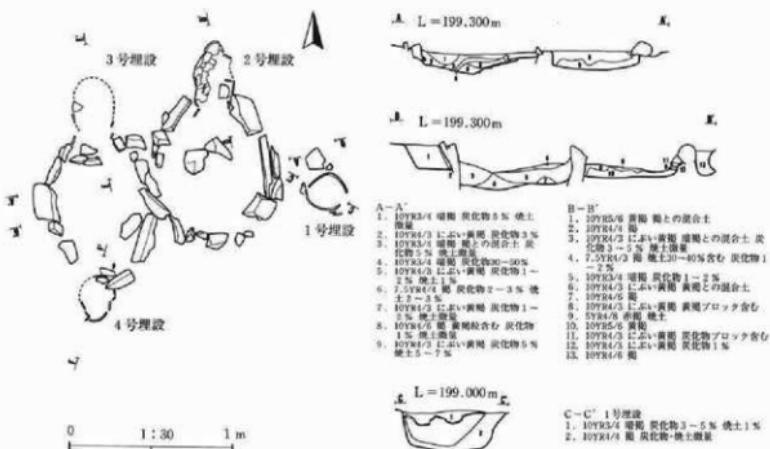
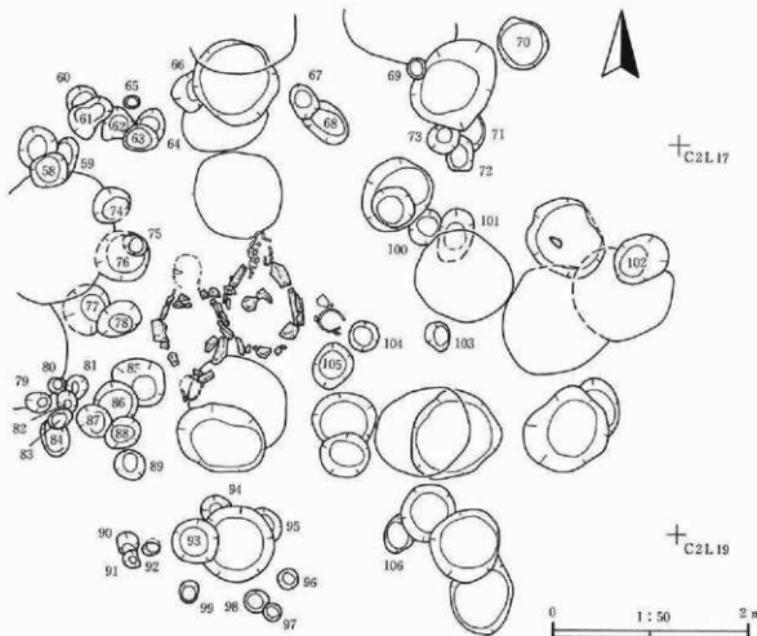
〈埋土〉 ほとんど残存しない。僅かに暗褐色~褐色土の分布が見られたが、これも攪乱と重複によって範囲等を把握することはできなかった。

〈壁・床面〉 壁は検出されていない。床面はⅢ層~Ⅳ層で、擾乱を受けている部分も多いが貼り床等は認められなかった。

〈柱穴〉 周辺部には多数の柱穴が分布しているが、プランが明確ではないことから場所を明らかにできるものはない。柱穴状の小土坑50個を当住居跡に伴う可能性があるものとして掲載した。検出位置からだけの想定であるが、PP75~PP78~PP66~PP71~72~PP102~PP106~PP93~PP95~PP85~PP89等の配置が考えられる。なお、独立した柱穴として扱った2C-56・67・55・52・53・73・72・83等は当住居跡の主柱穴となる可能性がある。

1P	径	深さ	PP	径	深さ	PP	径	深さ	PP	径	深さ
57	(44)×38	24	70	53×52	12	83	(22×20)	47	96	21×19	13
58	42×(38)	29	71	(45)	8	84	41×28	26	97	(20×20)	(20)
59	24	15	72	40×28	25	85	56×(50)	67	98	(25×25)	(20)
60	33	3	73	33×28	55	86	44	31	99	22×19	30
61	47	20	74	(45)×34	36	87	32×32	34	100	(38)×35	44
62	35×30	38	75	25×23	42	88	38×31	41	101	57×38	57
63	38×28	46	76	55	35	109	32×30	44	102	(60)×48	41
64	28	35	77	47×40	42	90	20	(15)	103	28×22	9
65	14×14	3	78	48×45	50	91	19×15	20	104	(30×30)	(35)
66	40	23	79	26×22	18	92	17×14	44	105	46×38	30
67	35×27	45	80	16×(16)	29	93	(50×50)	23	106	(35)×32	50
68	(50)×33	15	81	(25)×22	31	94	(30×30)	不明			
69	20×17	36	82	(25)	38	95	(40×40)	不明			

〈炉〉 東西に連結する2基の石組部と埋設土器から構成される複式炉であるが、前部は確認されなかった。西側の石組部を(1)、東側を(2)として記述する。石組部(1)は10~35cm大の亜角砾10数個を東西に長い90×75cmの梢円形に配し、この南北端部に斜位の埋設土器を設置している。一部原位置を保っていないものもある。



第18図 RA08(1)



第19図 RA08(2)

るが、構成要素の在り方から2個の埋設土器には新旧関係を持つ可能性がある。しかし、いずれも破損がひどく把握することはできなかった。石組内部は床面から25cmほど掘りくぼめられ、最大3cmの厚さで焼土層が形成されている。北側の埋設土器(3号)は、4個体分の土器を水平位よりいくぶん斜め(約10°)に埋設しており、周辺部には最大4cmの厚さで焼土層が観察された。南側の埋設土器(4号)は、1個の土器を水平位より約20°傾けて埋設しており、周辺部には最大3cmの厚さで焼土層が形成されていた。石組部(2)は西側で(1)と構成要素を共有し、10~40cmの扁平な亜角礁10個数によって径約50cmの円形に配して構築され、南側に斜位の埋設土器を伴う。石組の内部は床面から15cmほど掘りくぼめられ、床面から約10cm下に最大3cmの厚さで焼土層が形成されていた。埋設土器(2号)は、3~4個体分の土器を水平位より約25°傾けて埋設しており、周囲には最大4cmの厚さで焼土層が観察された。なお、土器の残存状況は2号が最も良く、全体をとおして最新の施設の可能性がある。

〈その他の施設〉 石組部(2)の東側約20cmに正位の埋設土器(1号)が検出された。位置的に見て、炉に伴う可能性が高いが、周囲に焼土層の形成が観察されなかったことから独立した施設として扱った。土器は胴部のみ(上半部は開田時に破壊されている可能性もある)で、下部に径約30cm、深さ15cmの掘り方を伴う。

遺物(第70~71図・写真図版73~74)

〈出土状況〉 出土遺物には土器、石器、土器片円盤があるが炉の埋設土器が主体となる。なお、炉の周辺部から出土した若干の遺物も含めた。

〈土器〉 290~299を掲載した。いずれも埋設土器である。全て3類土器で、文様を有するものは沈線によって表現され、291~292は三日月状(鱗状)の貼り付け装飾を持つ。

〈石器〉 300は1側辺に片面からの刃部加工が施された不定形石器である。301はほぼ全面、302は片面に磨面をもつ磨石である。なお、302にはアスファルト状の物質が付着している。

〈土器片円盤〉 303~304は2号埋設土器内、305は石組部(2)からの出土である。いずれも粗製土器片を利用し、周辺は打ち欠きによって整形されている。

時期 埋設土器の特徴から中期末葉期の住居跡である。

2. 挖立柱建物跡・柱穴群

調査区の中央部、B 3～C 2区で柱穴および柱穴状小土坑が多数検出された。柱穴としたものは、直径が50cm以上の円筒土坑で113基を登録したが、同様な形態を持っているものでも埋土の状態から上坑として分類したものもある。これらの中には断面や底面に明確な柱痕跡を残すものもあり、平面図には歴力これを図示するように心がけたが、いずれも柱自体が確認されたものではなく、図中で表現した痕跡部分は厳密な規模を示すものではない。なお、配置に規則性が見られるもの3棟を掘立柱建物跡として登録した。しかし、これらの周辺には規則性を持たない同形態の柱穴も多数検出されており、この3棟だけを建物跡として独立させてよいものか疑問を残す。

柱穴状小土坑としたものは、直径がおよそ50cm以下の小型の土坑で、床面まで削平された住居跡に伴うものも多数存在すると考えられる(RA07では周辺地区で検出されたものと一連の番号で表示)が、これらも含めて一応272個を登録した。

(1) 挖立柱建物跡

RB01 挖立柱建物跡

遺構(第20図・写真図版18)

〈検出状況・重複関係〉 C 2 E22～C 2 H25グリッドに位置する。Ⅲ層で検出された。南側は現道のため破壊されている。なお、周辺部で検出された他の遺構も含めて、柱穴の深度が浅いことから開田時に上部を削平しているものと考えられる。

〈規模・平面形〉 検出した範囲では張り出しをもつ5本柱である。六角形を呈する6本柱で構成される可能性もあるが、南側は現道による破壊のため不明である。柱間は4.0m、張り出し部は2.7m、長軸方向は、N-50°～Wである。

〈柱穴〉 C 2-1・2・3・6・13で構成される。柱穴の規模は主柱が径1.15～1.25m、北側の張り出しになる柱穴は径80cmとやや小さくなる。いずれも柱痕跡を底部に残している。深さは最大40cmである。

遺物(第72図・写真図版74)

〈出土状況〉 2と13の埋土から縄文土器片が数点出土している。

〈土器〉 いずれも小破片であるが、文様から306はⅡ群、307～308はⅢ群土器に分類した。

時期 出土した遺物からは直接時期を決定できないが、他の柱穴の想定される時期から推定して、後期初頭期の建物跡の可能性が高い。

RB02 挖立柱建物跡

遺構(第21図・写真図版19)

〈検出状況・重複関係〉 B 3 R04～B 3 Y04グリッドに位置する。Ⅲ層で検出された。南と西側の検出面は緩い斜面となっており、開田時に削平をうけた可能性がある。北側でRA05住居跡を切る他、ほぼ同位置で重複するRB03建物跡を切る(B 3-1→B 3-2、B 3-14→B 3-15)。

〈規模・平面形〉 2×3の6本柱の長方形を呈する建物跡と考えられるが、柱間の距離が異なることから2×2の4本柱の可能性もある。柱間は長軸2.5～4.0m、短軸4.0m、長軸方向はN-50°～Eである。

〈柱穴〉 B 3-2・4・8・15・19・25で構成される。柱穴の規模は径1.2～1.0mの円形を基準とし、いずれも柱痕跡が断面と底部に観察された。痕跡から推定される柱の太さは最大約60cm、掘り方の深さは最大

80cmである。

遺物(第72図、写真図版74・75)

〈出土状況〉 埋土から土器片と剝片石器が数点出土している。

〈土器〉 310～313は15から出土した土器片である。310は縁带上に3個一対の刻み装飾を持つ後期初頭(IV群)の深鉢で、他はⅢ群土器である。318は25からの出土で、IV群土器、324はⅡ群土器である。

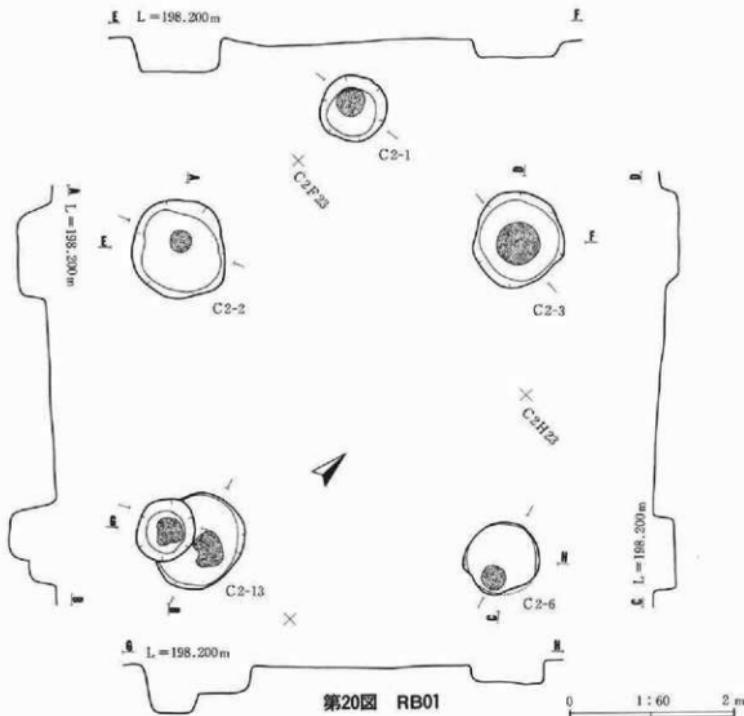
〈石器〉 25の埋土から不定形石器2点が出土している。325はほぼ全面に加工を持ち、326は片側からの加工によって凸状の刃部を作り出している。

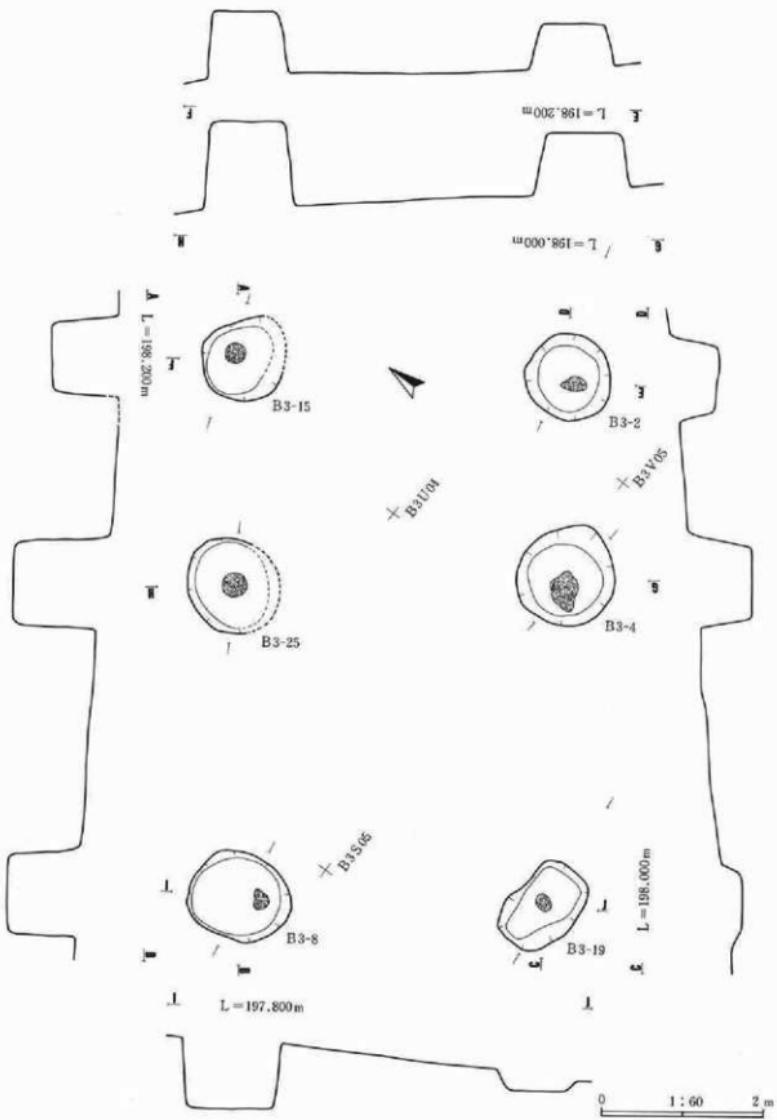
時期 出土した土器の特徴及び住居跡との重複関係から、後期初頭期の建物跡である可能性がある。

RB03獨立柱建物跡

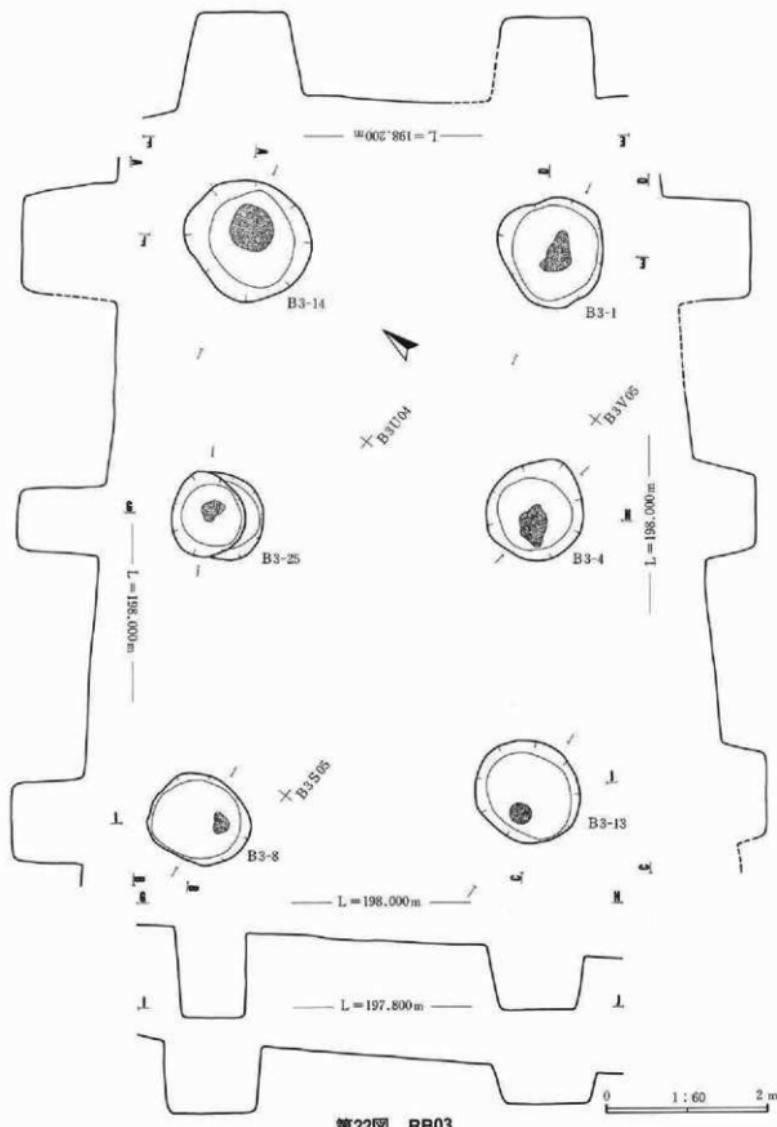
遺構(第22図、写真図版19)

〈検出状況・重複関係〉 B3 R01～B3 Y06グリッドに位置する。Ⅲ層で検出された。南と西側の検出面は緩い斜面となっており、開田時に削平をうけた可能性がある。北側でRA06住居跡を切り、ほぼ同位置で重複するRB02建物跡に切られている(B3-1→B3-2、B3-14→B3-15)。





第21図 RB02



第22図 RB03

〈規模・平面形〉 2×3の6本柱の長方形を呈する建物跡で、柱間は長軸3.5m、短軸4.0m、長軸方向はN-55°-Eである。

〈柱穴〉 B 3-1・4・8・13・14・25の6本で構成される。柱穴の規模は径1.4~1.6mで、いずれも柱痕跡を底面に残す。痕跡から推定される柱の太さは最大約60cm、掘り方の深さは最大1.2mである。

遺物(第72・73図・写真図版75)

〈出土状況〉 1・13・14の埋土から土器片が数点出土している。

〈土器〉 333~343を掲載した。いずれも小破片である。333、337はⅡ群土器、他はⅢ群土器である。

時期 出土遺物からは直接時期を判断できないが、住居跡及び他の柱穴との重複関係から推定して、後期初頭期の遺構の可能性が高い。

(2) 柱穴・柱穴状小土坑

検出された柱穴及び柱穴状小土坑の分布には、若干のまとまりが看取られる。しかし、調査区の大半は開田時の削平を受けており、特に調査区の中央部北側は顕著である。このため見かけ上分布が疎な地区でも本来は、相当数の遺構が存在していた可能性がある。掲載及び記述に当たっては、便宜上この見かけのまとまりによって区域分けを行った。個々の記録は後頁の表に示し、出土遺物は第73図~第76図に掲載した。

B区西側柱穴群(第23~25図)

B 3 R01~C 3 B06グリッドにかけて分布するもので柱穴28基、柱穴状小土坑21個を登録した。いずれもⅢ層面で検出された。南側と西側の検出面は緩く傾斜しており、この部分からは遺構は検出されていない。柱穴の深度を見ると西側及び南側のものは浅く、開田時に破壊された可能性もあるが、斜面の傾斜角からは元々遺構がなかった可能性も多い。

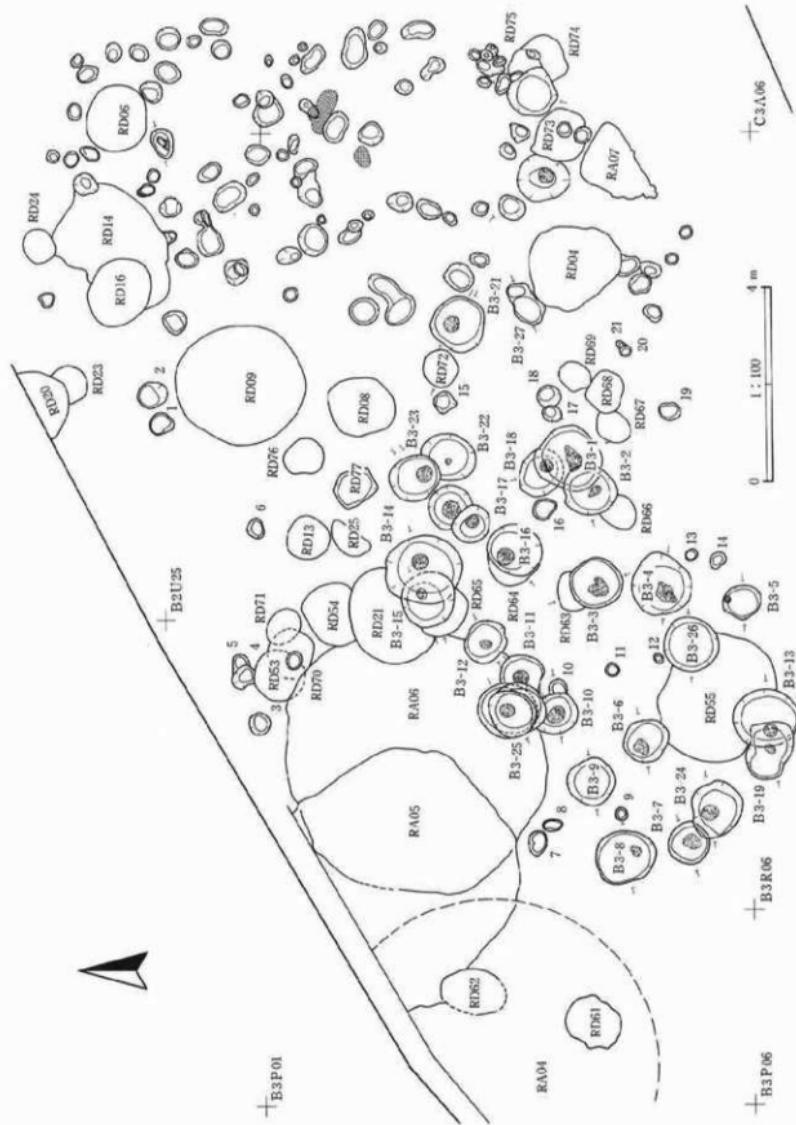
直径が1mを超える規模の大きな柱穴が集中して分布し、断面や底面に柱痕跡が確認できるものが多い。なお、先の掘立柱建物2棟を構成する柱穴も含まれる。これらの他に明確な配置が確認できたものはないが、B 3-13・6・10・12、B 3-4・3・16・17・22・21等は弧状の配置にも見える。柱穴は相互に重複しており、同位置での建て替えが頻繁に行われていたと考えられる。なお、柱穴状の小土坑は少ない。

直接時期を判断できる遺物は少ないが、土坑や住居跡との重複関係も加味して推定すると、後期初頭期の遺構である可能性が高い。

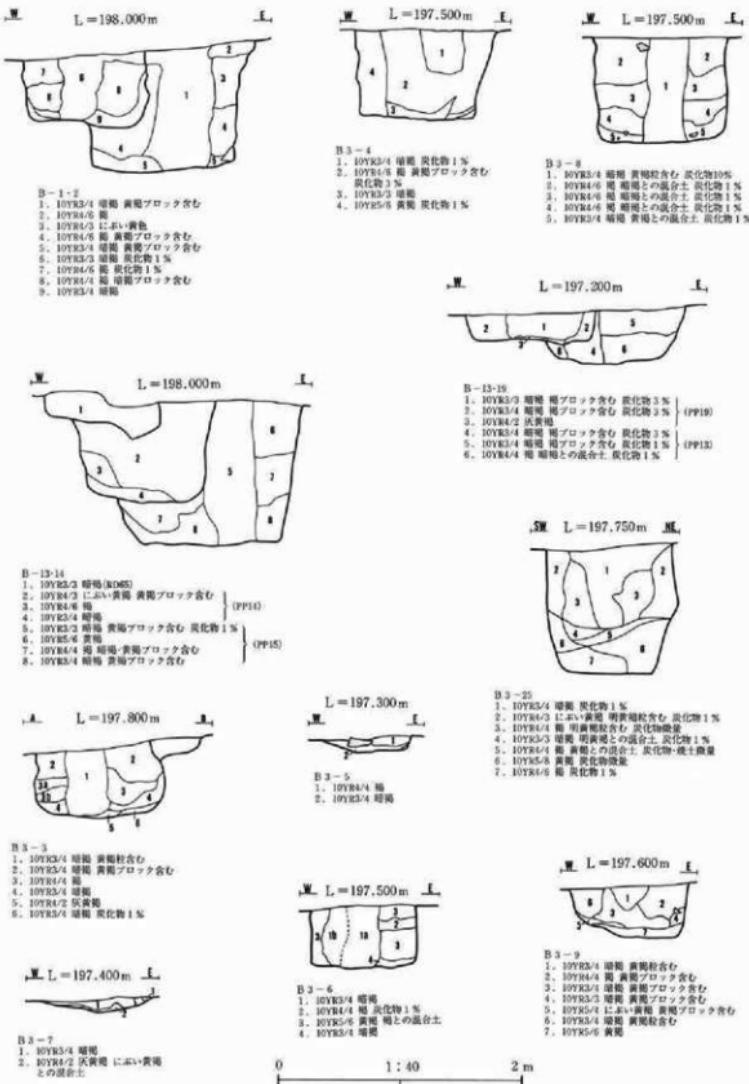
B区東側柱穴群(第26~28図)

B 2 X23~C 3 H01グリッドにかけて分布するもので柱穴35基、柱穴状小土坑57個を登録した。Ⅲ~V層面で検出された。北半部中央から東側にかけては、他の遺構も含めて分布が疎らであるが、この区域は調査区内で最も開田時の削平を受けている部分で、これによる影響が考えられる。また、前述のとおりRA03住居跡と重複する部分では発見できなかった柱穴も存在すると考えられるほか、南側は現道によって破壊されており、分布域の詳細は不明である。

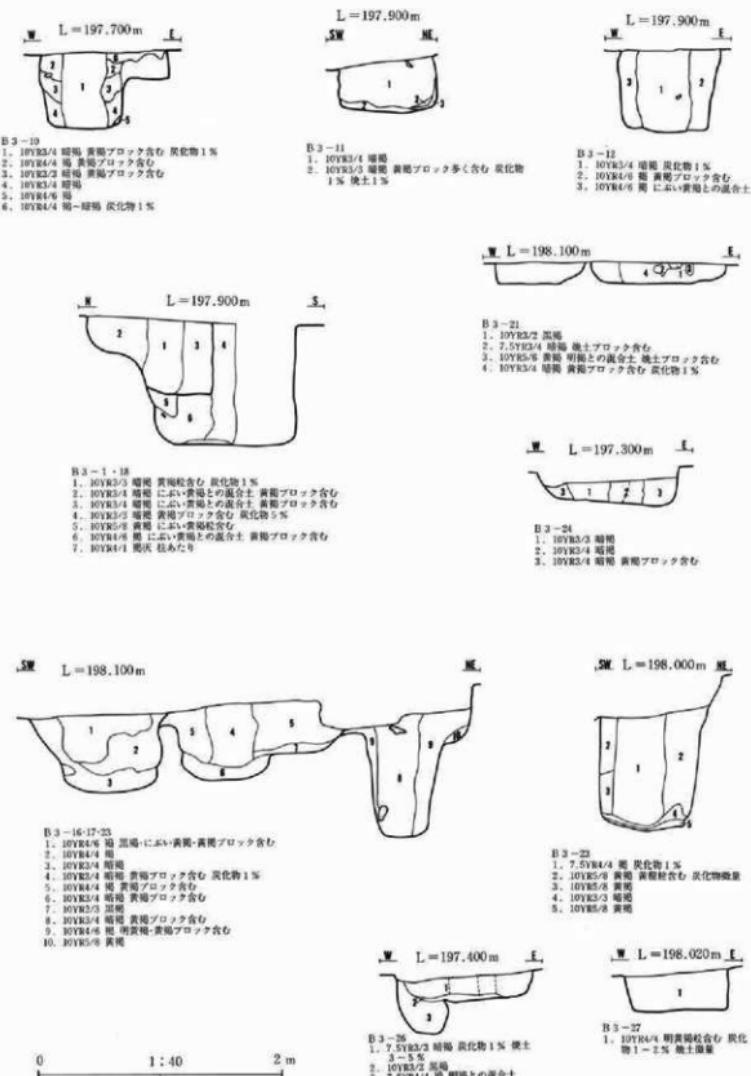
RA03住居跡の周辺に集中している。西側柱穴群に比べて総じて規模は小さく直径70cm大のものが多いが、住居跡の東側に分布し、RB01掘立柱建物跡を構成するものはいくぶん規模が大きい。この他の配置に明確なものは見いだせないが、住居跡内部と西側に分布するC 3-8・5・6、C 3-16・1・19等はほぼ南北の配置と見ることもでき、これらを結ぶ建物跡の想定も可能かもしれない。



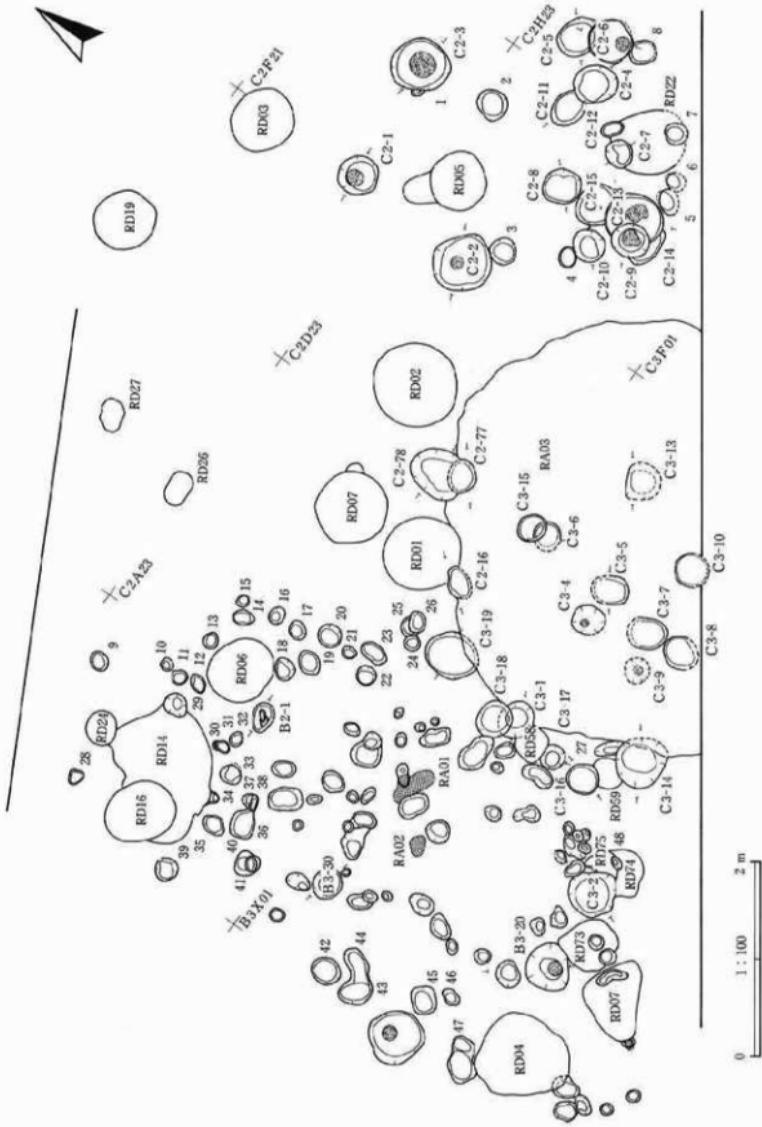
第23図 B区西侧柱穴群



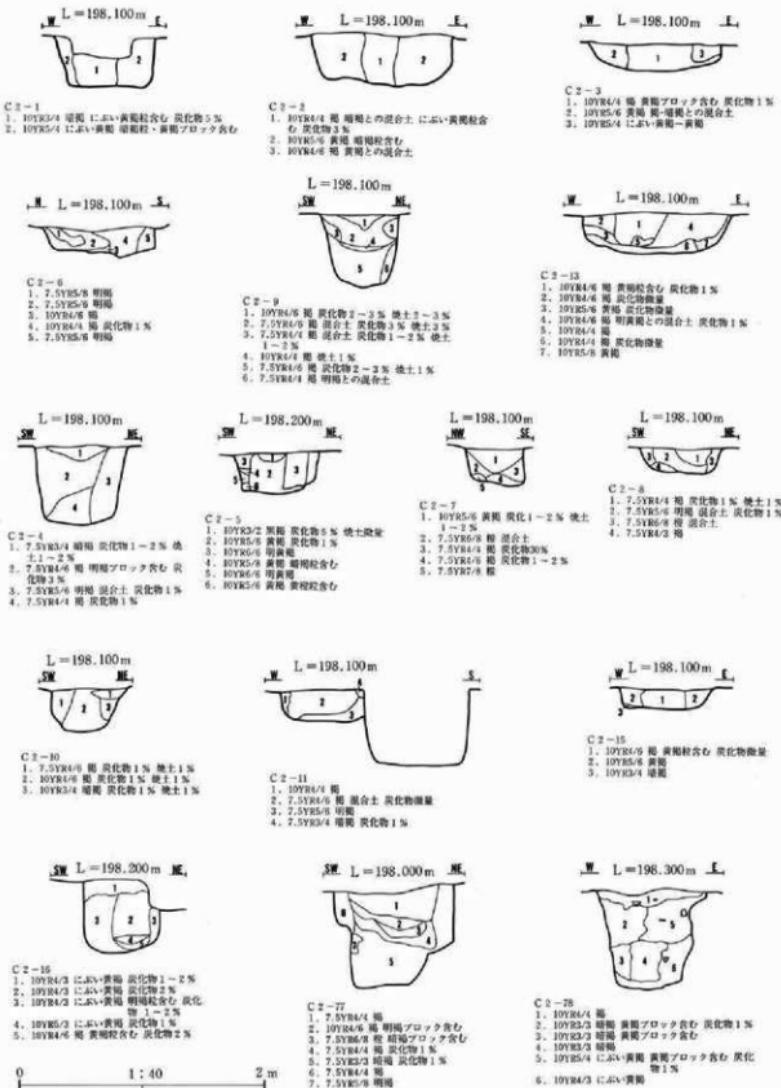
第24図 B区西侧柱穴群(断面)



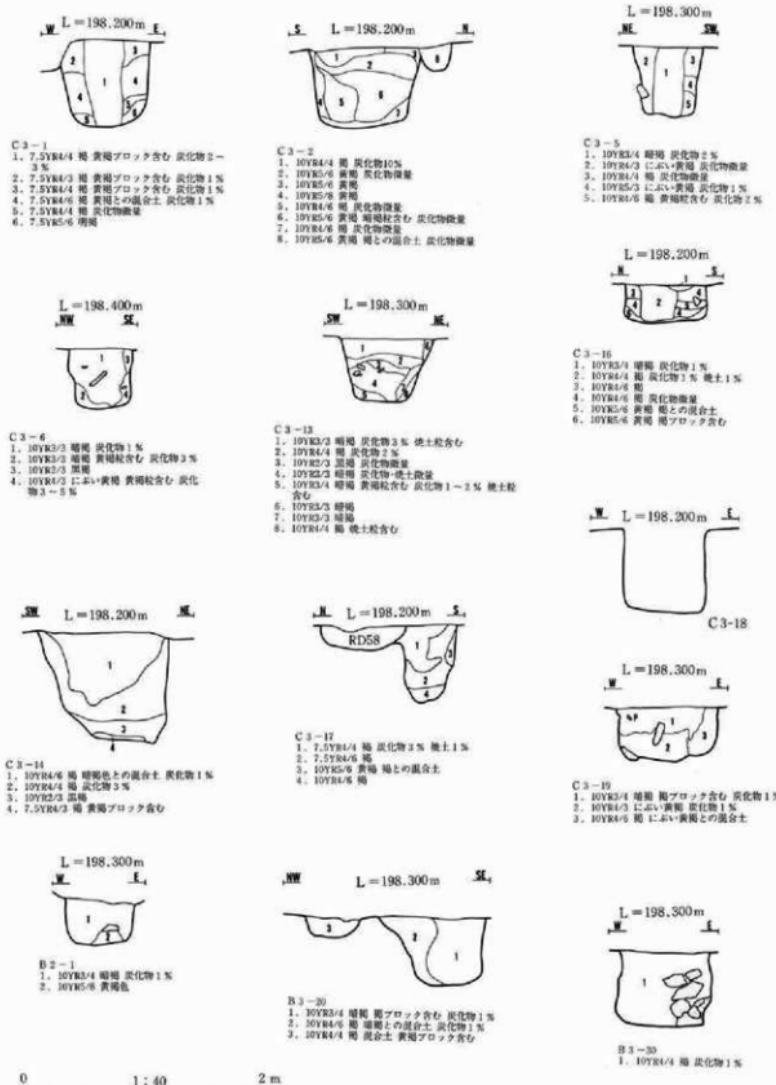
第25図 B区西側柱穴群(断面)



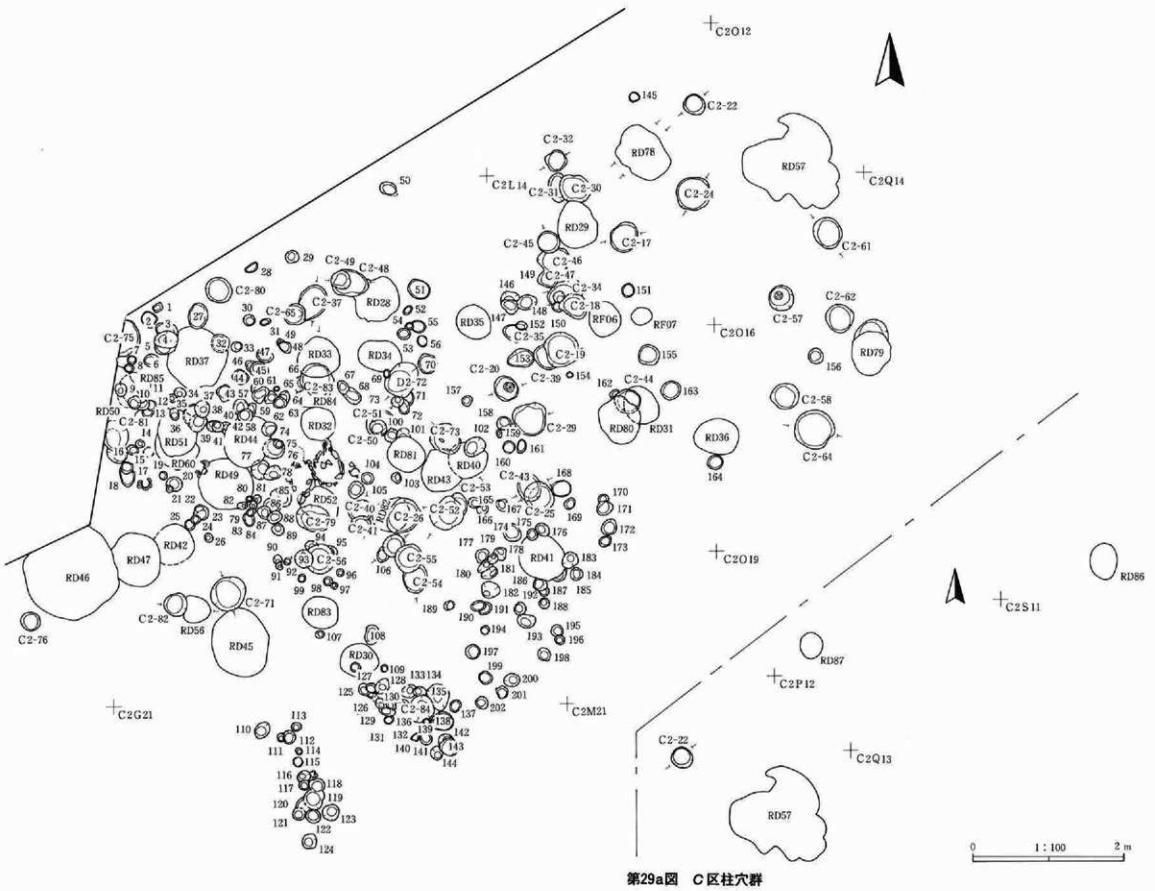
第26図 B区東側柱穴群



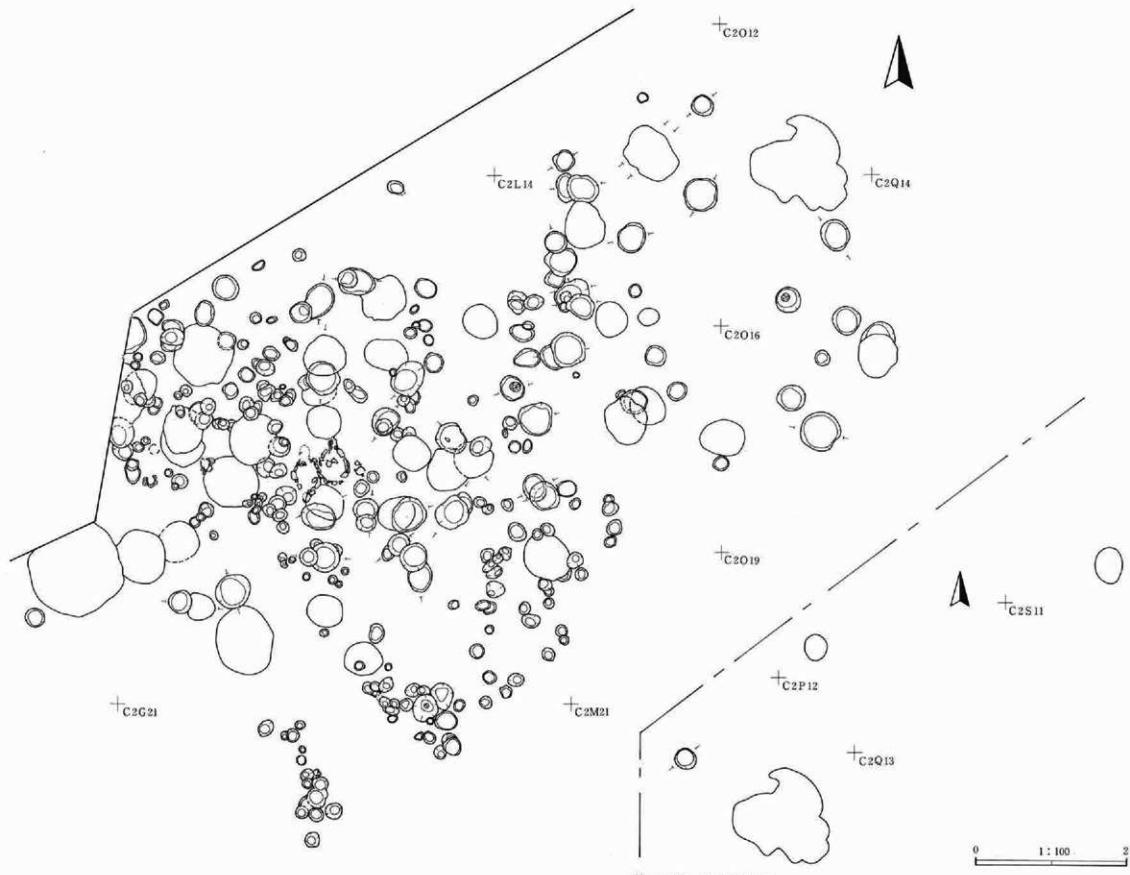
第27図 B区西侧柱穴群(断面)



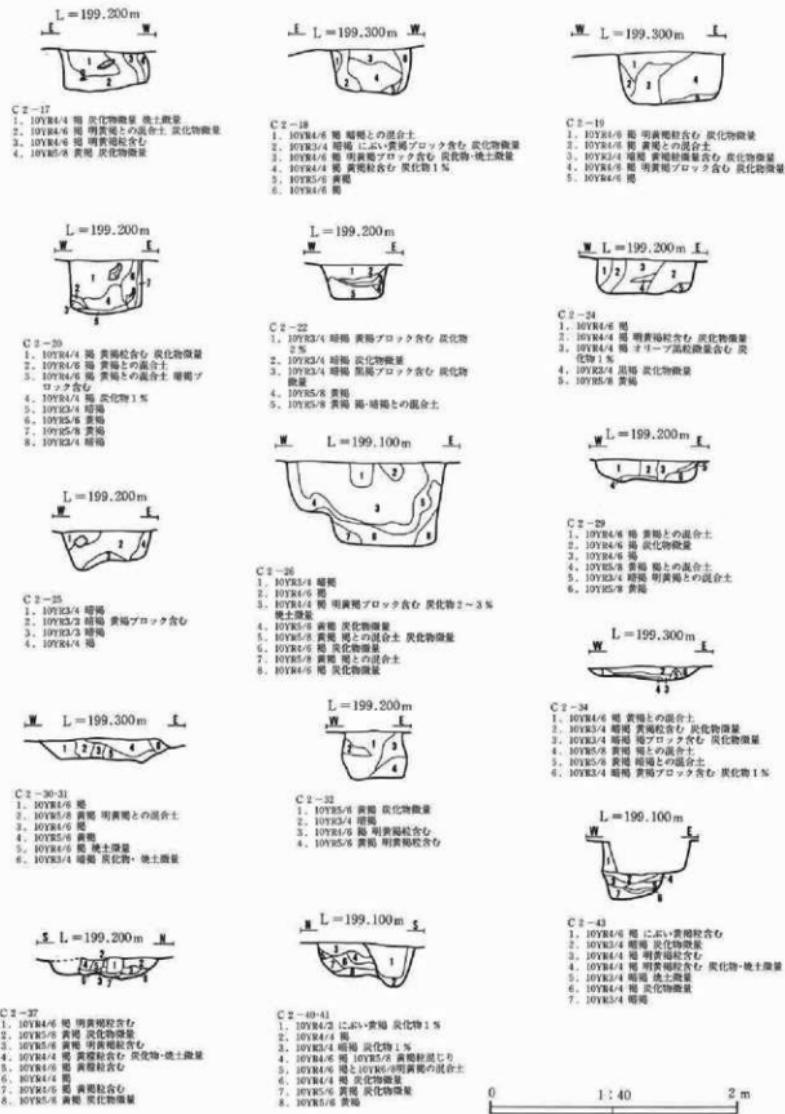
第28図 B区西侧柱穴群(断面)



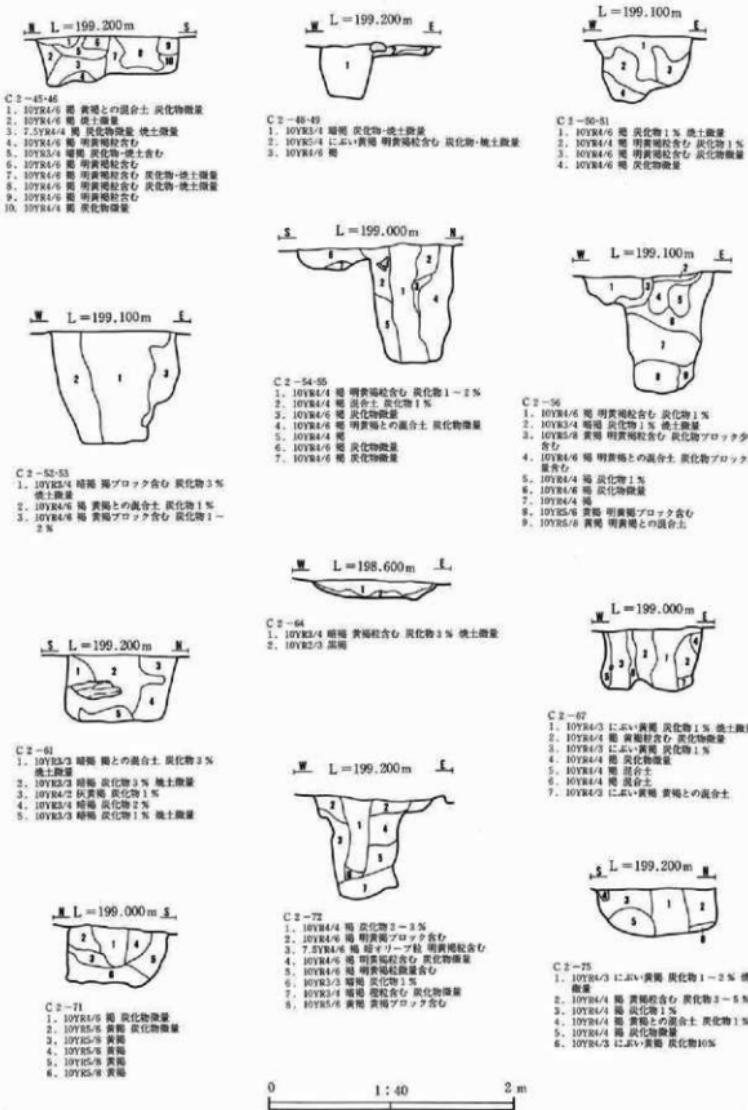
第29a図 C区柱穴群



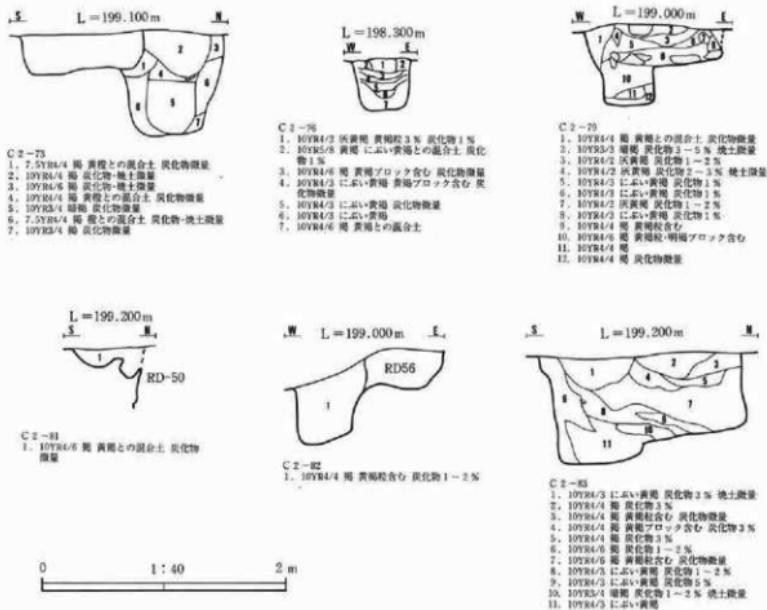
第29b図 C区柱穴群



第30図 C区柱穴群(断面)



第31図 C区柱穴群(断面)



第32図 C区柱穴群(断面)

直接時期を判断できる遺物は少ないが、RA03住居跡および土坑との重複関係から後期初頭期の遺構である可能性が高い。

柱穴状小土坑は、RA01・02住居跡周辺に集中している。住居跡の北側では直径5m前後の円形の分布がみられ、この部分が南側に比べて削平が深いことからこれらも、本来堅穴住居に伴う柱穴であった可能性は高いと思われる。

C区柱穴群(第29~32図)

C 2 G15~C 2 Q19グリッドにかけて分布するもので柱穴52基、柱穴状小土坑197個を登録した。全体に削平を受けており、特に西側は激しい。柱穴は直径70cm大のものが多く、調査区の中央部に集中している。長軸方向の柱間が長く建物跡としては登録しなかったが、RA08住居跡の周辺に位置するC 2-79・83・72・26が南北方向を指す長方形に並ぶ。また、東側では遺物包含層にかかるため見逃した柱穴も存在すると思われるが、C 2-17・24・61・62・58・44等は環状の配置と見ることもできる。出土遺物は少ないが、時期的には他の地区と同様、後期初頭期の遺構と考えられる。

柱穴状小土坑は北西部と南西部に多い。この周辺ではRF02~03の埋設土器を伴う炉跡が検出されており、多くはこれらを炉とする堅穴住居の柱穴と考えられる。土器の特徴から中期末葉期の遺構であろう。

B区西侧柱穴群一覧表

遺構名	位置	規範	深さ	底面標高	出土遺物	備考	回復位置
B3-1	B3V04	136×130×118×104	112	196.740	土器：339～341	B3-2-18に切られる。RB03を構成	23 20
B3-2	B3V04	108×104×84×75	64	197.100	土器：314	B3-1 RB06を切る。RB02を構成	23 20
B3-3	B3U04	150×103×95×93	67	197.010	土器：344	RD63を切る	23 21
B3-4	B3U05	130×120×94×88	75	196.690	土器：327	2側の重複。RB02-03を構成	23 20
B3-5	B3U05	80×70×62×58	13	197.070	土器：345	底面加工上に島平安綱	23 21
B3-6	B3S01	95×88×76×62	58	196.888		抜き取り穴？	23 22
B3-7	B3R05	85×85×72×70	13	197.120		浅い？ B3-24を切る	23 22
B3-8	B3R04	125×106×107×94	87	196.510	土器：328～339	RB02-03を構成	23 20
B3-9	B3S04	100×94×74×72	46	197.060		浅い？	23 22
B3-10	B3S03	85×72×65×55	64	196.970	土器：346～347	B3-25に切られる。小柱穴を切る	23 22
B3-11	B3T03	88×80×72×68	48	197.290	土器：348～350	B3-25に切られる。RA06を切る	23 22
B3-12	B3T03	95×78×70×62	68	197.130		RA06を切る	23 22
B3-13	B3S06	135×121×115×96	54	196.578	土器：338～342～343	B3-19に切られる。RB03を構成	23 20
B3-14	B3U02	153×141×131×100	136	196.615	土器：352～357	RD65 B3-15に切られる。RV03を構成	23 20
B3-15	B3U02	(115)×101×93×73	94	197.034	土器：310～313	RD65 B3-14を切る。RB02を構成	23 20
B3-16	B3U03	112×102×82×76	66	197.090		RD64を切る	23 23
B3-17	B3U03	82×70×50×42	66	197.190	土器：351	2側の重複。直削を切る	23 23
B3-18	B3V03	110×83×95×62	66	197.165	土器：352～353	B3-1を切る	23 23
B3-19	B3N06	116×90×99×60	33	196.726	土器：330～331	2側の重複？ B3-1～3を切る。RB02を構成	23 21
B3-20	B3Y03	100×88×50×44	60	197.440	土器：354	単孔。RD 3 7と重複。重複不明	23 28
B3-21	B3W02	110×106×94×86	18	197.870		単孔	23 22
B3-22	B3V02	110×95×80×72	106	196.896		B 3 - 2 3 に切られる	23 23
B3-23	B3V02	104×96×88×76	105	196.605	土器：356～358	B 3 - 2 2 を切る	23 23
B3-24	B3R05	115×105×92×76	33	196.840	土器：359	B 3 - 2 3 に切られる	23 23
B3-25a	B3S03	125×(110)×107×(88)	74	196.750	土器：315～324石器：325～328	B3-10 11を切る。RB02を構成	23 21
B3-25b	B3S03	104×90×78×72	110	196.580	土器：360	に切られる。RB03を構成。他に1個重複	23 21
B3-26	B3T05	114×109×93×90	38	197.050	土器：361	R D 5 5 を切る	23 23
B3-27	B3X03	(75)×52×64×44	38	197.590		小柱穴	23 23
B3-30	B3X01	68×56×50×(46)	64	197.510	土器：362	小柱穴	23 29

小柱穴一覧

P P No.	伴	深さ									
1	47×42	10	7	51×36	20	13	26×21	23	19	45×36	27
2	60×50	17	8	39×14	11	14	35×28	18	20	(18)	不明
3	44×43	13	9	25×25	13	15	46×44	26	21	25×22	16
4	32×40	20	10	42×34	14	16	53×43	21			
5	32	8	11	26	19	17	40×22	23			
6	40×34	28	12	21×18	33	18	48×46	23			

B区東側柱穴群一覧表

遺構名	位置	規範	深さ	底面標高	出土遺物	備考	回復位置
C2-1	C2Y24	65×43×60×54	42	197.800		埋土に通	26 28
C2-1	C2E22	85×82×60×58	43	197.590	土器：363	RB01を構成	26 24
C2-2	C2E23	128×122×110×95	45	197.590	土器：366	RB01を構成	26 24
C2-3	C2G22	120×110×96×96	24	197.720		RB01を構成	26 24
C2-4	C2H23	92×80×82×58	64	197.396	土器：364	C 2 - 1 1 を切る	26 1
C2-5	C2H23	-×72×72×38	35	197.730		C 2 - 6 に切られる	26 25
C2-6	C2H23	94×88×90×87	26	197.817		C 2 - 5 を切る。RB 0 1 を構成	26 24
C2-7	C2G24	60×52×40×30	35	197.684		L 紙？ R D 2 2 を切る	26 25
C2-8	C2F24	77×72×65×36	21	197.799		土器？	26 25
C2-9	C2F25	80×70×43×52×48	58	197.448	土器：365～367	C 2 - 2 3 を切る。RB 0 1 を構成？	26 21
C2-10	C2F24	20×66×48×38	35	197.685	土器：368		26 25
C2-11	C2G23	82×64×64×52	29	197.746	土器：369～371	泥土に細長縫。C 2 - 4 に切られる？ 土塊？	26 26
C2-12	C2G24	46×28×58×22	18	197.818		小柱穴。R D 2 2 を切る。土塊？	26 26
C2-13	C2G24	123×(97)×113×(90)	34	197.691	土器：307～309	泥土に細長縫。C 2 - 4 に切られる？ 土塊？	26 26
C2-14	C2F25	(90)×(75)	21	197.801		C 2 - 9 ～ 1 3 に切られる	26 26
C2-15	C2F24	88×(50)×77×(62)	19	197.823		C 2 - 1 3 に切られる	26 26
C2-16	C2C25	72×48×58×37	58	197.597		RA03を切る	26 26
C2-77	C2C25	(68)×65×(54)×54	85	197.272	土器：322～326 石器：307～308	RA 0 3 ～ C 2 - 7 8 を切る	26 26
C2-78	C2C24	115×92×77×50	89	197.333		2番の重複？ RA 0 3 を切る	26 26
C3-1	C3B01	80×(70)×(45)×49	71	197.421		C 3 - 1 8 ～ RD 5 8 ～ RA 0 3 を切る	26 27
C3-2	C3A03	100×92×75×68	66	197.446		1 紙？ R D 7 4 ～ 7 5 を切る	26 27
C3-4	C3C01	-×67×60	-			RA 0 3 を切る	26 26
C3-5	C3C01	(75)×60×(62)×48	58	197.615		RA 0 3 を切る	26 27
C3-6	C3C01	56×(56)×46×(46)	49	197.710		RA 0 3 を切る	26 27
C3-7	C3C02	(82)×65×(68)×55	17	197.443		RA 0 3 を切る	26 26
C3-8	C3C02	(75)×66×(64)×50	10	197.497		RA 0 3 を切る	26 26
C3-9	C3C02	-×19×547	-			RA 0 3 を切る	26 26
C3-10	C3D02	70×(70)×62×(62)	12	197.547		RA 0 3 を切る	26 26
C3-13	C3D01	(75)×(50)	54	197.660		RA 0 3 を切る	26 28
C3-14	C3B03	(110)×100×70×(56)	92	197.260	土器：382～383	RA 0 3 を切る。大型	26 28
C3-16	C3B02	68×65×59×50	33	197.806		RA 0 3 を切る。C 3 - 6 と重複不明	26 28
C3-17	C3B02	54×52×32×39	64	197.486		R D 5 8 と重複不明	26 28
C3-18	C3B01	75×(75)×58×52	68	197.446	土器：384～385 石器：357～358	C 3 - 1 に切られる	26 26
C3-19	C3B01	110×62×65×66	45	197.710		複数の重複？ RA 0 3 を切る	26 26

小柱穴一覧

P P No.	径	深さ	P P No.	径	深さ	P P No.	径	深さ	P P No.	径	深さ
1	25	不明	13	35×27	16	25	40	6	37	28	不明
2	64×39	17	14	43×33	23	26	45×34	19	38	35×16	37
3	55×52	14	15	26×24	14	27	28	25	39	49×48	19
4	42×35	5	16	38×31	46	28	30×26	6	40	(50)	50
5	54	44	17	38×33	33	29	33×46	34	41	(45)	69
6	46	21	18	47×41	23	30	(20)	51	42	61×54	16
7	46×46	22	19	53×44	13	31	32×23	70	45	72×50	21
8	54×45	10	20	49×47	45	32	29×25	10	44	(40)	17
9	40×35	7	21	30×25	46	33	46×43	63	45	58×52	25
10	25×25	10	22	40×40	47	34	23×15	31	46	42×29	19
11	32×26	17	23	58×33	17	35	48×38	31	47	46×(35)	41
12	41×28	14	24	33×32	15	36	56×50	24	48	30×19	43

K区柱穴群一覧表

遺構名	位置	規徴	深さ	底面標高	出土遺物	備考	因数
C2.17	C2M14	85×70~70×63	38	198.787			29 29
C2.18	C2M15	72×60~54×45	45	198.745		C 2-3-4 を切る。	29 29
C2.19	C2L16	95×95~78×75	43	198.731	41器:390	C 2-3-9 を切る。	29 20
C2.20	C2L16	68×60~58×55	43	198.656			29 30
C2.22	C2N12	58×54~45×45	32	198.788		土坑?	29 30
C2.24	C2N14	88×86~82×78	38	198.796	十器:391 石器:392	C 2-4-3 を切る。土坑?	29 30
C2.25	C2L18	78×78~60×56	25	198.832	十器:393	C 2-4-3 を切る。土坑?	29 30
C2.26	C2J18	96×82~80×70	65	198.341	十器:394~400	R D 8.2 に切られる	29 30
C2.29	C2L17	85×85~78×75	21	198.905			29 31
C2.30	C2M14	70~57	16	199.011		C 2-3-1 を切る?	29 31
C2.31	C2L14	80~59	18	198.988		C 2-3-0 に切られる?	29 31
C2.32	C2L13	58×36~45×44	50	198.656			29 31
C2.34	C2L15	95~68	13	199.054		C 2-1-8 に切られる	29 31
C2.35	C2L15	64×46~53×35	6	199.063			29
C2.37	C2I15	(100)×74~(85)×65	17	198.914		C 2-6-5 に切られる	29 31
C2.39	C2L16	70~62	16	198.976		C 2-1-9 に切られる	29 29
C2.40	C2J18	64×64~45×45	27	198.724	上器:401~403 石器:404	C 2-4-1 に切れる	29 32
C2.41	C2J18	50×47~37×25	38	198.610	十器:401~403 石器:404	C 2-4-0 を切る	29 32
C2.43	C2L18	74×60~60×45	48	198.592	土器:405~406	C 2-2.5 に切られる	29 32
C2.44	C2M16	64~52	38	198.736		R D 3.1~8.0 を切る	29
C2.45	C2L14	60×58~49×49	39	198.792		C 2-4-6 を切る?	29 32
C2.46	C2L15	75×75~69×64	31	198.871		C 2-4-5 に切られる? C 2-4-7 を切る	29 32
C2.47	C2L15	54×52~40×40	12	199.058		C 2-4-6 に切られる	29 32
C2.48	C2I15	(100)×70~(80)×58	9	198.979		C 2-4-9 を切る。上部に巨縫	29 33
C2.49	C2I15	53×48~37×28	46	198.620		C 2-4-8 に切られる	29 33
C2.50	C2I17	44×40~29×27	56	198.483	十器:407~409	C 2-5-1 と重複。新田小明	29 33
C2.51	C2I17	75×(70)~45×(60)	39	198.648	上器:407~409	C 2-5-0 と重複。新田不明	29 33
C2.52	C2K18	(60)~(42)	60	198.408	十器:410~412	C 2-5-3 を切る。大縫	29 33
C2.53	C2K18	90×75~58×50	95	198.061		C 2-5-2 に切られる	29 33
C2.54	C2I19	73×66~61×54	21	198.732		C 2-5-5.5 に切られる	29 33
C2.55	C2I18	77×72~59×54	97	197.971	十器:413~415	C 2-5-4 を切る。深い	29 33
C2.56	C2I18	(80)×(80)~(55)×(55)	106	198.000	上器:416~418	小柱穴に切られる。深い	29 34
C2.57	C2O15	68×61~50×50	22	198.740		周間に角縫	29
C2.58	C2O16	72×70~54×52	17	198.631		包含層中	29
C2.61	C2P14	84×71~68×56	57	198.583		包含層中。巨縫出土	29 34
C2.62	C2P15	76×71~62×54	10	198.616		包含層中	29
C2.64	C2P17	105×105~88×85	10	198.381	石器:419	包含層中。周間に巨縫。上坑?	29 34
C2.65	C2I15	57×36~36×47	34	198.707		C 2-3-7 を切る	29
C2.67	C2I18	60×(55)~40×35	52	198.421		小柱穴と重複。新田不明	29 34
C2.71	C2I19	97×85~72×64	47	198.458		土坑?	29 35
C2.72	C2I16	100×75~62×54	86	198.174	土器片:420	R D 3.4 と重複。新田不明	29 35
C2.73	C2K17	78×68~66×62	88	199.149	上器:421~422 石器:423	R D 4.0~4.3 に切られる。深い。西半部は区域外。大型	29 35
C2.75	C2G15	98~86	40	199.123		2基の重複? R D 3.2 に切られる	26
C2.76	C2E19	52×45~40×35	42	197.811		土坑?	26
C2.79	C2I18	90×70~75×45	68	198.252		R D 3.0 を切る。土坑?	26
C2.80	C2H15	70×66~55×53	21	198.806		R D 3.6 を切る	26
C2.81	C2F17	(73)×(65)~(55)×(35)	45	198.608		R D 3.4 を切る。R D 3.3 に切られる	26
C2.82	C2G19	61×38~54×42	79	198.141			26
C2.83	C2I16	93×87~73	88	198.140			26
C2.84	C2J20	81×70~37×30	68	197.993			26

小柱穴一覧表

P%.	種	透さ	備考	P%.	種	深さ	備考	P%.	種	透さ	備考	P%.	種	透さ	備考
1	25×19	16		52	27×19	7		103	28×22	9	RA08	154	20×15	6	
2	38×36	11		53	33×29	8		104	(30×30)	(3)	RA08	155	56×53	29	
3	58	19		54	24×19	8		105	46×38	30	RA08	156	40×38	10	
4	58×42	38		55	10×33	7		106	(35)×32	50	RA08	157	29×25	17	
5	(50)	17		56	29×24	14		107	21×21	14		158	38×35	43	
6	40×36	44		57	(44)×38	24	RA08	108	52×38	18		159	21×14	18	
7	24×22	13		58	42×(38)	29	RA08	109	19×16	52		160	34×32	28	
8	23×23	19		59	24	15	RA08	110	48×36	30		161	35×23	28	
9	33×28	不明		60	33	3	RA08	111	35×23	21		162	26	23	
10	34×32	不明		61	47	20	RA08	112	21×(18)	51		163	53×48	28	
11	(11)	20		62	35×30	38	RA08	113	25×23	30		164	43×36	8	
12	(32)	12		63	38×28	46	RA08	114	19×17	9		165	34×25	46	
13	33×28	15		64	28	35	RA08	115	25×25	31		166	30×24	20	
14	24×24	15		65	14×14	3	RA08	116	30×28	57		167	35×32	13	
15	30×25	10		66	40	23	RA08	117	28×25	35		168	50×40	27	
16	54×(50)	25		67	35×27	45	RA08	118	40×(40)	28		169	34×27	16	
17	33×30	13		68	(50)×33	15	RA08	119	45×(50)	25		170	26	11	
18	(45)×36	22		69	20×17	36	RA08	120	(60)	23		171	43×38	30	
19	20×20	10		70	53×52	12	RA08	121	35×(35)	27		172	13×38	16	
20	40×37	28		71	(45)	8	RA08	122	38×38	66		173	35×27	14	
21	22×18	24		72	40×28	25	RA08	123	45×44	39		174	53×44	20	
22	(25)×20	27		73	33×28	55	RA08	124	39×37	32		175	30×27	13	
23	40×(35)	31		74	(45)×34	36	RA08	125	38×(28)	38		176	38×32	27	
24	(26)×24	29		75	25×23	42	RA08	126	(20)	(38)		177	40×33	30	
25	(30)×25	30		76	55	35	RA08	127	33×13	46		178	55×(35)	47	
26	24×21	9		77	47×40	42	RA08	128	44×33	49		179	79×24	37	
27	68×49	21		78	48×45	30	RA08	129	30×24	42		180	(40)×20	52	
28	36×20	4		79	26×22	18	RA08	130	28×22	19		181	45×24	74	
29	35×35	26		80	16×(16)	29	RA08	131	50	28		182	48×44	58	
30	30×30	17		81	(25)×22	31	RA08	132	25×22	30		183	45×38	30	
31	27×16	10		82	(25)	38	RA08	133	40×30	43		184	33×33	40	
32	50×(50)	19		83	(22)×20	47	RA08	134	(35)×26	28		185	42	19	
33	29×25	45		84	41×28	26	RA08	135	70×55	48		186	38×31	17	
34	30×26	25		85	56×(50)	67	RA08	136	36×30	45		187	28×26	20	
35	22×20	8		86	44	31	RA08	137	33×27	27		188	27×26	37	
36	32×22	44		87	32×32	34	RA08	138	60×48	51		189	25×23	59	
37	(60)	21		88	38×31	41	RA08	139	18×18	13		190	45×28	12	
38	45×38	58		89	32×30	44	RA08	140	25×20	43		191	36	12	
39	(50)×40	21		90	20	(15)	RA08	141	35×30	30		192	34×30	32	
40	(30)	28		91	19×15	26	RA08	142	(40)	58		193	45×40	28	
41	30×(28)	37		92	17×14	44	RA08	143	47×44	74		194	24×21	16	
42	(30)	46		93	(50)×50	23	RA08	144	36×33	39		195	31×28	22	
43	42×40	10		94	(30×30)	44	RA08	145	28×27	19		196	25×25	23	
44	45×40	35		95	(40×40)	24	RA08	146	50	16		197	40×38	43	
45	50×40	18		96	21×19	13	RA08	147	48×40	28		198	37×32	21	
46	(25)	9		97	(20×20)	(20)	RA08	148	53×36	11		199	37×34	23	
47	43×34	8		98	(25×25)	(20)	RA08	149	28	12		200	42×33	20	
48	40×28	17		99	22×19	30	RA08	150	(35)×31	16		201	35×30	15	
49	(20)	9		100	(38)×35	44	RA08	151	35×30	18		202	32×31	29	
50	44×35	41		101	57×38	57	RA08	152	30	4		203	27×24	52	
51	58×50	18		102	(60)×48	41	RA08	153	72×52	11					

3. 土坑

土坑として登録したものは80基である。前述のように柱穴と同様な形態及び性格を持つものでも、柱痕跡が認められないもの等は土坑として登録しているが、この判断は厳密なものではない。また、一部墓壙の可能性が高いものもこれに含めた。なお、記述に当たっては、大型の土坑や形態が特殊な土坑及び出土遺物の多い土坑31基については文章、その他のものは観察表で示した（文章記載分も含む）。また、図版は区域毎に組んであるが、記載は通し番号（遺構番号）順である。

RD01土坑（墓壙）（第37図・写真図版36）

遺構 C 2 C25グリッドに位置する。Ⅲ層で褐色土の広がりとして検出された。南側でRA03住居跡と重複し、これを切る。精査中に埋土下部から多数の玉類が出土したことから墓壙と判断した。開口部径169cm×149cm、底部径152cm×136cm、深さ29cmで、平面形は不整な円形を呈する。壁は直立ぎみに立ち上がる。底面はⅢ層からV層を掘り込んでつくられ、ほぼ半坦である。底部の北側に径55×40cm、深さ10cmの副穴がある。埋土はおもに褐色土・にいぶい黄褐色土で構成され、粘板岩質の自然縫が混入する。

遺物（第79図・写真図版79・80） 埋土から土器・石器・玉類などが出土している。石器及び玉類は埋土の下部からの出土で、石器は北側から、玉類は南側からまとまって比較的多く出土している。〈土器〉493～499を掲載した。いずれもⅢ群土器であるが、小破片が多い。〈石器〉500～506は石器で、この内6点は有茎鐵である。なお、506は基部を破損するため形態は不明、507は石錐か。〈石製品〉508～560の53点が出土した。石質は凝灰岩が最も多く49点、ディサイトが3点、安山岩が1点ある。器面は研磨による面取りが施され、直径4～5mmの孔を有する。

時期 出土した土器はいずれも縄文時代中期末葉期のものであるが、石器の形態などから晩期に属する墓壙の可能性が高い。

RD02土坑（第37図・写真図版36）

遺構 C 2 D24グリッドに位置する。Ⅲ層で暗褐色土の広がりとして検出された。開口部径165cm×149cm、底部径143cm×140cm、深さ64cmで、平面形は円形、断面形はフラスコ状を呈する。底面はV層を掘り込んでつくられ、ほぼ半坦である。底部中央や南側に径37cm×32cm、深さ10cmの副穴をもつ。埋土は暗褐色土・にいぶい黄褐色土・褐色土で構成され、粘板岩質の自然縫が混入する。

遺物（第80図・写真図版80） 埋土から土器片と石器が出土している。〈土器〉いずれもⅢ群土器で、561は口縁部が無文となる浅鉢、562～573は深鉢破片である。〈石器〉574は半分を欠損するが、両面凹痕を有する門石である。

時期 出土した遺物から縄文時代中期末葉期の遺構の可能性がある。

RD03土坑（第37図・写真図版36）

遺構 C 2 E21～F21グリッドに位置する。Ⅲ層で褐色土の広がりとして検出された。開口部径137×126cm、底部径148×132cm、深さ62cmで、平面形は円形、断面形はフラスコ状を呈する。底面はV層を掘り込んでつくられ、ほぼ半坦である。底部中央付近に径27cm×25cm、深さ9cmの副穴をもつ。埋土はおもに暗褐色土・褐色土で構成され、粘板岩質の自然縫が混入する。

遺物（第80図・写真図版80・81） 埋土から土器・石器・土器片円盤が出土している。〈土器〉いず

れも小破片である。575～582を掲載した。575は沈線区画による細い無文帯が垂下する。IV群土器の可能性がある。他はIII群上器と考えられる。〈石器〉 583は細長い縦の端部に敲打痕を持つ敲石である。584は周辺部に荒い剥離加工が加えられるが、表面が滑らかであることから砥石とした。〈土製品〉 585～588は土器片円盤で、585・586は部分研磨、587・588は打ち欠きによって整形されている。

時期 出土した遺物から縄文時代中期末葉以降と思われる。

RD04土坑(第44図・写真図版37)

遺構 B 3 X03～04グリッドに位置する。III層で黒褐色の広がりとして検出された。開口部径188cm×172cm、底部径209cm×200cm、深さ125cmで、平面形は梢円形、断面形はフラスク状を呈する。底面はIV層を掘り込んでつくられ、ほぼ平坦である。底部中央に径40cm、深さ12cmの副穴と四方に広がる6本の溝状の施設を作り、埋土は黒褐色・暗褐色・褐色土で構成され、焼上・炭化材が混入する。

遺物(第76・77図・写真図版77・78) 埋土から土器、石器、土器片円盤、石製品が出土している。

〈土器〉 III群柱器が多い。430は三日月状の貼り付けを装飾とするIII3類土器で、破片は大型である。434は小破片であるが、隆帯上の刻みやボタン状の装飾からIV群土器と考えられる。〈石器〉 441は各角が鋭角の石鎌である。〈土製品〉 442～444はいずれも部分研磨によって整形された土器片円盤である。〈土製品〉 445は円盤で、周囲は両面から荒く剥離加工されている。

時期 出土した遺物から縄文時代中期末葉以降と思われる。

RD05土坑(第37図・写真図版37)

遺構 C 2 F23グリッドに位置する。III層で褐色土の広がりとして検出された。埋土の状況から2基の重複の可能性があるほか柱穴の可能性もある。開口部径170cm×110cm、底部径155×90cm、深さ54cmで、平面形は不整な梢円形を呈する。底面はIV層を掘り込んでつくられ、ゆるく湾曲する。埋土はおもに褐色土で構成される。出土遺物はない。

時期 出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

RD06土坑(第38図・写真図版37)

遺構 B 4 Y24～C 2 A24グリッドに位置する。III層でふい黄褐色土の広がりとして検出された。開口部径137cm×122cm、底部径162×155cm、深さ105cmで、平面形は円形、断面形はフラスク状を呈する。底面はIV層を掘り込んでつくられ、ほぼ平坦である。底部に施設はもない。埋土はおもに褐色土と暗褐色土で構成される。

遺物(第81図・写真図版81) 埋土から土器と土器片円盤が出土している。〈土器〉 いざれも埋土の上部からの出土である。589～594はIII群3類土器に近い。595は隆帯上に4個～対の刻み装飾を持ち、IV群土器に近い。過渡的な様相であろうか。〈土製品〉 599は全集研磨、600は打ち欠きによって整形される土器片円盤である。

時期 出土した遺物から縄文時代中期末葉以降と思われる。

RD07土坑(第38図・写真図版37)

遺構 C 2 B24～C 2 C24に位置する。III層～IV層で褐色土の広がりとして検出された。検出面や断面の

状況から上部を削半されている可能性が高い。規模は開口部150×148cm、底部150×145cm、深さ60cmである。平面形は円形、断面形は筒状を呈するが、壁は部分的にオーバーハングし、元来フラスク形であったと考えられる。底面はIV～V層で平坦である。埋土は上部は褐色土、下部は明・黄褐色土が主体となっている。なお、中部には炭化物層を挟む。底面中央南側に32×30cm、深さ11cmの副穴を伴う。

遺物(第81～83図・写真図版81・82) 埋土の中部から土器、石器、土器片円盤が出土している。

〈土器〉 完成品の他大型破片も多い。全体では5kg弱出土している。601～603は隆帯区画による文様が展開するⅢ群土器である。604は沈線に縁取られ判肉彫り的な表現となっている。605は胎土に植物纖維を多量に含むⅡ群土器である。〈石器〉 607～614を掲載した。いずれも礫石器で、磨面と敲打痕を合わせ持つものが多い。614は顯著な加工痕は持たないが、石刀・石棒の類であろうか。〈土製品〉 土器片円盤が6点である。616～618は全面研磨、619・620は部分研磨によって整形されている。

時期 出土した土器の特徴から縄文時代中期末葉期の土坑と考えられる。

RD08土坑(第33図・写真図版38)

造構 B 3 W01～W02グリッドに位置する。Ⅲ層下位で暗褐色土の広がりとして検出された。開口部径142cm×119cm、底部径84cm×70cm、深さ34cmで、平面形はやや方形がかる円形を呈する。底面はⅢ層を掘り込んでつくられ、ほぼ平坦である。埋土はおもに暗褐色土で構成される。

遺物(第77図・写真図版78) 埋土から土器片が出土している。〈土器〉 446～448を掲載した。小破片であるが447・448はⅡ群土器と考えられる。

時期 出土量が少なく詳細は不明であるが、出土した遺物から縄文時代前期の造構の可能性がある。

RD09土坑(第33図・写真図版38)

造構 B 2 W25～B 3 W01グリッドに位置する。Ⅲ層下位で褐色土と暗褐色土の広がりとして検出された。開口部径255cm×250cm、底部径238cm×218cm、深さ130cmで、平面形は円形、断面形はピーカー状を呈する。底部はⅤ層中で、ほぼ平坦である。埋土はおもに上部が暗褐色土、中部から下部は褐色土・黄褐色土で構成される。

遺物(第77図・写真図版78・79) 埋土の上部と中部から土器、石器、土器片円盤が出土している。

〈土器〉 Ⅲ群3類土器が主体である。449～461を掲載した。449～451は文様が隆帯、452～458は沈線によって描かれている。459は上部が輪状の把手となる注口上器である。〈石器〉 462は粗製の石皿、463は両端に敲打痕を持つ小型の蔽石、464は凹石である。465は破損部にアスファルトが付着している。〈石製品〉 土器片円盤でいずれも打ち欠きによって整形されている。

時期 出土した遺物から縄文時代中期末葉期の造構と思われる。

RD13土坑(第33図・写真図版38)

造構 B 3 U01～V01グリッドに位置する。Ⅲ層で褐色土の広がりとして検出された。開口部径90cm×85cm、底部径105cm×100cm、深さ90cmで、平面形は円形、断面形はフラスク状を呈する。底面はⅦ層まで掘り込んでつくられ、平坦である。埋土はおもに暗褐色土・褐色土で構成される。

遺物(第78図・写真図版79) 埋土から土器片が数点出土している。469は沈線文を持つⅢ群土器である。

時期 出土した遺物が少なく詳細は不明であるが、縄文時代中期末葉の造構の可能性がある。

RD14土坑(第34図・写真図版39)

遺構 B 2 X24～Y24グリッドに位置する。Ⅲ層で黒褐色土と褐色土の広がりとして検出された。開口部径290cm×215cm、底部径225cm×115cm、深さ60cmで、平面形は不整形を呈し、断面形は皿状を呈する。平面形が重なことや埋土の様子から複数の土坑の重複も考えられる。底面はⅦ層まで掘り込んでつくられ、やや凹凸がある。おもに黄褐色土・褐色土で構成される。

遺物(第78図・写真図版79) 埋土から土器片が出土している。470・471はⅣ群土器と考えられる。

時期 出土した遺物が少なく詳細は不明であるが、縄文時代中期末葉以降と思われる。

RD19土坑(第38図・写真図版39)

遺構 C 2 C20～C 2 D20グリッドに位置する。Ⅳ～V層で暗褐～黄褐色土の広がりとして検出された。検出面や断面形から上部を削平されているものと考えられる。開口部122×118cm、底部170×156cm、深さ53cmで、平面形は円形、断面形はフラスコ形を呈する。埋土は褐色土や黄褐色土が主体で構成されるが、中部には炭化物を多量に含む層を挟む。底面はVI～VII層で、平坦である。

遺物(第83図・写真図版82・83) 埋土から上器と石器が出上している。〈土器〉 4.7kgが出土した。Ⅲ群とⅣ群上器である。621は沈線区画の文様に刺突による装飾が付く、Ⅲ群からⅣ群への過渡期の土器と考えられる。630はボタン状の貼り付け装飾を持つⅣ群上器である。〈石器〉 632は両面に磨痕、片端に敲打痕が観察される礫石器である。

時期 出上した土器の特徴から縄文時代中期末葉期～後期初頭期の遺構であろう。

RD20土坑(第34図・写真図版39)

遺構 B 2 V23～B 2 W23グリッドに位置する。Ⅲ層で褐色土の広がりとして検出された。南側でRD23土坑を切る。北半部は査定区域外にかかるほか、検出面や断面形から上部をいくぶん削平されているものと考えられる。開口部は直径150cm前後、底部は230cm前後の円形で、断面形はフラスコ形を呈する。埋土は褐色土や暗褐色土が主体となるが、版築状の水平な堆積で中部には現地性と考えられる焼土の薄層がみられることから、人為的な埋没と考えられる。なお、焼土形成面付近では各土層はしまりを持ち、何かしらの行為が予想される。底面はⅦ層で、平坦である。

遺物(第78・79図・写真図版79) 埋土から土器と石器が出土している。〈土器〉 3 kg弱が出土した。ほとんどがⅢ群土器の破片である。475は山形口縁で、外外面に低い隆帯による三日月形の装飾を持つ。483は胴中央に隆帯による区画を持ち、同様の隆帯が沈線によって区画された無文部に延びる。487は高坏であろうか。488は刺突列が文様を描くⅡ群上器である。〈石器〉 489は磨面と敲打痕を表裏両面に持つ礫石器、490は片面からの刃部加工を有する不定形石器である。

時期 出土した土器の特徴から、縄文時代中期末葉期の土坑と考えられる。

RD21土坑(第35図・写真図版40)

遺構 B 3 T02～B 3 U02グリッドに位置する。Ⅲ層面で褐色土～暗褐色土の広がりとして検出された。RA06住居跡とRD54土坑を切り、B3-14・15柱穴に切られる。重複のため詳細は不明であるが、残存部から推定すると、開口部径200cm前後、底部径160cm前後の不整な円形を呈するものと考えられる。壁は外傾して立ち上がる。埋土は褐色土及び黄褐色土が主体となって構成される。底面はV層で、おおむね平坦である。

なお、中央部に直径約40cm、深さ約50cmの副穴を伴う。出土遺物はない。

時期 出土遺物はなく、詳細は不明であるが、重複関係から縄文時代中期末葉の遺構の可能性がある。

RD22土坑(第38図・写真図版40)

遺構 C2 G24～C2 H24グリッドに位置する。IV～V層で褐色～黄褐色土の広がりとして検出された。上部を削平されているほか、南側は現道によって破壊されている。また、重複するC2-7・12柱穴に切られる。開口部径130cm前後、底部径132cm前後の円形を呈するものと考えられ、断面形はフ拉斯コ形を呈する。埋土は上部が褐色土、下部が暗褐色土が主体となって構成される。底面はVI～VII層で、平坦である。

遺物(第38・39図・写真図版83) 埋土から上器と石器が出上している。〈土器〉 約3.5kg出土した。633～639を掲載した。いずれもⅢ群3類土器で、多くは沈線区画による文様を持つ。633はひねりを持った4単位の環状突起が付く。〈石器〉 640は石錐、643は石錐、他は不定形石器に分類した。

時期 出上した上器の特徴から、縄文時代中期末葉期の土坑と考えられる。

RD30土坑(第39図・写真図版41)

遺構 2 CJ20グリッドに位置する。III～IV層で褐色土の広がりとして検出された。検出面及び断面形から上部を削平されている可能性がある。開口部102×88cm、底部83×77cm、深さ23cmの歪な円形を呈し、壁は外傾して立ち上がる。埋土は褐色土の炭層で、炭化物と焼上粒が僅かに含まれる。底面はIV～V層で、中央部が緩くくぼむ。なお、底面中央やや西側から徑22cm、深さ50cmの柱穴状の小土坑が検出されているが、これが当土坑に伴うものか先行する遺構であるかは不明である。

遺物(第84図・写真図版84) 埋土から石器、底面の直上から上器が出上している。〈土器〉 654は下半部を欠く深鉢で、隆帯と沈線によって器面が区画される。隆帯には3個一对の刻み装飾を持ち、IV群土器とした。〈石器〉 655は石錐、656は主に片面からの刃部加工を持つ不定形石器、657は両端に敲打痕跡を持つ敲石である。

時期 出土した土器の特徴から、縄文時代後期初頭期の土坑と考えられる。

RD32土坑(第39図・写真図版42)

遺構 C2 I17グリッドに位置する。III～IV層で褐色土・暗褐色土の広がりとして検出された。検出面及び断面形から上部を削平されているものと考えられる。開口部直径90cm、底部80×72cm、深さ37cmで、平面形は円形、断面形は筒状を呈する。なお、壁は僅かにオーバーハングしている部分もあり、元来フ拉斯コ型土坑であった可能性がある。埋土は褐色土が主体となって構成されるが、中部には炭化した堅果類(栗)がレンズ状に堆積している。底面はVI～VII層で、おおむね平坦である。なお、埋上下部から幅25cm大の角礫が検出されている。

遺物(第85図・写真図版84) 埋土から石器と炭化栗が出土している。〈石器〉 664は磨石で、使用面以外の部分にはアスファルト状の物質が付着している。665～667は石錐である。〈堅果類〉 約360gが出土している。すべて栗で、焼けた際に萎縮したものの中型のものが多い。

時期 時期を判断できる遺物を欠き、詳細は不明である。周辺の遺構の時期から推定して、縄文時代中期末葉期から後期初頭期の上坑の可能性がある。

RD33土坑(第39図・写真図版42)

遺構 C 2 II6グリッドに位置する。III～IV層で褐色土の広がりとして検出された。南側でC2-83柱穴と重複しこれを切る。開口部111×100cm、底部132×121cm、深さ70cmで、平面形は歪な円形、断面形はラスコ形を呈する。埋土は全体に褐色土が主体となって構成されている。底面はVII層でおおむね平坦である。なお、底面中央に直径40×45cm、深さ14cmの窓穴を作り。

遺物(第85図・写真図版84) 埋土から土器と上器片円盤が出土している。〈上器〉 総量では2.6kgが出土しているがいずれも小破片である。668～674のⅢ群3類上器を掲載した。〈土製品〉 いずれも周開は打ち欠きによって整形されている。

時期 出土した土器の特徴から縄文時代中期末葉期の土坑と考えられる。

RD34土坑(第39図・写真図版42)

遺構 C 2 J16グリッドに位置する。III～IV層で褐色土の広がりとして検出された。検出面及び断面の状況から、上部を削平されているものと考えられる。開口部115×80cm、底部85×60cm、深さ74cmの不整な梢円形を呈する。壁はいずれもいくぶん外傾して立ち上がる。埋土は上部が褐色土、下部は暗褐色土が主体となって構成される。底面はVI～VII層で、おおむね平坦である。

遺物(第85図・写真図版84) 埋土から土器が約1.3kg出土している。〈上器〉 677・678の2点のみを掲載した。677は沈線区画されたC字状の繩文帯が展開し、678は太く浅い沈線による文様を持つ。いずれもⅢ群2類土器である。

時期 出土した土器の特徴から縄文時代中期後葉から末葉の土坑と考えられる。

RD37土坑(第40図・写真図版43)

遺構 C 2 G16～C 2 H16グリッドに位置する。IV層で褐色土の広がりとして検出された。検出面及び断面形から上部を削平されているものと考えられる。開口部167×158cm、159×150cm、深さ53cmで、平面形は不整な円形、断面形はラスコ形を呈する。埋土は褐色土と黄褐色土が主体となって構成される。底面はVI～VII層で、おおむね平坦である。

遺物(第85図・写真図版85) 埋土から土器と石器が出土している。〈土器〉 いずれもⅢ群土器の小破片である。685～687を掲載した。685・687は沈線による文様を持つ。〈石器〉 688は鋸歯状の刃部を持つ不定形石器である。689は全体に加工が及ぶ石錐である。

時期 出土した土器の特徴から、縄文時代中期末葉の土坑の可能性がある。

RD44土坑(第41図・写真図版44)

遺構 C 2 H17～C 2 I17グリッドに位置する。III層で褐色土の広がりとして検出された。柱穴状小土坑4基に切られる。開口部138×123cm、底部165×148cm、深さ99cmで、平面形は円形、断面形はラスコ形を呈する。埋土は全体に褐色土が主体となって構成されている。底面はVII層で、おおむね平坦である。

遺物(第86図・写真図版85) 埋土から土器と石器が出土している。〈土器〉 いずれもⅢ群土器の小破片である。〈石器〉 715・716は石錐、717は刃部を欠損する石錐、718・719は縁辺に僅かな加工痕を持つ剥片である。

時期 出土した土器の特徴から、縄文時代中期末葉の土坑の可能性がある。

RD45土坑(第41図・写真図版45)

遺構 C 2 H19～C 2 H20グリッドに位置する。IV～V層でにぶい黄褐色土の広がりとして検出された。検出面及び断面形から上部を削平されているものと考えられる。開口部182×155cm、底部175×158cm、深さ112cmで、平面形は歪な楕円形、断面形はルーズなフラスコ形を呈する。埋土は上部はにぶい黄褐色土、中部は褐色土、下部は黄・明褐色土で構成される。底面は埴層で、全体に亜角礫が露出しているがおおむね平坦である。

遺物(第87図・写真図版85・86) 埋土から土器と石器が出土している。
〈土器〉 約5kg出土した。ほとんどのがⅢ群土器である。720はひねりを持つ環状突起が付く。721～727は沈線区画の文様を持つⅢ群3類土器である。731釣り手状の突起が側面につく壺で、Ⅲ群2類土器である。
〈石器〉 732は荒く大きな剥離を上下両端に持ち、楔状石器とした。733・734は磨石で、前者は一部に敲打痕を合わせ持つ。

〈土製品〉 735は周囲を部分的に研磨された土器片円盤である。

時期 出土した土器の特徴から縄文時代中期末葉の土坑と考えられる。

RD46土坑(第42図・写真図版45)

遺構 C 2 E19～C 2 F19グリッドに位置する。IV～V層で黄褐色土の広がりとして検出された。南側の一部は調査区外にかかるほか、東側でRD47土坑と重複するが断面の観察ではこれを切るように見えた。検出面及び断面形から、上部の大半を削平されているものと考えられる。開口部255×250cm、底部222×214cm、深さ74cmの大型の土坑である。平面形は円形を呈し、壁は内湾している部分が多く元来フラスコ形の上坑であったと考えられる。埋土は褐色土・黄褐色土が主体となって構成される。底面はVI～VII層で、おおむね平坦である。

遺物(第89図・写真図版87) 埋土から土器と土器片円盤が出土している。
〈土器〉 約2kgが出土している。764～770を掲載した。いずれもⅢ群3類土器の中に含まれるものと考えられる。765・766は刺突列による装飾を持つ。769は上部に立体的な突起を持つ注口部である。
〈土製品〉 771は打ち欠き、772は部分的な研磨によって整形されている。

時期 出土した土器の特徴から縄文時代中期末葉期の土坑と考えられる。

RD47土坑(第42図・写真図版45)

遺構 C 2 G18～C 2 G19グリッドに位置する。IV～VI層でにぶい黄褐色土の広がりとして検出された。西側でRD46土坑と重複し、断面の観察ではこれに切られているように見えた。また、東側ではRD42と重複する位置にあるが新旧関係は不明である。検出面及び断面形から上部を削平されている。開口部約140cm、底部約130cmの歪な円形を呈し、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋土は褐色土と黄褐色土が主体で構成されている。底面はVII層でおおむね平坦である。なお、底面のはば中央に50×37cm、深さ14cmの副穴を伴う。

遺物(第89図・写真図版87・88) 埋土から土器約800gが出土している。
〈土器〉 773～776を掲載した。773は隆帯による装飾が施された半粗製の深鉢で、山形突起(山縁)の下部には円孔を持つ。776も同様である。これらはⅢ群土器とⅣ群土器の過渡期の土器群と考えられるが、隆帯上の刻み装飾を持たないことからⅢ群土器の中に含めた。774・775は隆帯による区画文である。

時期 出土した土器の特徴から、縄文時代中期末葉期～後期初頭期の土坑と考えられる。

RD48土坑(第44図・写真図版45版)

遺構 D 2 J03グリッドに位置する。Ⅲ層相当面で黒褐色土の広がりとして検出された。検出面から、上部は削平されているものと考えられる。なお、出土遺物から当土坑は平安時代の遺構であるが、上部を破壊された整穴住居跡の可能性もある。開口部56×50cm、底部40×35cm、深さ32cmで、平面形は不整な円形を呈する。壁は各部とも僅かに外傾して立ち上がる。埋土は黒褐色土が主体をなしている。底面はⅢ層で、中央部は緩く斜む。

遺物(第92図・写真図版90) 埋土から土器と石器が出土している。〈土器〉 土師器の壺形土器で、いずれも器面の摩耗が著しい。大型のものはない。870・871はロクロによって成形され、他はロクロを用いていない。〈石器〉 あまり顕著なものではないが、2面に磨痕がみられる磨石である。

時期 出土した土器の特徴から、平安時代(9~10世紀)の遺構と考えられる。なお、当土坑は上野平ら遺跡における縄文時代以外の唯一の遺構である。

RD49土坑(第41図・写真図版46)

遺構 C 2 H17~C 2 H18グリッドに位置する。Ⅲ~Ⅳ層でにぶい黄褐色土の広がりとして検出された。北側でRD44と重複するが、新旧関係は明確ではない。開口部145×131cm、底部115×112cm、深さ48cmで、平面形は不整な橢円形を呈する。壁は外傾して立ち上がり、断面形はルーズなU字状である。埋土は、にぶい黄褐色土及び褐色土が主体となって構成されている。底面はⅥ層でおおむね平坦である。

遺物(第88図・写真図版86~87) 埋土から土器と石器が出土している。〈土器〉 Ⅲ群土器とⅣ群土器がある。736~741はⅣ群土器とした。隆帶と沈線による文様を持ち、ボタン状の貼り付け装飾が付くものもある。〈石器〉 750は不定形石器、751は細部加工を有する剝片である。

時期 出土した土器の特徴から縄文時代後期初頭期の土坑と考えられる。

RD50土坑(第41図・写真図版46)

遺構 C 2 G16~C 2 G17グリッドに位置する。Ⅲ~Ⅳ層でにぶい黄褐色土・褐色土の広がりとして検出された。検出面から考えて、上部を削平されている可能性がある。C2-81柱穴、RD85土坑及び柱穴状の小土坑3基に切られる。また、西側は調査区域外にかかる。推定される規模は開口部・底部約180cm、深さ109cmで、平面形は円形を呈するものと考えられる。壁はほぼ垂直に立ち上がるが一部オーバーハングする部分もあり、元来フ拉斯コ形の土坑であった可能性がある。埋土は上部が褐色土、下部は黄褐色土が主体となって構成されている。底面はⅥ~Ⅸ層で、おおむね平坦である。

遺物(第88図・写真図版87) 埋土から土器と石器が出土している。〈土器〉 5.2kgが出土している。Ⅲ群土器とⅣ群土器があるが、Ⅲ群土器が量も多く破片も大きい。752~756は隆帶区画のⅢ群3類土器である。753はⅣ群土器か。〈石器〉 762は磨面と敲打痕を合わせ持つ磨石、763は不定形石器である。

時期 出土した土器の特徴から縄文時代中期末葉期の土坑と考えられる。

RD51土坑(第42図・写真図版46)

遺構 C 2 G17~C 2 H17グリッドに位置する。Ⅲ~Ⅳ層で暗褐色土・にぶい黄褐色土の広がりとして検出された。南側でRD60土坑を切り、柱穴状小土坑4個に切られる。開口部125×101cm、底部143×141cm、深さ111cmで、平面形は歪な円形、断面形はフ拉斯コ形を呈する。埋土は上部がにぶい黄褐色土、下部は褐

色土が主体となって構成される。底面はⅤ層で、おおむね平坦である。

遺物(第90図・写真図版88) 墓土から土器と石器が出土している。〈土器〉 約3.5kg出土しているが、777以外は小破片である。777は隆帯による菱鉢が施された山形口縁を持ち、胴部文様は隆帯と沈線によって縁取られる。Ⅲ群上器とⅣ群上器の過渡的なものか。隆帯上の刻み装飾を持たないことからⅢ群土器とした。〈石器〉 782は石鏡、783は不定形石器である。

時期 出土した土器の特徴から、縄文時代中期末葉期から後期初頭の土坑と考えられる。

RD55土坑(第35図・写真図版47)

造構 B 3 S05～B 3 T06グリッドに位置する。Ⅲ～Ⅳ層で暗褐色土・褐色土の広がりとして検出された。B3-6・26・13・19柱穴と重複しこれに切られる。検出面及び断面形から、上部を削平されているものと考えられる。開口部268×225cm、底部224×195cm、深さ67cmの楕円形を呈する。壁は外傾して立ち上がるが、一部内溝気味の部分もあり、元来フ拉斯コ形の土坑であった可能性がある。底面はV～VI層で幅10～20cm、深さ6～10cmの溝が十文字に掘られ、この中心部に52×46cm、深さ28cm、東側に45×27cm、深さ32cm、西側に35×23cm、深さ63cmの3個の副穴を伴う。

遺物(第92図・写真図版90) 土器小片が出土した。867は沈線区画のⅢ群3類土器である。

時期 出土遺物がなく詳細は不明であるが、柱穴との重複状況から縄文時代後期初頭以前の土坑である。

RD86土坑(第44図・写真図版51)

造構 C 2 T10グリッドに位置する。II層で礫群が検出されたことにより、造構の存在を確認した。開口部92×75cm、底部74×64cm、深さ31cmの不整な円形を呈する。壁は明確に把握できなかった。埋土は暗褐色土が主体をなし、検出面では北側に10～30cm大の角礫及び亜角礫十数個が集中する。底面はIII層で中央が緩く窪む。小規模なことや礫を根固め石を見た場合、柱穴の可能性もあるが、この西側約7mから検出されたRD87も同様に礫を伴うことから土坑として扱った。

遺物(第92図・写真図版89) 造構としての認識が遅れたために周辺部からの出土遺物が混入している。〈土器〉 854～859を掲載した。854～858はⅢ群3類土器で、沈線による文様を持つものが多い。なお、845は沈線の両側が微隆起状となっている。859は半截竹管による刺突列と沈線が文様を構成するⅡ群土器である。〈石器〉 860・861いずれも石鏡である。

時期 前述のとおり遺物からは時期を決定できないが、縄文時代中期末葉期以降の土坑である。

RD87土坑(第44図・写真図版51)

造構 C 2 P11グリッドに位置する。III層で礫が露出する暗褐色土の広がりとして検出された。開口部70×62cm、底部60×48cm、深さ20cmで、平面形は円形、断面形は筒状を呈する。土坑内には径40cm大の巨礫を中心にして、周囲及び底面に10～30cm大の亜角礫が充填されていた。これらの礫には使用痕・火熱痕とも認められない。埋土は礫の上部に暗褐色土が僅かに堆積するだけである。底面はV層で、中央部が緩く窪む。

遺物(第92図・写真図版90) 墓土から土器片が出土している。〈上器〉 いずれも沈線区画によるⅢ群3類土器である。

時期 出土遺物が少なく詳細は不明であるが、縄文時代中期末葉期以降の土坑と考えられる。

土壤觀察表

遺構名	位置	平面形	規模	深さ	出土遺物	参考	回復方略
RD01	CCE25	不整円形	169×155~154×112	29	土器:493~499 石器:500~507 石製品(玉):508~560	周辺が石頭切欠、轟落？	37 36
RD02	CSD24	円形	166×146~150×136	65	土器:561~573 石器:574	プラスコ 壁面削除	37 36
RD03	CCE21	円形	135×133~145×138	65	土器:575~581 石器:583~584 円盤:585~588	プラスコ 壁面削除	37 36
RD04	B3X04	円形	188×172~208×200	25	土器:430~440 石器:441 石剣:444~446 石刀:445	プラスコ 剣穴+溝 6本 墓上標識柱	33 37
RD05	CCE23	不整円形	170×160~155×92	14		他遺構との関係？	37 37
RD06	CA24	不整円形	137×132~161×155	14	土器:585~587 円盤:589~600	プラスコ 地上 1 段版塗装	38 37
RD07	CB24	円形	150×148~150×115	60	土器:401~406 石器:607~614 円盤:615~620	プラスコ 墓上山形に炭化物層	38 37
RD08	B3W01	不整円形	142×128~83×70	38	土器:446~448	前期？	33 38
RD09	B3W25	円形	265×245~238×218	13	土器:449~461 石器:462~465 円盤:466~468	碑丸形？ 大型	33 38
RD12	B3E11	小整円形	82×82~77×64	18	土器:492	小型	36 38
RD13	B3U01	円形	90~90×106×98	69	土器:469	プラスコ 墓上中部に埋	33 38
RD14	B3X24	不整形	(260)×(210)×(225)×116	58	土器:470~471	複数遺構の範囲？	34 39
RD16	B3X24	不整円形	(160)×(160)×(160)×116	49	土器:472~474	R.D.1を切る	34 39
RD19	CCE20	円形	142×128~170×156	53	土器:621~631 石器:632	プラスコ 墓上下部から巨礫	39 39
RD20	B3V23	円形	150×---	60	土器:475~488 石器:489~490	プラスコ R.D.2.3を切る 墓上標識柱	34 39
RD21	B3T02	円形	130×---	83		底面削除 R.D.4~B.3~5に切られる	35 40
RD22	C3G24	円形	130×---	83		プラスコ C.2~7・1.2に切られる	38 40
RD23	B3W23	円形	(80)×(70)---	14		R.D.2.0に切られる	34 40
RD24	B3X23	椭円形	74×61~62×51	9		小型	34 39
RD25	B3U01	円形？	94~80	14		小型	35 40
RD26	C3B22	椭円形	72×48~65×42	15		小型	38 40
RD27	C3B21	小整円形	60×45~44×38	20	土器:646~647	小塊	38 41
RD28	C3L15	不整円形	125×120~90×82	38	土器:646~647		39 41
RD29	C3G14	小整円形	95~95	50	土器:648~650 石器:651~652 円盤:653	プラスコ？	39 41
RD30	C2D20	不整円形	102×88~85×77	23	土器:654~655 石器:656~656	下部に柱穴&小孔？ 切る？	39 41
RD31	C3M16	不整円形	105×85~95×75	29	土器:658~662 石器:663	柱穴？ R.D.8.0を切る。C.2~4に切られる	39 42
RD32	C3L17	円形	90~90×80~72	37	石器:664~667 花崗岩	成化樂レジン北の施標、下部に上塗	39 42
RD33	C3L16	不整円形	112×100~131×121	70	土器:668~674 円盤:675~676	プラスコ 壁面削除、C.2~3を切る	39 42
RD34	C3L16	椭円形	115×80~85×60	71	土器:677~678		39 42
RD35	C3K15	椭円形	98×85~82×72	14			40 43
RD36	C3N17	椭円形	120×96~107×85	36	土器:683 石器:684	包含層付 小柱穴に切られる	40 43
RD37	C3G16	不整円形	167×158~150×150	53	土器:685~687 石器:688~689	プラスコ 小柱穴に切られる	40 43
RD40	C3K17	不整円形	(110)×95~(80)×76	40	土器:690~691	RD.3 C.2~7を切る 小柱穴に切られる	40 43
RD41	C3L18	不整円形	135×115~120×103	60	土器:692~697 石器:698~703 円盤:704~705	小柱穴に切られる	40 44
RD42	C3G18	円形？	105~80	25	土器:704~706	底面削除	40 44
RD43	C3K17	円形	(112)~(95)	27	土器:707~709 石器:715~719	RD.4~C.2~7に切られる	40 44
RD44	C3H17	円形	138×123~165×148	99	土器:711~713 石器:715~719	プラスコ 小柱穴に切られる	41 44
RD45	C3H19	椭円形	182×135~175×158	112	土器:720~731 石器:732~734 円盤:735	プラスコ？ RD.47と重複 新？	41 45
RD46	C3F19	円形	295×250~222×214	73	土器:764~770 円盤:771~772	プラスコ、RD.46と重複 古？	42 45
RD47	C3G18	不整円形	140~130	83	土器:773~776		42 45

遺構名	位置	平面形	深さ	出土遺物	備考	測量員
RD48 D2003	不整円形	56×50-90×35	32	土器：868-873 石器：874	住居の残骸？ 平生時代	44 45
RD49 C2H17	不整椭円形	115×131-115×112	48	土器：736-749 石器：750-751	RD 4-4と隣接。新旧？	41 46
R050 C2G16	円形？	(180)	98	土器：752-761 石器：762-763	フラスコ C 2-8-1・RD 8-5に切られる	41 46
R051 C2G17	不整円形	125×101-143×141	11	土器：777-781 石器：782-783	フラスコ RD 6-0を切る	42 46
R052 C2H18	円形？	160×(90)-90×(85)	37	土器：784-788 石器：789	フラスコ？ C 2-7-9を切る。複数	42 46
R053 B2T25	円形？	105×- * 90×-	12		RD 7-0と重複 新旧？	35 47
R054 B2T01	不整円形	(180)×(90)×(85)	58	土器：492	RD 2-1に切られる	35 47
R055 B2S05	円形	268×225-229×185	67		フラスコ？ 底面凹凸2-溝4 K3 6-13-29に切られる	35 47
R056 C2H19	不整円形	115×(71)-152×50	38	土器：798-797 石器：798	C 2-8-2に切られる	43 48
RD47 C2013	不整形	(180)×(60)-(180)×(10)	89	七器：798-824 石器：825-833	包含層中 底数の退屈の重複。黒陶人頭などの重複。急面に擦	43 48
RD58 C2B01	不整円形	70×65-60×50	21	土器：641-645	C 3-1に切られる。C 3-7を切る	38 48
RD59 C2B03	不整円形	68×(65)-54×(48)	27		C 3-1-4 * 1-6に切られる。柱穴？	38 48
RD60 C2G17	不整円形？	(117)-680	40		RD 5-1に切られる	42 49
R061 B2P04	椭円形	115×90-105×84	40		柱穴？ R A 0-4と重複 新旧？	36 49
R062 B2Q02	椭円形	125×92-110×80	33		柱穴？ R A 0-4と重複 新旧？	36 49
R063 B2U04	不整円形	82×- 65×-	7		柱穴？ B 3-3に切られる	36
R064 B2U03	椭円形？	94×- 70×-	18		B 3-1-6と重複 新旧？	36
RD65 B2T02	不整円形？	100×82-85×63	15		柱穴？ B 3-1-5を切る	36
R066 B2U04	不整円形	(80)×57-(60)×34	33		B 3-2と重複 新旧？	36
RD67 B2V04	不整円形	80×60-56×50	30		RD 6-8に切られる	36
R068 B2W04	不整円形	83×70-65×58	15		RD 6-7を切る	36
RD69 B2W04	不整椭円形	68×57-40×37	23		柱穴？ RD 6-8と隣接 新旧？	36
R070 B2U05	椭円形？	95×- 80×-	12		底面凹凸？ RD 5-3-7-1と重複 新旧？	35
R071 B2T01	椭円形	79×- 65×-	20		RD 7-0と重複 新旧？	35
R072 B2W02	不整円形	76×75-60×35	17		柱穴？	36
R073 B2V03	不整円形	115×108-96×90	27		柱穴？	36
R074 C2D03	不整椭円形	90×- 80×-	22		RD 7-5に切られる？	38
R075 C2A03	不整円形？	70×- 59×-	33		柱穴？ C 3-2に切られる	38
RD76 B2V01	不整椭円形	83×76-63×57	27		柱穴？	36
R077 B2V01	不整椭円形	85×73-74×60	14			—
RD78 C2M13	不整円形	153×115-140×100	36	土器：834-857 石器：838	複数の遺構の重複？	43 49
RD79 C2P16	不整椭円形	120×100-102×75	72	土器：839-849 石器：850-852	2基の重複？ 柱穴に擦	39 50
RD80 C2M17	不整円形	125×112-98×88	61	土器：679-681 石器：682	RD 3-1・C 2-4-4に切られる	44 42
R081 C2L17	椭円形	100×82-88×75	11		C 2-2-6を切る。米團圓不規	44 50
R082 C2L17	椭円形？	110×90-85×73	45		下端崩壊？	44 50
R083 C2L19	円形	93×85-80×80	50		C 2-8-3に切られる	39 42
R084 C2L16	椭円形？	90×- 75×-	20		RD 5-0を切る。小柱穴に切られる	41 51
R085 C2G16	椭円形	103×78-73×65	29		縦溝縫 包含層中	44 51
R086 C2T10	椭円形？	92×75-71×61	31	上器：854-859 石器：860-861	横溝縫 細石	44 51
R087 C2P1	円形	70×62-60×48	20	上器：862-866	—	—

4. 焼土遺構

7基(箇所)を登録した。この内RF02～RF04の3基は埋設土器を伴うほか、周囲には柱穴状の小土坑が多数分布しており、住居跡の炉であった可能性が高い。しかし、重複や擾乱のためプランを想定できなかったため、焼土遺構として扱った。

RF01焼土遺構(第45図・写真図版51)

遺構 C 2 T12～C 2 U14グリッドに位置する。この部分は包含層中にある、包含層精査時のグリッドではD II・III区及びE II・III区にあたる。包含層中部から検出された。長さ4.2m、最大幅2.5mの不整形の範囲に広がる焼土層である。上面は周囲に堆積する層と同じく緩く南東に傾斜している。焼土層は最大40cmで、層中には土器、石器、焼骨等の遺物を包含している。これらの遺物は包含層からの出土として取り上げている。なお、層中には炭化物も含まれることから、当地に廃棄された異地性の焼土と判断した。

時期 層内に包含される土器の特徴から、縄文時代中期末葉期の遺構と考えられる。

RF02焼土遺構(第45図・写真図版52)

遺構 C 2 III7グリッドに位置する。III～IV層で検出された。当遺構の南西約1.3mにはRF03焼土遺構、北西約1.3mにはRZ01埋設土器がある。位置的に重複あるいは同時存在の可能性があるが、削平により新旧関係は不明である。45×40cm、深さ12cmの掘り方に2個分の土器を正位に埋置してある。周囲には最大3cmの厚さで焼土層が形成されていた。前述のとおり堅穴住居跡に伴う炉の可能性が高い。

遺物(第93図・写真図版90) 埋設土器とその内部から出土した石器がある。
〈土器〉 検出時の観察では2個分の土器が埋設されていたが、削平によってほとんど破碎されており、875と876のみを掲載した。875は沈線による文様を持つⅢ群3類土器である。
〈石器〉 877は細部加工を一部に持つ剝片である。

時期 埋設されている土器の特徴から、縄文時代中期末葉期の遺構と考えられる。

RF03焼土遺構(第45図・写真図版52)

遺構 C 2 G18グリッドに位置する。III～IV層で検出された。当遺構の南東約1.3mにはRF03焼土遺構、北約50cmにはRZ01埋設土器がある。位置的に重複あるいは同時存在の可能性があるが、削平により新旧関係は不明である。直径約40cm、深さ10cmの掘り方に土器を正位に埋置してある。周囲には45×40cmの範囲に最大5cmの厚さで焼土層が形成されていた。前述のとおり堅穴住居跡に伴う炉の可能性が高い。

遺物(第93図・写真図版90) 〈土器〉 878・879を掲載した。878は沈線による文様を持つⅢ群3類土器で、879も同一個体と考えられる。

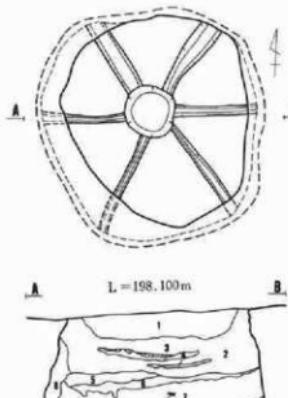
時期 埋設されている土器の特徴から、縄文時代中期末葉期の遺構と考えられる。

RF04焼土遺構(第46図・写真図版52)

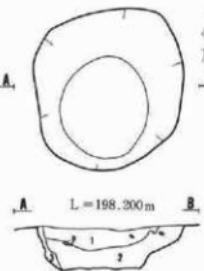
遺構 C 2 I21グリッドに位置する。III～IV層で検出された。周囲は削平と農道による擾乱を受けており、これに柱穴状土坑が重複するため、遺構の残存状態は良くない。20×10cmの範囲に最大5cmの厚さで焼土が分布し、土器は10cmほどの掘り方に正位に埋置されていたほか周囲に散乱していた。

遺物(第93図・写真図版90) 〈土器〉 880～882を掲載した。同一個体で、底面に鉢葉痕を持つ。

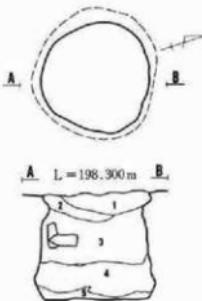
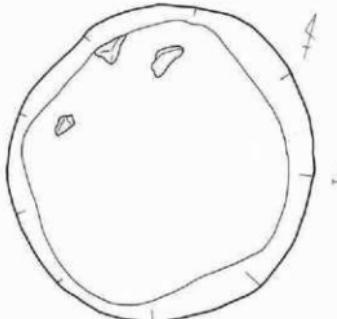
時期 詳細は不明であるが、縄文時代中期末葉期から後期初頭期の可能性がある。



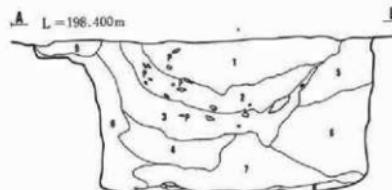
- RD04**
1. 10YR2/3 黄褐色 黄褐色含む
 2. 10YR2/3 喀斯特 水化物 1% 使土 1%
 3. 10YR2/3 喀斯特 水化物 1%
 4. 10YR2/2 黄褐色 水化物 20%
 5. 7.5YR3/3 喀斯特 使土ブロック含む
 6. 10YR1/7.1 黄褐色 水化物 1%
 7. 10YR4/4 喀斯特 水化物ブロック含む 水化物 1%
 8. 10YR4/4 喀斯特 水化物 1%
 9. 10YR4/4 喀斯特 水化物 1%
 10. 10YR6/4 喀斯特 黄褐色に近い黄褐色との混合土
 11. 10YR6/3 に近い黄褐色 水化物 1%
 12. 10YR6/4 喀斯特 しまり弱い
 13. 10YR6/4 喬木



- RD05**
1. 10YR2/4 喀斯特 黄褐色ブロック・使土ブロック含む 水化物 1%
 2. 10YR2/3 喀斯特 水化物 1%
 3. 10YR4/6 喬木



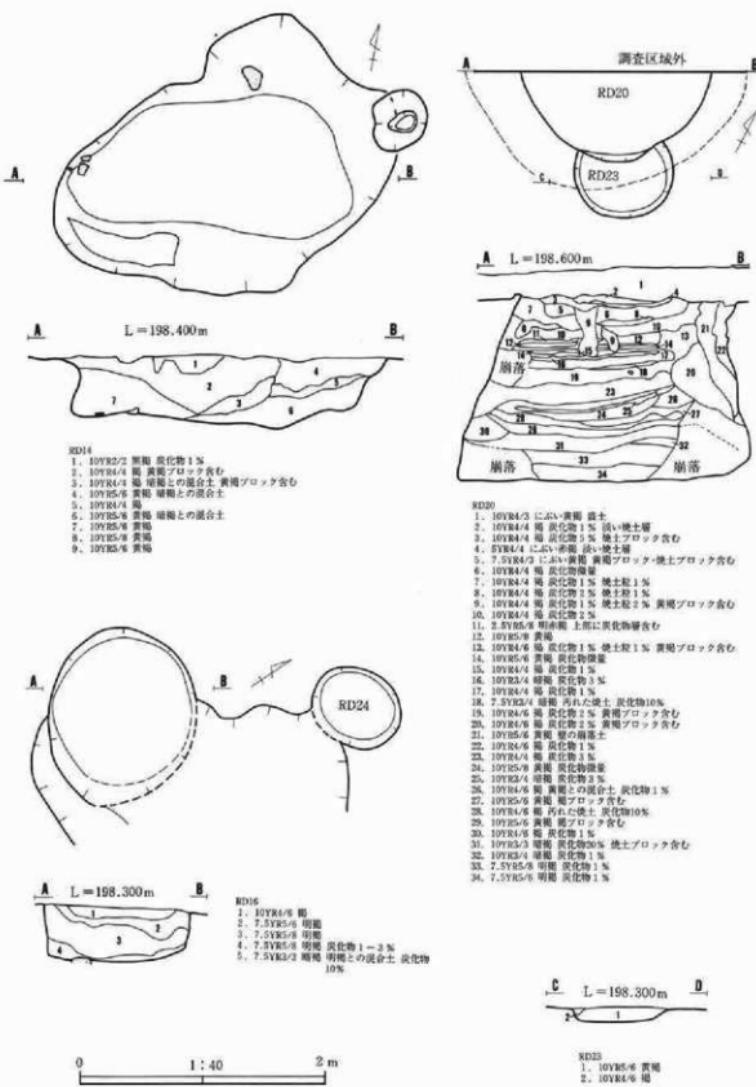
- RD05**
1. 10YR4/4 喬木
 2. 10YR2/2 喀斯特→泥炭 水化物 10%
 3. 10YR2/2 喬木 喬木ブロック含む
 4. 10YR2/2 喬木に近い泥炭
 5. 10YR4/4 泥炭
 6. 10YR5/6 黄褐色 黄褐色含む
 7. 10YR5/6 黄褐色 泥炭
 8. 10YR5/4 に近い黄褐色 泥炭・黄褐色含む
 9. 10YR5/2 泥炭 黄褐色含む



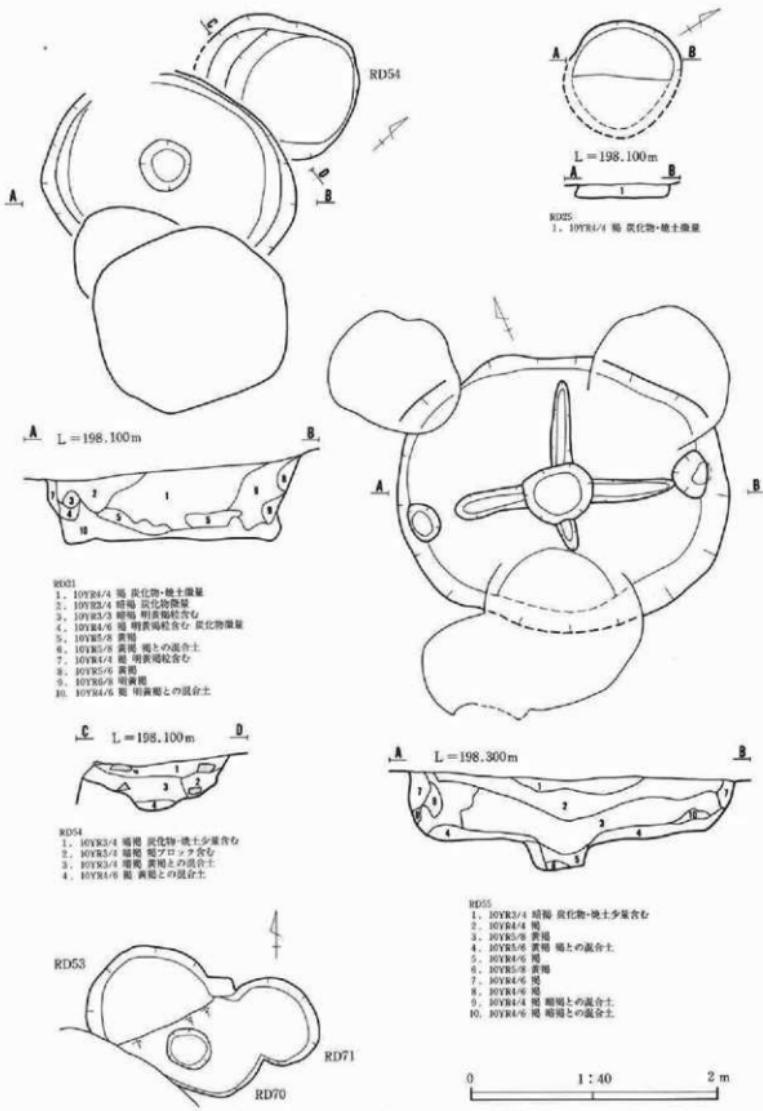
- RD05**
1. 10YR4/4 泥炭
 2. 10YR2/2 泥炭→泥炭 水化物 10%
 3. 10YR2/2 泥炭 喬木ブロック含む
 4. 10YR2/2 泥炭に近い泥炭
 5. 10YR4/4 泥炭
 6. 10YR5/6 黄褐色 黄褐色含む
 7. 10YR5/6 黄褐色 泥炭
 8. 10YR5/4 に近い黄褐色 泥炭・黄褐色含む
 9. 10YR5/2 泥炭 黄褐色含む

0 1:40 2 m

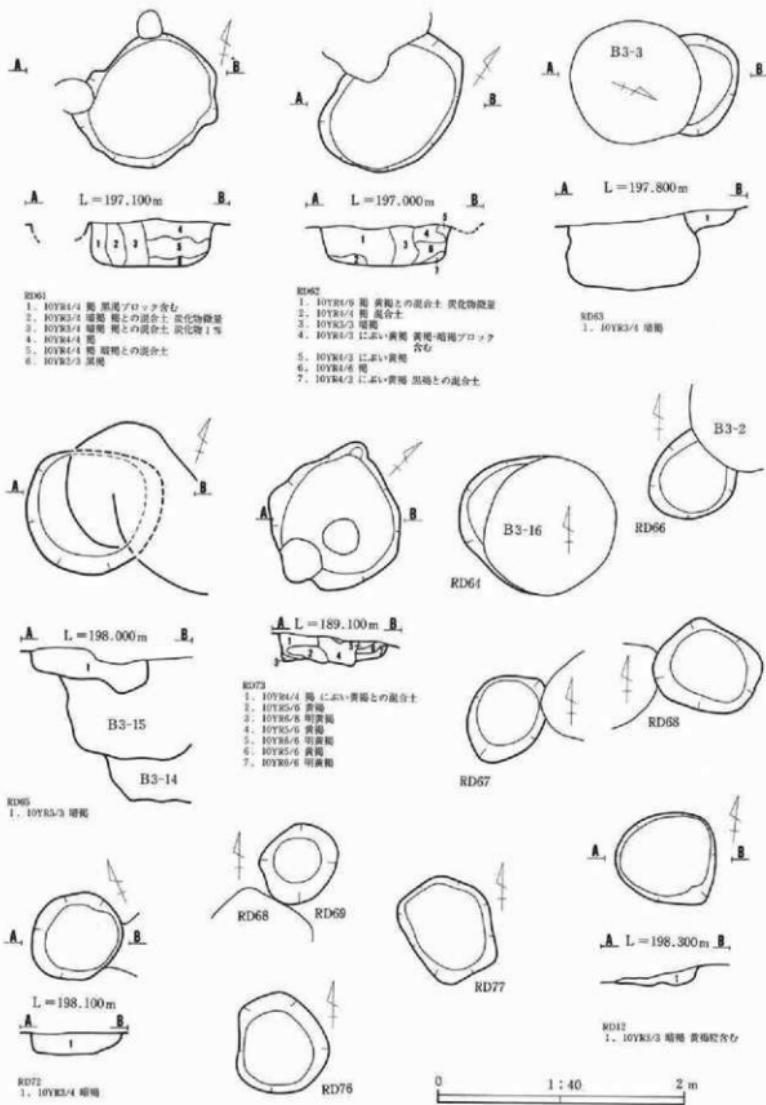
第33図 RD04-08-13-09



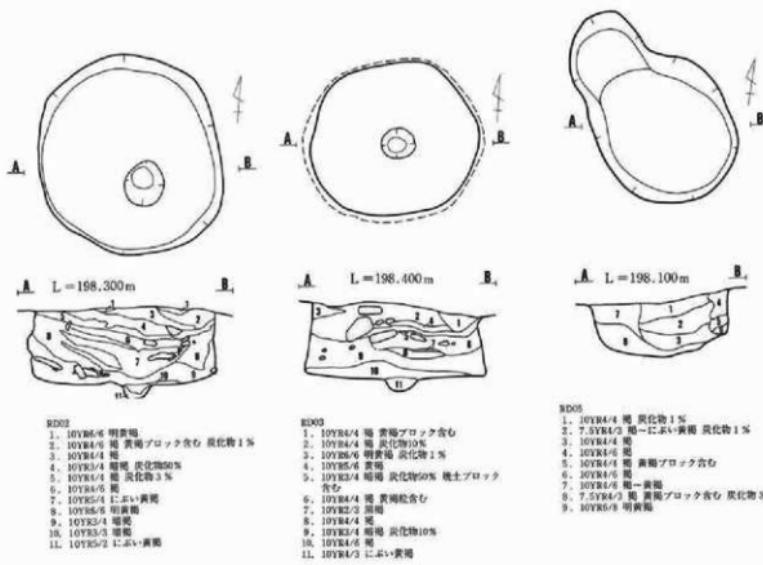
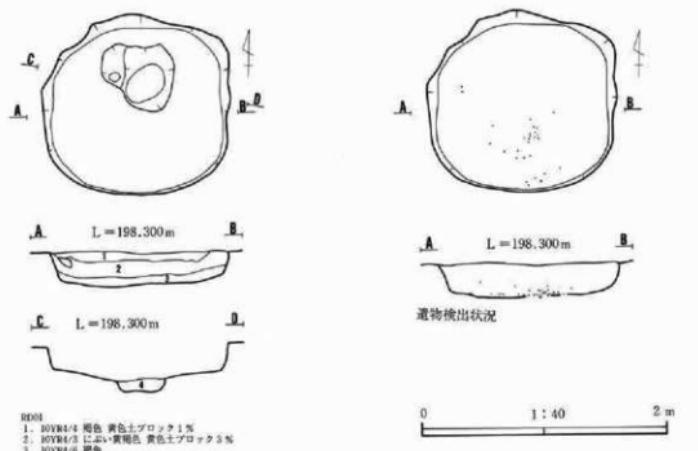
第34図 RD14-16-20-23-24



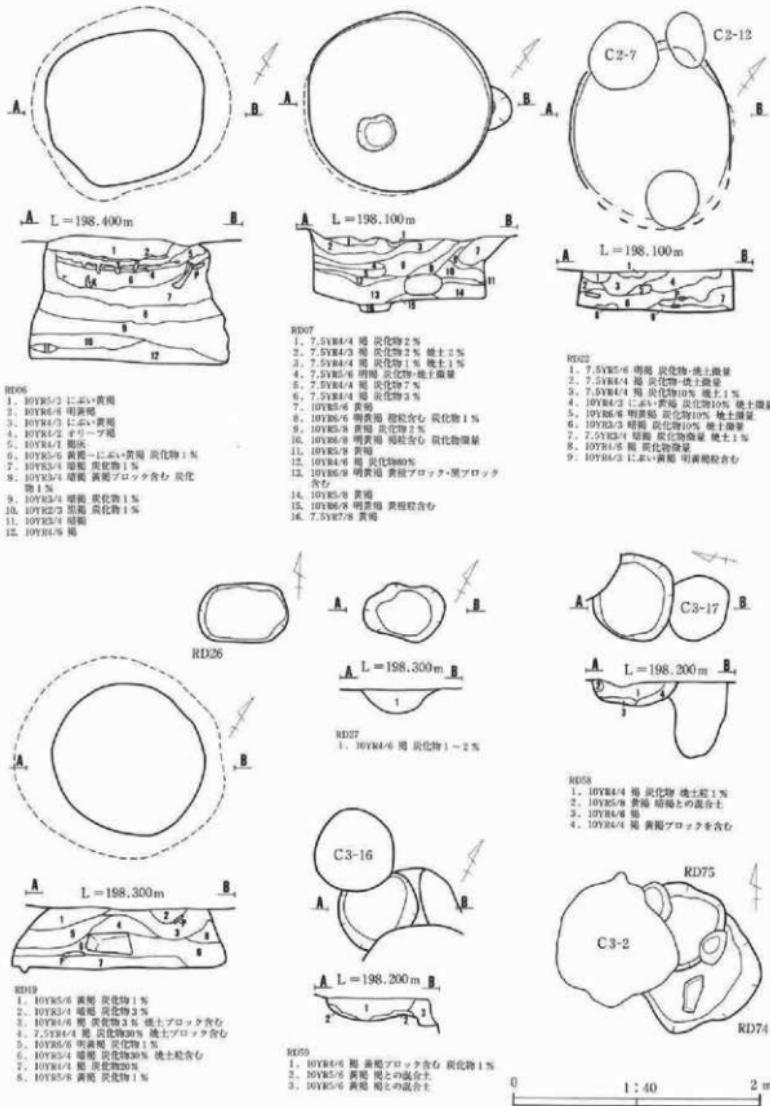
第35図 RD21・54・25・55・53・70・71



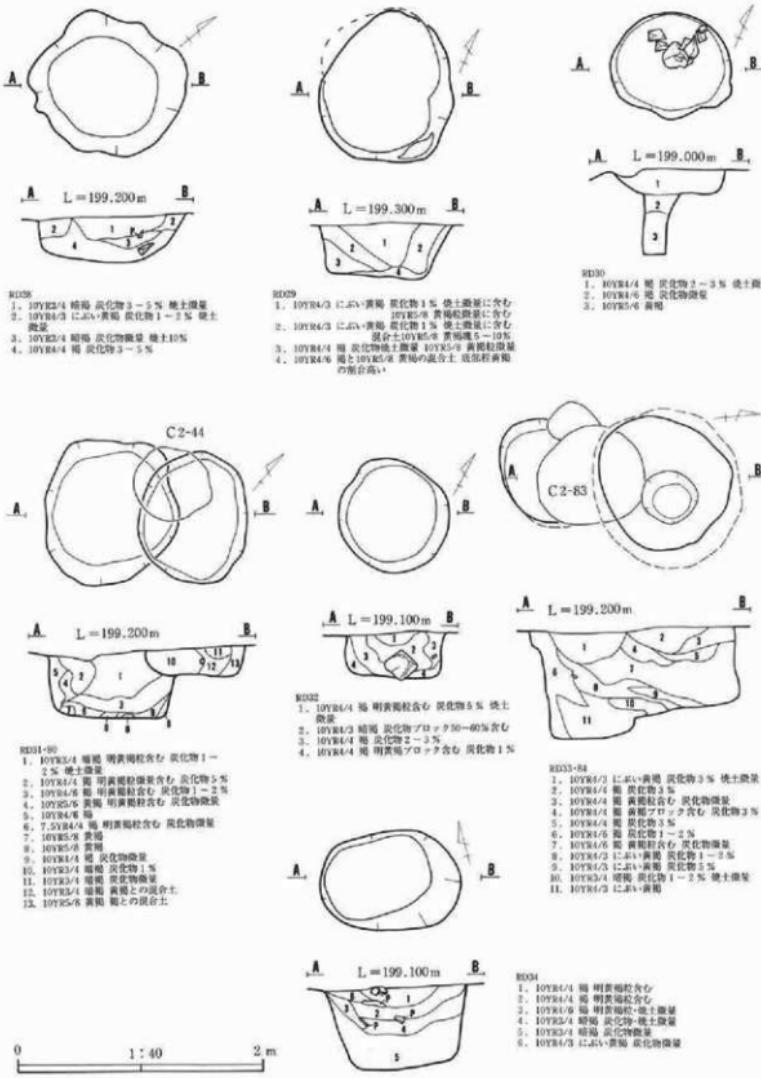
第36図 RD61-62-63-65-73-74-66-67-68-72-69-77-12-76



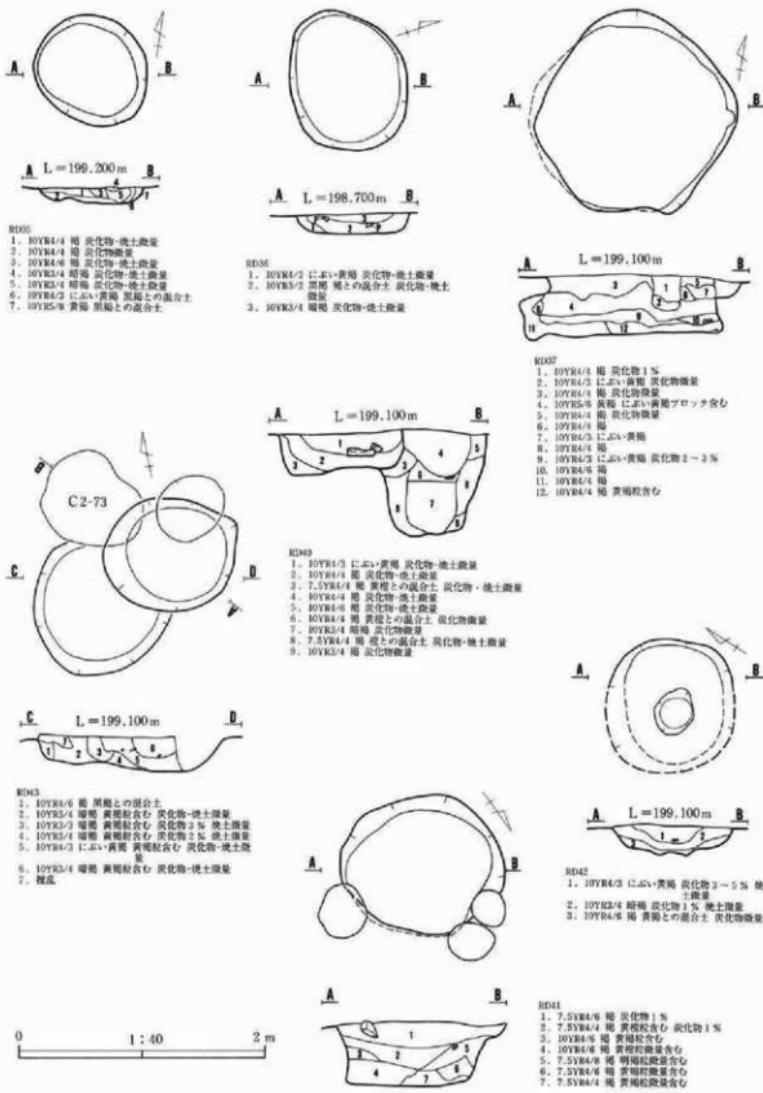
第37図 RD01・02・03-05



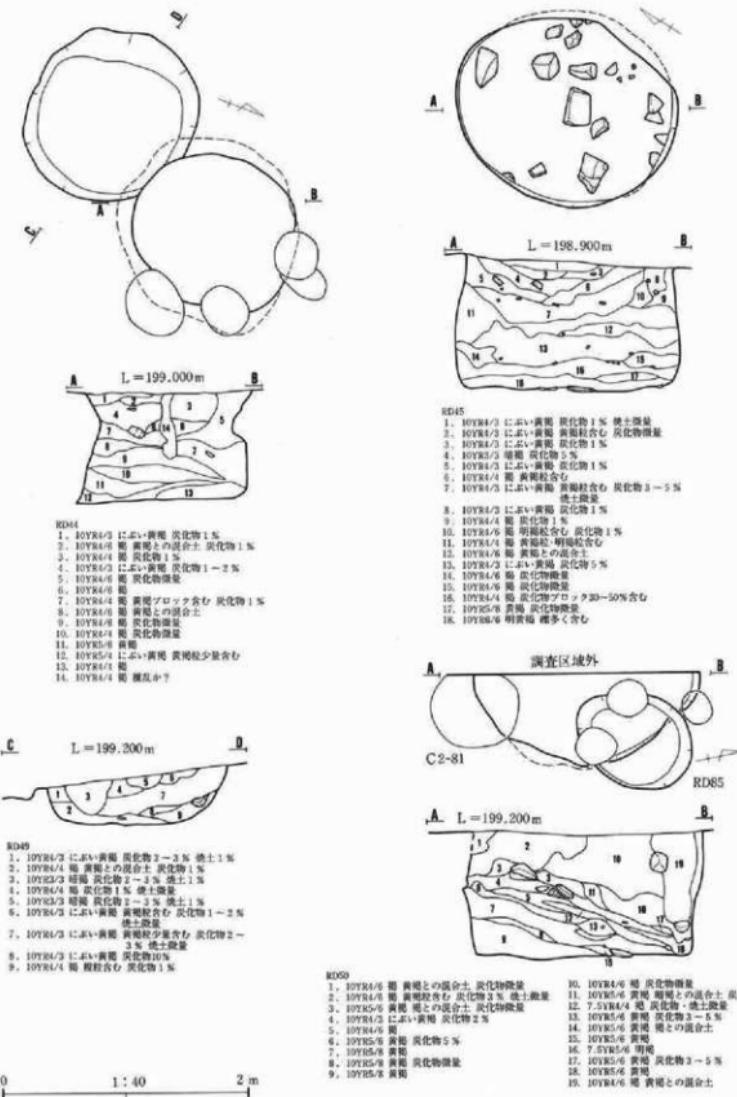
第38図 RD06-07-22-26-27-58-19-59-74-75



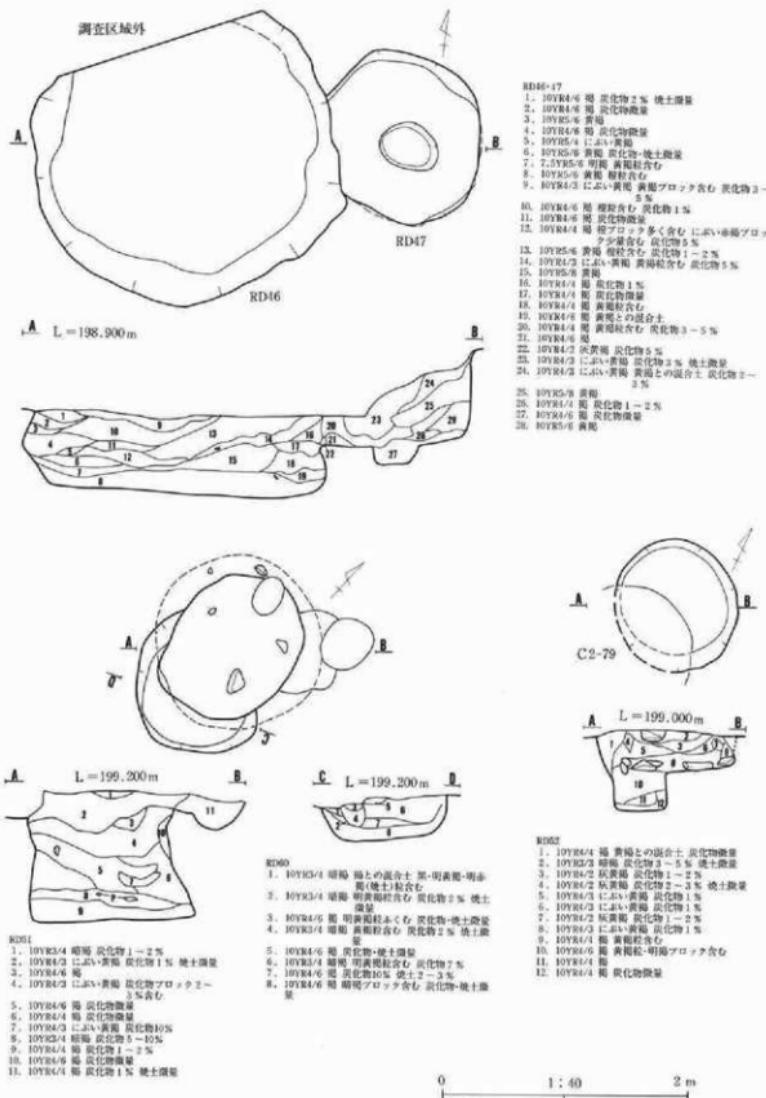
第39図 RD28・29・30・31・80・32・84・33・34



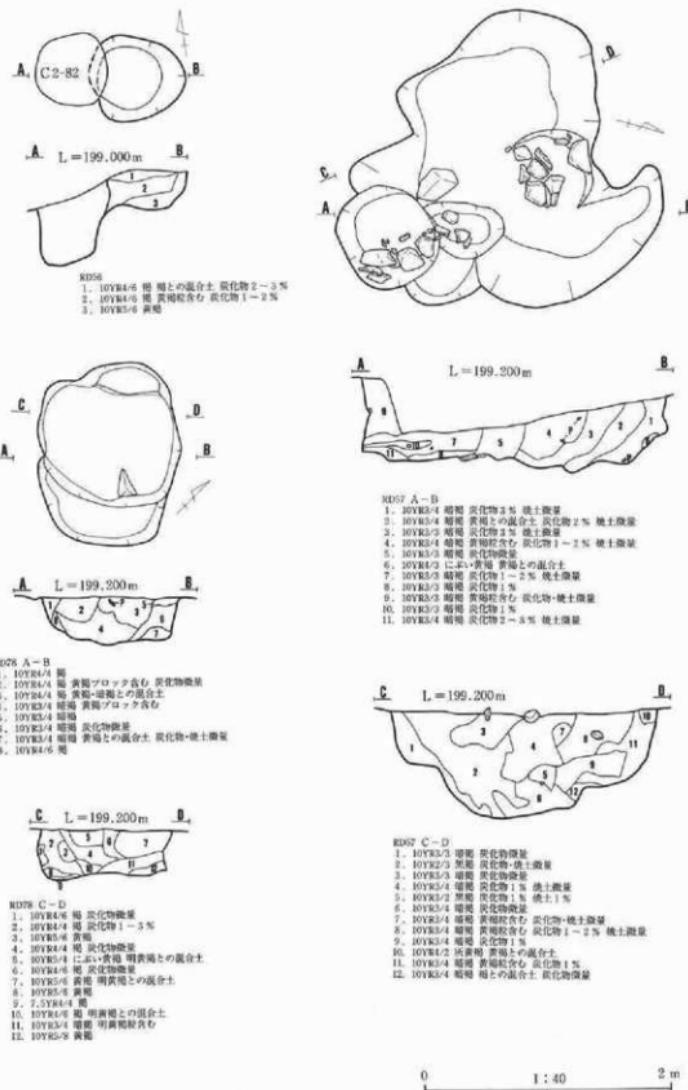
第40図 RD35・36・37・40・43・41・42



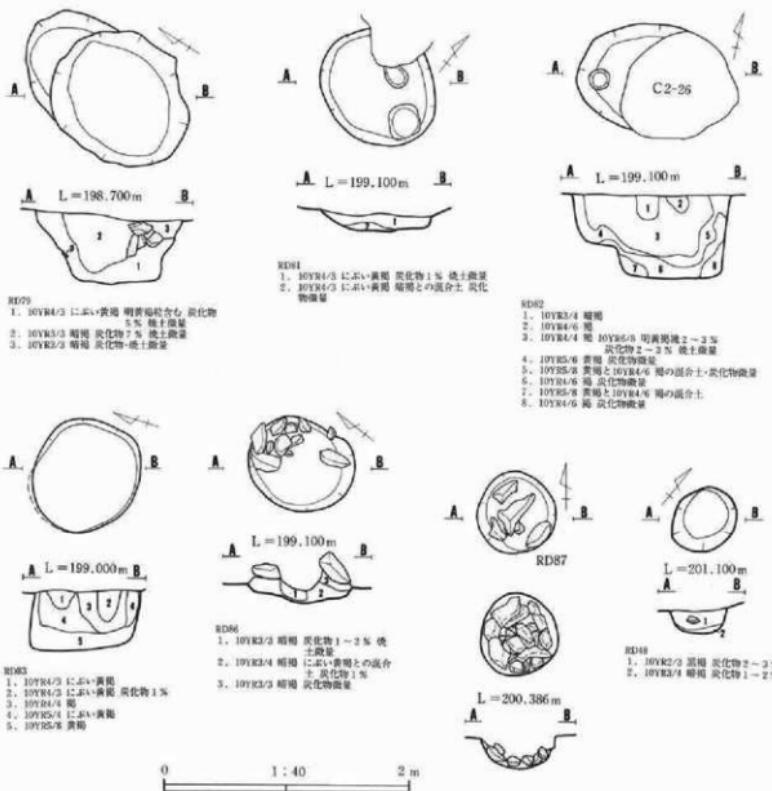
第41図 RD44・49・45・85・50



第42図 RD46-47-51-60-52



第43図 RD56-78-57



第44図 RD79·81·82·83·86·87·48

RF05焼土遺構(第46図・写真図版52)

遺構 C 2 R14グリッドに位置する。Ⅲ層面で検出された。東側を掘りすぎているが、70×100cmの範囲に最大10cmの厚さでしっかりととした焼土層が分布している。上部は遺物包含層が覆い、断面の観察ではこの部分には掘り込みは認められなかった。

時期 検出面から推定して、縄文時代早期～前期の遺構の可能性がある。

RF06焼土遺構(第46図・写真図版53)

遺構 C 2 M15・C 2 M16グリッドに位置する。Ⅲ～IV層でRF07焼土遺構と共に検出された。検出面から推定して、上部を削平されているものと考えられる。55×63cmの範囲に最大10cmの厚さで汚れた焼土層が形成されている。この中央部には正位の埋設土器を伴う。なお、下部からは開口部92×83cm、底部80×75cm、深さ65cmの円筒状の土坑が検出された。ここでは同一遺構として扱ったが、土層断面の観察からは埋設土器の掘り方がこれを切るように見え、土坑との重複の可能性が高い。

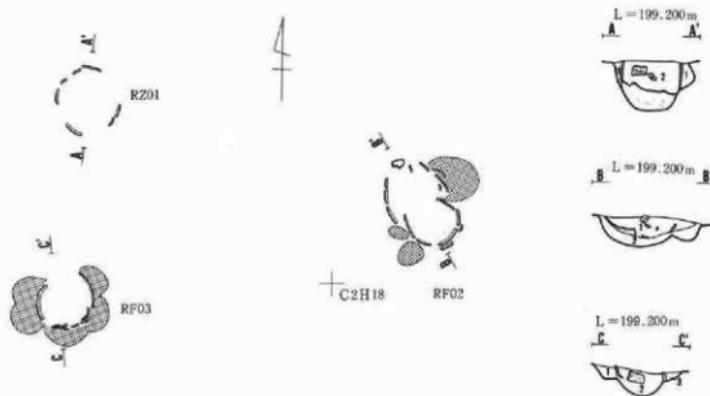
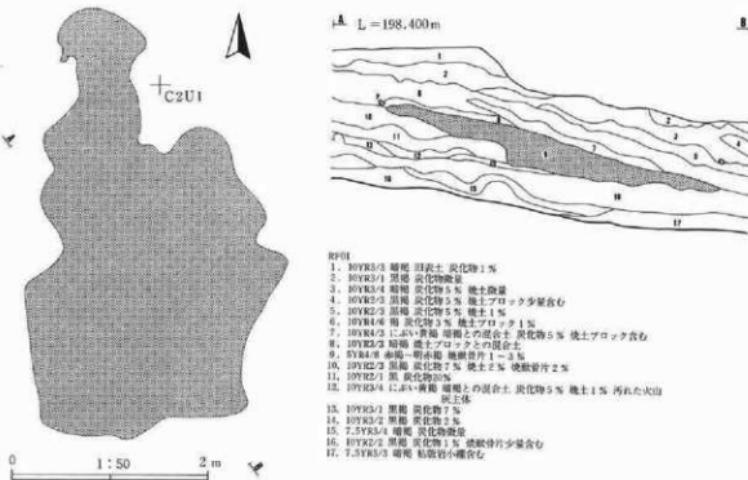
遺物(第93図・写真図版90) <上器> 883は降帯による区画が胴部下端まで及ぶIV群土器である。底面には網代痕を持つ。

時期 土器の特徴から縄文時代後期初頭の遺構と考えられる。

RF07焼土遺構(第46図・写真図版53)

遺構 C 2 M16・C 2 N16グリッドに位置する。Ⅲ～IV層でRF06焼土遺構と共に検出された。検出面から推定して、上部を削平されているものと考えられる。45×35cmの範囲に最大5cmの厚さで汚れた焼土層が形成されている。なお、下部からは開口部55×45cm、底部43×35cm、深さ20cmの円筒状の土坑が検出された。ここでは同一遺構として扱ったが、土坑との重複の可能性もある。

時期 出土遺物は無く詳細は不明であるが、RF07焼土遺構との関係からこれと同時期の可能性がある。



RZ01

- 1. HYRK4/6 黒泥 水化物微量
- 2. HYRK4/3 にふく黒泥 水化物 1~2%

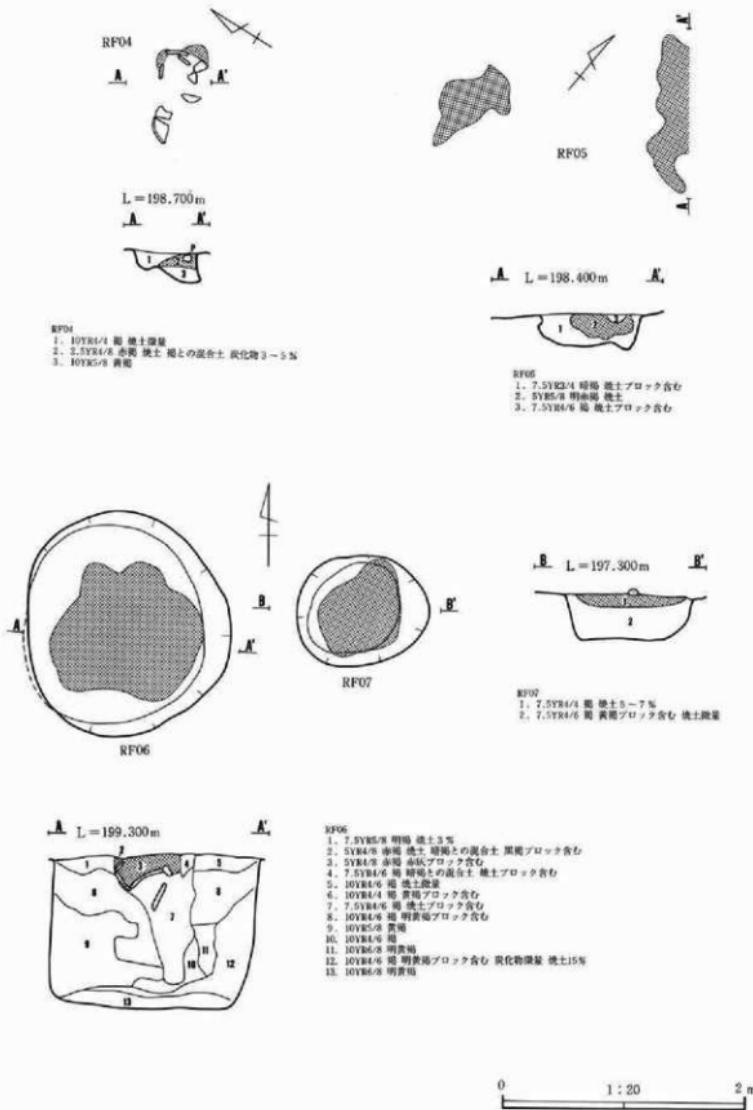
RF02

- 1. 10YR3/4 硫酸 水化物 10% 地下水微量
- 2. 10YR4/3 にふく黒泥 水化物 2~3% 地下水 1~2%

RF03

- 1. 5YR5/6 明白泥 地下水
- 2. 10YR4/2 にふく黒泥 水化物 2% 地下水微量
- 3. 10YR4/4 黒泥 地下水 30~40% 含む

第45図 RF01-02-03-RZ01



第46図 RF04・05・06・07

5. 埋設土器

RZ01埋設土器

遺構 C 2 G18グリッドに位置する。Ⅲ～Ⅳ層で検出された。当遺構の南東約1.3mにはRF03焼土遺構、北約50cmにはRZ01埋設土器がある。位置的に重複あるいは同時存在の可能性があるが、削平により新旧関係は不明である。直径約35cm、深さ20cmの掘り方に胴下半部を正位に埋置してある。

遺物(第93図・写真図版90) <土器> 884・885を掲載した。隆帯による区画文に水滴形の刺突による装飾を持つ。Ⅲ群3類土器とした。

時期 埋設されている土器の特徴から、縄文時代中期末葉期の遺構と考えられる。

6. 集石遺構

RH01集石遺構(第47図・写真図版53)

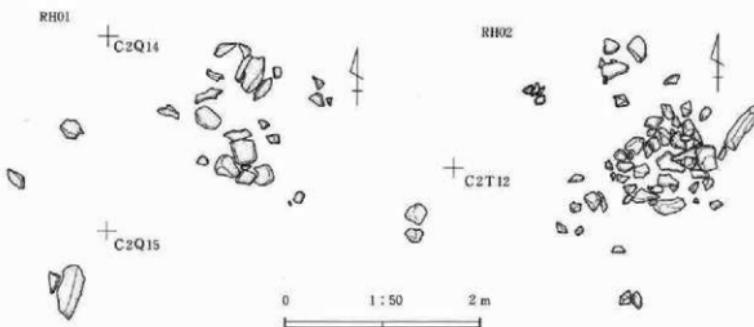
遺構 C 2 Q14グリッドに位置する。Ⅱ層で検出された。検出地点は遺物包含層域で、包含層精査グリッドではC Ⅱ・D Ⅱ区にあたる。10～55cm大の角礫及び亜角礫が3×3.5mの範囲に分散する。北東部では幾分集中しているが、規則的配置は認められない。また、下部から土坑等は検出されず、伴う遺物もない。

時期 検出面から縄文時代後期初頭期の遺構の可能性がある。

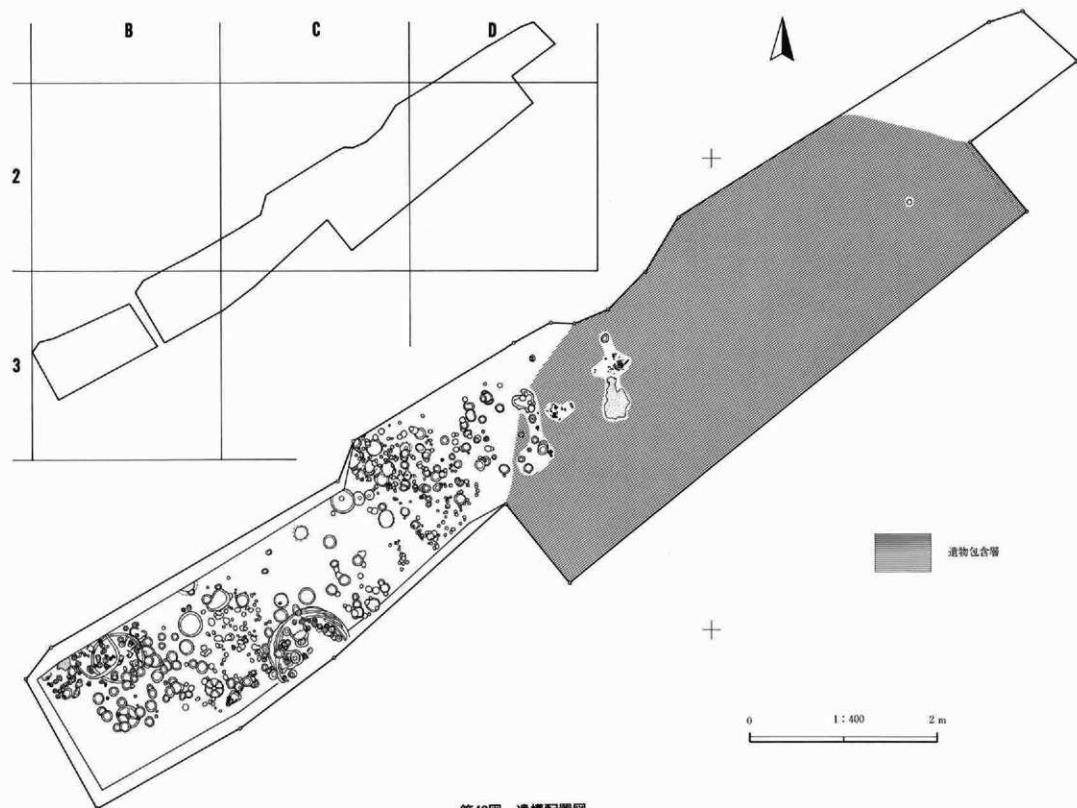
RH02集石遺構(第47図・写真図版53)

遺構 C 2 T11・C 2 T12グリッドに位置する。Ⅱ層で検出された。検出地点は遺物包含層域で、包含層精査グリッドではE Ⅱ区にあたる。10～55cm大の角礫及び亜角礫が3×2.5mの範囲に分散する。東側では90×100cmに集中するが、石を組み上げた様子は認められない。また、下部から土坑等は検出されず、直接伴う遺物はない。

時期 検出面から縄文時代後期初頭期の遺構の可能性がある。



第47図 RH01・02



第48図 遺構配置図

7. 遺物包含層

(1) 層相と形成過程

調査区の東側、C区中央部からD区にかけて遺物包含層(以下、「捨て場」と「包含層」)が形成されている。地形図からの概算では面積は約950m²、厚さは10~160cm、体積は約760m³で、全調査面積の約4割に当たる。なお、開田及び現地建設のために削平・破壊されている部分もあり、実数は上記の数字より多い。

旧地形は北西から南東に緩やかに下り、下位水田面に続く扇状の窪地である。包含層グリッドE区における傾斜角度は約10°で、包含層除去後の地形面には若干の雨裂痕が見られたが、常時水が流れているような沢地形ではない。精査に当たっては、前述のとおり包含層個別のグリッドを設定しており、以後位置の表記はこれに従う(第7図参照)。

包含層は基本層序では第II層とした層で、暗褐色土・黒褐色土を主体とし、この他により明瞭に人為的な廃棄土としての性格を持ち、かつ分層が可能な汚れた黄褐色土や褐色土、焼土層、炭化物層などで構成される。各層中には炭化物、焼土粒及びブロック、土器・石器等の遺物と焼獣骨が含まれている。この廃棄土は、ほぼI区を境にしてこれより西側(南西)のB~H区において厚く、特にD~F区では最大約90cmの層厚を持ち、一部地域では廃棄の単位が把握できる部分も存在した。これに対して、I区以東では上・中・下層の單純な分層に止まる。第49図には上器の出土量(時期を問わない)の分布を示したが、廃棄土の厚いD~F区では土器量も多く、廃棄土の厚さと土器の出土量には相互に相関関係が認められる。なお、B~F区にかけては精査段階で安家(中振)火山灰の堆積が確認されたことから基本層序では当層をII2とし、これより上部をII1、下部をII3として大別した。

土層(特に廃棄土)の堆積状況から、基本的には各種の遺構が検出された西側から地形に沿う形で北東方向に順次廃棄されていったとの考えられる。当然のことながら、居住域に近いところから順に遠い所への移動が看取され、この点からすると各土層は、西部から東部、東部から北東部という大雑把な新旧関係を想定することができる。なお、廃棄土の量が多いD~F区にかけては周辺で最も低い地域に当たるが、廃棄行為がこの地形を意識したものであるかどうかは不明である。また、青森県山内丸山遺跡の「盛上遺構」で指摘されている「廃棄土層の整地」が行われている可能性もあるが、積極的な痕跡は認められなかった。しかし、写真図版6に示したように、土器型式が異なる大型破片が密着して出土する地点もあり、その時々の廃棄物が順に堆積している訳ではないようである。

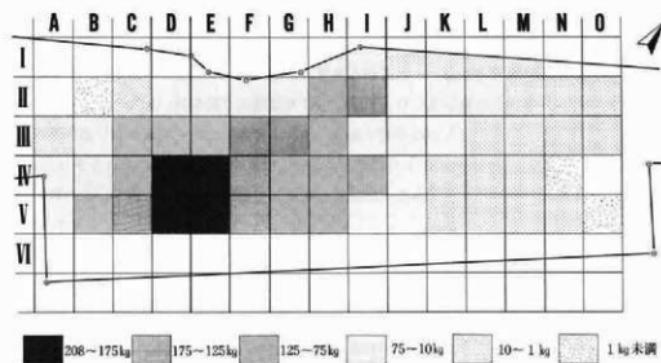
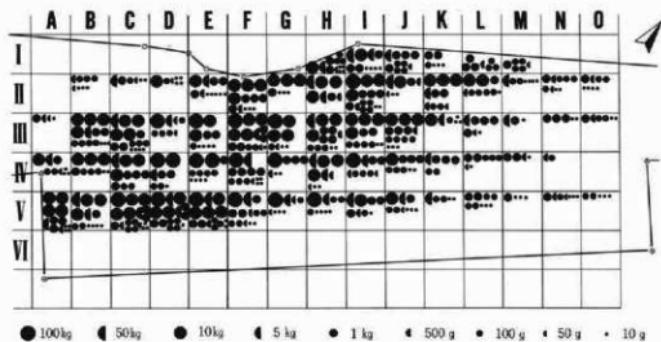
(2) 出土遺物

包含層からはコンテナ(42×32×30cm)約280箱分の遺物が出土した。種類には土器、石器、土製品、石製品、自然遺物がある。なお、掲載遺物個々の説明は観察表で行っている。

包含層の掘り下げ、遺物の取り上げは、上記のグリッドによって行われている。当初、各グリッド境に幅50cm前後のベルトを設定して、このベルト内に関しての細分層毎の取り上げを試みた。しかし、主に時間的な制約から、この方法も比較的の状態の良い南北方向のベルト4本だけの実施に終わっている。グリッド内では約10cm毎に掘り下げ、できる限り断面と比較を試みたがこれも思うに任せず、上部・下部程度の区分しか行っていない。

1. 土器

包含層からの出土総量は約3,559kgである。掲載にあっては当初出土層位を基に、これによる分類を行お



第49図 土器出土量分布図

うとしたが、前述のとおり細分層で取り上げた地点が限られてしまったこと、細分した部分でも思いの外大型破片が得られなかったことから層位による分類を断念した。このため、細分層位で取り上げた土器は最初にこの断面図と共に掲載し、この他はグリッドの東西方向毎(A~O区)に下記の大分類の新しい順で掲載した。分類にあたっては、時期毎に縄文時代早期・I群、前期・II群、中期・III群、後期・IV群、晩期・V群、弥生土器・VI群、土師器・VII群の区分を行い、これらの中での小区分に際しては1類、2類…、a類、b類…として表した。小区分は従来の土器型式に準拠し、近年の上器編年研究を参考とした。

特に本遺跡の主要な時期である縄文時代中期末葉期から後期初頭期の土器群については、多くの研究者によって検討され研究成果も豊富である。今回の報告では、重複関係が明瞭なRA04・05住居跡からの出土土器を基準としながらも、細分類にあたってはこれらの編年研究の成果に多くを依存にした。しかし、それぞれの編年案を詳しく照合、検討する余裕がなく、各論文から都合の良い部分のみを採借した形となっている。これはひとえに筆者の怠慢によるところが多いが、該器上器群に対してあまりに無知な筆者が緊急報告の記述にあたって便宜的に各名称を使用させていただくものである。学問的マナーに反することは承知の上での所行で、これについての御批判は甘受する所である。なお、研究者との間に認識の相違が生じた場合は、それらは全て筆者の理解不足からくる曲解で、筆者の責任であることをおことわりしておく。

①分類

I群土器…縄文時代早期の上器を当てた。

II群土器…縄文時代前期の土器で、既存の土器型式により以下のように細分した。

1類…大木2式以前の土器群。 2類…大木2式に比定されるもの。

3類…大木3式に比定されるもの。 4類…大木4式に比定されるもの。

5類…大木5式に比定されるもの。 6類…大木6式に比定されるもの。

III群土器…縄文時代中期の上器で、以下のように細分した。

1類…大木9式以前の土器群。 2類…大木9式に比定されるもの(a・bに2分)。

3類…大木10式に比定されるもの(a-cに3分)。

2類については隆帯が主体となって文様が描かれる比較的古い要素を持つものをa類、沈線による文様が描かれる比較的新しい要素を持つものをb類とした。

3類については、RA04・05住居跡の炉埋設土器と埋土からの出土土器を基準資料とし、主に池谷(1988)及び本間(1990・1994他)を参考とした。基準資料はRA04住居跡では、炉埋設上器である182・185と埋土下部から出土した187・196で前者をb類、後者をc類とした。また、これに切られるRA05住居跡では、炉の埋設土器217・218、223・224、228と埋土下部出土の230・231である。埋設土器についてはいずれも口縁部を欠損し詳細が不明の部分もあるがこれらをa類、埋土下部の土器をb類とした。すなわち、a類とb類は両住居跡の重複関係を扱り所とする分類である。

a類…池谷・本間の大木10a式土器に比定・類似する土器(RA05住居跡炉埋設上器群)。

b類…池谷の大木10b式第1段階に比定・類似する土器(RA04住居跡炉埋設上器群)。

c類…池谷の大木10b式第2段階に比定・類似する土器。

IV群土器…縄文時代後期の土器で、以下のように細分した。

1類…初期の土器で、本間(1990)の後期第1期、池谷の大木10b式第3段階に比定・類似する土器。

2類…後期前葉期の土器で、本間の後期第2期に比定・類似する土器。

3類…後期前葉期の土器で、本間の後期第3期に比定・類似する土器。

4類…後期前葉期の土器で、本間の後期第4期に比定・類似する土器。

1類土器とした土器群は本間は後期に池谷は中期に含めており、両研究者間の見解が異なる。今回の報告で後期に位置づけた理由は、これらの土器群やこれに続く2類土器群が包含層の東側からより多く出土する傾向が窺われ、3群土器とは出土地点に若干のズレが見られたためである。この現象だけで当類をもって中期と後期の境界とする積極的な根拠にはならないが、前述した包含層の形成過程を考慮して時期を区切った。

2類土器は所謂「門前式」土器及びこれに併行する土器群である。3類は「宮戸I b式」土器及びこれに併行する土器群、4類は3類より新しい要素を備えた土器群を当てた。

V群土器…縄文時代晩期の土器群を当てた。

VI群土器…弥生土器を一括した。

VII群土器…土師器を当てた。

②細分層出土の土器様相

D区細分層(第94図～第99図・886～1021)

23層に分層したが、攪乱層も多く特に現道下にあたるIV・V区の上部が著しい。得られた土器は完形品及び大型破片は少ない。18層は安家火山灰層である。この上部層では全体にIII群土器が卓越している。なお、11・13ではIV群土器が出土しているが、この部分には攪乱ではなく、層相がはっきりしていることや周囲の層から出土している上器から考えて、これらはサンプリングエラーか整理時の混乱による可能性がある。

18層の上下からII群2類が出土している。1019～1021は他に比べて胎土中の植物纖維が幾分多い。

E区細分層(第100図～第104図・1022～1096)

現道下を除いて攪乱は少なく、各土層の堆積状況が良く観察できるベルトであるが、残念なことに土器は多くない。21層に分層した。9層はRF01焼土遺構、17層は安家火山灰層である。各層とも各類の土器を含むが、6層の上面を境として上部ではIV群土器、下部ではIII群土器が目立つ。なお、6層からはIII群3c類のやや大型の破片が出土している。また、9層の上部からはIII群3b類が出土しており、この内1破片はF区の第6～7層出土の一括土器と接合した(1138)。これによりRF01を中期末葉期の遺構とした。11～13層は炭化物や焼土粒を多く含む層で、14層もひどく汚れたローム質土である。いずれも層もIII群3b類土器が出土している。14層から出土した1075・1076・は同一個体で、肉彫りの表現による文様を持つ。

17層以下は前期の土器群が出土している。なお、当区とF区では安家火山灰の純層(ブロック)が観察された。19層は火山灰層下部に堆積する黒褐色土層で、割合遺物も多い。1081～1091はS字状連鎖沈文が施されたII群2類土器で、1092～1094は縄文、1095・1096は不整な捺糸文を地文とする。1092～1094の胎土中の繊維は1081～1091とはほぼ同様であるが、1095・1096は多く、器面はボソボソに荒れており1類とした。

F区細分層(第104図～第110図・1196～1191)

当区も現道下を除いて後世の攪乱は受けおらず、各層の堆積状態は良好である。しかし、南端部では風倒木と考えられる層の乱れがあり、この部分では各時期の土器が混在している。15層に分層したが、風倒木部分は複数の層を第15層として一括した。出土した土器総体としてはIV群土器が多い。2～5・9層では特にこの傾向が強く、これらの層が後期の施業上である可能性が高いものと考えられ、西側のグリッドに比べて該期の層が明確に把握できる。2層からは、1097～1099等のIV群4類土器が出土している。出土量は多く

はないが、6～8層が中期の層と考えられ、先の1138や1134、1139、1150等の完形品や大型破片が出土している。17層は安家火山灰層で、当地区では層厚はかなり薄くなっている。この上部層である10層からはⅡ群土器が多く出土しており、特に1168・1169等の2類上器の大型破片も得られている。

J区細分層(第111図～第112図・1192～1236)

上部を削平されているためか擾乱はない。黒褐色土から構成され、西側で観察された廃棄土の互層は見られない。5層に分層したが、全体に単純な堆積で土器の出土量も少ない。Ⅲ群土器も僅かに見られるが、Ⅳ群土器が卓越しⅡ群土器がこれ次ぐ。Ⅳ群土器でも1類より2類に1205・1206等の大型破片が多い。なお、ベルト中には含まれていなかったが、周辺部ではⅡ群4類や5類の大型破片が出土している。

③グリッド各区の様相

図示にあたっては前述のとおり大分類毎に行っているが、細分類については混乱を生じている部分も多い。以下ではグリッド毎に出土様相と判断基準の概要を述べるが、総括的説明は集成図を基に後述したい。

A区(第113図～第115図・1237～1258)

Ⅳ群土器は少ない。1237は沈線によって区分される無文帯が底部付近まで垂下する。Ⅲ群3類土器では、1243～1242など隆帯による区画文(隆線文)を有するものが多いが、基準としたRA06住居の土器は口縁部の文様が不明で、これらを細分する識別形質を見出せなかつた。一応口縁部に文様が及ぶものや独自の文様帯が形成されるものをb類とし、これ以外をa類とした。図示した資料は全てa類に當てたが、1244は文様上端が全て閉じる可能性があり、新しい要素なのかも知れない。また、1248等の沈線による区画文(沈線文)との共伴関係や新旧関係を把握することはできなかつた。1249～1252のⅢ群2b類の完形品や大型破片が出土している。1255～1258はⅡ群5類土器である。

B区(第116図～第118図・1259～1299)

当区でもⅣ群土器は少ない。1260～1262はⅢ群3c類、1263～1264はⅢ群3b類とした。1268は高坏形土器と考えられるが詳細は不明である。1269はⅢ群2b類に當てたが、同類の中でも最新時期の土器と考えられる。なお、この土器は2a類になる1280と密着して出土した。1270～1278は2b類、1280・1281は2a類とした。Ⅱ群土器では1286～1289が6類、1290～1293が5類、1294～1299は2類である。

C区(第119図～第128図・1300～1448)

Ⅳ群土器はまだ少ない。1300～1304は3類としたが、小破片が多いことや器面剥落のため詳細は不明である。1305～1307を2類とした。1305は区画が隆帯であることや隆帯の上部に刺突した装飾を持つことから当類としたが、文様自体はⅢ群3c類に近い。また、1707～1309もⅢ群3c類の方が適当だったかも知れない。1310～1314はⅣ群1類に含めた。この類は隆帯上の2～4個の刻み(隆帯に対して直交)を指標としたもので、1313・1314は沈線文であるが全体の文様構成からここに置いたが、これもⅢ群c類の範疇か。

1315～1328は隆帯の器面区画を持つものである。多くはⅢ群3c類に比定されると考えたが、前段階のb類、次段階のⅣ群1類のものも含めてしまっている。1316は図版作成時のミスでⅢ群3b類である。1330～1340は文様区画の沈線が細いもので、これらもⅢ群3b類(1331～1336等)とⅢ群3c類(1330・1338等)を含んでいる。1341～1370は隆帯文の土器群である。1342～1347等はⅢ群3b類、1366～1370は同3a類とした。

1371～1380は太い沈線によって文様が描かれるもので、1374・1375はⅢ群3 b類、1376・1380はⅢ群3 a類とした。1382～1391はⅢ群2類土器であるが、出土量はいくぶん少なくなる傾向にある。

Ⅱ群土器は2類が多い(1412～1438)。これらは安家火山灰層の上下から出土しているが、纖維の量や文様の要素には顕著な変化は見られなかった。なお、不整な綾絹文を持つ1439～1442は1類上器に、縄文地に鋭い沈線文を持つ1411は3類土器に分類した。1448は貝殻腹縫文に細くて浅い沈線文が施されたT群土器である。

D区(第128図～第138図・1449～1589)

IV群上器は全体としては少ないが、大型破片も出土している。1449は撫糸文を地文とし、沈線による幾何学的文様が施される。小破片のため詳細は不明であるが、4類土器とした。1452～1455は3類土器、1456は2類土器とした。1457は隆帯上の刻みが縦方向で、2類土器の指標とした連鎖状を呈するが、直線的に横に展開する文様から1類とした。過渡的な様相を持つ土器であろうか。1458～1464も1類上器である。1464は大迫町観音堂遺跡、北上市横町遺跡、同市八代遺跡に類似例があるもので、本間(1990)の観音堂式に含まれるものである。1465～1418等はⅢ群3 c類で、当区ではまとまった出土状況を示す。1483～1524はⅢ群3 b類とした。1514は3 a類の文様はより近い要素を持つが、文様の表出が磨消手法によることと文様帶の上部が平坦になっていることから当類とした。1538～1542はⅢ群3 a類の沈線文土器である。1544～1547は台付鉢で、破片のため詳細は不明であるが、ほぼⅢ群3類におさまるものと考えられる。1548～1557はⅢ群2類土器で、出土量はより少くなる。II群上器はC区同様2類土器が多い。

なお、1589は交互刺突文を持つVI群土器である。

E区(第138図～第151図・1590～1764)

IV群上器の出土量、種類ともが増えてくる。1764は4類土器か。1590～1630は3類土器で、1598は刻みを有する隆帯が口縁部に沿って巡り、古い要素を合わせ持つものか。1604は細く雑な沈線による文様で当群としたが、Ⅲ群土器に含まれるかも知れない。なお、1605・1606は南東北の土器群で3類としたが、明確に共伴関係が把握できたわけではない。1607は連鎖状の隆帯をボタン状装飾から2類とした。1612・1613は1～2類への過渡期の土器と考えられる。1614～1635は1類土器で、まとまった出土量であるといえる。1635はD区の1464と同類として扱ったがこの種類の出土は少ない。1637～1670等はⅢ群3 c類としたが、前後を含んでしまっている。また、1671～1704にはⅢ群3 a類と同b類が含まれるが後者が多い。II群土器ではやはり2類が多いが、正円文を持つ1716や刺突列による文様が施される1752は3類とした。また、1738～1741は沈線文の5類土器である。

F区(第151図～第158図・1765～1874)

IV群土器がほぼ半数を占める。1765・1766は4類、1767・1768は3類、1769～1771は2類に伴う南東北の上器と考えた。1772～1788は連鎖状の隆帯とボタン状突起から2類としたが、1785は・1786は2個一対の刻みを合わせ持ち、1～2類への過渡的様相を見せる。1789～1806は1類土器で、当区でも大型の破片がまとまって出土している。1807・1809はⅢ群とIV群をつなぐ土器と考えられるが、これも明確な分類基準を見出せなかった。1813～1826はⅢ群3類で、いずれも隆帯文を持つ。この内充填手法による1822や1826がa類と考えられる。Ⅲ群2類には1829・1830等の太い沈線によるはっきりとした磨り消し縄文を持つb類がある。

II群土器では1851～1870等の4類土器が多く出土している。

G区(第158図～第165図1875～1956)

IV群土器が卓越している。1875～1884は3類としたが、1881や1883は2類に伴う可能性もある。1885は掲載ミスで、口縁部に連続する爪形状の刺突列を持つI群土器である。1886～1890は2類に分類した。1891～1902はI群土器で、上部が朝顔形に開く注口深鉢が目立つ。1905～1915はIII群c類とした。1916～1921はIII群3b類で、大型破片もあるが量的には少ない。なお、1926はIII群1類と考えられる。

小破片であるがII群土器も多く出土している。1927・1930は5類で、1931～1933はこれに伴う粗製土器と考えた。1934～1941は4類、1942は3類土器、1943～1954は2類、1955・1956は1類土器である。

H区(第165図～第170図1957～2029)

IV群土器が多く、III群土器特に3類土器は少ない。1957～1964はIV群3類としたが、1958は異質で疑問を残す。1965～1974は2群とした。1966は刻みが斜めでより1類に近い。また、1969は無文帯につく連鎖状の装飾により当類に当てたが、これも先の1464等と同様に1類の範疇で考えることもできる。1975～1984は1群土器とした。1985～1992はIII群3c類、1955・1996はb類、1997はa類とした。出土量は僅かだが1998～2001のIII群2類土器もある。2002はIII群の粗製土器で、内外面にアスファルト状の付着物が見られる。2005～2007はII群6類、2008～2012は5類、2013は4類である。2014～2016は地文が縦文で、3類土器とした。2017～2026は2類、2027～2029は1類上器である。

I区(第170図～第175図・2030～2103)

III群土器は少なく、大半がIV群土器である。2030～2050は3類土器としたが、2032、2043、2047～2050はより新しい土器か。また、2044は器形や文様等2類土器と共通点を多く持つが、文様が沈線によって描かれていることにより当類とした。2051～2056は2類、2057～2070は1類土器である。2057・2058は刻みが斜めで、ボタン状の貼り付け文の存在からもより3類に近い土器群と考えられる。なお、2061もボタン状の貼り付け文が多用されている。2070は器面が刺突列で充填されるもので、本遺跡では出土量は少ない。II群土器では2081～2086の6類、2087～2089が4類が多い。2090・2091は6類あるいは5類に伴う粗製土器であろう。2092～2102は2類土器で、2096は瓦瓦状の縫糸文を地文とする。また、2094は吸盤状の円文が巡りより3類に近い土器かも知れない。2103はロクロ成形された土器師の坏形土器である。

J区(第176図～第177図・2104～2121)

遺物の出土量が少なくなる。III群土器は小破片のみで、IV・II群が大半を占める。2104～2106をIV群上器とした。2109・2111は口縁部に付けられる縦帯装飾から1類に伴う粗製土器と考えた。II群では2115・2116の3類土器が出上している。

K区(第177図～第178図・2122～2141)

II群土器が主体を占めるが、出土量は激減する。2122・2123はIV群3類、2124は2類とした。2125はIII群3b類の縦帯文土器で、大型の破片である。2127・2128はII群6類、2129は5類、2130～2132は4類土器とした。2133は4・5類の底部と考えられ、底面には編み目の細かい網代痕を有する。2134～2141は2類土器

である。

■区(第178図～第179図・2142～2157)

II群土器が主体をなすが出土量は少ない。2142・2143は6類、2144～2147は5類としたが、2144は3類のほうが妥当かも知れない。2149～2152は4類、2153・2154は3類、2155～2157は2類とした。2158はVI群の台付鉢あるいは高壺の脚部で、沈線による変形T字文を持つ。

■区(第179図～第180図・2168～2172)

II群4類だけの出土であるがいずれも破片は大きい。2168・2169は同一個体で、太いS字状の貼り付け文を持つ。2170・2171も同一個体で、突起には渦巻き状に粘土紐が巻かれる。

○区(第180図・2173～2175)

いずれもII群土器で、2173は3類、2174・2175は4類土器である。

その他(第180図～第182図・2176～2222)

A～D区の根据り及び遺構検出時点での出土した土器である。各区域の遺構や遺物の検出・出土状況を反映している。2191～2196はIII群2b類に分類したが、肉彫り的渦巻き文を持つ点等はa類からの過渡的様相を示す。B区出土の2219はVI群の壺形土器である。A区出土の2221は口唇部の内側に刻み列が巡り、細い沈線に沿う微細な連続刻み列と刺突文が胴部文様を構成するI群土器である。2222もI群土器で、細い沈線による格子状文が斜位に施文される。

2. 石器

包含層出土の石器はコンテナで約10箱分、使用痕跡を持たない剥片等を含めると総数は30,000点を超える。これらの内、使用痕が認められない剥片類、破損及び風化の著しい礫石器を除く2,885点(遺構内との合計:3,151点)を登録し、内476点を実測・掲載した。分類は剥片石器では、定形石器として石鏃、石錐、石匙、尖頭器、尖頭器様石器、斎状石器、異形石器に分けこれ以外は不定形石器として扱った。礫石器及び石核石器はその形状と使用痕跡によって磨製石斧、打製石斧、磨石、凹石、敲石、砥石、石皿、石棒、石刀、石剣に分類した。掲載した以外の石器はコンピュータにその計測値と石質ならびに観察事項を入力したが、時間的制約によりこれらの詳しい統計化及び検討ができなかった。これらを含めたデータの検討は、今後何らかの形で発表したい。

①石鏃(第183図～第188図・2223～2393)

包含層及び遺構外からは1,598点(総数:1,698点)出土している。全石器中の割合は約54%で最も多い。なお、分類には含めていないものもあるが、規模及び加工から未製品と考えられるものをあわせると約2,000点となる。鈴木(1991)の分類を参考に、主に基部の形状からVI群8類に細分した。第図には包含層における全種類の出土分布図、第図には黒曜石製品の出土分布図を掲載した。

I群……無茎鏃のうち、基部に抉りを有する所謂「凹基鏃」

1類…2等辺三角形(長辺に対する短辺の割合が約0.8以上のもの)を呈するもの

2類…正三角形に近いもの(上記の割合が約0.8以下のもの)

a類…抉りが浅いもの b類…抉りがふかいもの

II群……無茎鍬のうち、基部が平坦な所謂「平基鍬」 1類…同上 2類…同上

III群……無茎鍬のうち、基部が突出する所謂「凸基鍬」 1類…同上 2類…同上

IV群……有茎鍬

V群……未製品? 及び破損のため形態が不明なもの

なお、観察表には破損部分を下記の分類によって記載している。

A…先端部破損 B…鍬身上半部破損 C…鍬身下半部破損 D…基部破損 E…鍬身縱方向破損

*「」は残存 1…横方向 2…斜め 3…縱方向 4…破損部に剥離痕を残すもの

I群 1 a類

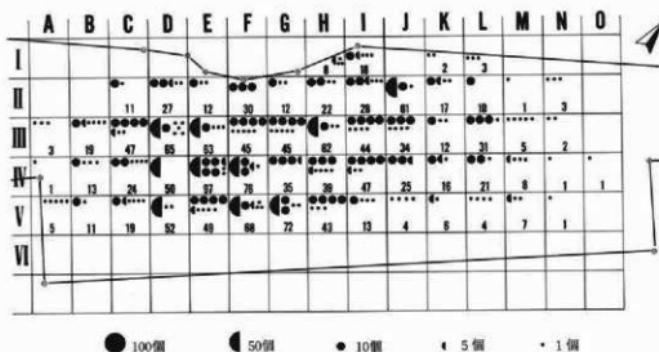
出土総数は503点(包含層・遺構外出土数487点)で、約30%を占める。破損の著しいものを除く、鍬身長及び重量の集計値は最大長4.9cm、最小長1.3cm、平均値2.4cm、最大重量4.9g、最小重量0.21g、平均値1.37gである。なお、2253等大型ものは尖頭器とした方が良いかも知れない。黒曜石製のものは146点で、これらの集計値は最大長2.4cm、最短長1.4cm、平均1.7cm、最大重量2.65g、最小重量0.23g、平均値は0.58gである。

I群 1 b類

出土総数は501点(465点)で、約29%を占める。集計値は最大長4.7cm、最小長1.3cm、平均値2.2cm、最大重量3.36g、最小重量0.21g、平均値0.73gである。黒曜石製のものは201点で、これらの集計値は最大長2.6cm、最短長1.3cm、平均1.8cm、最大重量0.82g、最小重量0.21g、平均0.48gである。

I群 2 a類

出土総数は93点(92点)で、器種中の割合は約5%である。集計値は最大長2.5cm、最小長1.1cm、平均値1.7cm、最大重量3.01g、最小重量0.26g、平均値0.82gである。黒曜石製のものは49点で、これらの集計値は最大長2.1cm、最短長1.1cm、平均1.5cm、最大重量1.9g、最小重量0.26g、平均0.63gである。



第50図 石鏟出土分布図

I群2b類

出土总数は63点(60点)で、器種中の割合は約4%である。集計値は最大長2.7cm、最小長1.0cm、平均値1.5cm、最大重量1.02g、最小重量0.18g、平均値0.45gである。黒曜石製のものは31点で、ほぼ半数である。これの集計値は最大長2.0cm、最短長1.0cm、平均1.3cm、最大重量0.4g、最小重量0.18g、平均は0.3gである。

II群1類

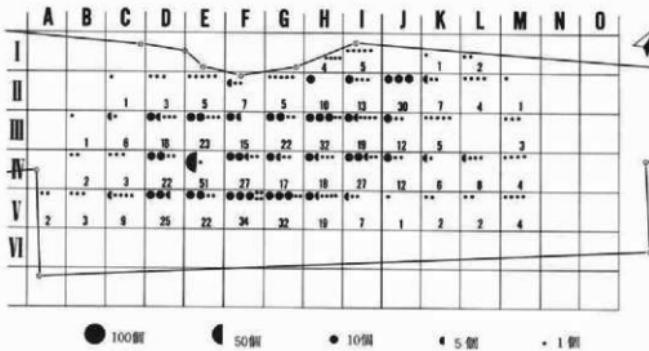
出土总数は190点(182点)で、器種中の割合は約11%である。集計値は最大長4.0cm、最小長1.3cm、平均値2.5cm、最大重量5.98g、最小重量0.35g、平均値1.8gである。黒曜石製のものは60点で、31%と上記の各種より少ない。これの集計値は最大長2.7cm、最短長1.3cm、平均1.86cm、最大重量1.93g、最小重量0.35g、平均0.9gである。

II群2類

出土总数は35点(33点)で、器種中の割合は約2%である。集計値は最大長2.5cm、最小長1.1cm、平均値1.7cm、最大重量2.98g、最小重量0.27g、平均値1.1gである。黒曜石製のものは20点での、類中の割合は高い。これの集計値は最大長2.1cm、最短長1.1cm、平均1.56cm、最大重量2.0g、最小重量0.27g、平均0.9gである。

III群1類

出土总数は92点(85点)で、器種中の割合は約5%である。集計値は最大長4.1cm、最小長1.55cm、平均値2.28cm、最大重量4.94g、最小重量0.6g、平均値1.83gである。黒曜石製のものは15点で、16%と少ない。これの集計値は最大長3.1cm、最短長1.55cm、平均1.96cm、最大重量3.43g、最小重量0.6g、平均1.36gである。なお、当類としたものには全体の加工が難なものや錐長に対する厚さが大きいものが多く、また、先端部が鈍角なものもある。これらの属性については、未製品や失敗品(制作を放棄)可能性もあるが、後述する尖頭器様石器に類似する点も多い。



第51図 黒曜石製石器出土分布図

III群2類

出土総数は30点(遺構内出土は無い)で、器種中の割合は約1.7%である。集計値は最大長2.6cm、最小長1.6cm、平均値1.98cm、最大重量3.75g、最小重量0.65g、平均値1.7gである。黒曜石製のものは13点で、これの集計値は最大長1.7cm、最短長1.6cm、平均1.63cm、最大重量1.95g、最小重量0.42g、平均0.85gである。黒曜石製品では非対称なものや加工が難なものが目立ち、完成品としてではなく未製品、特に制作途上での廃棄品である可能性がある。

IV類

出土総量は28点(19点)で、器種中の割合は約1.6%を占めるだけである。遺構内ではRD01土坑から出土した6点があり、これらには黒曜石の製品は含まれていない。基部の形状で細分されるが、斜めに茎部につながるもの(1類)が10点、基部が平坦のもの(2類)が11点である。この他には基部と茎部の境の無い「柳葉状」のもの(3類)が5点、形態不明が2点である。なお、黒曜石製品は8点で、1類・2類が各3点、不明2点である。

V類

極端な左右不均衡なもの、加工が中途半端なもの及び破損等によって形態が不明なもの128点を一括した。

②尖頭器様石器(第188図～第189図・2394～2426)

119点(遺構内5点)を登録した。岡村他(岡村・森鴎:1984)の「尖頭器様石器」に類似するものである。ほぼ全面に細部剥離加工が施されて成形される石器で、形状や加工は尖頭器や石鎚に類似するが、尖頭部を持たないか鈍角なものである。石鎚や小型の尖頭器の粗製品や未製品を含む可能性があり、特に黒曜石製のものは石鎚の半製品や未製品の可能性が高いと考えられる。また、一部は石鎚の可能性もあるが、石鎚との区別は尖頭部の断面形を識別の基準とし、多角形で厚みを持つものは石鎚として分類した。比較的鋭利な尖頭部を持つものをI類、持たないものをII類とした。用途については不明であるが、II類については縁辺部を使用するスクレイパー的な用途も考えられる。なお、いずれも連続する押圧剝離によって割合丁寧に作られているものと粗い剝離によるものがある。

I類…84点(遺構内4点)を登録、23点(3点)を実測・掲載した。掲載数内の集計値は最大長5.7cm、最短長2.0cm、平均値3.1cm、最大重量20g、最小重量1.9g、平均値5.94gである。

II類…35点(遺構内1点)を登録、13点(3点)を実測・掲載した。掲載数内の集計値は最大長4.7cm、最短長2.1cm、平均値2.9cm、最大重量11.3g、最小重量2.0g、平均値5.6gである。

③石鎚(第190図～第191図・2427～2463)

121点(遺構内10点)を登録した。全体の形状とツマミの有無により細分したが、厳密なものではない。

I類…ツマミを作り出しているもので、刃部(機能部)が長いものa種、短いものb種とした。Ia類は45点(3点)中8点を実測・掲載し、Ib類は7点中2点を実測・掲載した。なお、破損により形態が不明なものが1点ある。

II類…棒状を呈するもので、加工が器面全体におよびツマミを持たないものをa種、中央にツマミ?(膨らみ)を有するものをb種、加工が部分的なものをcとした。IIa類は8点(1点)中5点を、IIb類は1点、IIc類は7点(1点)中4点を実測・掲載した。

III類…平面形が長い水滴形のもので、全体に厚みの無いものをa種、厚みを有するものをb種とした。右側

のⅢ群や尖頭器に類似するが、尖頭部の断面形で識別した。遺構内からの出土はない。Ⅲ a 類は10点、Ⅲ b 類は点13点でそれぞれ5点を実測・掲載した。

IV 類…剥片の一部を尖らせ刃部としたもので、素材の形状には定形性はない。11点(1点)中6点を実測・掲載した。

V 類…他の石器と複合する機能を持つものや転用品と考えられるものを一括した。ツマミを持つものを a 類、持たないものを b 類とした。V a 類は4点(1点)中3点、V b 類は4点(1点)を実測・掲載した。

④石匙(第191図～第193図・2463～2484)

出土総数は68点(遺構内4点)である。ツマミの位置により縦…Ⅰ類、横…Ⅱ類、中間…Ⅲ類に3分類した。Ⅰ類は62点(3点)と全体の9割以上を占める。この内20点を実測・掲載している。Ⅱ・Ⅲ類は共に3点のみの出土で、これらは全て掲載した。刃部の形態には凸刃、凹刃、直刃がありこれらが複合するものが多い。また、この他に尖頭部を合わせ持つものがある。Ⅰ類では23点(37%)が尖頭部が複合している。

⑤尖頭器(第193図・2485～2493)

剝離加工によって尖頭部を作り出している石器で、この部分が主要な機能部(使用部)となっているもの及びその可能性が高いものである。大半は所謂「石槍」で、遺構外と包含層から15点が出土している。この内9点を実測・掲載した。

⑥鎧状石器(第193図～第194図・2494～2504)

主に形状から分類した。水滴形を呈し、端部に刃部加工を有するもので、加工は両面からのものと片面からのものがある他、細かな押圧剝離によるものと粗いものがある。11点を登録し、掲載した。

⑦異形石器(第195図・2505～2506)

3点(遺構内1点)を当てた。抉入部を持つものや石錐・石匙に分類される可能性もある。2505は石錐の未製品の可能性もある。

⑧不定形石器(第195図～第198図・2507～2584)

上記以外の剥片石器386点(遺構内38点)を一括し、形状と刃部形態から細分した。

I 類…剥片の一辺または全縁に刃部加工が施された石器で、刃部の形態と設置位置によって a～c に細分される。各種スケイバー類とされる石器群である。また、各類は1：一縁辺に刃部を持つもの 2：2～3 縁辺に刃部を持つもの 3：全縁に加工がおよぶものに細分される。なお、刃部形態には直刃、凸刃、凹刃があり、さらに鋸歯状のものや抉入状のものがある。所謂「搔器・削器類」である。

a 類…剥片の縁辺部に刃部加工が施されるものである。292点(遺構内30点)で、類中の割合は76%以上を占める。73点を実測・掲載した。刃部形態では凸刃が194点で最も多いが、直刃と複合するものが21点、凹刃と複合するものが12点ある。なお、直刃を持つものは77点、凹刃を持つものは43点である。

b 類…尖頭部を作り出しているものの内、尖頭部が主要な使用部(機能部)と考えにくいものを当類としたが、尖頭器や尖頭器様石器のような定形性はない。また、尖頭部は石錐等のような柱状ではない。56点(遺構内4点)を登録し、19点を実測・掲載した。いずれも他の刃部と複合しており、凸刃との複合37点、直刃との

複合13点、凹刃複合するものが9点である。

c類…尖頭部が主要な機能部と考えられるもので、「刺突具」的用途が推定されるが、この尖頭部も石錐ほど鋭いものではない。尖頭部の両側には丁寧な加工を持ち、この部分が機能部の可能性もある類である。23点(遺構内2点)を登録し、8点を実測・掲載した。

II類…向かい合う縁辺部に2個一対または4個一対の刃部を有する石器で、所謂「楔形石器」である。遺構外及び包含層から出土した15点を登録した。2個一対の刃部を持つものをa類、4個一対のものをb類として2細分した。

a類…13点を登録、9点を実測・掲載したが、黒曜石製の2点は剥片取得時の加工の可能性がある。

b類…2点のみの出土である。

また、ほとんど実測及び掲載は行っていないが、細部加工剥片(Rフレ)が149点(遺構内13点)と、使用痕が見られる剥片(Uフレ)69点(遺構内3点)が点出している。これらについては、加工や使用箇所によって、I類：鋭利な縁辺部に加工痕や使用痕を持つもの a種：凸辺 b種：凹辺 II：剥片の先端部や尖頭部に加工痕や使用痕を有するものに分類した。各類の数量は下記の通りである。

Rフレ：I a類102点(遺構内95点)、I b類27点(25点)、II類20点(18点)1点はIと複合。

Uフレ：I類57点(遺構内1点)、II類8点(遺構内なし)。

これらの他に残核1点を実測・掲載している(第199図2591)。

⑨磨製石斧・打製石斧(第199図～第201図・2592～2611)

30点(遺構内3点)を登録し、破損度が激しい点を除いた点を実測・掲載した。この内小型の所謂「石爪」が6点ある。また、破損後再加工された可能性があるものが3点、器面に敲打痕跡を有するものが2点ある。なお、打製石斧は遺構内から1点が出土しているだけである。

⑩擦器(第201図・2612～2615)

5点(遺構内1点)を登録した。自然縫に難な加工を施して刃部?としているもので、ほとんどは大きな剝離加工であるが、2613は一個辺部を両面から研磨している。

⑪磨石・凹石・敲石(第201図～206図・2616～2666)

自然縫を利用し「擦る、敲く、潰す」といった機能を有する石器群で、使用痕跡によって機能別に分類されるが、複合するものが多くより使用頻度の多いと考えられる器種に含めた。

磨石…154点(遺構内37点)を登録した。使用する面により I類：器面の広い部分(表裏面及び全面)に使用痕を有するもの II類：狭い面(側面)に使用痕を有するものに大別される。

I類…144点(遺構内36点)中43点を実測・掲載した。敲打痕を合わせ持つものが16点で、敲打痕が顕著で敲石との複合するものが2点、凹石との複合が2点、火熱を受けているものが8点ある。なお、重量が200g以下の小型のものが点あるが、石弾の可能性もある。重量の集計値は最大189.4g、最小61.6g、平均値は118.3gである。

II類…10点(遺構内1点)中5点を掲載した。敲石との複合が2点、火熱を受けているものが2点ある。

凹石…37点(遺構内12点)中21点を掲載した。20点が磨石と複合しするほか、6点は敲石と複合する。また、

3点に火熱を受けた痕跡が認められた。

蔽石…44点(遺構内13)中26点を実測・掲載した。使用痕跡からI類：あばた状のも　II類：Iに比べて凹凸がなく、磨石の使用痕に類似するもので、長椭円形を呈する小型の礫の先端部を使用するものが多い。

I類…29点(遺構内9点)中15点を掲載した。磨石と複合するものが7点ある。

II類…16点(遺構内4点)中11点を掲載した。磨石と複合するものが2点ある。

⑫石皿(第206図～第207図・2667～2670)

24点(遺構内6点)を登録した。敲打や研磨によって成形されているものをA類、扁平な自然石をそのまま利用したものをB類として2細分した。いずれも完形品はない。

A類…21点(遺構内4)中7点を掲載した。底面に脚を有するものが5点ある。中央部に敲打によるくぼみを有するものが1点、火熱を受けているものが3点ある。

B類…3点(遺構内2点)中遺構内出土の1点のみを掲載した。両面を使用しているものが2点、片面使用は1点で、前者はいずれも火熱を受けている。

⑬砥石(第207図・2671～2680)

29点(遺構内4点)を登録し、この内13点を掲載した。有溝のものが21点あるが、この内3点は材質から推定して石皿A類からの転用品と考えられる。

⑭石刀・石剣(第208図・2681～2694)

完形品が少なく全体の形状・形態が不明なため石刀・石剣とした。19点(遺構内3点)中11点を掲載した。2点を除き素材はホルンフェルスである。粗い研磨加工や敲打によって成形されるが、ほとんど無加工のものもある。

⑮石棒(第208図～第209図・2690～2695)

15点(遺構内3点)中点を掲載した。石刀・石剣同様破損品が多い。また、素材は1点を除いてホルンフェルスである。陽模状に頭部を作り出しているものが3点あるが、丁寧な加工ではない。

⑯石鏃(第209図2696～2697)

2点のみの出土である。いずれも扁平な梢円形の長縁に片面からの浅い削離加工を施している。

3. 石製品(第209図～212図・2698～2737)

包含層及び遺構外からは、40点が出土している。2698は甲状耳飾りで、前期の層から出土した。器面にはアスファルト状の物質が付着している。2699・2700は玉で、前者はRD01に伴っていたものと考えられる。2701は細長い自然礫の両端部に沈線が刻まれたもので、陽根を模したものか。2702～2706はいずれも孔が穿たれおり、鍾飾品と考えられる。2707・2708は線刻を持つ礫であるが、意匠はいずれも不明である。2709～2720は円盤で、2709～2713・2720は器面に難な研磨加工が見られる。また、2711・2712は擦痕状の線刻が見られる。2714～2719は周囲が打ち欠きによって成形されるものである。2721～2730は軽石製品で貫通孔を持つものが多く、浮子や鍾飾品としての用途が考えられる。2731～2733は有孔の自然礫で、鍾飾品として利用したもの

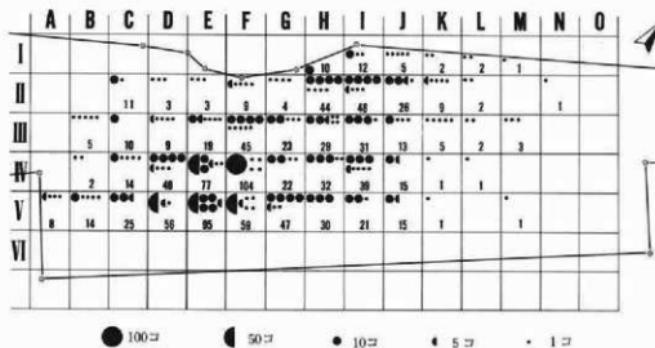
であろうか。2734～2736は種別を決めかねたもので、器面には僅かに擦痕等が見られる。2737は全体に粗雑な研磨加工痕が施された球状の小砾で、石弾の可能性もある。

4. 土製品(第213図～214図・2738～2764)

包含層及び遺構外からは27点が出土している。2738～2749は土偶である。いずれも破損品である。2738は沈線文による文様が施されている胴部破片である。2739～2748は刺突列が主体となって文様構成されている。2749は動物形土偶で、目は刺突、耳及び鼻先は粘土をつまみだすことによって表現している。動物の種類は不明である。2750は表裏両面に沈線による曲線文が施された円盤で、中央に直径1cm前後の円孔を持つことから、鍾飾品の可能性がある。2751は棒状で、難な刺突文が付けられる。2752は中央がくびれる筒状土製品で、内面にはアスファルト状の物質が付着している。腕輪といつては規模が小さく、大型の耳飾りの可能性がある。2753・2754は中央に貫通孔を有する玉、2755・2756は所謂「石斧形土製品」である。2757は側縁部が緩く窪み耳飾りの可能性がある。2768・2763は同様な形態を有する土製品で4個の貫通孔をもつ台状の部分と舌状の部分からなる。2759も縱横の貫通孔を有し、鍾飾品の可能性がある。2760～2764は土製品に群類したが、土器の装飾やミニチュア土器の可能性がある。2762は皿形土器のミニチュア土器、2764は把手の剥落した蓋形土器か。

5. 土器片円盤(第215図～220図・2765～2945)

土器片の周囲を打ち欠きまたは研磨によって加工したもので、多くは円盤形を呈するが、三角形、四角形、ハート形のものも含めた。出土総量は1158点(遺構内58点)である。時期的には前期前葉期(II群1類土器)から後期初頭期(IV群4類土器)まである。周辺の加工別の比率は全周研磨:22%、部分研磨:50%、打ち欠き:28%で、規模における集計値は最大径7.9cm、最小径1.5cm、平均値3.93cm、最大重量70.9g、最小重量2.32g、平均値14.51gである。貫通孔を有するものはないが、未貫通のものが1点ある。なお、第52図には、包含層における出土分布図を示した。

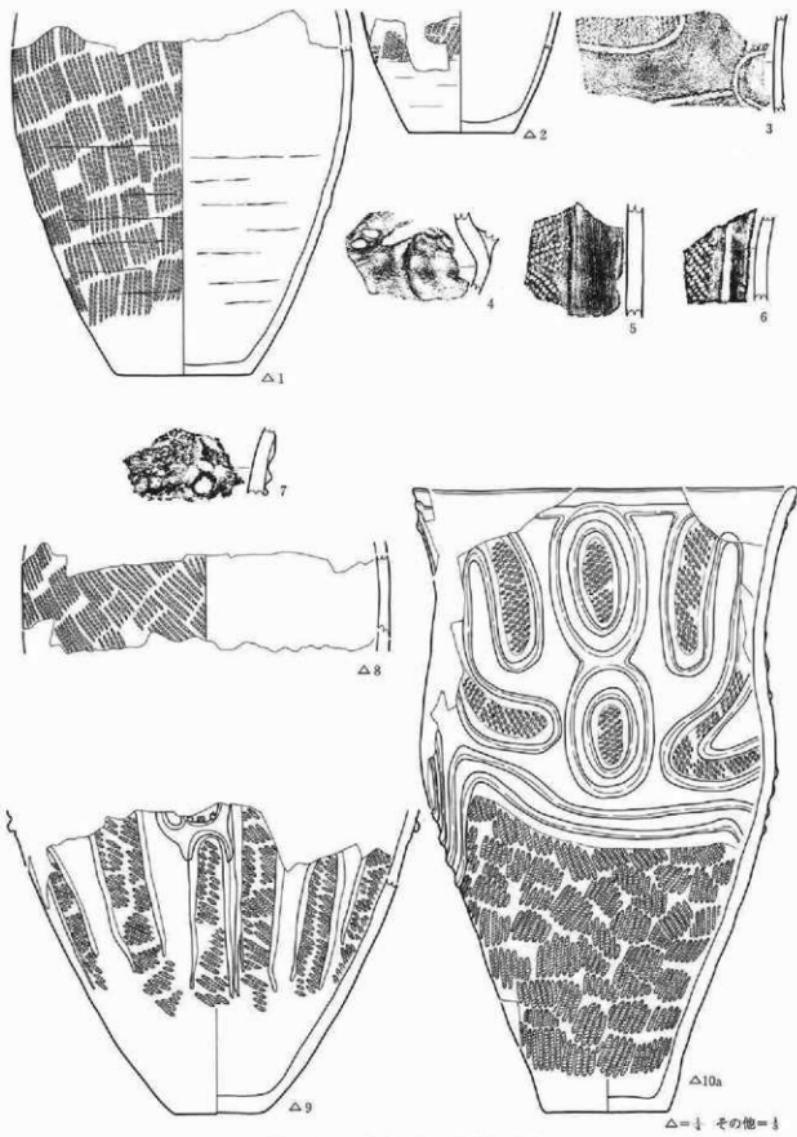


第52図 土器片円盤出土分布図

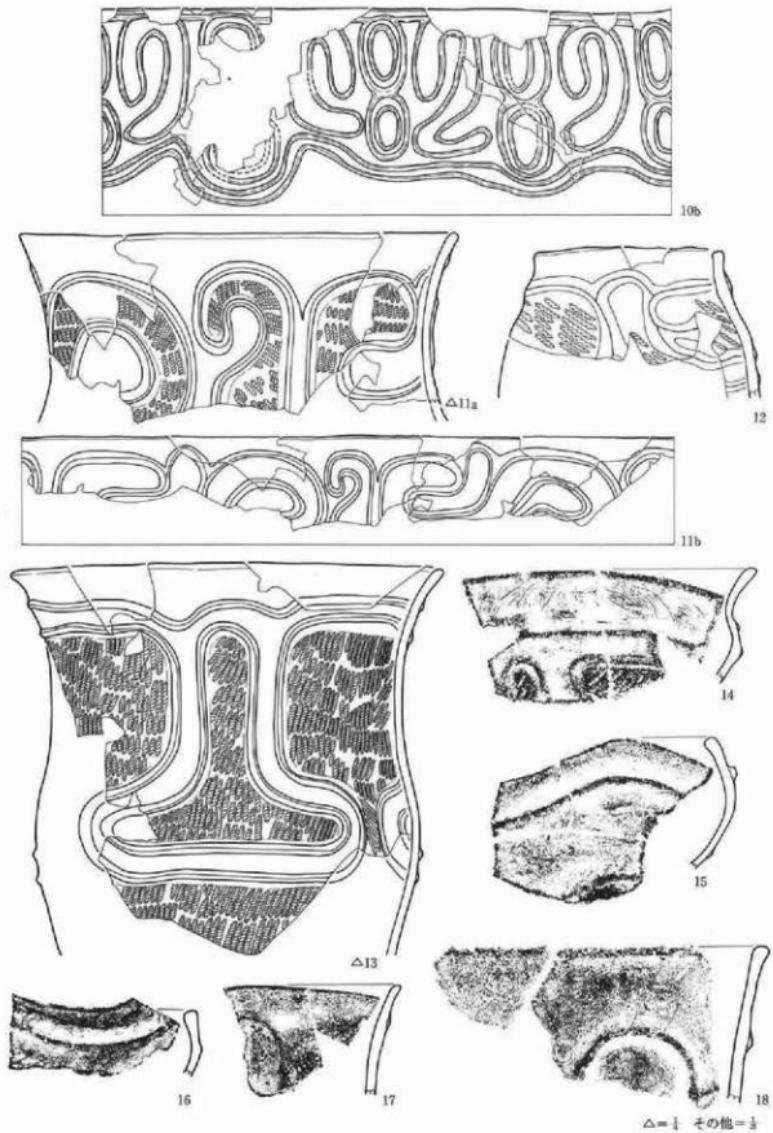
6. 自然遺物(写真図版192)

自然遺物には、琥珀、アスファルト、焼獸骨がある。写真図版2946は琥珀で、包含層E III区から破碎した状態で出土した。破片の形態から球形を呈していたものと考えられる。重量は0.93gである。2947・2948・2949はアスファルトで、2947は包含層E IV区、2948はC区の小柱穴、2949は包含層D V区からの出土である。2947は他の2者に比べて砂質で、ザラザラしており重く脆い。他の2者は塊状で、軽いがしっかりしている。重量はそれぞれ7.3g、3.59g、0.72gである。

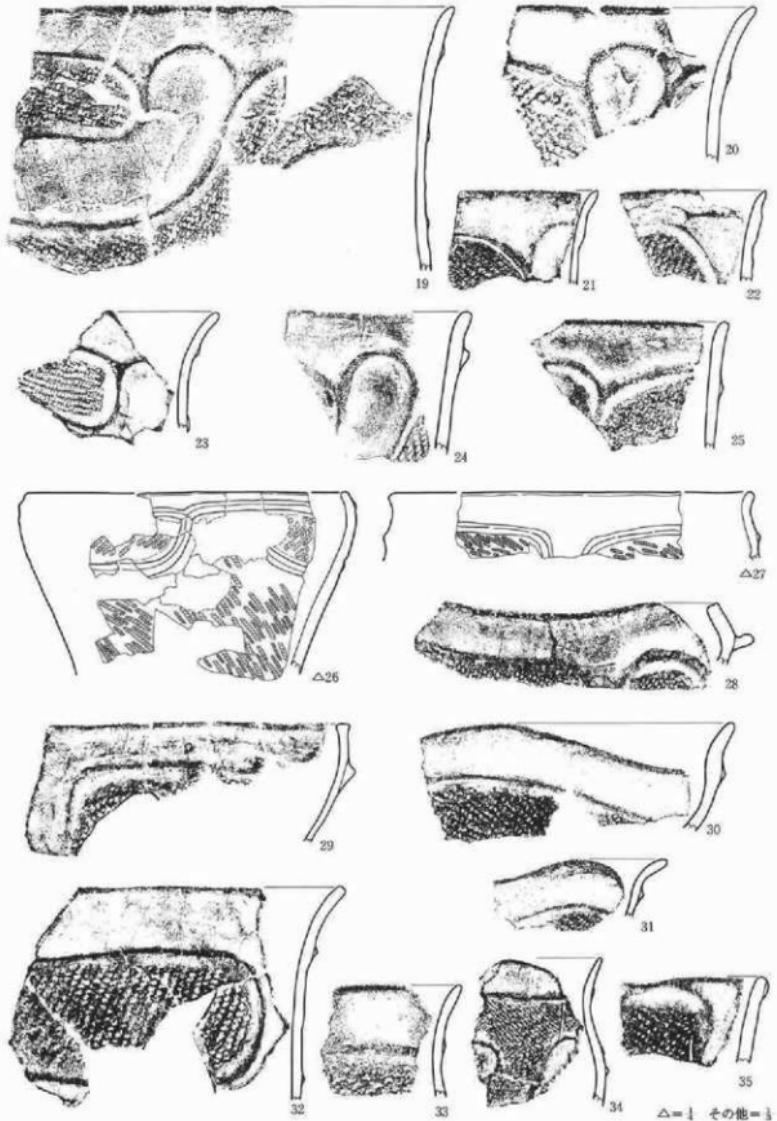
なお、焼獸骨についてはⅦ章で詳しく述べる。



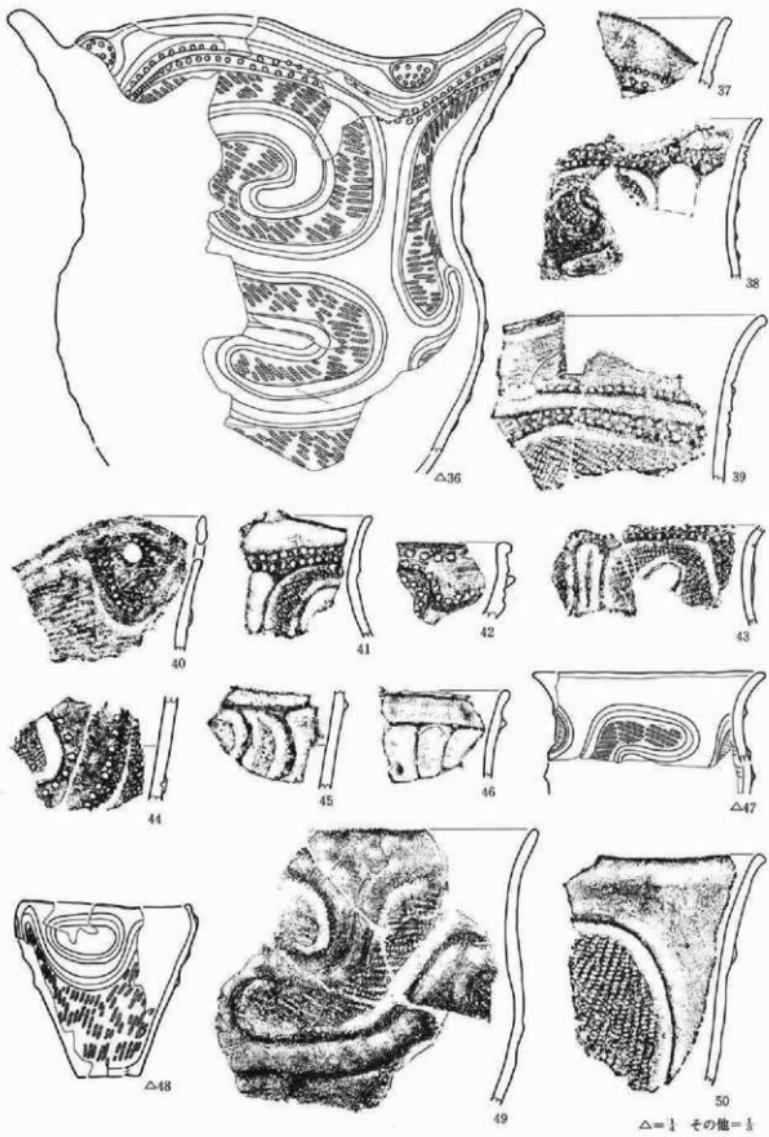
第53図 遺構内出土遺物(住居跡)



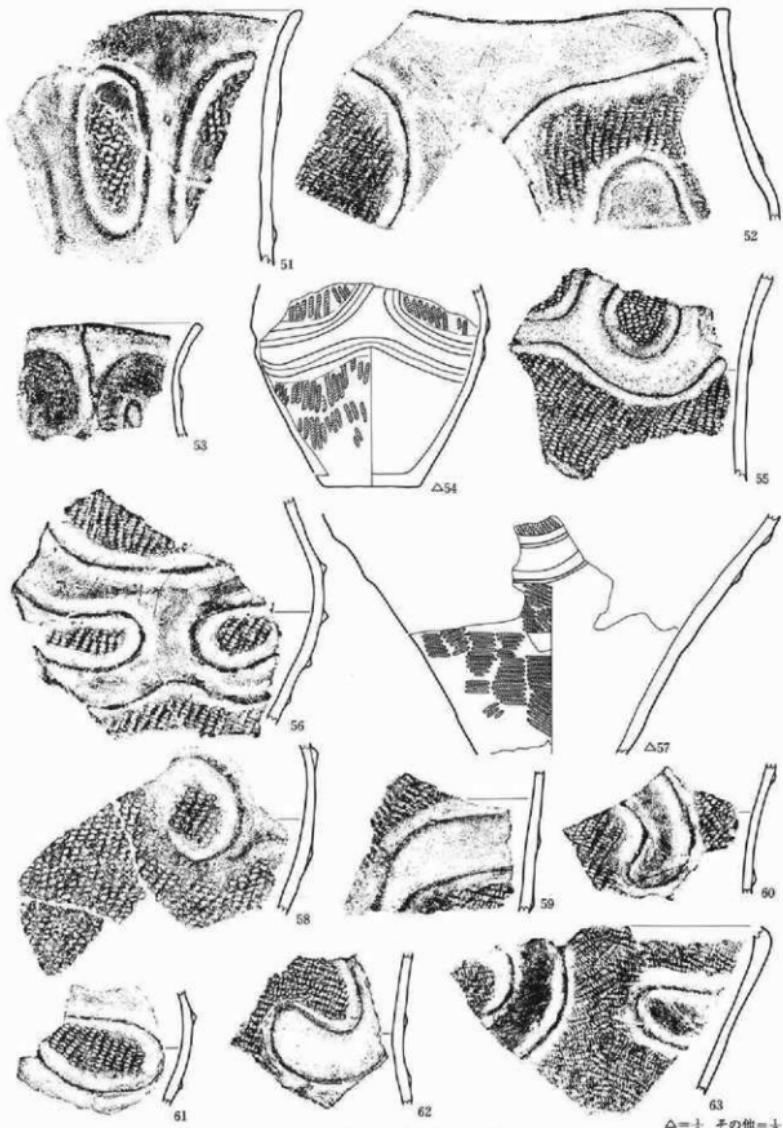
第54図 遺構内出土遺物(住居跡)



第55図 遺構内出土遺物(住居跡)



第56図 造構内出土遺物(住居跡)



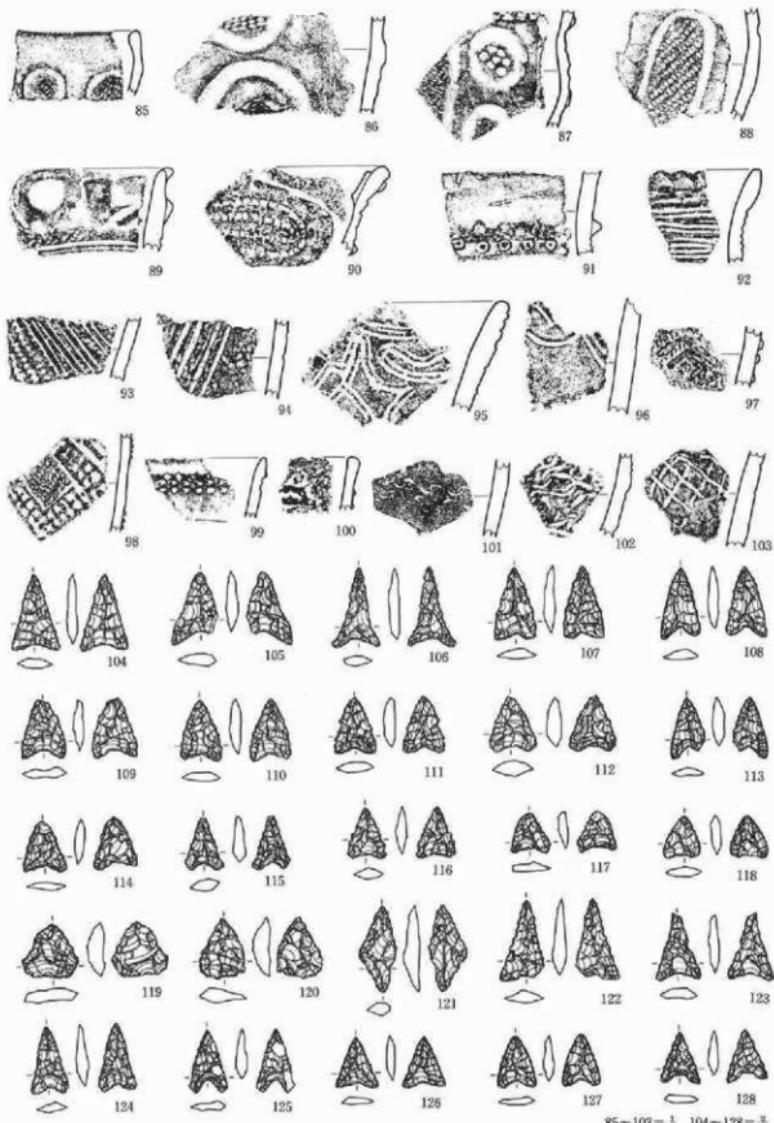
第57図 遺構内出土遺物(住居跡)

$\triangle = \frac{1}{2}$ その他 = $\frac{1}{3}$



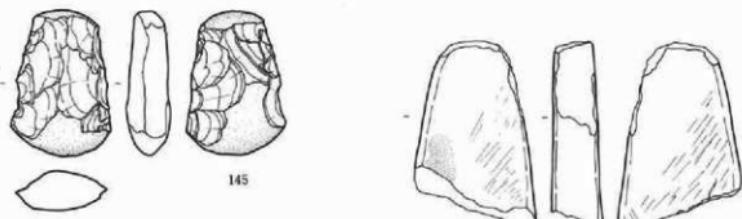
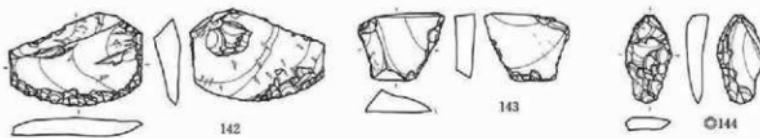
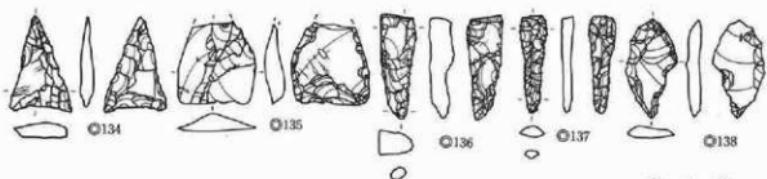
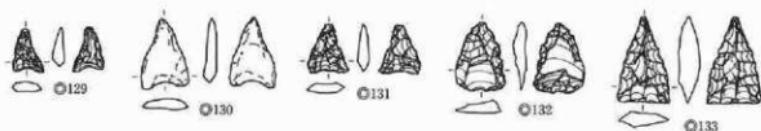
第58図 遺構内出土遺物(住居跡)

$\triangle = 1$ $\ast = 1$ その他 = 1



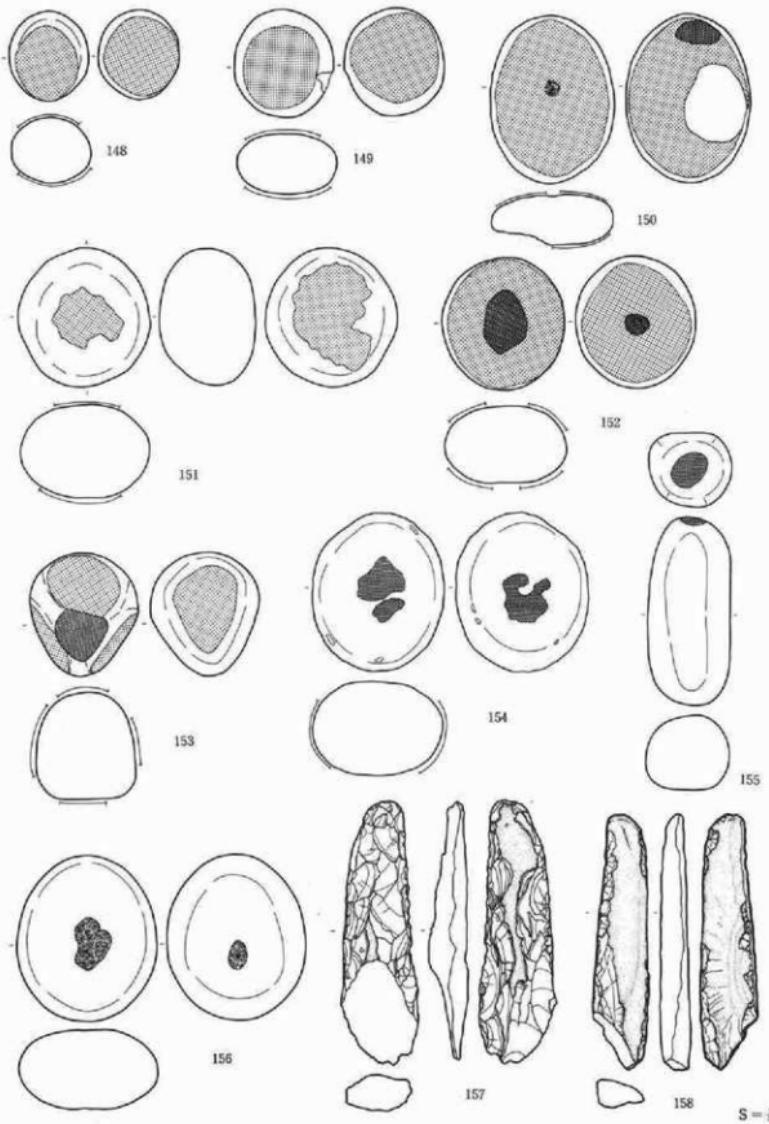
85~103 = 1 104~128 = 2

第59図 遺構内出土遺物(住居跡)

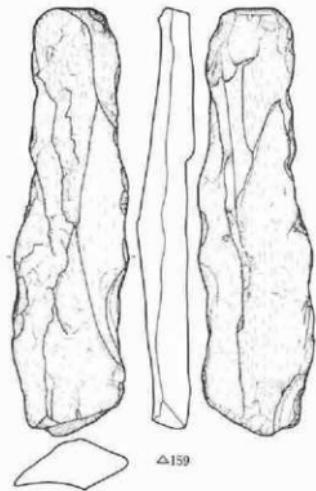


◎=3 その他=1

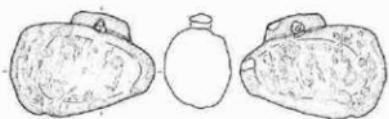
第60図 遺構内出土遺物(住居跡)



第61図 遺構内出土遺物(住居跡)



△159



161



○162



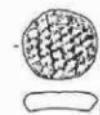
※163



※164



160



※165



※166



※167



※168



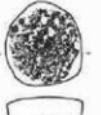
※169



※170



※171



※172



※173



※174



※175



※176



※177



※178

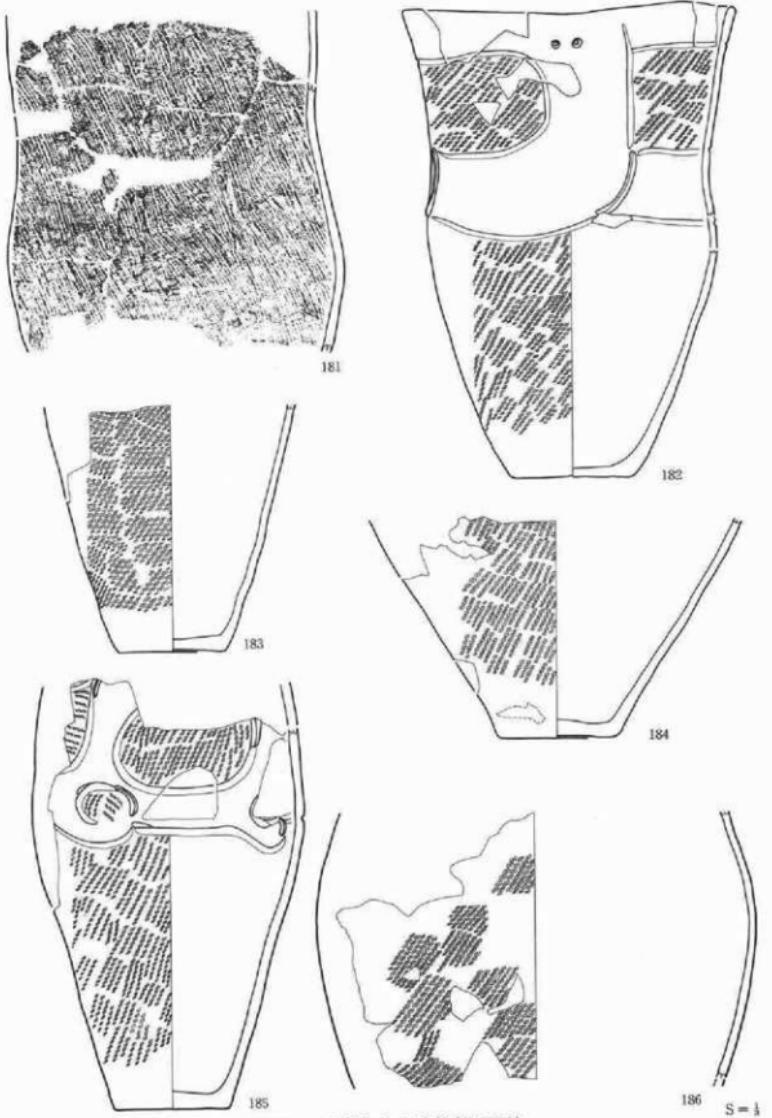


※179

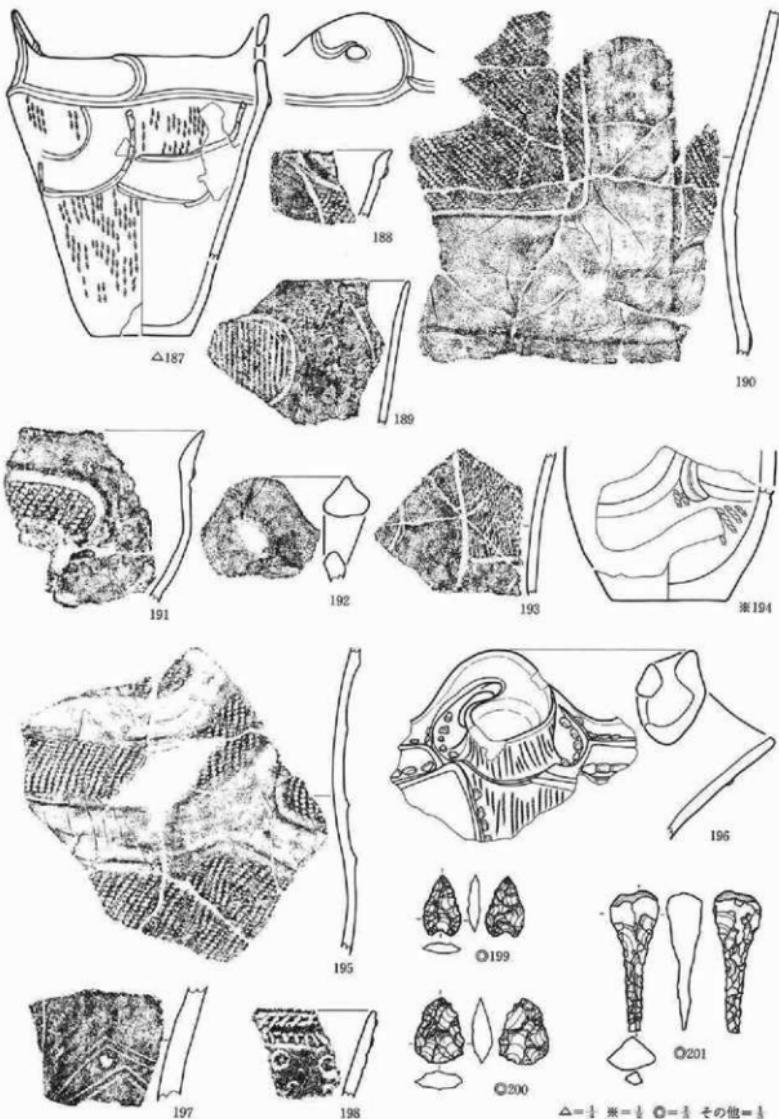


※180

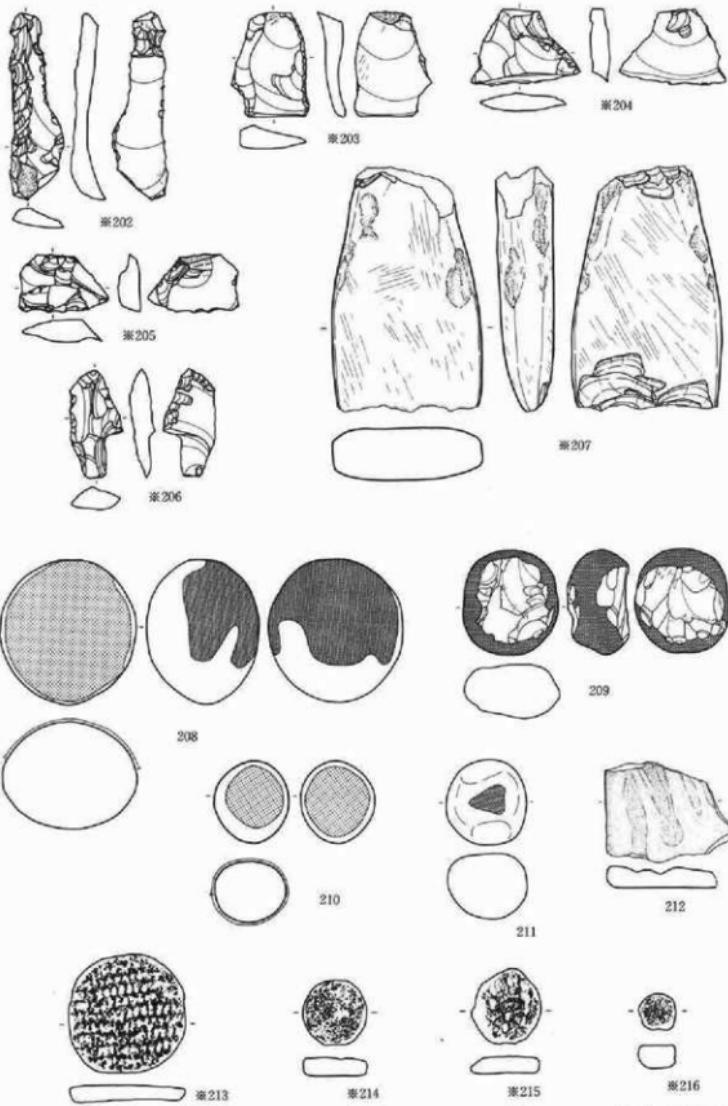
第62図 造構内出土遺物(住居跡)



第63図 遺構内出土遺物(住居跡)

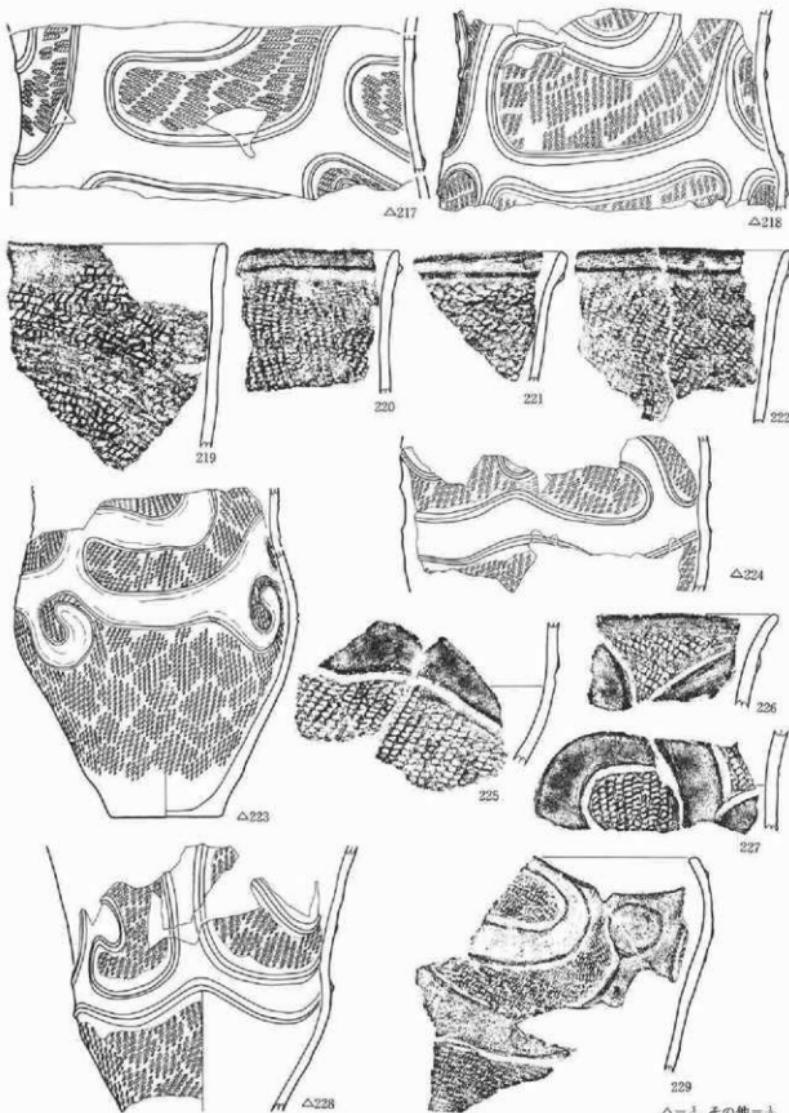


第64図 遺構内出土遺物(住居跡)

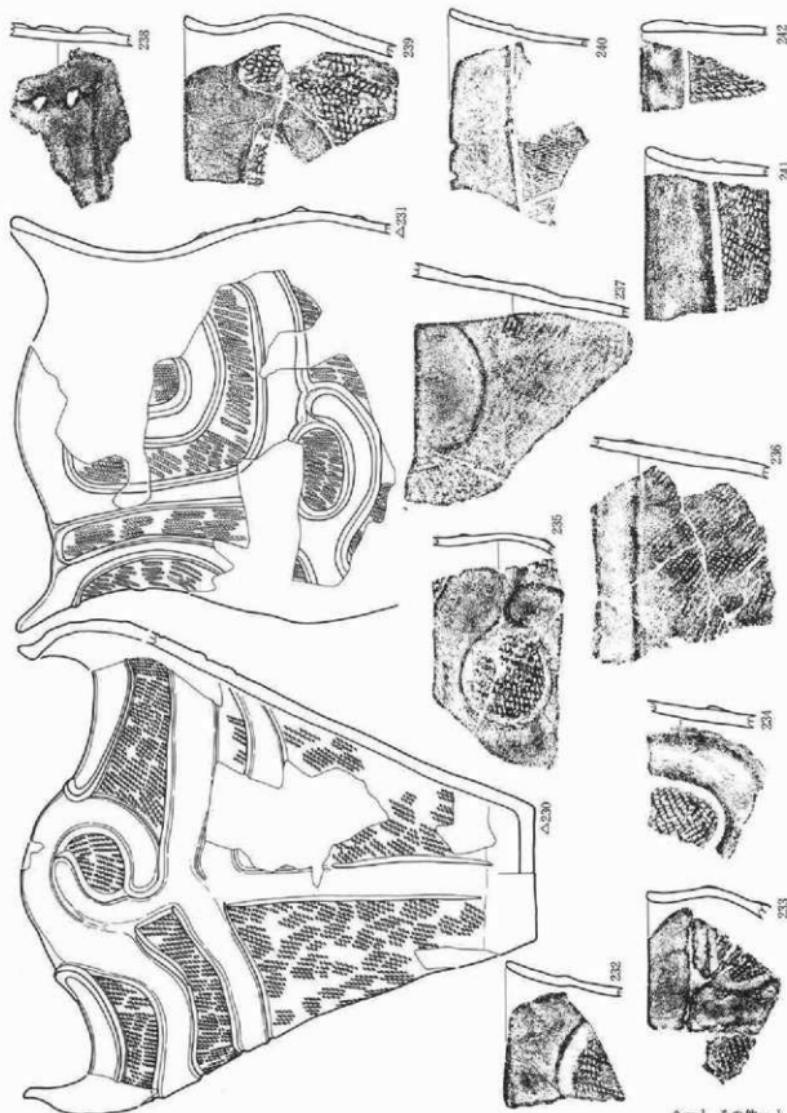


第65図 遺構内出土遺物(住居跡)

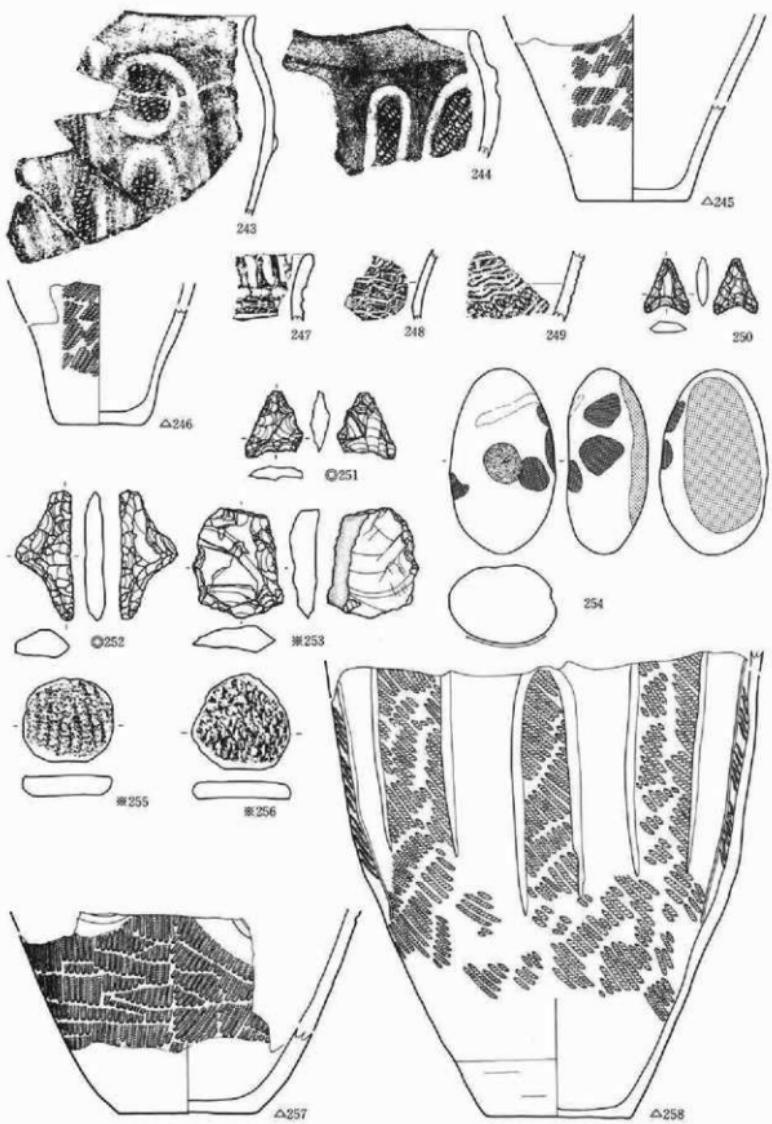
実 = 1 その他の = 1



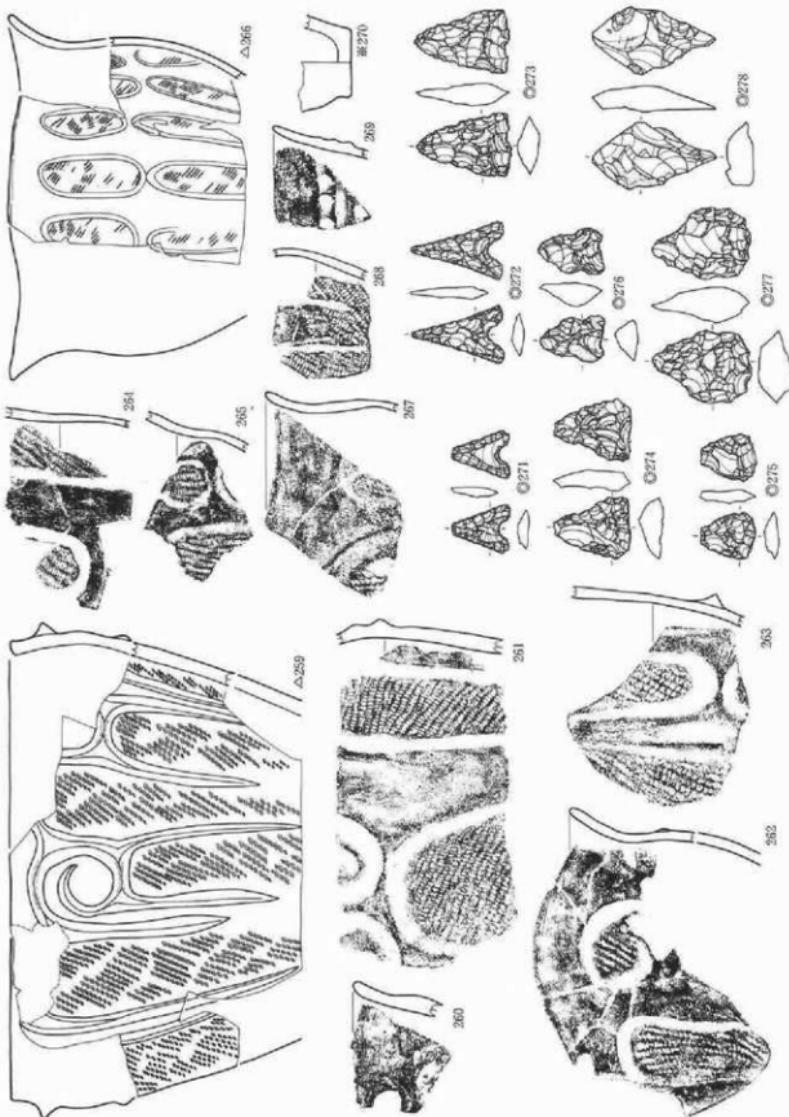
第66図 遺構内出土遺物(住居跡)



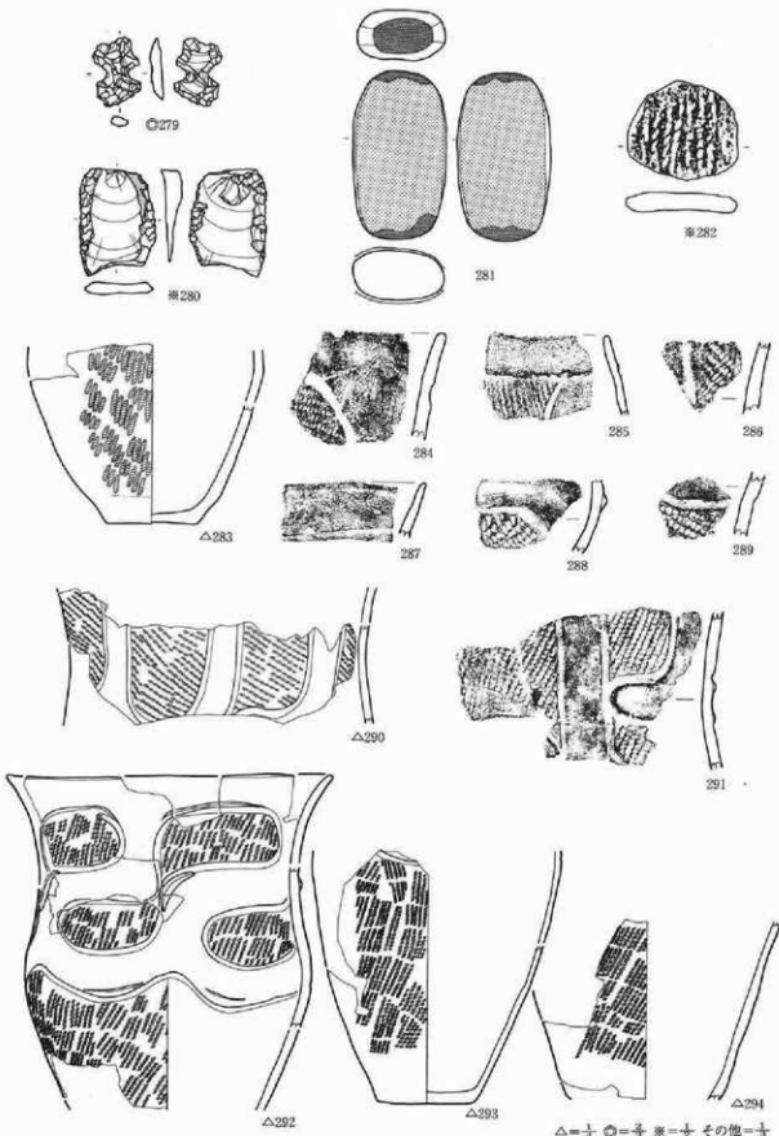
第67図 遺構内出土遺物(住居跡)



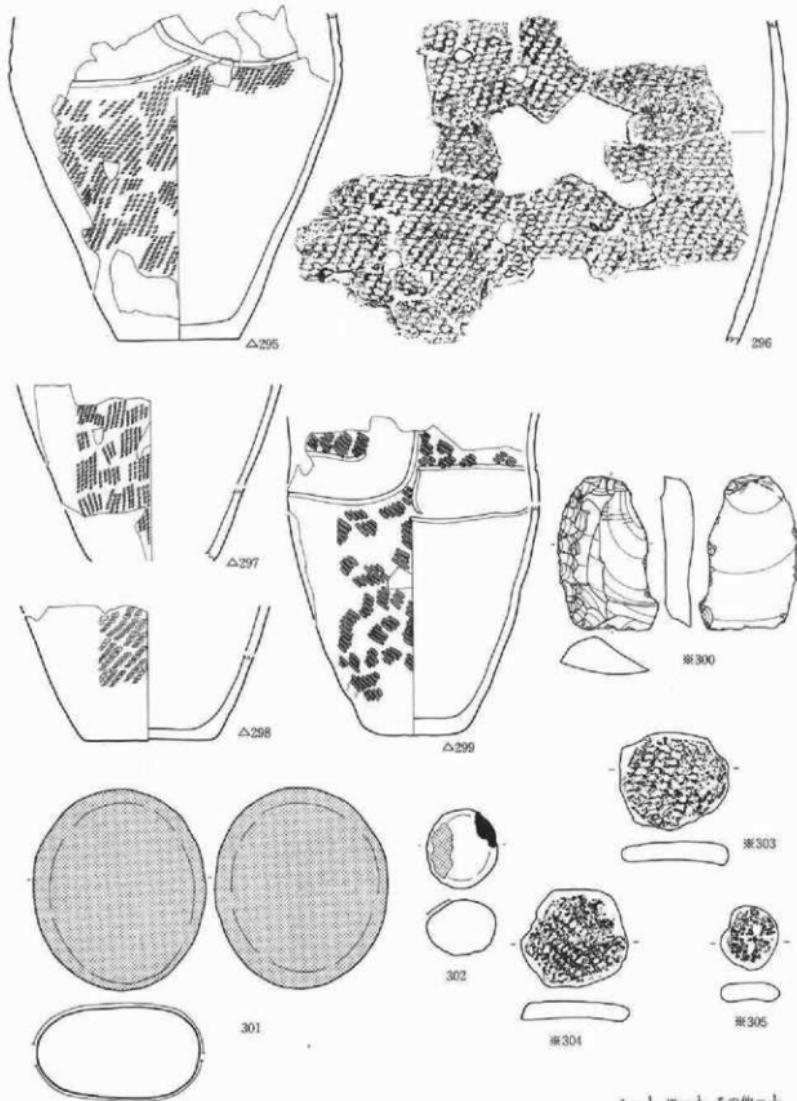
第68図 遺構内出土遺物(住居跡)



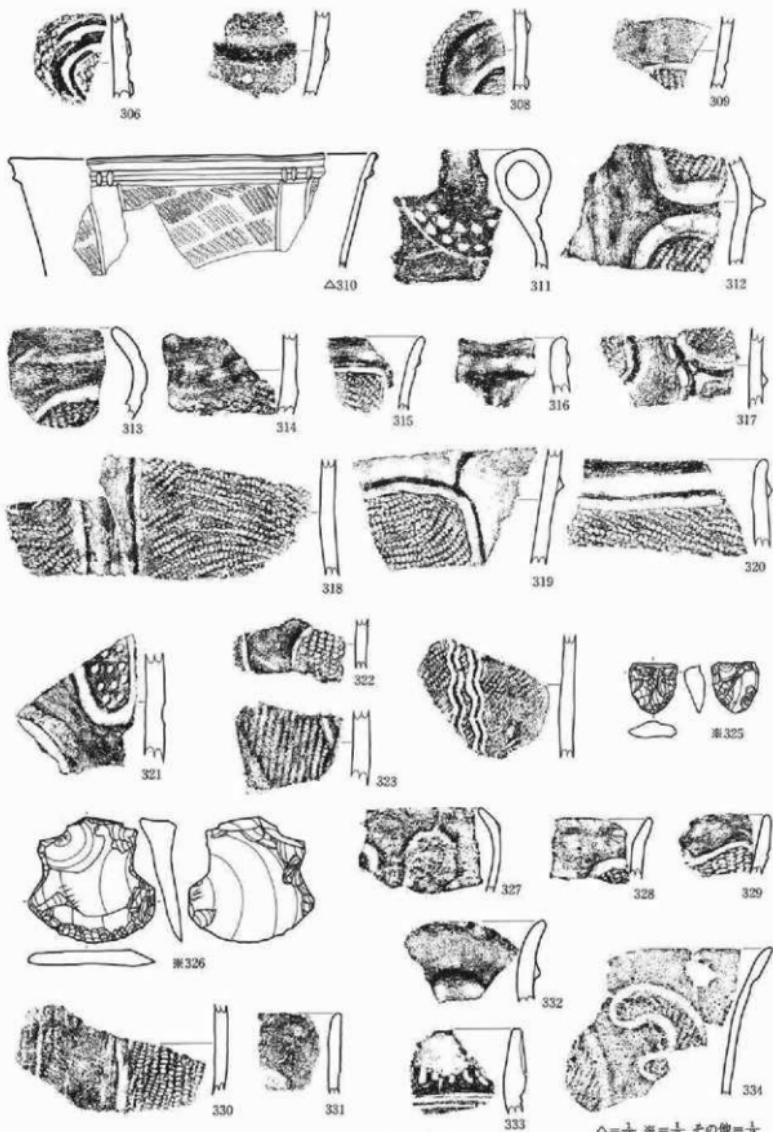
第69図 遺構内出土遺物(住居跡)



第70図 造構内出土遺物(住居跡)

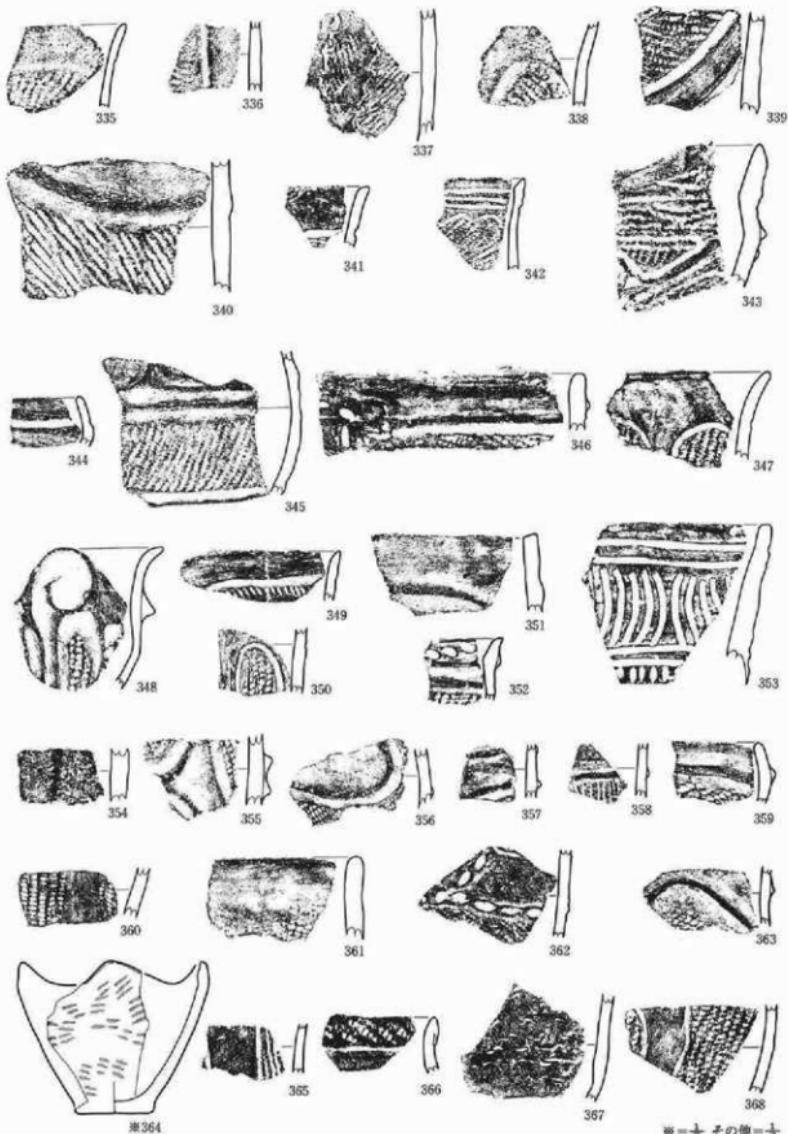


第71図 遺構内出土遺物(住居跡)



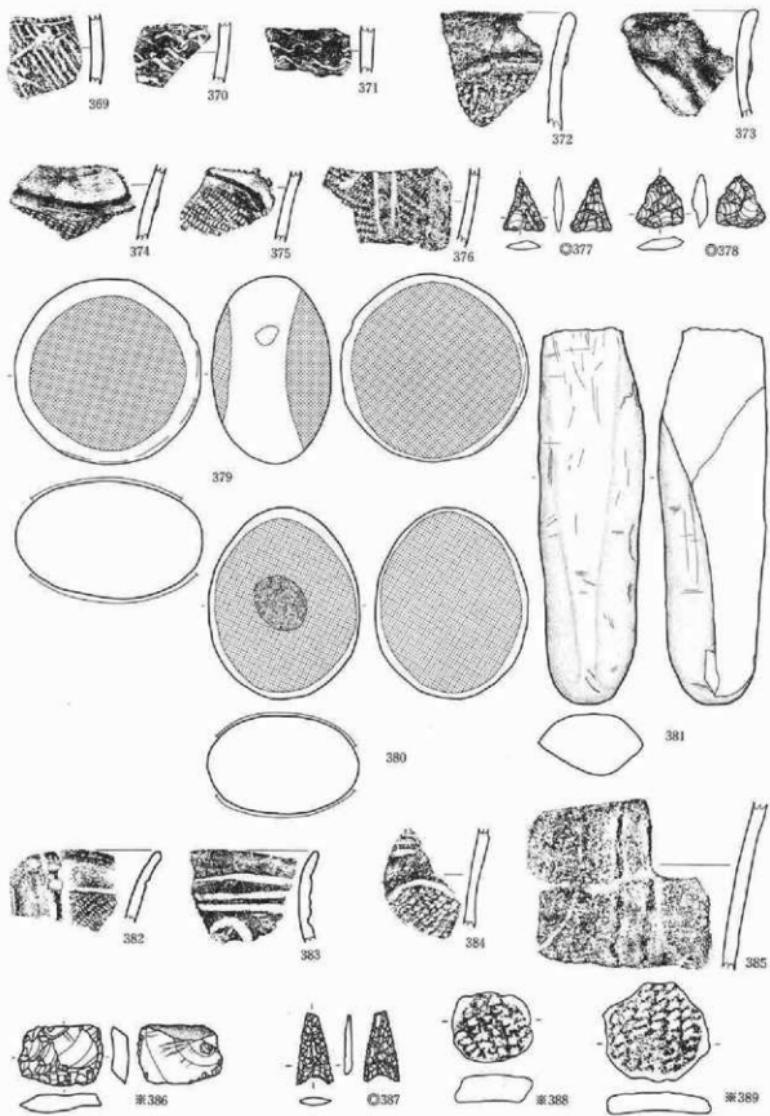
第72図 造構内出土遺物(住居跡)

$\Delta = \frac{1}{4}$ $\ast = \frac{1}{2}$ その他 = $\frac{1}{1}$



第73図 遺構内出土遺物(堀立柱建物跡、柱穴)

※=+ その他=+



第74図 遺構内出土遺物(柱穴)

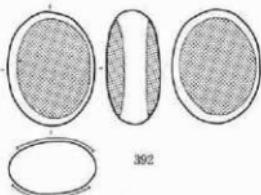
○=全 ■=半 その他=少



390



391



392



393



394



396



397



398



399



400



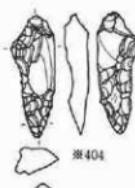
401



402



403



390



405



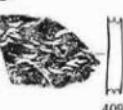
406



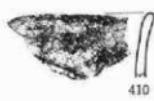
407



408



409



410



411



412



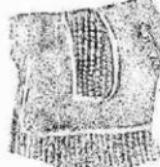
413



414



415



416



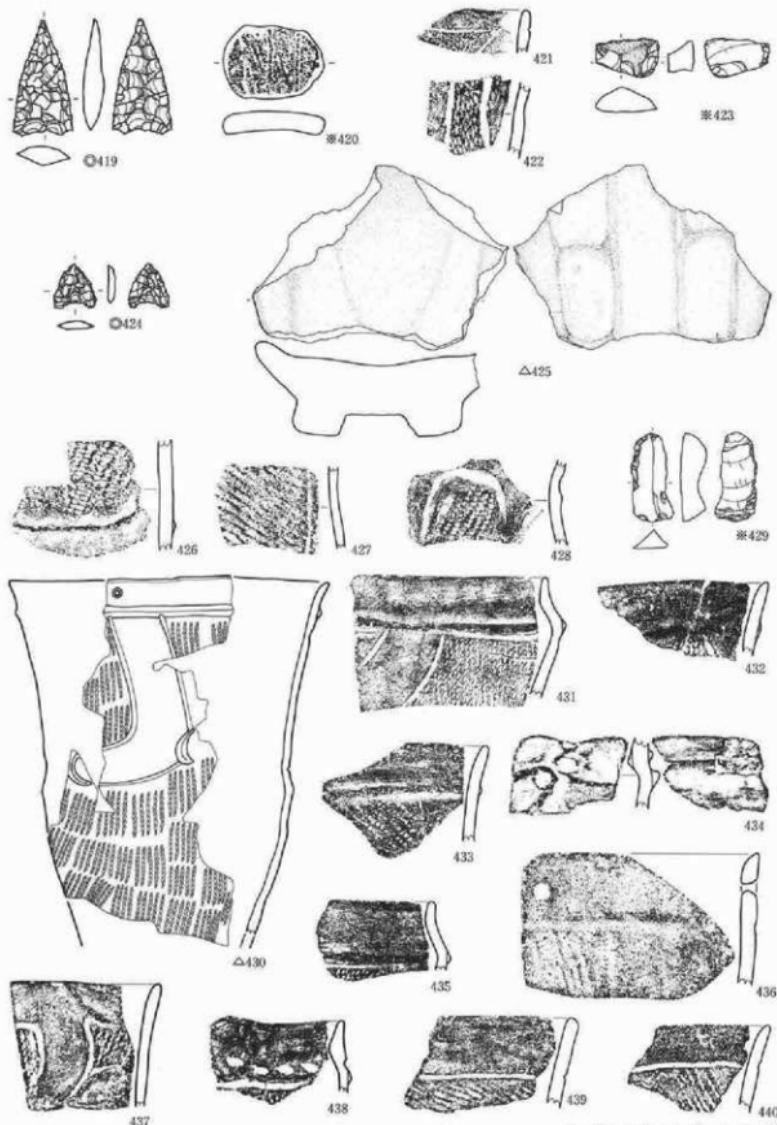
417



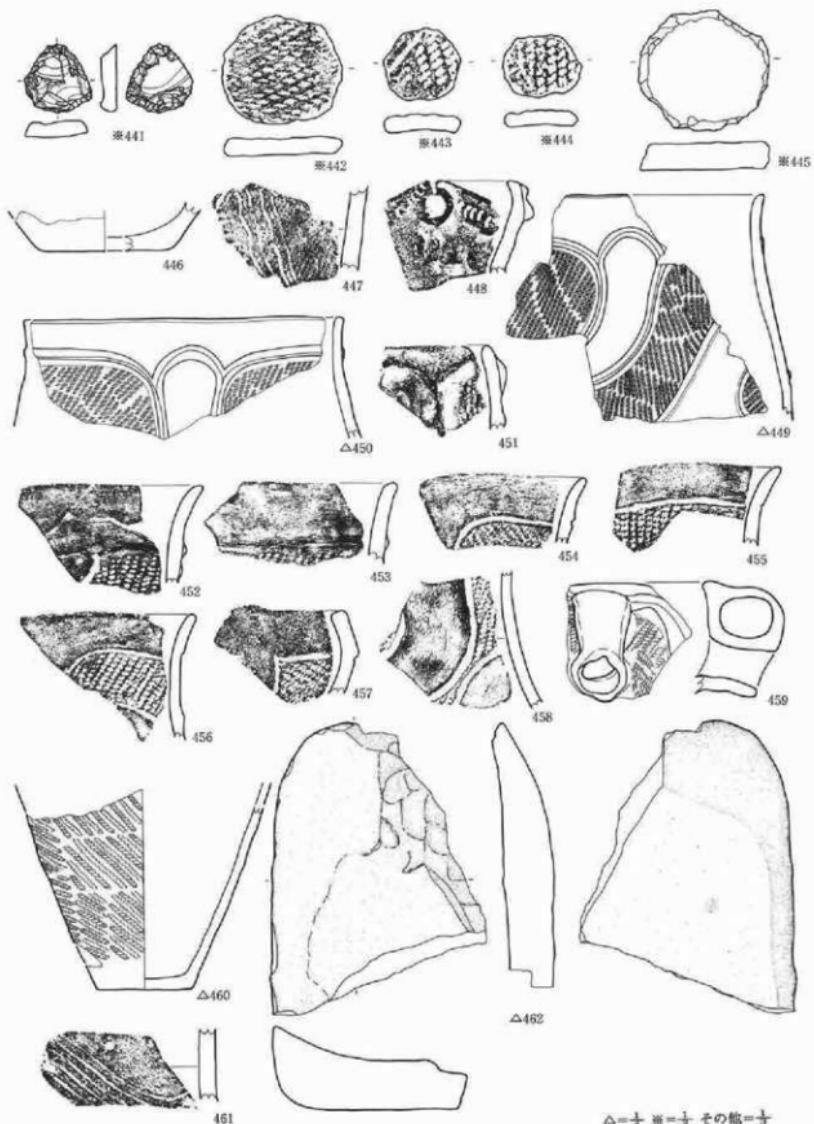
418

※=1/2 その他=1/3

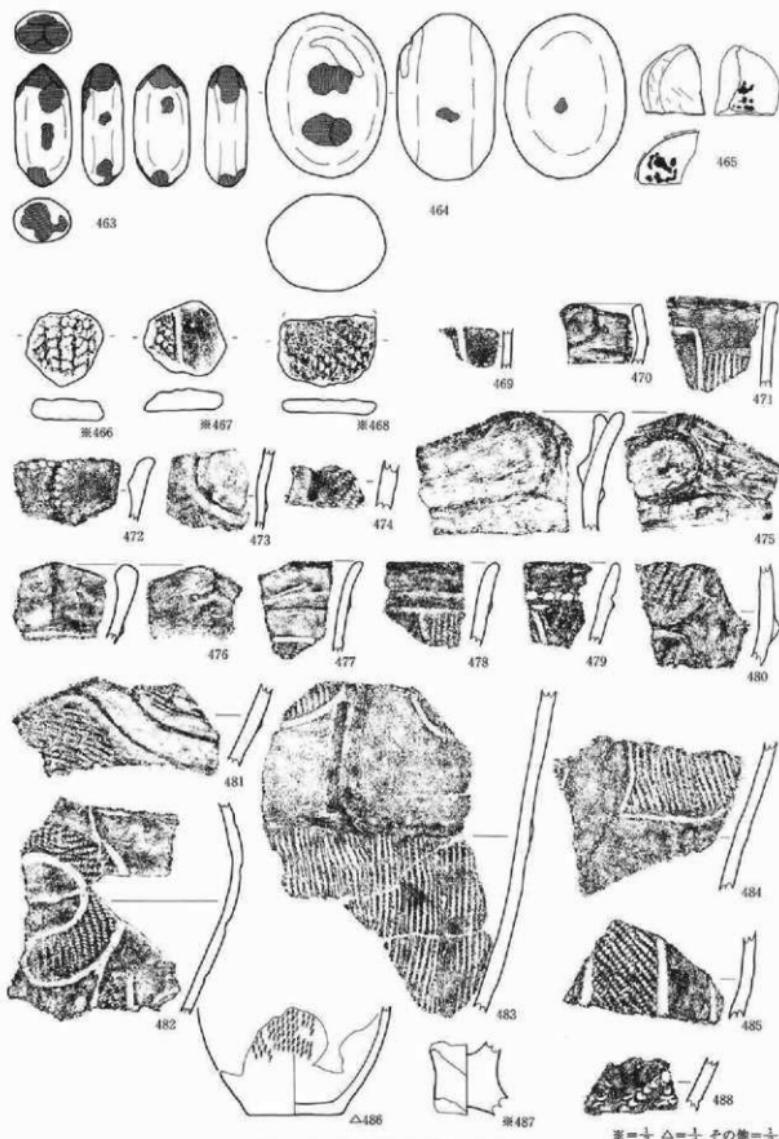
第75図 遺構内出土遺物(柱穴)



第76図 遺構内出土遺物(柱穴・土坑)

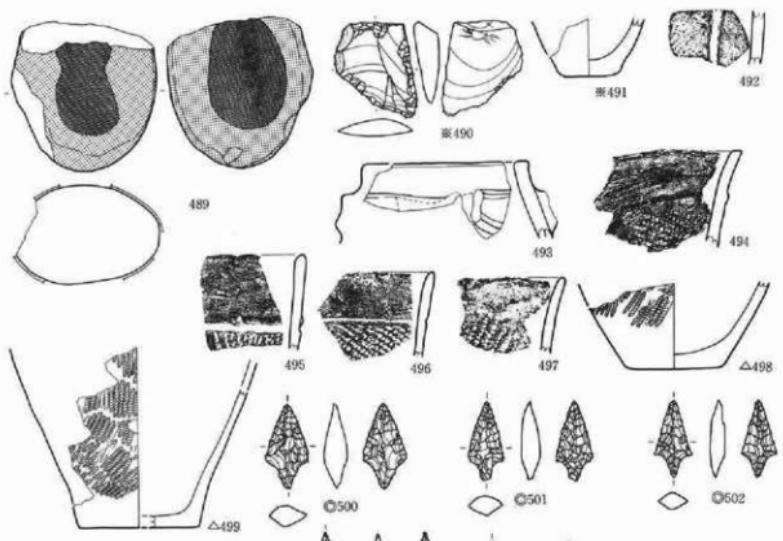


第77図 遺構内出土遺物(土坑)



第78図 遺構内出土遺物(土坑)

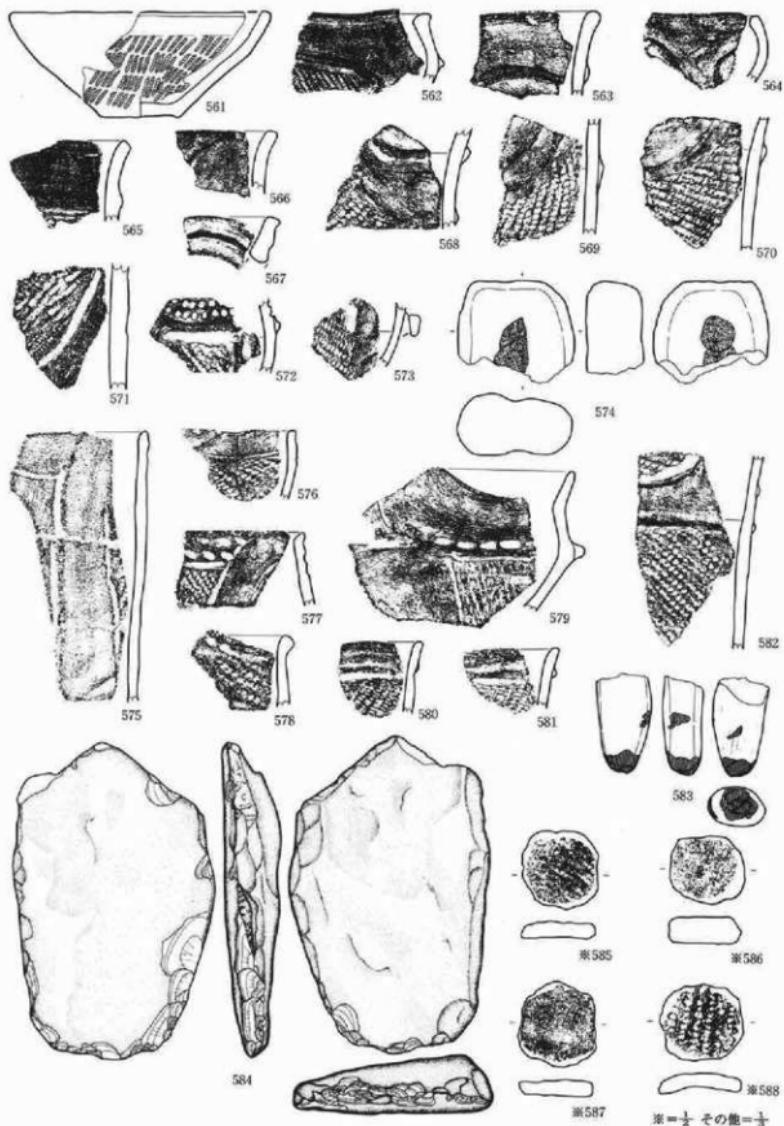
■ = $\frac{1}{2}$ △ = $\frac{1}{4}$ その他 = $\frac{1}{3}$



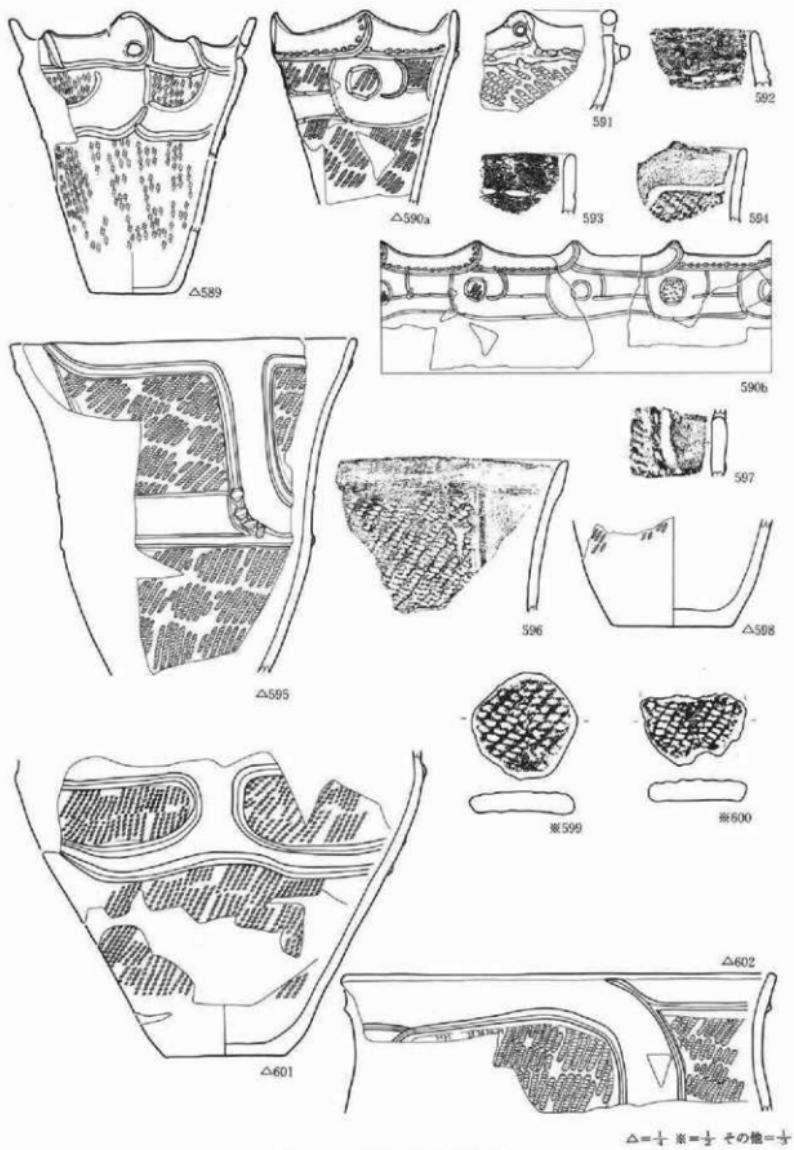
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○508	○509	○510	○511	○512	○513	○514	○515	○516	○517	○518	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○519	○520	○521	○522	○523	○524	○525	○526	○527	○528	○529	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○530	○531	○532	○533	○534	○535	○536	○537	○538	○539	○540	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○541	○542	○543	○544	○545	○546	○547	○548	○549	○550	○551	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○551	○552	○553	○554	○555	○556	○557	○558	○559	○560	○	○

* = 1/2 △ = 1/3 ○ = 1/4 その他 = 1/5

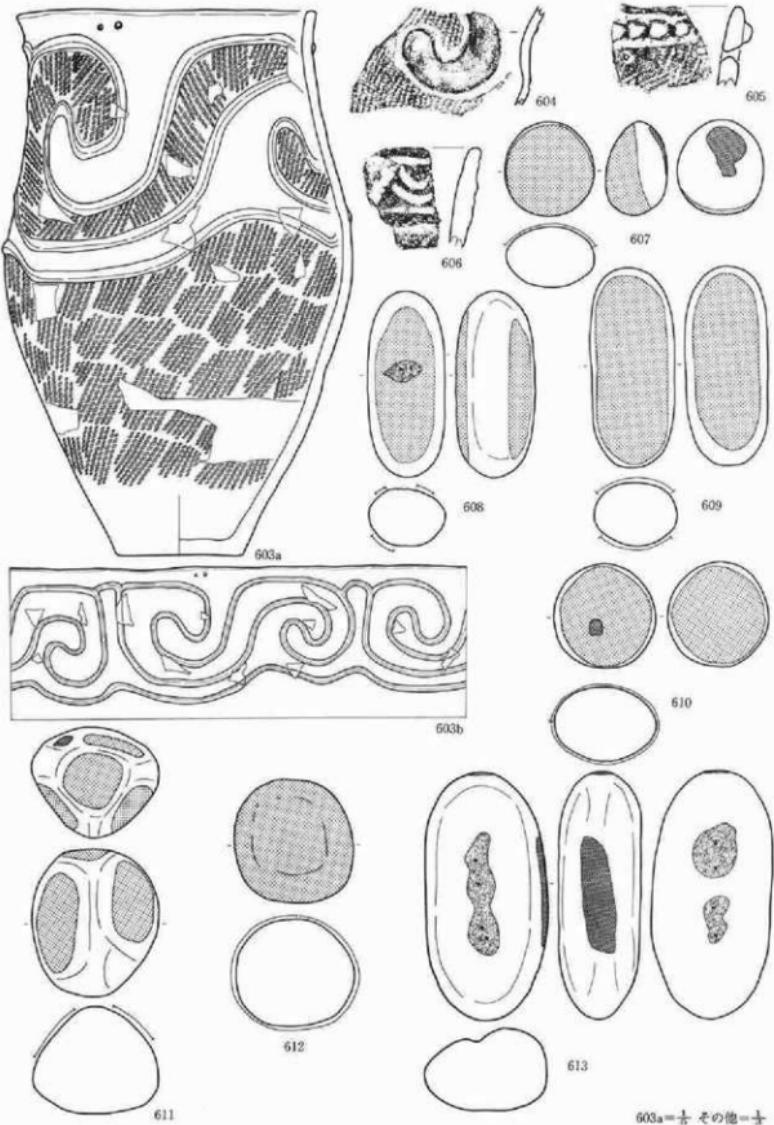
第79図 遺構内出土遺物(土坑)



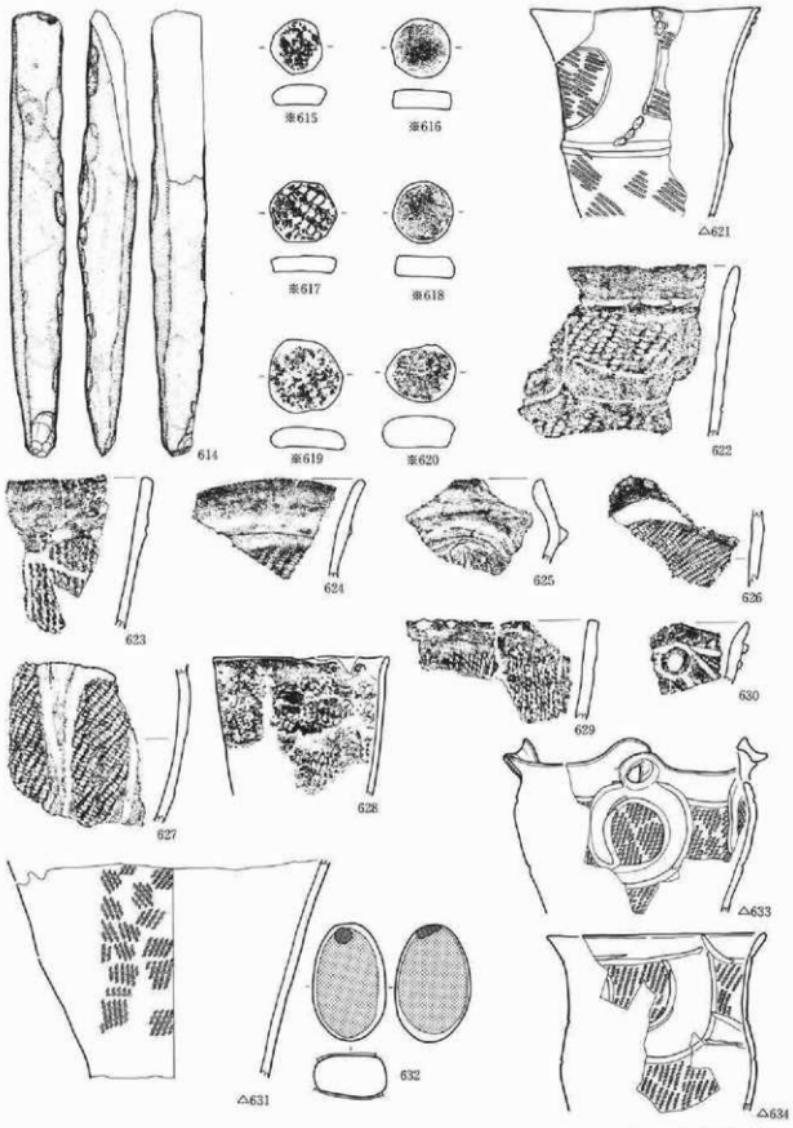
第80図 遺構内出土遺物(土坑)



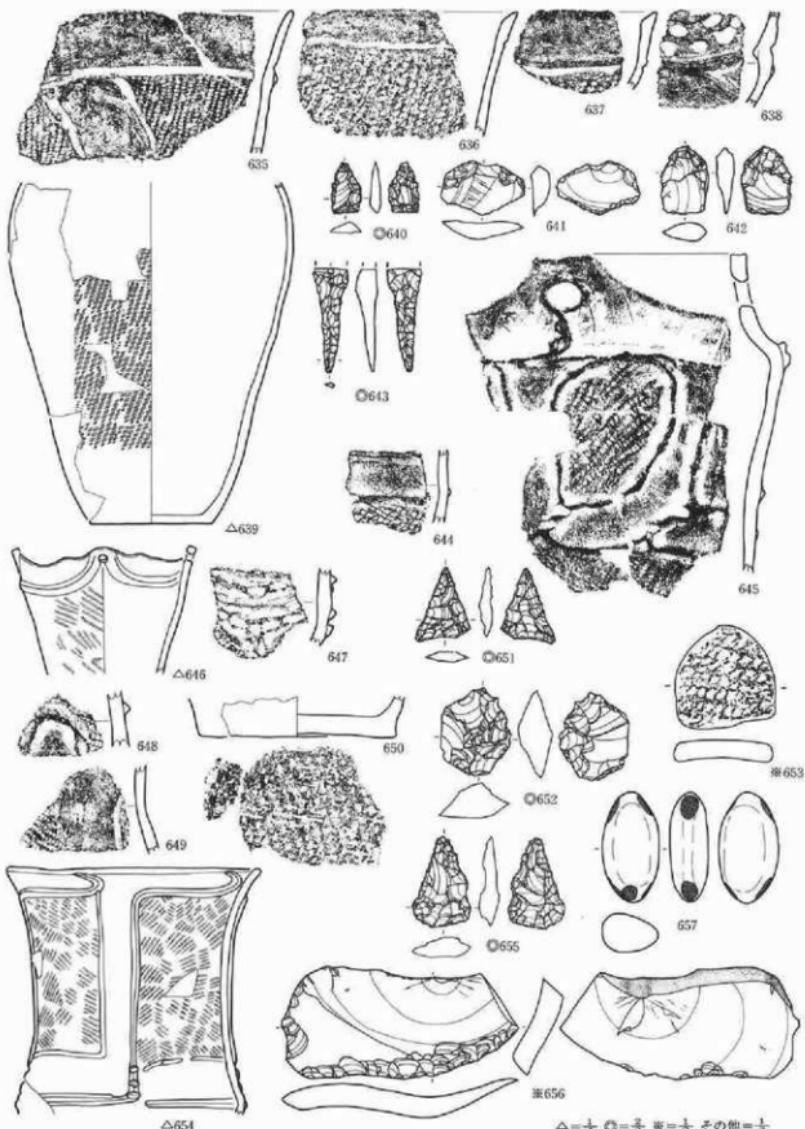
第81図 遺構内出土遺物(土坑)



第82図 遺構内出土遺物(土坑)



第83図 遺構内出土遺物(土坑)

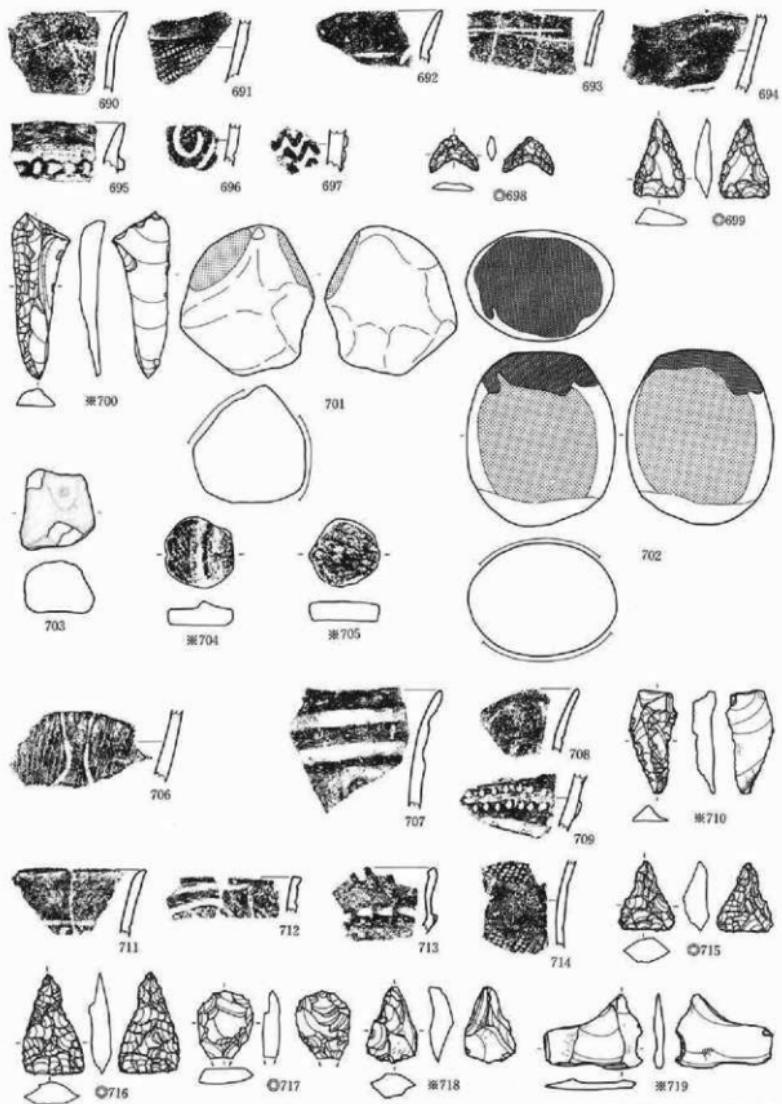


第84図 遺構内出土遺物(土坑)

$\triangle = \frac{1}{4}$ $\circ = \frac{1}{2}$ $\ast = \frac{1}{2}$ その他 = $\frac{1}{3}$

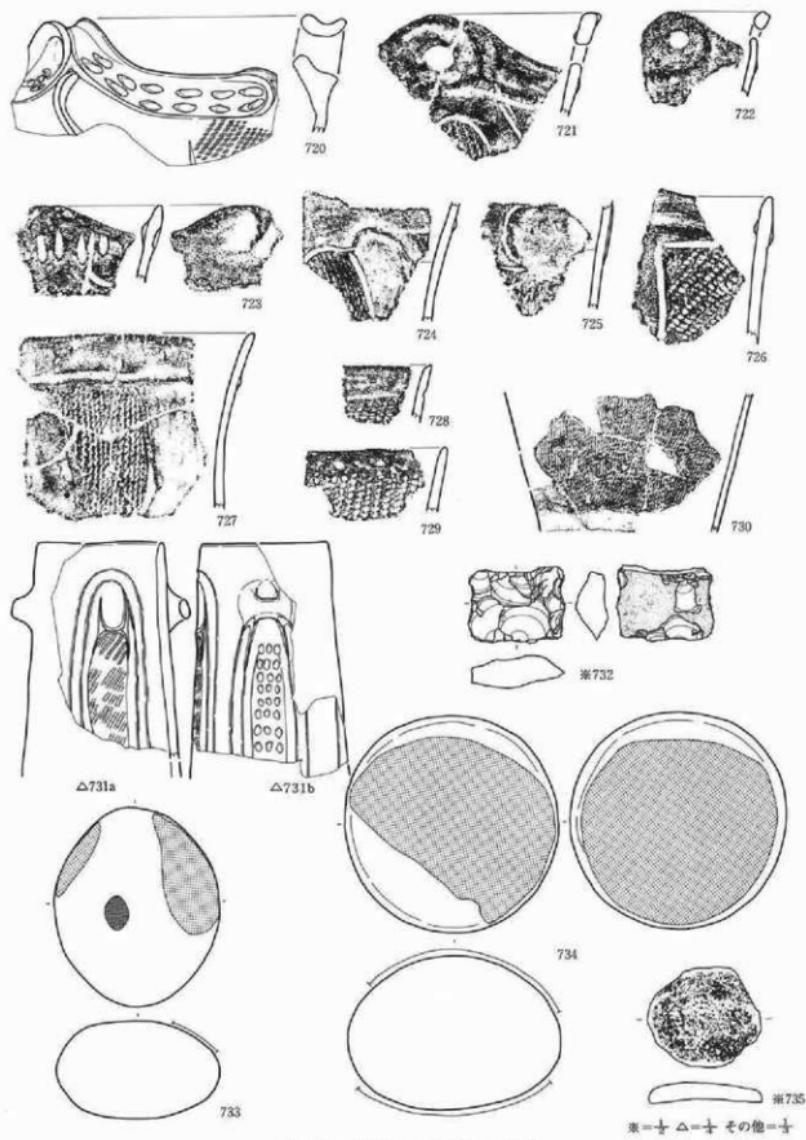


第85図 遺構内出土遺物(土坑)

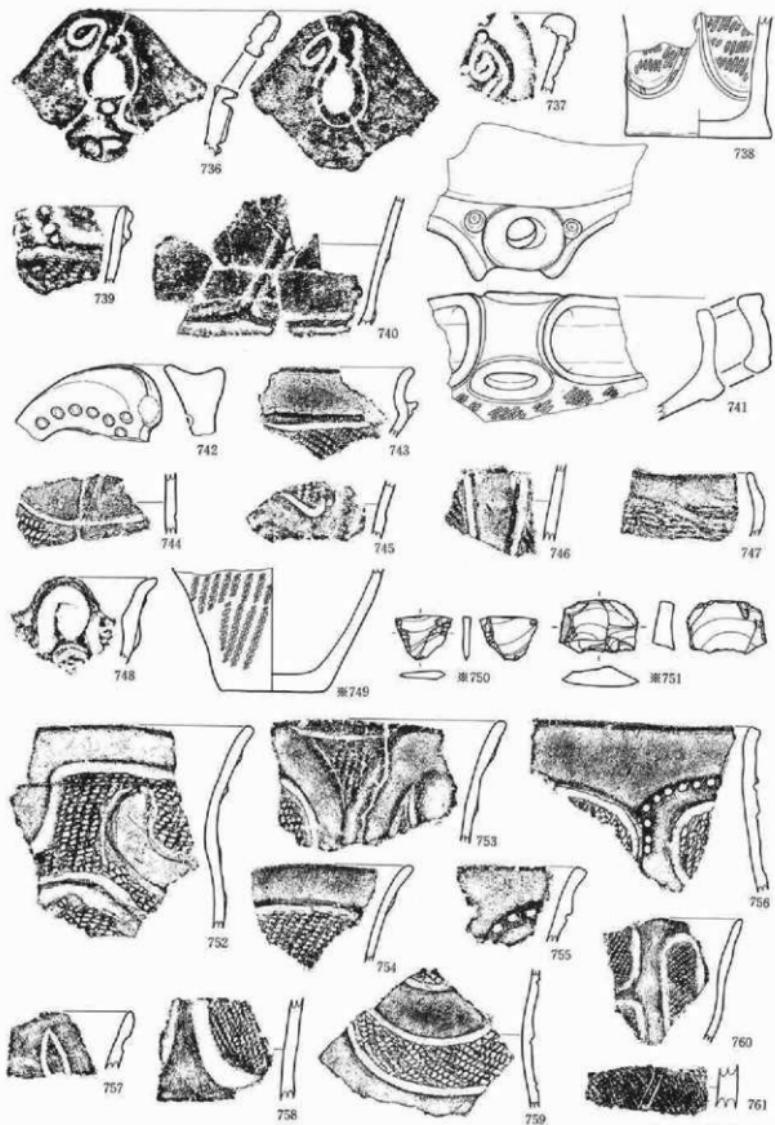


第86図 遺構内出土遺物(土坑)

◎ = $\frac{2}{3}$ ※ = $\frac{1}{2}$ その他 = $\frac{1}{3}$



第87図 遺構内出土遺物(土坑)

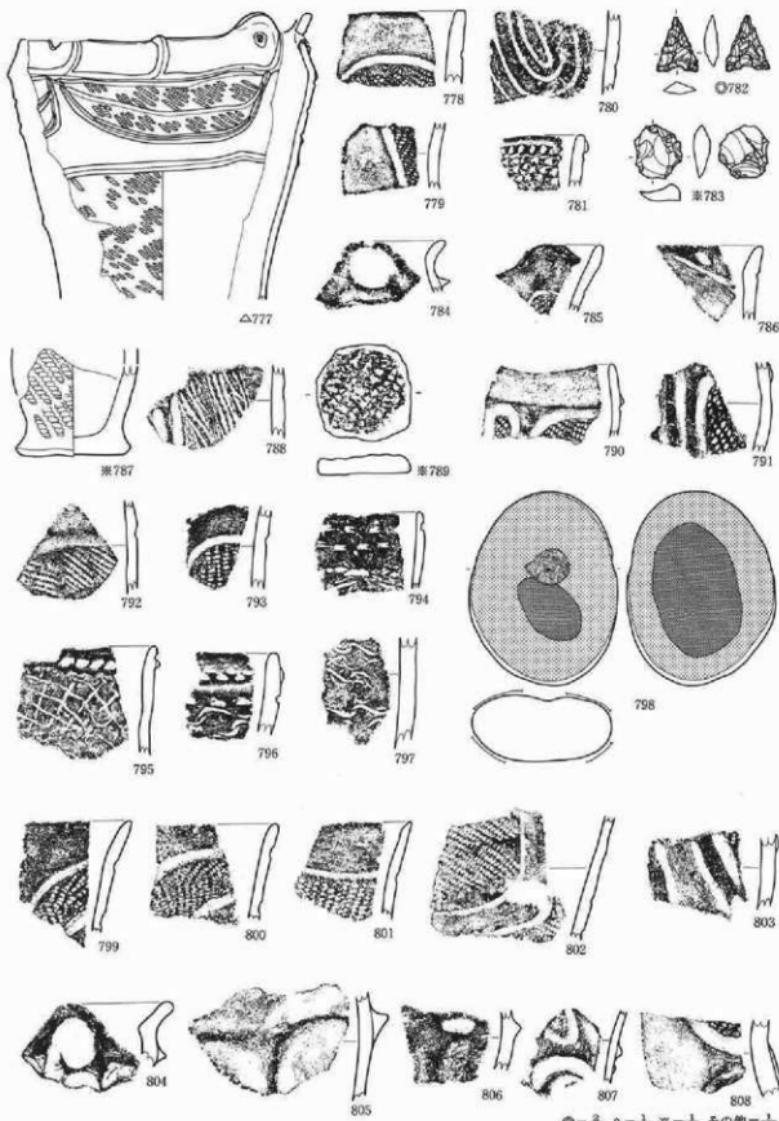


第88図 遺構内出土遺物(土坑)



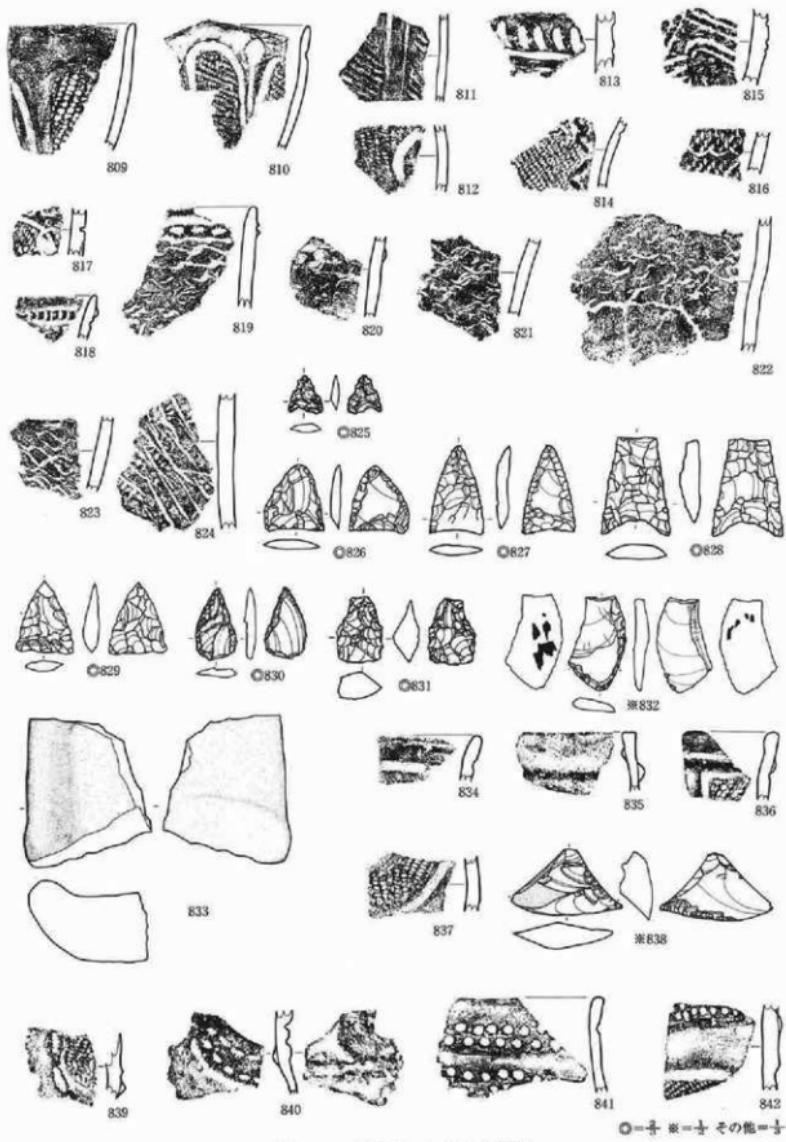
第89図 遺構内出土遺物(土坑)

※ = $\frac{1}{2}$ △ = $\frac{1}{3}$ その他 = $\frac{1}{4}$

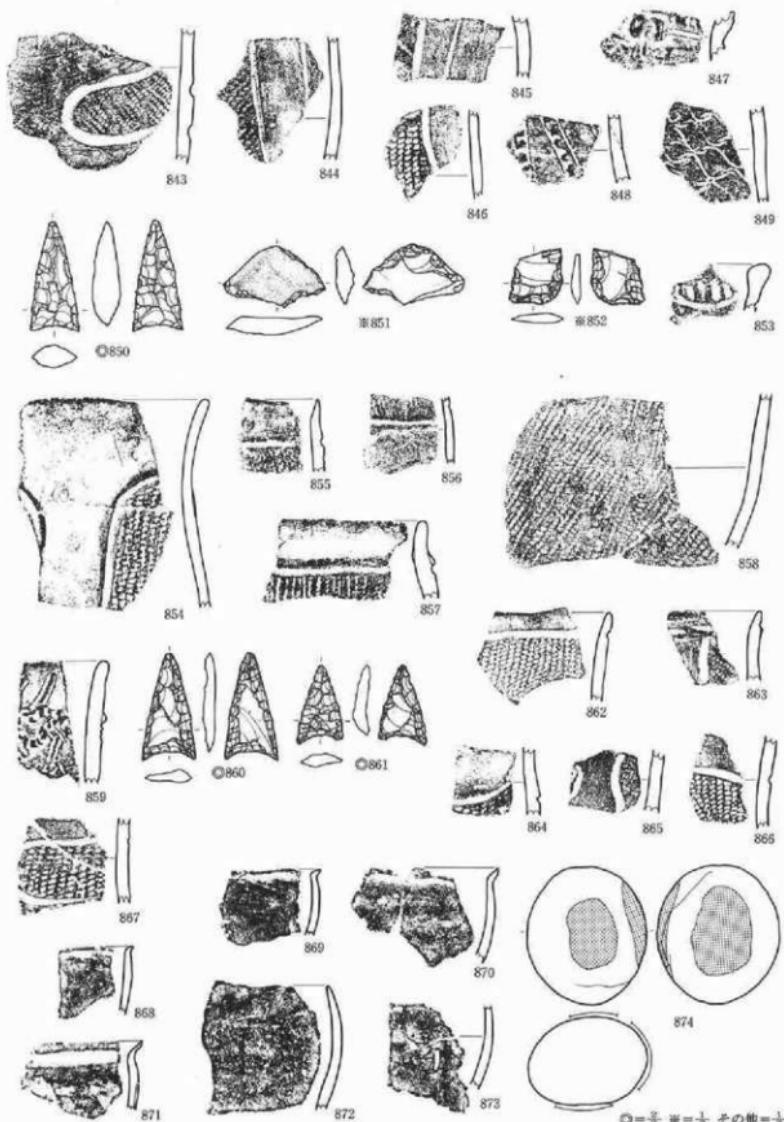


第90図 遺構内出土遺物(土坑)

○=1/2 △=1/4 ≡=1/3 その他=1/1

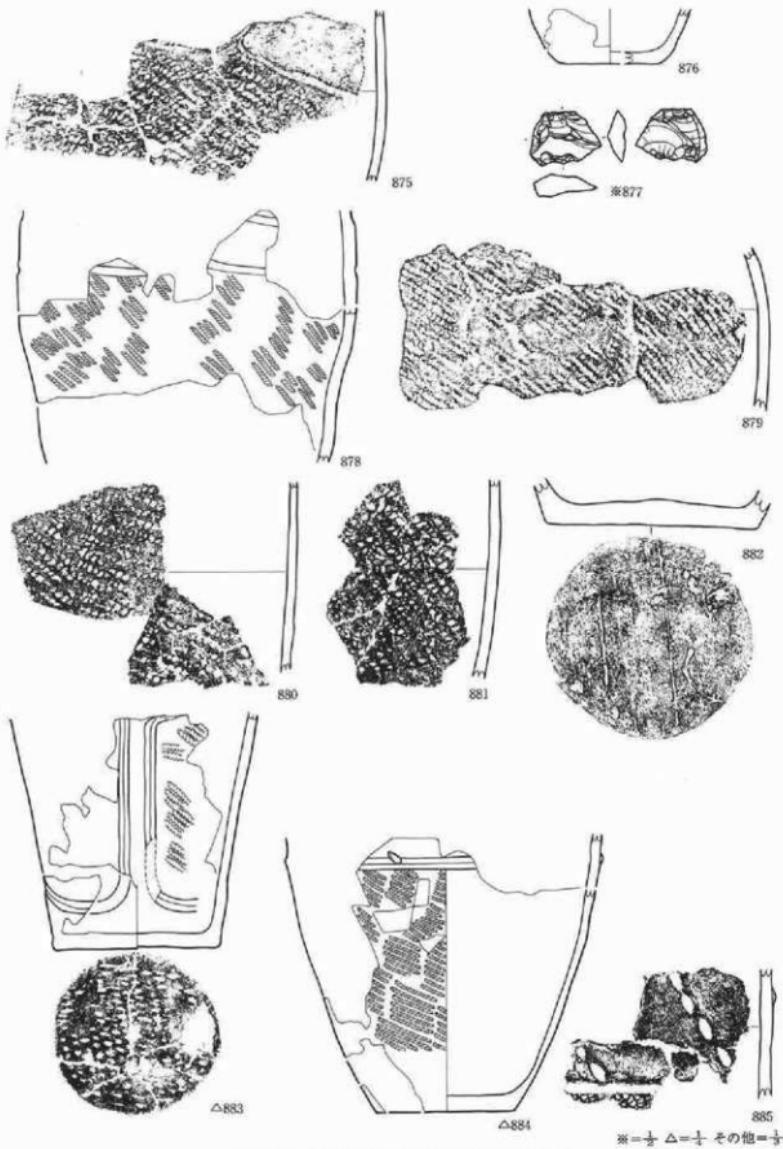


第91図 遺構内出土遺物(土坑)

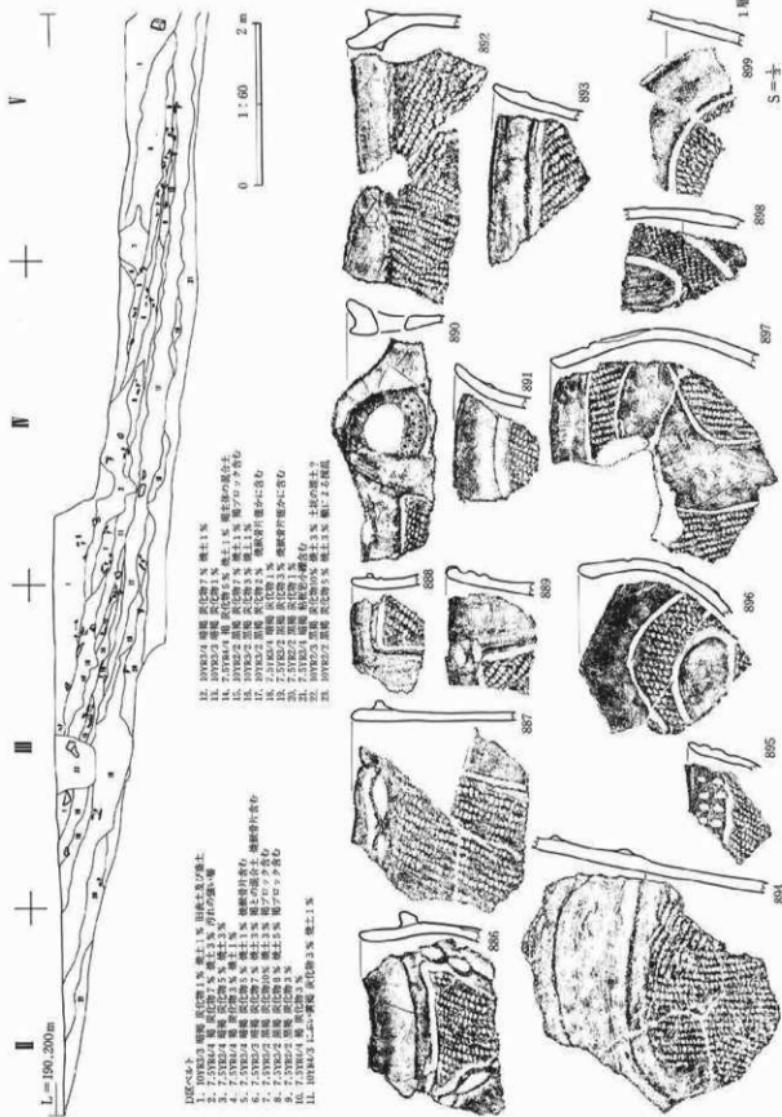


第92図 造構内出土遺物(土坑)

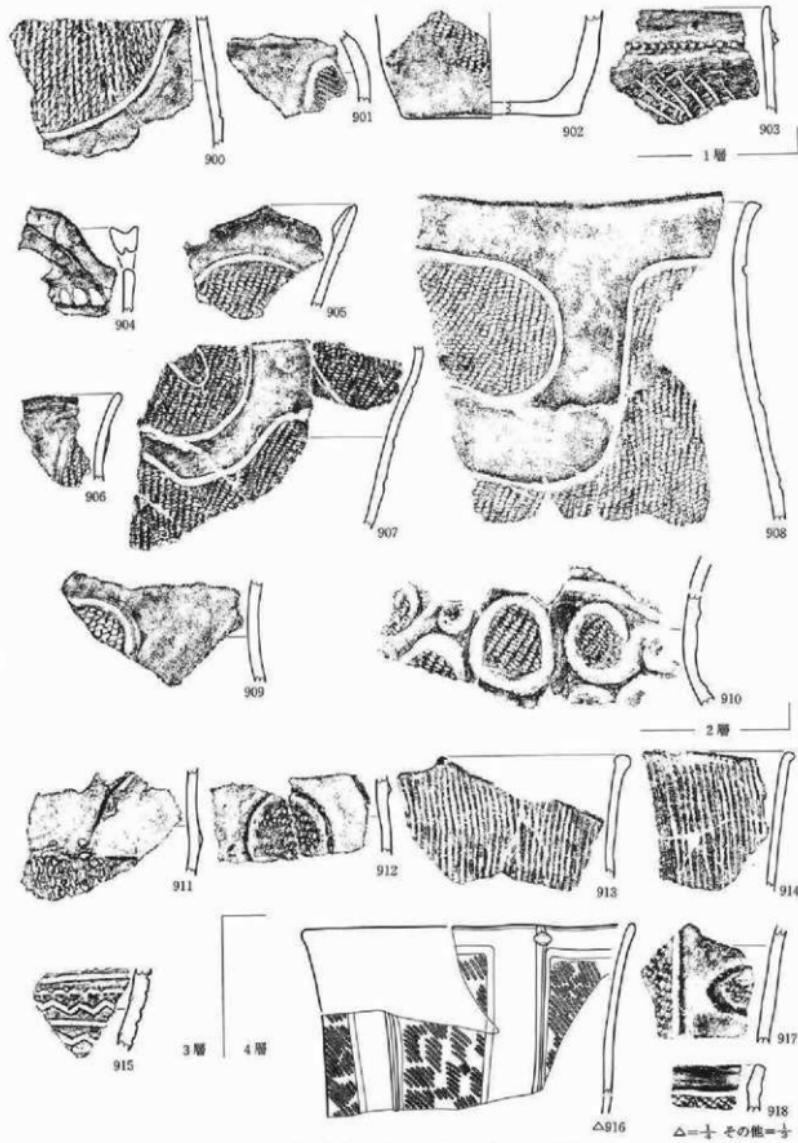
○ = $\frac{1}{3}$ ■ = $\frac{1}{2}$ その他 = $\frac{1}{1}$



第93図 遺構内出土遺物(炉跡・埋設土器)



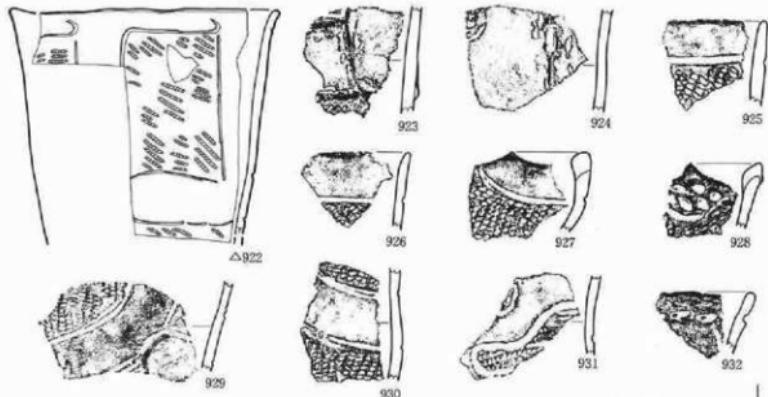
第94図 包含層出土遺物(土器・D区細分)



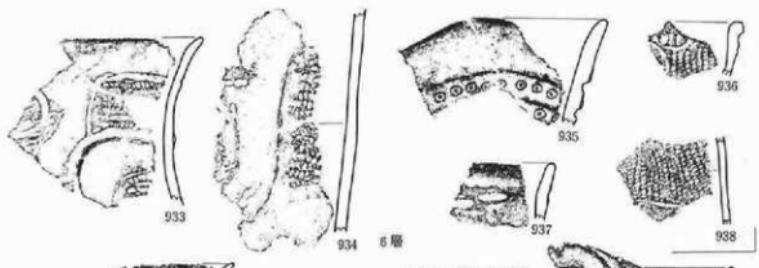
第95図 包含層出土遺物(土器・D区細分)



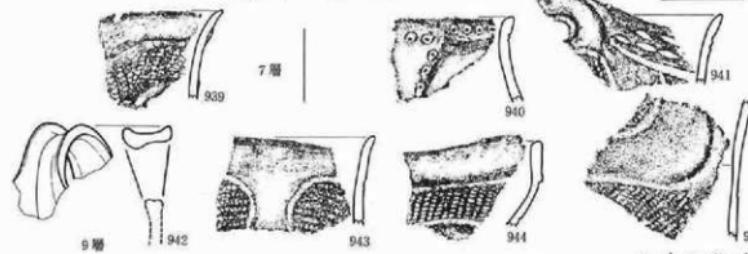
— 4 層 —



— 5・6 層 —

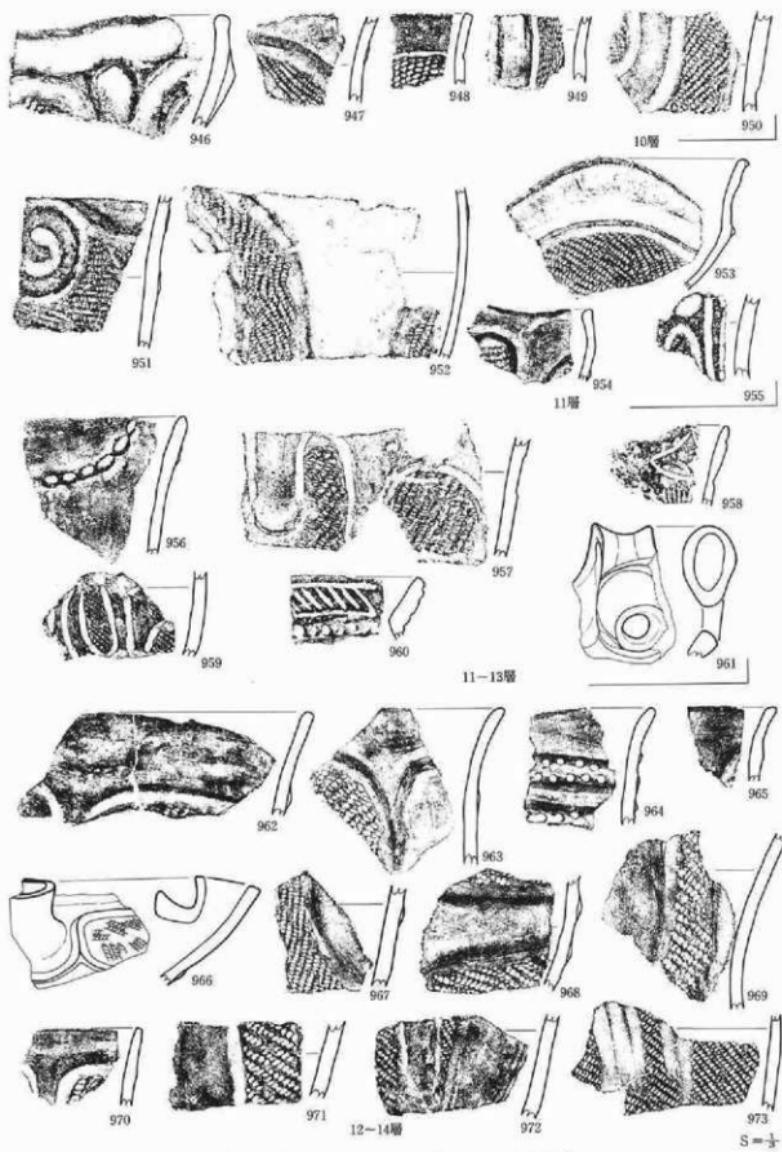


— 6 層 —

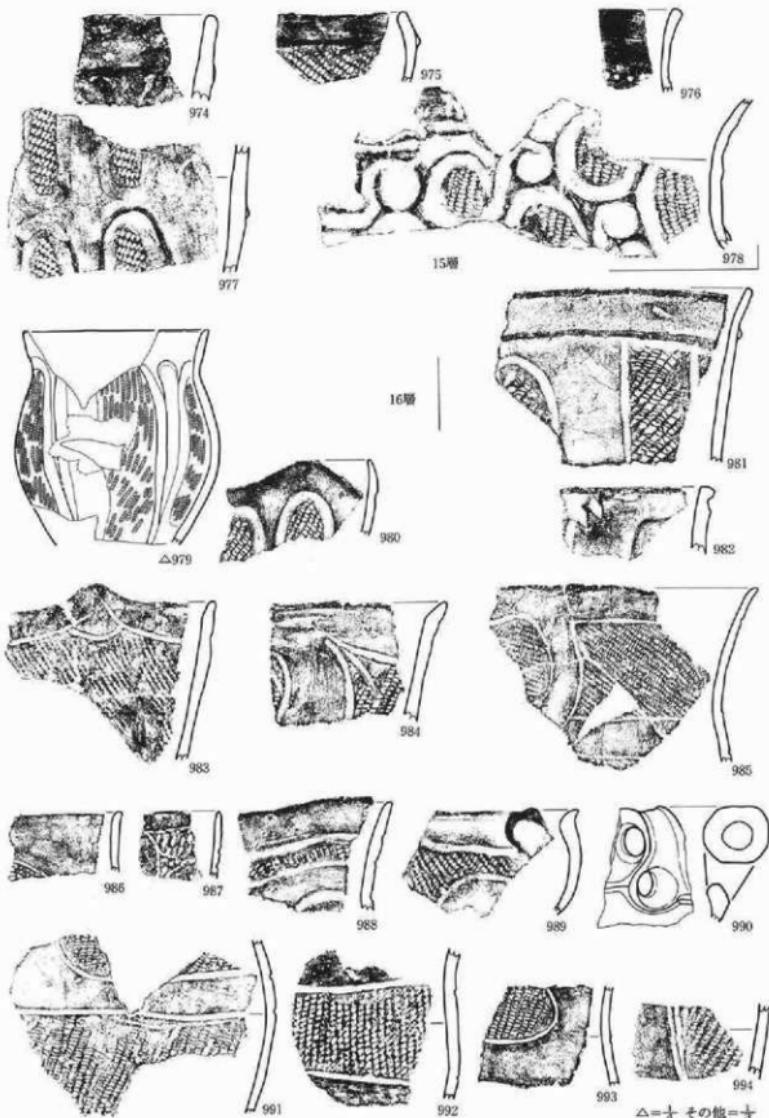


△=1/2 その他=1/3

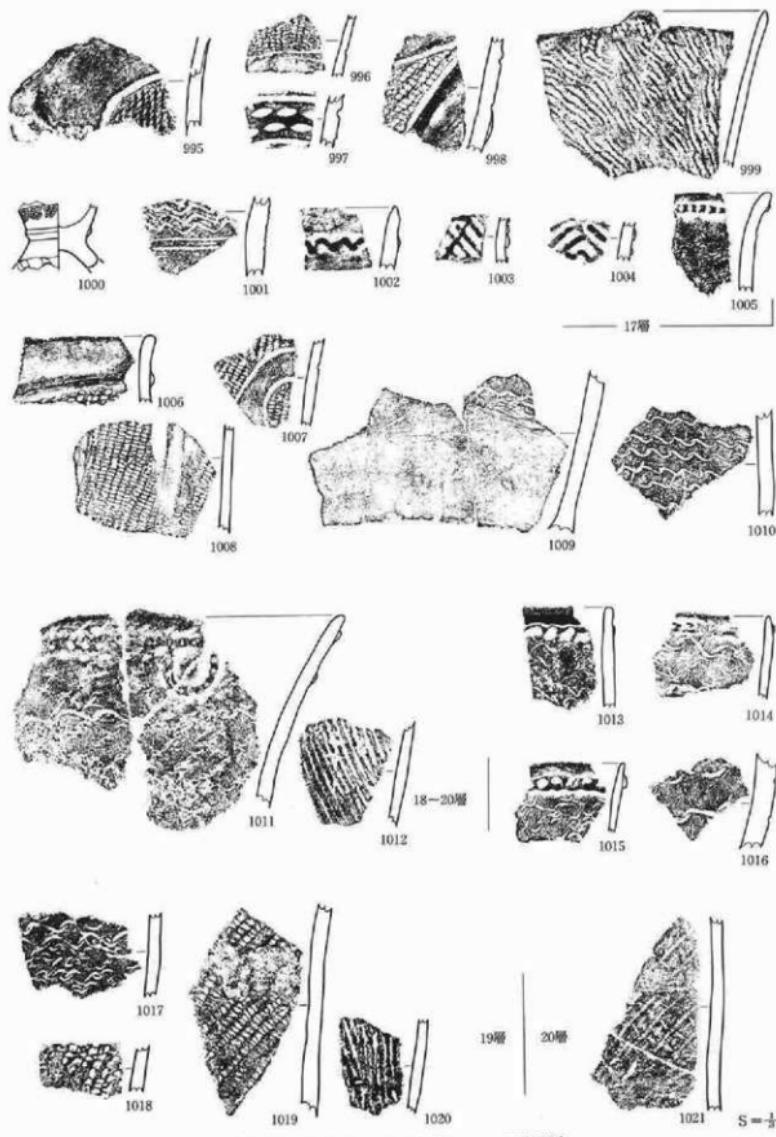
第96図 遺構内出土遺物(土器・D区細分)



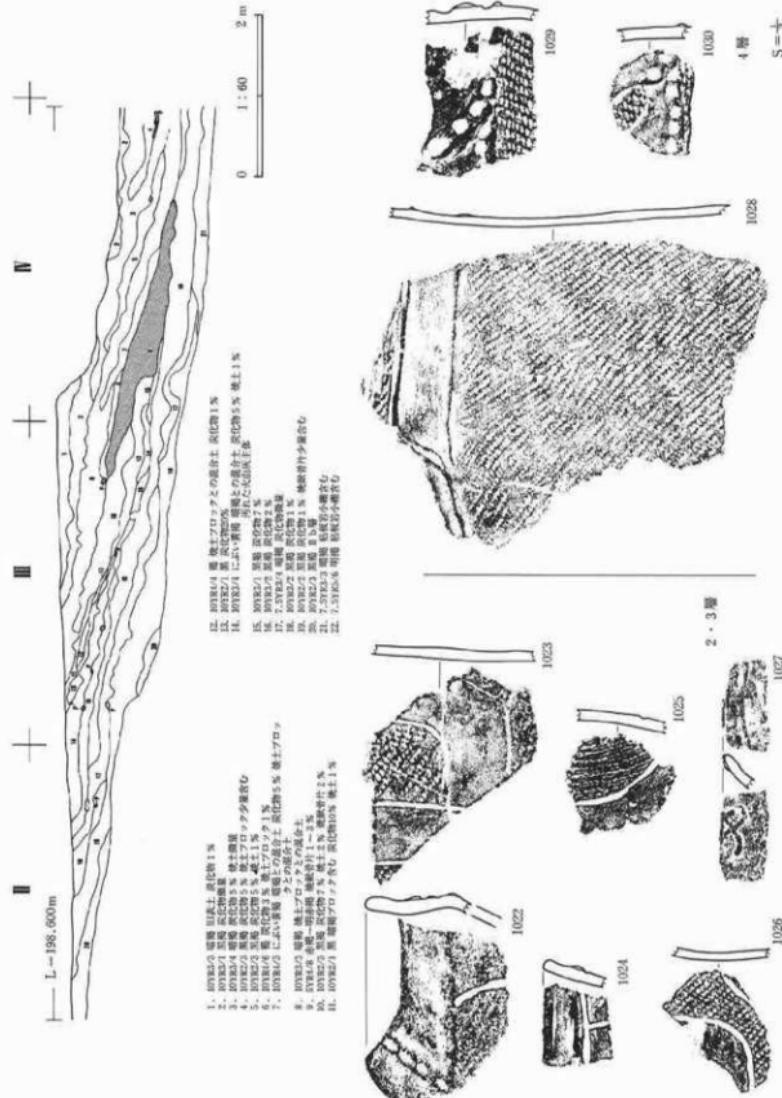
第97図 遺構内出土遺物(土器・D区細分)



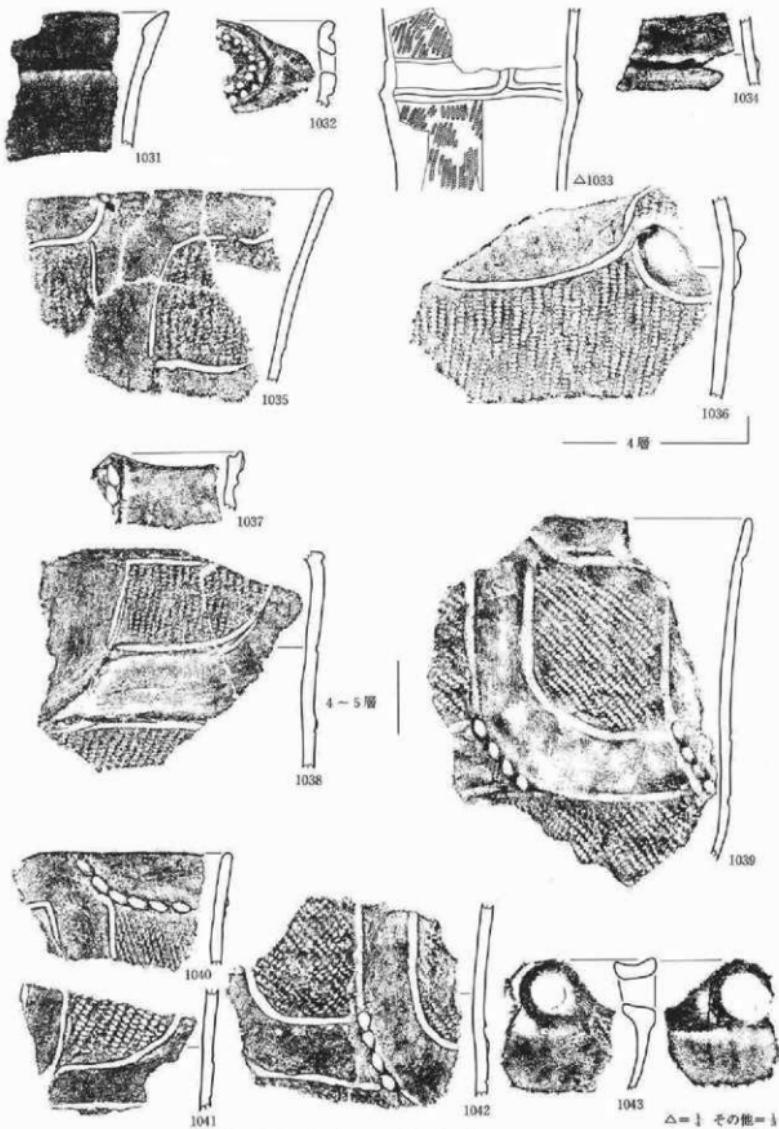
第98図 遺構内出土遺物(土器・D区細分)



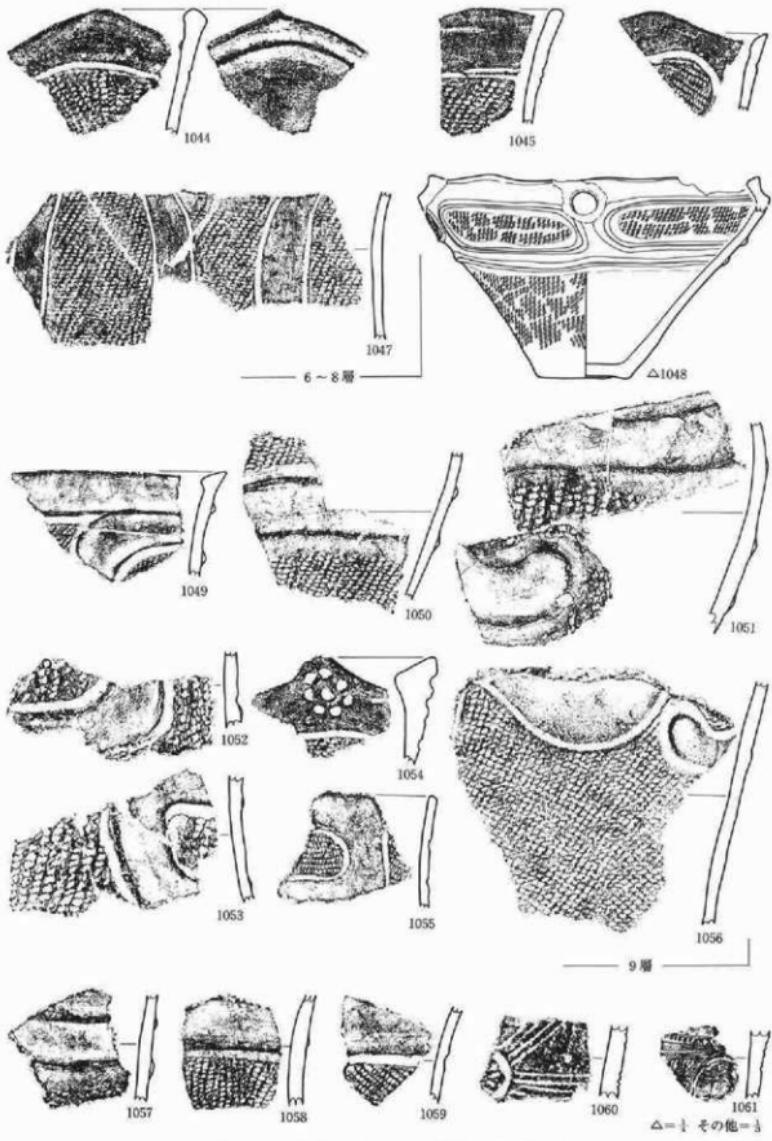
第99図 包含層出土遺物(土器・D区細分)



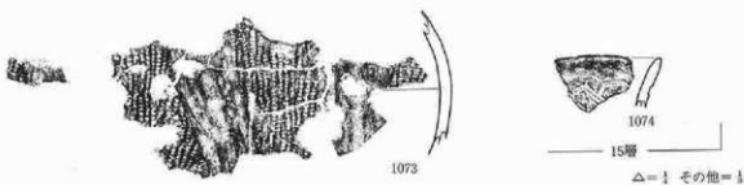
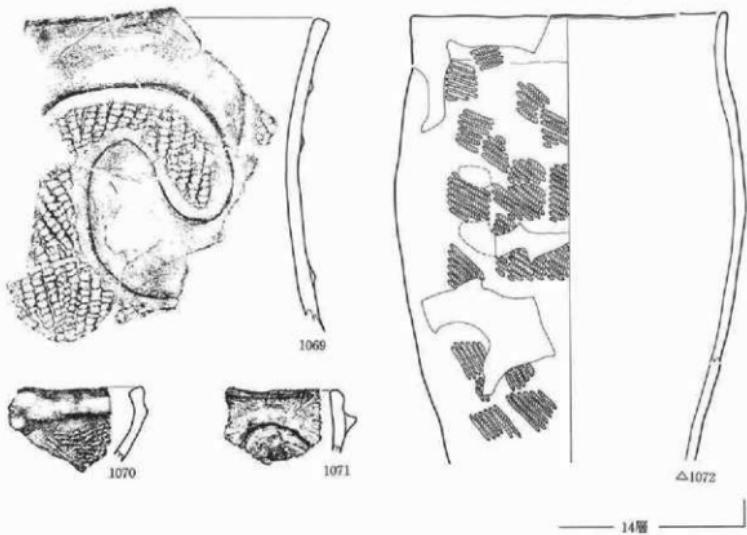
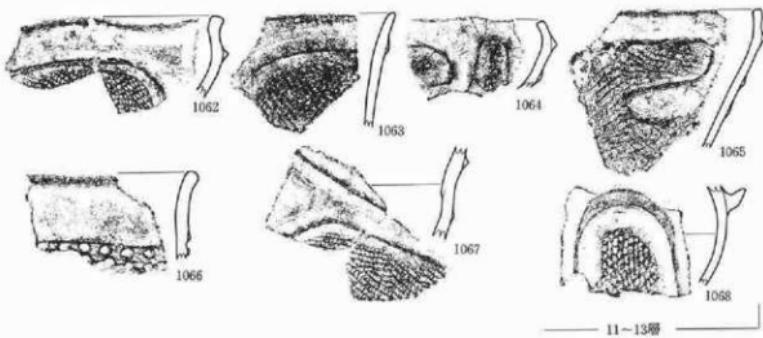
第100図 包含層出土遺物(土器・E区細分)



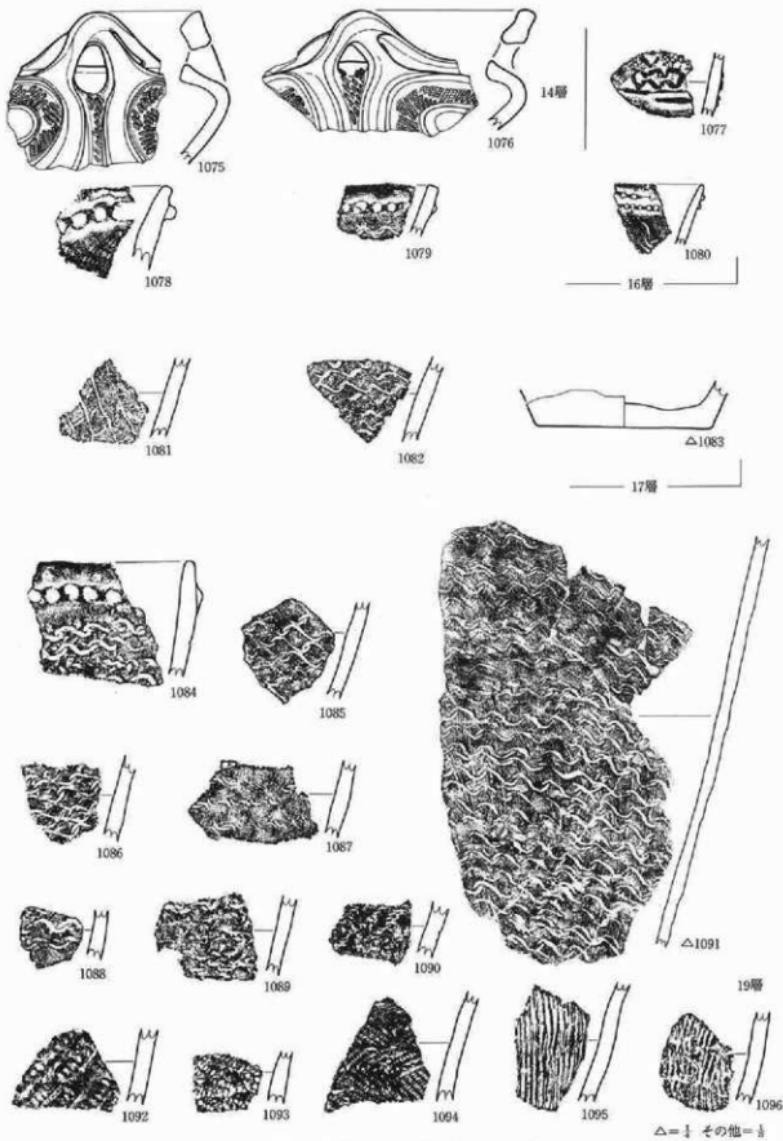
第101図 包含層出土遺物(土器・E区細分)



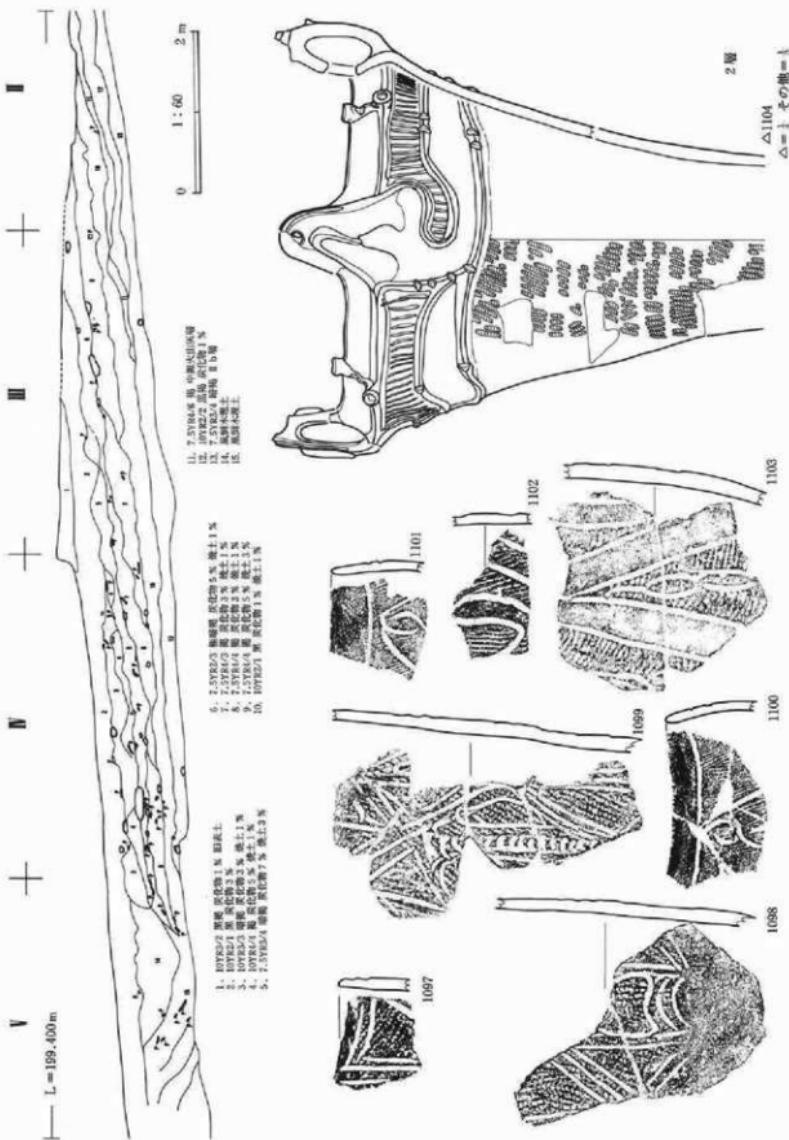
第102図 包含層出土遺物(土器・E区細分)



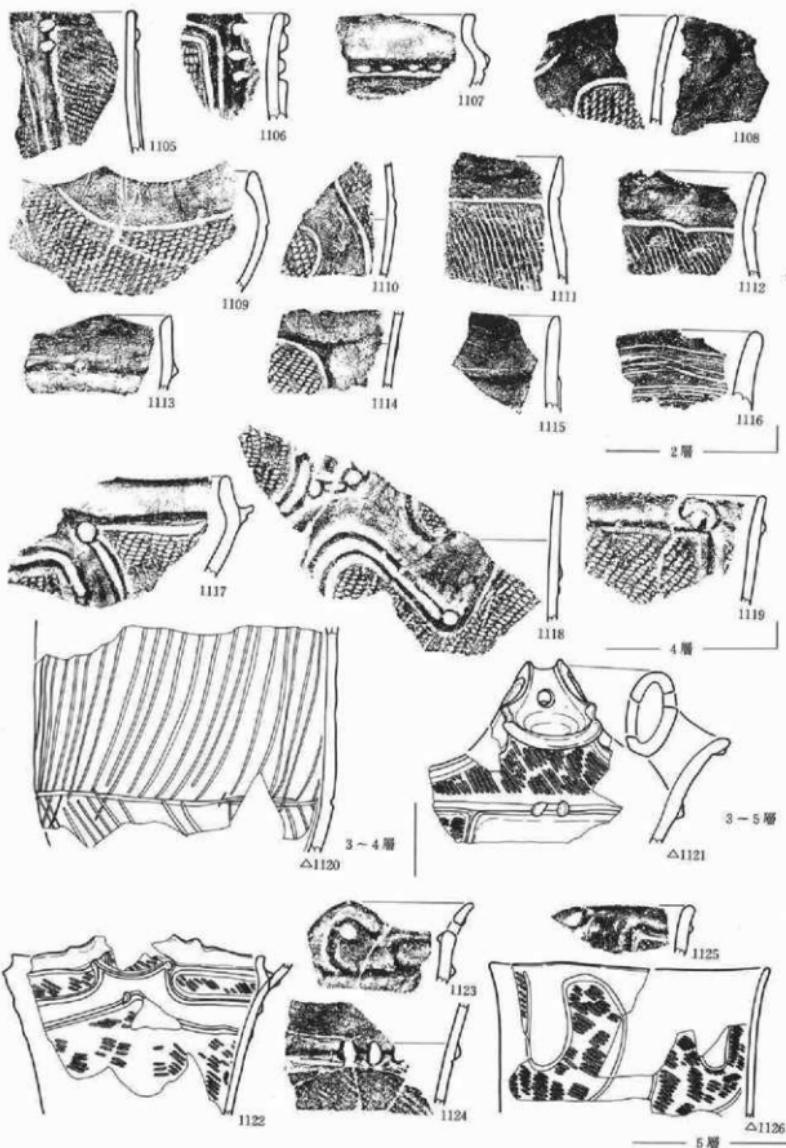
第103図 包含層出土遺物(土器・E区細分)



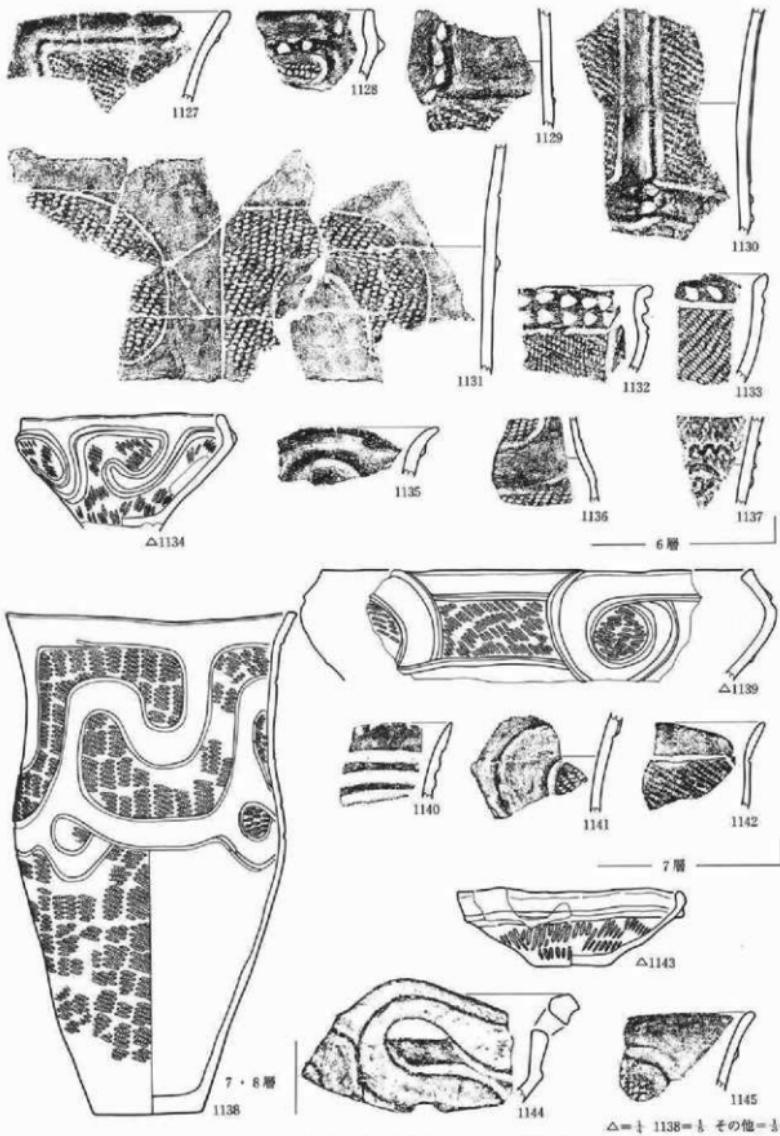
第104図 包含層出土遺物(土器・E区細分)



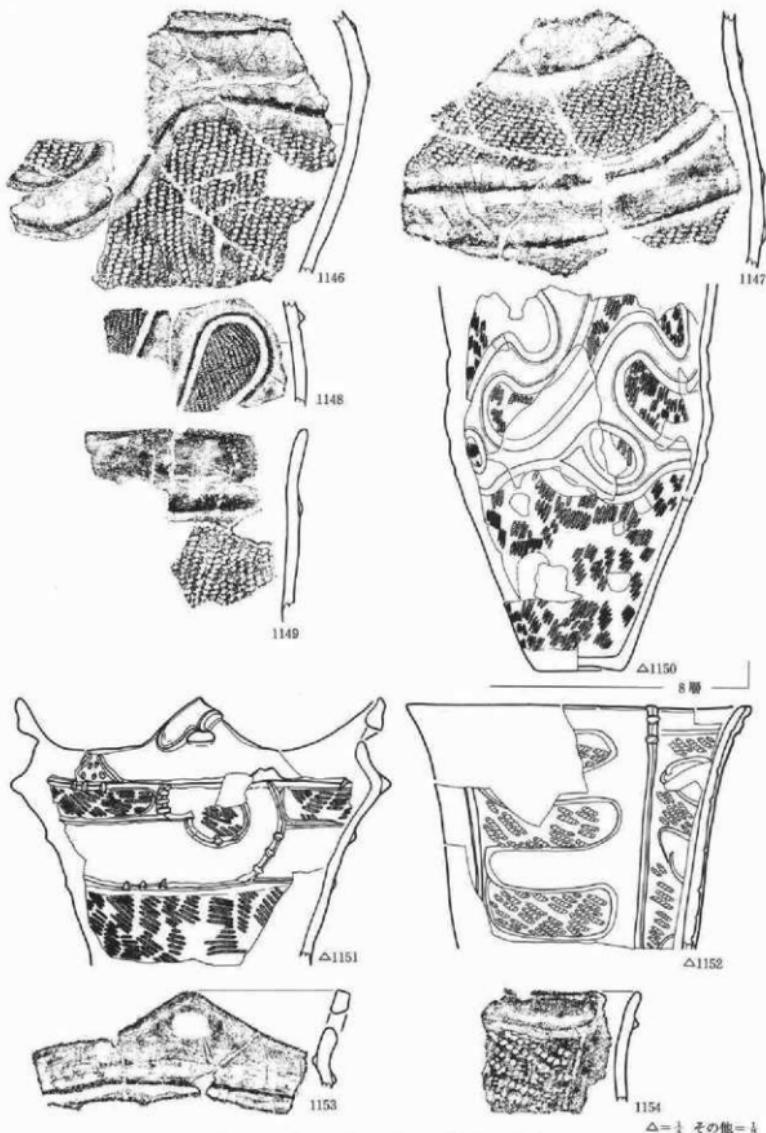
第105図 包含層出土遺物(土器・F区細分)



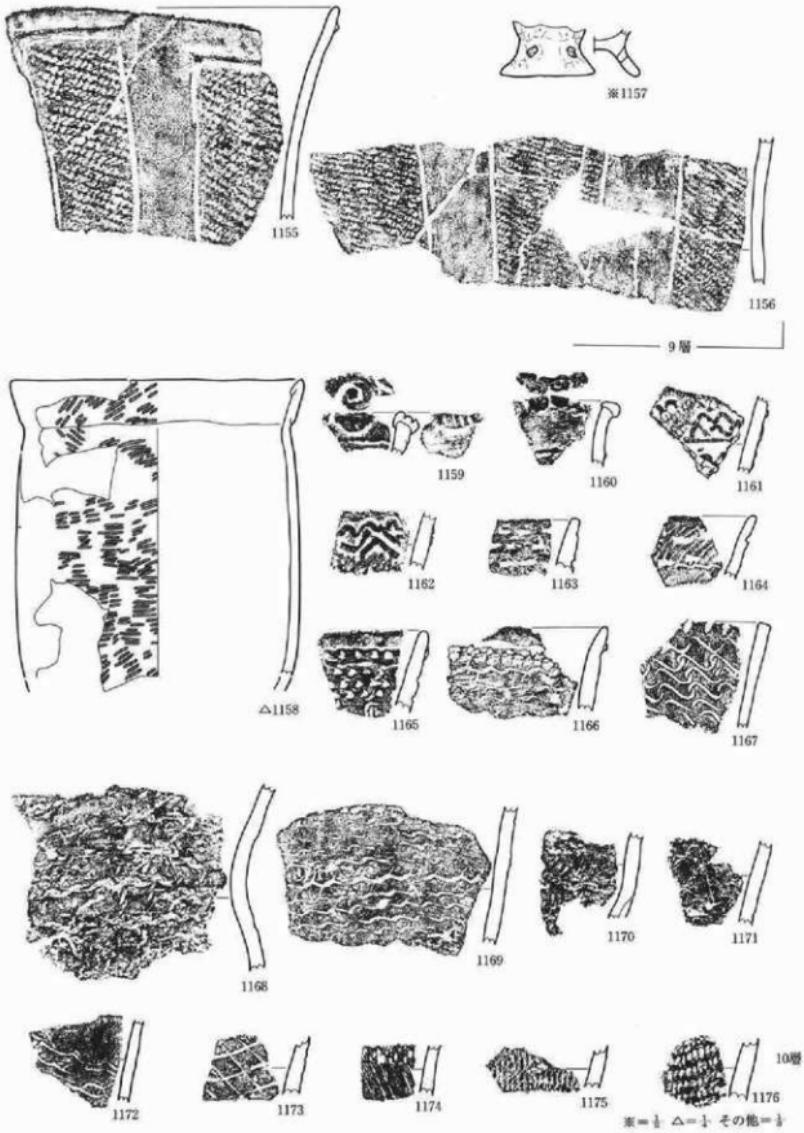
第106図 包含層出土遺物(土器・F区細分)



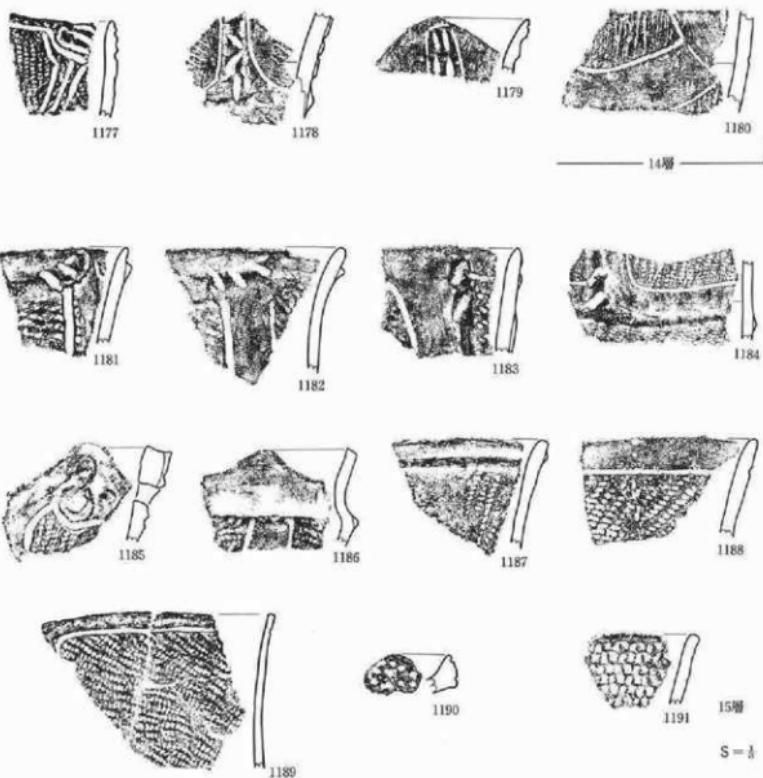
第107図 包含層出土遺物(土器・F区細分)



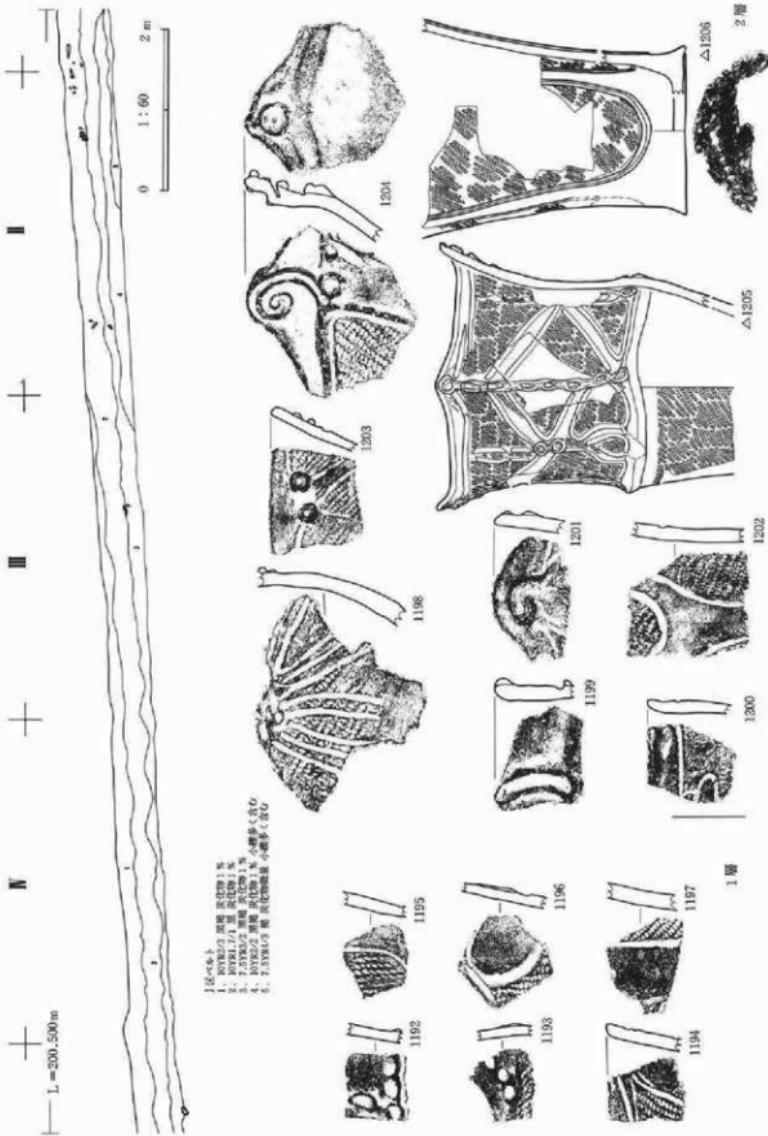
第108図 包含層出土遺物(土器・F区細分)



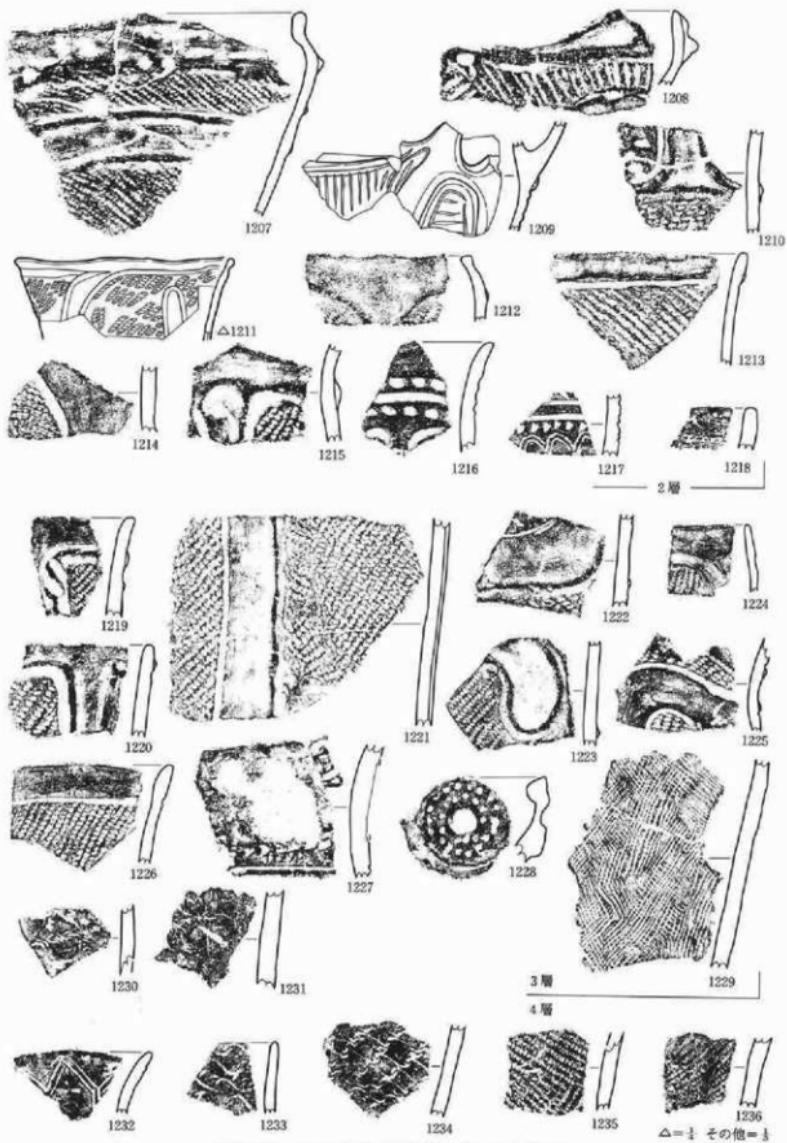
第109図 包含層出土遺物(土器・F区細分)



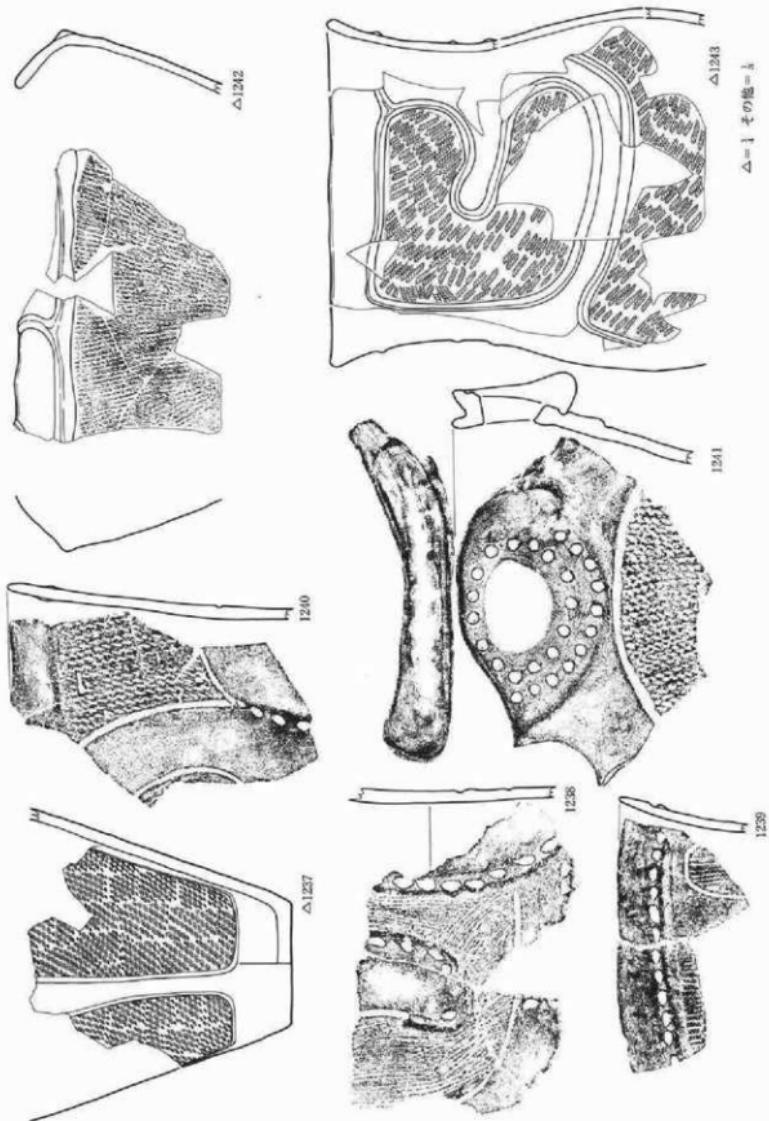
第110図 包含層出土遺物(土器・F区細分)



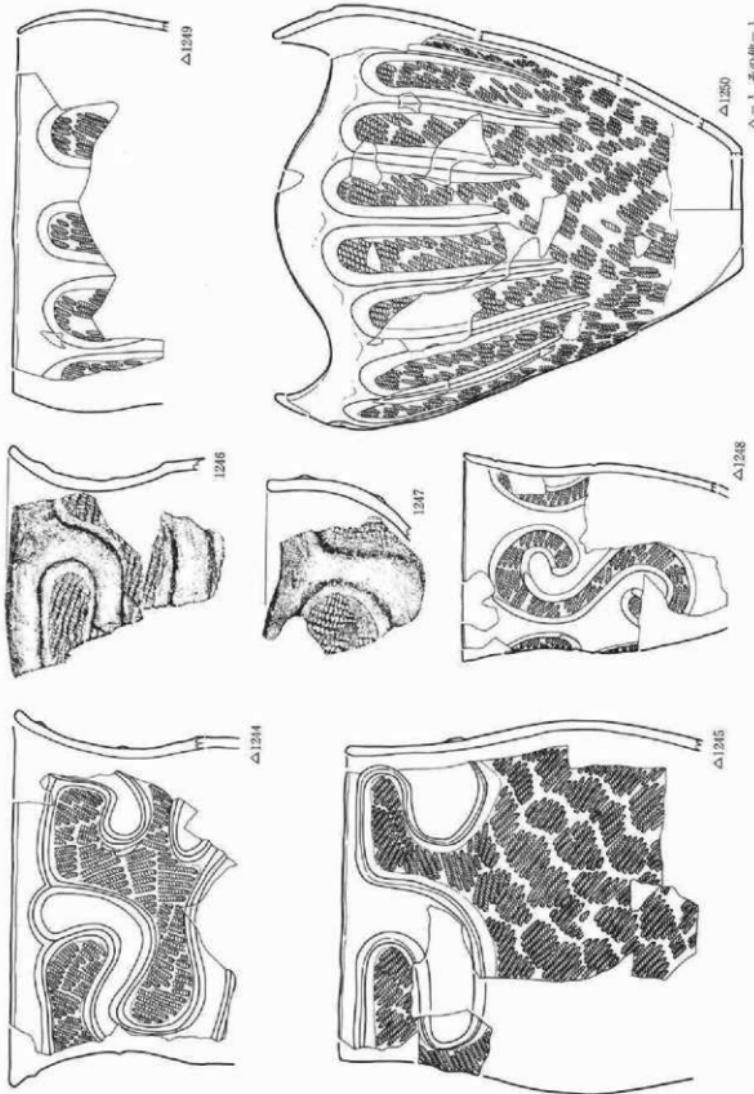
第111図 包含層出土遺物(土器・J区細分)



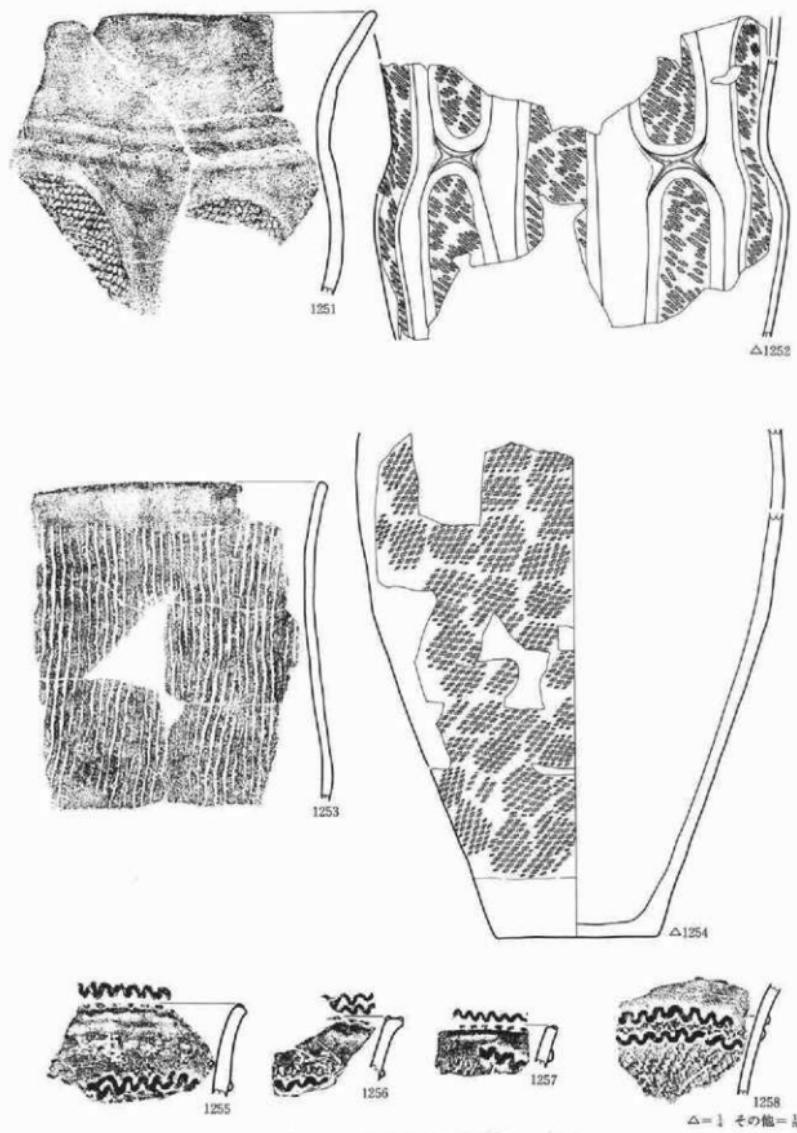
第112図 包含層出土遺物(土器・J区細分)



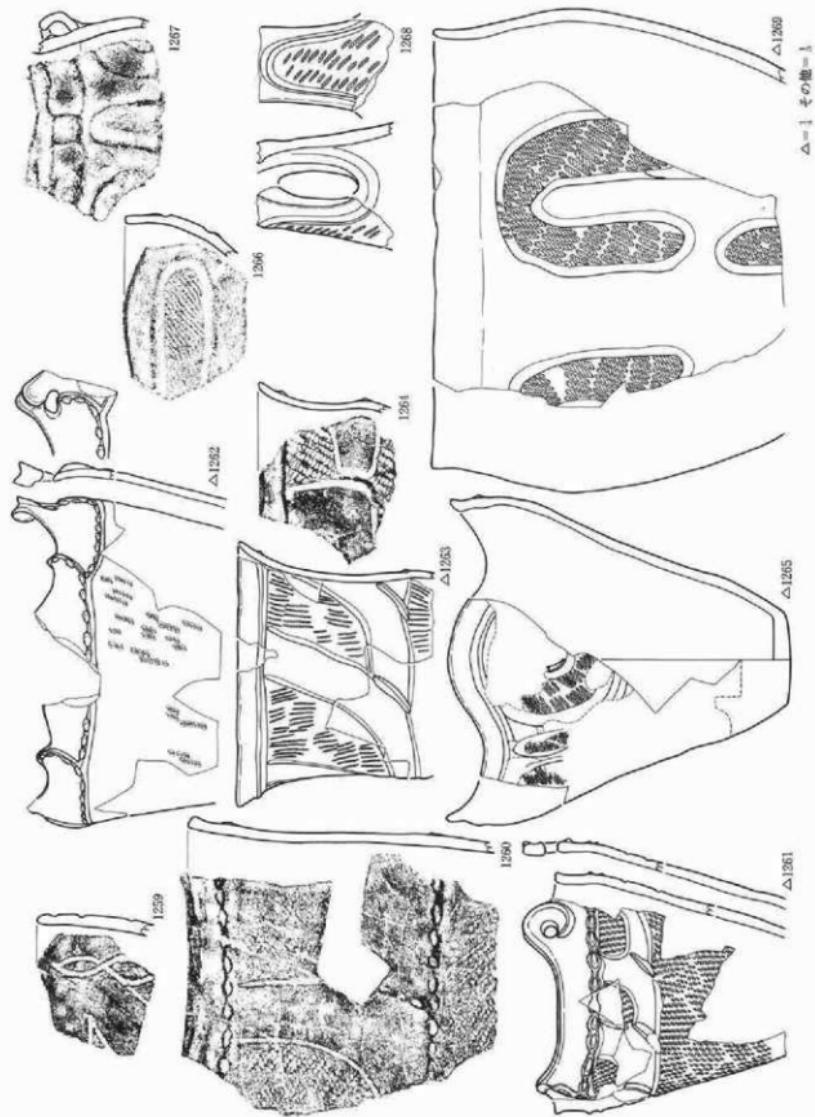
第113図 包含層出土遺物(土器・A区)



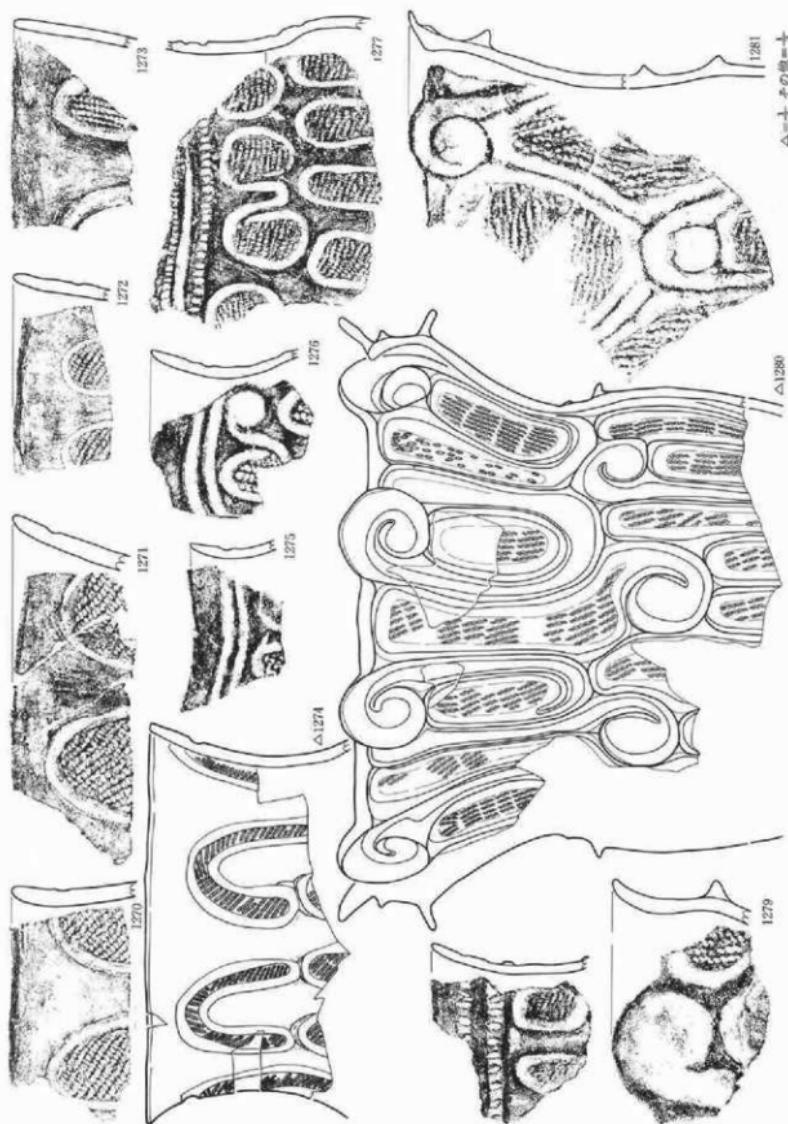
第114図 包含層出土遺物(土器・A区)



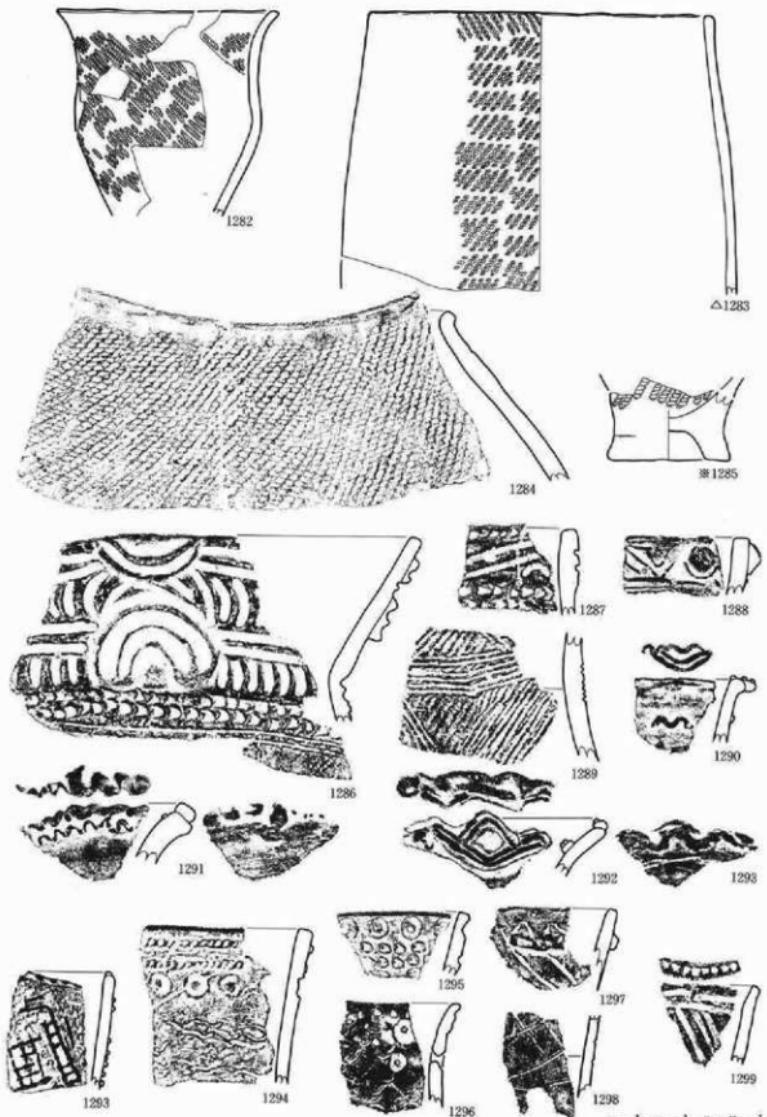
第115図 包含層出土遺物(土器・A区)



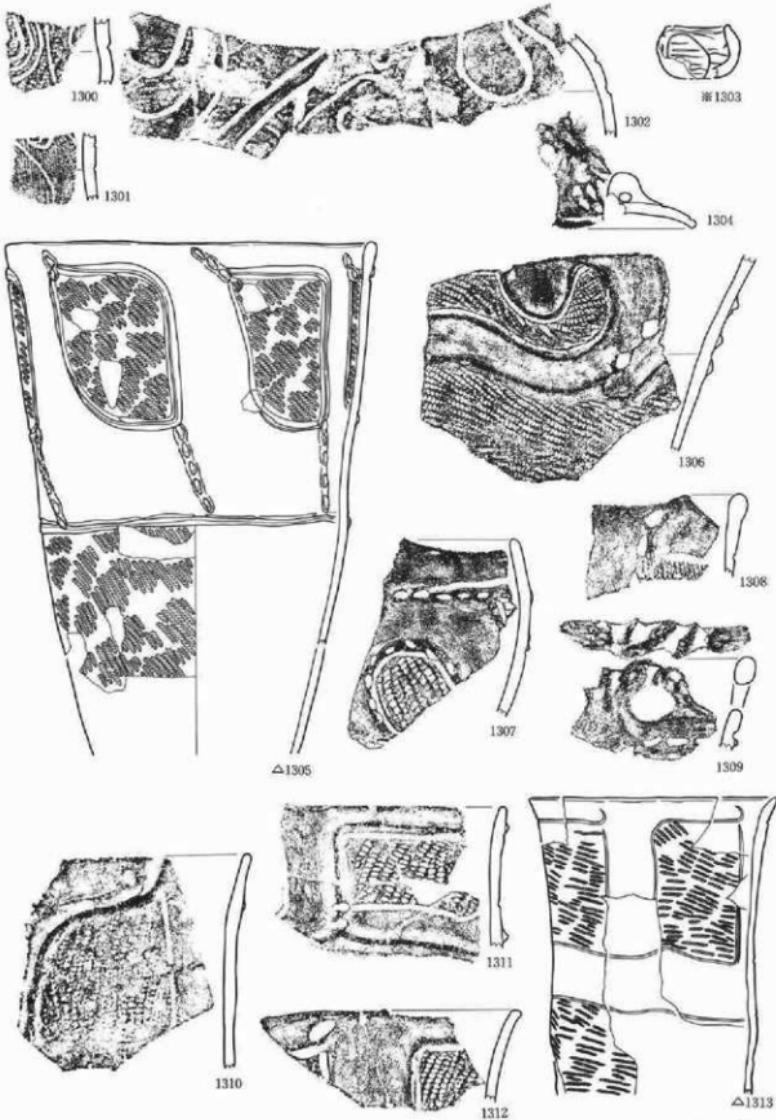
第116図 包含層出土遺物(土器・B区)



第117図 包含層出土遺物(土器・B区)

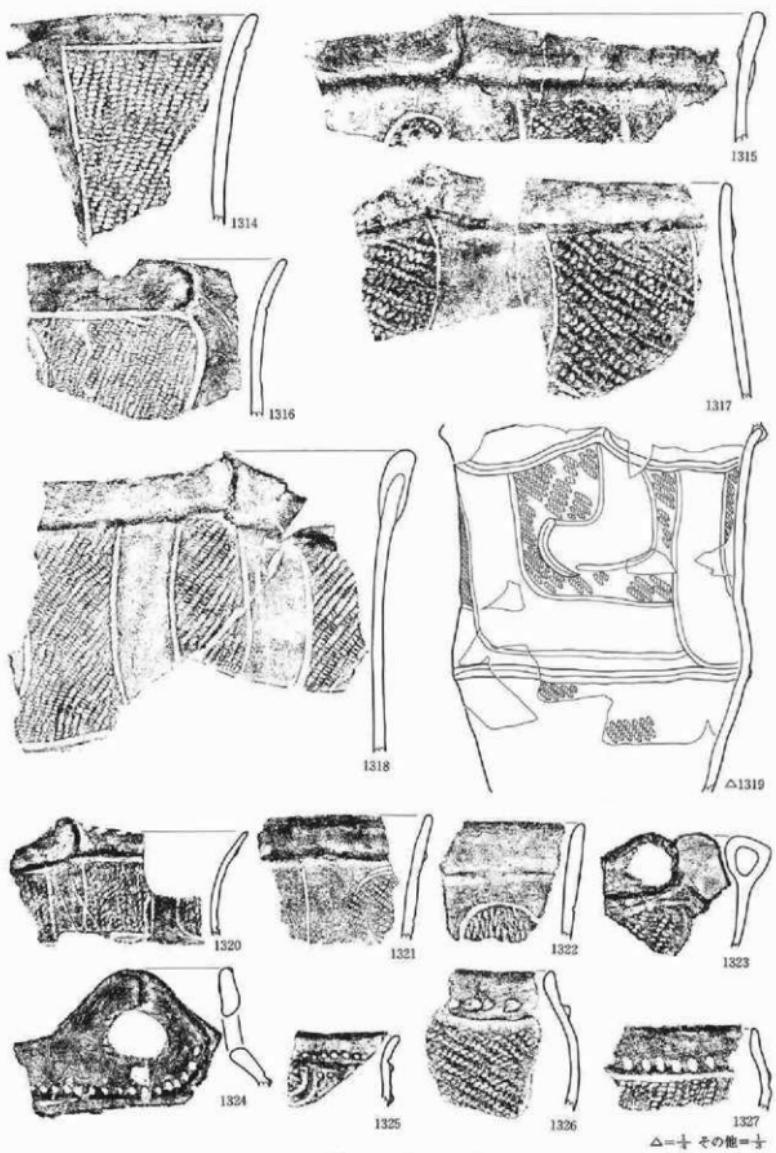


第118図 包含層出土遺物(土器・B区)

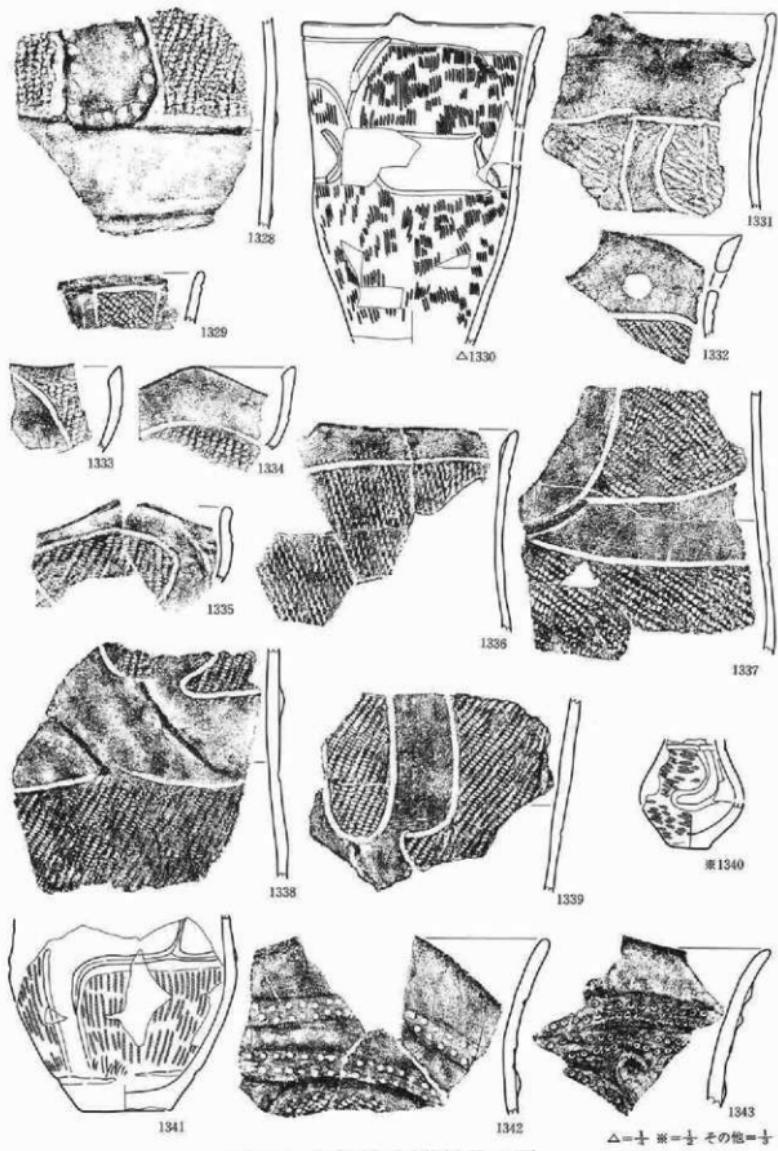


第119図 包含層出土遺物(土器・C区)

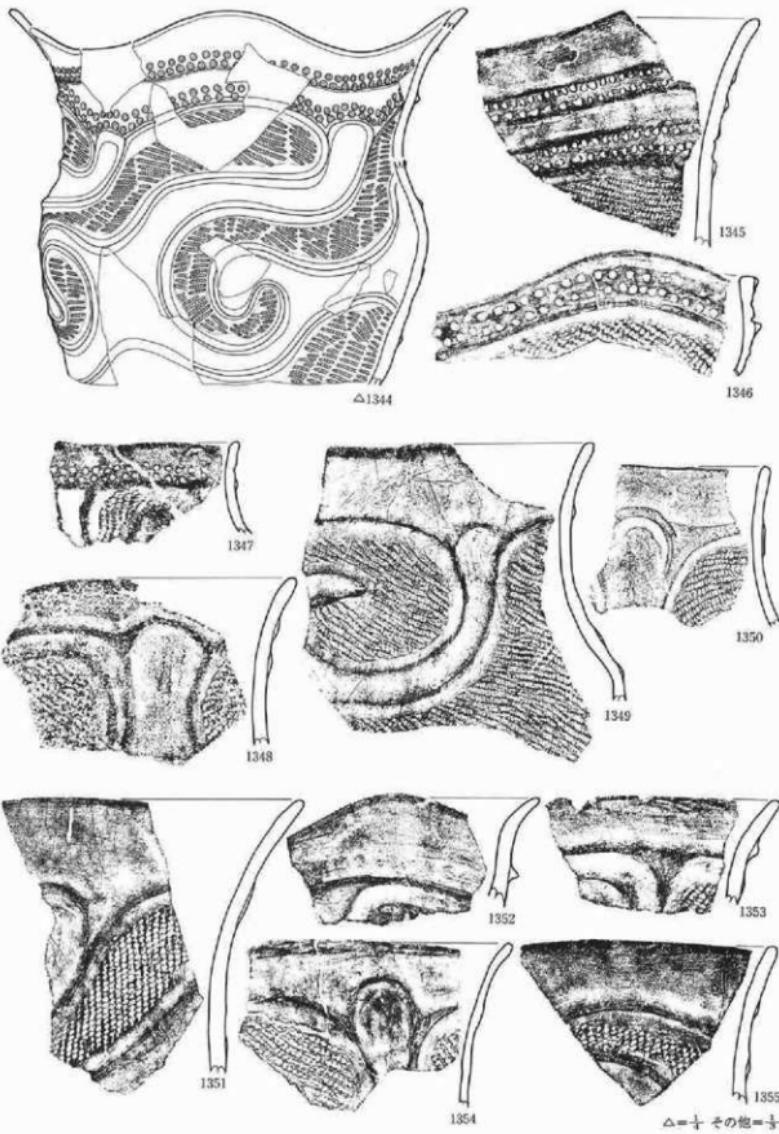
△ = $\frac{1}{4}$ * = $\frac{1}{2}$ その他 = $\frac{1}{3}$



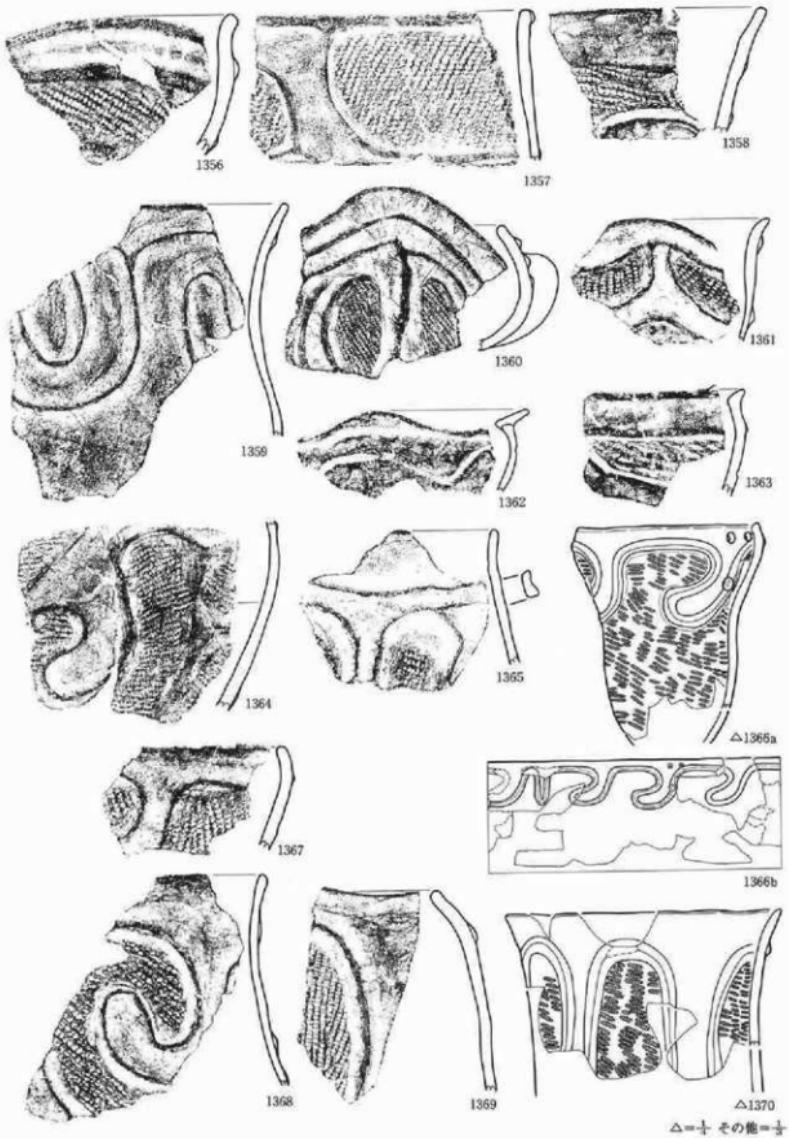
第120図 包含層出土遺物(土器・C区)



第121図 包含層出土遺物(土器・C区)

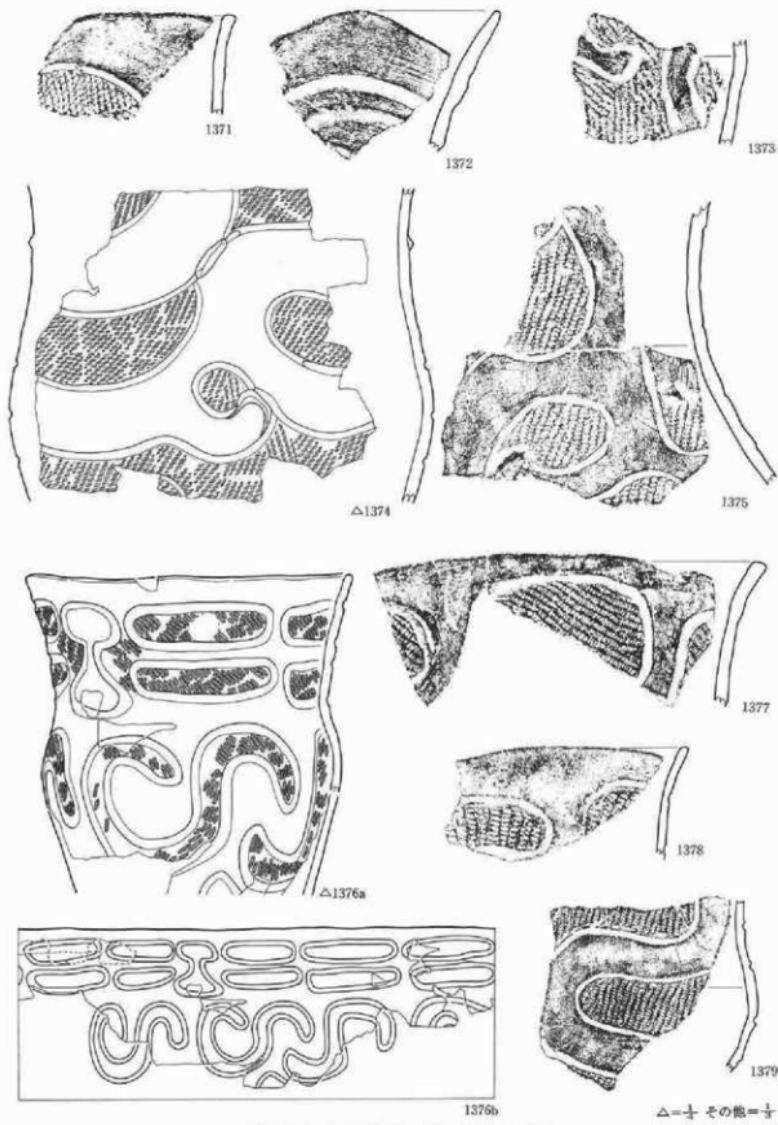


第122図 包含層出土遺物(土器・C区)

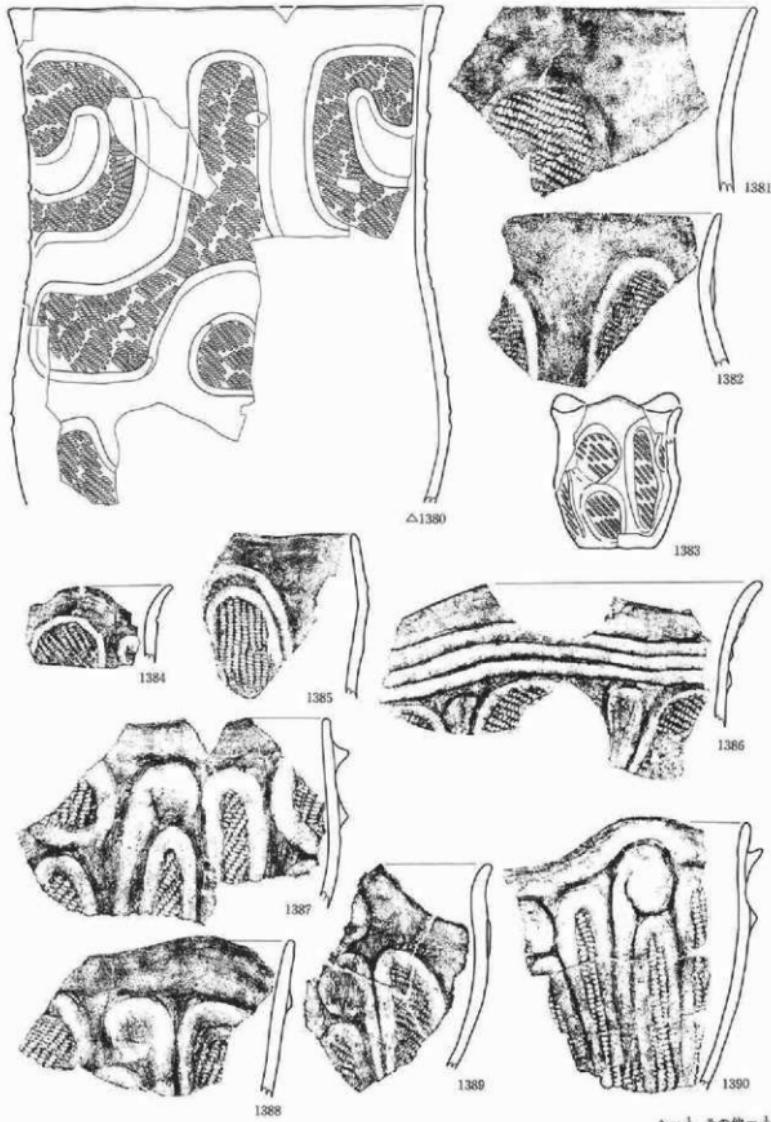


第123図 包含層出土遺物(土器・C区)

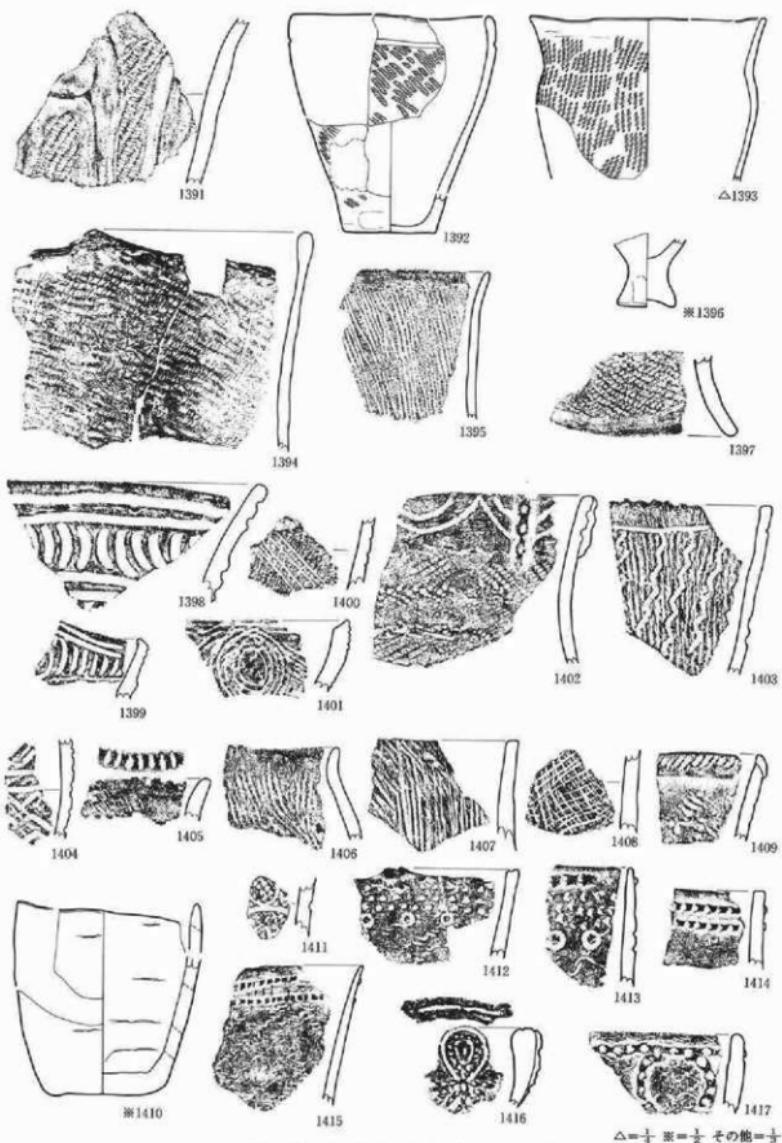
$\triangle = \frac{1}{2}$ その他 $= \frac{1}{3}$



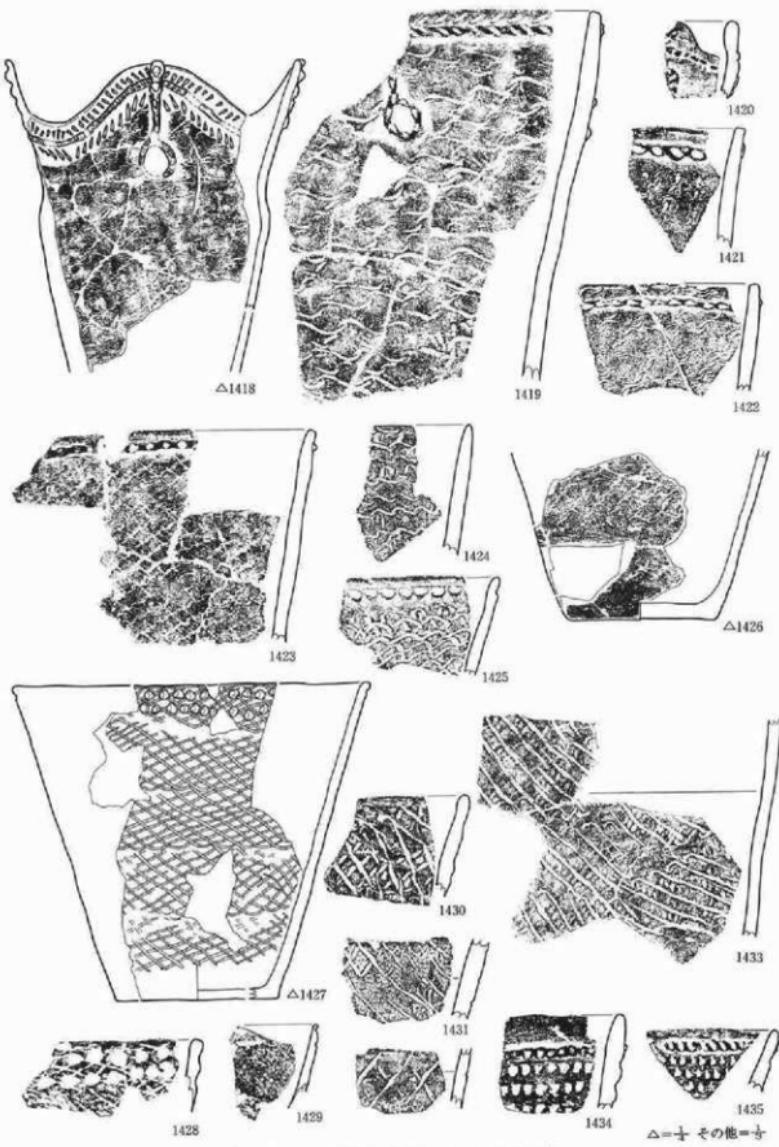
第124図 包含層出土遺物(土器・C区)



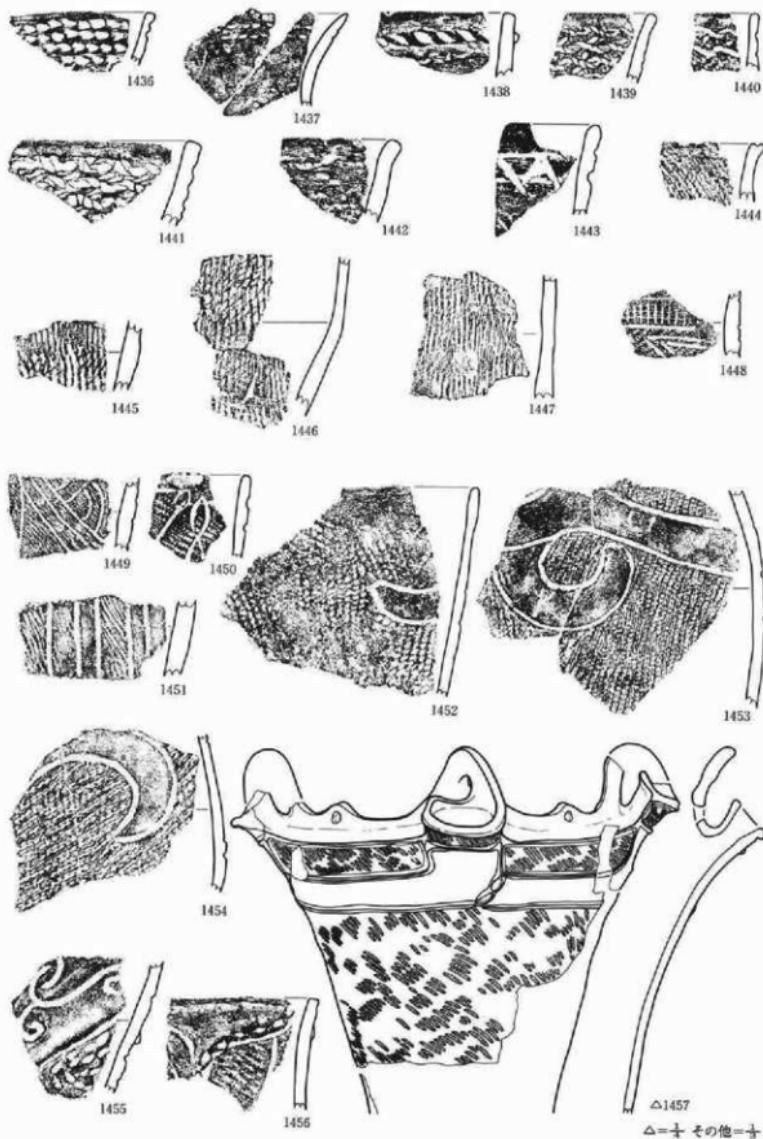
第125図 包含層出土遺物(土器・C区)



第126図 包含層出土遺物(土器・C区)



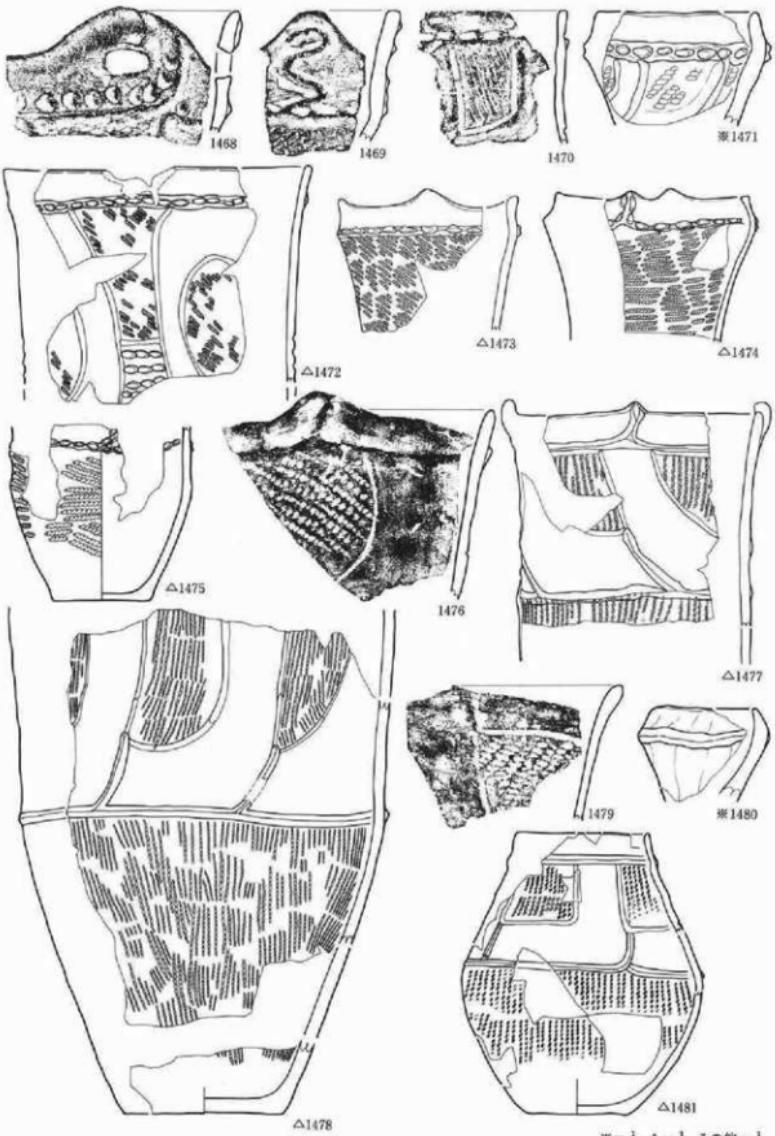
第127図 包含層出土遺物(土器・C D区)



第128図 包含層出土遺物(土器・D区)

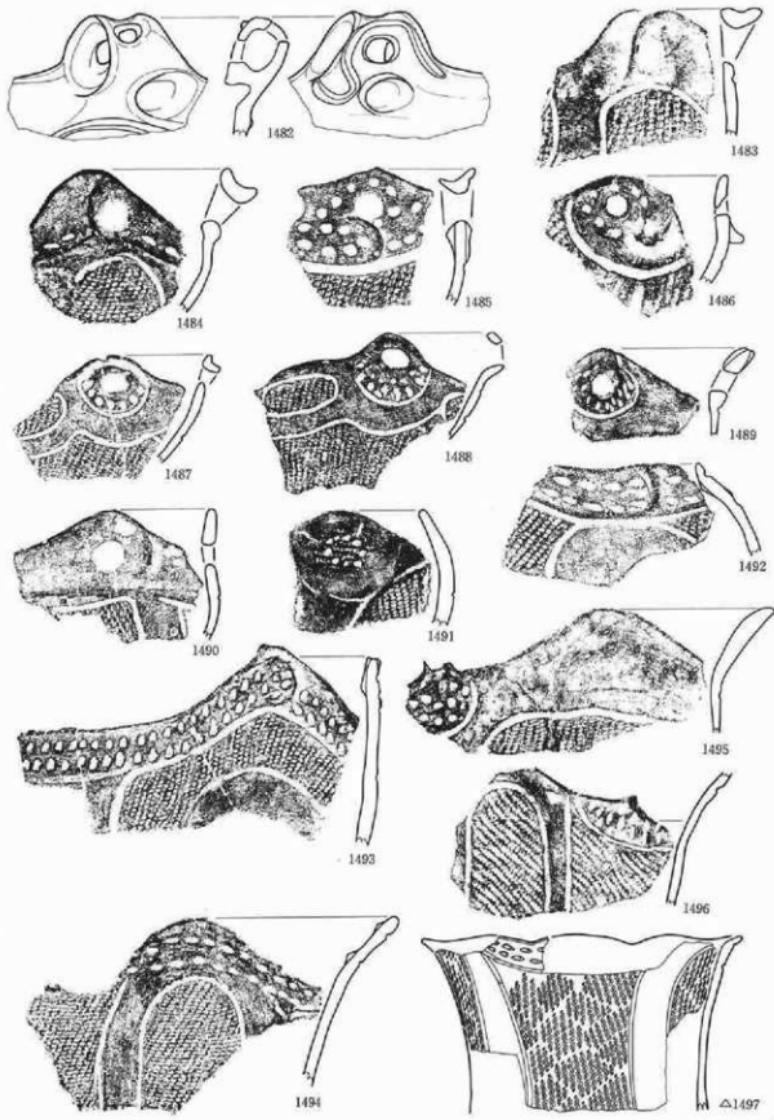


第129図 包含層出土遺物(土器・D区)



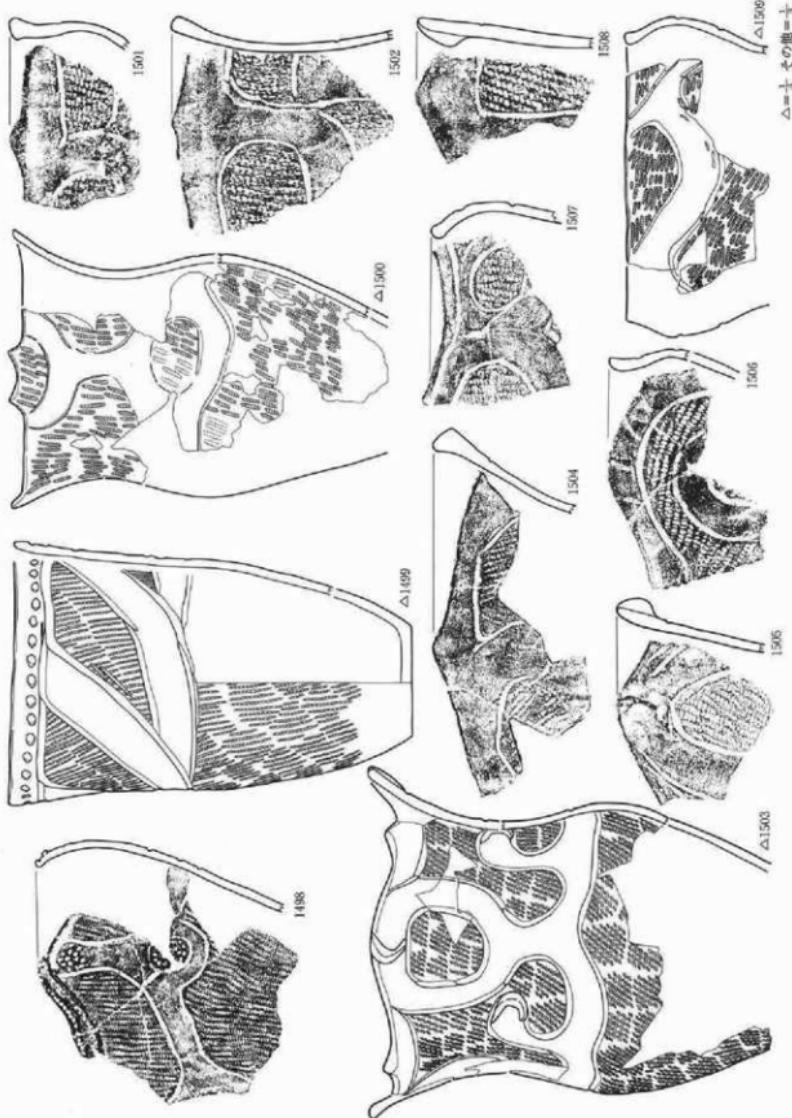
第130図 包含層出土遺物(土器・D区)

* = $\frac{1}{2}$ △ = $\frac{1}{3}$ その他 = $\frac{1}{1}$

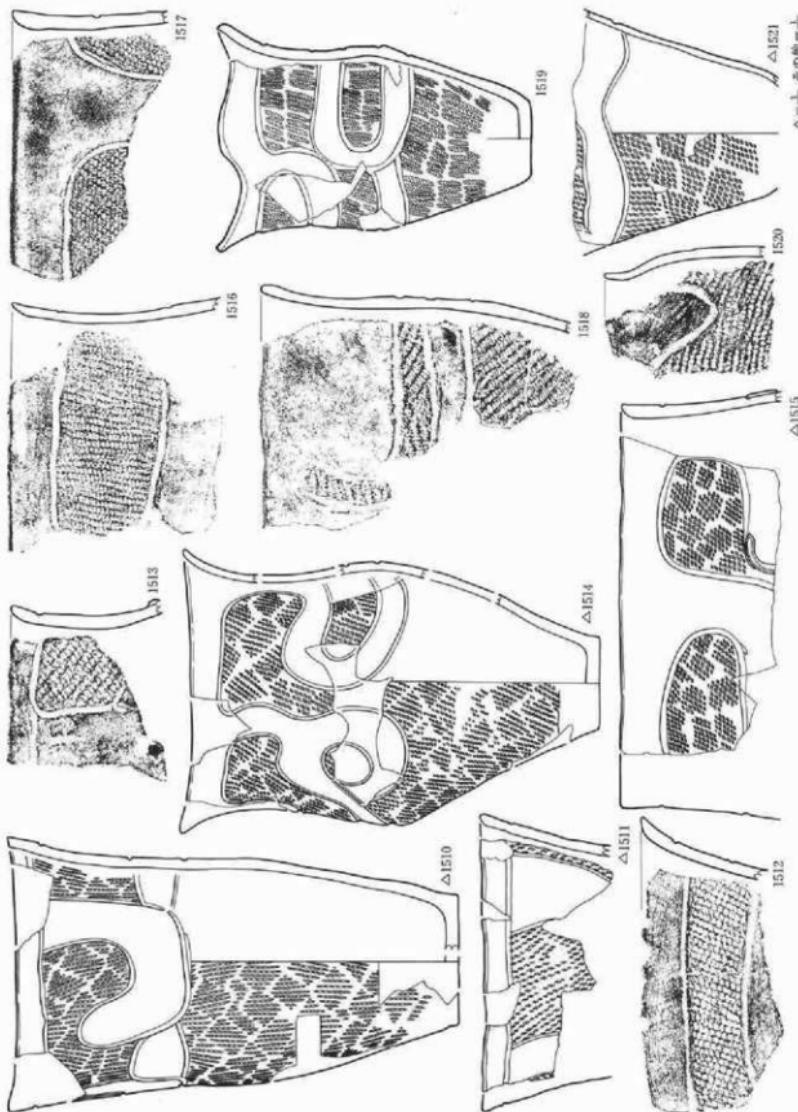


第131図 包含層出土遺物(土器・D区)

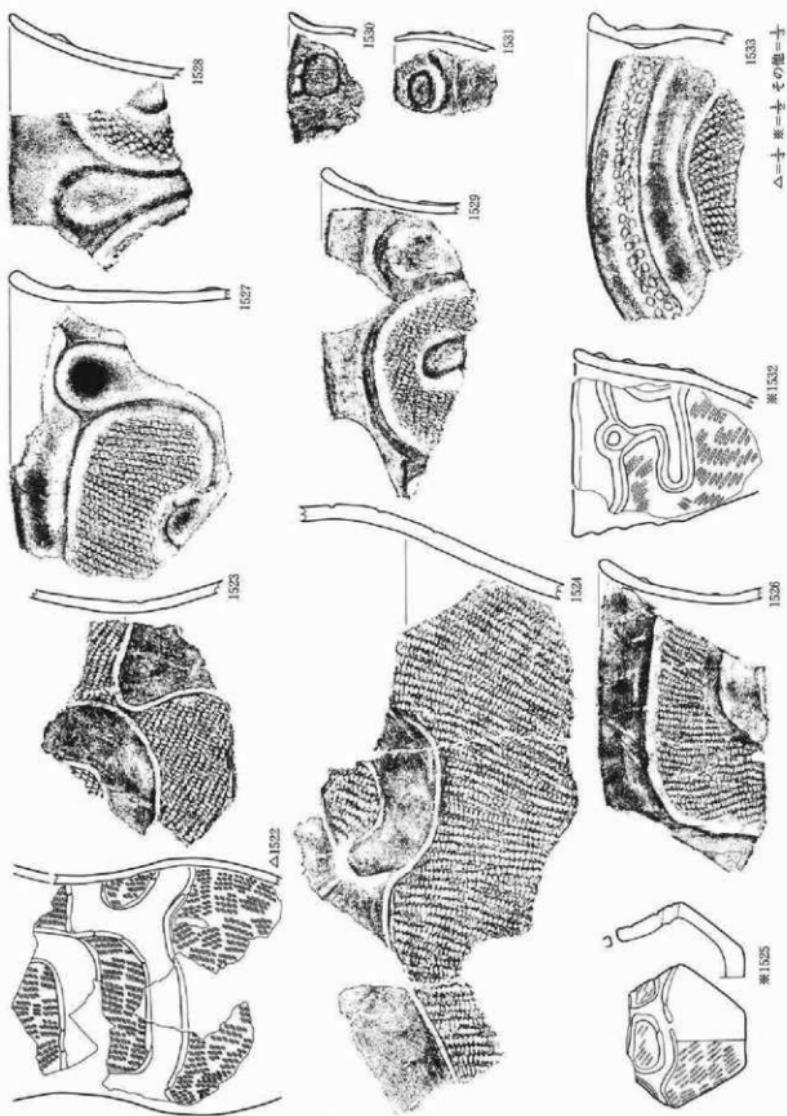
$\triangle = \frac{1}{2}$ その他 = $\frac{1}{2}$



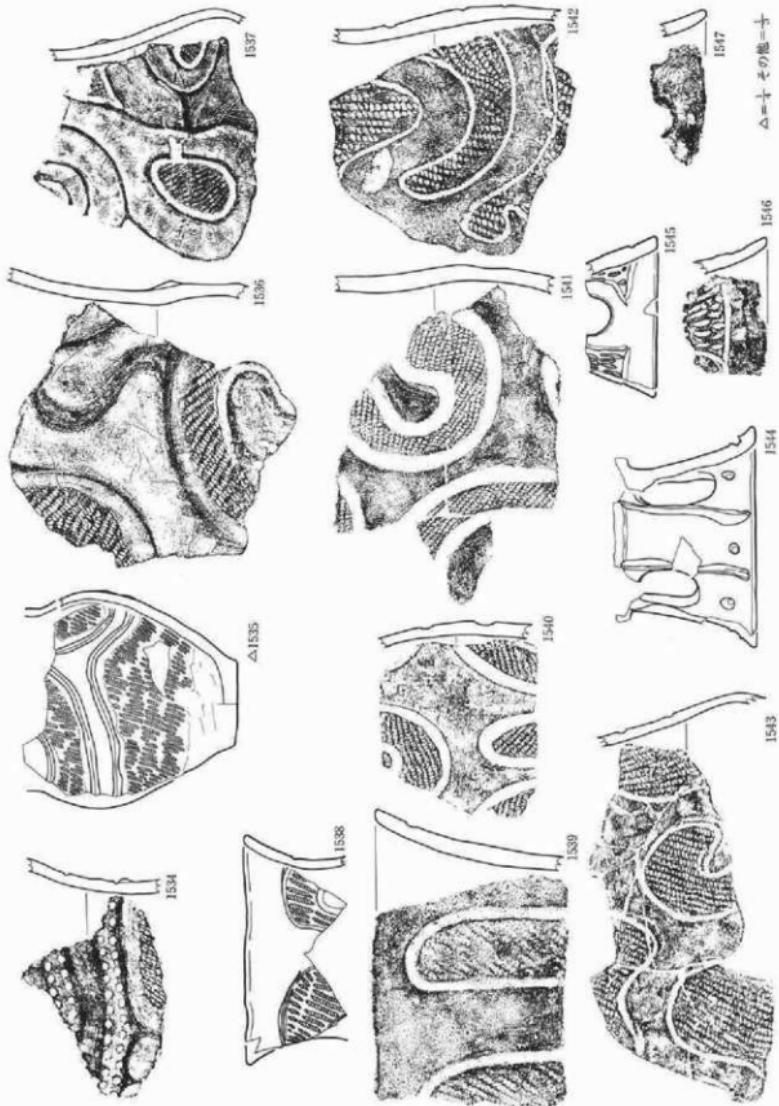
第132図 包含層出土遺物(土器・D区)



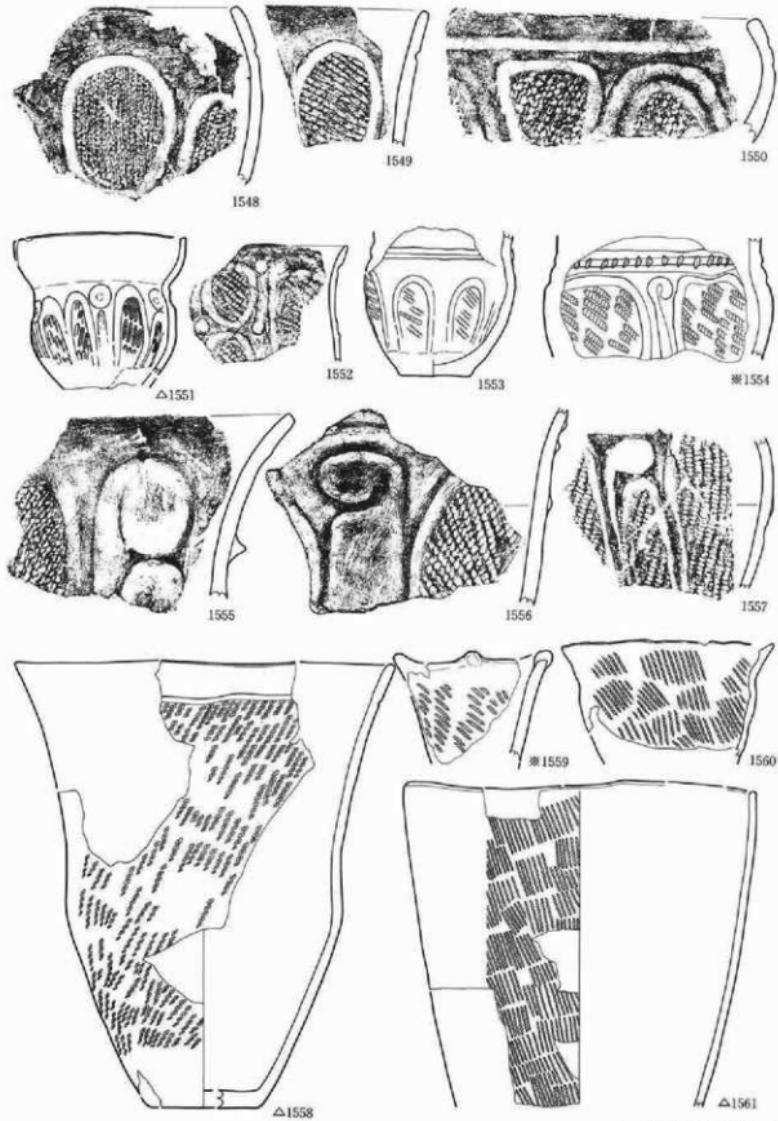
第133図 包含層出土遺物(土器・D区)



第134図 包含層出土遺物(土器・D区)

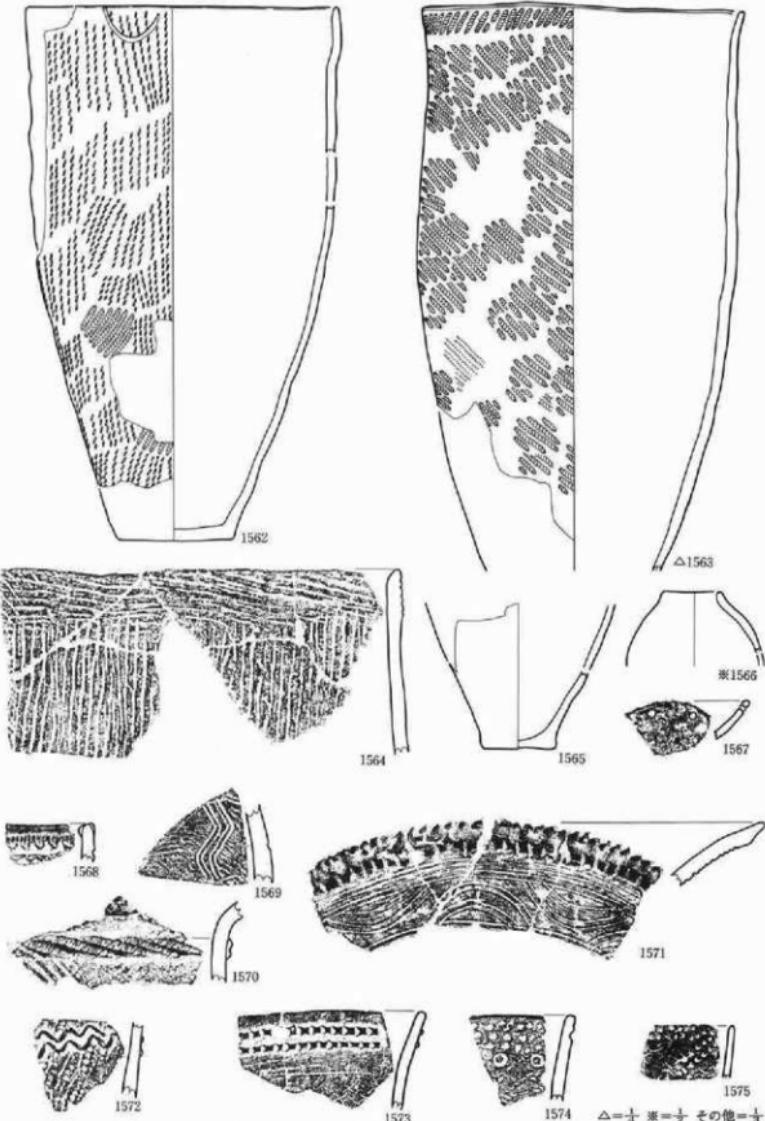


第135図 包含層出土遺物(土器・D区)

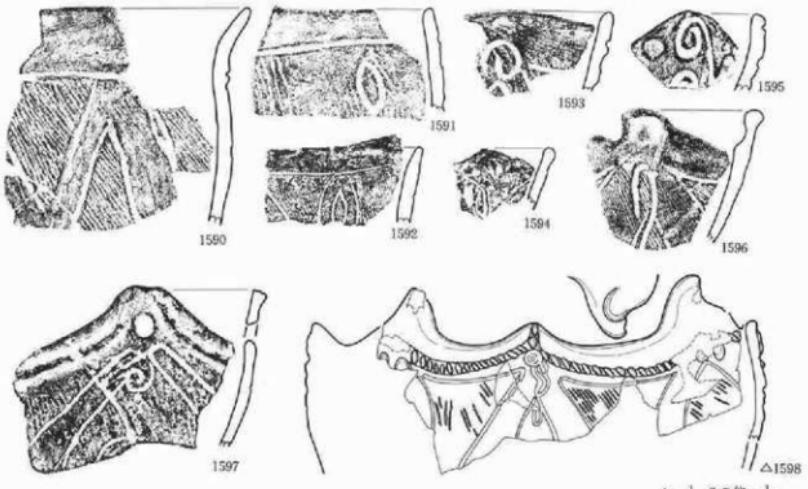
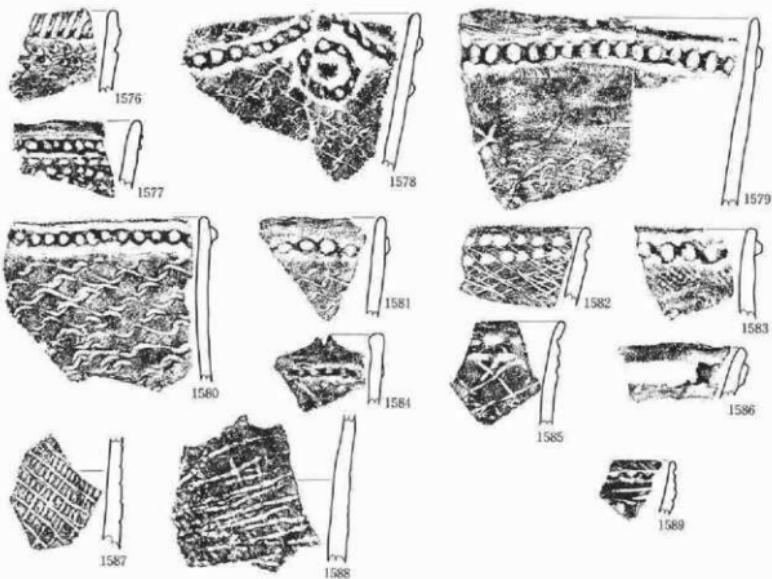


第136図 包含層出土遺物(土器・D区)

$\triangle = \frac{1}{4}$ $\blacksquare = \frac{1}{2}$ その他 = $\frac{1}{4}$

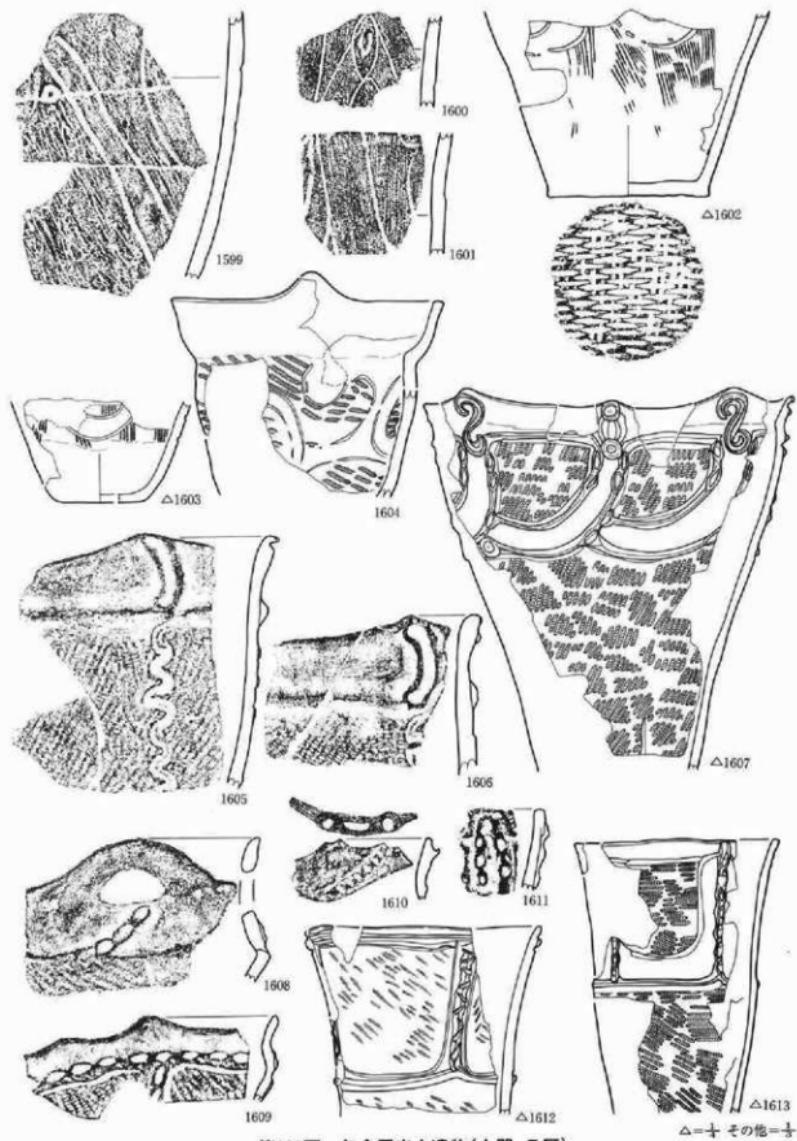


第137図 包含層出土遺物(土器・D区)

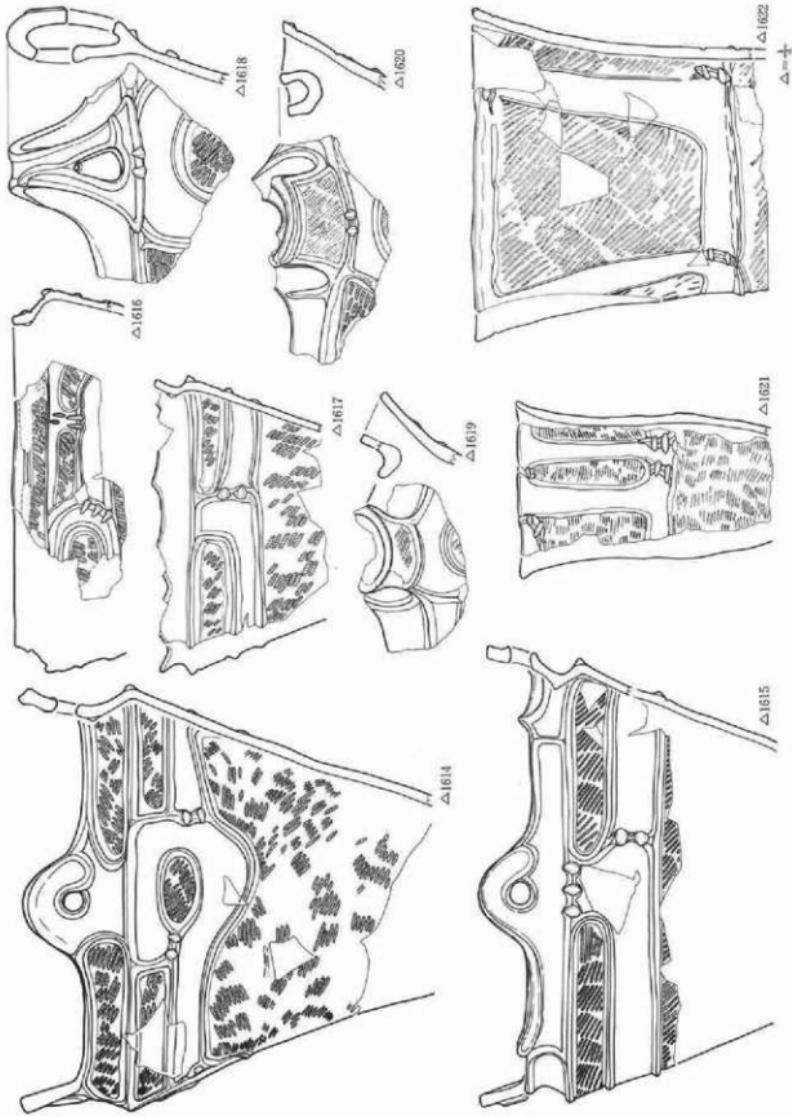


第138図 包含層出土遺物(土器・D E区)

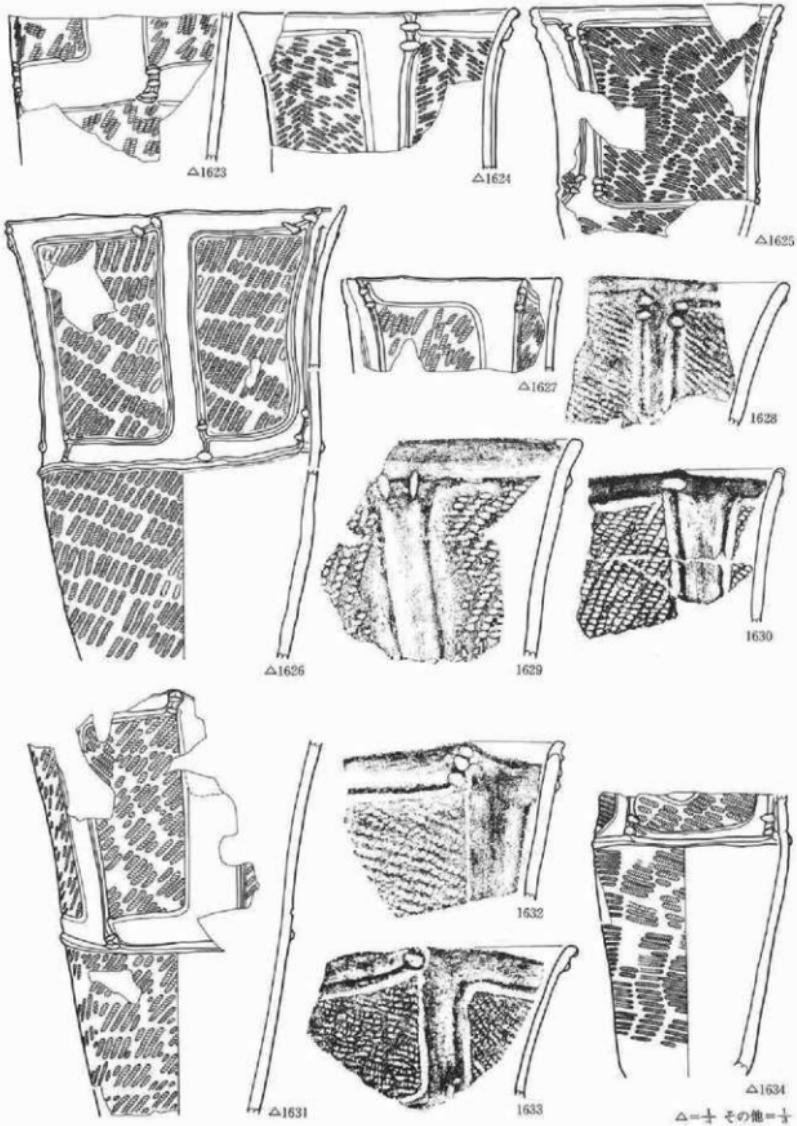
$\triangle = \frac{1}{2}$ その他 = $\frac{1}{3}$



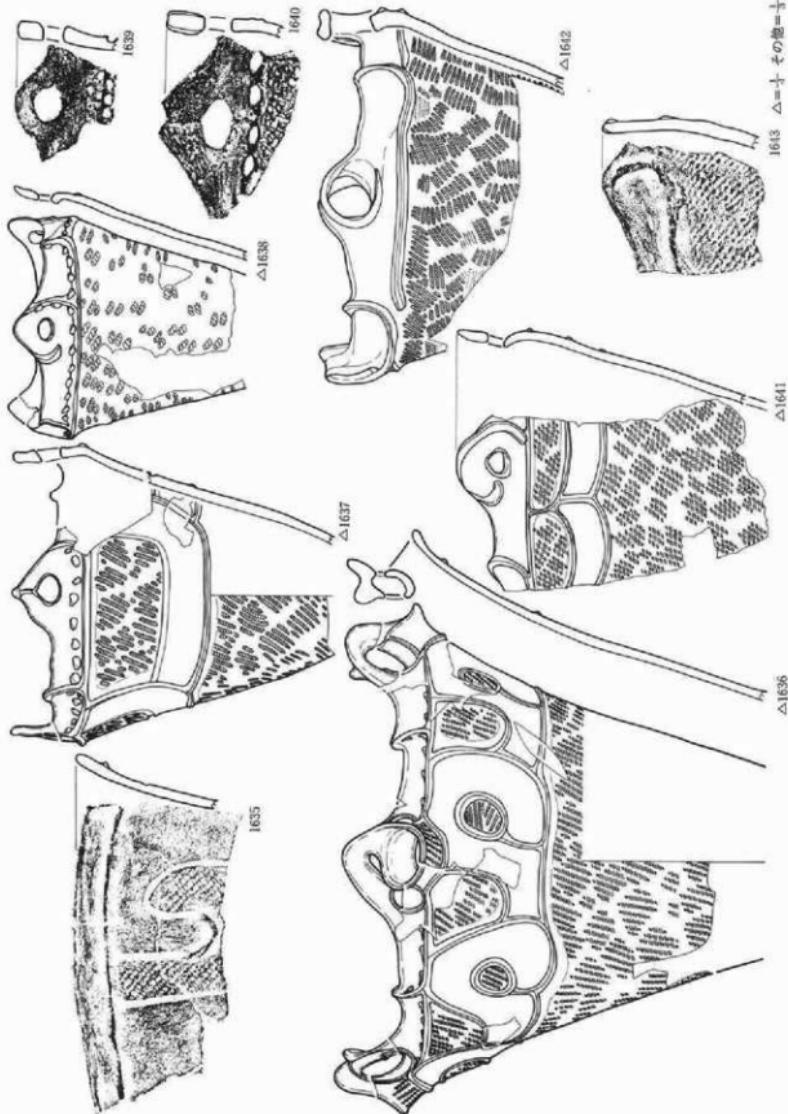
第139図 包含層出土遺物(土器・E区)



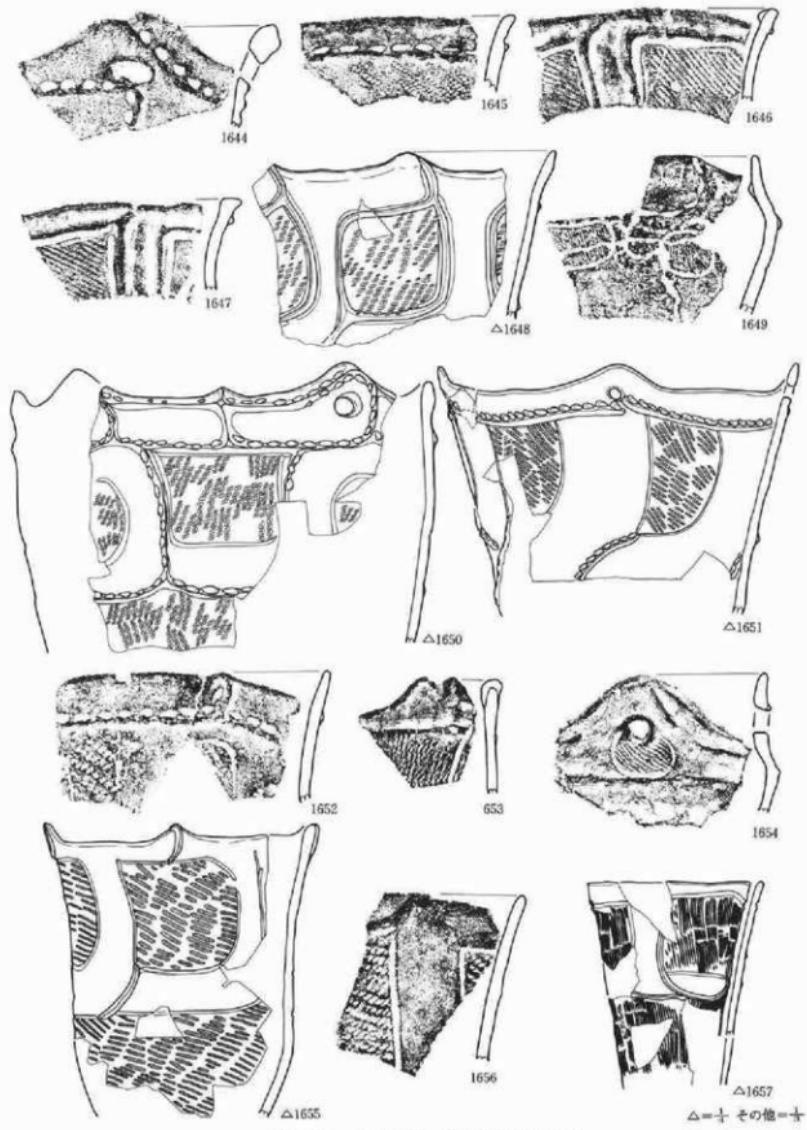
第140図 包含層出土遺物(土器・E区)



第141図 包含層出土遺物(土器・E区)

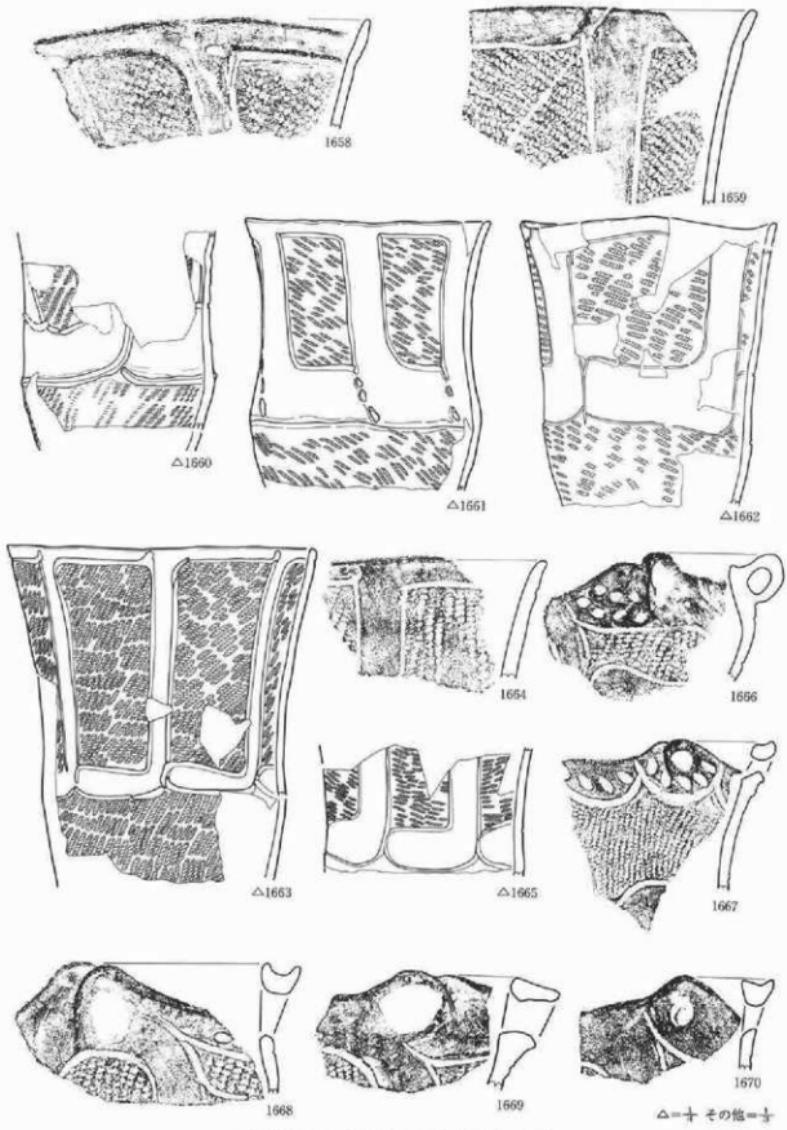


第142図 包含層出土遺物(土器・E区)

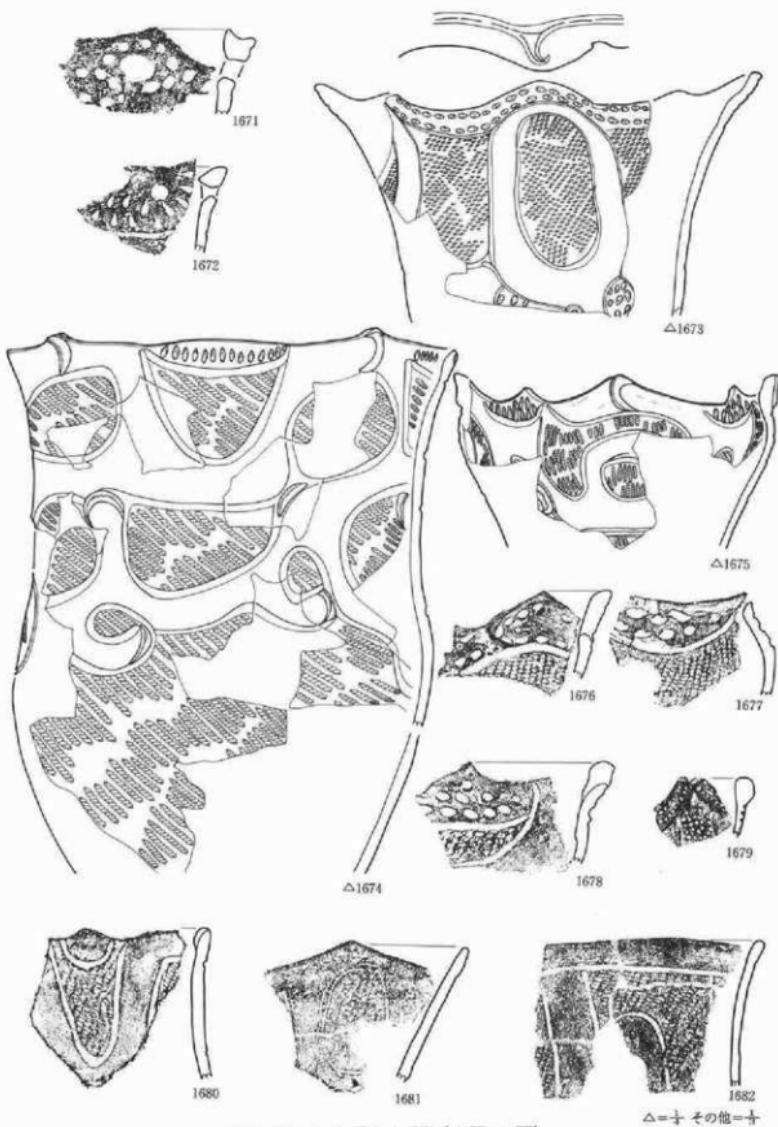


第143図 包含層出土遺物(土器・E区)

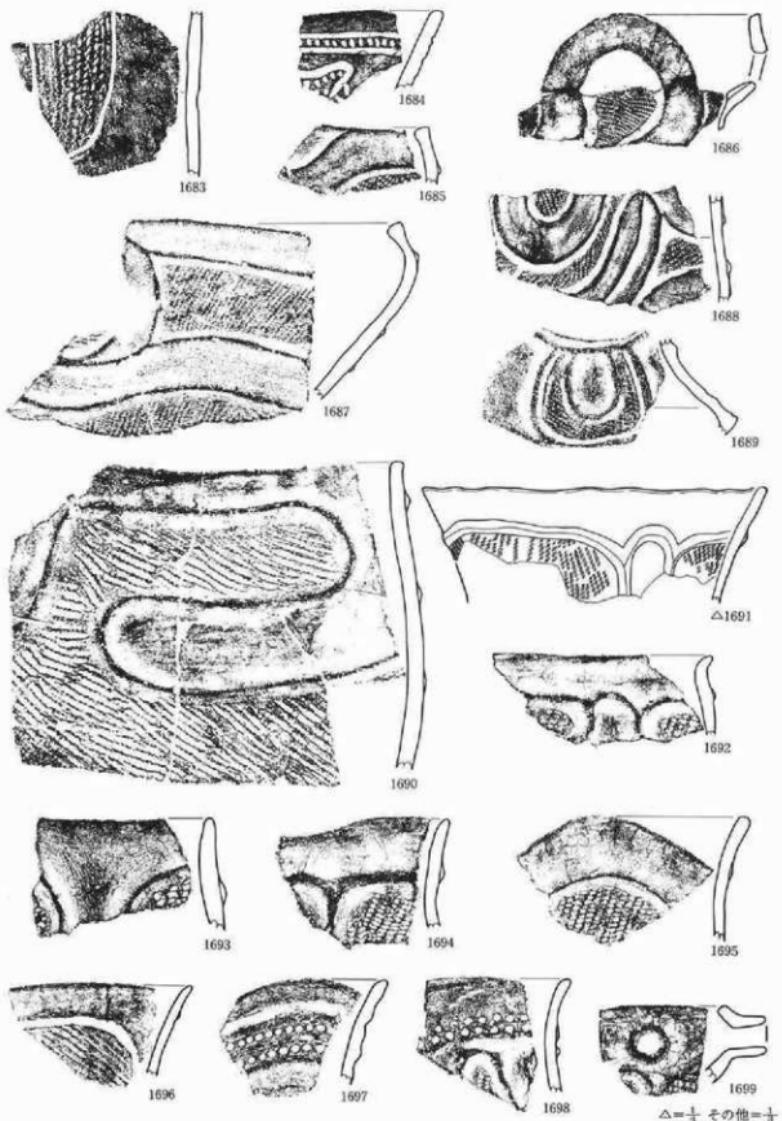
$\triangle = \frac{1}{2}$ その他 = $\frac{1}{4}$



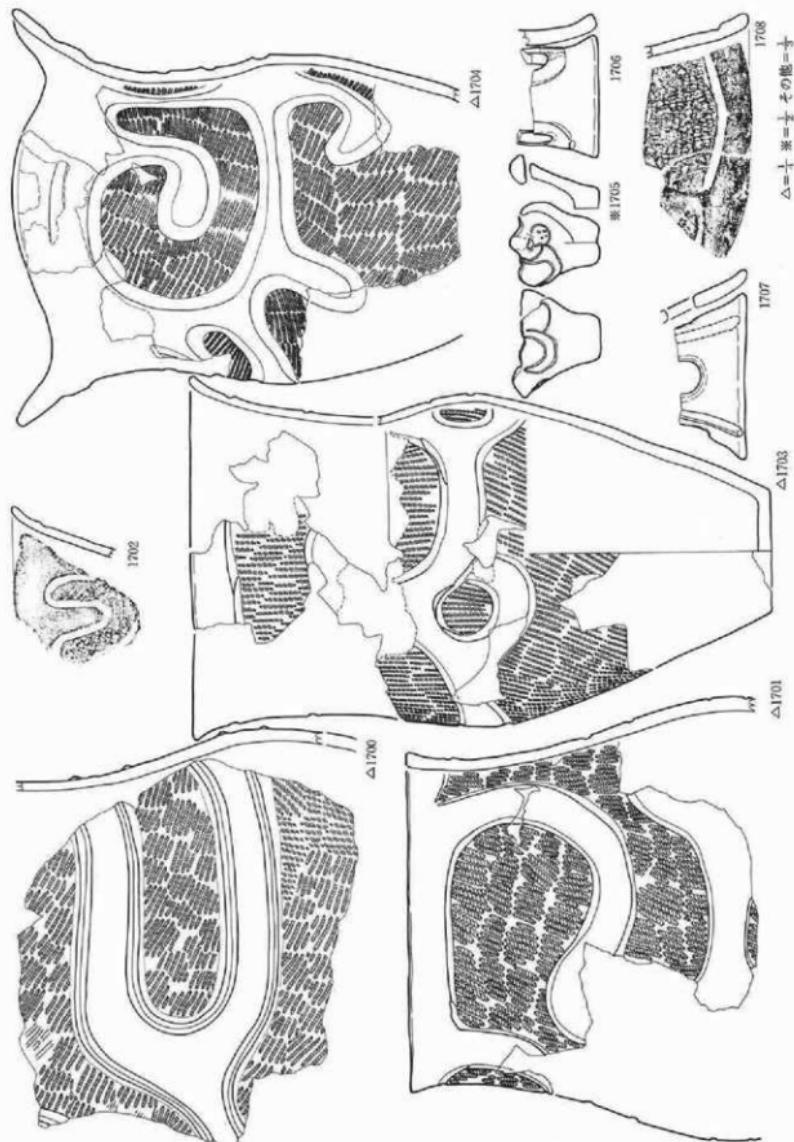
第144図 包含層出土遺物(土器・E区)



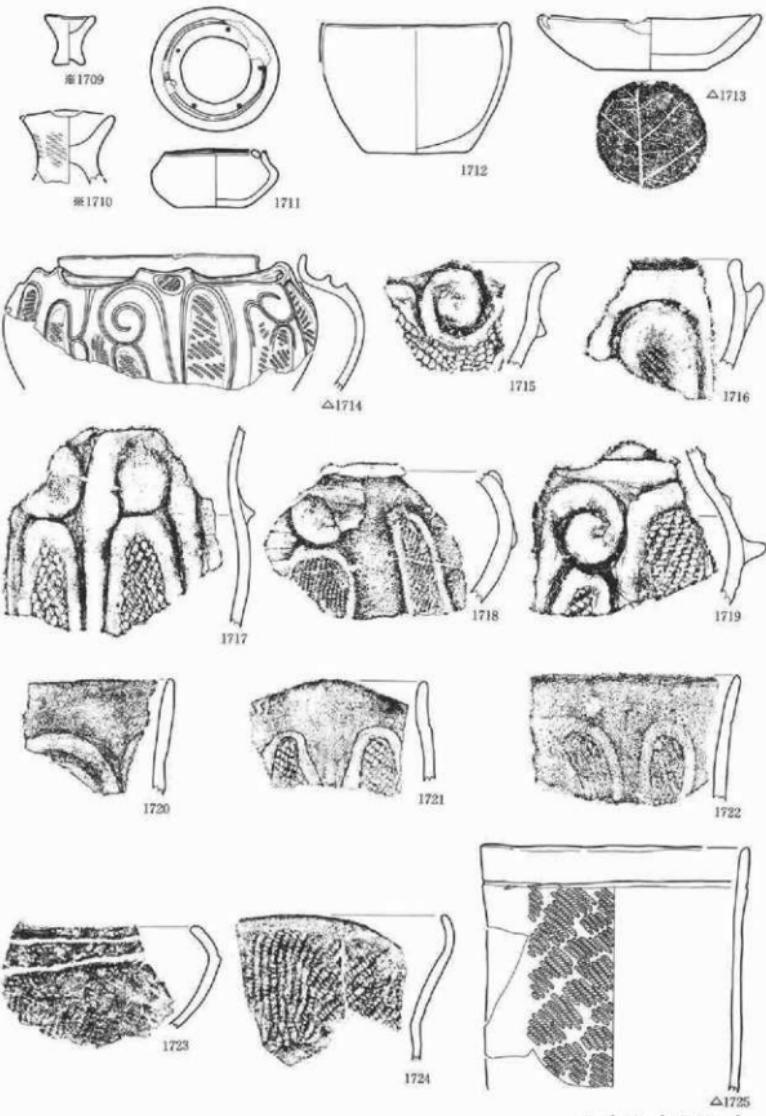
第145図 包含層出土遺物(土器・E区)



第146図 包含層出土遺物(土器・E区)

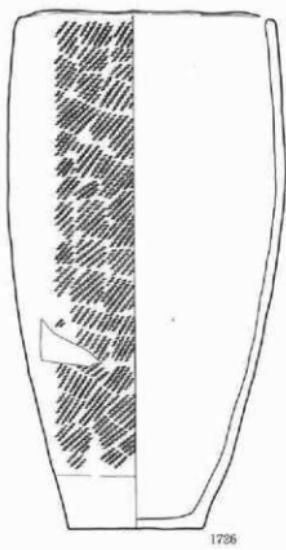


第147図 包含層出土遺物(土器・E区)

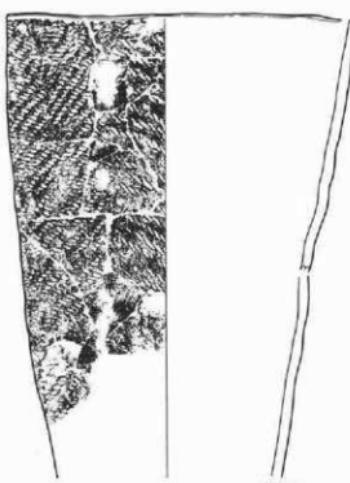


第148図 包含層出土遺物(土器・E区)

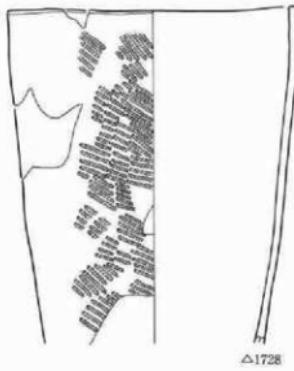
$\triangle = \frac{1}{3}$ $\ast = \frac{1}{2}$ その他 $= \frac{1}{3}$



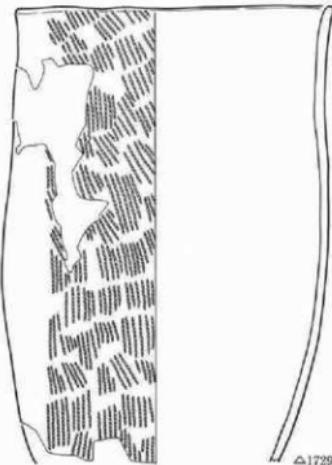
1726



△1727

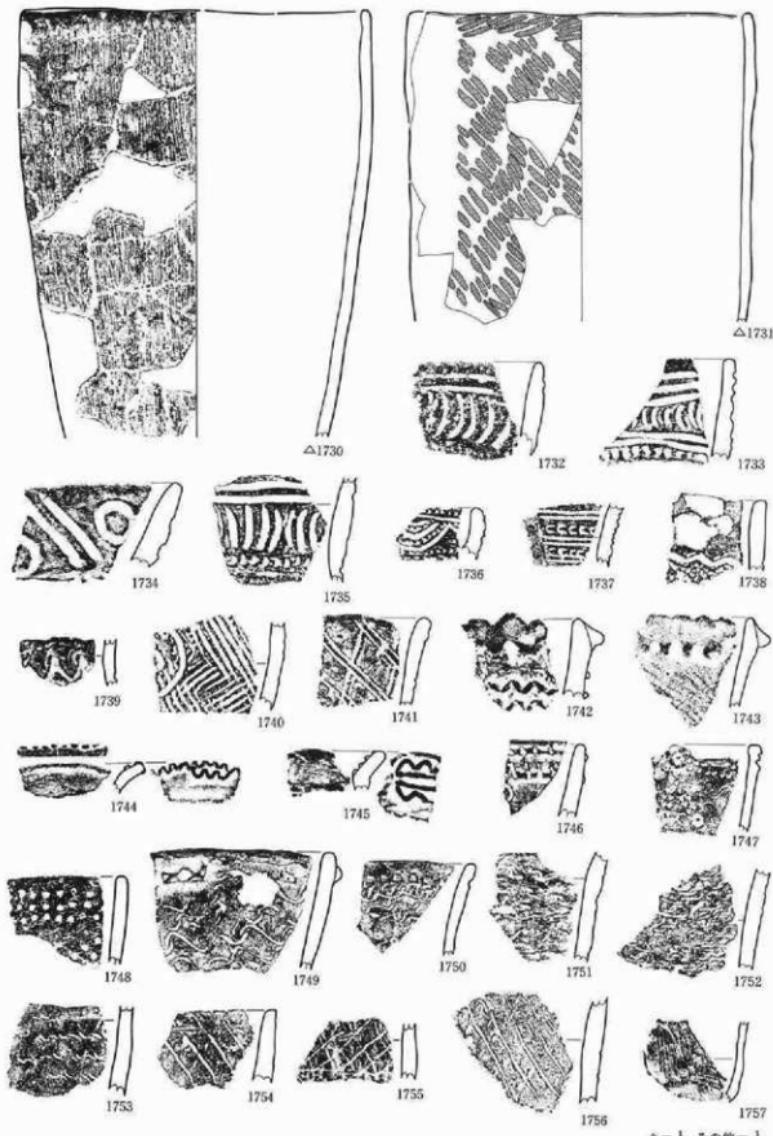


△1728

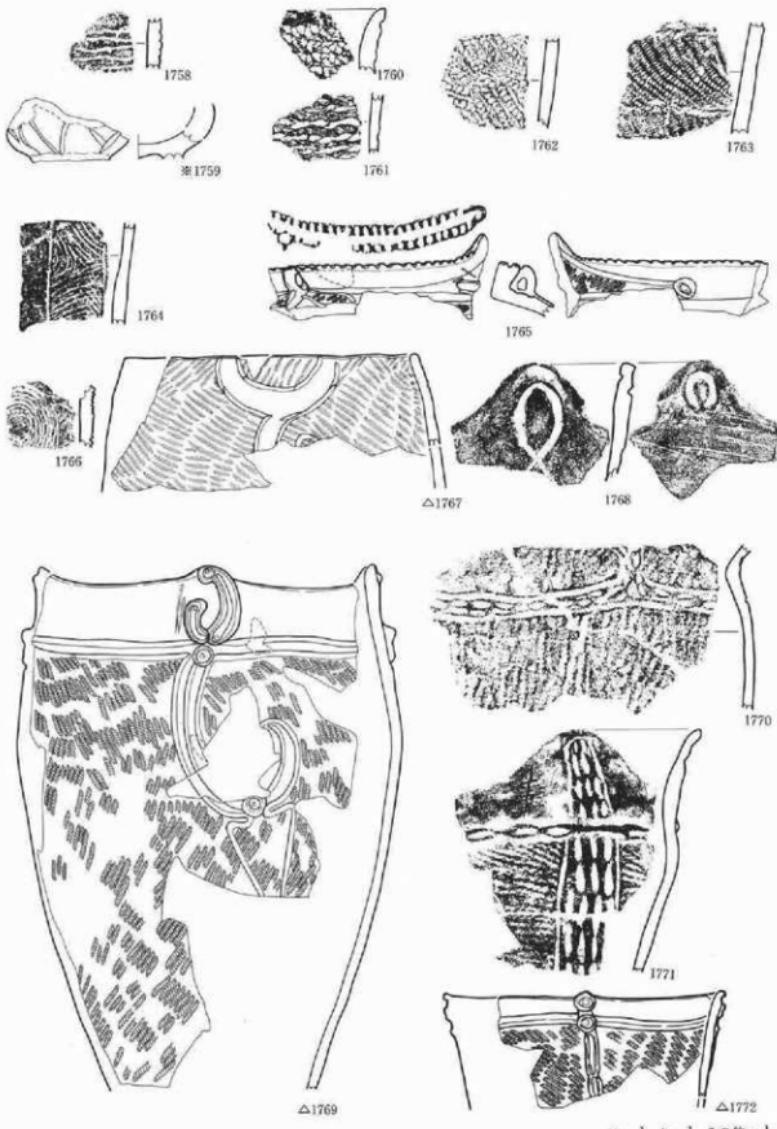


1726 = $\frac{1}{6}$ △ = $\frac{1}{2}$

第149図 包含層出土遺物(土器・E区)



第150図 包含層出土遺物(土器・E区)

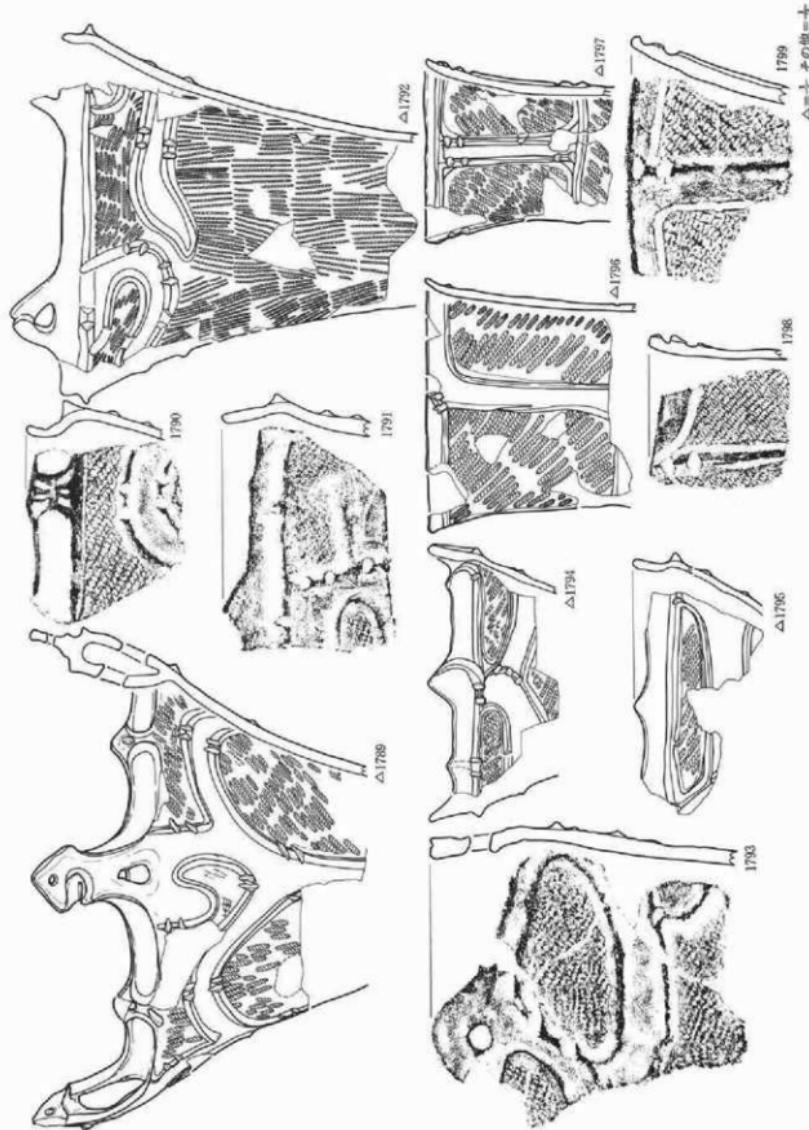


第151図 包含層出土遺物(土器・E F区)

△ = $\frac{1}{2}$ ▲ = $\frac{1}{4}$ その他 = $\frac{1}{8}$



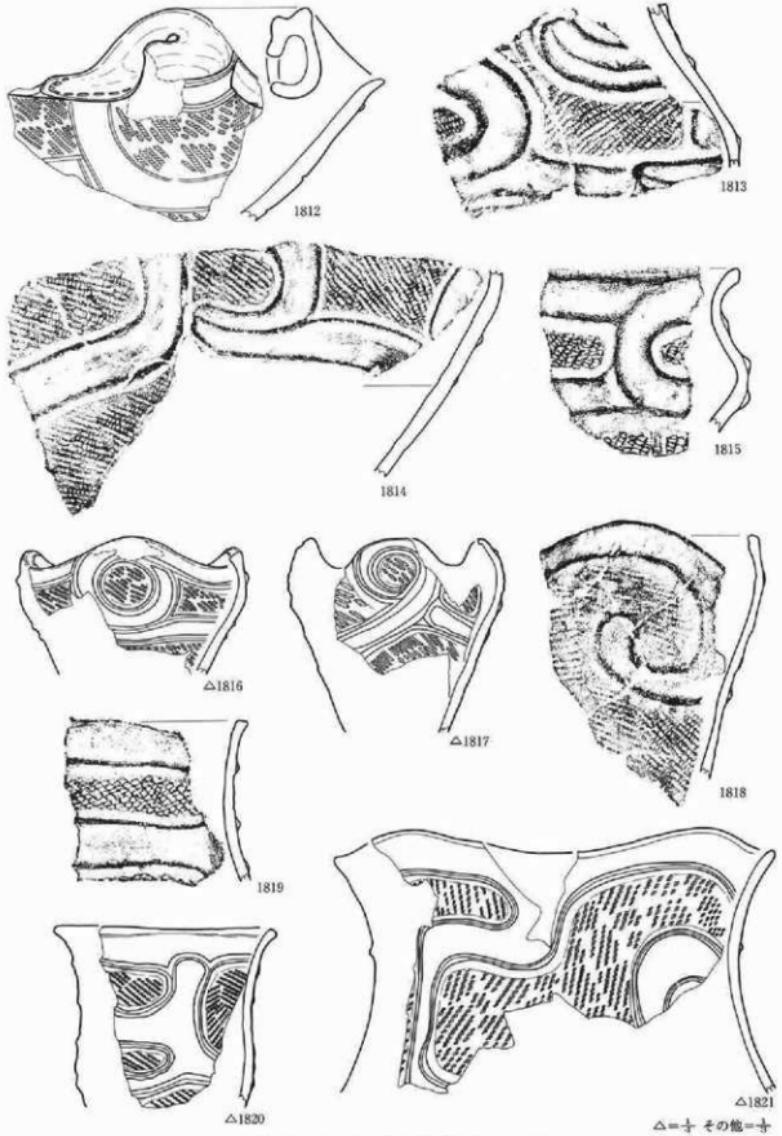
第152図 包含層出土遺物(土器・F区)



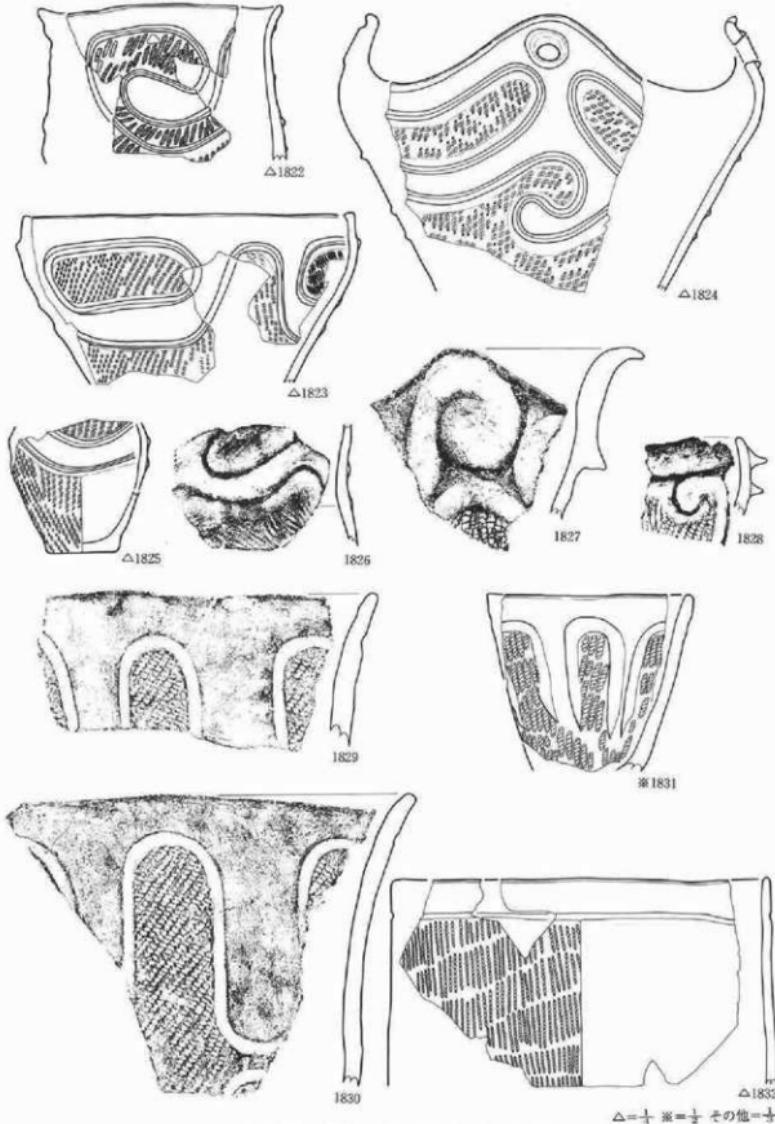
第153図 包含層出土遺物(土器・F区)



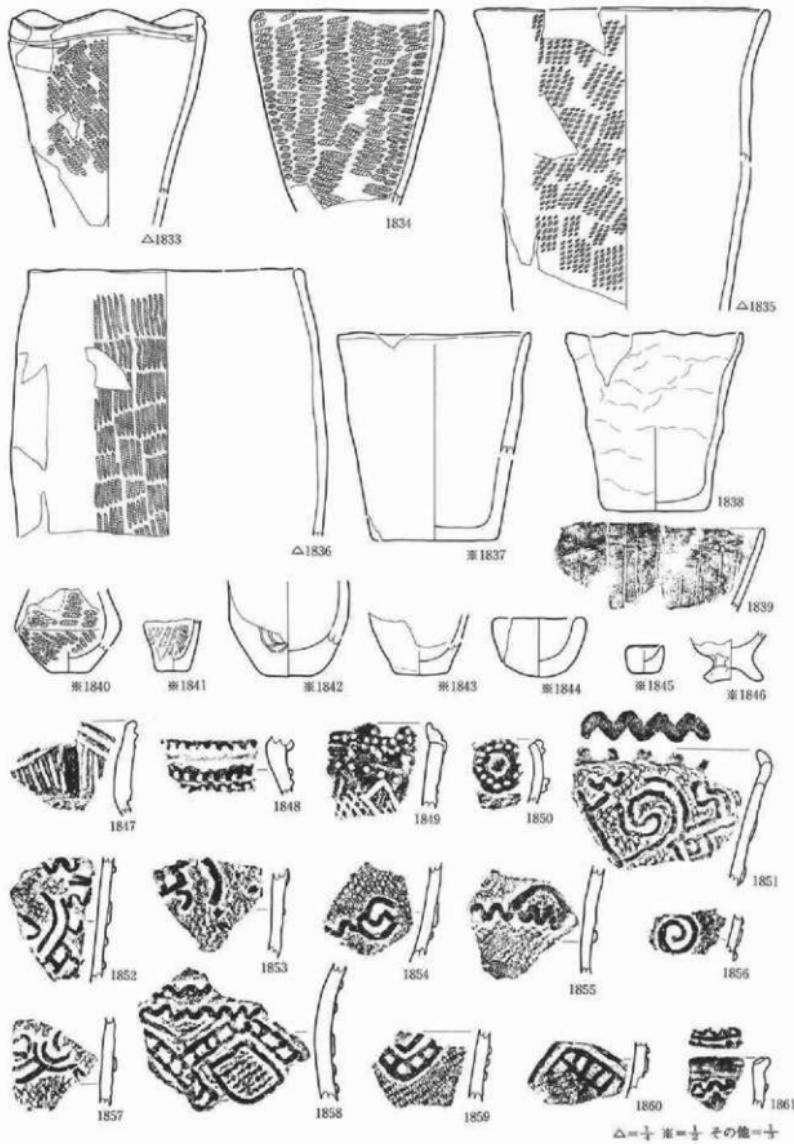
第154図 包含層出土遺物(土器・F区)



第155図 包含層出土遺物(土器・F区)



第156図 包含層出土遺物(土器・F区)

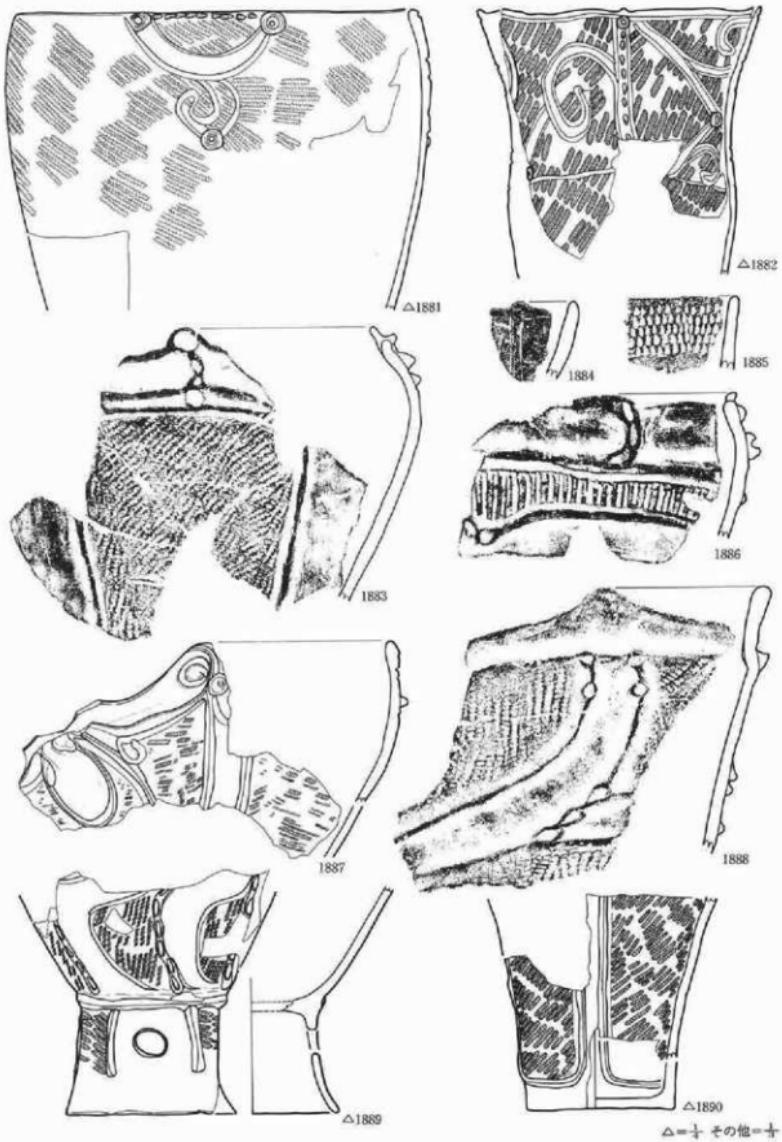


第157図 包含層出土遺物(土器・F区)

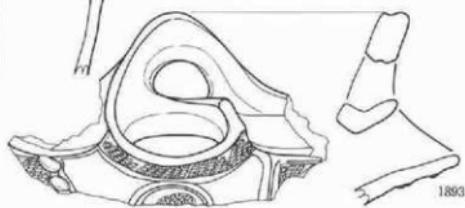
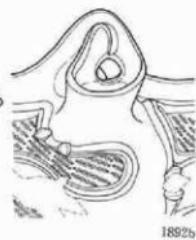
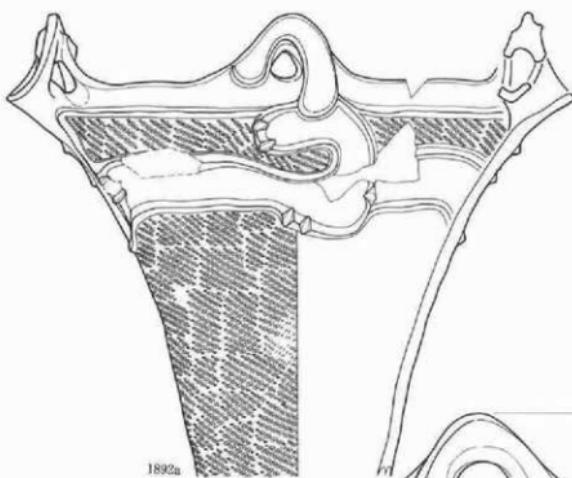
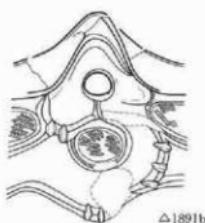
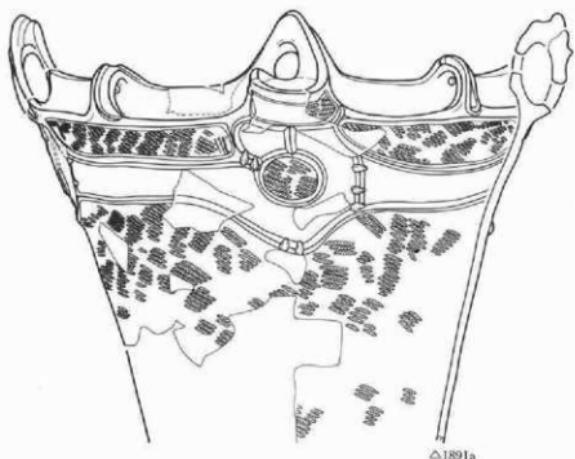


第158図 包含層出土遺物(土器・F G区)

$\triangle = \frac{1}{2}$ その他 = $\frac{1}{3}$

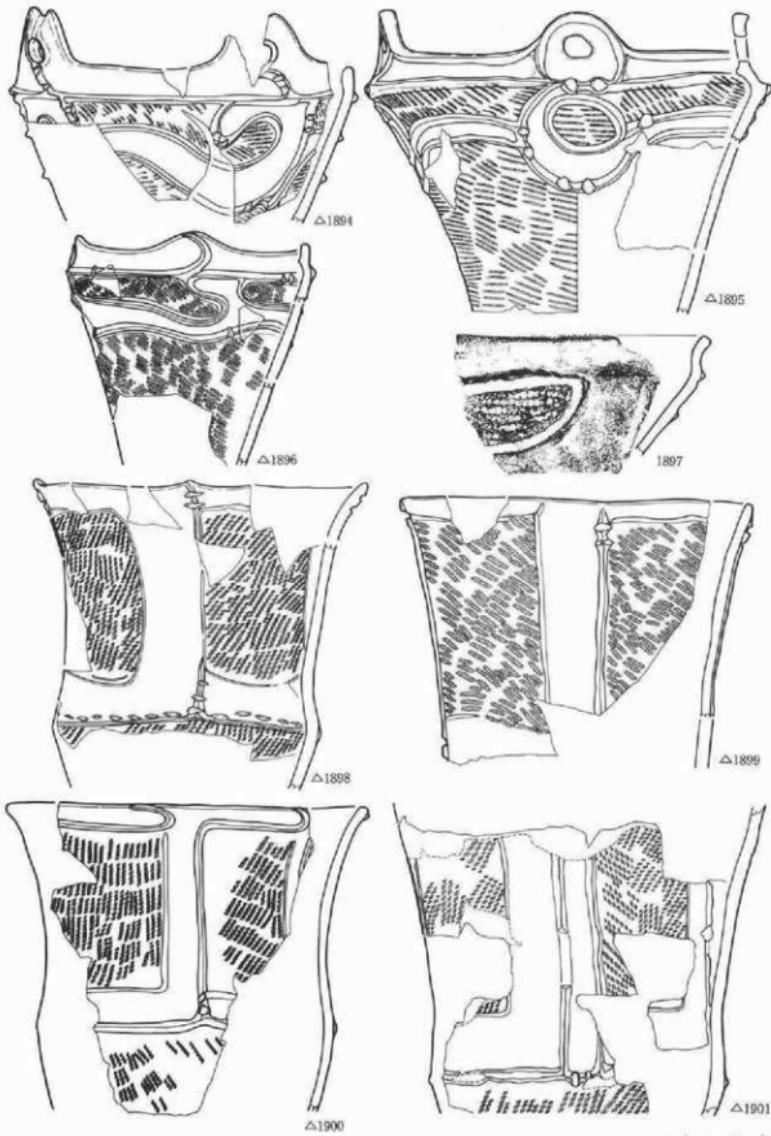


第159図 包含層出土遺物(土器・G区)



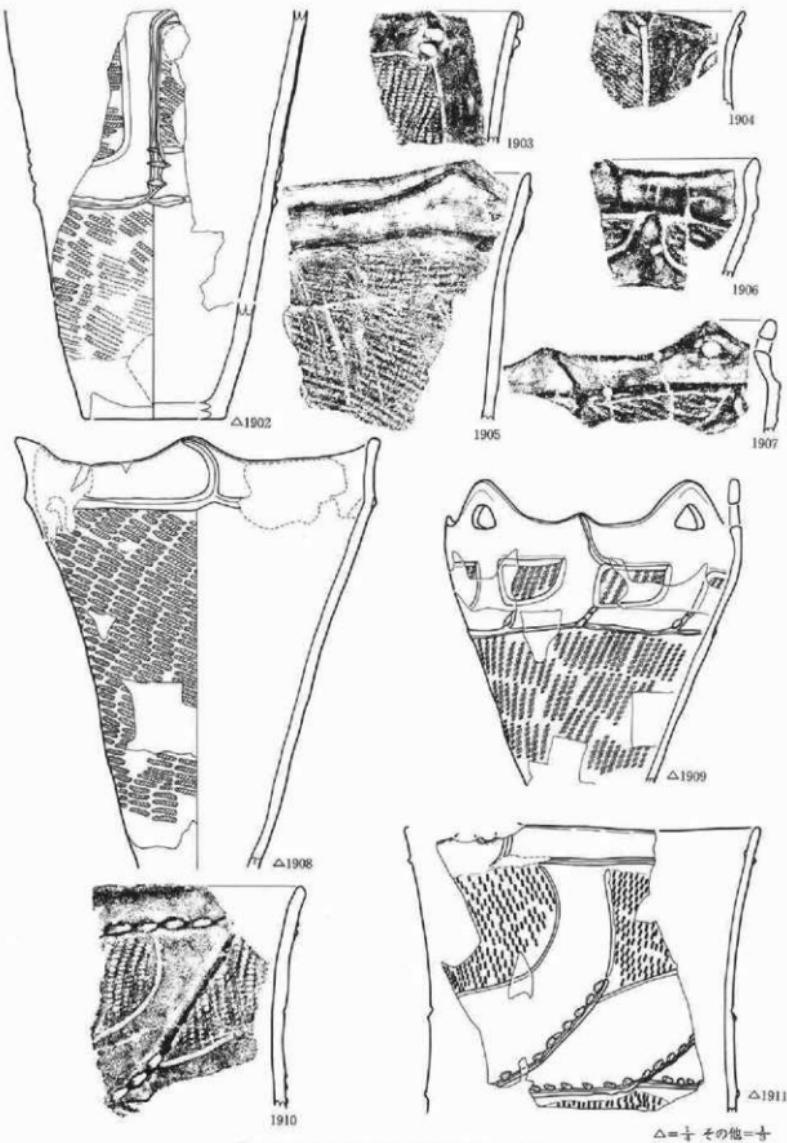
$\triangle = \frac{1}{4}$ 1892a-b = $\frac{1}{4}$ その他 = $\frac{1}{4}$

第160図 包含層出土遺物(土器・G区)

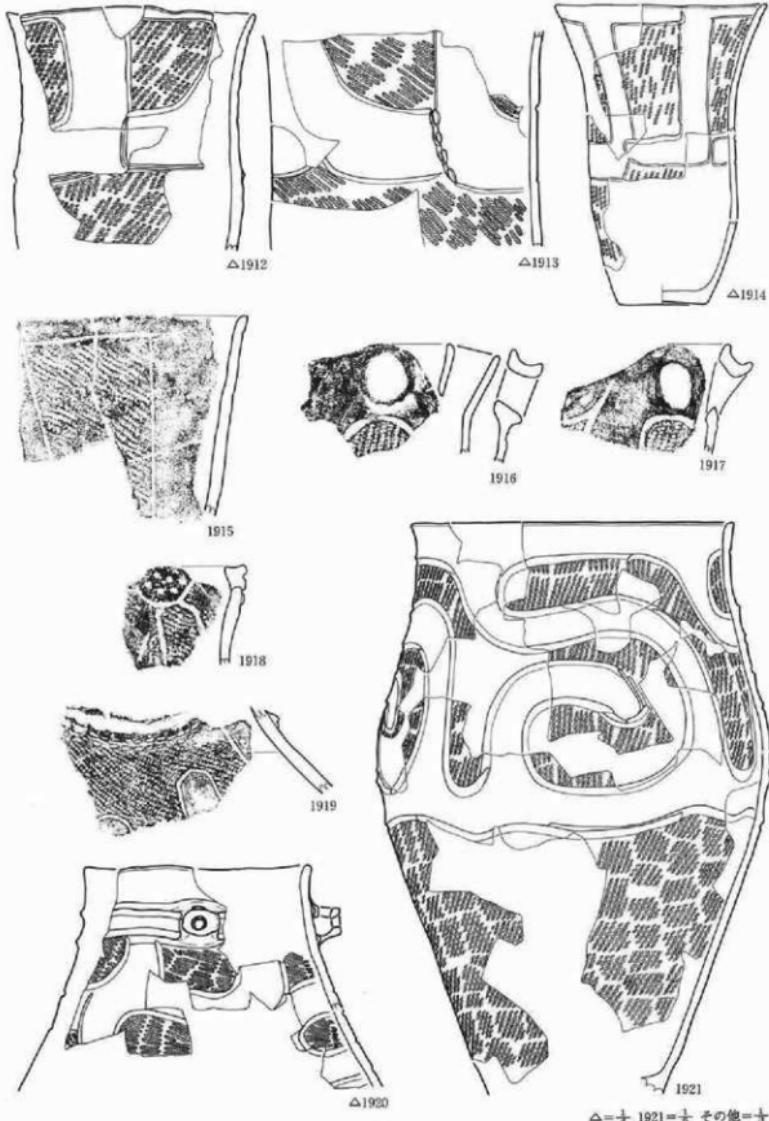


第161図 包含層出土遺物(土器・G区)

△=+ その他=+



第162図 包含層出土遺物(土器・G区)



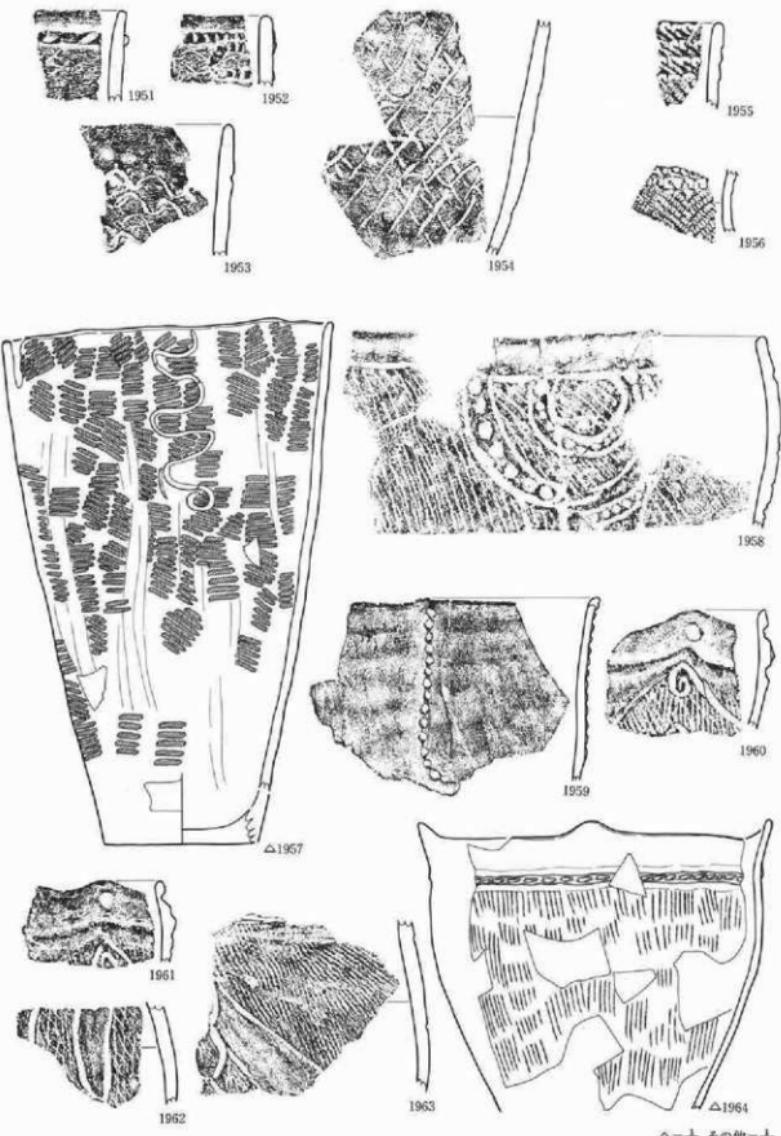
第163図 包含層出土遺物(土器・G区)

$\triangle = \frac{1}{4}$ 1921 = $\frac{1}{2}$ その他 = $\frac{1}{1}$



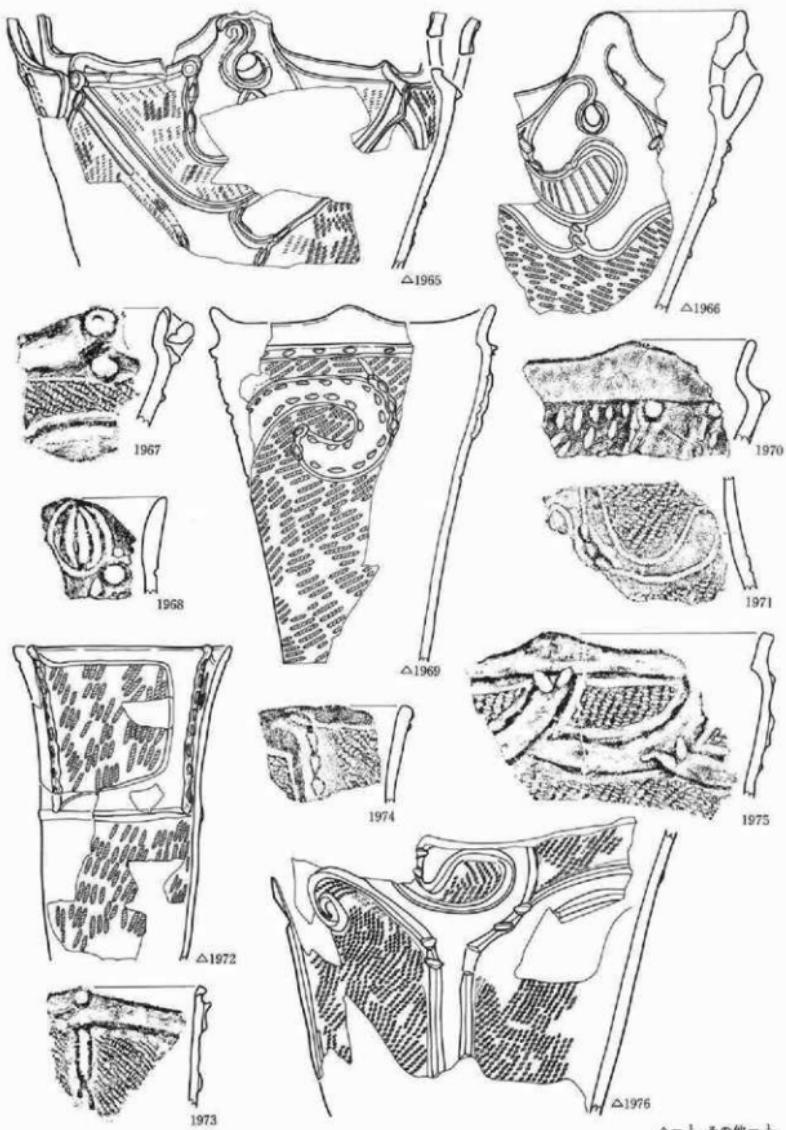
第164図 包含層出土遺物(土器・G区)

$\triangle = \pm$ その他 = $\frac{1}{2}$

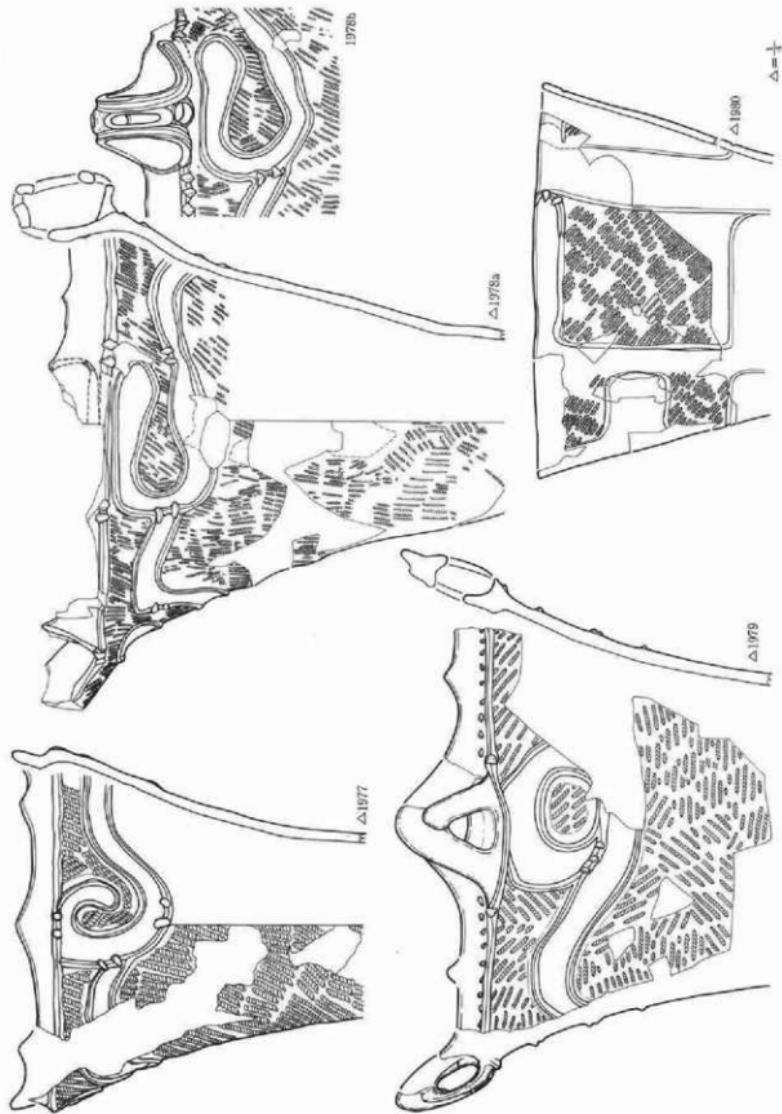


第165図 包含層出土遺物(土器・G H区)

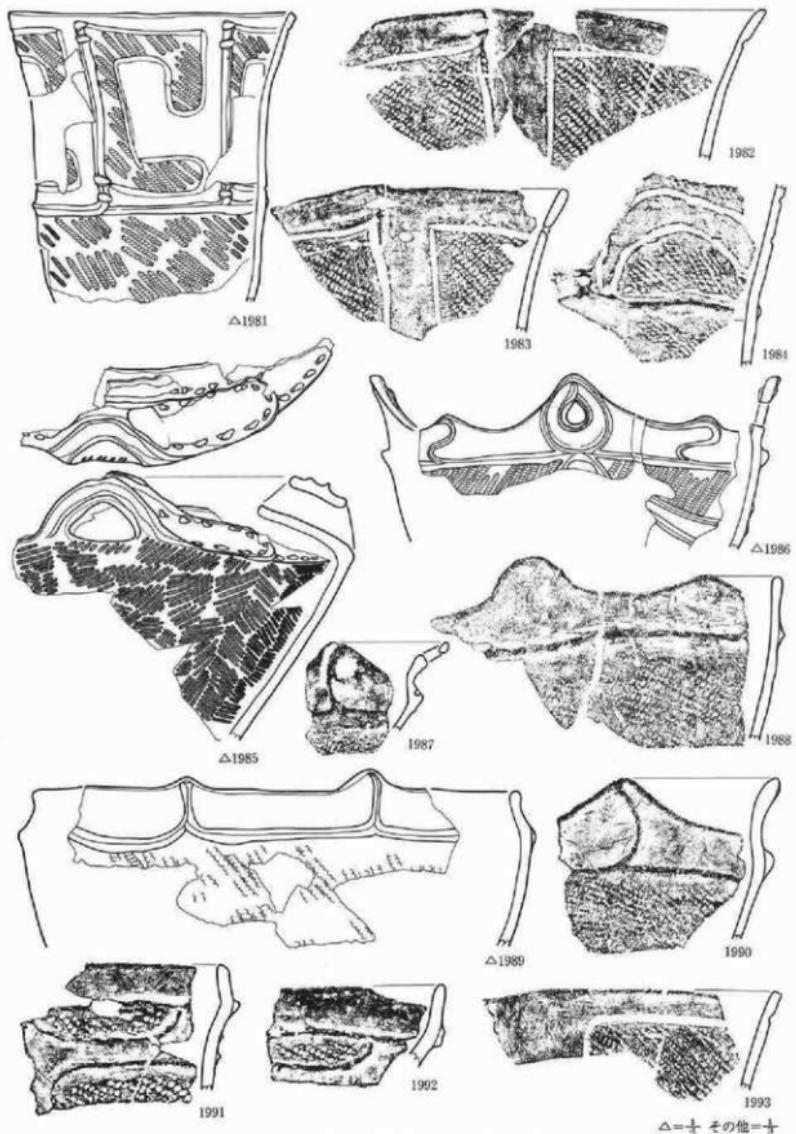
△=+ その他=-



第166図 包含層出土遺物(土器・H区)



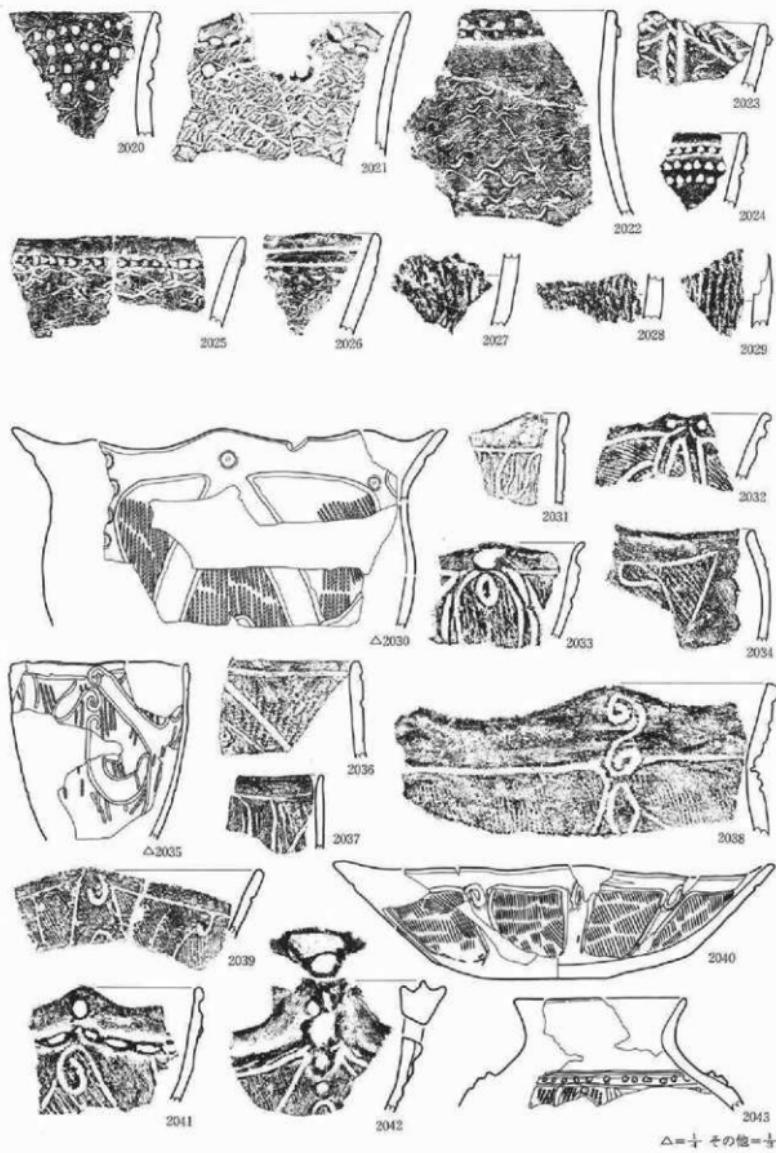
第167図 包含層出土遺物(土器・H区)



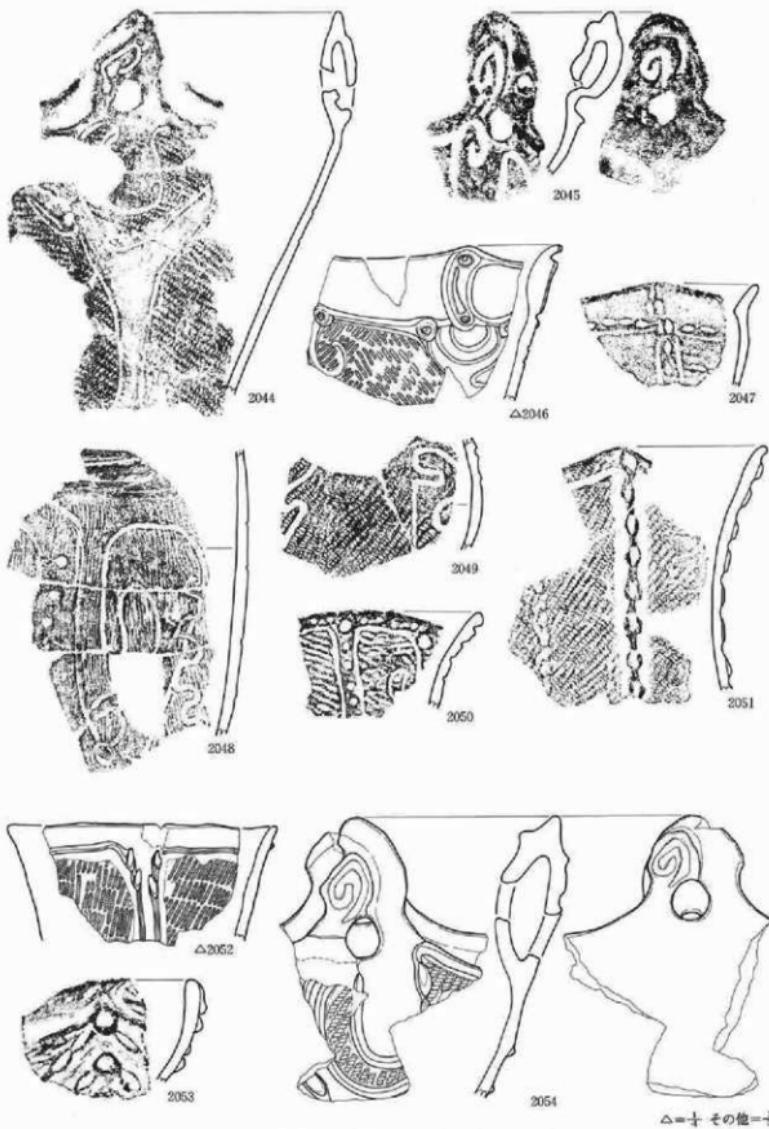
第168図 包含層出土遺物(土器・H区)



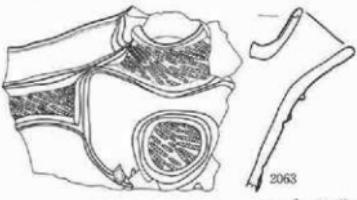
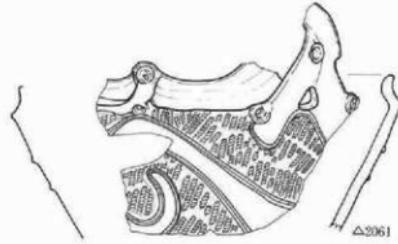
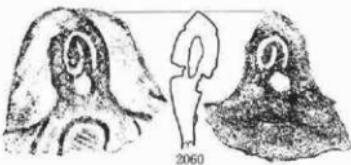
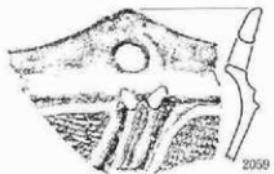
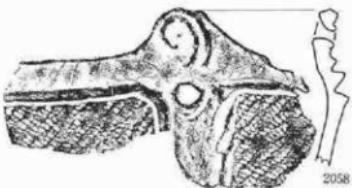
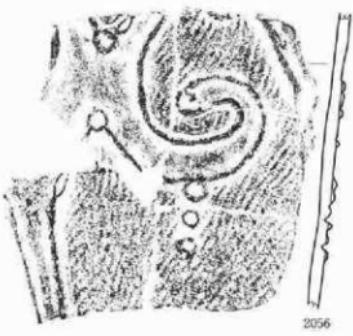
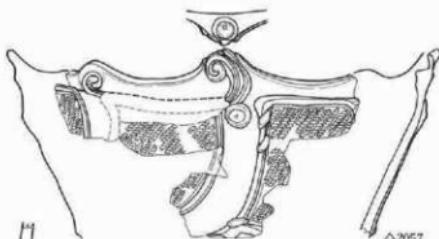
第169図 包含層出土遺物(土器・H区)



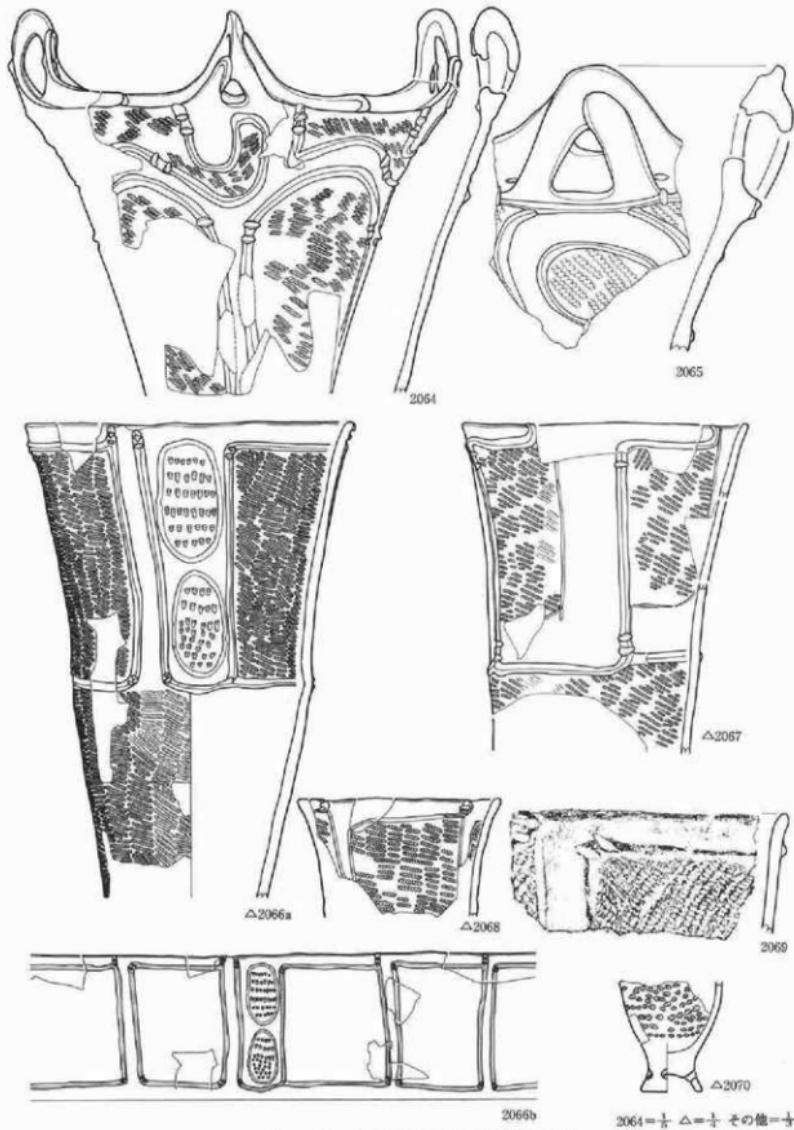
第170図 包含層出土遺物(土器・H I 区)



第171図 包含層出土遺物(土器・I区)

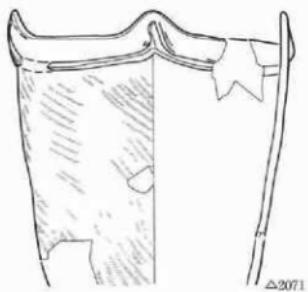


第172図 包含層出土遺物(土器・I区)

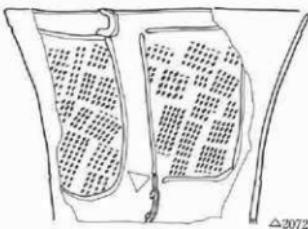


第173図 包含層出土遺物(土器・I区)

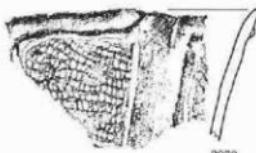
2064=△ △=1/2 その他=+



△2071



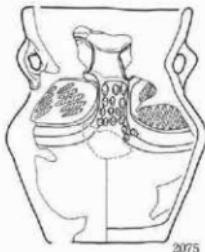
△2072



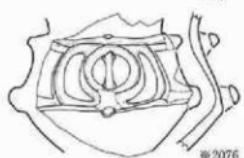
2073



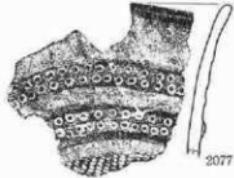
2074



2075



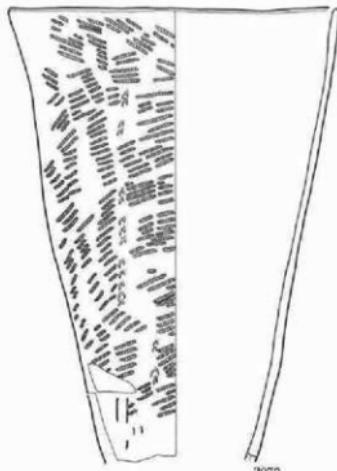
2076



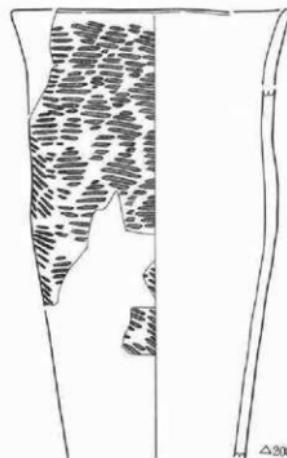
2077



※2078



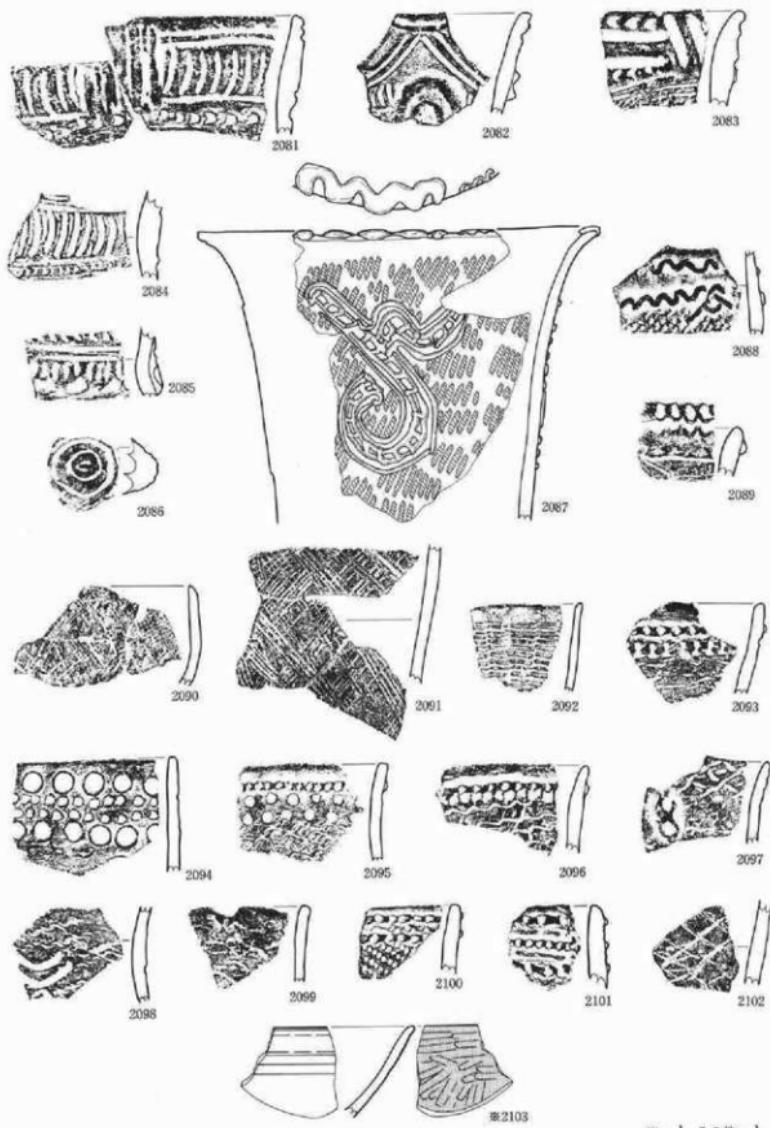
2079



△2080

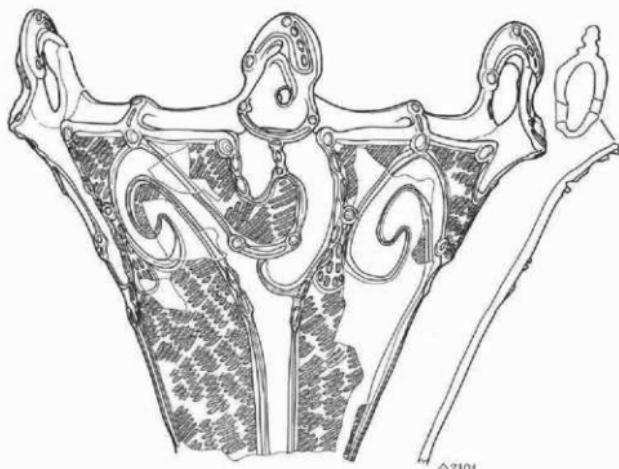
△ = $\frac{1}{3}$ ※ = $\frac{1}{2}$ 2079 = $\frac{1}{3}$ その他 = $\frac{1}{3}$

第174図 包含層出土遺物(土器・I区)



第175図 包含層出土遺物(土器・I区)

※ = $\frac{1}{2}$ その他 = $\frac{1}{3}$



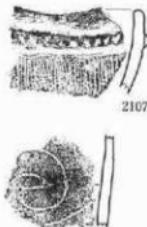
△2104



△2105



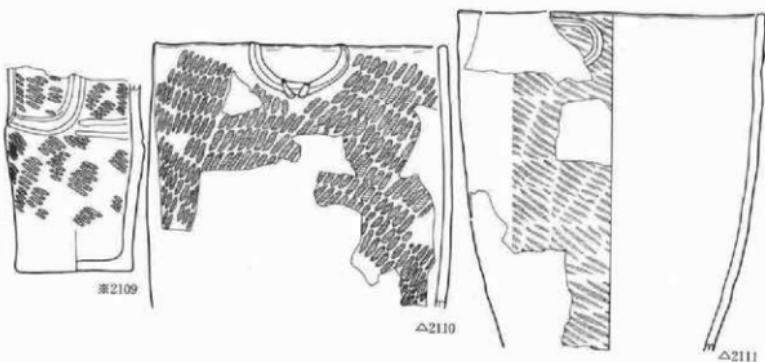
△2106



2107



2108



△2110

△2111

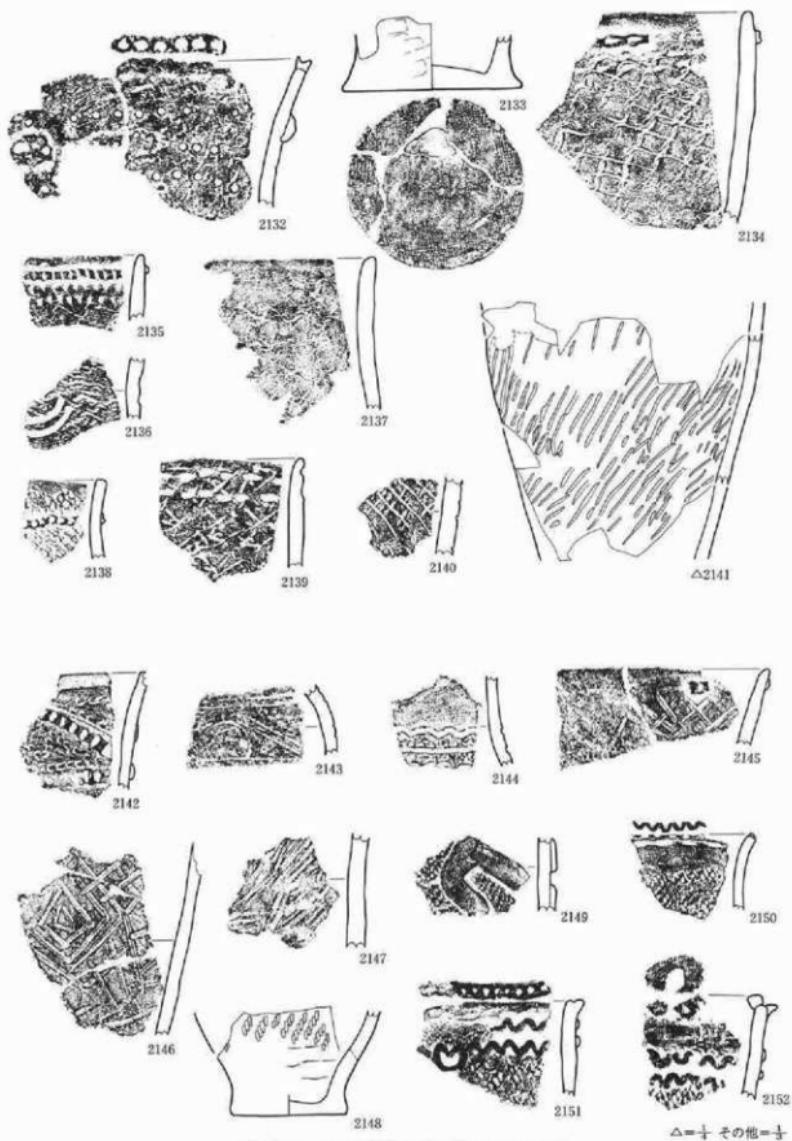
$\triangle = \frac{1}{4}$ $\blacksquare = \frac{1}{2}$ その他 = $\frac{1}{4}$

第176図 包含層出土遺物(土器・J区)



第177図 包含層出土遺物(土器・J区)

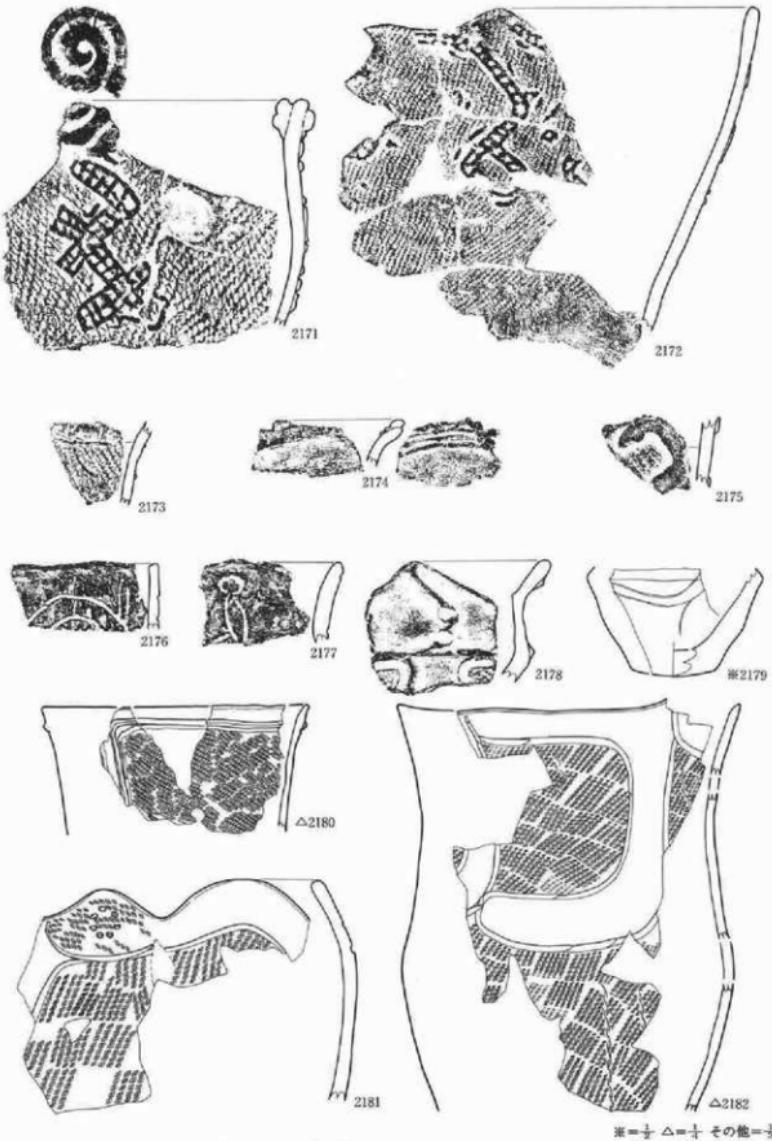
$\triangle = \frac{1}{2}$ その他 = $\frac{1}{3}$



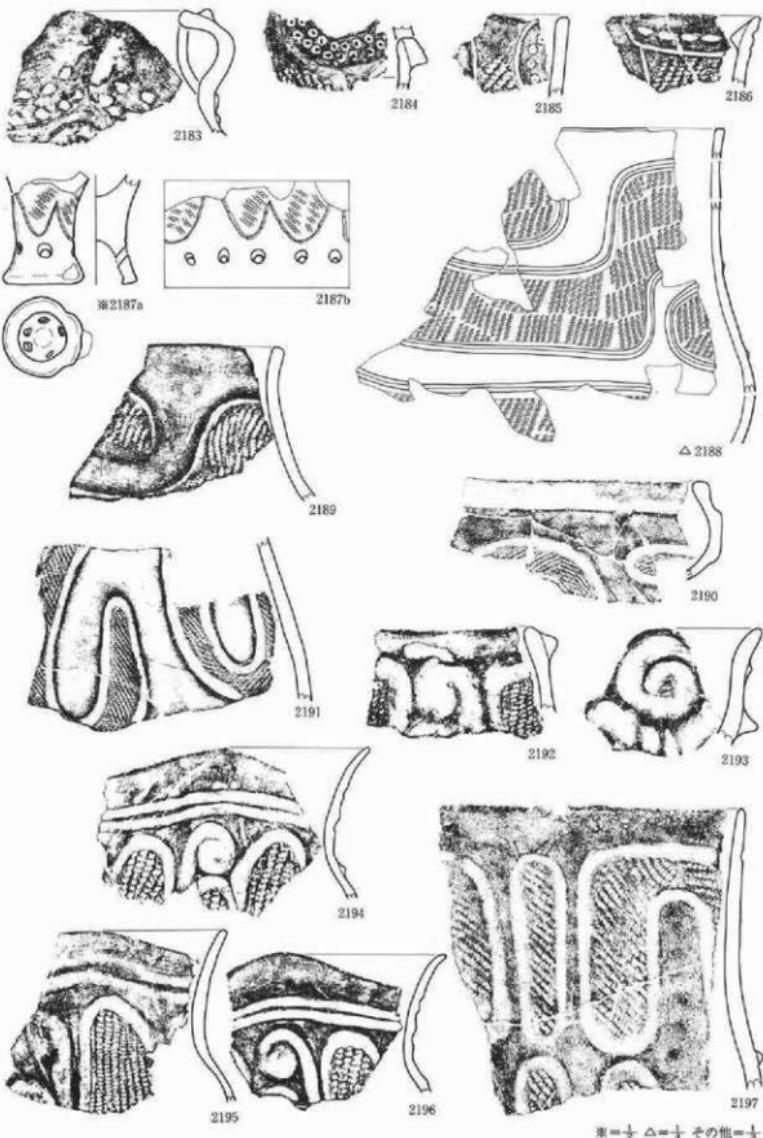
第178図 包含層出土遺物(土器・K L 区)



第179図 包含層出土遺物(土器・L MN区)

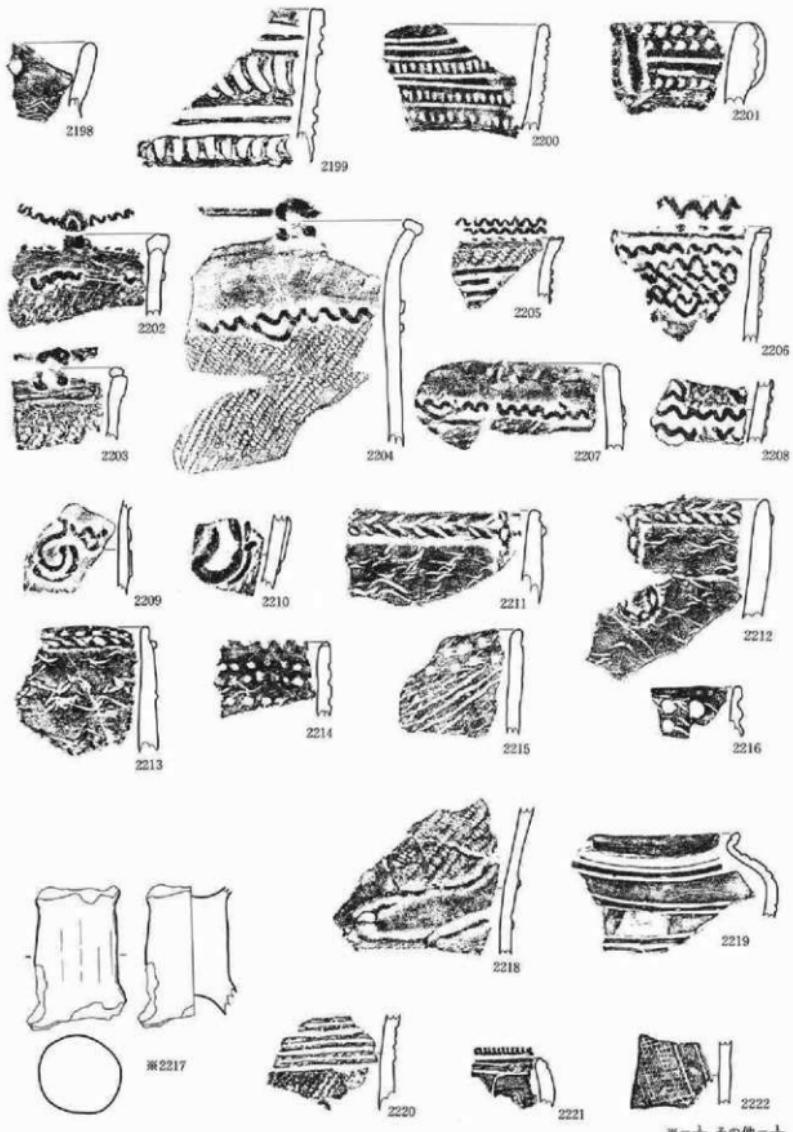


第180図 包含層出土遺物(土器・N O D C区)



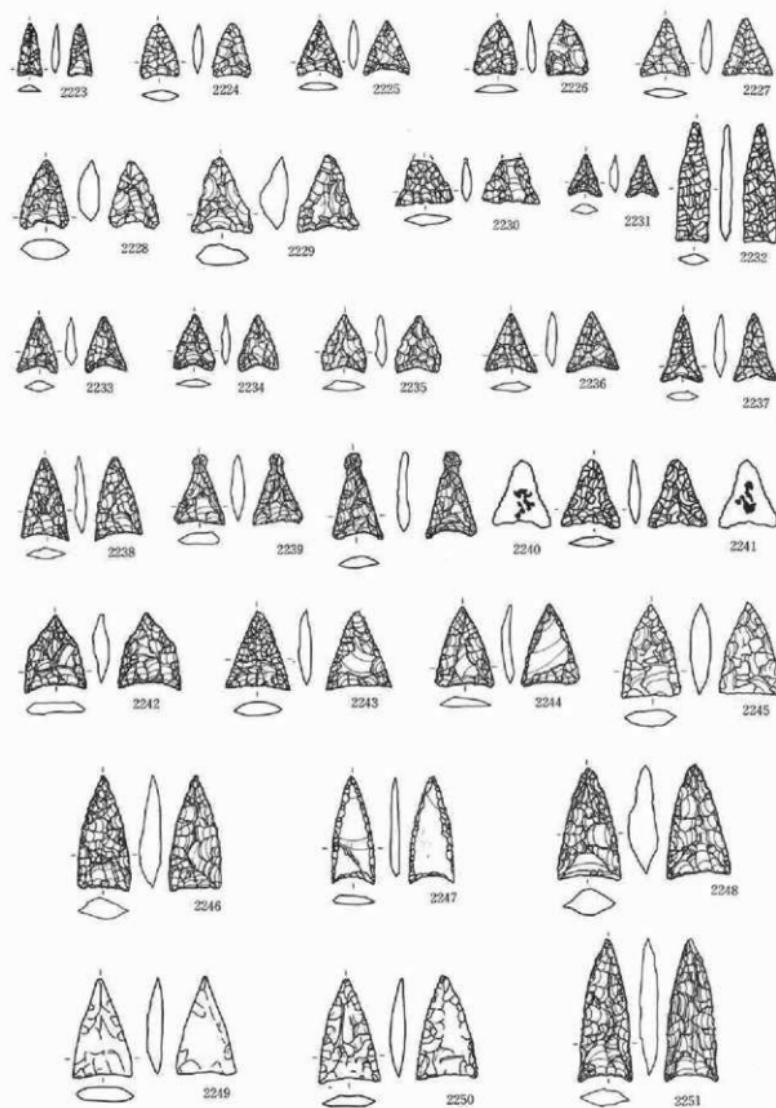
第181図 包含層出土遺物(土器・C区)

東=1/2 △=1/4 その他=1/3



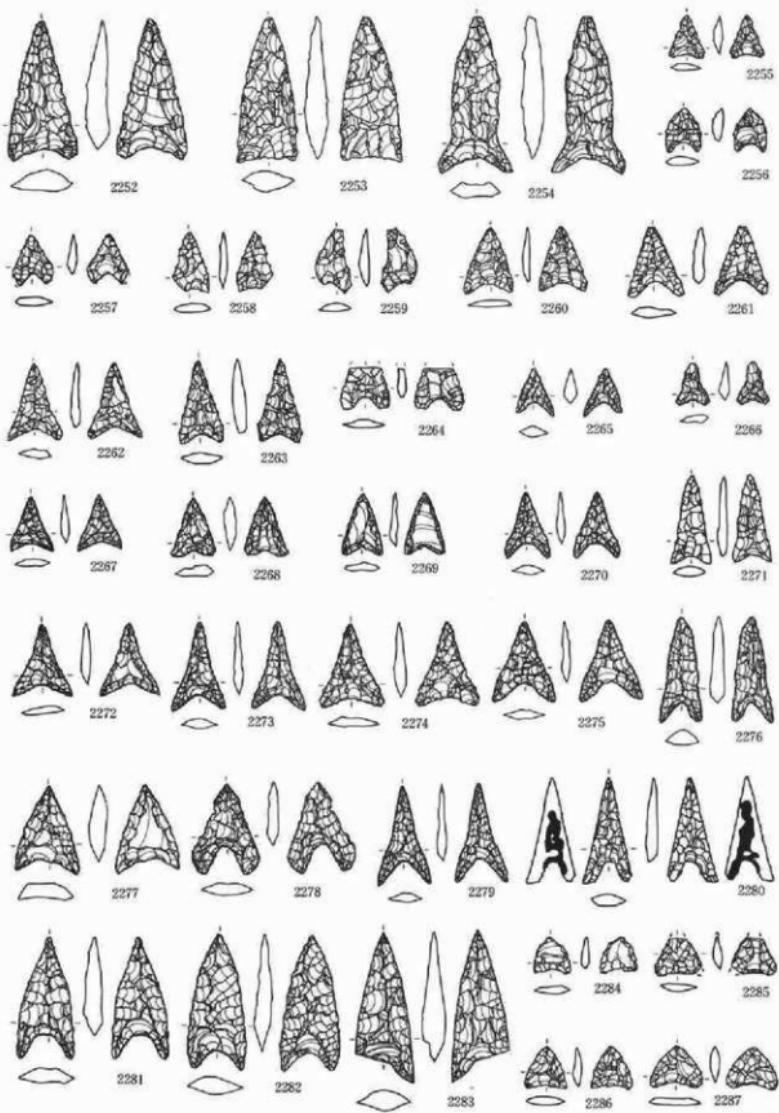
第182図 包含層出土遺物(土器・C D A 区)

※=+ その他=-



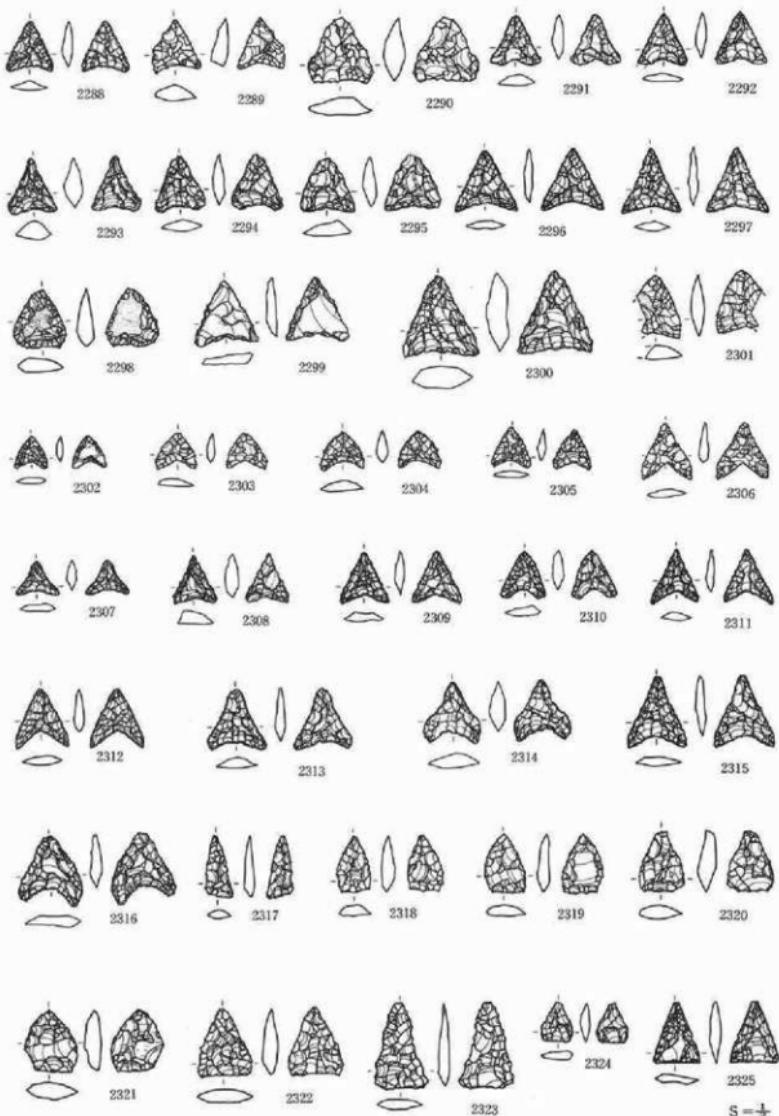
第183図 包含層出土遺物(石器1)

$S = \frac{1}{2}$

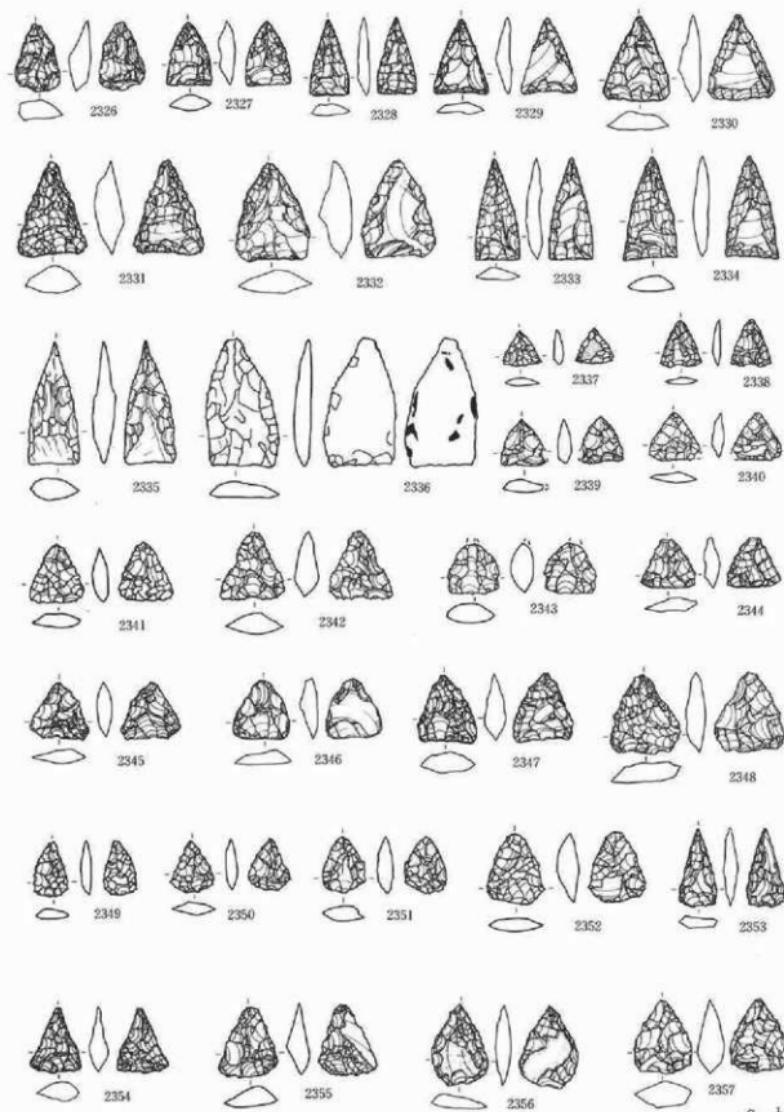


第184図 包含層出土遺物(石器2)

$S = \frac{1}{2}$

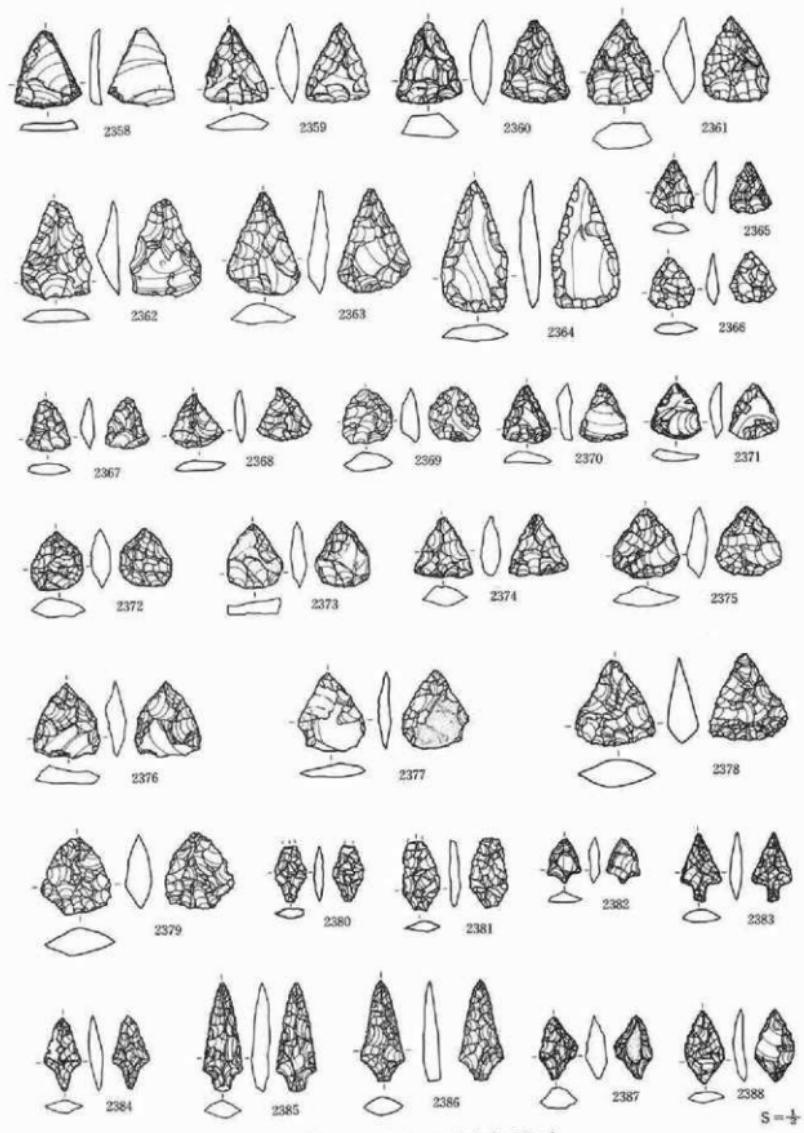


第185図 包含層出土遺物(石器3)

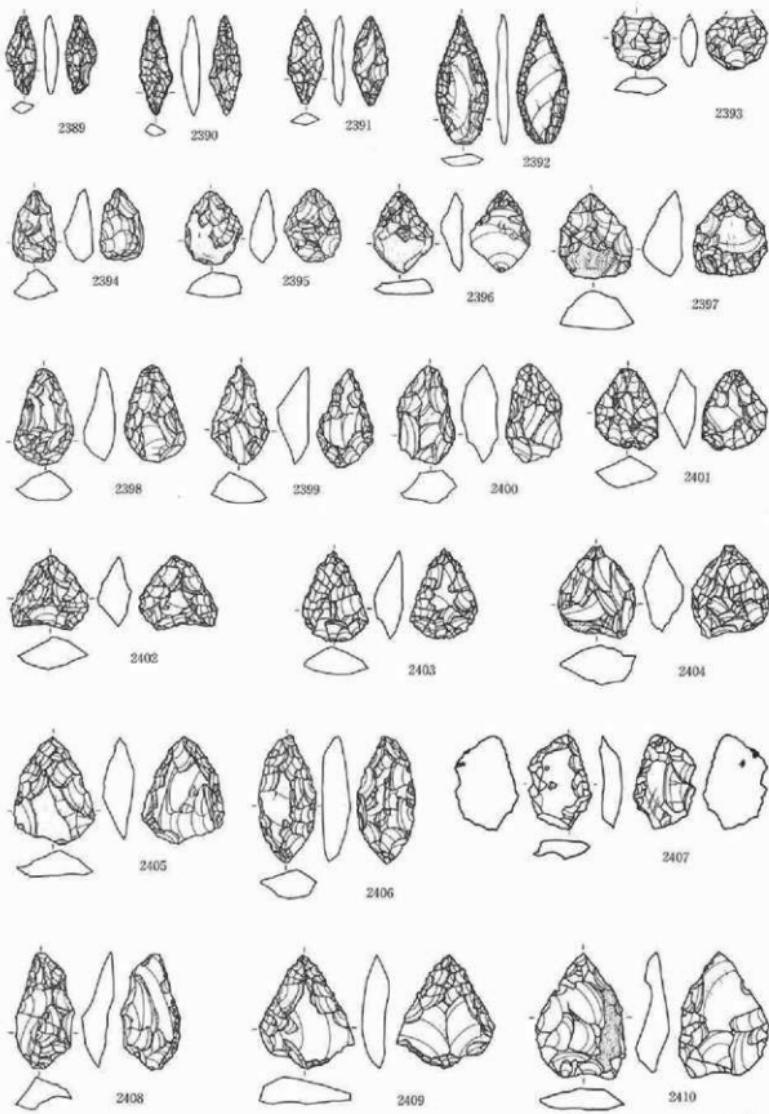


第186図 包含層出土遺物(石器4)

S = 1

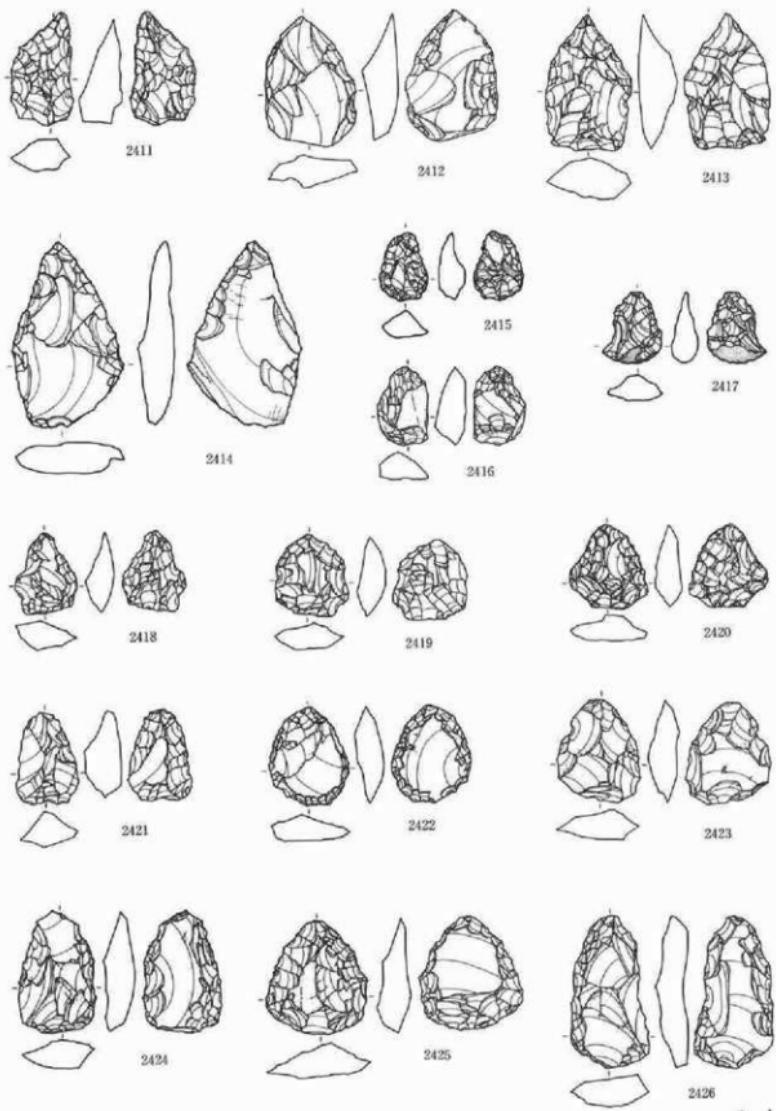


第187図 包含層出土遺物(石器 5)



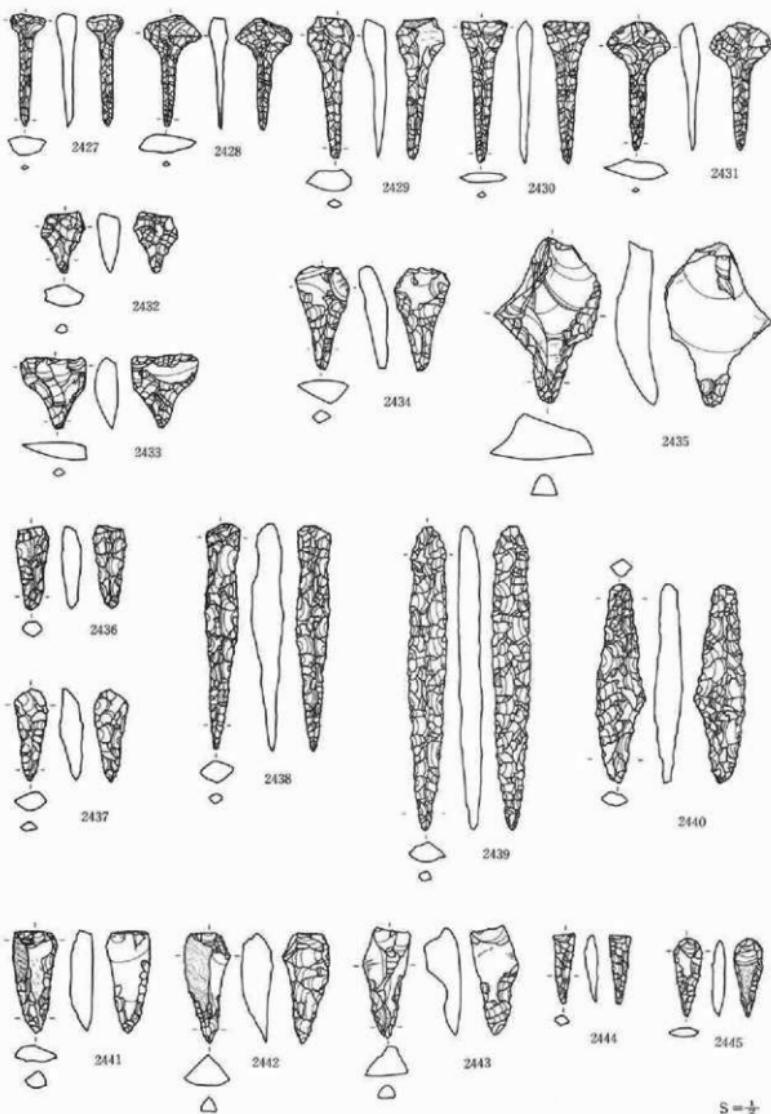
第188図 包含層出土遺物(石器 6)

$S = \frac{1}{2}$



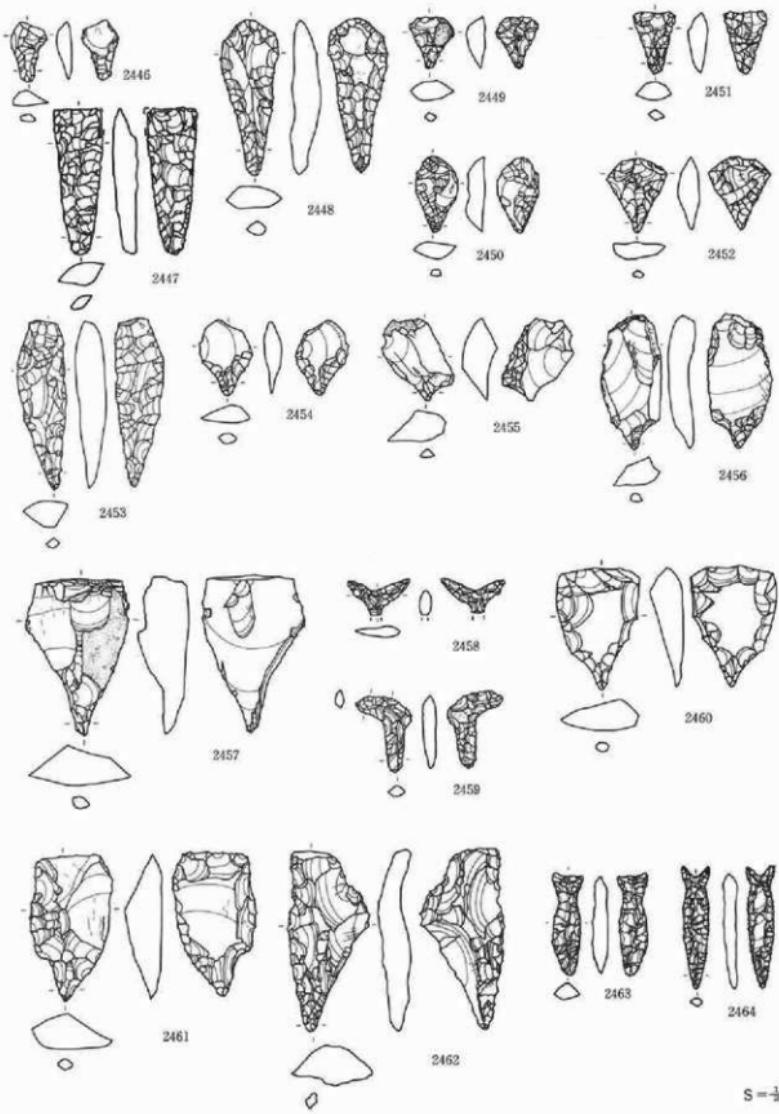
第189図 包含層出土遺物(石器7)

$S = \frac{1}{2}$

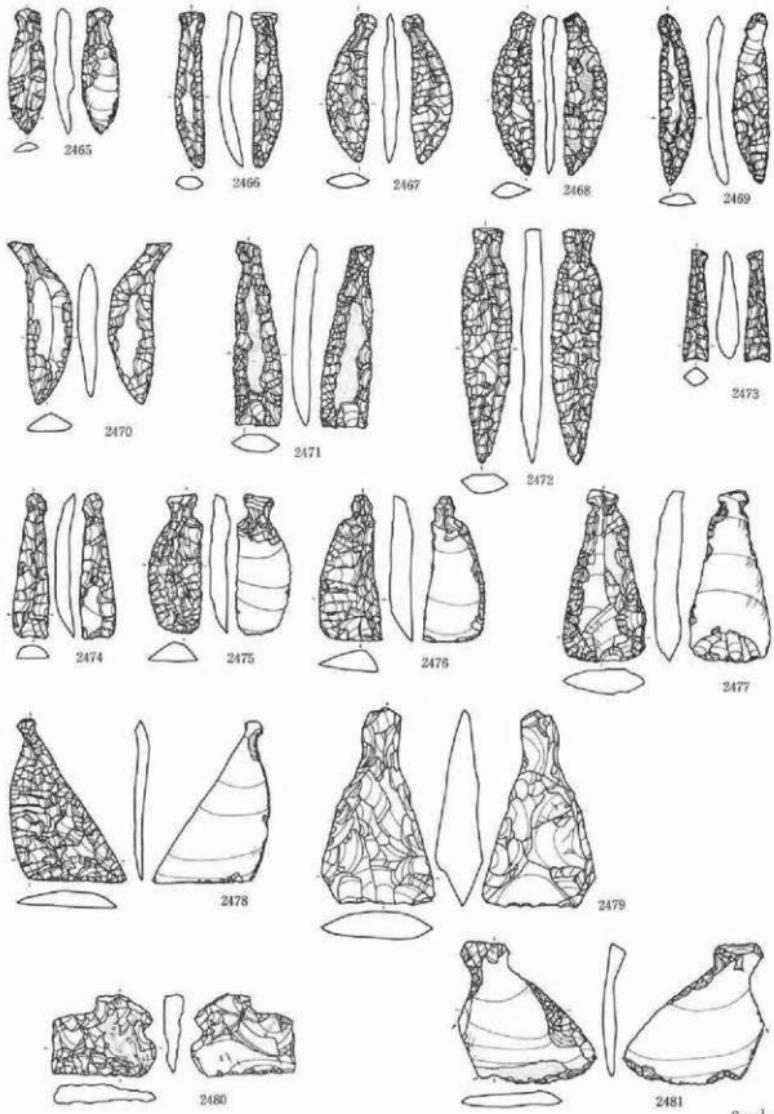


第190図 包含層出土遺物(石器 8)

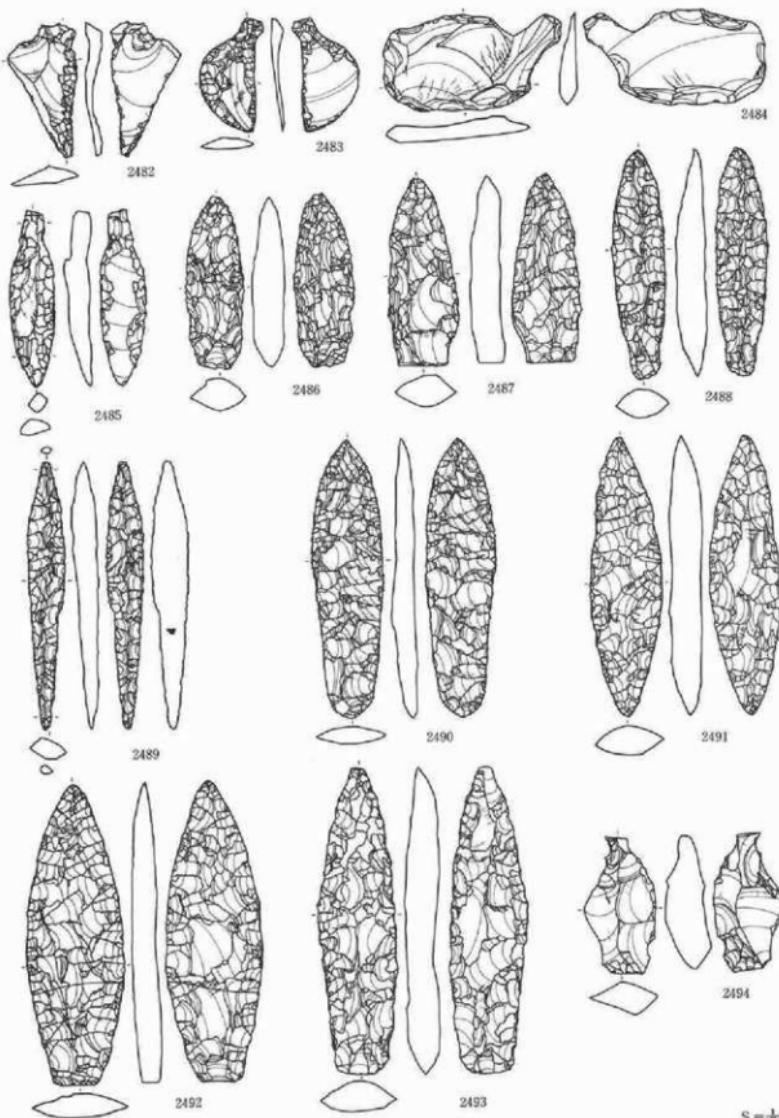
$S = \frac{1}{2}$



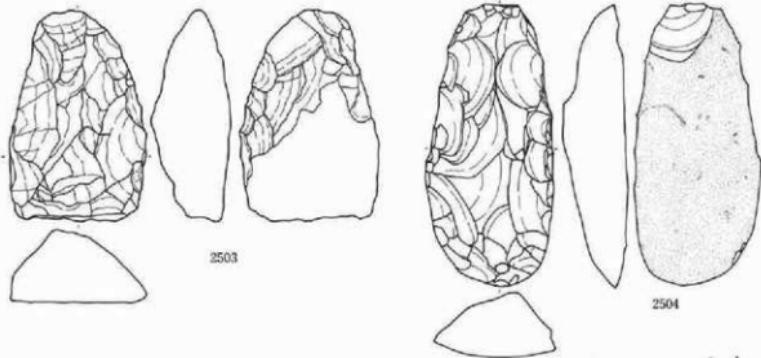
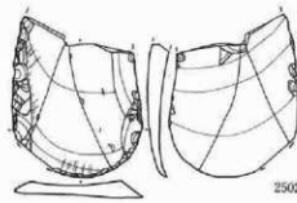
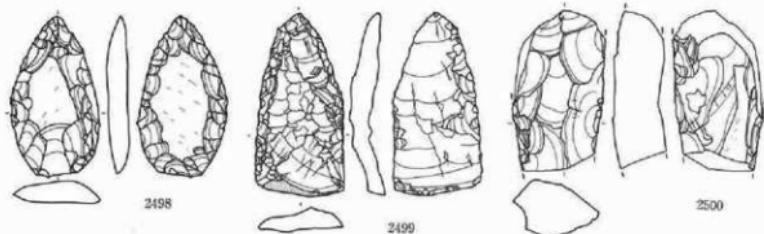
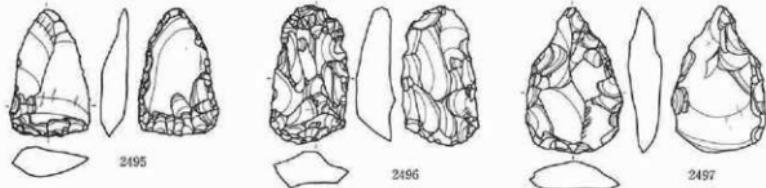
第191図 包含層出土遺物(石器9)



第192図 包含層出土遺物(石器10)

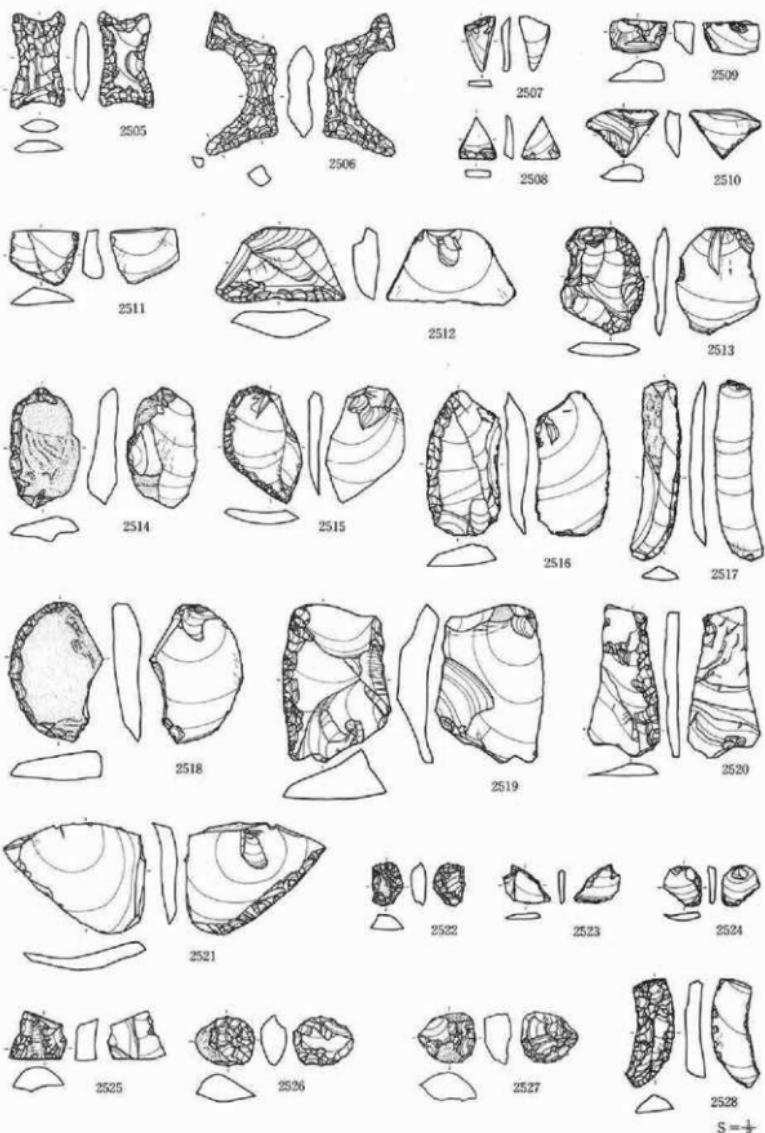


第193図 包含層出土遺物(石器11)

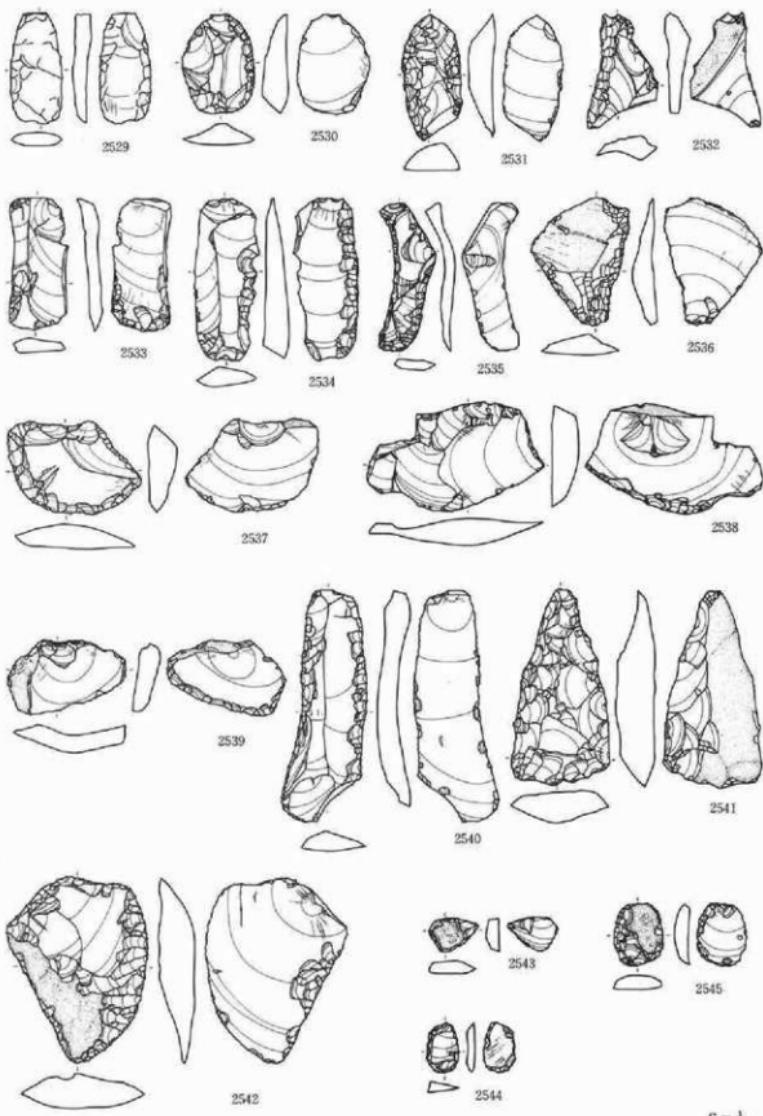


S = +

第194図 包含層出土遺物(石器12)

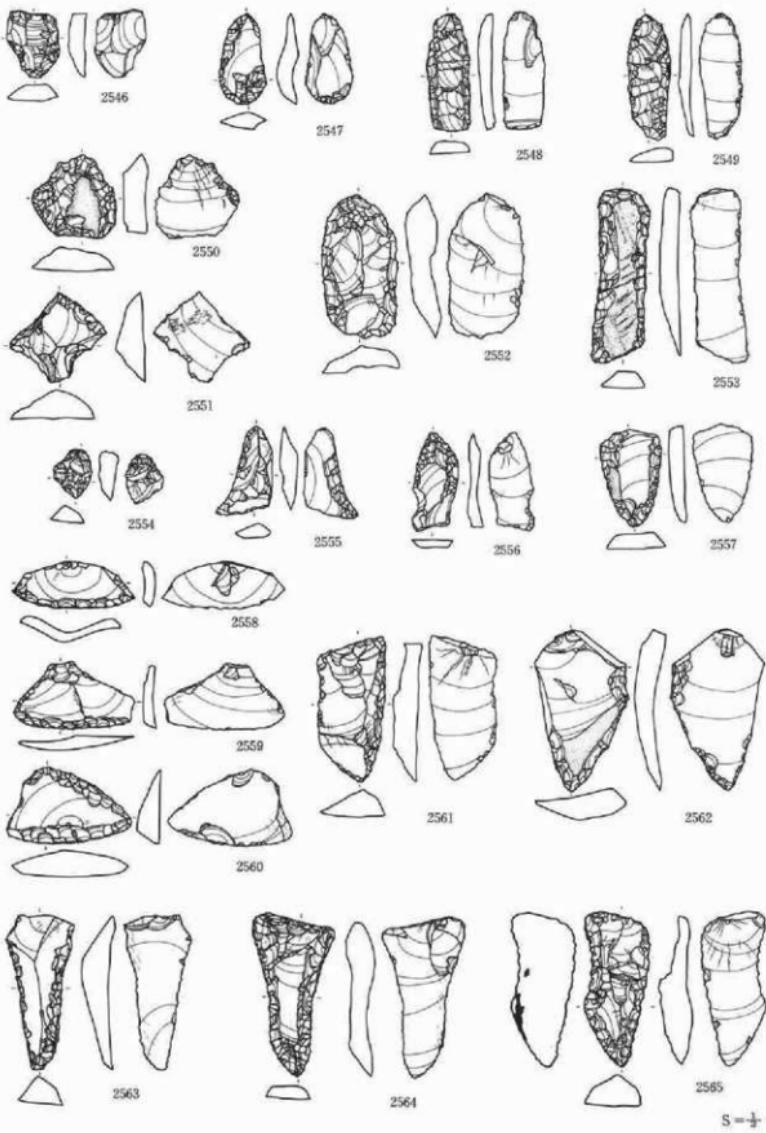


第195図 包含層出土遺物(石器13)

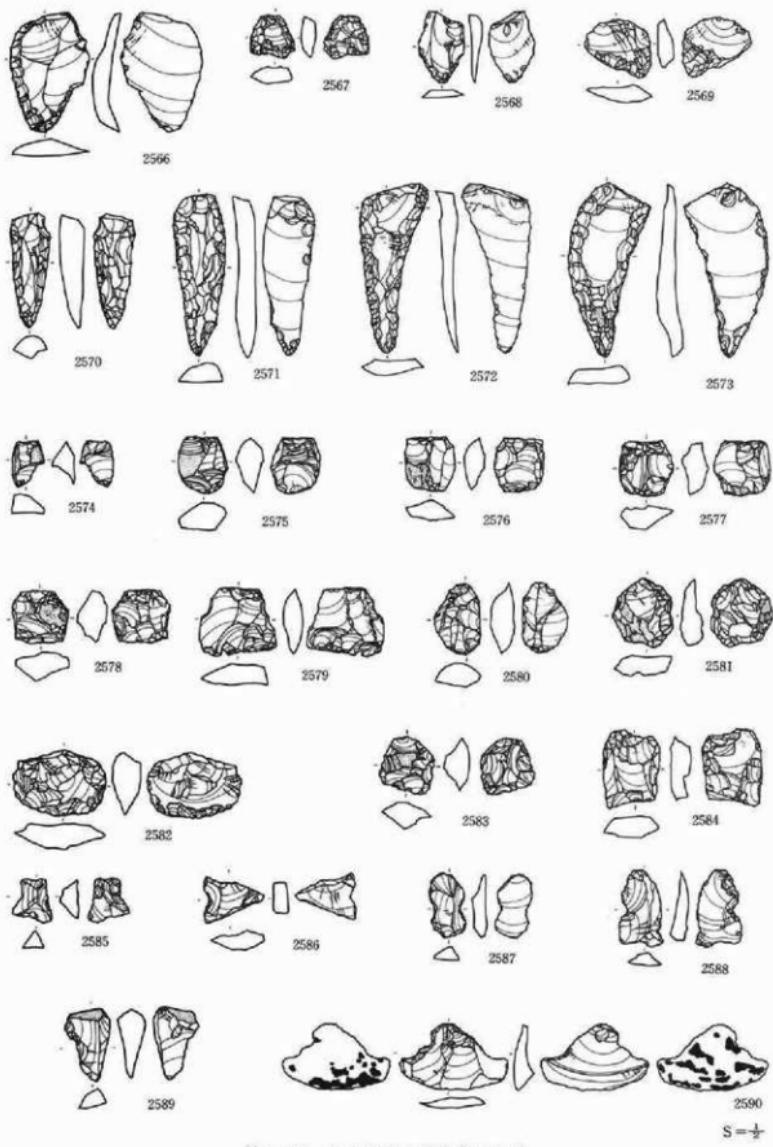


第196図 包含層出土遺物(石器14)

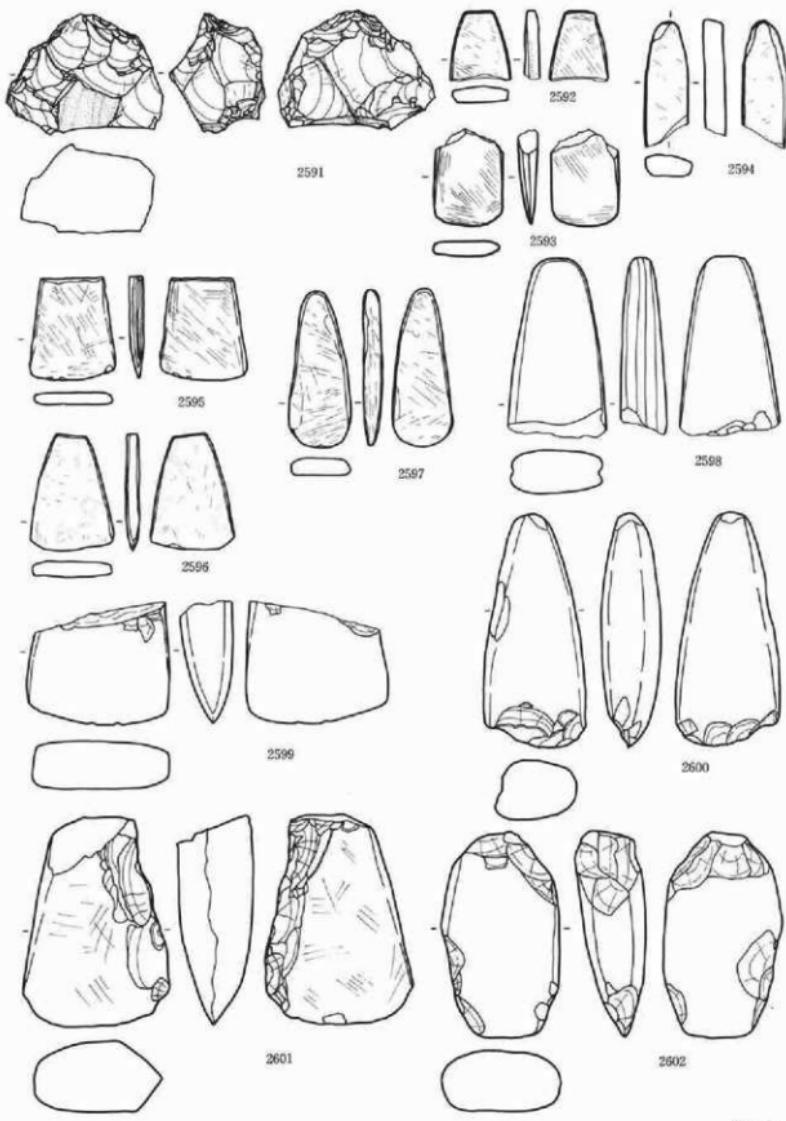
$S = \frac{1}{2}$



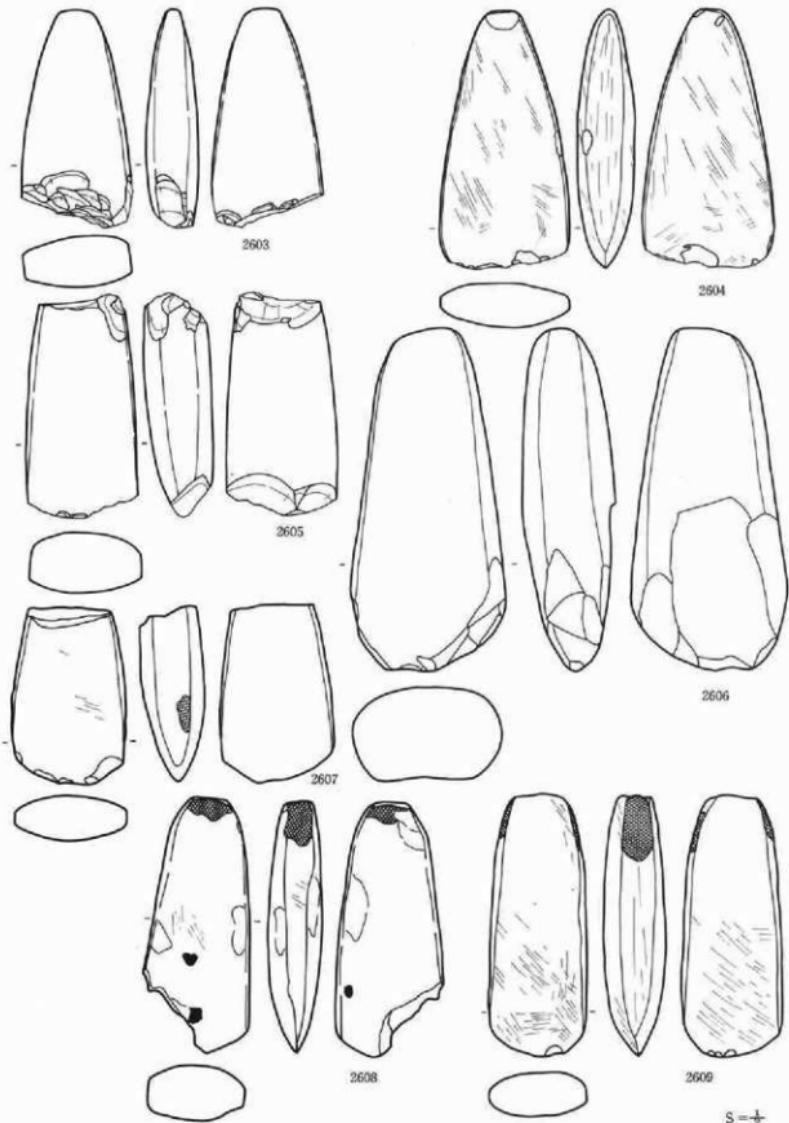
第197図 包含層出土遺物(石器15)



第198図 包含層出土遺物(石器16)

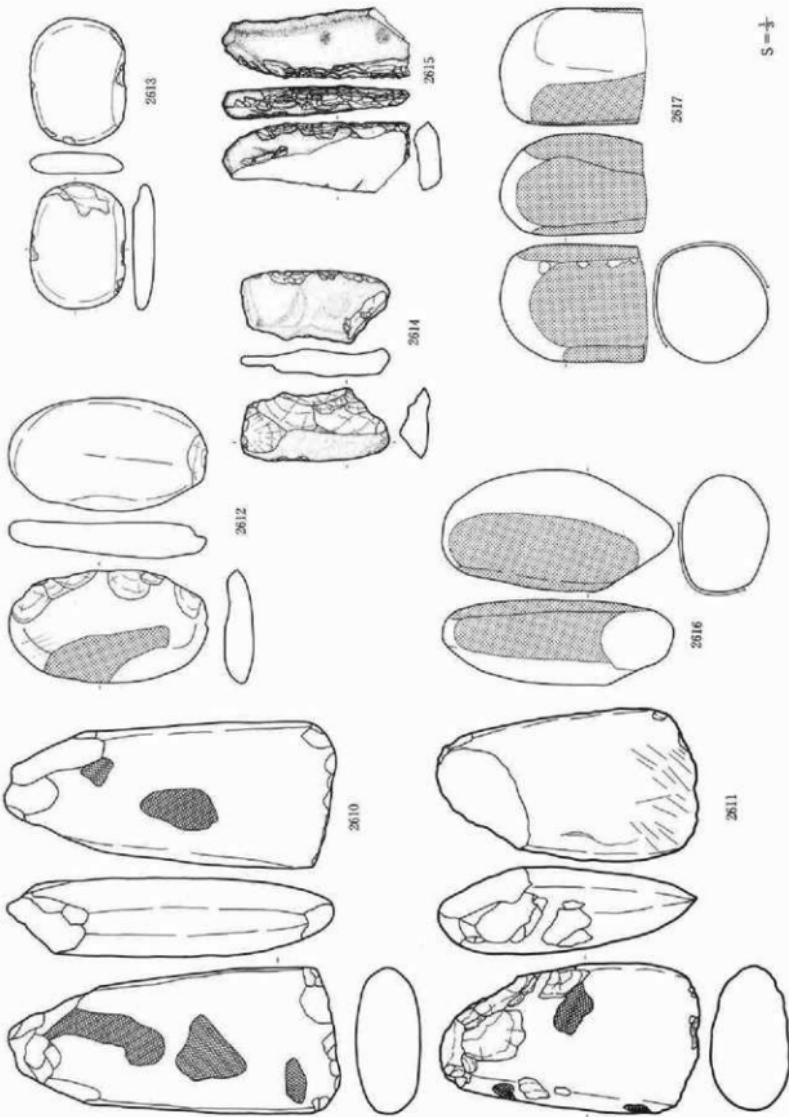


第199図 包含層出土遺物(石器17)

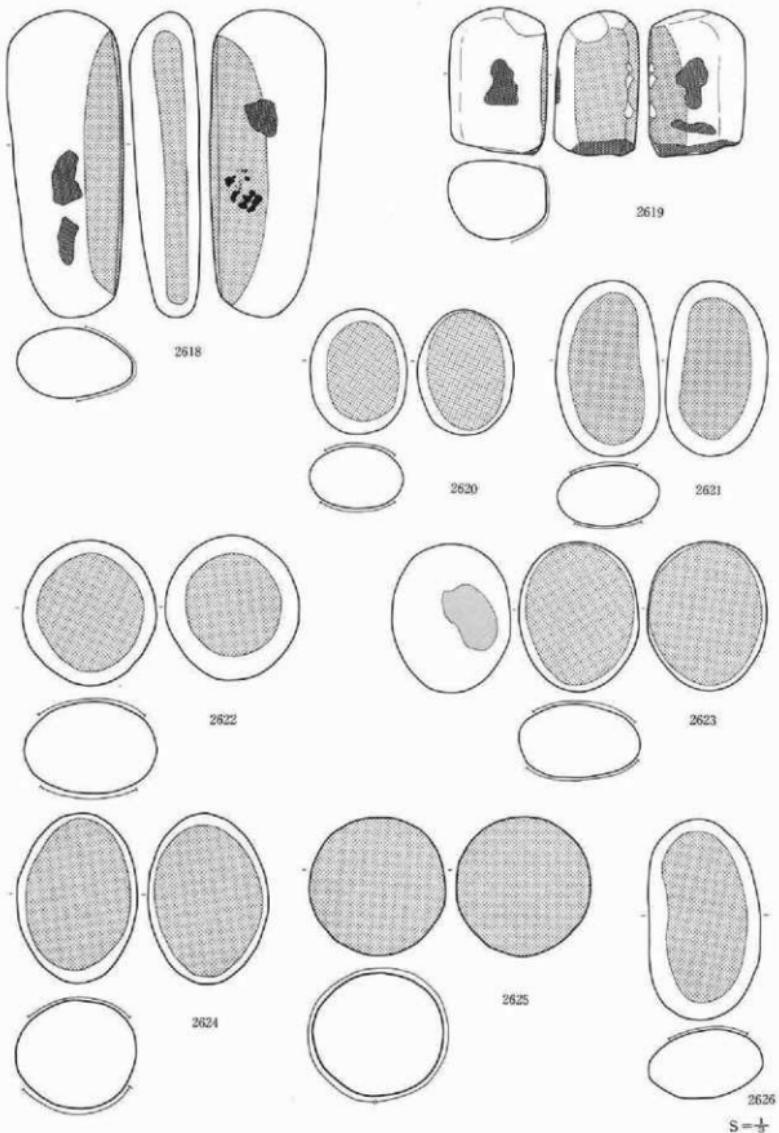


第200図 包含層出土遺物(石器18)

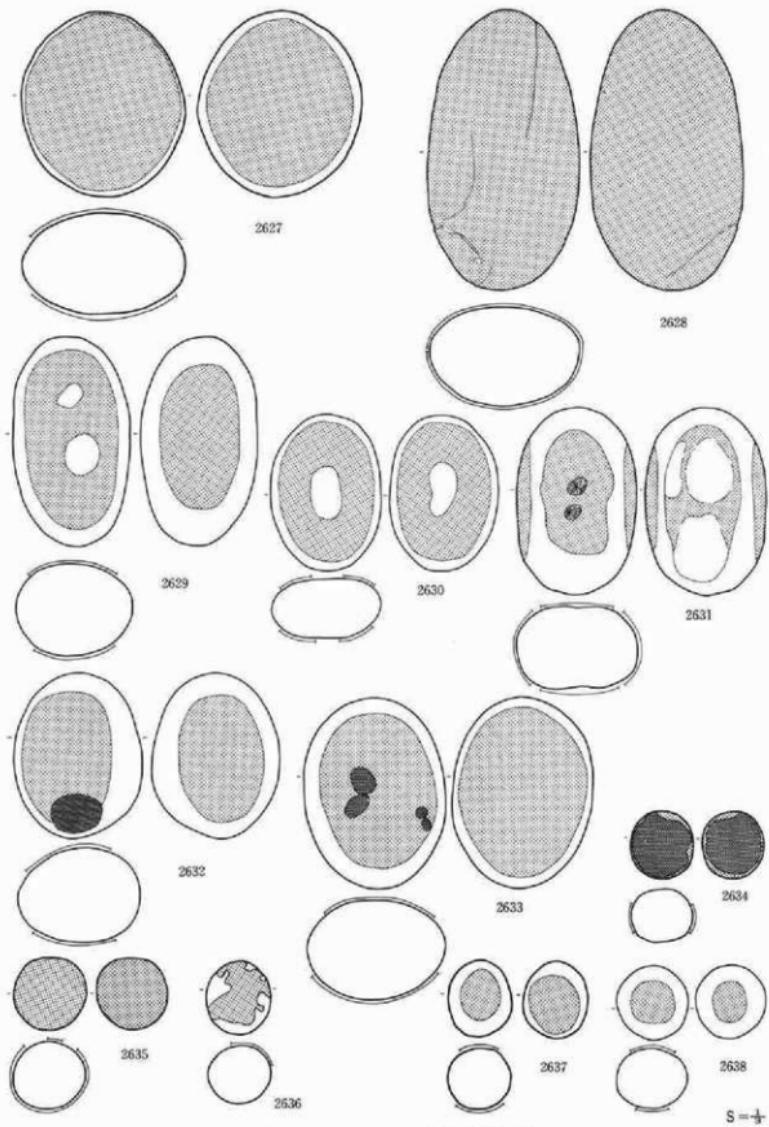
S = $\frac{1}{2}$



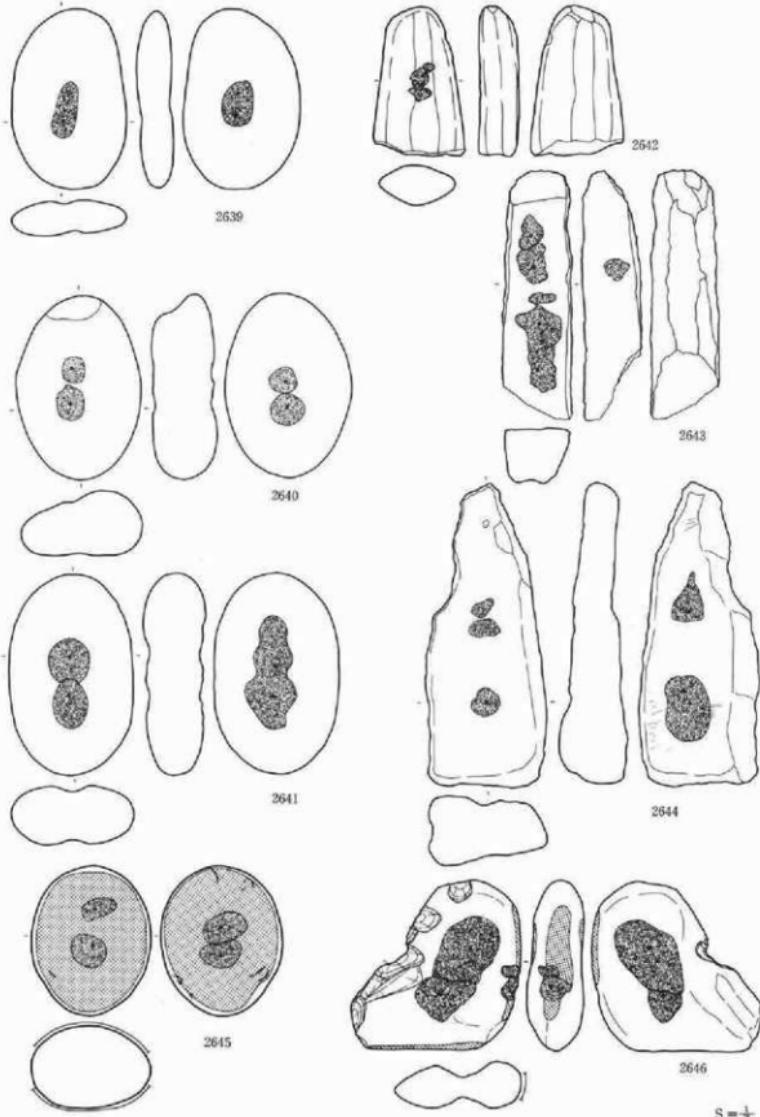
第201図 包含層出土遺物(石器19)



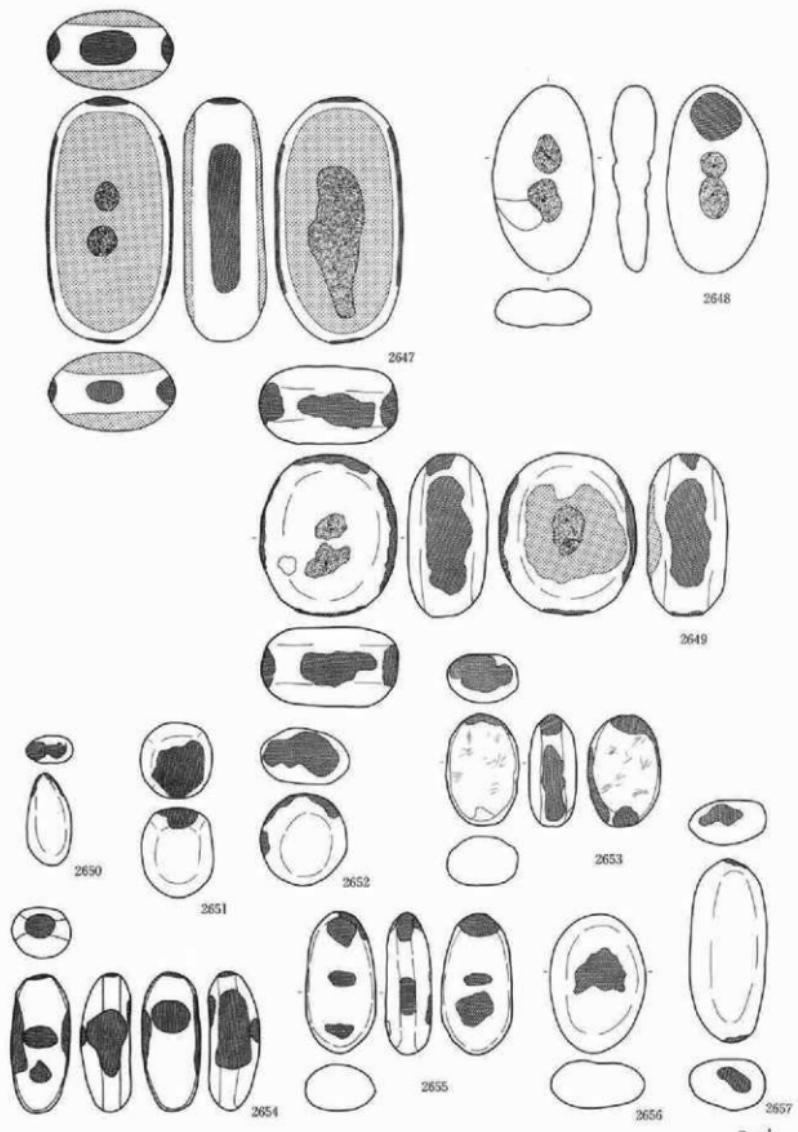
第202図 包含層出土遺物(石器20)



第203図 包含層出土遺物(石器21)

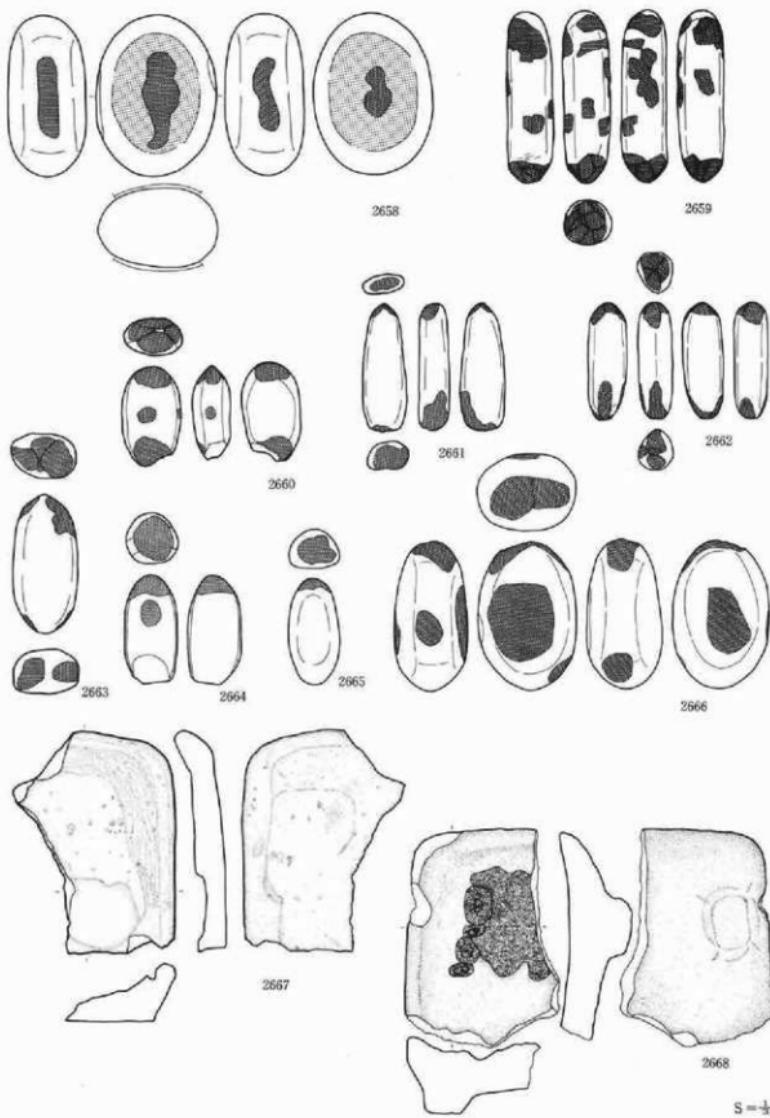


第204図 包含層出土遺物(石器22)

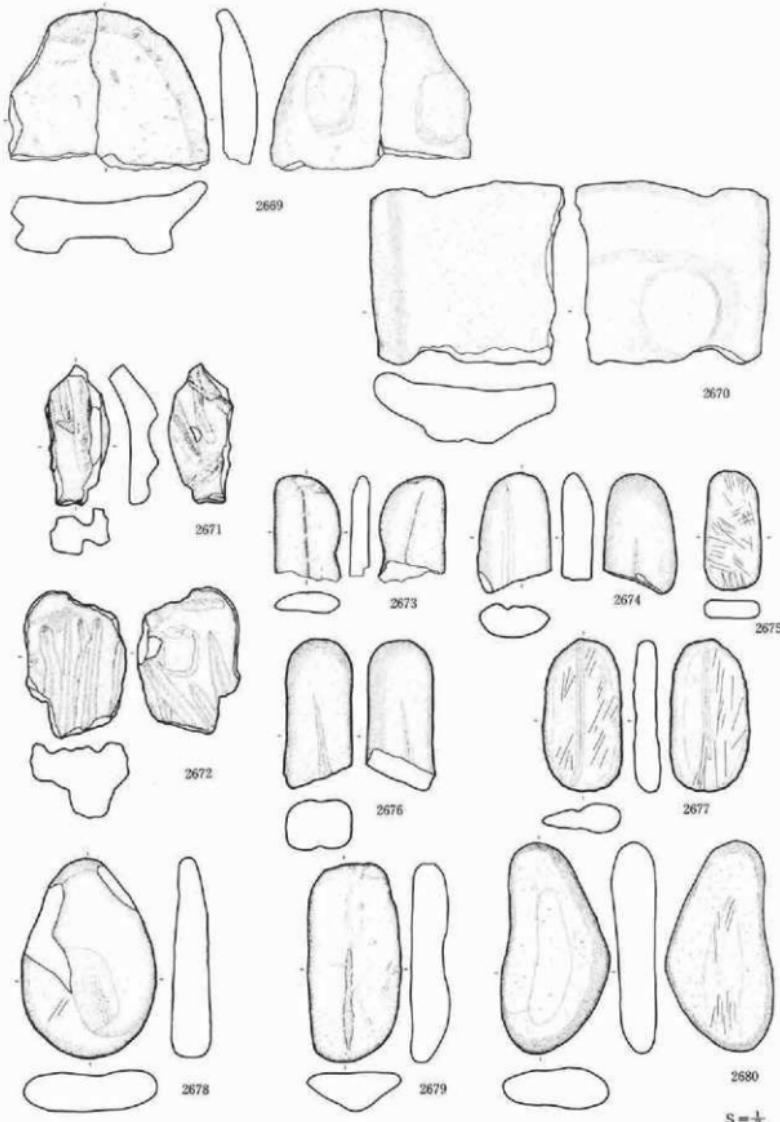


第205図 包含層出土遺物(石器23)

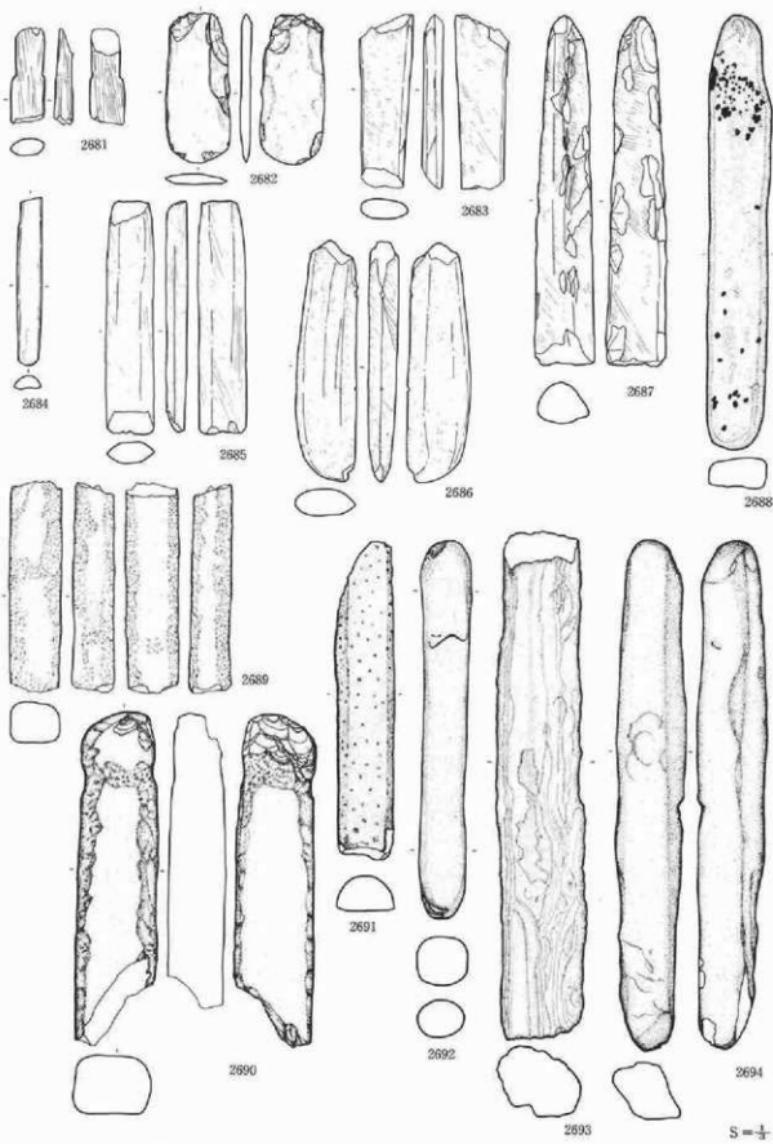
$S = \frac{1}{2}$



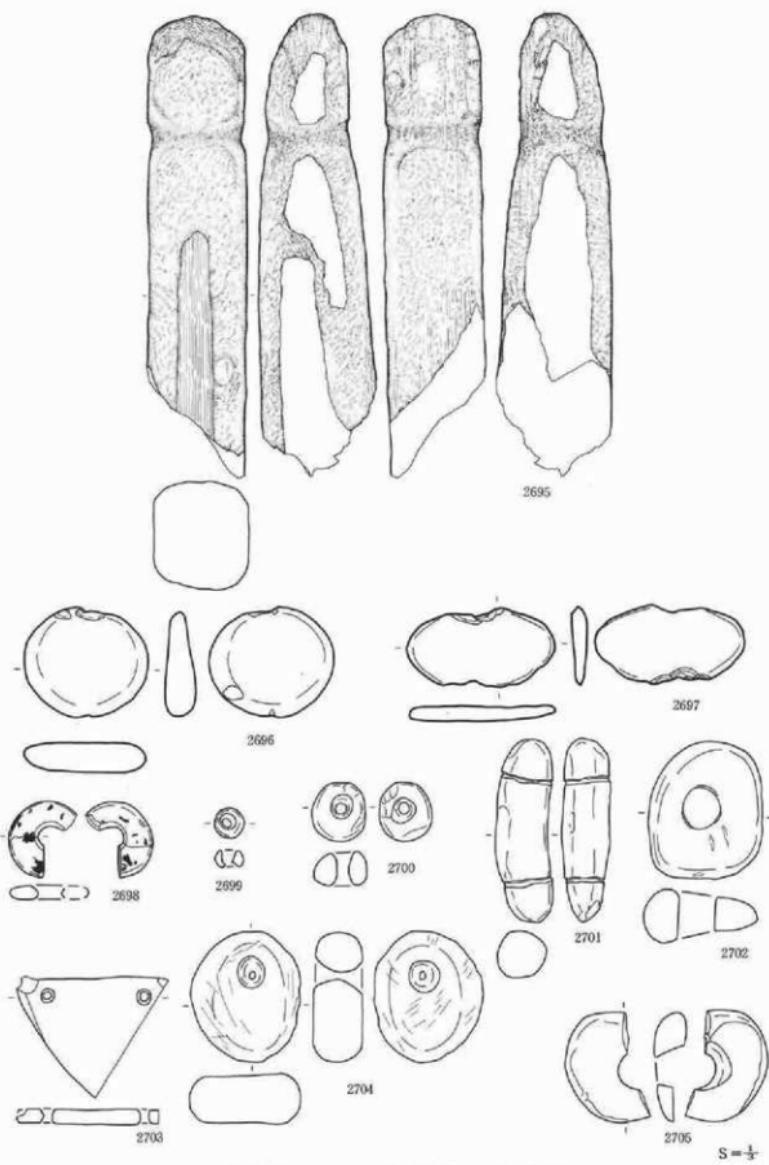
第206図 包含層出土遺物(石器24)



第207図 包含層出土遺物(石器25)

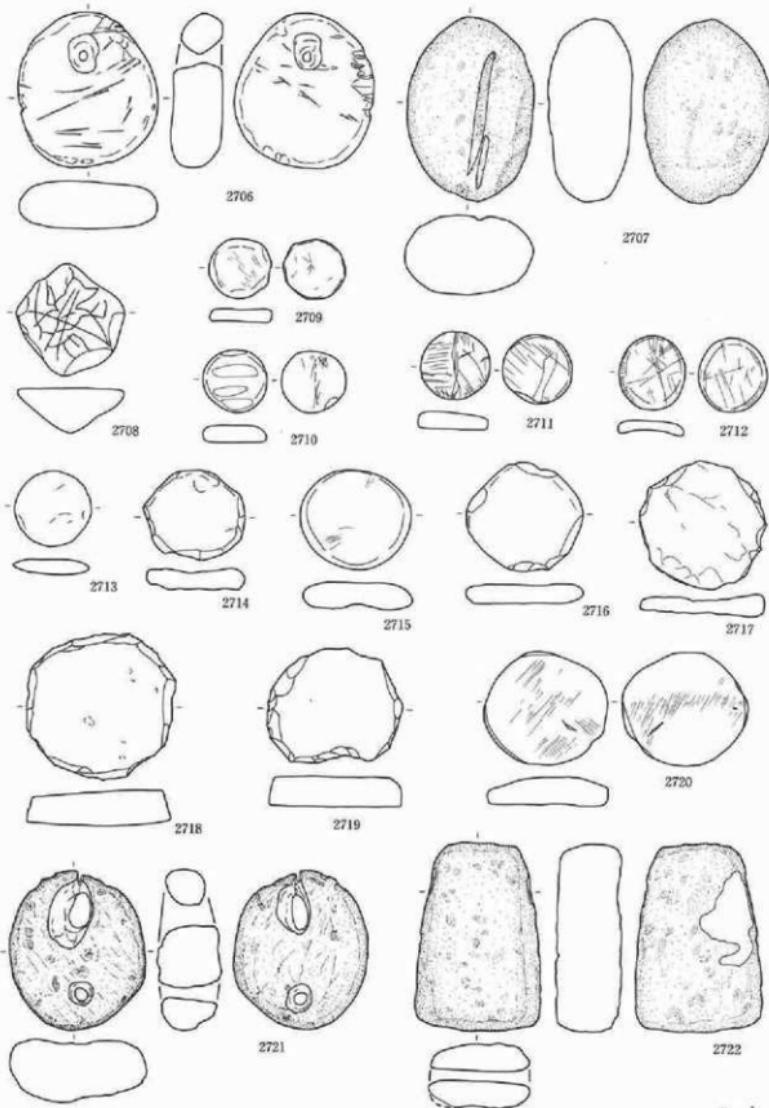


第208図 包含層出土遺物(石器26)

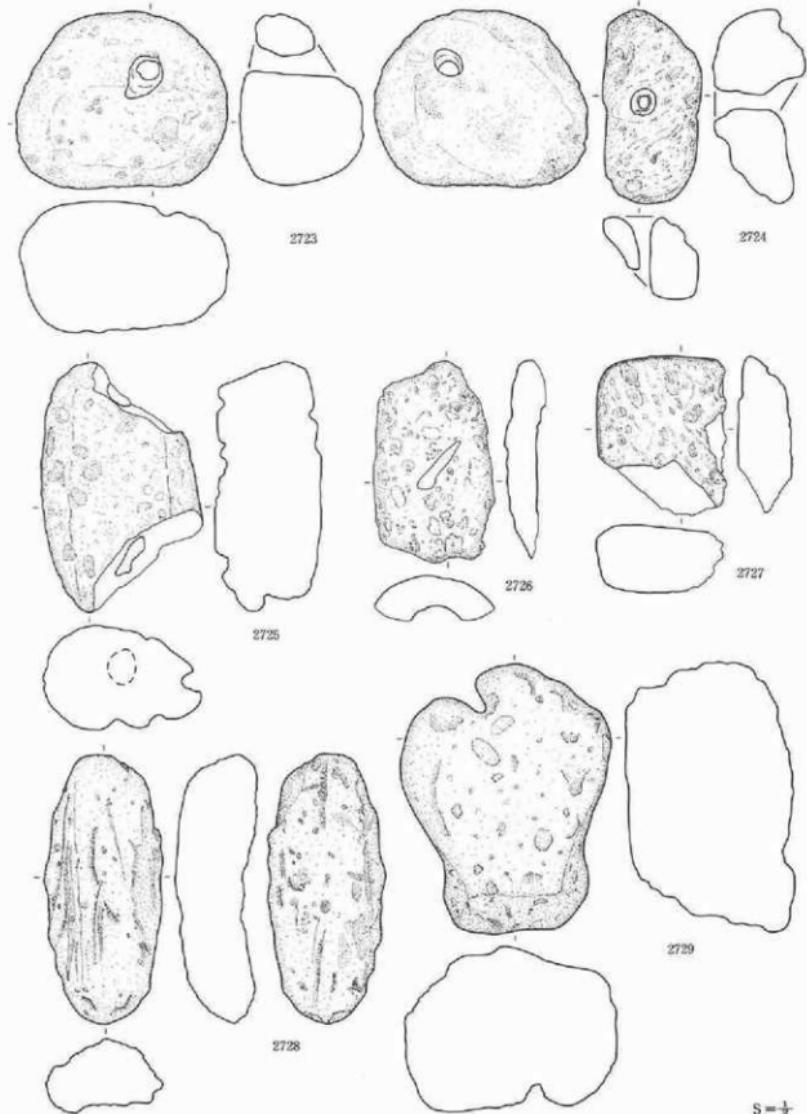


第209図 包含層出土遺物(石器27・石製品1)

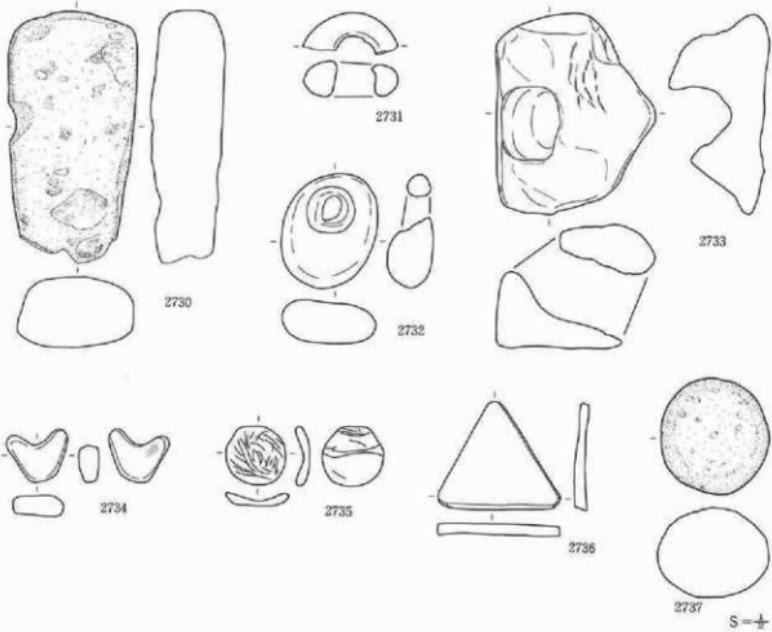
$S = \frac{1}{2}$



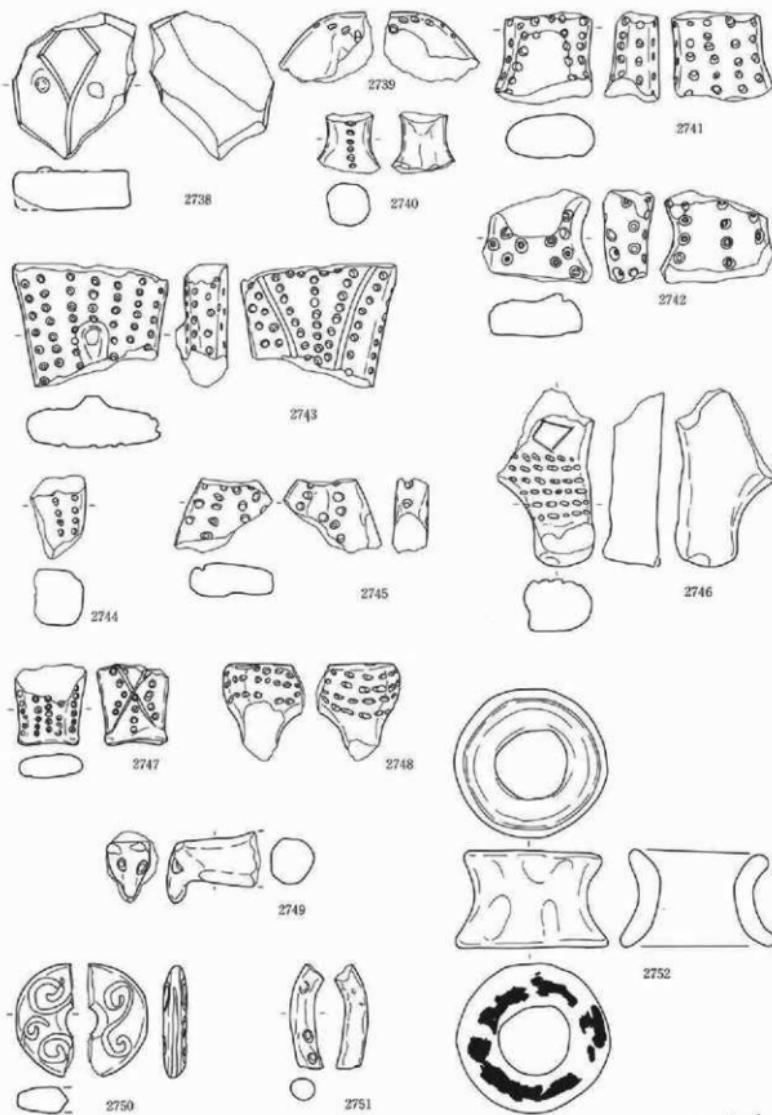
第210図 包含層出土遺物(石製品2)



第211図 包含層出土遺物(石製品3)

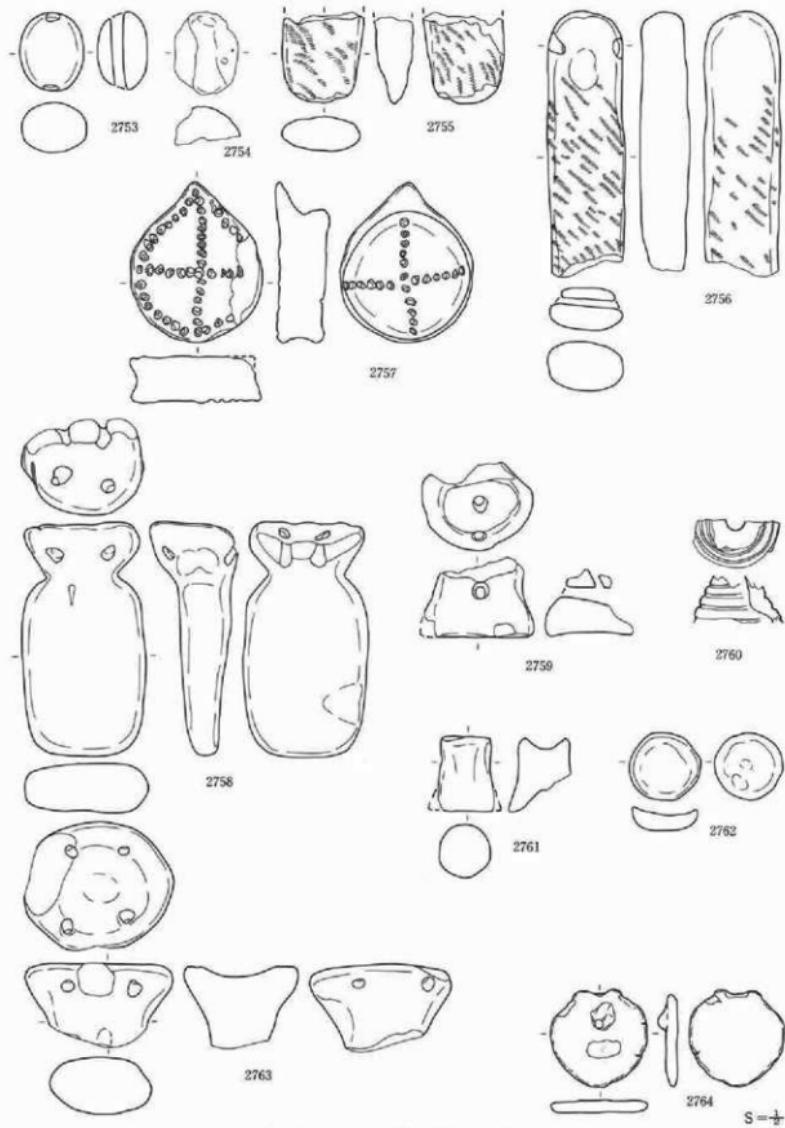


第212図 包含層出土遺物(石製品4)

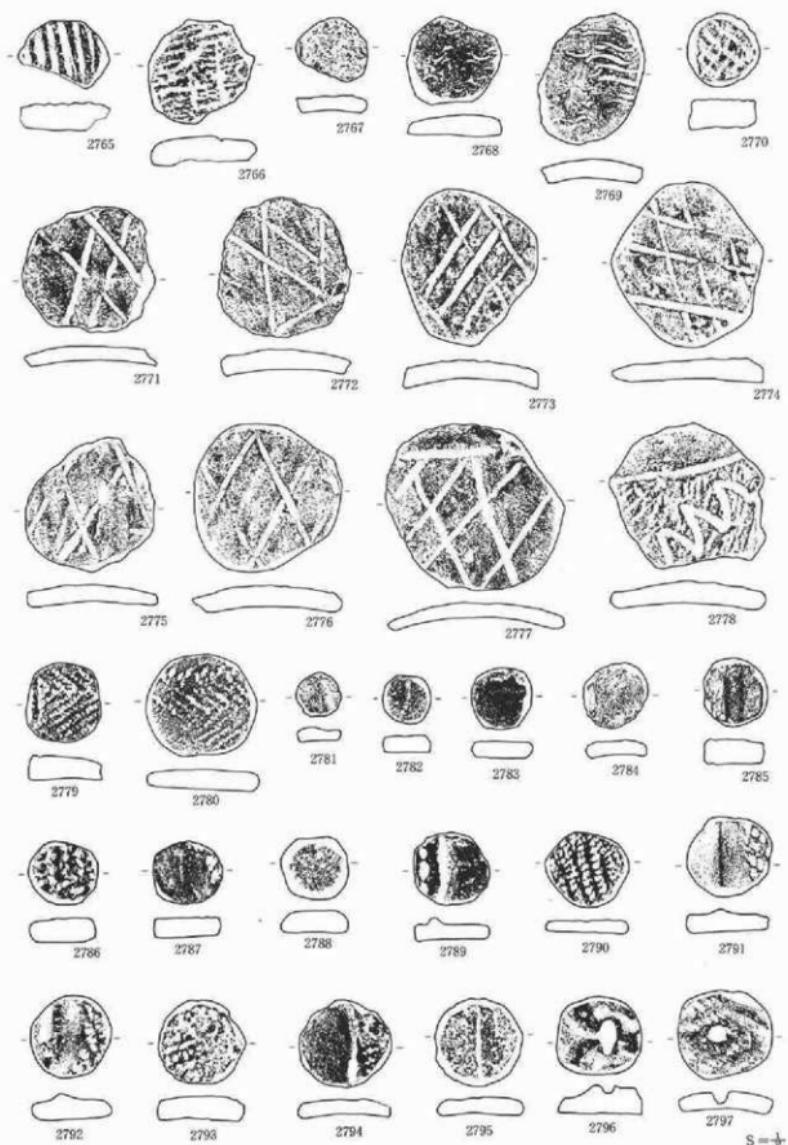


第213図 包含層出土遺物(土製品1)

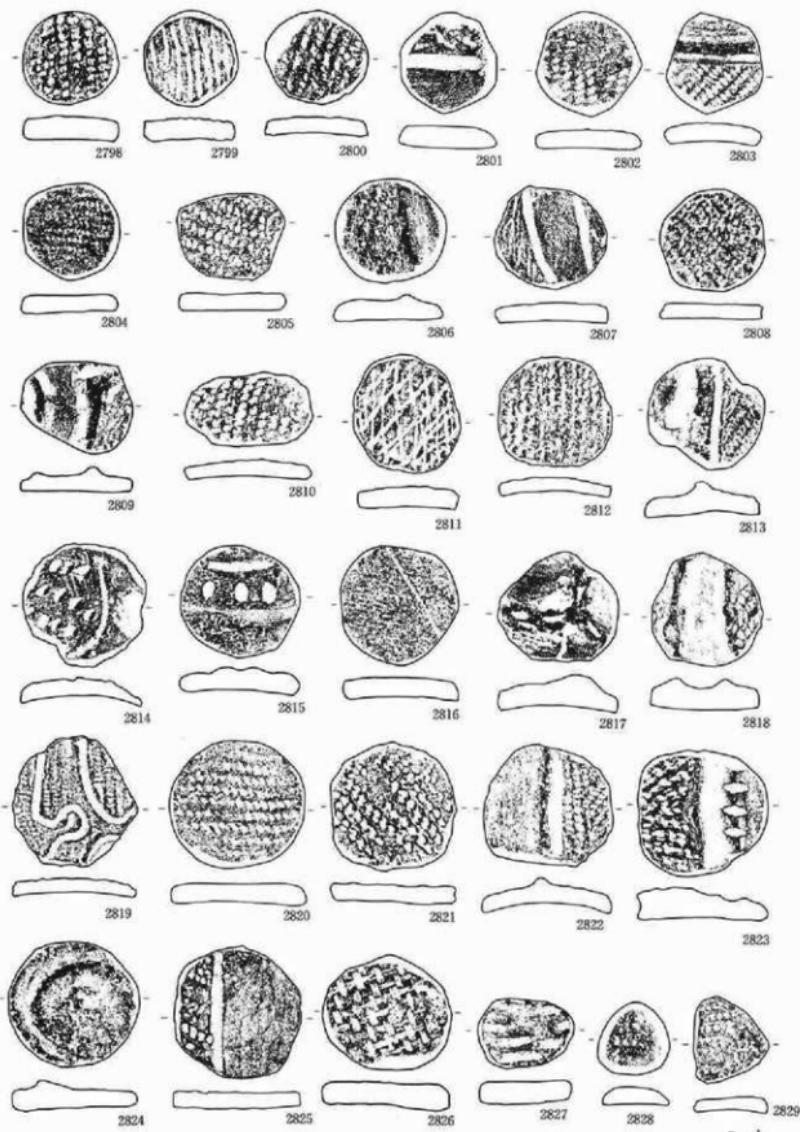
S = $\frac{1}{2}$



第214図 包含層出土遺物(土製品2)

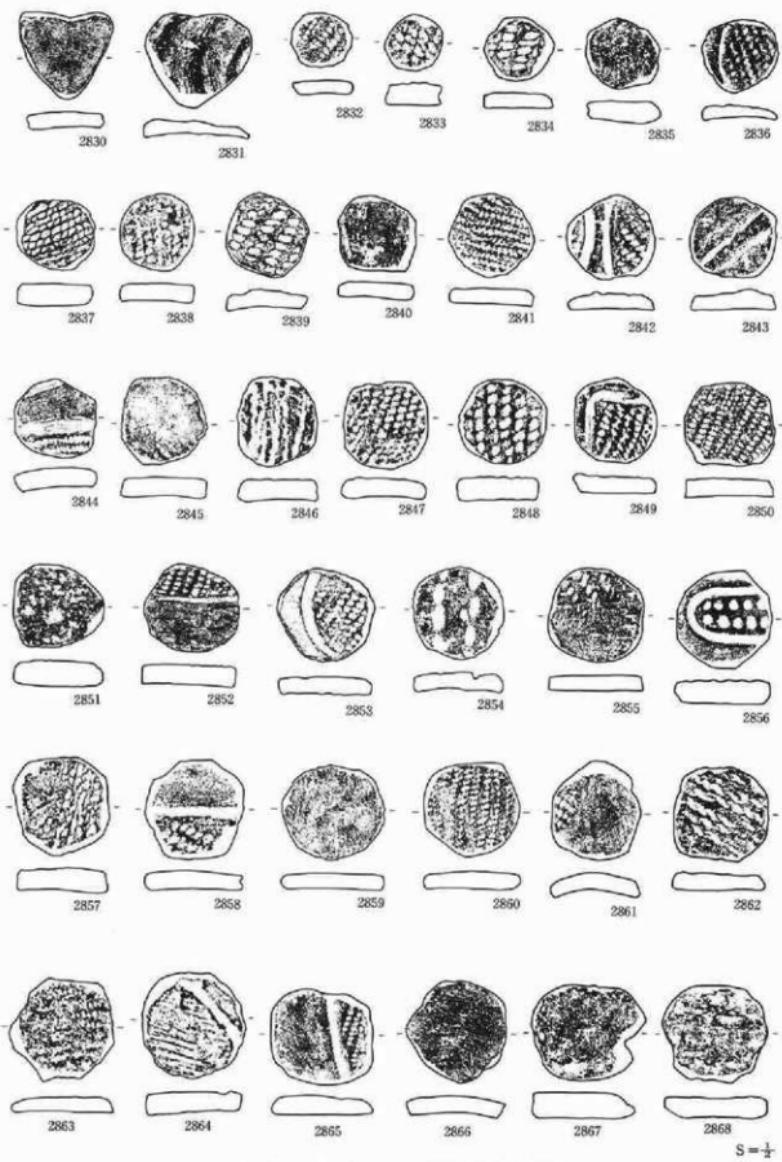


第215図 包含層出土遺物(土器片円盤1)

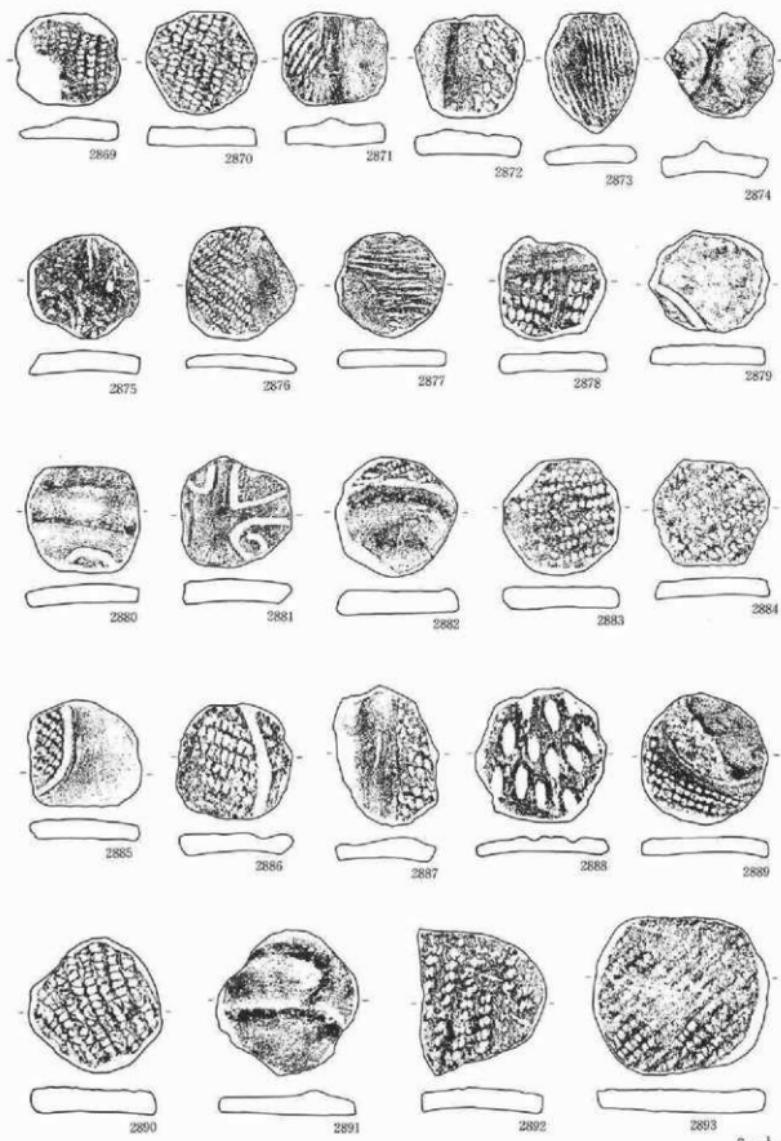


第216図 包含層出土遺物(土器片円盤2)

$S = \frac{1}{2}$

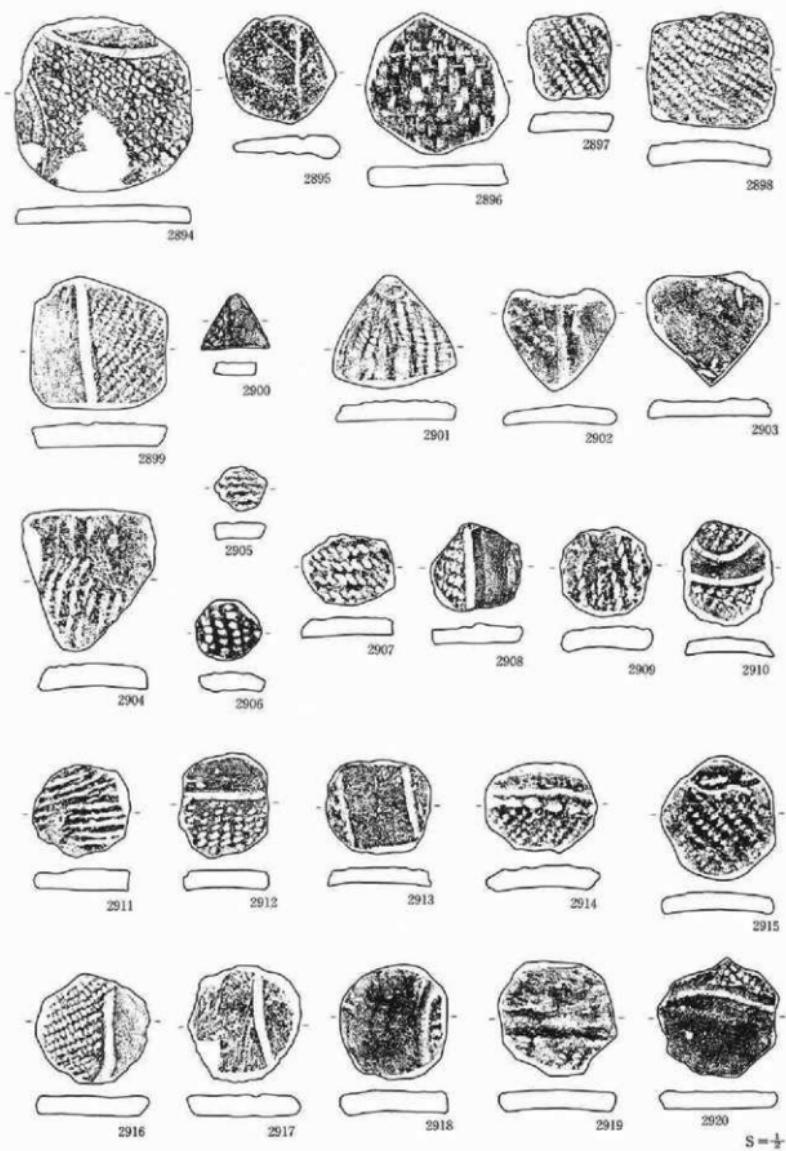


第217図 包含層出土遺物(土器片円盤3)

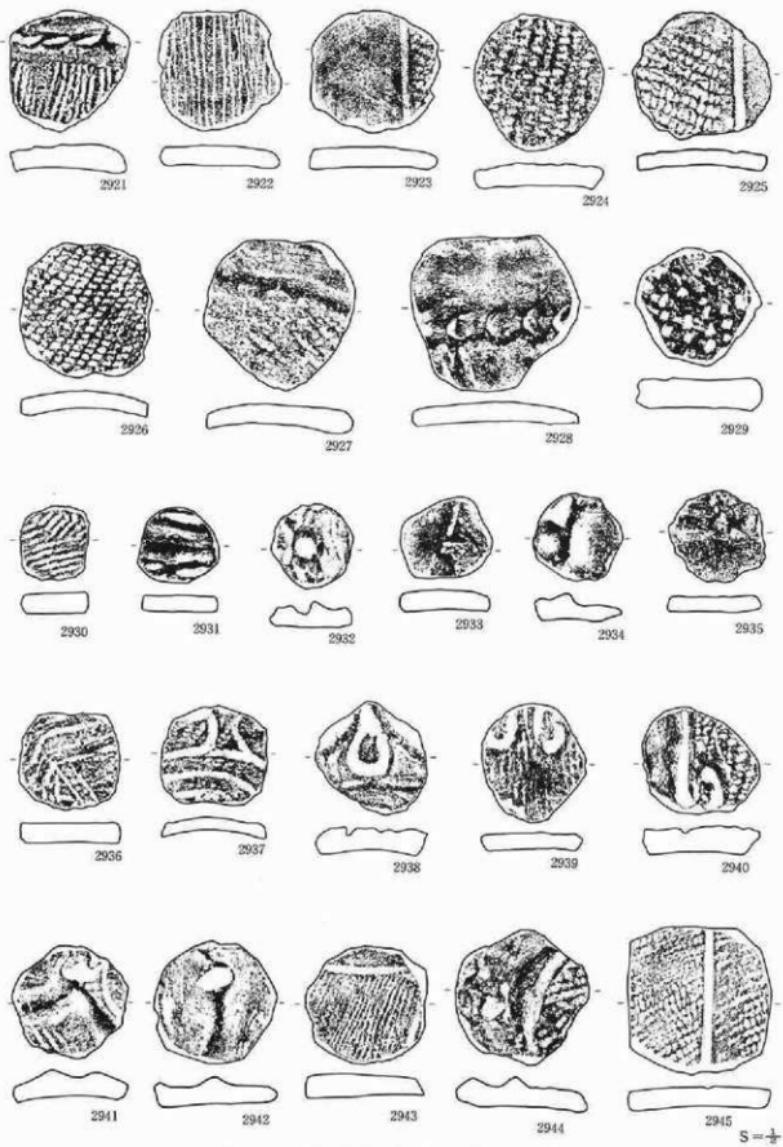


第218図 包含層出土遺物(土器片円盤 4)

$S = \frac{1}{2}$



第219図 包含層出土遺物(土器片円盤 5)



第220図 包含層出土遺物(土器片円盤 6)

卷之十

部類No.	出土地点	遺物種別	説明
50	RAO 3号土中層	漆器	門形・記号「匁」彫文：漆器 漆器 俗文：R.L. 手法 光面 内面：ナダ；外周色絵 文字の作機
51	RAO 3号土中層	漆器	漆器 漆器
52	RAO 3号土中層	漆器	口縁 漆器 漆器
53	RAO 3号土中層	漆器	漆器 漆器
54	RAO 3号土中層	漆器	漆器 漆器
55	RAO 3号土中層	漆器	漆器 漆器
56	RAO 3号土中層	漆器	漆器 漆器
57	RAO 3号土中層	漆器	鉢：漆器 漆器：R.L. 手法 光面 内面：ナダ；外周色絵 文字の作機
58	RAO 3号土中層	漆器	漆器 漆器
59	RAO 3号土中層	漆器	漆器 漆器
60	RAO 3号土中層	漆器	漆器 漆器
61	RAO 3号土中層	漆器	塗器 漆器
62	RAO 3号土中層	漆器	漆器 漆器
63	RAO 3号土下層	漆器	漆器 漆器
64	RAO 3号土下層	漆器	漆器 漆器
65	RAO 3号土中層	漆器	漆器 漆器
66	RAO 3号土中層	漆器	漆器 漆器
67	RAO 3号土中層	漆器	口縁 漆器 漆器
68	RAO 3号土中層	漆器	漆器 漆器
69	RAO 3号土中層	漆器	漆器 漆器
70	RAO 3号土上部	漆器	漆器 漆器
71	RAO 3号土中層	漆器	口縁 漆器
72	RAO 3号土中層	漆器	漆器 漆器
73	RAO 3号土中層	漆器	漆器 漆器
74	RAO 3号土中層	漆器	口縁 漆器
75	RAO 3号土下層	漆器	漆器：ナダ；内面：ナダ；外周色絵 文字の作機
76	RAO 3号土中層	漆器	漆器 漆器
77	RAO 3号土中層	漆器	口縁 漆器
78	RAO 3号土中層	漆器	口縁 漆器
79	RAO 3号土上部	漆器	口縁 漆器
80	RAO 3号土中層	漆器	口縁 漆器
81	RAO 3号土中層	漆器	口縁 漆器
82	RAO 3号土中層	漆器	口縁 漆器
83	RAO 3号土中層	漆器	口縁 漆器
84	RAO 3号土中層	漆器	口縁 漆器
85	RAO 3号土中層	漆器	口縁 漆器
86	RAO 3号土中層	漆器	口縁 漆器
87	RAO 3号土中層	漆器	口縁 漆器
88	RAO 3号土下層	漆器	口縁 漆器
89	RAO 3号土下層	漆器	口縁 漆器
90	RAO 3号土上部	漆器	口縁 漆器
91	RAO 3号土上部	漆器	口縁 漆器
92	RAO 3号土中層	漆器	口縁 漆器
93	RAO 3号土中層	漆器	口縁 漆器
94	RAO 3号土中層	漆器	口縁 漆器
95	RAO 3号土中層	漆器	口縁 漆器
96	RAO 3号土中層	漆器	口縁 漆器
97	RAO 3号土中層	漆器	口縁 漆器
98	RAO 3号土中層	漆器	口縁 漆器
99	RAO 3号土中層	漆器	口縁 漆器

回数	場所	文の特徴	
		意味	構文
100	R A 0 3 国土上部	深井	指標：「深井」(体十位) 構文：R L R ? 内面：ナデ
101	R A 0 3 上下部	深井	地文：S字型の深文 内面：カガキ 陷土：ナデ 断土：ナデ
102	R A 0 3 中部	深井	地文：S字型の深文 内面：ナデ 断土：ナデ 陷土：ナデ
103	R A 0 3 地下部	深井	地文：「深目」(体十位) 内面：ナデ 陷土：ナデ
181	R A 0 4 1 号阶段	深井	地文：「深井」(R 内面：ナデ)
182	R A 0 4 2 号阶段	深井	指標：「沈井」(手付け)(二刀目) 構文：R L R 手法：密閉 内面：カガキ ナデ 密封
183	R A 0 4 3 号阶段	深井	地文：R L R 小面：ミガキ R 手法：密閉 内面：ナデ
184	R A 0 4 4 号阶段	深井	地文：R L R 下端：ミガキ 手法：密閉 内面：ナデ
185	R A 0 4 5 号阶段	深井	地文：R L R 内面：ナデ
186	R A 0 4 6 号阶段	深井	地文：「山形」(2号位)、下部(横切) (1) 画面：深井 構文：R L R 手法：密閉 内面：ナデ 高音連続
187	R A 0 4 7号阶段	深井	1.指標：「山形」(2号位)、下部(横切) (1) 画面：深井 構文：R L R 手法：密閉 内面：ナデ 高音連続
188	R A 0 4 8号阶段	深井	指標：「沈井」(手付け) 構文：深井 陷土：密閉化腔 陷土：密閉化腔
189	R A 0 4 9号阶段	深井	指標：「沈井」(手付け) 陷土：密閉化腔 陷土：密閉化腔 画面：ミガキ ナデ
190	R A 0 4 10号阶段	深井	指標：「沈井」(手付け) + 深文：R L R 手法：密閉 内面：ミガキ ナデ
191	R A 0 4 11号阶段	深井	口傳：密闭：「沈井」(手付け) + 深文：R L R 手法：密閉 内面：ミガキ ナデ
192	R A 0 4 12号阶段	深井	口傳：「暗状突起(ひねり)」 内面：ミガキ
193	R A 0 4 13号阶段	深井	指標：「沈井」(手付け) 構文：「然文」(手付け) 手法：密閉 内面：ミガキ
194	R A 0 4 14号阶段	深井	指標：「沈井」(手付け) 構文：R L R 手法：？ 内面：ナデ
195	R A 0 4 15号阶段	深井	指標：「沈井」(手付け) 構文：R L R 手法：密閉 内面：ナデ 附：(多)
196	R A 0 4 16号阶段	井戸土槽	井戸口：「体穴充満」(手付け) 構文：R L R 手法：密閉 完成(内面) 瞬：熱糸文 ? 手法：完結 内面：ナデ
197	R A 0 4 17号阶段	深井	指標：「沈井」(手付け) 構文：R L R 手法：密閉 完成(内面) 瞬：熱糸文 ? 手法：完結 (微)
198	R A 0 4 18号阶段	深井	指標：「沈井」(手付け) 構文：R L R 手法：密閉 完成(内面) 瞬：ミガキ
217	R A 0 5 No.1号阶段	深井	指標：「深井」(手付け) 構文：R L R 手法：密閉 完成(内面) 瞬：ミガキ
218	R A 0 5 No.2号阶段	深井	指標：「深井」(手付け) 構文：R L R 手法：密閉 完成(内面) 瞬：ミガキ
219	R A 0 5 No.3号阶段	深井	指標：「R」(内面) ミガキ
220	R A 0 5 No.4号阶段	深井	指標：「深井」(手付け) 構文：R L R 内面：ミガキ
221	R A 0 5 No.5号阶段	深井	指標：「深井」(手付け) 構文：R L R 内面：ミガキ
222	R A 0 5 No.6号阶段	深井	指標：「深井」(手付け) 構文：R L R 内面：ミガキ No.21と同一固体
223	R A 0 5 No.7号阶段	深井	指標：「深井」(手付け) 構文：R L R 内面：ミガキ
224	R A 0 5 No.8号阶段	深井	指標：「深井」(手付け) 構文：R L R 手法：密閉 内面：ナデ ミガキ
225	R A 0 5 No.9号阶段	深井	指標：「深井」(手付け) 構文：R L R 手法：密閉 内面：ミガキ
226	R A 0 5 No.10号阶段	深井	指標：「深井」(手付け) 構文：R L R 手法：密閉 内面：ミガキ
227	R A 0 5 No.11号阶段	深井	指標：「深井」(手付け) 構文：R L R 手法：密閉 内面：ミガキ
228	R A 0 5 No.12号阶段	深井	指標：「深井」(手付け) 構文：R L R 手法：密閉 内面：ミガキ
229	R A 0 5 No.13号阶段	深井	口傳：密井：「密井」(手付け) 手法：光緒 内面：ミガキ
230	R A 0 5 No.14号阶段	深井	口傳：密井：「密井」(手付け) 手法：光緒 内面：ミガキ
231	R A 0 5 No.15号阶段	深井	口傳：密井：「密井」(手付け) 手法：光緒 内面：ミガキ
232	R A 0 5 No.16号阶段	深井	口傳：密井：「密井」(手付け) 手法：光緒 内面：ミガキ
233	R A 0 5 No.17号阶段	深井	指標：「深井」(手付け) 構文：R L R 手法：密閉 内面：ミガキ
234	R A 0 5 No.18号阶段	深井	指標：「深井」(手付け) 構文：R L R 手法：密閉 内面：ミガキ
235	R A 0 5 No.19号阶段	深井	指標：「深井」(手付け) 構文：R L R 手法：密閉 内面：ミガキ
236	R A 0 5 No.20号阶段	深井	指標：「深井」(手付け) 構文：R L R 手法：密閉 内面：ミガキ
237	R A 0 5 No.21号阶段	深井	指標：「深井」(手付け) 構文：R L R 手法：密閉 内面：ミガキ
238	R A 0 5 No.22号阶段	深井	指標：「深井」(手付け) 構文：R L R 手法：密閉 内面：ミガキ
239	R A 0 5 No.23号阶段	深井	指標：「深井」(手付け) 構文：R L R 手法：密閉 内面：ミガキ
240	R A 0 5 No.24号阶段	深井	指標：「深井」(手付け) 構文：R L R 手法：密閉 内面：ミガキ
241	R A 0 5 No.25号阶段	深井	指標：「深井」(手付け) 構文：R L R 手法：密閉 内面：ミガキ
242	R A 0 5 No.26号阶段	深井	指標：「深井」(手付け) 構文：R L R 手法：密閉 内面：ミガキ
243	R A 0 5 No.27号阶段	深井	指標：「深井」(手付け) 構文：R L R 手法：密閉 内面：ミガキ

部類	文種	文種の特徴	分類
220	B 3 - P 2.5 土 手 庫	深鉢	無
321	B 3 - P 2.5 土 手 庫	深鉢	無 横文：LR 内面：ミガキ （木・丸）手筋+沈鉢 極偏：前突（外側） 内面：ナフ
322	B 3 - P 2.5 土 手 庫	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
323	B 3 - P 2.5 土 手 庫	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ナフ 背面：ナフ
324	B 3 - P 2.5 土 手 庫	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ナフ
327	B 3 - P 4 土 手 庫	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ナフ 背面：ナフ
328	B 3 - P 8 土 手 庫	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ 背面：ナフ
329	B 3 - P 8 土 手 庫	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ 背面：ナフ
331	B 3 - P 1 土 手 庫	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
332	B 3 - P 1 土 手 庫	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ナフ
333	B 3 - P 1 土 手 庫	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ナフ 背面：ナフ
334	B 3 - P 1 土 手 庫	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ 背面：ナフ
335	B 3 - P 1 土 手 庫	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ 背面：ナフ
336	B 3 - P 1 土 手 庫	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
337	B 3 - P 1 土 手 庫	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
338	B 3 - P 1 土 手 庫	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
339	B 3 - P 1 土 手 庫	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
340	B 3 - P 1 土 手 下鉢	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ 背面：ナフ
341	B 3 - P 1 土 手 下鉢	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ 背面：ナフ
342	B 3 - P 1.3 土 手	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
343	B 3 - P 1.3 土 手	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
344	B 3 - P 3 土 手	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
345	B 3 - P 5 土 手	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
346	B 3 - P 1 土 手	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
347	B 3 - P 1.0 土 手	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
348	B 3 - P 1 土 手	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
349	B 3 - P 1 土 手	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
350	B 3 - P 1.1 土 手	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
351	B 3 - P 1.7 土 手	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
352	B 3 - P 1.8 土 手	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
354	B 3 - P 2.0 土 手	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
355	B 3 - P 2.3 土 手	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
356	B 3 - P 2.3 土 手	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
357	B 3 - P 2.3 土 手	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
358	B 3 - P 2.3 土 手	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
359	B 3 - P 2.4 土 手	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
360	B 3 - P 2.6 土 手	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
361	B 3 - P 2.7 土 手	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
362	B 3 - P 3.0	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
363	B 3 - P 4 土 手	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
364	C 2 - P 1 土 手	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
365	C 2 - P 9 土 手	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
366	C 2 - P 9 土 手	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
367	C 2 - P 9 土 手	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
368	C 2 - P 10 土 手	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
369	C 2 - P 11 土 手	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
370	C 2 - P 11 土 手	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ
371	C 2 - P 11 土 手	深鉢	無 横文：LR 手筋：内面：ミガキ

語彙No.	語彙	意味	文様の特徴	文様
372	C.2-P.P.7.7 滲跡	接觸：陰唇 漏文：R.L 手法：接触？ 内面：ナデ	3.3.b	3.3.b
373	C.2-P.P.7.7 滲跡	接觸：陰唇 漏文：R.L 手法：？ 内面：ナデ	3.3.b	3.3.b
374	C.2-P.P.7.7 滲跡	接觸：陰唇 漏文：R.L (原多義) 手法：接触？ 内面：ミガキ 外面赤色塗影？	3.3.b	3.3.b
375	C.2-P.P.7.7 滲跡	接觸：陰唇 漏文：R.L 手法：接触？ 内面：ナデ	3.3.b	3.3.b
376	C.2-P.P.7.7 滲跡	接觸：陰唇+比紙 裸體：陰唇+射精 漏文：R.L 手法：接触？ 内面：ミガキ	3.3.b	N.1
382	C.3-P.P.1.4.四土 滲跡	接觸：陰唇 漏文：R.L 手法：接触？ 内面：ミガキ	3.3.b	3.3.b
383	C.3-P.P.1.4.四土 滲跡	接觸：陰唇 漏文：R.L.R 手法：接触？ 内面：ミガキ	3.3.b	3.3.b
384	C.3-P.P.1.8. 滲跡	接觸：陰唇 漏文：R.L 手法：接触？ 内面：ミガキ	3.3.b	3.3.b
385	C.3-P.P.1.8. 滲跡	接觸：陰唇+比紙 漏文：？ 内面：ナデ	3.3.b	N.1.2
391	C.2-P.P.2.4.四土 滲跡	接觸：陰唇 漏文：？ 内面：ナデ	3.3.b	3.3.b
393	C.2-P.P.2.5.中尾 滲跡	接觸：比紙 漏文：R.L 手法：接触？ 内面：ミガキ	3.3.b	3.3.b
394	C.2-P.P.2.6.四土 滚跡	接觸：比紙 滾文：R.L.R 手法：？ 内面：ナデ	3.3.b	3.3.b
395	C.2-P.P.2.6.四土 滚跡	接觸：比紙 (大・浅) 漏文：R.L 手法：射精？ 内面：ミガキ ナデ 動子：漏唇骨計	3.3.a	3.3.a
396	C.2-P.P.2.6.四土 滚跡	接觸：比紙 漏文：R.L 手法：射精？ 内面：ナデ	3.3.b	3.3.b
398	C.2-P.P.2.6.四土 滚跡	接觸：陰唇！ (原字書) 漏文：？ R.L 内面：ミガキ	3.3.b	3.3.b
399	C.2-P.P.2.6.四土 滚跡	接觸：陰唇+比紙 漏文：？ 内面：ナデ	3.3.b	3.3.b
400	C.2-P.P.2.6.四土 滚跡	地文：S字状溝道透文 内面：ナデ 動子：射上 機械 (少)	3.3.b	3.3.b
401	C.2-P.P.40.-41.四土 滲跡	接觸：山唇交際 裸體：陰唇 (完全体内) + 滲文 内面：ミガキ 動子：射精色粒	3.3.b	3.3.b
402	C.2-P.P.40.-41.四土 滲跡	接觸：比紙 漏文：？ 内面：ナデ	3.3.b	3.3.b
403	C.2-P.P.40.-41.四土 滲跡	接觸：陰唇 (内側) -射精口？ 内面：ミガキ ナデ 器官牽掣	3.3.b	3.3.b
405	C.2-P.P.4.三土 滲跡	接觸：比紙 漏文：？ 内面：ナデ	3.3.b	3.3.b
406	C.2-P.P.4.三土 滲跡	接觸：陰唇+比紙 漏文：？ 内面：ナデ	3.3.b	3.3.b
407	C.2-P.P.50.-51.四土 滲跡	接觸：比紙 漏文：？ 内面：ナデ	3.3.b	3.3.b
408	C.2-P.P.50.-51.四土 滲跡	接觸：陰唇 漏文：？ 内面：ナデ	3.3.b	3.3.b
409	C.2-P.P.50.-51.四土 滲跡	地文：S字状溝道透文 内面：ナデ 動子：射上 機械	3.3.b	3.3.b
410	C.2-P.P.5.2.四土 滲跡	接觸：比紙 漏文：？ 内面：ナデ	3.3.b	3.3.b
411	C.2-P.P.5.2.四土 滲跡	接觸：比紙 漏文：？ 手法：？ 内面：ナデ	3.3.b	3.3.b
412	C.2-P.P.5.2.四土 滲跡	接觸：陰唇 漏文：？ 手法：？ 内面：ミガキ	3.3.b	3.3.b
413	C.2-P.P.5.2.四土 滲跡	接觸：陰唇 漏文：？ 手法：？ 内面：ミガキ	3.3.b	3.3.b
414	C.2-P.P.5.5.四土 滲跡	接觸：陰唇 漏文：？ 手法：？ 内面：ミガキ	3.3.b	3.3.b
415	C.2-P.P.5.5.四土 滲跡	接觸：陰唇 漏文：？ 手法：？ 内面：ミガキ	3.3.b	3.3.b
416	C.2-P.P.5.5.四土 滲跡	接觸：陰唇 漏文：？ 手法：？ 内面：ミガキ	3.3.b	3.3.b
417	C.2-P.P.5.6.四土 滲跡	接觸：比紙 漏文：R.L 手法：射精？ 内面：ミガキ	3.3.b	3.3.b
420	C.2-P.P.5.6.四土 滲跡	接觸：比紙 漏文：R.L 手法：射精？ 内面：ミガキ	3.3.c	3.3.c
421	C.2-P.P.7.3.四土 滲跡	接觸：陰唇 漏文：？ 手法：？ 内面：ミガキ	3.3.c	3.3.c
422	C.2-P.P.7.3.四土 滲跡	接觸：陰唇 漏文：？ 手法：？ 内面：ミガキ	3.3.c	3.3.c
426	C.2-P.178.-79.四土巾添	接觸：陰唇 漏文：？ 手法：？ 内面：ミガキ	3.3.c	3.3.c
427	C.2-P.178.-79.四土巾添	接觸：陰唇 漏文：？ 手法：？ 内面：ミガキ	3.3.c	3.3.c
428	C.2-P.178.-79.四土巾添	接觸：比紙 (浅) 漏文：R.L 手法：射精？ 内面：ミガキ	3.3.c	3.3.c
430	R.D.0.4.四土下唇	接觸：陰唇 漏文：？ 手法：？ 内面：ミガキ	3.3.c	3.3.c
431	R.D.0.4.四土下唇	接觸：陰唇 漏文：？ 手法：？ 内面：ミガキ	3.3.c	3.3.c
432	R.D.0.4.四土下唇	接觸：陰唇 漏文：？ 手法：？ 内面：ミガキ	3.3.c	3.3.c
433	R.D.0.4.四土下唇	接觸：陰唇 漏文：？ 手法：？ 内面：ミガキ	3.3.c	3.3.c
434	R.D.0.4.四土下唇	接觸：陰唇 漏文：？ 手法：？ 内面：ミガキ	3.3.c	3.3.c
435	R.D.0.4.四土下唇	接觸：陰唇 漏文：？ 手法：？ 内面：ミガキ	3.3.c	3.3.c
436	R.D.0.4.四土下唇	接觸：比紙 漏文：？ 手法：？ 内面：ミガキ	3.3.c	3.3.c
437	R.D.0.4.四土下唇	接觸：比紙 漏文：？ 手法：？ 内面：ミガキ	3.3.c	3.3.c
438	R.D.0.4.四土下唇	接觸：比紙 漏文：？ 手法：？ 内面：ミガキ	3.3.c	3.3.c
439	R.D.0.4.四土下唇	接觸：比紙 漏文：？ 手法：？ 内面：ミガキ	3.3.c	3.3.c

固有語		出土地点	語種	文様	文様の特徴
440	R D0 14.1 磁	洋漆	模様：波板 織文：燃水文 手法：輪削？ 内面：ミガキ	■ 3 b - c	■ 3 b - c
446	R D0 14.1 磁	漆漆	模様：外形：ヨリボウ 内面：ナフ 手法：射十；火[色] 色刷	■ 6	■ 6
447	R D0 14.1 磁	漆漆	模様：波板（尖端部） 織文：L.R 手法：内面：ナフ	■ 3 a ?	■ 3 a ?
448	R D0 14.1 磷	漆漆	模様：外形：射十；内面：輪削り付け（輪削り） 織文：R.L.R 手法：元皿 内面：ミキ+チテ	■ 3 b	■ 3 b
449	R D0 14.1 中碗	漆漆	模様：波板（底） 織文：R.L.R 手法：射削？ 内面：ナフ	■ 3 b	■ 3 b
450	R D0 14.1 上湯	漆漆	模様：波板（底） 織文：R.L.R 手法：射削？ 内面：ナフ	■ 3 b	■ 3 b
451	R D0 14.2 磁	漆漆	模様：波板（底） 織文：R.L.R 手法：射削？ 内面：ナフ	■ 3 b	■ 3 b
452	R D0 14.1 磷	漆漆	模様：波板（底） 織文：R.L.R 手法：射削？ 内面：ナフ	■ 3 b ?	■ 3 b ?
453	R D0 14.1 中碗	漆漆	模様：区画：輪削り 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ナフ	■ 3 b	■ 3 b
454	R D0 14.1 磷	漆漆	模様：輪削り 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ナフ	■ 3 b	■ 3 b
455	R D0 14.1 上湯	漆漆	模様：波板（底） 織文：R.L.R 手法：射削？ 内面：ミガキ	■ 3 b	■ 3 b
456	R D0 14.2 上湯	漆漆	模様：波板（底） 織文：R.L.R 手法：射削？ 内面：ナフ	■ 3 a ?	■ 3 a ?
457	R D0 14.1 上漆	漆漆	模様：口縁：山形文 織文：区画、輪削り 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ミガキ	■ 3 b	■ 3 b
458	R D0 14.1 上漆	漆漆	模様：口縁：山形文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ミガキ	■ 3 b	■ 3 b
459	R D0 14.1 中碗	漆漆	模様：R.L.R 内面：ナフ	■ 3	■ 3
460	R D0 14.1 中碗	漆漆	模様：R.L.R 内面：ナフ	■ 3	■ 3
461	R D0 14.1 上漆	漆漆	模様：口縁：山形文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ミガキ	■ 3	■ 3
462	R D1 14.1 1層	漆漆	模様：口縁：山形文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ミガキ	■ 3	■ 3
463	R D1 14.1 1層	漆漆	模様：口縁：山形文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ミガキ	■ 3	■ 3
464	R D1 14.1 1層	漆漆	模様：口縁：山形文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ミガキ	■ 3	■ 3
465	R D1 14.1 1層	漆漆	模様：口縁：山形文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ミガキ	■ 3	■ 3
466	R D1 14.1 1層	漆漆	模様：口縁：山形文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ミガキ	■ 3	■ 3
467	R D1 14.1 1層	漆漆	模様：口縁：山形文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ミガキ	■ 3	■ 3
471	R D1 14.1 1~3層	漆漆	模様：口縁：山形文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ミガキ	■ 3	■ 3
472	R D1 14.1 下漆	漆漆	模様：口縁：山形文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ミガキ	■ 3	■ 3
473	R D1 14.1 下漆	漆漆	模様：口縁：山形文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ミガキ 外面スズ付番	■ 3	■ 3
474	R D1 14.1 下漆	漆漆	模様：口縁：山形文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ナフ	■ 3	■ 3
475	R D1 14.1 下漆	漆漆	模様：口縁：山形文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ナフ	■ 3	■ 3
476	R D2 0 四寸	漆漆	模様：口縁：山形文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ナフ	■ 3	■ 3
477	R D2 0 四寸	漆漆	模様：口縁：山形文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ナフ	■ 3	■ 3
478	R D2 0 四寸下幅	漆漆	模様：口縁：山形文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ミガキ	■ 3	■ 3
479	R D2 0 四寸下幅	漆漆	模様：口縁：山形文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ミガキ	■ 3	■ 3
480	R D2 0 四寸下幅	漆漆	模様：口縁：山形文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ミガキ	■ 3	■ 3
481	R D2 0 四寸	漆漆	模様：口縁：山形文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ナフ	■ 3	■ 3
482	R D2 0 四寸下幅	漆漆	模様：口縁：山形文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ミガキ	■ 3	■ 3
483	R D2 0 四寸下幅	漆漆	模様：口縁：山形文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ミガキ	■ 3	■ 3
484	R D2 0 四寸下幅	漆漆	模様：口縁：山形文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ミガキ	■ 3	■ 3
486	R D2 0 四寸	漆漆	模様：口縁：山形文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ナフ	■ 3	■ 3
487	R D2 0 四寸	台鉢	模様：口縁：山形文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ナフ	■ 3	■ 3
488	R D2 0 四寸下幅	漆漆	模様：口縁：山形文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ミガキ	■ 3	■ 3
491	R D2 0 四寸	漆漆	模様：シニシアーナ 内面：輪削り 織文：ナフ	■ 3	■ 3
492	R D2 0 四寸	漆漆	模様：口縁：山形文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ミガキ 器出物記	■ 3	■ 3
493	R D2 0 四寸 1~3層	漆漆	模様：口縁：山形文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ミガキ	■ 3	■ 3
494	R D2 0 四寸 1~3層	漆漆	模様：口縁：山形文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ナフ	■ 3	■ 3
495	R D2 0 四寸 1~3層	漆漆	模様：口縁：山形文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ミガキ	■ 3	■ 3
496	R D2 0 四寸上端	漆漆	模様：口縁：山形文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ナフ	■ 3	■ 3
497	R D2 0 四寸上端	漆漆	模様：口縁：山形文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ナフ	■ 3	■ 3
498	R D2 0 四寸	漆漆	模様：R.L. 下端ミガキ 文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ミガキ	■ 3	■ 3
499	R D2 0 四寸 4層	漆漆	模様：R.L. 下端ミガキ 文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ミガキ 外面スズ付番	■ 3	■ 3
501	R D2 0 四寸 4層	漆漆	模様：R.L. (0段多) 内面：ミガキ 色刷	■ 3	■ 3
502	R D2 0 四寸	漆漆	模様：R.L. (0段多) 文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ミガキ 外面スズ付番	■ 3	■ 3
503	R D2 0 四寸 3層	漆漆	模様：R.L. (0段多) 文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ミガキ 外面スズ付番	■ 3	■ 3
504	R D2 0 四寸 1~4層	漆漆	模様：R.L. (0段多) 文 織文：R.L.R 手法：射削 内面：ミガキ 外面スズ付番	■ 3	■ 3

語彙		文義の特徴	
活字地名	固版 No.	R.D.2.地主	接続：沈綱 文義：R.L.R 手法：添添？ 内面：ナデ
活字地名	634	R.D.5.腹上	接續：沈綱 文義：(近用) 読文：先映？ 内面：ナデ
活字地名	641	R.D.5.腹上	接續：沈綱 文義：R.L.R 手法：添添？ 内面：ナデ
活字地名	645	R.D.5.腹上	口讀：竹乳象形(松平山) 2重口讀 條解：説書 2重語：像音+象形 漢文：R.L 手法：先映 内面：ナデ
活字地名	646	R.D.2.腹上	山形文字：(小字一對：大山口山川) 條解：象形+象形所附 漢文：ナデ
活字地名	647	R.D.2.腹上	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	648	R.D.2.腹上	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	649	R.D.2.腹上	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	650	R.D.2.腹上	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	654	R.D.3.腹上	「接續」は誤り？ 文義：R.L.R ? 手法：先映？ 内面：ナデ
活字地名	658	R.D.3.腹上	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	660	R.D.3.腹上	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	661	R.D.3.腹上	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	662	R.D.3.腹上	接續：沈綱 文義：R.L.R ? 内面：ナデ
活字地名	666	R.D.3.腹上	「接續」は誤り(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	669	R.D.3.腹上	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	670	R.D.3.腹上	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	671	R.D.3.腹上	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	672	R.D.3.腹上	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	673	R.D.3.腹上	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	674	R.D.3.腹上	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	677	R.D.3.腹上	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	678	R.D.3.腹上	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	679	R.D.8.頭上部	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	680	R.D.8.頭上部	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	683	R.D.3.頭上部	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	685	R.D.3.頭上部	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	686	R.D.3.頭上部	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	687	R.D.3.頭上部	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	690	R.D.0.頭上	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	691	R.D.0.頭上	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	692	R.D.1.頭上	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	693	R.D.1.頭上	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	694	R.D.1.頭上	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	695	R.D.1.頭上	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	696	R.D.1.頭上	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	697	R.D.1.頭上	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	706	R.D.2.頭上	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	707	R.D.2.頭上	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	708	R.D.2.頭上	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	709	R.D.3.頭上	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	711	R.D.4.頭上	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	712	R.D.4.頭上	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	713	R.D.4.頭上	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	714	R.D.4.頭上	接續：沈綱 文義：(近用) 極義：(近用) 2重語：ナデ
活字地名	720	R.D.5.頭上	「接續」は誤り(近用) 2重語：ナデ
活字地名	721	R.D.5.頭上	「接續」は誤り(近用) 2重語：ナデ
活字地名	722	R.D.5.頭上	「接續」は誤り(近用) 2重語：ナデ
活字地名	723	R.D.5.頭上	「接續」は誤り(近用) 2重語：ナデ

文庫の特徴		分類
出力箇点	出力箇点	
1005 DⅨⅧ書類分17号	添付	
1006 DⅩⅨ書類分17~18号	添付	3 b
1007 DⅪⅩ書類分17~18号	添付	3 a?
1008 DⅫⅪ書類分17~18号	添付	b
1009 DⅬⅭ書類分17~18号	添付	2
1010 DⅮⅯ書類分17~18号	添付	2
1011 DⅯⅰⅰ書類分18~20号	添付	2
1012 DⅯⅱⅰ書類分18~20号	添付	1
1013 DⅯⅲⅰ書類分19号	添付	2
1014 DⅯⅳⅰ書類分19号	添付	2
1015 DⅯⅵⅰ書類分19号	添付	2
1016 DⅯⅶⅰ書類分19号	添付	2
1017 DⅯⅷⅰ書類分19号	添付	2
1018 DⅯⅸⅰ書類分19号	添付	1
1019 DⅯⅹⅰ書類分19号	添付	1
1020 DⅯⅻⅰ書類分19号	添付	1
1021 DⅯⅼⅰ書類分20号	添付	1
1022 EⅩⅨ書類分2~3号	添付	3 c?
1023 EⅪⅩ書類分2~3号	添付	c
1024 EⅫⅪ書類分2~3号	添付	3 b
1025 EⅬⅭ書類分2~3号	添付	3 b
1026 EⅭⅮ書類分2~3号	添付	3 a?
1027 EⅮⅯ書類分2~3号	添付	4
1028 EⅯⅰⅰⅰ書類分4号	添付	1
1029 EⅯⅰⅰⅱ書類分4号	添付	1
1030 EⅯⅰⅰⅲ書類分4号	添付	1
1031 EⅯⅰⅰⅳ書類分4号	添付	1
1032 EⅯⅰⅰⅴ書類分4号	添付	1
1033 EⅯⅰⅰⅵ書類分4号	添付	1
1034 EⅯⅰⅰⅶ書類分4号	添付	1
1035 EⅯⅰⅰⅷ書類分4号	添付	1
1036 EⅯⅰⅰⅸ書類分4号	添付	1
1037 EⅯⅰⅰⅹ書類分4~5号	添付	1
1038 EⅯⅰⅰⅻ書類分4~5号	添付	1
1039 EⅯⅰⅰⅽ書類分4~5号	添付	1
1040 EⅯⅰⅰⅾ書類分6~8号	添付	1
1041 EⅯⅰⅰⅿ書類分6~8号	添付	1
1042 EⅯⅰⅰⅽⅽ書類分6~8号	添付	1
1043 EⅯⅰⅰⅽⅽ書類分6~8号	添付	1
1044 EⅯⅰⅰⅽⅽ書類分6~8号	添付	1
1045 EⅯⅰⅰⅽⅽ書類分6~8号	添付	1
1046 EⅯⅰⅰⅽⅽ書類分6~8号	添付	1
1047 EⅯⅰⅰⅽⅽ書類分6~8号	添付	1
1048 EⅯⅰⅰⅽⅽ書類分9号	添付	1
1049 EⅯⅰⅰⅽⅽ書類分9号	添付	1
1050 EⅯⅰⅰⅽⅽ書類分9号	添付	1
1051 EⅯⅰⅰⅽⅽ書類分9号	添付	1
1052 EⅯⅰⅰⅽⅽ書類分9号	添付	1
1053 EⅯⅰⅰⅽⅽ書類分9号	添付	1
1054 EⅯⅰⅰⅽⅽ書類分9号	添付	1

部数%	出典	説明	文義の特徴	分類
1105	F N 雷電分 2 篇	深絆	指標：深帯+カ綴 意味：深帯・胸み 漢文：し.ル 手法：先拂？ 内面：ミガキ	N.1
1106	F N 雷電分 2 篇	深絆	口綴：深絆+別字 指標：深絆+別字 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1107	F N 雷電分 2 篇	深絆	軽快：深絆+別字 指標：深絆+別字 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1108	F N 雷電分 2 篇	深絆	口綴：深絆 (連用形)に付け (「月」) 指標：深絆 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1109	F N 雷電分 2 篇	深絆	口綴：深絆 (山形) 指標：深絆 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1110	F N 雷電分 2 篇	深絆	張綱：深絆 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1111	F V 雷電分 2 篇	深絆	張綱：深絆 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1112	F V 雷電分 2 篇	深絆	口綴：深絆 (山形) 指標：深絆 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1113	F V 雷電分 2 篇	深絆	口綴：深絆 (山形) 指標：深絆 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1114	F V 雷電分 2 篇	深絆	口綴：深絆 (風) 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1115	F V 雷電分 2 篇	深絆	口綴：深絆 (風) (卯引のり) 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1116	F V 雷電分 2 篇	深絆	口綴：深絆 (江綱) 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1117	F N 雷電分 3 - 4 篇	深絆	口綴：深絆 (江綱) 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1118	F N 雷電分 3 - 4 篇	深絆	口綴：深絆 (江綱) 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1119	F N 雷電分 3 - 4 篇	深絆	口綴：深絆 (江綱) 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1120	F N 雷電分 3 - 4 篇	深絆	口綴：深絆 (江綱) 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1121	F N 雷電分 3 - 5 篇	深絆	口綴：深絆 (江綱) 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1122	F N 雷電分 5 篇	深絆	口綴：深絆 (江綱) 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1123	F N 雷電分 5 篇	深絆	口綴：山川次穴 (下部) 指標：深絆 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1124	F N 雷電分 5 篇	深絆	口綴：山川次穴 (下部) 指標：深絆 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1125	F N 雷電分 5 篇	深絆	口綴：深絆 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1126	F N 雷電分 5 篇	深絆	口綴：深絆 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1127	F N 雷電分 6 篇	深絆	口綴：深絆+沈綱 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1128	F N 雷電分 6 篇	深絆	口綴：深絆+沈綱 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1129	F N 雷電分 6 篇	深絆	口綴：深絆+沈綱 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1130	F N 雷電分 6 篇	深絆	口綴：深絆+沈綱 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1131	F N 雷電分 6 篇	深絆	口綴：深絆+沈綱 (三日月) 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1132	F N 雷電分 6 篇	深絆	口綴：深絆+沈綱 (三日月) 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1133	F N 雷電分 6 篇	口付絆	口綴：深絆+口付絆 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1134	F N 雷電分 6 篇	口付絆	口綴：深絆+口付絆 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1135	F N 雷電分 6 篇	深絆	口綴：深絆+口付絆 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1136	F N 雷電分 6 篇	深絆	口綴：深絆 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1137	F N 雷電分 6 篇	深絆	口綴：深絆 (船) 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1138	F N 雷電分 7 篇	深絆	口綴：深絆 (船) 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1139	F N 雷電分 7 篇	深絆	口綴：深絆 (船) 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1140	F N 雷電分 7 篇	深絆	口綴：深絆 (船) 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1141	F N 雷電分 7 篇	深絆	口綴：深絆 (船) 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1142	F N 雷電分 7 篇	深絆	口綴：深絆 (船) 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1143	F N 雷電分 8 篇	深絆	口綴：深絆 (船) 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1144	F N 雷電分 8 篇	深絆	口綴：深絆 (船) 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1145	F N 雷電分 8 篇	深絆	口綴：深絆 (船) 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1146	F N 雷電分 8 篇	深絆	口綴：深絆 (船) 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1147	F N 雷電分 8 篇	深絆	口綴：深絆 (船) 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1148	F N 雷電分 8 篇	深絆	口綴：深絆 (船) 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1149	F N 雷電分 8 篇	深絆	口綴：深絆 (船) 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1150	F N 雷電分 8 篇	深絆	口綴：深絆 (船) 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1151	F N 雷電分 9 篇	深絆	口綴：深絆 (船) 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1152	F N 雷電分 9 篇	深絆	口綴：深絆 (船) 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1153	F N 雷電分 9 篇	深絆	口綴：深絆 (船) 意味：2. 内面：ミガキ	N.1
1154	F N 雷電分 9 篇	深絆	口綴：深絆 (船) 意味：2. 内面：ミガキ	N.1

文書No.	出土場所	群番	文書の性質		分類
			標題	説明	
1155	F VI 頭輪分 9 番	深鉢	標題：「造形」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		IV 19
1156	F VI 頭輪分 9 番	深鉢	標題：「造形」 横幅：R.L. (傍多角) 手法：内面；ナダ		III 3
1157	F VI 頭輪分 9 番	白台鉢	ミニニアート 内外面ナダ 槌打：孔(透)(4 個)		III 3
1158	F VI 頭輪分 10 番	深鉢	口縁：竹外側面研磨り返し 製文：R.L. 内面：ケリ・ナダ		III 3
1159	F VI 頭輪分 10 番	深鉢	口縁：竹外側面研磨り返し 製文：R.L. 内面：ケリ・ナダ		III 4
1160	F VI 頭輪分 10 番	深鉢	口縁部：鋸歯状突起部 折腰：陳留(熱打) 製文：R.L. 内面：ナダ		III 4
1161	F VI 頭輪分 10 番	深鉢	口縁部：鋸歯状突起部 折腰：R.L. 内面：ナダ		III 4
1162	F VI 頭輪分 10 番	深鉢	標題：「造形」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		III 4
1163	F VI 頭輪分 10 番	深鉢	地文：「不規則」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		III 2
1164	F VI 頭輪分 10 番	深鉢	地文：「不規則」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		III 2
1165	F VI 頭輪分 10 番	深鉢	地文：「不規則」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		III 2
1166	F VI 頭輪分 10 番	深鉢	地文：「S 字型通路」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		III 2
1167	F VI 頭輪分 10 番	深鉢	地文：「S 字型通路」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		III 2
1168	F VI 頭輪分 10 番	深鉢	地文：「S 字型通路」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		III 2
1169	F VI 頭輪分 10 番	深鉢	地文：「S 字型通路」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		III 2
1170	F VI 頭輪分 10 番	深鉢	地文：「S 字型通路」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		III 2
1171	F VI 頭輪分 10 番	深鉢	地文：「S 字型通路」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		III 2
1172	F VI 頭輪分 10 番	深鉢	地文：「S 字型通路」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		III 2
1173	F VI 頭輪分 10 番	深鉢	地文：「S 字型通路」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		III 2
1174	F VI 頭輪分 10 番	深鉢	地文：「S 字型通路」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		III 2
1175	F VI 頭輪分 10 番	深鉢	地文：「S 字型通路」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		III 2
1176	F VI 頭輪分 10 番	深鉢	地文：「S 字型通路」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		III 2
1177	F VI 頭輪分 4 斜	深鉢	「繩」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		IV 1
1178	F VI 頭輪分 4 斜	深鉢	「繩」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		IV 1
1179	F VI 頭輪分 4 斜	深鉢	「繩」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		IV 2?
1180	F VI 頭輪分 4 斜	深鉢	「繩」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		III 3
1181	F VI 頭輪分 1.5	深鉢	「繩」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		III 3
1182	F VI 頭輪分 1.5	深鉢	「繩」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		III 3
1183	F VI 頭輪分 1.5	深鉢	「繩」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		III 1
1184	F VI 頭輪分 1.5	深鉢	「繩」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		III 1
1185	F VI 頭輪分 1.5	深鉢	「繩」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		III b
1186	F VI 頭輪分 1.5	深鉢	「繩」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		III c
1187	F VI 頭輪分 1.5	深鉢	「繩」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		III c
1188	F VI 頭輪分 1.5	深鉢	「繩」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		III 3
1189	F VI 頭輪分 1.5	深鉢	「繩」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		B 5
1190	F VI 頭輪分 1.5	深鉢	「繩」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		III 3
1191	F VI 頭輪分 1.5	深鉢	「繩」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		III b
1192	F VI 頭輪分 1.5	深鉢	「繩」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		III b
1193	F VI 頭輪分 1.5	深鉢	「繩」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		III b
1194	F VI 頭輪分 1.5	深鉢	「繩」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		III c
1195	F VI 頭輪分 1	深鉢	「繩」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		III b
1196	F VI 頭輪分 1	深鉢	「繩」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		III b
1197	F VI 頭輪分 1	深鉢	「繩」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		III b
1198	F VI 頭輪分 2	深鉢	「繩」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		N 3
1199	F VI 頭輪分 2	深鉢	「繩」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		N 3
1200	F VI 頭輪分 2	深鉢	「繩」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		N 3
1201	F VI 頭輪分 2	深鉢	「繩」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		N 3
1202	F VI 頭輪分 2	深鉢	「繩」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		N 3
1203	F VI 頭輪分 2	深鉢	「繩」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		N 3
1204	F VI 頭輪分 2	深鉢	「繩」 横幅：R.L. 手法：内面；ナダ		N 2

箇所No.	所在地	問題	文書の特徴
1355 C III 須	須	福編：醫者（牛内形り約） 織文：R.L.R 手法：先端・牛内面：ミガキ	三 3 a ?
1356 C II 須	須	口縫：波状 織文：醫者・牛内縫 織文：R.L.R 手法：先端？ 内面：牛内縫か牛垂影？	三 3 b
1357 C IV 須	須	口縫：肥厚 織文：醫者・牛内縫 織文：R.L.R 手法：先端？ 内面：ナデ	三 3 b
1358 C IV 須	須	口縫：肥厚 織文：醫者・牛内縫 織文：R.L.R 手法：先端？ 内面：ナデ	三 3 b
1359 C IV 須	須	口縫：肥厚 織文：醫者・牛内縫 織文：R.L.R 手法：先端？ 内面：ナデ	三 3 b
1360 C III 海	海	口縫：波状 織文：R.L.R 手法：先端？ 内面：牛内縫 牛内縫？ 内面：ミガキ	三 3 b
1361 C IV 海	海	口縫：波状 織文：R.L.R 手法：先端？ 内面：牛内縫 牛内縫？ 内面：ミガキ	三 3 b
1362 C V 海	海	口縫：肥厚 織文：先端（波状） 牛内縫 織文：肥厚？ 滑織：波状 牛内縫 牛内縫？ 内面：ミガキ	三 3 b
1363 C IV 海	海	口縫：肥厚 織文：先端（波状） 牛内縫 織文：肥厚？ 滑織：波状 牛内縫 牛内縫？ 内面：ミガキ	三 3 b
1364 C III 海	海	口縫：肥厚 織文：先端（波状） 牛内縫 牛内縫？ ナダ	三 3 b
1365 C IV 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 3 b
1366 C IV 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 3 b
1367 C IV 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 3 a
1368 C IV 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 3 a
1369 C IV 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 3 a
1370 C III 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 3 a
1371 C IV 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 3 a
1372 C IV 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 3 b
1373 C IV 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 3 b
1374 C V 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 3 b
1375 C IV 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 3 b
1376 C III 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 3 a
1377 C IV 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 3 b
1378 C V 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 3 a
1379 C V 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 3 a
1380 C V 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 3 b
1381 C III 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 2 b
1382 C III 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 2 b
1383 C III 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 2 b
1384 C III 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 2 b
1385 C IV 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 2 b
1386 C IV 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 2 b
1387 C III 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 2 b
1388 C III 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 2 b
1389 C III 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 2 a
1390 C III 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 2 a
1391 C III 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 2 a
1392 C V 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 2 a
1393 C V 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 2 a
1394 C V 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 2 a
1395 C V 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 2 a
1396 C III 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 3
1397 C III 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 3
1398 C V II 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 6
1399 C V II 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 6
1400 C III 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 6
1401 C III 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 6
1402 C III 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 5 ?
1403 C III 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 5
1404 C V II 海	海	口縫：滑織：波状 織文：R.L.R 手法：先端 牛内縫 ナダ	三 5

説明No.	出土場所	種類	文獻の特徴		分類
			内面	外面	
1405	C.VII層	深鉢	口縁：刻み（小波状）	縁文：R.L. 内面：ナデ	II.5
1406	C.VII層	深鉢	縁文：燃や文化	内面：ナデ	II.5
1407	C.II層	深鉢	内面：燃や文化	外縁：燃や文化	II.5
1408	C.II層	深鉢	縁文：燃や文化	内面：ナデ	II.5
1409	C.VII層	深鉢	口縁：折り返し	縁文：L. 内面：ナデ	II.5
1410	C.II層	深鉢	外縁：S.カギ	内面：ナデ	II.5
1411	C.II層	深鉢	縁文：沈鉢	内面：R.L. 口縁：輪郭？（波状）	II.5
1412	C.II層	深鉢	口縁：台状小尖底（周縁に斜列）	縁文：刻み（小波状）	II.2
1413	C.II層	深鉢	内面：深音+刻み（押印）	縁文：S字状深音文化	II.2
1414	C.II層	深鉢	縁文：深音+刻み	内面：ナガキ	II.2
1415	C.II層	深鉢	内面：深音（波状）+ナガキ	内面：ナデ	II.2
1416	C.II層	深鉢	口縁：S字状深音文化	内面：ナデ	II.2
1417	C.II層	深鉢	内面：深音+刻み（波状）	内面：ナデ	II.2
1418	C.III層下部	深鉢	内面：波状	縁文：刻み（波状）	II.2
1419	C.III層	深鉢	内面：刻み（波状）	内面：ナデ	II.2
1420	C.III層	深鉢	内面：刻み（波状）	内面：ナガキ	II.2
1421	C.III層	深鉢	内面：刻み（波状）	内面：ナガキ	II.2
1422	C.III層	深鉢	内面：深音+刻み（波状）	内面：ナガキ	II.2
1423	C.III層	深鉢	内面：深音+刻み（波状）	内面：ナガキ	II.2
1424	C.III層	深鉢	地文：S字状深音文化	内面：ナガキ	II.2
1425	C.III層	深鉢	地文：S字状深音文化	内面：ナガキ	II.2
1426	C.III層	深鉢	地文：S字状深音文化	内面：ナガキ	II.2
1427	C.III層	深鉢	地文：S字状深音文化	内面：ナガキ	II.2
1428	C.III層	深鉢	地文：S字状深音文化	内面：ナガキ	II.2
1429	C.III層	深鉢	地文：S字状深音文化	内面：ナガキ	II.2
1430	C.III層中部	深鉢	地文：S字状深音文化	内面：ナガキ	II.2
1431	C.III層	深鉢	地文：S字状深音文化	内面：ナガキ	II.2
1432	C.III層	深鉢	地文：S字状深音文化	内面：ナガキ	II.2
1433	C.III層	深鉢	地文：S字状深音文化	内面：ナガキ	II.2
1434	C.III層	深鉢	地文：S字状深音文化	内面：ナガキ	II.2
1435	C.III層	深鉢	地文：S字状深音文化	内面：ナガキ	II.2
1436	C.III層	深鉢	地文：S字状深音文化	内面：ナガキ	II.2
1437	C.III層	深鉢	地文：S字状深音文化	内面：ナガキ	II.2
1438	C.III層	深鉢	地文：S字状深音文化	内面：ナガキ	II.2
1439	C.III層	深鉢	地文：S字状深音文化	内面：ナガキ	II.2
1440	C.III層下部	深鉢	地文：S字状深音文化	内面：ナガキ	II.2
1441	C.III層	深鉢	地文：燃や文化	内面：ナガキ	II.1
1442	C.III層	深鉢	地文：燃や文化	内面：ナガキ	II.1
1443	C.III層	深鉢	地文：燃や文化	内面：ナガキ	II.1
1444	C.III層	深鉢	地文：燃や文化	内面：ナガキ	II.1
1445	C.III層	深鉢	地文：燃や文化	内面：ナガキ	II.1
1446	C.III層	深鉢	地文：燃や文化	内面：ナガキ	II.1
1447	C.III層	深鉢	地文：燃や文化	内面：ナガキ	II.1
1448	C.III層	深鉢	地文：燃や文化	内面：ナガキ	II.1
1449	C.III層	深鉢	地文：燃や文化	内面：ナガキ	II.1
1450	D.VII層	深鉢	地文：燃や文化	内面：ナガキ	N.3
1451	D.VII層	深鉢	地文：燃や文化	内面：ナガキ	N.3?
1452	D.VII層	深鉢	地文：燃や文化	内面：ナガキ	N.3
1453	D.VII層	深鉢	地文：燃や文化	内面：ナガキ	N.3
1454	D.VII層	深鉢	地文：燃や文化	内面：ナガキ	N.3

固有名	出土場所	器種	文様の特徴
1705 EWⅣ層	注口土器	口縁：波状（4重筋） 槌目：立筋・斜筋・列突（笠筋） 内面：ナデ	三 6
1706 EWⅣ層	白付鉢	口縁：波状・斜筋・斜筋・列突（笠筋） 横縁：R筋 内面：波状透（3重筋） 内面：ナデ	三 2
1707 EWⅣ層	白付鉢	底部：区画：深筋 内面：浅筋 内面：内筋（4重筋） 内面：ナデ	三 2
1708 EWⅣ層	深鉢	深鉢 内面：ナキ	三 2
1709 EWⅣ層下部	白付鉢	ニニチュア 内外筋 内面：ナデ	三 3
1710 EWⅣ層	白付鉢	縦縁：L？ 内面：ナデ	三 3
1711 豊	要	有孔穿孔付鉢？ 口縁：小孔（5重筋） 上縁：波状（4重筋） 内面：ミガキ 内外底色変形（無料透？）	三 2
1712 EWⅣ層	鉢	L縁：内縫記序 内面：ミガキ 内面：ナデ 花田寺字光	三 3
1713 EWⅣ層	浅鉢	内外筋ナギテ文 波状 内面：ミガキ	三 2
1714 EWⅣ層	盤	内縫口縁：2重筋 形態：寶珠山形透（波筋？） 横縁：R筋 内面：ミガキ 内外底色変形	三 2
1715 EWⅣ層	深鉢	「横山」山形透（波筋？）	三 2
1716 EWⅣ層	深鉢	捺縁：波筋 縮文：R筋 内面：ナキ 干	三 2
1717 EWⅣ層	深鉢	捺縁：波筋 縮文：R筋 手縫：波筋？ 内面：ミガキ	三 2
1718 EWⅣ層	盞？	1重？ 2段？ 波縁：波筋 線文：波筋（4重筋？） 手縫：波筋（4重筋？） 内面：ミガキ	三 2
1719 EWⅣ層	深鉢	捺縁：波筋+波筋（波筋？） 伸筋：波筋（波筋？） 内面：ナデ	三 2
1720 EWⅣ層	深鉢	捺縁：波筋（太・丸） 内面：ナデ	三 b
1721 EWⅣ層	深鉢	捺縁：波筋 縮文：R筋 手縫：波筋 内面：ミガキ	三 2
1722 EWⅣ層	深鉢	捺縁：波筋（人） 縮文：？ 手縫：？ 内面：ミガキ 施土：金雲母 器内塵純	三 2
1723 EWⅣ層	鉢	捺縁：波筋 縮文：？ 内面：ミガキ	三 2
1724 EWⅣ層	深鉢	1重波？ 波筋文？ 内面：ナデ	三 2
1725 EBⅣ層	深鉢	口縁：ミガキ無文 直縁：直縁 縮文：R筋 手縫：波筋 内面：ミガキ	三 3
1726 EVⅣ層中窓	深鉢	縮文：R筋 内面：ナキ・ナデ	三 3
1727 EVⅣ層中窓	深鉢	縮文：L筋 内面：ナデ	三 2
1728 EVⅣ層中窓	深鉢	縮文：L筋 内面：ナデ ミガキ	三 2
1729 EWⅣ層	深鉢	捺縁：波筋文 R筋 縮文：ナデ	三 2
1730 EWⅣ層上部	深鉢	地文：横山伏狹葉文 内面：ナデ・ミガキ	三 2
1731 EWⅣ層中窓	深鉢	捺縁：R筋（4重筋？） 伸筋は波筋山形？ 内面：ナデ	三 2
1732 EWⅣ層	深鉢	捺縁：波筋 縮文：波筋 内面：ナデ	三 2
1733 EWⅣ層	深鉢	捺縁：波筋 縮文：波筋+斜突刃 内面：ナデ	三 2
1734 EWⅣ層	深鉢	口縁：波筋 縮文：波筋（人） 内面：ナデ	三 2
1735 EWⅣ層下部	深鉢	捺縁：波筋 縮文：波筋 内面：ナデ	三 2
1736 EWⅣ層	深鉢	1重波？ 波縫：波縫 線文：波縫+手縫波空列 内面：ナデ	三 2
1737 EWⅣ層下部	深鉢	捺縁：波筋 縮文：波筋+斜突刃 内面：ナデ	三 2
1738 EWⅣ層	深鉢	捺縁：波筋 縮文：R筋 内面：ナデ	三 2
1739 EWⅣ層	深鉢	捺縁：波筋 縮文：？ 内面：ナデ	三 2
1740 EWⅣ層	深鉢	捺縁：波筋 縮文：波筋（R筋） 内面：ナデ	三 2
1741 EWⅣ層	深鉢	地文：波筋：半竹管（波筋）による断筋状突起？ 捺縁：波筋 内面：ナデ	三 2
1742 EWⅣ層上～中部	深鉢	口縁：波筋 細縫：波筋 内面：ナデ	三 2
1743 EWⅣ層上～中部	深鉢	1重波？ 波縫：波縫 線文：波縫+手縫波空列 内面：ナデ	三 2
1744 EWⅣ層	深鉢	捺縁：波筋 細縫：波筋（R筋） 口縫波空列（波筋） 内面：ミガキ 内外底色変形？	三 2
1745 EWⅣ層	深鉢	捺縁：波筋 細縫：波筋（R筋） 内面：ミガキ	三 2
1746 EVⅣ層	深鉢	捺縁：波筋 細縫：波筋（R筋） 内面：ナデ	三 2
1747 EVⅣ層	深鉢	山形山窓空穴：波筋 細縫：波筋 内面：ナデ	三 2
1748 EWⅣ層	深鉢	捺縁：波筋 細縫：波筋（R筋） 内面：ミガキ 施土：波筋	三 2
1749 EWⅣ層	深鉢	捺縁：波筋 細縫：波筋（R筋） 内面：ミガキ 施土：波筋	三 2
1750 EWⅣ層	深鉢	地文：ミガキ無文 波筋 細縫：波筋 内面：ミガキ 施土：波筋	三 2
1751 EHⅣ層中窓	深鉢	地文のみ？ S字状波筋文？ 内面：ナデ 施土：波筋	三 2
1752 EHⅣ層中窓	深鉢	地文：S字状波筋文？ 内面：ミガキ 施土：波筋（波筋）	三 2
1753 EWⅣ層	深鉢	地文：ミガキ無文？ 内面：ミガキ・ナデ 施土：波筋（波筋）	三 2
1754 EWⅣ層下	深鉢	地文：ミガキの無文？ 内面：ミガキ・ナデ 施土：波筋（波筋）	三 2

国語名	出上場式	説	文獻的附註	分類
1905 G III 11 遠	遠林	口説：山形 島嶽：深遠 横文：LR 内面：ミガキ	3 c 2	
1906 G III 11 遠	遠林	口説：人山山形起？ 区画：島嶽：深遠：北極：横文：LR (0段多義) 内面：ミガキ	3 c	
1907 G III 11 遠	遠林	口説：山形起？ (大・圓孔) 区画：島嶽：深遠 横文：LR (0段多義) 内面：ミガキ	3 c	
1908 G III 11 遠	遠林	口説：山形起？ (大・圓孔) 区画：島嶽：深遠 横文：LR 内面：ミガキ	3 c	
1909 G III 11 遠中福	遠林	口説：人山山形起？ (大・下限) (圓孔) 区画：島嶽：深遠 横文：LR 手法：豊潤？ 内面：ナデ 内外両入付音	3 c	
1910 G III 11 遠	遠林	口説：人山山形起？ (大・下限) (圓孔) 区画：島嶽：深遠 横文：LR 手法：豊潤？ 内面：ナデ 金當	3 c	
1911 G III 11 遠上高	遠林	口説：山形起？ (大・圓孔) 区画：島嶽：深遠 横文：LR 手法：豊潤？ 内面：ミガキ	3 c	
1912 G III 11 遠	遠林	口説：山形起？ (大・圓孔) 区画：島嶽：深遠 横文：LR 手法：豊潤？ 内面：ミガキ	3 c	
1913 G III 11 遠	遠林	口説：深遠 気息：深遠：氣息 横文：LR 手法：充吸？ 文獻：ミハシ 内面：ミガキ	3 c	
1914 G III 11 遠	遠林	口説：深遠 気息：深遠 横文：LR 手法：充吸？ 文獻：ミハシ 内面：ミガキ	3 c	
1915 G III 11 遠	遠林	口説：深遠 気息：深遠 横文：LR 手法：充吸？ 文獻：ミハシ 内面：ミガキ	3 c	
1916 G III 11 遠	遠林	口説：深遠 + 深遠 + 略松交合 横文：沈遠 横文：LR 手法：充吸？ 文獻：ミハシ 内面：ミガキ	3 c	
1917 G III 11 遠	遠林	口説：深遠 + 深遠 + 略松交合 (ひねり) 横文：沈遠 横文：LR 手法：充吸？ 文獻：ミハシ	3 c	
1918 G III 11 遠	遠林	口説：子音起？ (上唇起) 横文：沈遠 横文：LR ? 手法：? 内面：ミガキ	3 b	
1919 G III 11 遠	遠林	口説：深遠 気息：深遠 + 気息 横文：沈遠 横文：LR 手法：充吸？ 内面：ミガキ 雷門の色赤處	3 b	
1920 G III 11 遠	遠	音	3 b	
1921 G III 11 遠	遠林	口説：深遠 (微) + (足音) (内脚的) 横文：LR 手法：充吸 内面：ミガキ ナデ	3 b	
1922 G III 11 遠	遠林	口説：深遠 気息：深遠 + 気息 横文：沈遠 横文：LR 手法：充吸 内面：ナデ	3 a	
1923 G II 11 遠	遠林	ニニアア 横文：LR 内面：ナデ	3	
1924 G IV 11 遠	遠林	口説：R I 内面：ナデ ミガキ	?	
1925 G IV 11 遠	遠林	口説：小字起？ (上唇起) 横文：沈遠 横文：LR 内面：ミガキ	?	
1926 G IV 11 遠	遠	音	?	
1927 G III 11 遠	遠	音	?	
1928 G IV 11 遠	遠	音	?	
1929 G IV 11 遠	遠	音	?	
1930 G III 11 遠	遠林	口説：深遠 + 気息 横文：沈遠 横文：LR 手法：充吸？ 文獻：黒茶文 古文	3 c	
1931 G III 11 遠	遠林	口説：深遠 + 気息 (一唇起) 横文：沈遠 横文：LR 手法：充吸？ 文獻：黒茶文 古文	3 c	
1932 G III 11 遠	遠林	口説：深遠 + 気息 (一唇起) 横文：沈遠 横文：LR 手法：充吸？ 文獻：黒茶文 古文	3 c	
1933 G III 11 遠	遠林	口説：深遠 + 気息 (一唇起) 横文：沈遠 横文：LR 手法：充吸？ 文獻：黒茶文 古文	3 c	
1934 G III 11 遠	遠林	口説：深遠 + 気息 (一唇起) 横文：沈遠 横文：LR 手法：充吸？ 文獻：黒茶文 古文	3 c	
1935 G III 11 遠	遠林	口説：深遠 + 気息 (一唇起) 横文：沈遠 横文：LR 手法：充吸？ 文獻：黒茶文 古文	3 c	
1936 G IV 11 遠	遠林	口説：深遠 + 気息 (一唇起) 横文：沈遠 横文：LR 手法：充吸？ 文獻：黒茶文 古文	3 c	
1937 G V 11 遠	遠林	口説：深遠 + 気息 (一唇起) 横文：沈遠 横文：LR 手法：充吸？ 文獻：黒茶文 古文	3 c	
1938 G III 11 遠	遠林	口説：深遠 + 気息 (一唇起) 横文：沈遠 横文：LR 手法：充吸？ 文獻：黒茶文 古文	3 c	
1939 G II 11 遠	遠	音	?	
1940 G III 11 遠	遠	音	?	
1941 G III 11 遠	遠	音	?	
1942 G IV 11 遠	遠	音	?	
1943 G IV 11 遠	遠	音	?	
1944 G III 11 遠	遠林	口説：深遠 + 気息 横文：沈遠 + 気息 横文：? 内面：ナデ 斧上：许多	3 c	
1945 G II 11 遠	遠	音	?	
1946 G II 11 遠	遠	音	?	
1947 G III 11 遠	遠	音	?	
1948 G IV 11 遠	遠	音	?	
1949 G III 11 遠	遠	音	?	
1950 G III 11 遠	遠	音	?	
1951 G II 11 遠	遠	音	?	
1952 G II 11 遠	遠	音	?	
1953 G II 11 遠	遠	音	?	
1954 G III 11 遠	遠	音	?	

分類		文様の特徴	
出土地点	器種	説明	参考文献
1955年 G.H.III等	漆杯	形状：ループ文 模文：R.L (段落多) 内面：ナデ 基上：施底	1
1956 G.H.II等	漆杯	模文：R.L.R (羽状) 体側：ループ文 内面：ナデ 斜土：施底	1
1956 G.H.II等	漆杯	指摘：花瓶 模文：I.R.? (段落多?) 体側：ループ文 内面：ナデ カギ	N.3
1957 H.V.III等 中部	漆杯	品目：花瓶 模文：I.R.? (段落多?) 体側：ループ文 手把：施底？ 内面：ミガキ	N.3
1959 H.V.III等	漆杯	口縁：小足型 装飾：施茶葉 精工：施底 (施底付)？ 内面：ナデ	F.3?
1960 H.V.III等	漆杯	口縁：山形 (波状) 装飾：施茶葉 (波状) 模文：施茶葉 L.内面：ミガキ	N.3
1961 H.V.III等 下部	漆杯	口縁：山形 (波状) 装飾：施茶葉 (波状) 模文：施茶葉 L.内面：ミガキ	N.3
1962 H.V.III等	漆杯	指摘：花瓶 模文：R.? (不規な網目) 体側：ループ文 内面：ミガキ	N.3
1963 H.V.III等	漆杯	指摘：花瓶 模文：R.? (不規な網目) 体側：ループ文 内面：ミガキ	N.3
1964 H.V.III等	漆杯	口縁：山吹吹き 地面：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.3
1965 H.V.III等	漆杯	口縁：山吹吹き 地面：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.3
1966 H.V.III等 中部	漆杯	口縁：山吹吹き 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.2?
1967 H.V.III等	漆杯	口縁：2重巻 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.2?
1968 H.V.III等	漆杯	口縁：波状 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.2?
1969 H.V.III等	漆杯	口縁：2重巻 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.2?
1970 H.V.III等 下部	漆杯	口縁：波状 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.2?
1971 H.V.III等	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.2?
1972 H.V.III等 下部	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.2?
1973 H.V.III等	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.2?
1974 H.V.III等	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.2?
1975 H.V.III等	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.2?
1976 H.V.III等	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.2?
1977 H.V.III等	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.1
1978 H.V.III等	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.1
1979 H.V.III等 上部	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.1
1980 H.V.III等	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.1
1981 H.V.III等	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.1
1982 H.V.III等	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.1
1983 H.V.III等	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.1
1984 H.V.III等	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.1
1985 H.V.III等	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.1
1986 H.V.III等 中部	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.1
1987 H.V.III等	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.1
1988 H.V.III等	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.1
1989 H.V.III等	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.1
1990 H.V.III等	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.1
1991 H.V.III等	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.1
1992 H.V.III等	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.1
1993 H.V.III等	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.1
1994 H.V.III等	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.1
1995 H.V.III等	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.1
1996 H.V.III等	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.1
1997 H.V.III等	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.1
1998 H.V.III等	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.1
1999 H.V.III等	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.1
2000 H.V.III等	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.1
2002 H.V.III等	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.1
2003 H.V.III等	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.1
2004 H.V.III等	漆杯	口縁：花瓶 構造：施茶葉 (波状) +施茶葉 (波状) 模文：I.R.手把：施茶葉	N.1

部族No.	日本地名	路線	分類
2155	LII 厚木原	深林	口輪：山形突起。农耕：尖列。属文：S字状地脉原生文。内面：ミガリ。施上：施地。
2156	LII 厚木原	深林	口輪：奥輪：浅沟：地脉：属文：梯形。属文：S字状地脉原生文。内面：ミガリ。施上：施地。
2157	LII 厚木原	深林	口輪：深谷：升段：升段：升段：属文：梯形。属文：S字状地脉原生文。内面：ミガリ。施上：施地。
2158	LII 厚木原下部	竹林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：梯形。属文：S字状地脉原生文。内面：ミガリ。施上：施地。
2159	MII 滝	深林	口輪：山形突起（深谷带）（梯形）。属文：梯形：龙骨（甲） 内面：ナナデ
2160	MII 滝	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2161	MII 滝	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2162	MII 滝	深林	口輪：深谷：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2163	MII 滝	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2164	MII 滝	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2165	MII 滝	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2166	MII 滝	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2167	MII 滝下部	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2168	NII 山原	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2169	NII 山原下部	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2170	NII 山原	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2171	NII 山原下部	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2172	NII 山原下部	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2173	OII 河	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2174	OII 河	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2175	OII 河	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2176	C[K]C トレ	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2177	C[K]C トレ	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2178	C[K]C トレ	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2179	D[6] トレ 0 頂	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2180	C[K]C トレ	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2181	C[K]B トレ 0 頂	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2182	C[K]C トレ	深林	口輪：山形突起（下部）（梯形）：属文：梯形。属文：L.R. 子法：内面：ミガキ
2183	C[K] トレ	深林	口輪：山形突起（下部）（梯形）：属文：梯形。属文：L.R. 子法：内面：ミガキ
2184	C[K] トレ 0 頂	深林	口輪：山形突起（下部）（梯形）：属文：梯形。属文：L.R. 子法：内面：ミガキ
2185	C[K] ト	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2186	C[K] トレ	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2187	C[K] トレ 0 頂	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2188	C[K]B トレ	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2189	C[K] トレ 0 頂	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2190	C[K] ト雷下部	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2191	C[K] ト雷	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2192	C[K]A ト雷	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2193	C[K] ト雷	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2194	C[K] 中原上部	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2195	C[K] 中原下部	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2196	C[K]A ト雷	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2197	C[K]A ト雷下部	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2198	C[K] ト雷	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2199	C[K] ト雷	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2200	D[K] ト雷 0 頂	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2201	C[K]C ト雷	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2202	C[K]A ト雷	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2203	C[K]C ト雷	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ
2204	C[K] 中央西下部	深林	口輪：升段：升段：升段：升段：升段：属文：ナナデ

箇号	用法	語義	文体の特徴	分類
2205 C R 0 暫	添註	接頭・接尾：添註：格子註：口語語も施文） 條文：LR 内面：ナデ		II.4
2206 C R 0 景	添註	接頭・接尾：景註：格子註：口語語も施文） 條文：LR 内面：ナデ		II.4
2207 C R 0 景 II 暫	添註	接頭・接尾：景註：格子註：口語語も施文） 條文：LR 内面：ナデ		II.4
2208 C R 0 トレ	添註	接頭・接尾：景註：格子註：口語語も施文） 條文：LR ? 内面：ナデ		II.4
2209 D R 5 トレ 0 暫	添註	接頭・接尾：景註：格子註：口語語も施文） 條文：LR ? 内面：ナデ		II.4
2210 C R 0 トレ	添註	接頭・接尾：景註：格子註：口語語も施文） 條文：LR ? 内面：ナデ		II.4
2211 C R 0 トレ 0 暫	添註	接頭・接尾：景註：格子註：口語語も施文） 條文：S子叙述語文 内面：ナデ 暫注：ナデ		II.2
2212 C R 0 トレ	添註	接頭・接尾：景註：格子註：口語語も施文） 條文：S子叙述語文 内面：ナデ 暫注：ナデ		II.2
2213 C R 1 0 トレ 0 暫	添註	接頭・接尾：景註：格子註：口語語も施文） 條文：S子叙述語文 内面：ナデ 暫注：ナデ		II.2
2214 C R 1 0 トレ 0 暫	添註	接頭・接尾：景註：格子註：口語語も施文） 條文：S子叙述語文 内面：ナデ 暫注：ナデ		II.2
2215 D R 6 トレ 1 暫	添註	接頭・接尾：景註：格子註：口語語も施文） 條文：ナデ		II.2
2216 C R 1 3 トレ 0 暫	添註	接頭・接尾：景註：格子註：口語語も施文） 條文：S子叙述語文 内面：ナデ 暫注：ナデ		II.2
2217 A K	付註	脚注：海ナナデ 内面：ナデ 十観品子		III?
2218 B R 5 トレ 0 暫	添註	接頭・接尾：景註：格子註：口語語も施文） 條文：R L 手法：ナダ？ 内面：ナデ		V 1
2219 B K	付註	脚注：海ナナデ 内面：ケズリ 1 A K		III 1?
2220 A R	添註	接頭・接尾：景註：口語語も施文） 條文：LR ? 内面：ナダ		I
2221 A K	添註	脚注：景註：口語語も施文） 條文：(口語内註：立場注) 割安 内面：ナデ		I
2222 A K	添註	脚注：景註：口語語も施文） 内面：ナデ 新ナデ 暫注：赤褐色粒		I

石綿観察表

順番	出土地点/部位	分類	破損	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
104	RA 0 3 理土上部	I 1 b		2.4	1.4	0.3	0.76	黒曜石	
105	RA 0 3 理土中部	I 1 b	D	2.2	(1.4)	0.3	0.72	黒曜石	
106	RA 0 3 理土下部	I 1 b		2.5	1.4	0.3	0.67	黒曜石	
107	RA 0 3 理土上部	I 1 b		2.2	1.2	1.3	0.72	黒曜石	尖入部浅い
108	RA 0 3 理土上部	I 1 b		2.2	1.2	0.3	0.64	黒曜石	
109	RA 0 3 理土下部	I 1 b	A 2	2	1.3	0.3	0.65	黒曜石	破損部再調整?
110	RA 0 3 理土中部	I 1 b		1.9	1.2	0.3	0.65	黒曜石	
111	RA 0 3 理土上部	I 1 b		1.7	1.3	0.3	0.62	黒曜石	
112	RA 0 3 理土中部	I 1 b		1.8	1.4	0.4	0.8	黒曜石	
113	RA 0 3 理土上部	I 1 b	D	1.9	(1)	0.3	0.53	黒曜石	
114	RA 0 3 理土中部	I 1 b		1.6	1.3	0.2	0.35	黒曜石	
115	RA 0 3 理土下部	I 1 b	A 1	1.6	(1.3)	0.3	0.48	先端部僅かに破損	
116	RA 0 3 理土上部	I 1 b	D	1.6	1.2	0.3	0.44	黒曜石	僅かに破損
117	RA 0 3 理土上部	I 1 b	E 2	(1.3)	(1.2)	0.2	0.39	黒曜石	
118	RA 0 3 理土中部	I 2 a	D	1.3	1.1	0.3	0.45	黒曜石	
119	RA 0 3 理土上部	H 2	A 1 ?	1.6	1.7	0.5	1.4	黒曜石	破損部再調整?
120	RA 0 3 理土上部	III 1		1.8	1.4	0.5	1.02	黒曜石	
121	RA 0 3 理土上部	N 1		2.7	1.2	0.5	1.03	黒曜石	
122	RA 0 3 理土最下部	I 1 b	D	2.5	(1.4)	0.3	0.77	頁岩	
123	RA 0 3 理土中部	I 1 b	A 2	(2)	1.4	0.3	0.65	頁岩	
124	RA 0 3 理土中部	I 1 b		2.1	1.2	0.3	0.62	頁岩	
125	RA 0 3 理土下部	I 1 b		1.9	1.2	0.3	0.44	頁岩	
126	RA 0 3 理土中部	I 1 b		1.6	1.3	0.3	0.49	頁岩	
127	RA 0 3 理土上部	I 1 b		1.6	1.1	0.3	0.39	頁岩	先端部僅かに破損 アスファルト
128	RA 0 3 理土下部	I 1 b		1.6	1.2	1.3	0.41	頁岩	
129	RA 0 3 理土中部	I 1 b	A 1	1.3	1	0.3	0.26	凝灰岩	非対称 先端部僅かに破損
130	RA 0 3 理土下部	I 1 b		2.1	1.4	0.4	1.08	凝灰岩	全体摩耗
131	RA 0 3 理土上部	I 1 a	A 1 D	1.6	(1.3)	0.3	0.56	頁岩	
132	RA 0 3 理土下部	I 2		2.1	1.5	0.4	1.18	頁岩	
133	RA 0 3 理土最下部	I 1 a	A 1	2.7	1.6	0.6	2.02	頁岩	先端部僅かに破損
134	RA 0 3 理土	I 1 a	A 1	(2.6)	2.4	0.6	3.54		
135	RA 0 3 床面	I 1 a	A 1	3	1.9	0.5	1.8	頁岩	
139	RA 0 4 理土下部	I 1 b		1.8	1.2	0.3	0.61	黒曜石	
206	RA 0 4 理土下部	III 1		2	1.5	0.6	1.47	黒曜石	
250	RA 0 5 理土下部	I 2 b	A 1	1.8	1.3	0.3	0.67	頁岩	
251	RA 0 5 理土下部	I 2 b	A 1 D	2.2	(1.7)	0.5	1.28	頁岩	
271	RA 0 6 仰臥床面	I 1 b	A 1	2	1.5	0.3	0.59	頁岩	アスファルト
272	RA 0 6 理土	I 1 b		2.9	1.7	0.3	1.05	頁岩	
273	RA 0 6 床面	I 1 a		2.9	1.9	0.6	3.14	玉ずい	
274	RA 0 6 理土	III 1	A 2	(2.4)	1.9	0.7	2.79	頁岩	先端部僅かに破損
275	RA 0 6 床面	III 1	A 1	(1.7)	1.5	0.4	1.04	頁岩	
276	RA 0 6 床面	I 1 a		2.1	1.4	0.7	1.66	黒曜石	等な調整 木製品?
377	C 2 - P 7 7 理土	III 1		1.7	1.2	0.2	0.35	黒曜石	
378	C 2 - P 7 7 理土	III 2		1.7	1.4	0.4	0.84	達賀頁岩	左右非対称
387	B - P 1 5 理土	I 1 b	A 2	(2.2)	1.1	0.2	0.52	頁岩	
419	C 2 - P 6 4 理土	I 1 a	D	3.7	1.8	0.6	0.6	ホルンフェルス	基部僅かに破損
424	C - P 2 墓土	I 2 b		1.3	1.2	0.3	0.37	黒曜石	再加工品?
500	R D 0 1 理土下部	N 1		2.6	1.3	0.7	1.43	めのう	
501	R D 0 1 理土下部	N 2		2.45	1.1	0.6	1.05	ホルンフェルス	美部欠損
502	R D 0 1 理土	N 2		2.4	1.1	0.5	0.82	頁岩	アスファルト
503	R D 0 1 理土	N 1		2.5	0.9	0.5	0.81	頁岩	全体摩耗
504	R D 0 1 理土	N 2	D 1	2.3	1.05	0.6	1.03	頁岩	基部欠損
505	R D 0 1 理土下部	N 1	D 1	(3.2)	1.3	0.7	(1.8)	ホルンフェルス	美部欠損
506	R D 0 1 理土下部	V	C' 2	(2.5)	(1.3)	0.3	(0.62)	頁岩	
640	R D 2 2 理土	II 1		1.7	0.9	0.3	0.43	黒曜石	側部に加工
651	R D 2 2 理土	I 1 b	D	2.4	(1.6)	0.3	0.7	黒曜石	
655	R D 3 0 墓土	III 1		2.8	1.7	0.6	2.51	頁岩	厚手
663	R D 3 1 墓土	II 1		2.8	1.5	0.5	1.86	頁岩	
665	R D 3 2 墓土	I 1 b	D	2.3	(1.3)	0.2	0.52	頁岩	
666	R D 3 2 墓土	I 1 a?	D 2	2.4	(1.6)	0.3	0.98	頁岩	
667	R D 3 2 墓土	III 1		2.5	2	0.9	3.43	黒曜石	厚手

区段No.	出土地点/層位	分類	破損	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
684	R D 3 6 地下土	I 1 a		2.5	1.7	0.5	1.81	砂岩	
690	R D 4 1 塗土	I 2 b		1.1	1.5	0.2	0.31	黒曜石	破損品の再加工?
699	R D 4 1 塗土	II 1		2.4	1.5	0.5	1.33		
715	R D 4 4 塗土	I 1 a		2.2	1.7	0.8	2.17	頁岩	厚手
716	R D 4 4 塗土	II 1		3.1	1.8	0.6	2.97	頁岩	
782	R D 5 1 塗土	I 1 b		1.8	1.3	0.3	0.51	黒曜石	
825	C 2 - P P G 8 - 6 地下土	I 2 b		1.2	1.1	0.2	0.22	黒曜石	
826	R D 3 9 塗土	I 1 a		2.1	1.8	0.3	1.45	砂岩	
827	R D 3 9 他層土	I 1 a		2.8	1.6	0.4	1.5	砂岩	
828	R D 5 7 塗土	I 1 b	A 1	3	2.1	0.5	3.36	頁岩	大型
829	R D 3 9 他層土	I 1 a		2.3	1.7	0.5	1.54	砂岩	
830	R D 3 9 他層土	III 1		2.2	1.2	0.4	0.78	頁岩	周辺部のみ加工
831	R D 3 9 他層土	II 1 ?		2	1.4	0.8	1.93	黒曜石	尖削部無し 未製品?
850	R D 7 9 地上	I 1 b		3.4	1.55	0.9	2.19	凝灰岩	
861	C 1 - P P 1 層上	I 1 a		3.4	1.6	0.4	1.66	頁岩	造構内 アスファルト
861	R D 8 6 層上	I 1 b	D	2.5	(1.4)	0.4	1.11	頁岩	基部僅かに破損 先端部摩耗
2223	H II 層	I 1 a		1.6	0.8	0.2	0.23	黒曜石	
2224	D III II 層	I 1 a		1.7	1.2	0.3	0.54	黒曜石	
2225	E II II 層	I 1 b		1.7	1.4	0.3	0.39	黒曜石	
2226	F III - IV II 層	I 1 a		1.7	1.35	0.2	0.45	黒曜石	
2227	D II II 層 (1.9)	I 1 a		1.8	1.5	0.35	0.46	黒曜石	
2228	L IV II 層上部	I 1 a		2.1	1.5	0.6	1.44	黒曜石	厚手
2229	I IV II 層	I 1 a		2.4	1.9	0.9	2.65	黒曜石	厚手
2230	K III II 層	I 1 b	A 4	1.4	1.8	0.35	0.64	黒曜石	
2231	D IV II 層 (6)	I 1 a		1.3	1	0.3	0.21	頁岩	
2232	C III II 層下部	I 1 a		3.32	1	0.4	1.23	頁岩	
2233	C III II 層	I 1 a		1.7	1.2	0.3	0.39	特殊頁岩	
2234	G V II 層上部	I 1 a		1.7	1.2	0.2	0.36	頁岩	
2235	E III II 層 (1.4)	I 1 a		1.8	1.4	0.3	0.55	頁岩	
2236	J II II 層	I 1 a		1.8	1.6	0.3	0.54	頁岩	
2237	D III II 層	I 1 a		2.1	1.3	0.3	0.45	頁岩	
2238	G V II 層	I 1 a		2.5	1.5	0.3	0.85	頁岩	
2239	K IV II 層	I 1 a		2.1	1.5	0.4	0.9	頁岩	先端球状 再加工品?
2240	B IV II 層	I 1 a		2.8	1.57	0.38	1.13	赤色頁岩	先端円形
2241	G V II 層	I 1 a	A 1	2.1	1.8	0.4	0.82	頁岩	アスファルト
2242	J III II 層	I 1 a		1.4	1.9	0.5	1.7	頁岩	再加工品
2243	C 区 1 1 トレ 0 斷	I 1 b	A 2	2.4	2	0.4	1.25	頁岩	
2244	J III II 層	I 1 a		2.5	(1.7)	0.3	1.09	頁岩	
2245	C III II 層下部	I 1 a		2.9	1.9	0.6	2.77	砂岩	
2246	H III II 層	I 1 a		3.5	1.6	0.6	2.78	頁岩	
2247	D IV II 層洗土 F	I 1 a		3.3	1.4	0.3	1.22	頁岩	
2248	C IV II 層	I 1 a		3.5	1.9	0.8	3.76	頁岩	
2249	D III II 層	I 1 a		3.1	1.8	0.7	2.53	頁岩	
2250	J III II 層	I 1 a		3.2	1.9	0.45	2.27	頁岩	
2251	F IV II 層下部	I 1 a	A 2	(4.4)	1.6	0.5	3.26	頁岩	
2252	B V II 層	I 1 a		4.3	2.1	0.6	3.88	頁岩	
2253	D III II 層	I 1 a		4.55	1.9	0.7	4.9	頁岩	
2254	G III II 層下部	I 1 a		4.9	2.3	0.6	4.61	頁岩	鶴形
2255	L IV II 層	I 1 b		1.3	1	0.3	0.23	黒曜石	
2256	D III II 層 (2)	I 1 b		1.4	1.05	0.35	0.42	黒曜石	
2257	J III II 層	I 1 b		1.6	1.3	0.3	0.39	黒曜石	基部すぼむ
2258	J V II 層	I 1 b	D 4	1.9	1.1	3.5	0.37	黒曜石	
2259	F IV II 層	I 1 b	D 4	2	1.15	0.3	0.5	黒曜石	非対称 再加工?
2260	J IV II 層	I 1 b		2.1	1.5	0.2	0.51	黒曜石	
2261	C III II 層	I 1 b		2.2	1.75	0.3	0.71	黒曜石	
2262	I V II 層	I 1 b		2.4	1.65	0.35	0.62	黒曜石	
2264	E III II 層	I 1 b	B 4	1.3	1.5	0.28	0.46	黒曜石	
2265	D 区 1 1 トレ 0 上部	I 1 b		1.5	1.2	0.3	0.28	玉ずい	
2267	L III II 層	I 1 b		1.7	1.3	0.2	0.31	玉ずい	
2268	B IV II 層下部	I 1 b		1.8	1.3	0.3	0.62	頁岩	
2269	C V II 層	I 1 b		1.9	1.2	0.2	0.69	頁岩	
2270	D IV II 層	I 1 b		2.1	1.4	0.2	0.43	玉ずい	

番号	出土地点/層位	分類	破損	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
2271	A V II 層	I 1 b		2.7	1.2	0.3	0.57	頁岩	アスファルト付着
2272	A III - IV II 層	I 1 b		2.3	1.8	0.2	0.52	頁岩	
2273	H III II 層	I 1 b		2.7	1.6	0.3	0.58	頁岩	
2274	D III II 層	I 1 b		2.6	1.9	0.3	0.84	頁岩	
2275	G V II 層	I 1 b+		2.5	1.9	0.2	0.53	珠質頁岩	
2276	K IV II 層	I 1 b		3.2	1.2	0.4	1.17	頁岩	
2277	A VI II 層	I 1 b		2.7	1.9	0.5	2.09	頁岩	
2278	J III II 層	I 1 b		2.8	2	0.3	1.25	頁岩	
2279	I III II 層	I 1 b		3	1.6	0.2	0.6	頁岩	
2280	E III II 層	I 1 b		3.3	1.5	0.4	1.07	頁岩	アスファルト付着
2281	D III II 層	I 1 b		3.8	1.7	0.5	2.28	頁岩	
2282	H III II 層	I 1 b		4.1	1.8	0.5	3.27	頁岩	
2283	D IV II 層洗土下	I 1 b	D	4.7	(1.7)	0.7	3.64	頁岩	
2284	B IV II 層上部	I 2 a		1.2	1.1	0.25	0.31	黑曜石	周辺部のみ加工
2285	L III II 層	I 2 a	A 4 D	1.2	1.4	0.25	0.47	黑曜石	
2286	E VII II 層	I 2 a		1.3	1.3	0.3	0.35	黑曜石	
2287	E III II 層	I 2 a		1.3	1.6	0.3	0.52	黑曜石	
2288	G V II 層	I 2 a		1.5	1.4	0.3	0.38	頁岩	
2289	D III II 層	I 2 a		1.7	1.5	0.5	0.83	黑曜石	厚手
2290	E IV II 層	I 2 a		2.1	2	0.65	1.9	黑曜石	粗い加工 厚手
2291	E III II 層	I 2 a		1.6	1.6	0.3	0.51	頁岩	
2292	C IV II 層上部	I 2 a		1.6	1.5	0.3	0.46	頁岩	
2293	H V II 層下部	I 2 a		1.7	(1.5)	0.6	0.97	頁岩	厚手
2294	I III II 層	I 2 a	A 2	(1.7)	1.5	0.3	0.63	頁岩	
2295	J V II 層	I 2 a	A 1	(1.7)	1.7	0.4	0.89	頁岩	
2296	H VI II 層	I 2 a		2	1.9	0.2	0.53	頁岩	
2297	G V II 層	I 2 a		2	1.8	0.3	0.56	頁岩	
2298	C IX II 層	I 2 a		1.8	1.6	0.6	1.28	めのう	片面加工少
2299	I IV II 層上部	I 2 a		1.9	1.9	0.3	0.99	頁岩	
2300	K II II 層	I 2 a		2.5	2.3	0.7	3.01	頁岩	
2301	B 区 0 層	I 2 a	E	1.9	(1.2)	0.4	(0.7)	めのう	
2302	G V II 層上部	I 2 b		1	1	0.2	0.18	黑曜石	
2303	K V II 層	I 2 b		1.15	1.3	0.25	0.23	黑曜石	
2304	D V II 層下部	I 2 b		1.2	1.4	0.3	0.36	黑曜石	
2305	J IV II 層	I 2 b		1.2	1.2	0.3	0.29	黑曜石	
2306	H V II 層	I 2 b		1.75	1.55	0.3	0.4	黑曜石	
2307	B III II 層	I 2 b		1	1.3	0.2	0.21	土ずい	
2308	C IX II 層	I 2 b		1.5	1.3	0.4	0.57	頁岩	
2309	G III II 層	I 2 b		1.7	1.5	0.2	0.38		
2310	C N II 層	I 2 b		1.5	1.4	0.3	0.44	頁岩	
2311	H N II 層	I 2 b		1.6	1.4	0.2	0.32	頁岩	
2312	L III II 層下部	I 2 b		1.9	1.6	0.3	0.33		
2313	I IV II 層上部	I 2 b		1.9	1.8	0.2	0.34	頁岩	
2315	F V II 層	I 2 b		2.7	1.8	0.3	0.72	頁岩	
2316	I I II 層	I 2 b	A 1	(2.1)	1.9	0.4	1.19		
2317	H III II 層	H 1		1.9	0.85	0.3	0.36	黑曜石	
2318	G V II 層	H 1		1.8	1.05	0.4	0.69	黑曜石	
2319	F V II 層	H 1	D	1.8	1.3	0.4	0.7	黑曜石	
2320	G III II 層	H 1	A 1 ?	1.9	1.4	0.6	1.12	黑曜石	再加工?
2321	I IV II 層上部	H 1	D 4	1.9	1.6	0.6	1.49	黑曜石	製作時の破損
2322	H III II 層	H 1		2.15	1.7	0.4	1.12	黑曜石	
2323	B 区 II 層上部	H 1	D	2.7	1.6	0.3	0.93	黑曜石	
2324	L III II 層	H 1	A 1	(1.2)	(1)	0.2	0.31	頁岩	
2325	D III II 層	H 1	A 1	(1.8)	1.4	0.3	0.65	珠質頁岩	
2326	C 2 - PP 7 球土	H 1		2.1	1.4	0.6	1.66	黑曜石	厚手
2327	A V II 層	H 1		1.9	1.3	0.4	1.05	頁岩	
2328	F II II 層	H 1		2.3	1.2	0.3	0.77	頁岩	
2329	F N II 層	H 1		2.3	1.7	0.4	1.22	頁岩	
2330	B III II 層	H 1		2.7	2	0.6	2.48	頁岩	
2331	H III II 層	H 1		2.9	2.1	0.8	3.74	赤色頁岩	
2332	D III II 層	H 1		3.1	2.2	0.9	4.72	頁岩	
2333	D IV II 層洗土下	H 1		3.2	1.4	0.4	1.6	頁岩	

番号	出土地点/層位	分類	破損	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
2334	OⅣⅡ層	Ⅲ 1		3.18	1.6	0.47	2.03	頁岩	
2335	CⅢⅡ層	Ⅲ 1		3.8	1.6	0.7	3.7	ホルンフェルス	
2336	KⅤⅡ層	Ⅲ 1	A 2	4	2.25	0.5	5.86	蒙灰岩	
2337	IⅢⅡ層	Ⅲ 2		1.1	1.2	0.3	0.27	黒曜石	
2338	DⅣⅡ層	Ⅲ 2		1.45	1.3	0.2	0.35	黒曜石	
2339	JⅣⅡ層	Ⅲ 2		1.4	(1.3)	0.4	0.37	黒曜石	
2340	DⅣⅡ層	Ⅲ 2		1.5	1.5	0.35	0.53	黒曜石	
2341	CⅡⅡ層	Ⅲ 2		1.9	1.8	0.5	1.09	黒曜石	
2342	MⅢⅡ層	Ⅲ 2		2.1	1.9	0.7	2.08	黒曜石	厚手
2343	IⅢⅡ層	Ⅲ 2	A 4	1.6	1.7	0.7	1.55	黒曜石	厚手
2344	FⅢⅡ層	Ⅲ 2	A 1	1.6	(1.6)	0.4	0.95	頁岩	
2345	GⅢⅡ層	Ⅲ 2		1.7	1.8	0.4	1.05	頁岩	
2346	EⅢⅡ層	Ⅲ 2		1.8	1.7	0.5	1.22	頁岩	
2347	HⅢⅡ層	Ⅲ 2		2.1	1.8	0.6	2.03		
2348	FⅣⅡ層(5)	Ⅲ 2		2.5	(2.1)	0.6	2.98	頁岩	
2349	KⅣⅡ層	Ⅲ 1		1.7	1	0.3	0.6	黒曜石	
2350	B区Ⅱ層上部	Ⅲ 1		1.6	1.35	0.4	0.62	黒曜石	
2351	FⅣⅡ層上部	Ⅲ 1		1.8	1.35	0.5	1.03	黒曜石	
2352	FⅢⅡ層	Ⅲ 1		2.2	1.8	0.7	1.94	黒曜石	先端部鋭角 未製品?
2353	LⅡⅡ層	Ⅲ 1		2.3	1.1	0.3	0.88		
2354	IⅢⅡ層	Ⅲ 1		2	1.5	0.6	1.1	頁岩	
2355	C区1トロ0層	Ⅲ 1		2.1	1.8	0.7	1.63	頁岩	非対称
2356	FⅤⅡ層(14~15)	Ⅲ 1		2.5	1.7	1.4	1.74	赤色頁岩	
2357	EⅣⅡ層	Ⅲ 1		2.3	1.7	0.7	2.8	頁岩	
2358	CⅣⅡ層上部	Ⅲ 1		2.46	2.18	0.3	1.45	頁岩	縫隙部のみ加工
2359	EⅧⅡ層中部	Ⅲ 1		2.5	1.9	0.6	2.22	珪質頁岩	
2360	FⅧⅡ層	Ⅲ 1		2.5	2	0.7	2.97	頁岩	
2361	CⅨⅡ層上部	Ⅲ 1		2.6	2.1	0.9	4.22	頁岩	厚手
2362	KⅩ~ⅪⅡ層(6~8)	Ⅲ 1	A 1	3.1	2.2	0.7	3.24	黒曜石	先端部鋭角
2363	DⅤⅡ層	Ⅲ 1		3.3	2.2	0.6	3.18	頁岩	アスマカルト付岩
2364	DⅣⅡ層	Ⅲ 1		4.1	2.1	0.6	4.94	頁岩	
2365	GⅧⅡ層下部	Ⅲ 2		1.6	1.35	0.35	0.66	黒曜石	
2366	EⅧⅡ層中部	Ⅲ 2		1.6	1.5	0.4	0.68	黒曜石	
2367	HⅧⅡ層	Ⅲ 2		1.6	1.4	0.4	0.71	黒曜石	
2368	JⅢⅡ層	Ⅲ 2		1.65	1.7	0.3	0.65	黒曜石	非対称 未製品?
2369	FⅨⅡ層(7)	Ⅲ 2		1.7	1.6	0.6	1.38	黒曜石	厚手 先端部鋭角 未製品?
2370	IⅠⅡ層	Ⅲ 2		1.7	1.4	0.3	0.85	玉ずい	
2371	FⅨⅡ層上部	Ⅲ 2		1.6	1.5	0.3	0.72	頁岩	
2372	CⅩ~ⅪⅡ層	Ⅲ 2		1.8	1.6	0.6	1.92	頁岩	
2373	NⅢⅡ層下部	Ⅲ 2		1.9	(1.8)	0.4	1.67	玉ずい	
2374	HⅢⅡ層	Ⅲ 2		1.9	1.8	0.6	1.34	頁岩	
2375	KⅨⅡ層	Ⅲ 2		2.1	1.9	0.6	2.47	珪質頁岩	
2377	D区5トロ0層	Ⅲ 2	D	2.4	2.1	0.4	2.04		
2378	C区7トロ0層	Ⅲ 2		2.6	2.4	0.8	3.75	頁岩	やや厚手
2379	H区1層	Ⅲ 2		2.3	2.1	0.8	2.8	頁岩	先端部鋭角
2380	HⅦⅡ層	Ⅳ 1	A 1	1.75	1	0.3	0.36	黒曜石	
2381	EⅦⅡ層	Ⅳ 1	A 1 D	2.2	1.2	0.3	0.65	黒曜石	基部破損
2382	MⅨⅡ層	Ⅳ 1		1.3	0.9	0.2	0.38	珪質頁岩	
2383	B区2層	Ⅳ 2		2.1	1.1	0.3	0.52	頁岩	
2384	FⅩⅡ層	Ⅳ 2		2.2	1.1	0.3	0.54	頁岩	
2385	HⅩⅡ層	Ⅳ 2	D	3.3	1.1	0.5	1.64	頁岩	基部破損
2386	KⅨⅡ層	Ⅳ 1	D	3.16	1.97	0.5	1.68	頁岩	基部破損
2387	C区4トロⅢ層直上	Ⅳ 1		2	1.1	0.6	1.19	珪質頁岩	非対称
2388	EⅩⅡ層(2~3)	I 1 b		2	(1.4)	0.5	0.8	玉ずい	
2389	JⅩⅡ層	Ⅳ 5		2.5	0.9	0.4	0.83	頁岩	
2390	EⅩⅡ層	Ⅳ 5		3	1	0.4	1.17	頁岩	石錐?
2391	EⅪⅡ層	Ⅳ 5		2.7	1.1	0.3	0.75	頁岩	
2392	NⅢⅡ層下部	Ⅳ 6	D	3.9	1.5	0.3	2.02	頁岩	
2393	DⅥⅡ層	Ⅳ		1.7	1.9	0.6	1.71	黒曜石	
2447	KⅢⅡ層	Ⅳ 1	A 2	4.5	1.5	0.7	4.23	頁岩	石錐として内利用?

卷之三

測定番号	出土地点／層位	岩相	分類	形態	厚さ	重量	石質
326	B.3-P.2.5層土	不定形石器	I a 1	5.2	1.5	25.92	片岩
370	C.3-P.P1.8	磨石	I	12	9.3	1,359.7	片岩 片岩に嵌打痕
380	C.3-P.P1.8	磨石	I	11.8	9.3	6	973.28
381	C.3-P.P1.8	磨石	I	(23.3)	(3.9)	752.7	ホルンフェルス 片岩上 ツバメの巣跡?
386	C.3-P.P1.8	不定形石器	I a 2	2.4	3.5	7.86	片岩
389	C.2-P.P1.9層上	不定形石器	I b 2	1.8	2.2	0.6	片岩 片岩面下 縫合部
392	C.2-P.P2.4層上	磨石	I	7	5.4	3.2	163.6
404	C.2-P.P40+4層上	石塊	I	3.8	1.4	0.8	2.82
423	C.2-P.7.3層上	不定形石器	I a 1	1.6	2	1	4.42
425	C.4-P.1.7.7層上	石塊	A	(15.2)	(7.9)	1,456.6	片岩 片岩上 ツバメの巣跡?
429	C.K.P.17.8-17.9層+1.0.3	不定形石器	I a 1	3.6	1.7	1	5.51
441	R.D.9.9層+1.0.3	不定形石器	I b 3	2.7	0.7	0.7	片岩 片岩面下 ツバメの巣跡?
462	R.D.9.9層+1.0.3	石塊	B	(24.1)	(17.6)	(6.9)	N04 NO4 片岩 火熱で溶かした 溶結晶
463	R.D.9.9層+1.0.3	磨石	I	7.5	3.4	2.6	103.39
464	R.D.9.9層+1.0.3	磨石	I	10.15	7.25	6	707.52
465	R.D.9.9層+1.0.3	磨石?	I ?	(4.1)	(4.9)	(3.1)	片岩 片岩上 ツバメの巣跡?
488	R.D.0.9層上	磨石	I	9.3	8.8	6	698.79
490	R.D.0.9層上	不定形石器	I a 2	3.9	3.3	0.9	片岩 片岩上 ツバメの巣跡?
507	R.D.0.1期土	石塊	W ?	2.4	2.54	0.7	片岩 片岩面下 ツバメの巣跡?
574	R.D.0.2期+3層	四形	I	(6.4)	3.3	0.9	270.12
583	R.D.0.3期+3層	四形	I	6	3.5	2.5	65.11
584	R.D.0.3期+2.4層	帆石?	I	18	9.3	4.5	894.39
607	R.D.0.7層+1	帆石?	I	5.8	5.4	3.8	163.93
608	R.D.0.7層+1	帆石	I	11.5	4.8	3.5	277.13
629	R.D.0.7層+1	帆石	I	12.4	5.1	3.9	395.16
610	R.D.0.7層+1	帆石	I	6.4	6.2	4.6	234.64
611	R.D.0.7層+1	帆石	I	9.1	7.7	6.6	683.5
612	R.D.0.7層+1下部	帆石	I	7.7	7.3	6.6	538.15
613	R.D.0.7層+1	帆石	I	15.3	7.4	5	820.28
614	R.D.0.7層+1	帆石?	I	(27.5)	3.4	3.6	240.01
632	R.D.1.9層+1下部	帆石	I a 1	7.2	4.5	2.5	141.74
644	R.D.2.2期土	不定形石器	I a 2	3.4	0.8	5.8	片岩 片岩面下 ツバメの巣跡?
642	R.D.2.2期土	R.フレ	I a	2.8	2	0.8	3.88
643	R.D.2.2期土	石塊	I a	(3.2)	1.1	0.7	1.44
652	R.D.2.9層+	石塊	I	2.8	2	1.1	4.56
656	R.D.3.0層+	不定形石器	I a 1	4.6	3.75	1	60.26
657	R.D.3.0期土	帆石	I	6.8	3.5	2.4	71.63
664	R.D.3.2期土	帆石	I	6.4	4	2.4	103.01
682	R.D.8.0塊上	不定形石器	I a 1	2.2	3.4	0.9	6.39
688	R.D.3.7塊+	石塊	I a 3	2.9	2.8	0.9	5.59
700	R.D.4.1期土	不定形石器	I a 1	3.5	3.7	0.5	3.06
704	R.D.4.1期土	帆石?	I	6.3	2.3	0.7	10.99
702	R.D.4.1期土	帆石?	I	9.3	8.1	2.6	721.07
703	R.D.4.1期土	帆石?	I	10.8	9	7	1026.9
710	R.D.4.3塊上	不定形石器	I a 2	4.3	4.5	3.2	110.51
717	R.D.4.4塊+	石塊?	I ?	3.1	2.1	0.5	2.54
718	R.D.4.4塊+	R.フレ	I b	3.1	4	0.4	4.21
719	R.D.4.5塊土	帆石?	I b	2.2	4	1.3	18.36
732	R.D.4.5塊土	帆石?	I				

測量點番号	山土地名／場所	面積	長さ	幅	厚さ	重量	目次
733 R D 4.5 地上	砂石	I	12.5 ~	10.1	6	105.7	砂岩
734 R D 4.5 地上	砂石	I	13.4	1.3	0.3	247.9	花崗岩(標準)
750 R D 4.9 地上	不定形G器	I a	2	2.3	0.3	1.61	球窓内芯
751 R D 4.9 地上	R フレ	I a	6.6	2.4	0.6	2.99	片側加工 砂刃 清掃用
762 R D 5.0 地上	磨石	I	9.1	9.2	0.6	2.96	自然
763 R D 5.0 地上	不定形G器	I c	2	2.4	1.3	6.21	片側加工 砂刃 清掃用
768 R D 5.1 地上	四石	I a	3	1.6	0.5	1.64	頁岩
798 R D 5.6 地上 上部	不定形G器	I a	12	9.1	4	682.52	砂岩
832 R D 5.7 地上	小形磨石器	I a	1	3.9	0.6	5.82	頁岩
833 R D 5.7 地上	瓦	A	1	1.1	(4.8)	339.62	ティサイト 清掃用
838 R D 7.8 地上	不定形G器	I b	1	2.7	4.6	1.3	12.16 砂岩
861 R D 7.9 地上	不定形G器	I c	2	2.5	4.1	0.9	6.89 砂岩
882 R D 7.9 地上	小形磨石器	I a	2	(2.3)	1.6	0.3	0.85 磨石 清掃用 加工 清掃用相品?
874 R D 8 地上	砂石	I	8.5	7.3	5.4	509.56	頁岩
877 R F 0.2 地上 I	R フレ	I b	2	2.9	0.9	4.71	頁岩 ノック
2394 H H 地上	尖頭磨石器	I	2.1	1.2	0.8	1.88	頁岩
2395 E N H 地上	尖頭磨石器	I	2.2	1.7	0.7	2.92	頁岩
2396 C V H 地上	尖頭磨石器	I	2.4	1.7	0.5	2.04	頁岩
2397 L H 地上	尖頭磨石器	I	2.7	2.3	1.2	5.83	頁岩
2398 D H 地上	尖頭磨石器	I	2.9	1.8	0.8	4.19	頁岩
2399 J H 地上	尖頭磨石器	I	3	1.6	0.8	3.85	頁岩
2400 I V H 地上	尖頭磨石器	I	3	1.7	0.9	5.1	赤色頁岩
2401 L H 地上	尖頭磨石器	I	2.5	1.8	0.9	3.88	頁岩
2402 H V H 地上	尖頭磨石器	I	2.2	2.3	0.9	4.69	頁岩
2403 F V H 地上 下部	尖頭磨石器	I	2.7	1.9	0.7	3.75	頁岩
2404 H T H 地上	尖頭磨石器	I	2.8	2.3	1.2	6.32	頁岩
2405 G N H 地上	尖頭磨石器	I	3.2	2.3	0.8	6.91	赤色頁岩 清掃用
2406 G N H 地上 下部	尖頭磨石器	I	3.9	1.6	0.8	6.05	赤色頁岩
2407 C K 地上	尖頭磨石器	I	2	2.9	0.7	3.74	頁岩 ノック
2408 H V H 地上	尖頭磨石器	I	3.6	1.8	0.9	4.61	赤色頁岩
2409 C N H 地上	尖頭磨石器	I	3	(2.8)	0.7	6.38	頁岩
2410 F V H 地上 (1.4)	尖頭磨石器	I	3.9	2.8	0.9	9.32	赤色頁岩 ノック
2411 D H 地上 (1.9)	尖頭磨石器	I	2.4	1.9	1.2	6.13	頁岩
2412 G H 地上	尖頭磨石器	I	4	2.7	0.9	9.9	頁岩 清掃用
2413 G H 地上	尖頭磨石器	I	4	2.5	1.2	9.86	頁岩
2414 D H 地上 (1.9)	尖頭磨石器	I	5.7	3.5	1.1	20.22	頁岩
2415 J M H 地上 (2)	尖頭磨石器	I	2.1	1.5	0.8	2.61	頁岩
2416 R N H 地上 上部	尖頭磨石器	I	2.4	(1.4)	0.9	2.96	頁岩
2417 I V H 地上	尖頭磨石器	I	2.22	1.9	0.8	2.53	頁岩
2418 K N H 地上	尖頭磨石器	I	2.4	1.7	0.8	3.36	子すい
2419 G M H 地上	尖頭磨石器	I	2.5	2.1	0.9	4.59	頁岩
2420 H M H 地上 上部	尖頭磨石器	I	2.6	2.3	0.7	4.22	赤色頁岩
2421 D H 地上	尖頭磨石器	I	2.8	1.9	1	5.08	頁岩
2422 H M H 地上	尖頭磨石器	I	3	2.3	0.8	8.37	頁岩
2423 C K 4 レモン地上	尖頭磨石器	I	3	2.4	1	6.59	頁岩 垂直加工
2424 H V H 地上	尖頭磨石器	I	3.8	2.3	0.8	8.25	頁岩
2425 C M H 地上	尖頭磨石器	I	3.4	3	0.9	8.73	頁岩
2426 C N H 地上 上部	石錐	I	4.7	2.2	0.9	11.3	頁岩 ノック
2427 J N H 地上	石錐	I a	3.5	1.1	0.6	1.02	頁岩
2428 E N H 地上	石錐	I a	4.56	2.3	0.7	3.6	赤色頁岩

地名等	出土地点／附註	分類	長さ	幅	厚さ	質地	石器
2429 E V I 等中部	石塊	I a	4.4	1.4	0.7	2.54	質岩
2430 I B II 等下部	石塊	I a	4.4	1.4	0.5	1.51	質岩
2431 G V I 等下部	石塊	I a	3.9	2	0.5	1.99	質岩
2432 F V I 等(1.4・1.5)	石塊	I b	1.9	1.35	0.7	1.58	上半、 質岩
2433 I B II 等	石塊	I b	2.3	2	0.7	2.82	質岩
2434 F V I 等(1.4・1.5)	石塊	I c	3.2	1.6	0.7	2.68	質岩
2435 D B II 等	石塊	I c	5.1	3.2	1.4	15.6	質岩 火打
2436 L I II 等下部	石塊	I a	2.6	1	0.6	1.61	質岩
2437 J III 等	石塊	I a	2.8	1	0.7	1.38	質岩
2438 D B II 等	石塊	I a	7	1	1	5.48	質岩
2439 J III 等	石塊	I a	9.4	1.2	0.6	7.34	質岩
2440 D V I 等	石塊	I b	5.1	0.5	0.5	6.36	質岩
2441 D K O 等	石塊	I c	3.2	1.4	0.7	2.4	質岩
2442 F V I 等	石塊	I C	3.4	1.4	1	3.5	土手の 質岩
2443 A V I 等	石塊	I C	3.4	0.9	0.5	3.5	質岩
2444 F III I 等	石塊	I a	2.15	0.7	0.4	0.33	無縫石
2445 F III I 等(6)	石塊	I a	2.4	0.9	0.25	0.68	質岩
2446 I N V I 等	石塊	I a	1.8	1.1	0.5	0.86	質岩
2448 F V I 等上部	石塊	I a	4.8	1.05	0.9	6.54	質岩
2449 L V I 等	石塊	I b	2.3	1.3	0.5	1.95	無縫石
2450 G V I 等	石塊	I b	1.6	1.3	0.5	1.95	無縫石
2451 E V I 等	石塊	I b	2.3	1.3	0.5	1.95	無縫石
2452 F N I 等上部	石塊	I b	1.9	1.3	0.35	1.07	質岩
2453 G M I 等	石塊	I b	2.4	1.9	0.8	1.97	質岩
2454 E M I 等	石塊	I b	5.2	1.5	0.8	6.8	質岩
2455 J III I 等	石塊	N	2.3	1.6	0.6	1.54	質岩
2456 K III I 等	石塊	N	2.5	2.2	1.1	4.07	上手の 質岩
2457 L I II 等下部	石塊	N	4.2	1.9	0.8	6.14	質岩
2458 G V I 等	石塊	V a	4.9	3.2	1.6	15.37	質岩
2459 C N I 等下部	石塊	V a	2.4	1.7	0.4	0.35	無縫石
2460 C H I 等	石塊	V b	3.8	2.6	1	9.65	質岩
2461 A N I 等	石塊	V b	4.5	2.6	1.1	11.69	砂岩
2462 C H I 等	石塊	V b	5.6	2.6	1.3	17.53	質岩
2463 F III I 等(1)	石塊	I	4.2	1.3	0.3	3.21	質岩
2464 K N I 等	石塊	I	5.1	1.1	0.6	2.67	質岩
2465 B I - II 等	石塊	I	5.15	1.5	0.8	5.05	質岩
2466 C V I 等	石塊	I	6.4	1.1	0.5	5.07	質岩
2467 D B II 等(9)	石塊	I	6.2	1.7	0.7	5.02	無縫石
2468 E M I 等	石塊	I	6.7	1.7	0.6	5.43	質岩
2469 G V I 等	石塊	I	7	1.5	0.6	6.27	質岩
2470 B N I 等	石塊	I	6.6	1.8	0.7	8.46	質岩
2471 C K I 等	石塊	I	7.6	0.7	0.7	13.7	質岩
2472 B M I 等	石塊	I	9.7	2.1	0.8	19.1	XOISf.・質岩 切削加工
2473 B N I 等	石塊	I	4.6	1	0.75	2.84	質岩
2474 G III I 等	石塊	I	5.9	1.5	0.6	6.22	質岩
2475 F M I 等	石塊	I	5.7	2.2	0.6	10.02	質岩
2476 D B II 等下部	石塊	I	6	2.5	0.9	13.4	質岩
2477 C N I 等	石塊	I	7.05	3.4	1	44.44	質岩
2478 C M I 等	石塊	I	6.7	4.8	0.6	13.47	質岩
2479 E N I 等下部	石塊	I	8.1	4.6	1.9	53.79	ホルンフェルス 重合×3 ヘラ削

圖號		出上地點／部位	形態	分類	特點	體	量	備註	尺寸	
2480	L I II 鋒	G形	1	3.4	4.3	0.8	12.4	扁刀	6.7mm	
2481	C IV I 滾	石塊	1	5.7	5	0.9	19.86	雙刃 圓面磨化	5.7mm	
2482	F III 滾	石塊	1	5.6	2.8	0.8	8.73	雙刃 圓面	5.6mm	
2483	G III 滾	石塊	1	4.7	2.7	0.5	5.14	圓面 直、內刃 尖頭部	4.7mm	
2484	H III 滾	石塊	1	3.9	7.3	0.7	32.52	圓面 有鑿孔	3.9mm	
2485	D III 滾	尖頭部	1	7.26	1.9	1	12.91	卡爾芬-費爾斯 圓面 素面頭火頭	7.26mm	
2486	E VIII 滾	尖頭部	1	7.1	2.4	1.4	23.11	圓面 有鑿孔	7.1mm	
2487	M VII 滾	尖頭部	1	7.7	2.7	1.4	31.62	圓面 有鑿孔	7.7mm	
2488	C III 滾	尖頭部	1	9.4	2.6	1.2	24.06	圓面 有鑿孔	9.4mm	
2489	C III 滾	尖頭部	1	11	1.5	1	13.49	圓面 有鑿孔	11mm	
2490	H V I 滾 (1.0)	尖頭部	1	11.6	2.9	1	29.66	圓面 有鑿孔	11.6mm	
2491	F II I 滾	尖頭部	1	10.3	2.9	1.3	41.38	圓面 有鑿孔	10.3mm	
2492	F VII 滾	尖頭部	1	10.3	4	1	18.61	圓面 有鑿孔	10.3mm	
2493	M III 滾	尖頭部	1	12.65	3.2	1.4	60.58	圓面 有鑿孔	12.65mm	
2494	H V II 滾	圓狀石器	1	5.6	2.9	1.6	31.88	圓面 有鑿孔	5.6mm	
2495	C III 滾	圓狀石器	1	5.3	3.3	1.2	17.6	圓面 有鑿孔	5.3mm	
2496	G III 滾	圓狀石器	1	5.7	3.1	1.4	24.06	圓面 有鑿孔	5.7mm	
2497	C III 滾	圓狀石器	1	6	3.9	1.4	24.93	圓面 有鑿孔	6mm	
2498	G III 滾	圓狀石器	1	6.6	3.6	0.8	26.49	卡爾芬-費爾斯 圓面 直頭	6.6mm	
2499	C IV 滾	圓狀石器	1	7.5	3.6	1	34.24	圓面 有鑿孔	7.5mm	
2500	B III 滾	圓狀石器	1	(6.5)	3.7	2.3	75.06	圓面 有鑿孔	(6.5)mm	
2501	C III 滾	圓狀石器	1	(4.4)	5	2.1	80.5	圓狀石器 有鑿孔	(4.4)mm	
2502	I III 滾	圓狀石器	1	(6.6)	5.2	0.7	53.53	圓狀石器 有鑿孔	(6.6)mm	
2503	I III 滾	圓狀石器	1	8.7	5.5	3	172.18	圓狀石器 有鑿孔	8.7mm	
2504	I III 滾	圓狀石器	1	11.5	5.7	2.6	176.28	圓狀石器 有鑿孔	11.5mm	
2505	L III 滾	圓狀石器	1	9.1	1.7	0.4	2.19	圓狀石器 有鑿孔	9.1mm	
2507	I III 滾	不定形石器	1	1	2.25	0.3	0.85	圓面 有鑿孔	1mm	
2508	G V I 滾	不定形石器	1	1	1.8	1.5	0.9	圓面 有鑿孔	1mm	
2509	C III 滾	不定形石器	1	1	2.4	0.5	0.87	圓面 有鑿孔	1mm	
2510	H I 滾	不定形石器	1	1	2.9	0.7	2.38	圓面 有鑿孔	1mm	
2511	F IV 滾	不定形石器	1	1	2.25	0.8	0.05	圓面 有鑿孔	1mm	
2512	D IV 滾	不定形石器	1	1	3.1	5.3	1.1	16.32	圓面 有鑿孔	1mm
2513	C II I トレ 0 滾	不定形石器	1	1	3.4	3.5	0.6	9.67	圓面 有鑿孔	1mm
2514	D IV 滾	不定形石器	1	1	5	2.9	1.3	16.73	圓面 有鑿孔	1mm
2515	F III 滾	不定形石器	1	1	4.8	3.2	0.6	9.72	圓面 有鑿孔	1mm
2516	C M I 滾	不定形石器	1	1	5.95	0.9	17.56	圓面 有鑿孔	1mm	
2517	D III 滾 (7)	不定形石器	1	1	7.4	2.1	0.6	6.64	圓面 有鑿孔	1mm
2518	D IV 滾	不定形石器	1	1	5.7	3.8	1.2	27.73	圓面 有鑿孔	1mm
2519	C II I 滾	不定形石器	1	1	6.5	4.4	2	42.85	圓面 有鑿孔	1mm
2520	H II 滾	不定形石器	1	1	6.2	3	0.6	13.96	圓面 有鑿孔	1mm
2521	C V I 滾	不定形石器	1	1	4.6	5.8	0.7	18.63	圓面 有鑿孔	1mm
2522	C IV I トレ 0 滾	不定形石器	1	1	1.8	1.3	0.6	1.66	圓面 有鑿孔	1mm
2523	G V I 滾	不定形石器	1	2	1.6	1.9	0.25	0.59	圓面 有鑿孔	2mm
2524	E III I 滾	不定形石器	1	2	1.7	0.6	0.51	圓面 有鑿孔	2mm	
2525	L IV 滾	不定形石器	1	2	2.4	0.8	0.09	圓面 有鑿孔	2mm	
2526	F V I 滾	不定形石器	1	2	2	2.4	1	4.61	圓面 有鑿孔	2mm
2527	G V I 滾	不定形石器	1	2	2.1	2.4	1.2	5.43	圓面 有鑿孔	2mm
2528	I III 滾	不定形石器	1	2	2.1	-	6.4	貢石	2mm	
2529	C IX レンチチワ	不定形石器	1	2	2.1	-	6.7	(6.37) 貢石	2mm	

圖號	地點/層位	形態	分類	顏色	厚	質地	石質
2530	L I Ⅰ下層	不定形石器	I a 2	4.1	2.5	1.1	12.52 赤褐色
2531	I I Ⅰ下層	不定形石器	I a 2	5.2	2.5	1.1	13.97 黃色
2532	C I Ⅰ中層~下部	不定形石器	I a 2	4.6	2.9	1.	10.14 黃色
2533	C II Ⅰ上層	不定形石器	I a 2	5.5	2.4	0.6	11.96 黃色
2534	D I Ⅰ下層	不定形石器	I a 2	6.6	2.6	1.	19.38 黃色
2535	F I Ⅰ下層	不定形石器	I a 2	6.1	1.7	0.7	7.5 黃色
2536	B I Ⅱ下層	不定形石器	I a 2	5.2	3.8	0.9	11.2 黃色
2537	D V Ⅱ層	不定形石器	I a 2	3.9	5.5	1.2	22.51 黃色
2538	E V Ⅱ層	不定形石器	I a 2	4.5	3.7	1.	34.5 黃色
2539	K V Ⅱ層	不定形石器	I a 2	3.1	4.8	0.9	15.99 黃色
2540	C I Ⅱ層~中部	不定形石器	I a 2	9.3	3.5	1.1	29.86 黃色
2541	C I Ⅱ層	不定形石器	I a 2	8.1	4	1.6	30.06 黃色
2542	L I Ⅱ層	不定形石器	I a 2	7.2	5.8	1.5	56.93 黃色
2543	H V Ⅱ層~下部	不定形石器	I a 3	1.4	2.1	0.5	1.75 黑褐色
2544	H I Ⅱ層	不定形石器	I a 3	2.1	1.4	0.3	1.26 黑褐色
2545	M P Ⅱ層	不定形石器	I a 3	2.6	2.1	0.6	3.69 黑褐色
2546	C I Ⅲ上層	不定形石器	I a 3	2.8	2.1	1.7	5.07 黃色
2547	C I Ⅲ中層	不定形石器	I a 3	3.7	1.9	0.7	4.96 黃色
2548	K I Ⅲ中層	不定形石器	I a 3	4.8	1.8	0.6	6.16 黃色
2549	H V Ⅲ中層	不定形石器	I a 3	5.2	1.7	0.6	5.69 黃色
2550	J I Ⅲ層	不定形石器	I a 3	3.4	3.4	1.1	12.7 黃色
2551	H I Ⅲ層	不定形石器	I a 3	3.7	3.9	1.15	11.03 黃色
2552	D V Ⅲ層	不定形石器	I a 3	6	3.1	0.8	24.33 黃色
2553	D N Ⅲ層	不定形石器	I a 3	7.2	2.4	0.7	14.36 黃色
2554	G N Ⅲ層~下部	不定形石器	I b 2	2.1	1.5	0.7	1.77 黃色
2555	F V Ⅲ層	不定形石器	I b 2	1.5	0.7	1.7	4.03 黃色
2556	C V Ⅲ層	不定形石器	I b 2	4.1	1.8	0.3	4.03 黃色
2557	F E Ⅲ層	不定形石器	I b 2	3.9	2.4	0.6	7.92 黃色
2558	D F Ⅲ層	不定形石器	I b 2	1.9	5	0.4	5.78 黃色
2559	G N Ⅲ層~下部	不定形石器	I b 2	2.75	4.95	0.15	6.9 黃色
2560	I I Ⅲ層	不定形石器	I b 2	3.1	2.1	1.1	18.2 黃色
2561	F N Ⅲ層	不定形石器	I b 2	6	2.8	1.1	17.86 黃色
2562	F N Ⅲ層(6)	不定形石器	I b 2	6.5	6.5	0.6	76.85 黃色
2563	O N Ⅲ層	不定形石器	I b 2	6.35	3.3	1.1	14.88 黃色
2564	F N Ⅲ層	不定形石器	I b 2	6.7	3.4	1.	19.19 黃色
2565	D V Ⅲ層~中部	不定形石器	I b 2	6.4	2.6	1.3	16.57 黃色
2566	F N Ⅲ層	不定形石器	I b 3	4.9	3	0.7	11.9 黃色
2567	F I Ⅲ層	不定形石器	I c 2	1.6	1.8	0.7	2.23 鐵銹色
2568	F N Ⅲ層	不定形石器	I c 2	2.9	1.9	0.3	2.68 黃色
2569	H I Ⅲ層	不定形石器	I c 2	2.4	2.7	0.8	4.12 赤褐色
2570	B I Ⅲ層	不定形石器	I c 2	4.7	1.7	0.9	7.55 黃色
2571	D N Ⅲ層	不定形石器	I c 2	6.7	2.1	0.8	13.81 黃色
2572	F V Ⅲ層(1.4+1.5)	不定形石器	I c 2	6.55	2.7	0.7	12.68 黃色
2573	H I Ⅲ層	不定形石器	I c 2	7.1	3.3	0.9	16.8 黃色
2574	D I Ⅲ層	不定形石器	I a	1.9	1.4	0.9	1.71 無色
2575	C I Ⅲ層~下部	不定形石器	I a	2.3	2.3	1.	5.47 黃色
2576	F N Ⅲ層(6)	不定形石器	I a	2.3	2.3	0.65	3.66 黃色
2577	F I Ⅲ層	不定形石器	I a	2.2	2.3	1.	5.88 無色
2578	D V Ⅲ層	不定形石器	I a	2.8	3.4	0.9	8.89 黃色
2579	C I Ⅲ層~下部	不定形石器	I a	2.3	2.3	0.9	1.71 無色

地質No.										地 質		
山土地質/部位		岩相		分類		風化		層面		石質		
2580	I 山頂	不定形石	Ⅱa	2.9	1.9	1	4.83	片岩				
2581	c 山頂	不定形石	Ⅱa	2.8	2.6	0.9	6.64	片岩				
2582	B V 層	不定形石	Ⅱa	2.7	3.8	1	11.43	頁岩				
2583	F 層	不定形石	Ⅱb	2.4	2.2	1	4.23	P ₁				
2584	E V 層	不定形石	Ⅱb	3.2	2.3	0.9	7.8	片岩				
2585	I E 層上部	R フレ	Ⅰb	1.8	1.7	0.7	1.44	片岩(?)				
2586	D 層四	R フレ	Ⅰb	2.4	0.3	1.7	2.73	頁岩				
2587	D 層五	R フレ	Ⅰb	2.7	1.5	0.6	2.12	頁岩				
2588	F V 層上部	R フレ	Ⅰb	3.4	1.8	0.5	2.72	頁岩				
2589	D H 層 (2)	R フレ	Ⅰ	1	1.8	0.8	4.04	頁岩				
2591	C E 層下部	残根	5	6.4	4.4	0.5	5.83	頁岩				
2592	D F 層	鷹裂石	(2,2)	1.8	0.5	2.51	塊岩					
2593	G 層	鷹裂石	(3)	2.1	0.6	5.87	ホルンフェルス	小葉(石灰)	葉出品			
2594	E V 層	鷹裂石	5.3	1.7	0.8	11.02	塊岩	小葉(石灰)	葉出品			
2595	E N 層	鷹裂石	4.2	3.5	0.5	13.41	塊岩	小葉(石灰)	葉出品			
2596	E 層	鷹裂石	3.6	2.6	0.5	6.34	塊岩	小葉(石灰)	葉出品			
2597	F V 層上部	鷹裂石	4.9	1.8	0.6	6.5	片岩	小葉(石灰)	葉出品			
2598	E V 層中段	鷹裂石	7.8	4.9	1.8	56.8	泥岩	側面	葉出品			
2599	I 層下部	鷹裂石	5	5.9	2.1	96.25	鷹裂石	側面	葉出品			
2600	G 層中下部	鷹裂石	9.6	4.2	2.5	140.87	砂岩	刀面	葉出品			
2601	G 層中下部	鷹裂石	8.7	6	2.9	209.11	鷹裂石	刀面	葉出品			
2602	J 層上部	鷹裂石	8.5	4.8	2.5	165.66	花崗岩	砂岩	葉出品			
2603	H 層上部	鷹裂石	9	4.5	2.1	128.34	花崗岩	砂岩	葉出品			
2604	C 層上部	鷹裂石	10.6	5.3	1.8	213.06	ホルンフェルス	砂岩	葉出品			
2605	I 層上部	鷹裂石	9.2	4.5	2.6	188.2	ホルンフェルス	砂岩	葉出品			
2606	M 層	鷹裂石	14.2	6.3	3.9	483.80	ホルンフェルス	砂岩	葉出品			
2607	G 層	鷹裂石	7.3	4.5	1.9	142.05	砂岩	砂岩	葉出品			
2608	E V 層	鷹裂石	10.6	4.4	2.3	153.25	ホルンフェルス	砂岩	葉出品			
2609	L 層	鷹裂石	10.8	4	1.8	194.03	砂岩	砂岩	葉出品			
2610	E V 層中下部	鷹裂石	13.5	6	2.6	425.65	砂岩	砂岩	葉出品			
2611	L 層	鷹裂石	10.6	6.2	3.1	292.24	砂岩	砂岩	葉出品			
2612	L 層下部	鷹裂石	12.1	7	2.2	244.46	砂岩	砂岩	葉出品			
2613	D G 層	鷹裂石	5.8	7.8	1.4	96.68	砂岩	砂岩	葉出品			
2614	H 層	鷹裂石	9.1	7.7	1.7	81.62	砂岩	砂岩	葉出品			
2615	C E 層	鷹裂石	11.4	4.4	1.8	102	鷹裂石	砂岩	葉出品			
2616	D H 層 (1.9)	鷹裂石	14.2	7.4	1.8	797.21	鷹裂石	砂岩	葉出品			
2617	E V 層下部	鷹裂石	9	7.3	6.7	760.82	砂岩	砂岩	葉出品			
2618	I 層上部	鷹裂石	19	6.7	1.4	1015.8	砂岩	砂岩	葉出品			
2619	E 層 (1.6)	鷹裂石	9	6	4.8	490.3	砂岩	砂岩	葉出品			
2620	D H 層	鷹裂石	7.7	5.9	3.8	246.77	砂岩	砂岩	葉出品			
2621	C H 层下部	鷹裂石	10.9	6.2	3.7	410.62	砂岩	砂岩	葉出品			
2622	F V 層	鷹裂石	1	9	8.2	5.6	555.2	砂岩	砂岩	葉出品		
2623	E 層	鷹裂石	9	9.1	7.2	4.5	456.25	砂岩	砂岩	葉出品		
2624	D H 层下部	鷹裂石	10.5	7.3	6.6	704.95	砂岩	砂岩	葉出品			
2625	F V 層	鷹裂石	8.5	8.2	1.4	768.98	砂岩	砂岩	葉出品			
2626	F N 層	鷹裂石	1	12.4	6.7	4.3	554.53	砂岩	砂岩	葉出品		
2627	I 層	鷹裂石	11.4	10	6.2	99.73	砂岩	砂岩	葉出品			
2628	C E 層	鷹裂石	17.4	9.3	6.1	159.4	砂岩	砂岩	葉出品			
2629	C E 層	鷹裂石	1	12.9	7.1	5.6	803.72	砂岩	砂岩	葉出品		

地名	出土地点／断片	岩相	分類	原名	關	所見	裏面	石質
2630 DⅢ層 DⅣ層	鷲石	I		9.6	6.7	3.7	371.59	砂岩
2631 CⅢ層	鷲石	I		11.6	4.8	5.1	473.88	砂岩
2632 CⅢ層下部	鷲石	I		10.2	7.8	5.8	697.13	砂岩
2633 DⅢ層	鷲石	I		11.5	8.6	6.1	831	鷲石
2634 GⅤ層	鷲石	I		4.2	3.3	3.3	63.93	鷲石
2635 0-1井	鷲石	I		4.3	4.4	4.2	112.31	鷲石
2636 GⅠ層	鷲石	I		4.5	4.5	4.5	52.92	鷲石
2637 IⅣ層中部	鷲石	I		4.7	3.9	3.8	107.7	鷲石
2638 GⅡ層	鷲石	I		4.5	4.3	3.6	84.74	鷲石
2639 GⅢ層	鷲石	I		11.2	7.1	2.2	145.79	鷲石
2640 GⅨ層	鷲石	I		11.3	7.7	4	481.79	鷲石
2641 DV層下部	鷲石	I		12.3	7.6	3.7	508.71	鷲石
2642 LⅣ層下部	鷲石	I		9.3	5.7	2.5	158.89	鷲石
2643 CⅥ層	鷲石	I		15.3	4.2	3.3	302	鷲石
2644 EⅧ層	鷲石	I		18.8	7.4	4.3	275.39	ホルンフェルス
2645 CKⅣ層	鷲石	I		9.2	7.4	5.1	516.52	頁岩
2646 CⅩ層上部	鷲石	I		10.4	3.4	3.4	320.82	鷲石から風化?
2647 FⅨ層	鷲石	I		15.2	7.8	4.9	954.17	鷲石
2648 FⅨ層	鷲石	I		11.6	6.1	2.4	197.36	鷲石
2649 0番	鷲石	I		10.1	6.4	4.4	603	鷲石
2650 DⅣ層	鷲石	I		3.7	2.8	1.8	45.72	ホルンフェルス
2651 EⅨ層中～下部	鷲石	I		3.5	4.9	4.6	164.78	鷲石
2652 FⅨ層	鷲石	I		5.7	5.3	3.5	185.92	鷲石
2653 DⅨ層(1)	鷲石	I		6.9	4.4	2.9	114.97	ホルンフェルス
2654 FⅨ層	鷲石	I		5.5	3.6	3.1	152.71	ホルンフェルス
2655 CⅩ層下部	鷲石	I		8.7	4.3	2.8	160.69	ホルンフェルス
2656 IⅨ層	鷲石	I		8.6	5.7	3	217.13	ホルンフェルス
2657 JⅩ層	鷲石	I		11.3	4.9	3.2	355.64	鷲石
2658 DⅩ層	鷲石	I		10	7.3	4.9	516.35	鷲石
2659 CRⅩ層	鷲石	I		10.5	2.9	2.8	152	鷲石
2660 CKⅩ層	鷲石	I		6.1	3.6	2.2	72.80	鷲石
2661 DNⅩ層	鷲石	I		7.9	2.7	1.8	00.41	ヒン
2662 IⅩ層中～下部	鷲石	I		7.2	2.1	2.5	66.26	ヒン
2663 IⅨ層	鷲石	I		8.6	4	2.7	152.29	鷲石
2664 FⅨ層(6)	鷲石	I		6.7	3.2	3.1	106.87	鷲石
2665 FⅨ層	鷲石	I		6.6	3.1	2.5	84.58	歩苔
2666 DNⅨ層	鷲石	I		9.2	5.9	4.7	354.83	鷲石
2667 FⅩ層	鷲石	A		13.6	10	2.8	278.46	鷲石
2668 DVⅩ層	鷲石	A		13.5	9.4	4.8	373.46	鷲石
2669 GⅩ層下部	鷲石	A		13.2	16.3	4.6	867.74	ヒン
2670 JⅪ層	鷲石	A		11.3	10.8	4.3	377.86	鷲石
2671 EⅪ層	鷲石	A		8.6	8.2	2.3	64.96	鷲石
2672 FⅪ層	鷲石	A		10	6.2	4.6	122.09	鷲石
2673 CVⅪ層	鷲石	A		6.6	4	1.3	50.47	鷲石
2674 GVⅪ層	鷲石	A		7.4	4.4	2.4	74.69	鷲石
2675 EHⅪ層	鷲石	A		7.4	3.5	1.1	46.23	鷲石
2676 LⅪ層高	鷲石	A		9.2	4.1	3.1	166.66	鷲石
2677 DVⅪ層中	鷲石	A		9.4	4.9	1.8	103.88	鷲石
2678 CVⅪ層	鷲石	A		12.4	8.3	2.5	283.07	鷲石
2679 CⅪ層	鷲石	A		12.3	5.8	2.3	238.23	鷲石

固有番号	小字地點／部位	記述	分類	厚さ	幅	原色	備考	石質
2680	上里層	柱頭付	6	6.6	2.6	262.17	砂岩	2.2倍使用 裁小深
2681	上里層	柱頭付	6	2.1	1.1	19.25	ホルンフェルス	石膏？ 銅鉛斑 嵌晶
2682	DⅢ上層	柱頭付	9.3	3.9	0.6	38.22	ホルンフェルス	石膏？ 路製石斧？ 嵌晶
2683	OⅢ上層	柱頭付	10.7	3.3	1.2	67.27	ホルンフェルス	石膏？ 嵌晶
2684	CⅣ上層	柱頭付	10.4	6.0	0.8	18.91	頁岩	石膏？ 嵌晶
2685	DⅣ上層	柱頭付	(14.4)	2.4	1.3	90.76	ホルンフェルス	石膏？ 嵌晶
2686	EⅣ上層	柱頭付	(14.7)	3.7	1.7	153.12	ホルンフェルス	石膏？ 嵌晶
2687	EⅣ上層	柱頭付	21.7	3.7	2.6	265.19	ホルンフェルス	石膏？ 嵌晶
2688	AⅤ上層	柱頭付	26.9	4	2	368.43	ホルンフェルス	石膏？ ほとんど無加工 アスファルト
2689	CⅤ上層	柱頭	(13)	3.2	2.45	109.5	ホルンフェルス	石膏？ ほとんど無加工 嵌晶
2690	BⅤ上層	柱頭	(20.6)	5	3.5	640	ホルンフェルス	石膏？ ほとんど無加工 嵌晶
2691	FⅣ上層	柱頭	19.6	6.6	2.2	263.63	ホルンフェルス	石膏？ 嵌晶
2692	HⅣ上層部	柱頭	23.2	3.1	3	322.21	ホルンフェルス	石膏？ 嵌晶
2693	DⅣ下層	石階	42	7.4	5.8	421.5	ホルンフェルス	はほとんど無加工 破片に嵌打換
2694	HⅣ下層	石階	42.1	5.6	4.6	1424.6	ホルンフェルス	はほとんど無加工 破片に嵌打換
2695	CⅤ上層	石階	(58.3)	7.9	3.9	4270	ホルンフェルス	石膏？ ほとんど無加工 嵌晶
2696	CⅣ上層	石階	4.6	5	1.3	3071	砂岩	板岩
2697	FⅣ上層	石階	3.2	6	0.6	16.28	砂岩	板岩

石製品調査表

固有番号	土地地名	種類	長さ	幅	厚さ	重量	石質
161	R.A.0.3地主部	浮子？	6.5	8.9	4	56.43	3.5×1.3×1.5mの外後起 古孔径 6 mm 全体にやや複雑な断面による凹面取り 丸底 6 mm
162	R.A.0.3地主上部	浮子？	1	1	0.7	0.71	2面に複数な断面による凹面取り 丸底 6 mm
163	R.A.0.3地主上部	浮子？	4.9	5.3	1.1	51.02	2面に複数な断面による凹面取り 丸底 6 mm
445	R.D.0.4西十上部	刃鎗	0.6	0.6	0.12	0.12	刃鎗頭部断面
508	R.D.0.4西十上部	刃鎗	0.7	0.7	0.27	0.15	刃鎗頭部断面
509	R.D.0.4西十上部	刃鎗	0.85	0.65	0.3	0.16	刃鎗頭部断面
510	R.D.0.4西十上部	刃鎗	0.7	0.7	0.4	0.23	刃鎗頭部断面
511	R.D.0.4西十上部	刃鎗	0.8	0.76	0.4	0.25	全体にやや複雑な断面による凹面取り 丸底 4 mm
512	R.D.0.4西十上部	刃鎗	0.8	0.8	0.42	0.25	全体にやや複雑な断面による凹面取り 丸底 4 mm
513	R.D.0.4西十上部	刃鎗	0.8	0.8	0.35	0.3	刃鎗頭部断面
514	R.D.0.4西十上部	刃鎗	0.75	0.75	0.45	0.26	刃鎗頭部断面による凹面取り 丸底 5 mm (逆)
515	R.D.0.4西十上部	刃鎗	0.85	0.8	0.45	0.45	全体にやや複雑な断面による凹面取り 丸底 4 mm
516	R.D.0.4西十上部	刃鎗	0.85	0.8	0.45	0.45	全体にやや複雑な断面による凹面取り 丸底 4.5 mm
517	R.D.0.4西十上部	刃鎗	0.8	1.75	0.3	0.25	刃鎗頭部断面
518	R.D.0.4西十上部	刃鎗	0.7	0.7	0.4	0.22	刃鎗頭部断面
519	R.D.0.4西十上部	刃鎗	0.8	0.8	0.45	0.4	刃鎗頭部断面
520	R.D.0.4西十上部	刃鎗	0.84	0.82	0.44	0.35	全体にやや複雑な断面による凹面取り 丸底 5 mm
521	R.D.0.4西十上部	刃鎗	0.8	0.8	0.42	0.33	刃鎗頭部断面による凹面取り 丸底 4.5 mm
522	R.D.0.4西十上部	刃鎗	0.85	0.85	0.4	0.37	刃鎗頭部断面による凹面取り 丸底 4.5 mm
523	R.D.0.4西十上部	刃鎗	0.8	0.8	0.45	0.3	刃鎗頭部断面
524	R.D.0.4西十上部	刃鎗	0.85	0.85	0.45	0.48	全体にやや複雑な断面による凹面取り 丸底 4 mm
525	R.D.0.4西十上部	刃鎗	0.9	0.85	0.5	0.55	刃鎗頭部断面
526	R.D.0.4西十上部	刃鎗	0.95	0.85	0.6	0.5	全体にやや複雑な断面による凹面取り 丸底 4.5 mm
527	R.D.0.4西十上部	刃鎗	0.85	0.85	0.68	0.5	刃鎗頭部断面による凹面取り 丸底 5 mm
528	R.D.0.4西十上部	刃鎗	0.8	0.8	0.4	0.4	刃鎗頭部断面
529	R.D.0.4西十上部	刃鎗	0.9	0.85	0.5	0.4	刃鎗頭部断面
530	R.D.0.4西十上部	刃鎗	0.9	0.85	0.55	0.5	全体にやや複雑な断面による凹面取り 丸底 4.5 mm
531	R.D.0.4西十上部	刃鎗	0.8	0.8	0.45	0.45	刃鎗頭部断面
532	R.D.0.4西十上部	刃鎗	0.85	0.85	0.3	0.3	刃鎗頭部断面

固形物番号	固形物名	種類	長さ	幅	厚さ	重量	備考
533	R00100トド部-底面N012	平玉	0.8	0.85	0.4	0.35	表面凹面研磨にによる彫り孔径 5 mm (2)
534	R00100トド部-底面	平玉	0.8	0.8	0.4	0.35	表面凹面研磨にによる彫り孔径 5 mm (2)
535	R00100トド部-底面N011	平玉	0.8	0.85	0.5	0.4	全体にやや凹面研磨にによる彫り孔径 4.5 mm
536	R00100トド部-底面N012	平玉	0.85	0.8	0.3	0.25	表面凹面研磨にによる彫り孔径 4 mm
537	R00100トド部-底面N025	平玉	0.85	0.85	0.5	0.4	表面凹面研磨にによる彫り孔径 4 mm
538	R00100トド部-底面N026	平玉	0.85	0.85	0.4	0.41	表面凹面研磨にによる彫り孔径 4 mm
539	R00100トド部-底面	平玉	0.9	0.85	0.5	0.48	表面凹面研磨にによる彫り孔径 5 mm
540	R00100トド部-底面N030	平玉	0.8	0.8	0.65	0.32	全体にやや凹面研磨にによる彫り孔径 4.5 mm
541	R00100トド部-底面N023	平玉	0.85	0.8	0.55	0.41	全体にやや凹面研磨にによる彫り孔径 4.5 mm
542	R00100トド部-底面N010	平玉	0.9	0.88	0.45	0.42	全体にやや凹面研磨にによる彫り孔径 4.5 mm
543	R00100トド部-底面N010	平玉	0.9	0.9	0.6	0.56	全体にやや凹面研磨にによる彫り孔径 4 mm
544	R00100トド部-底面	平玉	0.95	0.9	0.6	0.64	表面凹面研磨にによる彫り孔径 4.5 mm
545	R00100トド部-底面	平玉	1	1	0.4	0.48	全体にやや凹面研磨にによる彫り孔径 5 mm
546	R00100トド部-底面N020	平玉	0.85	0.85	0.58	0.5	表面凹面研磨にによる彫り孔径 4.5 mm
547	R00100トド部-底面N017	平玉	0.85	0.85	0.6	0.48	全体にやや凹面研磨にによる彫り孔径 4.5 mm
548	R00100トド部-底面	平玉	0.91	0.9	0.57	0.55	表面凹面研磨にによる彫り孔径 4 mm
549	R00100トド部-底面N08	平玉	0.9	0.9	0.2	0.25	表面凹面研磨にによる彫り孔径 4 mm
550	R00100トド部-底面	平玉	0.9	0.85	0.23	0.2	表面凹面研磨にによる彫り孔径 4.5 mm
551	R00100トド部-底面N029	平玉	0.9	0.9	0.55	0.62	表面凹面研磨にによる彫り孔径 4.5 mm
552	R00100トド部-底面N033	平玉	0.85	0.9	0.4	0.41	表面凹面研磨にによる彫り孔径 4 mm
553	R00100トド部-底面N019	平玉	0.9	0.9	0.48	0.48	表面凹面研磨にによる彫り孔径 5 mm
554	R00100トド部-底面	平玉	0.9	0.9	0.55	0.5	表面凹面研磨にによる彫り孔径 5 mm
555	R00100トド部-底面N014	平玉	0.95	0.9	0.35	0.45	表面凹面研磨にによる彫り孔径 5 mm
556	R00100トド部-底面	平玉	1	1	0.5	0.6	表面凹面研磨にによる彫り孔径 5 mm (金)
557	R00100トド部-底面N015	平玉	1.05	1.05	0.5	0.55	表面凹面研磨にによる彫り孔径 5 mm (金)
558	R00100トド部-底面N025	平玉	1	1	0.45	0.4	表面凹面研磨にによる彫り孔径 5 mm
559	R00100トド部-底面N022	平玉	1	1	0.35	0.44	表面凹面研磨にによる彫り孔径 5 mm
560	R00100トド部-底面N06	平玉	1.4	1.25	0.9	1.57	全体に溝状研磨アフターパーツ
2688	D1V100W (9-1.3)	快挿工具	3.1	(3.2)	0.6	(5.62)	接着剤アフルド付着
2699	B14.0mm (塑型L+土)	工具品	0.9	0.9	0.5	0.67	全体にやや凹面研磨にによる彫り孔径 5 mm
2700	D1V100W	工具	1.4	2.1	1.4	8.21	全体に溝状研磨にによる彫り孔径 5 mm
2701	D1V100W下部	工具	7.5	2.1	1.9	11.3	前面に拡張部による彫り孔径 5 mm
2702	D1V100W (6-9)	工具	5.6	4.65	2.5	58.2	全体に溝状研磨にによる彫り孔径 5 mm
2703	D1V100W	工具	5.6	4.65	2.5	52.8	全体に溝状研磨にによる彫り孔径 5 mm
2704	D1V100W	工具	5.35	4.6	2.05	64.64	全体に溝状研磨にによる彫り孔径 5 mm
2705	H1.0mm	工具品	4.6	(2.5)	(1.3)	(17.85)	被削材に全体仕上げ、被削材孔径 6 mm
2706	D1V100W (2.3)	工具品	6.4	5.6	2	85.08	削り具の底面形状の確認
2707	D1V100W	工具	7.6	5.1	3.3	90.33	前面に浅い溝の凹み孔径 7.6 mm
2708	F1V100W	工具	4.6	4.4	1.8	30.55	細胞沈殿文、鏡面仕上げ
2709	L1.0mm	工具	2.5	2.5	0.9	4.96	前面溝底を削り出し、表面粗面に溝を削る
2710	E1V100W	工具	5.6	2.2	0.6	6.11	金型に溝を削る加工?
2711	E1V100W	工具	2.8	2.8	0.7	7.5	前面に溝を削る
2712	H1.0mm	工具	3	2.7	0.7	6.23	滑り面の溝を削る加工?
2713	I1.0mm	工具	3.2	3.3	0.8	8.63	前面に溝を削る加工?
2714	E1V100W	工具	3.7	4.1	0.8	20.27	周囲面の溝を削る
2715	E1V100W	工具	4.1	4.5	1.2	26.47	ほとんど無無
2716	E1V100W (4-5)	工具	4.2	4.7	0.8	27.21	溝を削る工具
2717	E1V100W	工具	1.2	5	1	30.8	前面を削る
2718	E1V100W	工具	6	6	1.4	75.73	前面を削る
2719	E1V100W	工具	4.7	5.4	1.2	56.62	前面を削る

圖鑑No.	出土地點	種類	年号	幅	高さ	重量	備考	石質
2720	F V II 檻	刀劍	4	5	1.3	39.66	馬頭打欠き2面刃 衣袖面に擦地	砂岩
2721	K 壁 日 檻 (1.0)	斧子?	6.65	5.5	2.6	25.6	背幅に擦地 衣袖面に擦地	砂岩
2722	D 壁 日 檻 (1.7 - 1.8)	斧子?	7.75	5.1	2.5	29.7	側面に擦地 衣袖面に擦地	砂岩
2723	D 壁 日 檻 (1.0)	斧子?	8.65	7.3	5.1	96.87	側面に擦地 衣袖面に擦地	砂岩
2724	C N H 檻	斧子?	(8)	(4.1)	3.7	(8.38)	鍔柄部 手彫り1.2cm 衣袖面 1.5cm	砂岩
2725	D V H 檻	斧子?	10.3	6.55	4.3	34.43	鍔柄部 2 面 (1.3cm)・棒 (1.1cm)の空丸	砂岩
2726	D V H 檻	斧子?	(6.3)	4.9	1.3	(0.74)	衣袖面 片側く凹6	砂岩
2727	C K H 檻	斧子?	(6.6)	(4.4)	2.8	14.58	鍔柄部 衣袖面	砂岩
2728	E N H 檻	斧子?	11	4.8	2.6	26.28	鍔柄部 衣袖面 底石?	砂岩
2729	F N II 檻	斧子?	(11.2)	8.6	6.8	(76.85)	鍔柄部 衣袖面 底石?	砂岩
2730	F I I 檻	斧子?	(10.3)	4.9	2.8	(30.41)	鍔柄部 衣袖面	砂岩
2731	B K II 檻	斧子?	(1.8)	(3.8)	(1.3)	(8.69)	自然磨?	砂岩
2732	H I I 檻	穿孔鉄	4.2	3.9	1.8	31.43	自然磨?	砂岩
2733	C C L 1.8×6.0mm	穿孔鐵	8.3	2.2	5.2	187.27	自然磨?	砂岩
2734	G V I 檻	不明	8.2	2.5	4.83	1.83	石板面加工?	砂岩
2735	F N II 檻	不明	2.4	2.4	0.5	3.05	直状 内側 真鉄?	砂岩
2736	G V H 檻	不明	4.4	5	0.45	12.57	三脚形 はんど真加丁?	真岩
2737	H III 檻	石泡?	4.8	4.4	3.7	51.85	全体に研磨面?	安山岩質質谷

土製品調査表

圖鑑No.	出土地點	種類	年号	重量	備考
164	R A 0 3 里土手部	鍔状十輪足	17.96	耳輪?	鍔面部分
2738	D 0 町	土偶	65.7	頭部は突出して表現 乍割削高?	沈縞文
2739	F V H 下船	土偶	(28.51)	頭部?	模様? M.に見る 鍔突?
2740	H H H 檻	土偶	(9.31)	削?	中央に削突?
2741	C V H 檻	土偶	(28.4)	頭部?	下腹部に削突 (1.1cm)
2742	E III IV 檻 (6 - 8)	土偶	(14.9)	頭部?	頭部削?
2743	C III IV 上岸	土偶	(15.5)	頭部?	頭部削?
2744	E I I I 檻	土偶	(13.64)	頭部?	頭部削?
2745	E I I I 檻 (1.7)	土偶	(30)	頭部?	頭部削?
2746	D W H 檻	土偶	(57.46)	左耳部?	体に斜角による削突?
2747	F H H 檻	土偶	(8.8)	頭部?	頭部削?
2748	M III 檻	土偶	(34.5)	左側?	頭部削?
2749	C I H 檻	動物形十輪足	(5.7)	大?	頭部のみ削?
2750	I V H 檻	鍔状土偶品?	(5.20)	小?	頭部? 衣袖面に擦地
2752	E N II 檻	鍔状土偶品?	(6.02)	頭部?	竹管仕上? 刀身?
2753	C III I 檻	鍔状土偶品?	71.59	頭部?	内側アスフルト付
2754	C III I 檻 (4 - 5)	土偶	15.06	頭部?	頭部削?
2755	C I I 2.1 檻	土偶?	(11.16)	頭部?	中段?
2756	D I I 檻	鍔状土偶品?	(84.85)	頭部?	頭部削?
2757	A V I 檻	不明	65	耳輪?	頭面に凹み 竹管状?
2758	D V II 檻 (4)	不明	13.2	手道具?	竹管仕上?
2759	H I I I 檻 (5 - 6)	不明	(96.8)	NODORI 頭部の穴孔?	台形部分に通し 6mmの貫通×4
2760	D W H 檻 (5 - 6)	不明	(36.48)	鍔状品?	4 - 5mmの貫通×4
2761	C K B トレ0.9mm	小判	(6.62)	鍔状品?	頭部? 衣袖面に8.2mmの貫通孔?
2762	E I I 檻	不明	(4.36)	鍔状品?	頭部? 衣袖面に切欠?
2763	E I I 檻	不明	4.91	目録?	ニチニチア上型?
2764	E V II 中部	円筒状土偶品	9.01	蓋?	突起? 深刻?

土器片円盤觀察表

番号	出土点地	長径	短径	厚さ	重量	辺沿加工	原体	備考
165	RA 0 3 墓土	3	2.9	0.7	7.42	全周研磨	R L R	地文のみ
166	RA 0 3 墓土上炭層	3.1	3	0.9	9.37	全周研磨	?	隆起 器面摩耗
167	RA 0 3 墓土	2.7	2.6	0.5	4.92	全周研磨	R L R	沈線(凹様)文
168	RA 0 3 墓土上部	2.8	2.4	0.8	7.35	全周研磨	R L R	崩消?
169	RA 0 3 墓土上部	2.2	2	0.6	3.12	全周研磨	R L R ?	地文のみ 小型
170	RA 0 3 墓土下部	2.9	2.8	1	10.91	部分研磨		無文
171	RA 0 3 墓土中部炭層	3.4	3.2	1	11.87	部分研磨	R L R ?	隆起 中期
172	RA 0 3 墓土中部	3.4	2.9	0.9	11.69	部分研磨	L R ?	地文のみ
173	RA 0 3 墓土	5.9	5.7	0.7	30.87	部分研磨	R L R	地文のみ
174	RA 0 3 墓土上部	4	3.5	0.7	12.68	部分研磨		無文
175	RA 0 3 墓土	2.8	2.6	1	7.25	部分研磨	L R	0段多条 隆帶 後期
176	RA 0 3 墓土中部	2.5	2.3	0.9	6.94	部分研磨	L R ?	地文のみ いびつ
177	RA 0 3 墓土上部	3.1	2.7	0.7	7.76	打ち欠き	R L	地文のみ いびつ
178	RA 0 3 墓土中部	3	3	1	10.68	打ち欠き		沈線文?
179	RA 0 3 墓土中部炭下	3.6	3.4	1.2	18.67	打ち欠き		無文
180	RA 0 3 墓土上部	3.7	3.6	0.8	12.63	打ち欠き	R L L	沈線文
213	RA 0 4 P 7	4.8	4.7	0.5	16.89	全周研磨	L R	地文のみ
214	RA 0 4 P 2	2.7	2.6	0.7	5.89	全周研磨		無文
215	RA 0 4 P 9	3	2.7	0.7	6.47	全周研磨	R L L	地文のみ
216	RA 0 4 墓土	1.5	1.4	0.9	2.32	全周研磨		無文 小型
225	RA 0 5 墓土下部~床直	3.7	3.4	0.9	14.72	部分研磨	L R ?	地文のみ 赤色塗彩?
256	RA 0 5 墓土下部	3.8	3.8	0.7	13.47	部分研磨	R ?	地文のみ 摂糸文
282	RA 0 6 墓土	4.6	4	0.8	17.04	打ち欠き	L R ?	地文のみ 摂糸文? いびつ
303	RA 0 8 N O 2 墓設土器	4.5	4	0.7	16.64	打ち欠き	R L R	地文のみ いびつ
304	RA 0 8 N O 2 墓設土器	4.2	4.1	0.6	16.07	部分研磨	L R	地文のみ いびつ
305	RA 0 8 墓土	2.6	2.3	0.6	4.35	部分研磨	?	刺突文? 器面摩耗
388	B区東P 3 3 墓土	3.1	2.8	1	11.25	部分研磨	R L ?	地文のみ
389	B区東P 3 4 墓土	4.1	4.1	0.7	16.01	部分研磨	R L R	地文のみ
420	C 2 - P 7.2 墓土	4.1	3	0.8	12.93	部分研磨	?	沈線文? 摂糸文?
442	RD 0 4 墓土3層	4.8	4.4	0.7	18.64	部分研磨	L R	地文のみ 摂糸文
443	RD 0 4 墓土下部	3	2.9	0.6	7.5	部分研磨	R L R	沈線文
444	RD 0 4 墓土2層	3.1	2.5	0.6	5.99	部分研磨	R L R	地文のみ
466	RD 0 9 墓土2層	3.1	2.8	0.9	7.71	部分研磨	R L R	地文のみ いびつ
467	RD 0 9 墓土下部	3.3	3	0.8	7.93	打ち欠き	L R	沈線文 磨消
468	RD 0 9 墓土上部	3.9		0.6	8.18	打ち欠き	R L	地文のみ 器面摩耗 1/3裂欠損
585	RD 0 3 墓土中部	3.2	3.1	0.5	7.37	部分研磨	?	地文のみ 器面摩耗
586	RD 0 3 墓土中部	3	2.7	1	11.37	部分研磨		無文 いびつ
587	RD 0 3 墓土下部	3.2	3.1	0.5	7.67	打ち欠き		無文
588	RD 0 3 墓土4層	3.3	3.1	0.5	6.9	打ち欠き	L R	地文のみ
599	RD 0 6 墓土上部	4.1	4	0.8	18.25	全周研磨	R L R	地文のみ
600	RD 0 6 墓土	4.1		0.9	11.5	打ち欠き	R L R	地文のみ 1/2欠損
615	RD 0 7 墓土	2.2	2.1	0.8	4.18	全周研磨	?	地文のみ 器面摩耗 小型
616	RD 0 7 墓土	2.5	2.5	0.7	5.77	全周研磨		無文 ミガキ
617	RD 0 7 墓土	2.6	2.5	0.7	5.9	全周研磨	L R	地文のみ
618	RD 0 7 墓土	2.5	2.4	0.8	6.09	全周研磨		無文 ミガキ

図版No.	出土地点	長径	短径	厚さ	重量	周辺加工	原体	備考
619	R D 0 7 粘土	3	3	0.8	8.51	部分研磨	R L ?	地文のみ 器面摩耗
620	R D 0 7 粘土	2.8	2.3	1.2	9.58	部分研磨		無文
653	R D 2 9 粘土	4.2	4.1	0.7	17.23	部分研磨	L R ?	地文のみ 丸帯びた三角形
675	R D 3 3 粘土	4.1	3.7	1	20.24	打ち欠き	L R	地文のみ
676	R D 3 3 粘土	3.8	3.6	0.8	15	打ち欠き	R L R	沈線文
704	R D 4 1 粘土	2.9	2.8	1	7.25	部分研磨	?	縦帯 器面摩耗
705	R D 4 1 粘土	2.8	2.6	0.7	6.93	部分研磨	?	地文のみ 器面摩耗
735	R D 4 5 粘土	4.3	4.2	0.6	15.52	部分研磨		無文 器面摩耗
771	R D 4 6 粘土	4.2	4.1	0.7	16.85	打ち欠き	R L R	地文のみ
772	R D 4 6 粘土	3.2	2.8	0.8	7.98	部分研磨		無文 器面摩耗 いびつ
789	R D 5 2 粘土	3.9	3.8	0.6	12.63	部分研磨	L R	地文のみ 器面摩耗
2765	H III II 層	3.5		1.1	9.53	部分研磨	1 ?	鈎糸文？ 粘土に織維（多） 1／3欠損
2766	D IV II 層	4.5	4	1.1	16.51	打ち欠き	R ?	地文のみ 鴨糞文 粘土に織維（多） 前期
2767	B III II 層	2.9	2.4	0.7	5.06	打ち欠き		器面摩耗 粘土に織維 一部破損 前期
2768	F N II 層	3.8	3.5	0.9	13.99	部分研磨		S字状進銀波文 表上に織維（少） 前期
2769	F N II 層下部	5.6	3.9	0.7	22.32	部分研磨		S字状進銀波文 粘土に織維（少） 特円形
2770	F N II 層	2.9	2.9	1	11.23	全周研磨	L ?	織み目状鶏糞文
2771	I N II 層中部	5.5	5.1	0.7	25.73	部分研磨		沈線文 いびつ スス付着 NO744と同一個体
2772	I N II 層中部	5.8	5.5	0.8	33.26	部分研磨		沈線文 いびつ
2773	I N II 層下部	6.1	5.7	0.8	37.92	部分研磨		沈線文 いびつ スス付着 NO744と同一個体
2774	I N II 層中部	6.3	5.8	0.7	38.98	部分研磨		沈線文 いびつ スス付着 NO744と同一個体
2775	H N II 層	5.8	5.1	0.8	26.82	部分研磨		沈線文 表面スス付着 NO597と同一個体
2776	H N II 層	6.3	6.1	0.9	42.9	部分研磨		沈線文 いびつ 前縫？
2777	H N II 層	7.4	6.9	0.7	43.22	部分研磨		沈線文 表面スス付着 NO597口縫 部残存
2778	I V II 層	5.3	6	1	43.65	部分研磨	L	沈線区間崩壊 沈線文 いびつ
2779	I III II 層	3.4	3.1	0.9	10.43	全周研磨	L R · R L	結束羽状繩文
2780	I III II 層	4.5	4.4	0.9	21.78	全周研磨	L R · R L	結束羽状繩文
2781	E III II 層	1.8	1.8	0.6	2.36	全周研磨		沈線文？
2782	J III II 層	2	1.9	0.7	3.35	全周研磨	?	沈線区画磨消
2783	C V II 層	2.5	2.5	0.7	6.98	全周研磨		無文 ミガキ
2784	C IX II 層	2.8	2.5	0.6	5.01	全周研磨		無文 ナデ いびつ
2785	F III II 層	2.8	2.6	1	10.44	全周研磨		低い隆脊
2786	C II II 層	2.7	2.7	1.1	9.14	全周研磨	L R L ?	地文のみ
2787	F III II 層中部	2.8	2.6	0.7	7.75	全周研磨	R L R ?	剥落
2788	F V II 層 (2)	3.6	3.5	0.9	7.6	全周研磨	R L R ?	地文のみ 表面周囲取
2789	E V II 層中部	3.1	3	0.9	9.37	全周研磨		隆帯+斜尖列
2790	F V II 層上部	3.4	3	0.5	6.3	全周研磨	R L R	地文のみ
2791	E II - N III 層 (6 ~ 8)	3.5	3.3	1	11.66	全周研磨	R L R	隣帯区画 滅消
2792	H III II 層	3.4	3.3	1	10.87	全周研磨	L R	隣帯区画 滅消
2793	E VII II 層	3.5	3.5	0.9	12.68	全周研磨	L R ?	地文のみ 増加条？ 地文のみ
2794	F V II 層中部	3.7	3.6	0.6	9.58	全周研磨	R L ?	沈線区画磨消
2795	J I II 層 (2)	3.7	3.6	0.7	11.19	全周研磨	?	沈線文 器面摩耗 表面周囲取
2796	G III II 層	3.4	3.2	1.2	13.36	全周研磨		隆帯+斜み
2797	H N II 層	3.8	3.5	0.7	13.11	全周研磨	R L ?	隣帯区画磨消 表面上未貫通の穿孔
2798	C V II 層中部	3.9	3.9	1	18.43	全周研磨	R L R	地文のみ

番号	出土地点	長径	短径	厚さ	重量	高さ加工	原体	備考
2799	F IV II層	3.8	3.7	0.8	15.61	全周研磨	R	撫糸文 地文のみ
2800	J V II層	4.2	3.8	0.7	12.76	全周研磨	R	地文のみ 表面凹凸面取
2801	F IV II層	4.2	4	1.1	21.86	全周研磨	R L R ?	沈縫区画透溝
2802	H V II層	4.2	4.1	0.8	16.22	全周研磨	R L	地文のみ
2803	G IV II層	4.2	3.9	1	17.58	全周研磨	L R	隆帯区画透溝
2804	D V II層	4	3.9	0.8	15.15	全周研磨	R L	地文のみ 器面摩耗
2805	I II II層	4.4	3.6	0.7	16.75	全周研磨	R L	地文のみ いびつ
2806	I V II層中部	4.5	4.2	0.8	20.58	全周研磨	L R ?	隆帯区画透溝
2807	I IV II層下部	4.5	4.1	0.7	18.03	全周研磨	R ?	沈縫区画透溝 撫糸文
2808	F V II層	4.4	4.2	0.7	13.46	全周研磨	R L R ?	地文のみ 器面摩耗
2809	H I II層	4.6	3.7	1	16.82	全周研磨		隆帯+削み いびつ
2810	F IV II層(5)	5.2	3	0.7	14.74	全周研磨	R L R	地文のみ 横円形
2811	G V II層	4.8	4.2	0.7	17.53	全周研磨	R	縦目状撫糸文 地文のみ いびつ
2812	E IV II層	4.8	4.7	0.6	14.44	全周研磨	R L R	地文のみ
2813	J IV II層	4.7	4.3	1.3	21.77	全周研磨	L R	0段多柔 隆帯+沈縫区画 土器片兼?
2814	I IV II層	5.1	5	0.7	22.37	全周研磨		沈縫区画の剥穴
2815	E IV II層	4.9	4.7	1	24.87	全周研磨		沈縫区画の剥穴列
2816	C II III層	5	4.9	0.9	25.72	全周研磨	?	地文のみ 器面摩耗
2817	F II II層	4.9	4.5	1	23.98	全周研磨	L	隆帯+剥突列
2818	E V II層	4.7	4.6	1	27.83	全周研磨	L R ?	隆帯区画
2819	I IV II層	5	4.8	0.6	19.79	打ち欠き	L R	沈縫文 いびつ
2820	I IV II層	5.6	5.3	0.8	29.34	全周研磨	R L R	地文のみ
2821	E III - IV II層(6~8)	5.3	5.1	0.7	26.5	全周研磨	R L R	地文のみ
2822	E V II層	3.7	3.7	0.8	10.91	全周研磨		剥突列
2823	F V II層(15)	5.6	5.4	1.3	37.95	全周研磨	R L R	隆帯+削み
2824	G V II層	5.1	5.1	1	24.57	全周研磨		無文 三日月状貼付文
2825	F III II層	5.5	5.3	0.6	22.7	全周研磨	R L R ?	沈縫区画透溝
2826	F IV II層	5.3	2.5	1.1	29.88	全周研磨		網代裏 底部
2827	E IV II層	4.9	2.7	1	11.03	全周研磨		網代裏 底部 いびつ
2828	H V II層	3	2.9	0.7	6.27	全周研磨	R L ?	地文のみ 器面摩耗 三角形 表面周凹面取
2829	K V II層中部	3.5	3.1	0.3	6.62	全周研磨	R L R ?	地文のみ 三角形
2830	D N II層(23)	3.9	3.6	0.6	10.71	全周研磨		無文 ミガキ ハート形
2831	G III II層	4.3	3.9	0.5	10.74	全周研磨		隆帯 いびつな三角形
2832	H I II層	2.4	2.3	0.7	4.94	部分研磨	R L ?	器面摩耗
2833	F V II層	2.4	2.3	1	5.79	部分研磨	L R L	地文のみ
2834	E IV II層	2.7	2.6	0.6	5.15	部分研磨	R L	地文のみ
2835	F II II層	3	2.8	0.7	8.07	部分研磨		無文 いびつ
2836	F II II層	3.1	2.9	0.5	5.75	部分研磨	L R	沈縫区画透溝
2837	F III II層	3.3	3	0.8	11.11	部分研磨	R	地文のみ 撫糸文
2838	E V II層上部	3.1	3.1	0.8	9.5	部分研磨	R L R	地文のみ
2839	E IV II層	3.2	3.2	0.7	9.5	部分研磨	L R	地文のみ NOR78と同一個体
2840	F IV II層	3.2	3	0.6	8.61	部分研磨		沈縫文
2841	D IV II層	3.5	3.3	0.7	9.89	部分研磨	R L	地文のみ
2842	H I II層	3.5	3.5	0.7	11.2	部分研磨	L R	沈縫文
2843	O 番	3.6	3.5	0.6	9.09	部分研磨		隆帯+沈縫 いびつ

図版No.	出土地点	長径	短径	厚さ	重量	周辺加工	原体	備考
2844	F N II層	3.4	3.3	0.8	11.68	部分研磨	R L	0段多条 沈縫区画磨消
2845	G V II層	3.6	3.5	0.8	12.21	部分研磨	L R	一部ミガキ 一部口縁
2846	C区II層	3.7	3.2	0.8	12.57	部分研磨	R	熱糸文 地文のみ いびつ
2847	E V II層中部	3.7	3.5	0.8	12.91	部分研磨	R L R	地文のみ
2848	F N II層	3.4	3.3	0.9	13.09	部分研磨	R L R	地文のみ
2849	G III層上部	3.7	3.4	0.7	10.61	部分研磨	L R	縫帶-沈縫区画
2850	B N II層	3.8	3.4	0.8	13.27	部分研磨	L R	地文のみ
2851	F III II層	3.8	3.4	1	17.17	部分研磨	?	器面磨耗 四丸二角形
2852	D V II層	3.9	3.5	0.8	14.88	部分研磨	R L R	沈縫区画磨消
2853	F N II層	3.8	3.6	0.6	11.35	部分研磨	R L R	沈縫区画 磨消
2854	E N II層	5.3	4.9	0.8	26.86	部分研磨	R L R	縫帶区画磨消
2855	F V II層	3.9	3.8	0.7	12.97	部分研磨	R L ?	一部ナゲ
2856	G N II層	3.9	3.9	1.1	21.1	部分研磨		沈縫区画 刺突列
2857	F V II層	3.9	3.9	0.9	20.14	部分研磨	L R ?	不整熱糸文 一部ナゲ
2858	E N II層(4-5)	4.1	4.1	0.8	17.9	部分研磨	L R	沈縫区画磨消 口縁一部残存
2859	G N II層中部	4.1	3.8	0.7	13.8	部分研磨		無文 ミガキ
2860	I III層風倒木	3.9	3.8	0.8	14.42	部分研磨	R L R	地文のみ
2861	F N II層下部	4	3.5	0.7	12.18	部分研磨	L R	沈縫区画磨消
2862	B V II層	4.1	4	0.7	12.42	部分研磨	L R	地文のみ 热糸文
2863	H N II層	4.3	4.2	0.8	16.55	部分研磨	L R	地文のみ 器面磨耗 多角形
2864	G V II層	4.2	4.2	0.7	16.52	部分研磨	R ?	热糸文 沈縫区画 磨消
2865	I IV II層下部	4.1	4	0.7	16.61	部分研磨	R L	沈縫区画磨消
2866	B V II層	4.2	4.1	0.7	15.26	部分研磨		無文 ミガキ 内外面赤色塗彩
2867	J V II層	4.5	4.1	1.1	21.12	部分研磨		無文 底部? 縫邊に抉入
2868	J V II層	4.2	4	0.9	18.59	部分研磨		網代痕 底部
2869	L III II層下部	4.3	3.9	0.8	15.17	部分研磨	R L	地文のみ 縫邊に抉入
2870	F N II層	4.2	4.1	0.8	18.8	部分研磨	L R	地文のみ
2871	C IX II層	4.3	3.8	1.2	20.44	部分研磨	L	縫帶区画 磨消 いびつ
2872	H III II層	4.4	4.3	1	21.64	部分研磨	R L R	低い縫帶区画磨消 いびつ
2873	E V II層中-下部	5	3.8	0.7	17.25	部分研磨	R	地文のみ いびつな格円形 热糸文
2874	F N II層	4.3	4.5	0.9	20.19	部分研磨		縫帶 いびつ
2875	G III II層	4.5	4.3	0.9	19.86	部分研磨		S字状連續沈文? 脱土に織痕(少)
2876	G N II層	4.7	3.6	0.6	15.8	部分研磨	L R	沈縫区画磨消
2877	K II II層	4.3	4.3	0.7	18.02	部分研磨	R	地文のみ 热糸文
2878	E V II層中部	4.2	4.1	0.8	21.12	部分研磨	L R	沈縫区画磨消 いびつ
2879	E N II層	4.1	3.8	0.9	19.61	打ち欠き	L R ?	沈縫区画 磨消
2880	G III II層下部	4.7	4.5	0.9	20.96	部分研磨		縫帶-沈縫 一部口縁
2881	I II II層	4.6	4.5	0.9	22.27	部分研磨	?	热糸文? 沈縫区画 いびつ
2882	C III II層中部	5	4.8	1	29.23	部分研磨	L R ?	縫帶区画磨消
2883	D V II層	4.9	4.6	1	29.04	部分研磨	L R	地文のみ
2884	G V II層	4.8	4.6	0.9	21.13	部分研磨	R L ?	地文のみ 六角形
2885	D N II層	4.6	4.4	0.8	20.56	部分研磨	R L	沈縫区画 磨消 脱土に海綿骨針 いびつ
2886	C 2 J 2 1柱穴群	4.8	4.7	0.8	22.66	部分研磨	L R	沈縫文 磨消
2887	F II II層(8)	5.8	4.1	0.9	23.28	部分研磨	R L	縫帶区画磨消 格円形
2888	G N II層中部	5.5	5.2	0.7	21.58	部分研磨	R L R	刺突文

断面No.	出土地点	長径	短径	厚さ	重量	周辺加工	原体	備考
2889	G III 層	5.4	5.3	0.7	23.39	部分研磨	L R	隆帯
2890	D V II 層	5.3	5.2	1	31.73	部分研磨	L R	地文のみ
2891	H IV II 層	6	5.1	0.9	34.56	部分研磨		錠帶 いびつ
2892	E V II 層中部	5.9	5.3	0.9	31.11	部分研磨	R L R	地文のみ 銀円？ 本製品？
2893	D V II 層下部	7	6.5	0.8	48.42	部分研磨	L R	地文のみ いびつ 大型
2894	D V II 層下部	7.9	7.8	0.7	45.47	部分研磨	R L R	沈線区画磨消 大型
2895	H III II 層上部	4.5	4.3	0.9	16.77	部分研磨		木葉文 底部 内面削落
2896	H V II 層中部	6	5.3	1	37.69	部分研磨		網代旗 底部 いびつ
2897	F IV II 層 (5)	3.6	3.3	0.8	13.64	部分研磨	L R	地文のみ 不整四角形
2898	I I II 層	5.3	4.8	0.8	33	部分研磨	L R	地文のみ 四角形
2899	I I II 層	5.7	5.4	0.9	36.33	部分研磨	L R	1段多角 沈線区画磨消 不整四角形
2900	E IV II 層	2.5	2.2	0.5	3.04	部分研磨	L R	沈線区画磨消 三角形 内外面赤色塗彩
2901	I I II 層	5.1	4.6	0.8	20.09	部分研磨	R L	地文のみ 三角形
2902	H V II 層中部	4.5	4.3	0.7	14.07	金剛研磨	L R ?	隆帯+沈線 ハート形
2903	E II II 層	5	4.6	0.7	20.06	個別研磨	?	沈線区画 ハート形
2904	E III II 層	5.8	5.5	1	33.23	部分研磨	R	地文のみ 熟糸文 不整三角形
2905	F III II 層 (6)	1.9	1.8	0.7	3.05	打ち欠き	R L R	地文のみ
2906	D V II 層	2.5	2.4	0.8	5.84	打ち欠き	L R	地文のみ
2907	H III II 層	3.7	3	0.8	11.9	打ち欠き	R L	地文のみ いびつ 削落？
2908	C 区 II 層	3.7	3.6	0.8	12.19	打ち欠き	R L R	沈線区画 磨消
2909	D IV II 層	3.7	3.7	0.9	15.08	打ち欠き	L	地文のみ 熟糸文
2910	G V II 層	4.2	3.8	0.6	13.65	打ち欠き	R L ?	沈線区画磨消 いびつ
2911	D V II 層	4	3.7	0.9	15.95	打ち欠き	R	地文のみ 熟糸文
2912	B V II 層	4.2	3.7	0.8	15.75	打ち欠き	R L R	沈線文 磨消 いびつ
2913	E V II 層中部	4.3	3.8	0.6	14.21	打ち欠き	?	沈線区画磨消
2914	J II II 層	4.6	3.7	0.9	18.5	打ち欠き	L R	隆帯+沈線・刺突列 いびつ
2915	C IV II 層上部	5.2	4.7	0.8	23.37	打ち欠き	L R	隆帯+刺突列
2916	D IV II 層	4.5	4.5	0.9	21.5	打ち欠き	L R	沈線区画 磨消 路土に海緋骨針
2917	A V II 層	4.8	4.7	0.9	25.04	打ち欠き	1	熟糸文？ 沈線区画 磨消
2918	D V II 層	4.8	4.6	0.9	23.66	打ち欠き	?	沈線区画磨消 ミガキ
2919	C V II 層上部	4.9	4.7	0.9	21.81	打ち欠き	R L ?	低い隆帯区画 ナデ 口縁一部残存
2920	B V II 層	4.9	4.8	0.7	19.06	打ち欠き	R L R	沈線・隆帯 磨消
2921	D IV B 層	5	4.9	1	28.29	打ち欠き	L	隆帯+刺突 熟糸文 いびつ
2922	I II III II 層	5	4.9	0.7	25.83	打ち欠き	r ?	地文のみ 熟糸文 いびつ
2923	I IV II 層下部	5.3	5.1	0.8	24.42	打ち欠き	L R	沈線区画磨消
2924	D IV II 層	5.6	5.3	1	34.37	打ち欠き	R L R	地文のみ
2925	D V II 層	5.5	5	0.7	22.74	打ち欠き	L R	沈線区画磨消
2926	B V II 層	5.4	5.3	0.8	30.3	打ち欠き	R L R	地文のみ
2927	D V II 層	6	5	0.8	34.99	打ち欠き	L R	隆帯区画 いびつ
2928	C V II 層上部	6.9	6.3	0.8	40.48	打ち欠き		隆帯+刺突列 ミガキ 口縁一部残存
2929	E V II 層中部	4.9	4.6	1.3	36.41	打ち欠き		網代旗 底部
2930	E IV II 層	3.3	3	0.9	9.97	打ち欠き	r ?	地文のみ 熟糸文 四角形
2931	F V II 層	3.3	3.2	0.8	9.79	部分研磨		隆帯+網み
2932	H III II 層	3.4	3.2	0.1	6.6	部分研磨		隆帯+刺突
2933	I IV II 層下部	3.7	3.3	0.8	12.24	打ち欠き	L R	隆帯+沈線 いびつ

器皿No.	出土地点	長径	短径	厚さ	重量	周辺加工	原体	備考
2934	G V II層	3.5	3.4	0.6	16.84	部分研磨	?	ボタン状の貼付文
2935	E V II層中部	3.9	3.8	0.6	10.87	部分研磨		隆帯+刻み
2936	E V II層	4.2	4.2	0.9	19.65	部分研磨	?	沈線文
2937	F VI II層	4.4	4.1	0.6	14.12	部分研磨	R L ?	沈線文
2938	H V II層下部	4.7	4.1	0.9	22.14	部分研磨		隆帯-沈線文 いびつ
2939	J III II層	4.9	4.4	0.7	18.08	部分研磨	R ?	撲条文 沈線文
2940	G V II層	4.8	4.2	1.1	26.65	部分研磨	R L	沈線区画磨消 いびつ
2941	H II II層	4.6	4.5	1	22.41	打ち欠き	R ?	隆帯+刻み
2942	H II II層	5.1	4.9	1.1	25.65	部分研磨		隆帯+刻み
2943	E IV II層	5	4.7	0.9	27.88	打ち欠き	R ?	沈線区画磨消 撲条文
2944	D VII II層	5.4	5.2	0.9	31.23	打ち欠き	L R ?	隆帯・刻み
2945	I III II層	6	5.8	0.8	42.44	部分研磨	L R	沈線文 NO657と同一原体

Vまとめ

1. 遺構

検出された遺構は、縄文時代の整穴住居跡(以下、住居跡と略す)8棟、掘立柱建物跡3棟、柱穴115基、柱穴状小土坑272基、上坑80基、炉・焼土・遺構7基、遺物包含層(捨て場)1箇所等である。検出された遺構の種類から今回の調査区は、集落の居住域であることが確認された。遺跡は南西に張り出す舌状の丘陵全域への広がりを持つが、調査区は南端の極一部で遺跡全体は勿論、集落構造を類推するにあたっても充分な資料とは言えない。ここでは、主体をなす住居跡、掘立柱建物跡及び捨て場についての概略に若干の考察を加えまとめてみたい。

(1)整穴住居跡

出土遺物及び重複関係から推定される時期は次のとおりである。RA01：中期末葉(Ⅲ群3b類)、RA02：中期末葉(Ⅲ群3b類)、RA03：中期後葉(Ⅲ群2b類)～中期末葉(Ⅲ群3b類)、RA04：中期末葉(Ⅲ群3b類)、RA05：中期末葉(Ⅲ群3a類)、RA06：中期後葉(Ⅲ群2b類)～中期末葉(Ⅲ群3a類)、RA07：中期後葉～末葉(詳細は不明)、RA08：中期末葉(Ⅲ群3b類)。なお、炉跡として扱ったRF02は中期末葉(Ⅲ群3b類)、RF03は中期末葉(Ⅲ群3b類)、RF04は中期末葉？(Ⅲ群3？類)、RF06・07は後期初頭(Ⅳ群2類)の住居跡である可能性がある。

前述のとおり調査区が狭いことや、開田時の削平のために消滅した住居跡が存在する可能性も高い。したがって住居跡の分布について見かけから一概に論じられないが、住居跡や炉跡はB区～C区の北西側にかけて径約50mの弧状の分布として捉えることができる。

規模を明確に把握できたものはRA06だけである。柱穴の分布等からの推定であるが、床面積で20～25m²前後の規模のものが多いと考えられる。しかし、RA03は推定される床面積が約60m²と大型である。

ほとんどの住居跡で建て替えが行われていた痕跡が発見されている。最も顕著なものはRA03で、炉及び弊溝の在り方から少なくとも2～3回の建て替えが行われたことが窺われる。しかし、炉の埋設土器は2つの土器型式(今回の土器区分では3期)にまたがっている。残念ながら、住居跡がこれらを通じて存在し続けたかどうかを判断できる資料は得られていない。なお、他の住居跡でも炉内の埋設土器に新旧が見られるなど、炉の造り替えは頻繁に行われていたようである。

また、埋土上部の状態は不明であるが、時期的に連続する住居跡がそれぞれ重複するRA04～RA06の上層断面には特に埋め戻しの痕跡は認められず、古い住居跡がある程度埋没しきってから新しい住居を建てていたようである。

炉はRA01・02を除いてい所謂「複式炉」¹⁾である。一部不明確なものもあるが、埋設土器を伴うこれに石圈部と前庭部を備えた「上原形複式炉」に近い形態を有するものが4棟(7基)で確認された。時期的には、Ⅲ群2b類期からⅢ群3b類期にあたるが、Ⅲ群3b類期では地床炉や配石炉に埋設土器を伴う簡略化された形態のものも存在する。なお、埋設土器はⅢ群2b類期では全て正位での埋設であるが、Ⅲ群3類期になると斜位のものが現れる。また、前者は炉の長軸上に埋設されているが、後者では横にはみ出す形のものが多く、Ⅲ群2類期：正位・軸上、Ⅲ群3類期：斜位・はみ出しと時期的な変遷をたどることができる。

後世の削平と住居同士の重複により不明確な部分も多いが、このような炉の変遷は花泉町下館銅屋遺跡でも同様な傾向を見いだすことができる。また、Ⅲ群3b～c類期の盛岡市湯沢遺跡では、複式炉はほとんどなく、単式炉に埋設土器を伴う形態の炉が多い。なお、炉内に形成される焼土層は、いずれも埋設土器の周

辺が最も厚く、炉内の使い分けを示唆している。

(2) 据立柱建物跡

前述のとおり大型柱穴の検討を十分行っておらず、3棟以外にも建物跡が存在する可能性もある。

出土物が少なく明確な時期を判断できる材料は少なくが、住居跡との重複関係から推定して後期初頭期の遺構の可能性が高い。柱穴群としては、住居跡と同様に直径50~60cm前後の環状の分布として捉えることができる。しかし、僅かにRF06・07が該当期の住居跡の可能性があるものの、住居跡は全て中期の遺構で、時期的に直接集落構成には係わらない。なお、県内では該期の住居跡の検出例はほとんど無く、この点でも詳細は不明と言わざるを得ない。

なお、据立柱建物跡の性格については、葬儀礼闇施設(佐々木：1994)、居住施設(石井：1995)、共同の貯蔵施設(佐々木(藤)：1984)等が提唱されている。しかし、今回の調査における遺構検出状況からは、機能を推定できる資料は得られていない。

今回の調査で特に注目すべきは、B区西側で検出された柱穴群と据立柱建物跡であろう。規模は掘り方直径が1m前後、柱痕跡の直径が60~80cmと県内でこれまで検出された柱穴では最大である。若干外れるものもあるが25基が約10×7mの長方形の範囲に重複して分布し、この内8基がRB02・03の2棟の建物跡を構成している。もちろん、調査区の幅及び削平等の影響も考慮しなければならないが、上記の分布域以外では痕跡も検出されておらず、ほぼこの区域に限定できると考えて良かろう。この他の建物の想定にあたっては両側に張り出しを持つ6角形の配置や、二戸市寺久保遺跡で報告のある5角形の配置、さらに上屋構造を支えるための最小形である三角形の配置も考えたが、いずれの場合も全ての柱穴を使用することはできなかった。この場合、柱自体がある種のモニュメントとしての性格付けも可能となり、「マツリ」等特別の場合のみ何らかの上屋を構築する使用方法も考えられる。検出例の増加を待たなければならぬが、当遺跡においては、常時上屋構造を持って立っていた建物としての扱いには注意を要することを目指しておきたい。

(3) 捨て場

居住域に東側に隣接する崖地を利用した「捨て場」で、集落内での位置も最も合理的な占地といえる。遺物や廃棄土は、居住域側から順次斜面の下部(南側)及び遠方(北東側)に堆積していることが確認されており、廃棄行為についても特別な様相は認められない。しかし、居住施設が明確ではない後期の遺物も多く、これらが何処から供給されたかは検討課題である。また、包含層中から検出された大型の焼土遺構RF01の性格についても課題を残す。この焼土遺構は、中期末葉期(Ⅲ群3b類期)の層からの検出で、4.2×2.5m、厚さ40cmの規模を有する。当初別地域で形成されたものの廃棄と考えたが、一部で汚れが全く見られない新鮮な焼土層も見られるところから、現地性焼土の可能性もある。1998年度に調査が行われた一関市清水遺跡の捨て場中から同様な焼土遺構が検出され、担当者は「廃棄儀礼」に伴う祭祀遺構の可能性を示唆している。

包含層中には土器・石器の他に焼獸骨が含まれていた。県内でも包含層からの焼獸骨の発見例は増加しており、先の清水遺跡からも出土している。これについて西本豊弘氏は、廃棄行為に係わる祭祀儀礼の一種ではないかとの指摘をしており(西本：1983・1997)、焼土遺構の存在もこれを裏付ける一事例かも知れない。

2. 遺物

今回の調査で出土した遺物は、コンテナで310箱約4tである。この内9割以上を土器が占める。時期別には縄文時代早期中葉、前期前葉～末葉、中期前葉、中期後葉、中期末葉、後期初頭、弥生土器、上師器があり、主体を成しているものは中期後葉～後期初頭期(Ⅲ群2類～Ⅳ群土器)である。これらについての集成

図を第221図—第228図に示した。ここでは図を基に概略を説明する。

1~10をⅢ群2類とした。横線が隆帯の1~3がa類、沈線の4~10がb類である。なお、10は次段階の要素を多く持っている。

11~98はⅢ群3類土器である。胴部に縄文帯が大きく展開するする11~26をa類とした。11~12は胴下半部の縄文帯が無く、より古い要素を持つ。13~16は当類の指標としたRA05住居跡の埋設上器群である。上端部は不明であるが、充填手法による縄文帯が横位に展開している。13は微隆起線を伴う沈線による区画(描線)で、他は隆帯によって文様が描かれている。この傾向は類内でも同様で、文様が隆帯で区画されるものが多い。

27~69をb類とした。文様区画は沈線によるものが増加するが、全体では隆帯によるものが多い。27~52は沈線によって文様が表出される上器である。27~31等はまだ縄文帯が文様を構成するように見えるが、上端部が平坦なものとなっている。また、一部に充填手法が残存するが、磨り消し手法のものが増える。36~42には三日月状(鱗状)の貼り付け装飾がつく。48~52はJ字状の無文帯が連結するもので、よりc類に近い様相を呈する。

53~69は隆帯による区画の土器である。53~54は充填手法の縄文帯が展開し a類により近いが、上端部の無文帯が閉じられている。この傾向は56~59・60・61に顕著で、62~64では数本の隆帯が口縁に沿って巡らされる。65~69は文様帯が口縁部に接するもので、中村(1982)が指摘するように、上端部を切断したよう文様構成を持つ。

なお、沈線文上器と隆帶文土器の明確組成関係を把握することはできなかったが、56を埋設土器とするRA03住居跡の埋土から出土した土器群には、沈線文の土器はほとんど無く隆帶文の土器が卓越している。また、文様の意匠が27~30等と38~47等、53~54等と65~69等では大きく異なり、松本(1999)が指摘するように、これらの中にもう1段階を考えることで、よりスムーズな変遷が辿れるかも知れない。さらに、住居跡や炉の形態等遺構面の変化も加味した検討が課題となろう。

70~89をc類とした。宮城県西ノ浜第四層の土器に類するもので、これをもってⅢ群3類の最新段階とした。70~82等はJ字がより直線化しノ字状になっているものである。また、88~90は横位に直線的、91~93は玉を抱く文様で、いずれの文様も次段階へ継続する。なお、94~98等半粗製土器が出現する。

99~115は併存関係を把握できず、いずれに分類するか迷った土器群である。次段階のメルクマールとした隆帯上に施される2個、3個一対の刻みを持たない一群で、Ⅲ群3c類とⅣ群1類をつなぐ存在の可能性がある。しかし、108~115は文様的には次段階のものと同一で、該期における沈線文系の土器群の可能性も高い。107は方形の区画ないし沈線区画された文様帯を持つが、これも同様な要素といえる。

116~115をⅣ群1類とし、後期初頭期の土器群にあてた。最大の指標は上述のとおり隆帯上の刻みである。器形には116~134等の大型の立体突起を有する朝顔形のものと、135~152等の平線のものがあり、立体突起やこれに関連する注口の頻度が高まるが前段階に極めて類似する。また、文様も前段階から踏襲されたものが多い。しかし、刻みだけを持って一群に分類できるかどうかは疑問を残し、先の108~115の他にも組成関係にある土器が存在する可能性はある。なお、大迫町観音堂遺跡や北上市横町遺跡、八天遺跡で出土しているⅢ群3類に類似する異形の土器群は極僅かである。刻みが斜めになるものや126~127等の胴下部への垂下文様、132~133に見られるボタン状や渦巻き状の貼り付け文など新しい要素を合わせ持つものがある。また、134は次段階のメルクマールである連鎖状の隆帯文と隆帯上の刻みが共存している。

156~167を2類とした。狭義の門前式土器及びこれに併行する土器群で、連鎖状の隆帯(貼り付け文)を特

微とする。前段階に比べて出土量は激減する。多くは突起下部に無文帯が下がるが、157は垂下文様ではなくノ字状を呈する。160～165は4単位の方形区画文タイプのもので、多くは平縁で突起を有するものも極小さい。166は無文帯の曲折部に施される連鎖状の貼り付け文から当類としたが、前段階に伴う土器の可能性もある。167は南東北の網取I式土器で、供伴関係が確認されたわけではないが、従来の編年位置から当類とした。

168～179は3類土器で、宮戸1b式に併行する土器群である。168は口縁部に沿って刻みを有する隆帯が巡り、立体的な突起の存在からも占す要素が強い。174は2類の160や161に類似する文様が沈線によって表出されている。また、177の垂下文は沈線によるもので、当類に含めた。

3類より新しい要素を持つものを4類とした。180・181は網取II式期に見られる磨り消し繩文を持つ。また、182は沈線による幾何学的文様が施され、場之内I式に類似する。

以上、主要な部分を概観したが、県内では例が少なかった隆帯によるⅢ群3a・b類土器やc類土器、Ⅳ群1類上器の好資料を得ることができたことが大きな成果である。今後の該期の土器編年研究の一助となれば幸いである。

3. おわりに

力不足の筆者には荷が重すぎる遺跡であった。限られた時間の中で、「研究者への資料提供」を目指してきたが、遺物の掲載は割愛せざるを得なかった。また、遺構・遺物にたいする検討については全く不十分のままである。しかし、できる限り先の目標の達成に努力はしたつもりはある。最後に、調査から報告書作成に携わっていただいた、現場作業員並びに室内作業員の皆様のご苦労にたいし衷心より感謝申し上げる。

（註）東北南部で見られる整った形のものは少なく、ここでは「複数の施設から構成されるか」として扱っている。

〈参考・引用文献〉

池谷信之（1988）「東北地方における繩文時代中期前象上器の変遷と後期土器の成立」『沼津市博物館紀要』12

本間 宏（1994）「大木10式土器の考え方」『しのぶ考古』10

——（1990）「東北南部における繩文後期前象上器群の変遷過程」『繩文時代の諸問題』

丹羽 茂（1989）「中期大木式十指様式」『繩文土器人』1 小学館

柳澤清一（1988b）「大木10式論」『統考』『北奥古代文化』19

熊谷常正（1986）「門前式土器の再検討」『岩手県立博物館研究報告』4

中村良幸（1986）「觀音堂遺跡」大迫町教育委員会

——（1982）「複式炉について」『考古風土記』第7号

松本達雄（1999）「下館洞窟遺跡発掘調査報告書」（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

高橋文夫他（1977）「郡南村 湯沢遺跡」（財）岩手県埋蔵文化財センター

三浦健一（1982）「湯沢遺跡発掘調査報告書（遺物編）」（財）岩手県埋蔵文化財センター

船村光嗣他（1997）「横穴遺跡」北上市教育委員会

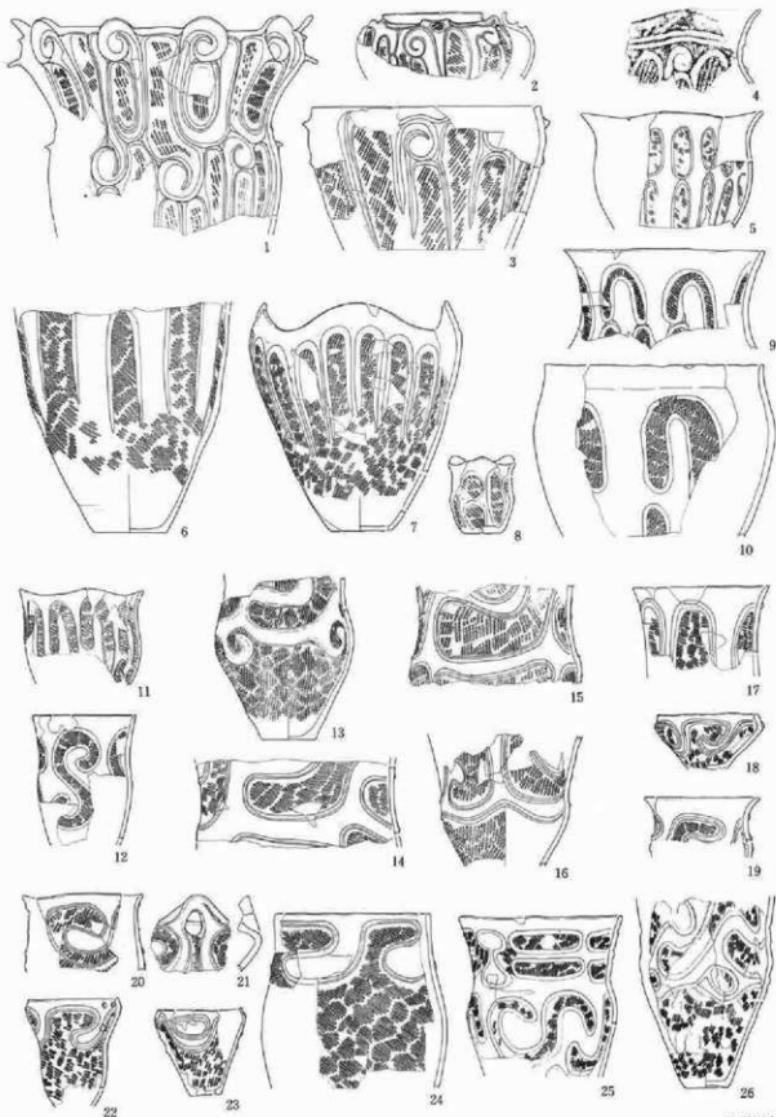
本堂寿一（1978・1979）「八戸遺跡（出版編・本文編）」北上市教育委員会

佐々木藤雄（1984）「方形柱穴列と繩文時代の集落」『異説』11

佐々木勝（1994）「岩手県における繩文時代掘立柱建物跡について」『岩手県立博物館研究報告』12

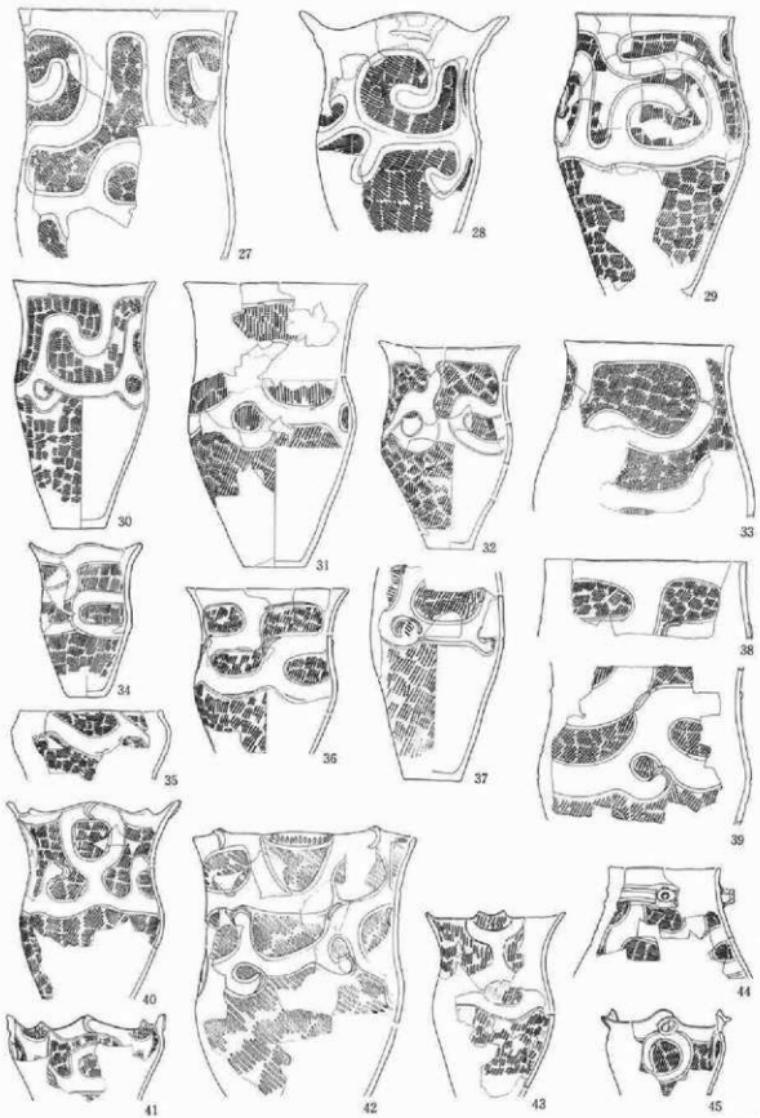
石井 宏（1989）「繩文集落と掘立柱建物跡」『調査研究文録』6

金子昭彦（1996）「寺久保遺跡発掘調査報告書」（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター



第221図 土器集成図(1)

縮尺不定



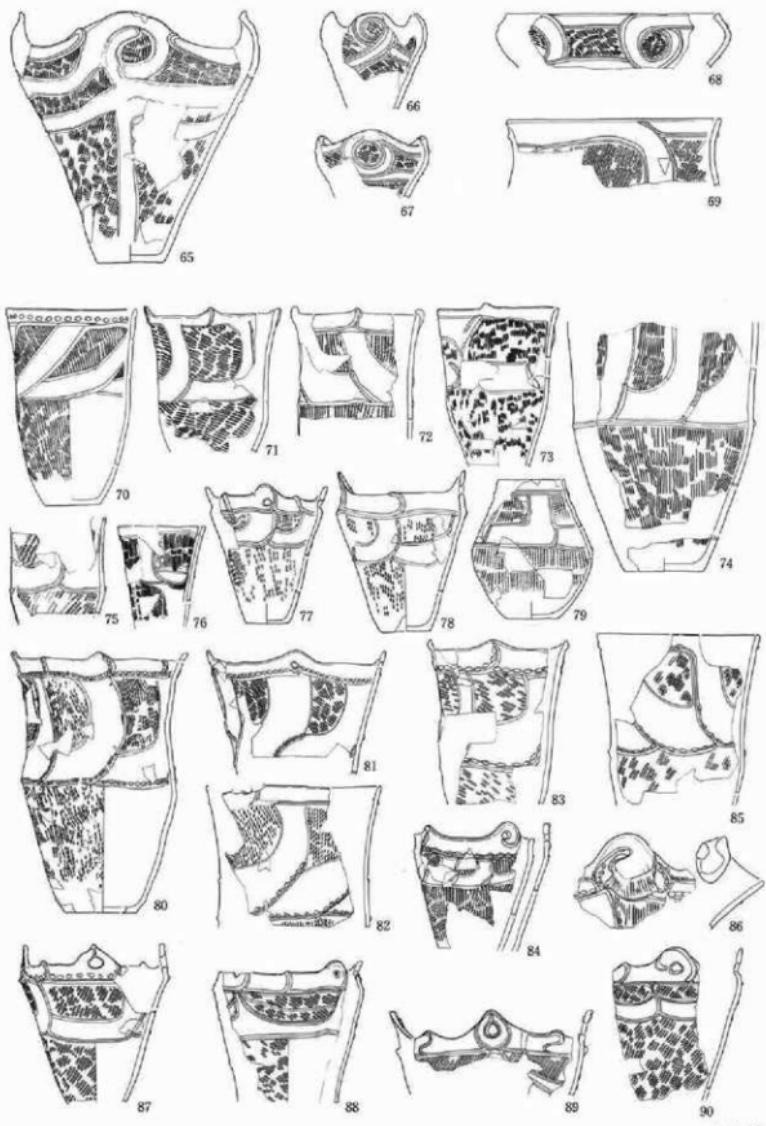
第222図 土器集成図(2)

縮尺不定



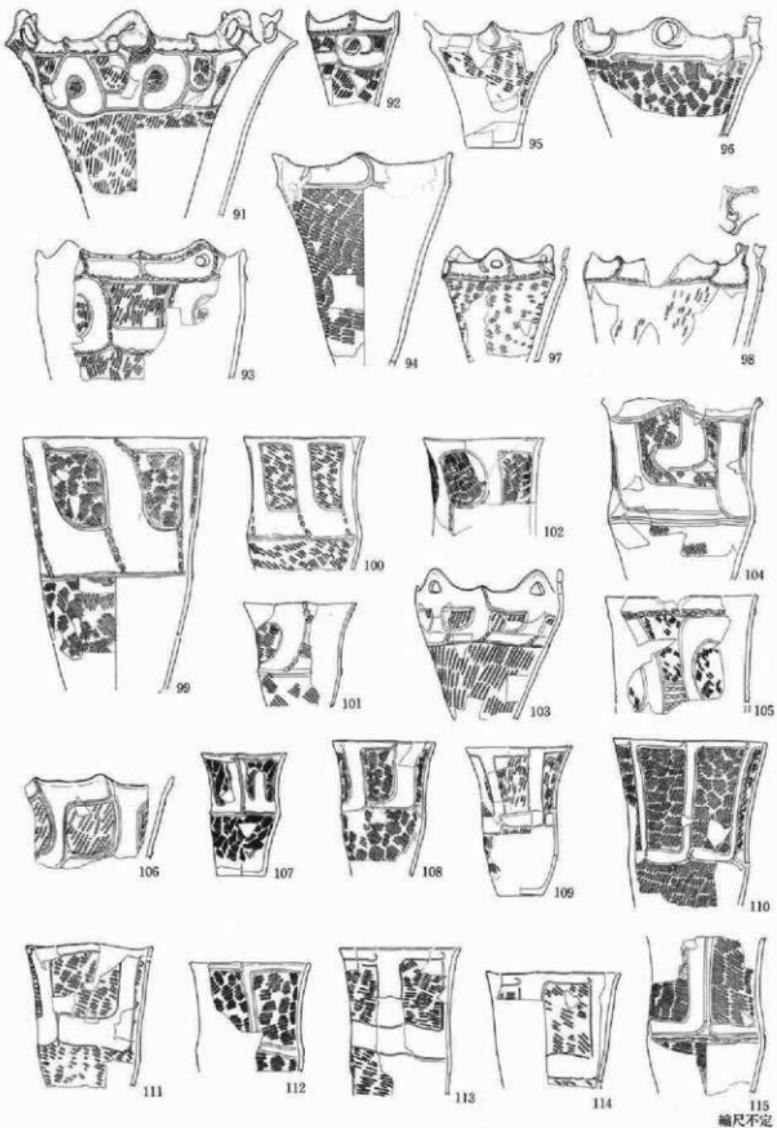
第223図 土器集成図(3)

縮尺不定

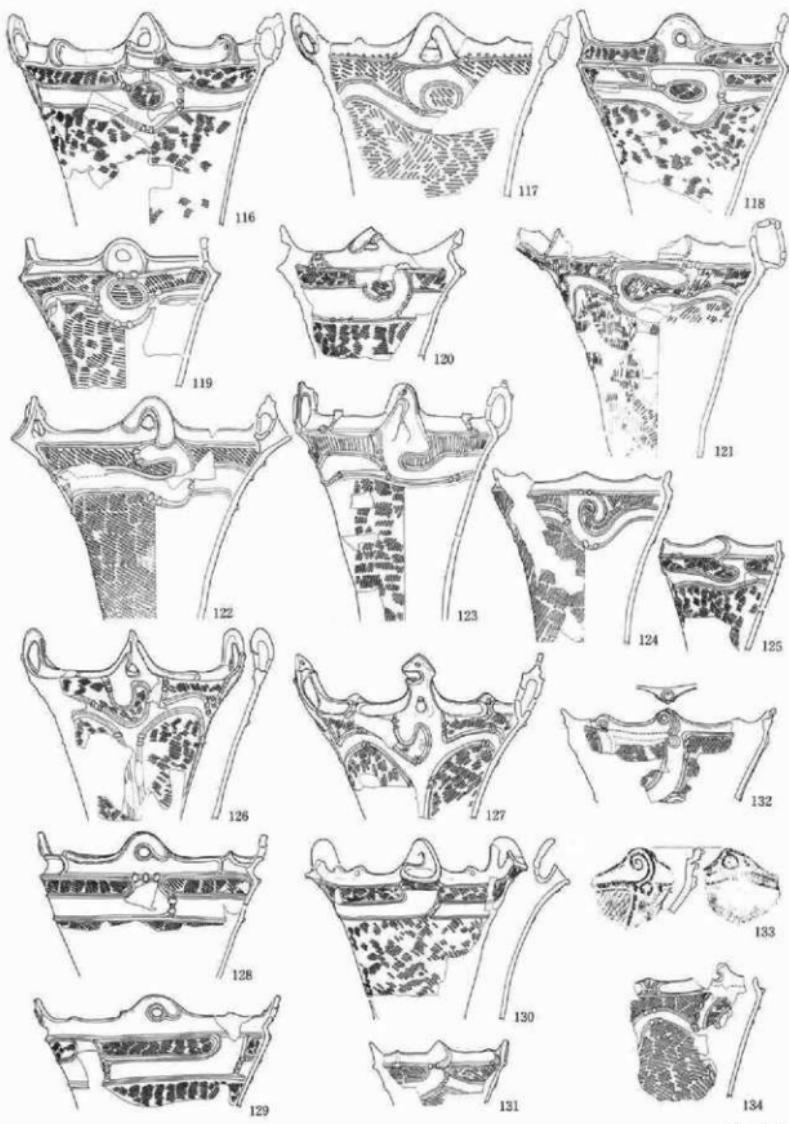


第224図 土器集成図(4)

縮尺不定

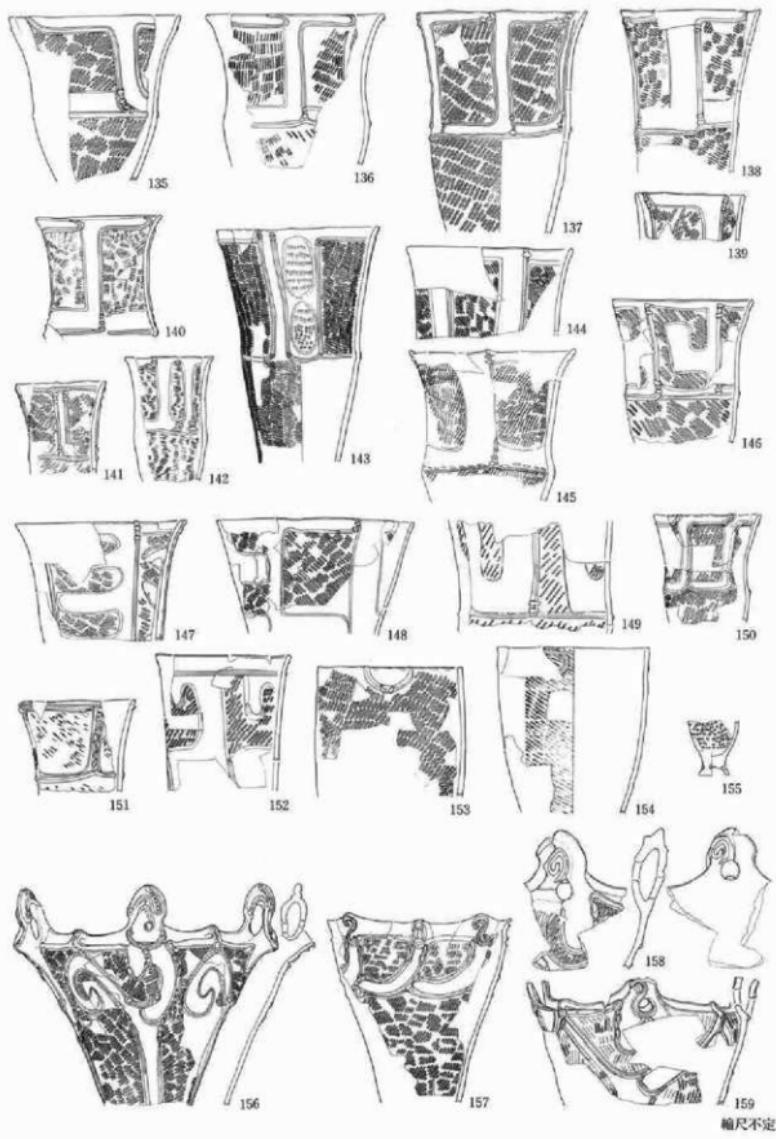


第225図 土器集成図(5)

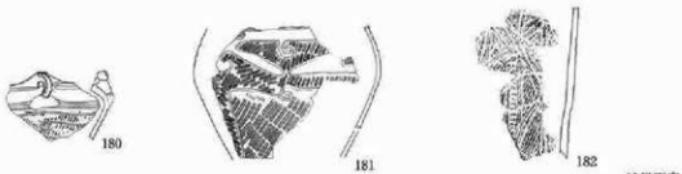
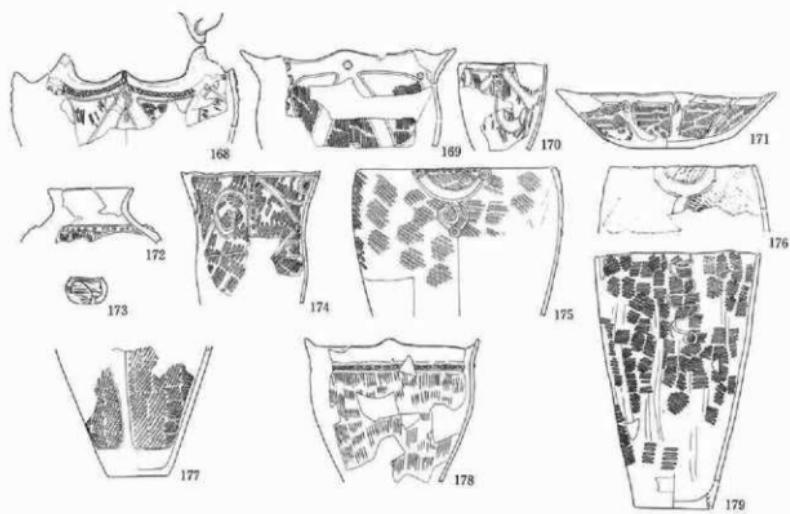
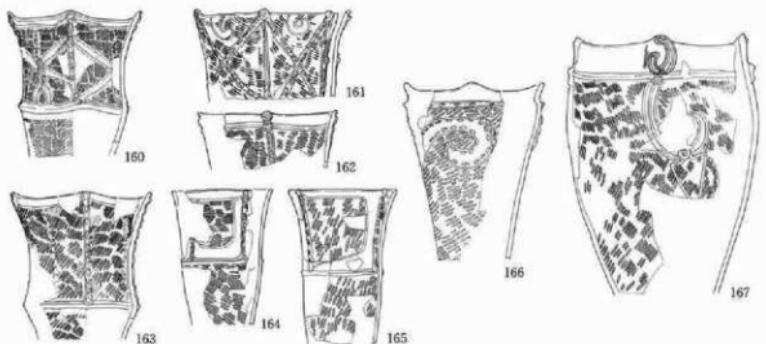


第226図 土器集成図(6)

縮尺不定



第227図 土器集成図(7)



第228図 土器集成図(8)

縮尺不定

VI 分析・鑑定

1. 藤沢町上野平遺跡出土動物遺存体について

陸前高田市立博物館 熊谷 賢

藤沢町上野平遺跡出土の動物遺存体は、重量にして約600gである。これらの骨はすべて焼骨であり、白色化した小破片であった。そのため、関節部の残る資料を中心に同定作業を行った。その結果、ヤマドリ?、ノウサギ、イノシシ、シカの4種が認められた。

種同定できた資料は39点であり、出土量の多い順にイノシシ29点、シカ8点、ノウサギ、ヤマドリ?各1点である。種同定困難として扱った小破片の多くには、イノシシ、シカのものが多く含まれているものと思われる。

出土内容については別表に示した。以下、出土動物遺存体の概要について触れる。

(1) ヤマドリ?

右尺骨遠位端(CIV-II層)が出土しているのみである。焼けてやや収縮しており、判別が困難であったため、ヤマドリ?とした。

(2) ノウサギ

左人腕骨遠位端(DV-II層)が出土しているのみである。骨端が癒合していることから成獣である。

(3) イノシシ

今回の調査で得られた動物遺存体中、最も出土量の多い種で29点が出土している。出土した動物遺存体を部位別にみると、頭部を構成するものは、右下顎骨片、左下顎骨関節突起?(いずれもFV-II層)、左肩甲骨近位端(GIV-II層ベルト中部)、脊椎骨椎体(RA08住居跡埋土)、若獣のものでは腰椎椎間板(EIII-II層⑩)、左寛骨遠位端(CV-II層)。前肢を構成するものは、成獣のものでは左第3中手骨近位端、右上腕骨遠位端(いずれもDIV-II層)、右第4中手骨近位端、右桡側手根骨(いずれもDV-II層中部)、右第3中手骨遠位端(FIII-II層⑥)、左桡側手根骨(FIV-II層下部)、若獣のものでは右第5中手骨遠位端(CIV-II層)、右尺骨近位端(DIV-II層②)、右第4中手骨遠位端?(DV-II層中部)、左第4中手骨遠位端(JII-II層)。後肢を構成するものは、成獣のものでは右膝蓋骨2点(EIII-II層・FII-II層)、右脛骨遠位端(HIII-II層)、右第2中足骨遠位端(RD57上坑埋土)、若獣のものでは右大腿骨近位端(BV-II層)、左第2中足骨?(CIV-II層)。このほか肢部を構成するもので前・後肢不明のものは、成獣のものでは右基節骨遠位端(CIII-II層)、第3・第4中手・中足骨遠位端(DIV-II層)、右中節骨(EIV-II層・FIII-II層・GIII-II層)、若獣のものでは左中節骨(CIV-II層)、右基節骨(DV-II層)である。

これらの各部位及び成獣と若獣の存在を考慮し、最小個体数を積算すると、成獣では右膝蓋骨が2点出土しており、若獣では重複する部位が無いことから成獣2個体、若獣1個体が算定できる。

出土したイノシシ29点中10点が若獣のものであり、成獣:若獣の比率は2:1で最小個体数と同率である。

各部位を頭部、胴部、前肢、後肢、その他の肢に分類すると頭部2点、胴部4点、前肢10点、後肢6点、

その他の肢7点で、前・後肢を構成する部位が非常に多い(23点)。特に中手・中足骨や基節骨・中節骨などの指骨が多く、足首から下の部位が多く出土している。

出土している全体数と同定できた部位が少ないため推測の域を脱しないが、胴部及びそれに付随する部位の出土が少なく、足首から下の部位が多く出土していることから、肉量の少なく、骨器に利用しにくい部分が廃棄されている可能性が考えられる。

(4) シカ

出土した8点全てが成獣のものである。出土部位は、鹿角片(EV-II層中部)、左桡骨遠位端(IV-II層)、左中節骨近位端(DIV-II層)、同遠位端(FII-II層)、右中節骨遠位端2点(FIII-II層⑧・FIII-II層ベルト上部-中部)、左末節骨近位端(III-II層)、中手骨・中足骨(DIV-II層)である。

胴部を構成する部位の出土は認められず、足先を構成する指骨が多く出土している。これは、イノシシと同様の出土傾向を示している。

DV-II層から出土した中手・中足骨は欠損しているが長さ26.8mmで、断面が三角形状を呈しており、縦方向に走る擦痕が認められる。全体的に研磨されていることから骨針の破損品である可能性が高い。

また、食料とはならないと考えられる鹿角片まで焼けて白色化している。

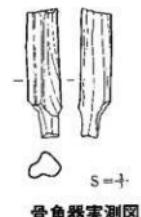
まとめ

今回出土した動物遺存体は、すべて焼けて白色化した小破片である。これらの性格は、調理段階で火を受けた可能性もあるが、食料とはならない鹿角も同様に火を受けている。この焼骨の出土傾向は、大船渡市上鷹生遺跡、衣川村東裏遺跡、一戸町御所野遺跡、岡山井遺跡、九戸村出代遺跡などに見られるが、焼骨の出土に関しては配石遺構に伴う儀礼的な性格が指摘されている。岩手県内でも一戸町御所野遺跡から配石に伴って出土した例がある。本遺跡の出土は、遺構の埋土や住居跡内の炉の内部からも若干出土しているものの、主に調査区西側の遺物包含層から出土が多い。なお、包含層の上部には配石遺構?が確認されていることからこの点では上記の例と同様な出土状況といえる。しかし、配石遺構より下位の層やこれと離れた地点からも出土が多く、調査区西側が「捨て場」として利用され、そこに廃棄されたものである可能性も多い。

出土した動物は、鳥類1種、哺乳類3種である。そのほとんどがイノシシとシカで、小型陸獣はノウサギのみであり、イノシシとシカが狩猟の中心であったことが理解できるが、本遺跡においては、他の遺跡と比較してイノシシの占める割合がやや高いといえる。これら2種の出土部位については、比較的よく出土する歯片などは見られず、主要な四肢骨や胴部を構成する骨は、小片であるため不明として扱ったものに含まれる可能性が高いためか、足先の部分を構成する中手・中足骨や指骨などの出土が多く見られた。

岩獣の占める割合については、シカは成獣のみであるのに対し、イノシシは成獣:若獣の比率が2:1であった。

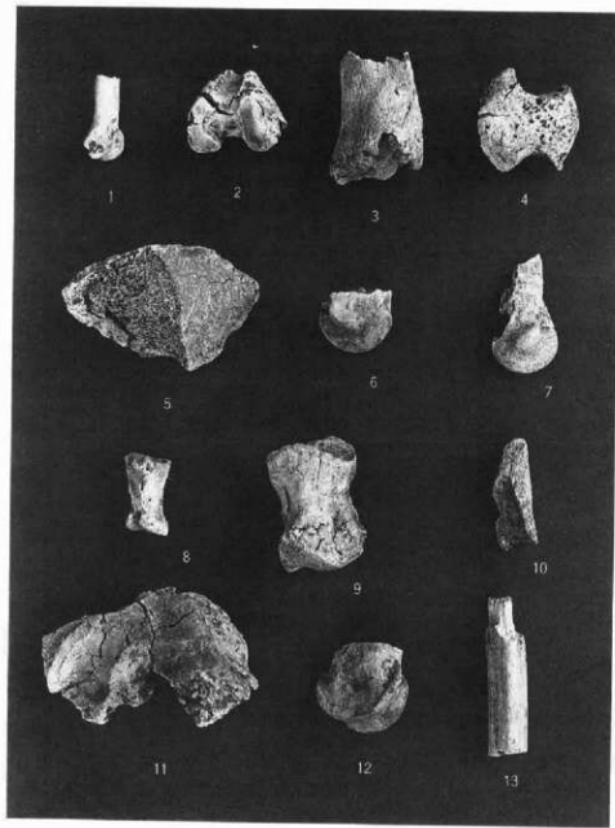
骨角器については、シカ中手・中足製の骨針と思われる欠損品が1点出土している。



骨角器実測図

上野平遺跡出土動物遺存体一覧表

出土地点・層位	種名	部 位	備 考
B V - II 層	イノシシ	大腿骨 (R) 近位端	若獣
C III - II 層	イノシシ	基節骨 (R) 遠位端	
C IV - II 層	イノシシ	第 5 中手骨 (R) 遠位端	若獣
C IV - II 層	イノシシ	中節骨 (L)	若獣
C IV - II 層	イノシシ	第 2 中足骨 (L) ?	若獣
C IV - II 層	ヤマドリ?	尺骨 (R) 遠位端	
C V - II 層	イノシシ	寛骨 (L) 遠位端	若獣
D IV - II 層②	シカ	中節骨 (L) 近位端	
D IV - II 層②	イノシシ	尺骨 (R) 近位端	若獣
D IV - II 層	イノシシ	第 3・第 4 中手・中足骨遠位端	
D IV - II 層	イノシシ	第 3 中手骨 (L) 近位端	
D IV - II 層	イノシシ	上腕骨 (R) 遠位端	
D V - II 層	ノウサギ	大腿骨 (L) 遠位端	
D V - II 層	シカ	中手・中足骨	骨針? 欠損品
D V - II 層	イノシシ	基節骨 (R)	若獣
D V - II 層中部	イノシシ	第 4 中手骨 (R) 近位端	
D V - II 層中部	イノシシ	第 4 中手骨 (R) 遠位端 ?	若獣
D V - II 層中部	イノシシ	橈側手根骨 (R)	
E III - II 層⑩	イノシシ	椎間板 (腰椎)	若獣
E III - II 層	イノシシ	膝蓋骨 (R)	
E IV - II 層	イノシシ	中節骨 (R)	
E IV - II 層	シカ	橈骨 (L) 遠位端	
E V - II 層中部	シカ	鹿角片 (角尖部)	
F II - II 層	イノシシ	膝蓋骨 (R)	
F II - II 層	シカ	中節骨 (L) 遠位端	
F III - II 層	イノシシ	中節骨 (R)	
F III - II 層⑥	イノシシ	第 3 中手骨 (R) 遠位端	
F III - II 層⑥	シカ	中節骨 (R) 遠位端	
F III - II 層ベルト上部～中部	シカ	中節骨 (R) 遠位端	
F IV - II 層下部	イノシシ	橈側手根骨 (L)	
F V - II 層	イノシシ	下顎骨片 (R)	
F V - II 層	イノシシ	F 頸骨間節突起 (L) ?	
G III - II 層	イノシシ	中節骨 (R)	
G IV - II 層ベルト中部	イノシシ	肩甲骨 (L) 近位端	
H III - II 層	イノシシ	脛骨 (R) 遠位端	
J II - II 層	シカ	末節骨 (L) 近位端	
J II - II 層	イノシシ	第 4 中手骨 (L) 遠位端	
RA08住跡炉内	イノシシ	脊椎骨椎体	若獣
RD57土坑埋土	イノシシ	第 2 中足骨 (R) 遠位端	



1 ヤマドリ? 2 ノウサギ 3~9 イノシシ 10~13 シカ
 1 右尺骨遠位端 2 左大腿骨遠位端 3 右尺骨遠位端（若歯） 4 左橈側手根骨
 5 右膝蓋骨 6 右第5中手骨遠位端（若歯） 7 右第2中足骨 8 右基節骨（若歯）
 9 右中節骨 10 鹿角 11 左橈骨遠位端 12 右中節骨遠位端 13 骨針？（中手・中足骨製）

写 真 図 版





調査区全景



遺構集中区

写真図版1 調査区全景



大型柱穴集中区



RA03空中写真

写真図版 2 住居跡・掘立柱建物跡



RA03複式炉

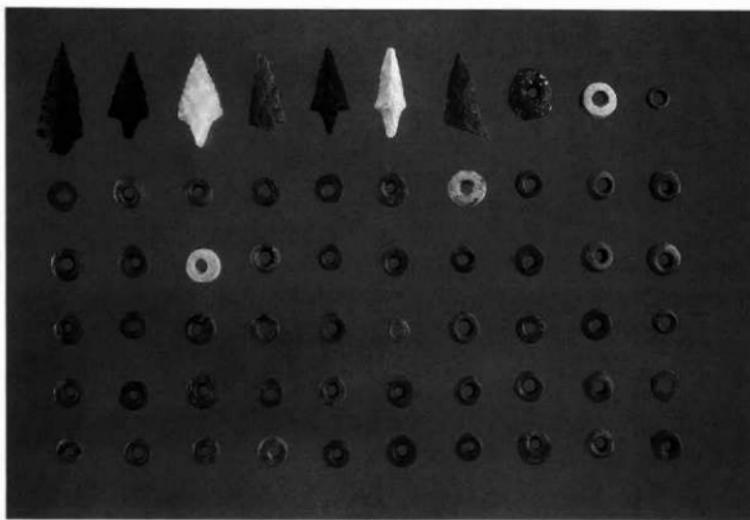


大型柱穴重複状況

写真図版 3 RA03複式炉・B区柱穴断面



RD01遺物出土状況



RD01出土遺物

写真図版 4 RD01遺物出土状況・出土遺物



遺物包含層断面(E III区)



遺物包含層断面(D III・IV区)

写真図版 5 包含層断面



包含層遺物出土狀況(J II 区)

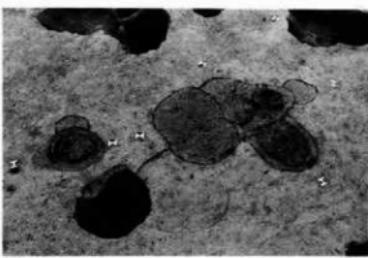


包含層遺物出土狀況(B III 区)

写真図版 6 包含層土器出土状況



平面



炉

平面



RA02炉

断面



RA01炉

断面



RA01炉

断面

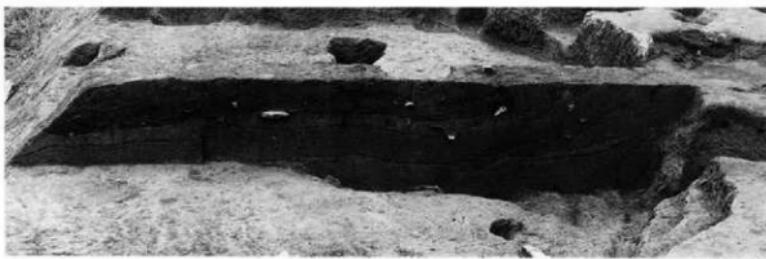
写真図版 7 RA01-02



平面

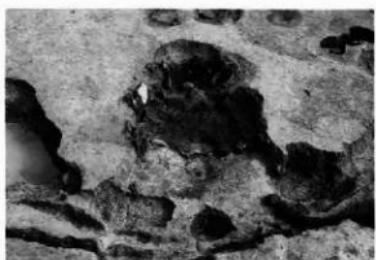


断面



断面

写真図版 8 RA03(1)



No.1炉

平面



No.1炉

断面



No.1炉埋設土器部

断面



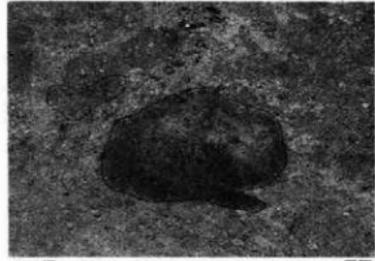
No.2炉

平面



No.2炉

断面



No.3炉

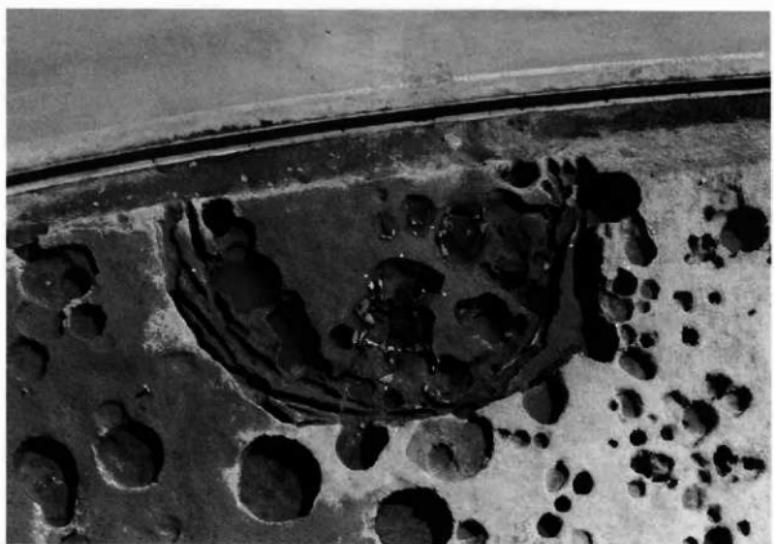
平面



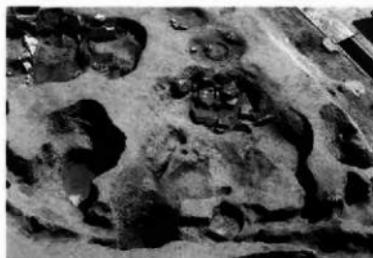
No.3炉

断面

写真図版 9 RA03(2)



完掘状況



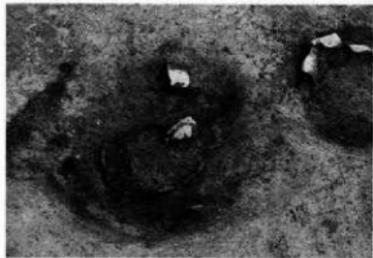
No.4炉

平面



No.4炉

断面



No.4炉埋設土器部

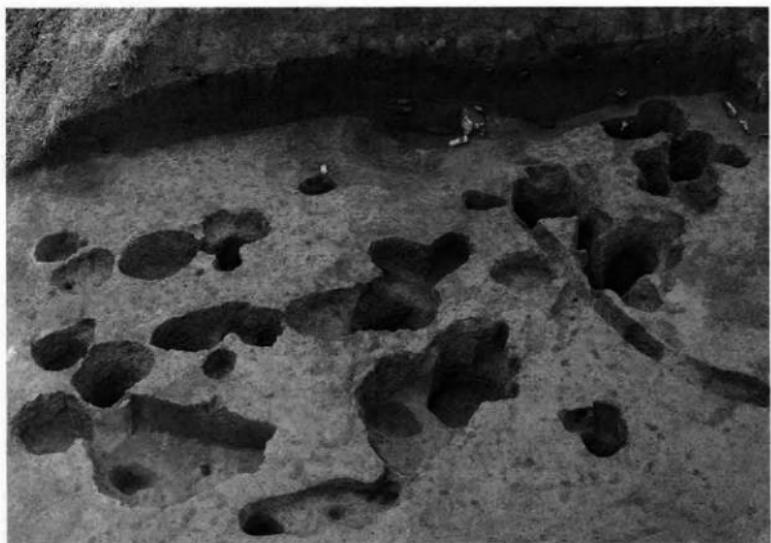
平面



埋設土器部

断面

写真図版10 RA03(3)



平面



断面



断面

写真図版11 RA04(1)



No.1炉

平面



No.1炉

断面



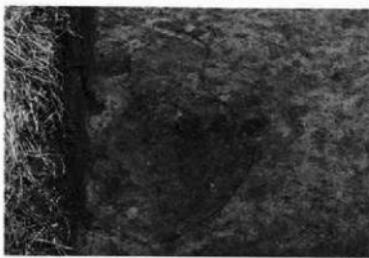
No.1炉

断面



No.1炉

断面



No.2炉

平面



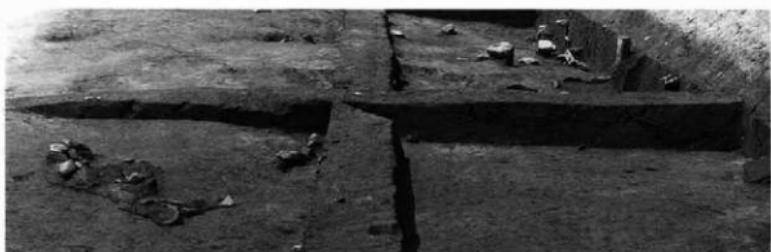
No.2炉

断面

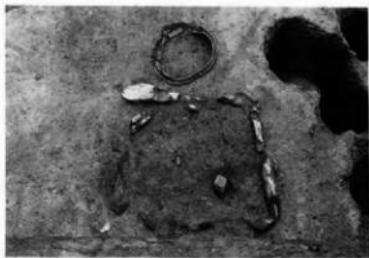
写真図版12 RA04(2)



平面



断面



No.1炉

平面



No.1炉

断面

写真図版13 RA05(1)



No.1炉

平面



No.1炉

断面

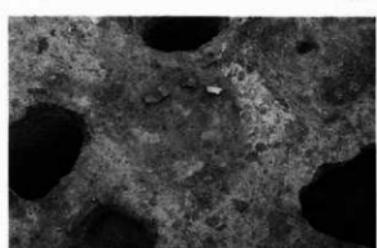


No.1炉

断面



遗物出土状况



No.2炉

平面



No.2炉

断面



No.3炉

平面



No.3炉

断面

写真図版14 RA05(2)



平面



断面



No.1炉

平面



No.1炉

断面

写真図版15 RA06(1)



RA06No.2炉

平面



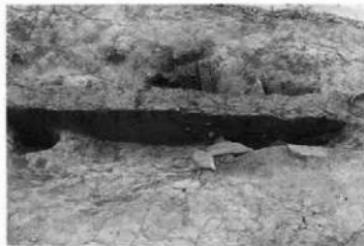
RA06No.2炉

断面



RA07

平面



RA07炉

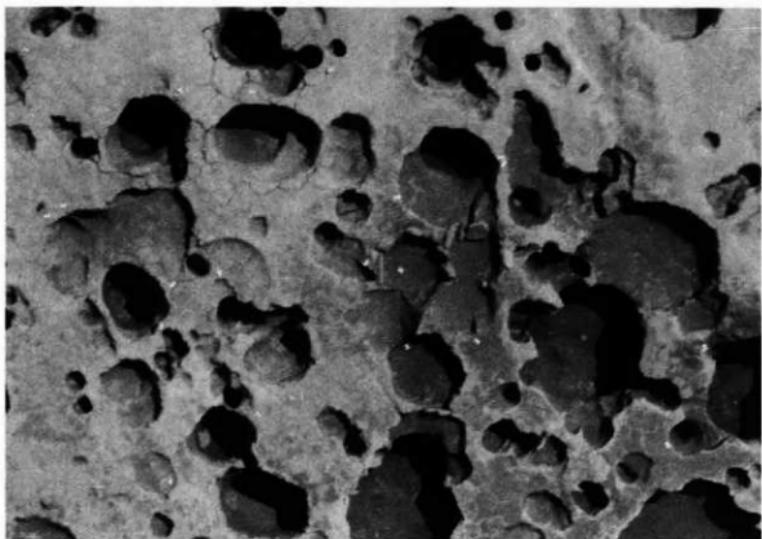
断面



RA07埋設土器部

断面

写真図版16 RA06(2)・RA07



平面



炉

断面



埋設土器部

断面



埋設土器部

断面

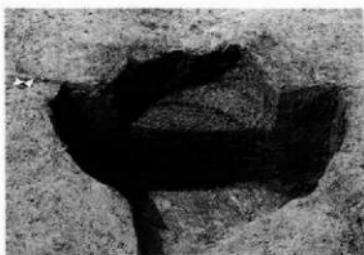


埋設土器部断面

写真図版17 RA08



平面



C2-PP1 断面



C2PP-6 断面

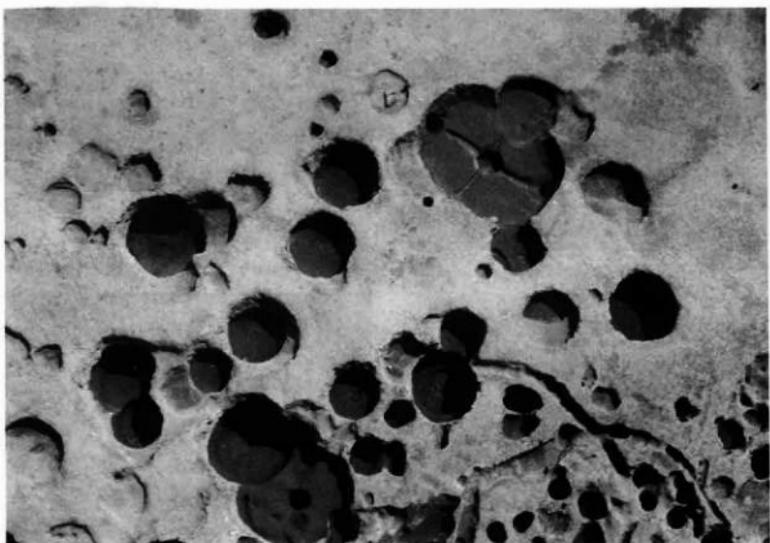


C2PP-3 断面



C2PP-2 断面

写真図版18 RB01

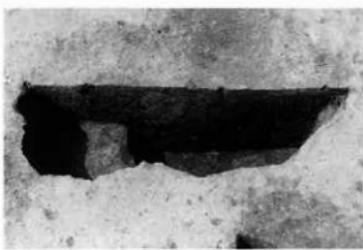


平面(空中写真)



平面(東から)

写真図版19 RB02-03



B 3PP1-2

断面



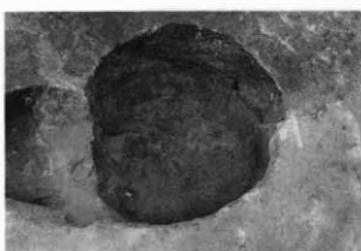
B 3PP4

断面



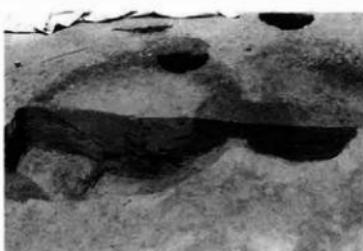
B 3PP8

断面



B 3PP13

平面



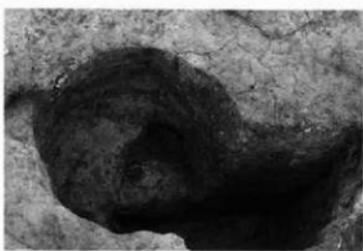
B 3PP13

断面



B 3PP14

平面



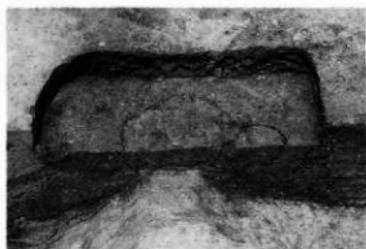
B 3PP15

平面



断面

写真図版20 柱穴B 3区



B 3PP19

平面



断面



B 3PP25

平面



断面



B 3PP25

断面



B 3PP5

断面



B 3PP3

断面



B 3PP5

平面

写真図版21 柱穴B 3区



B 3PP6-7

断面



B 3PP9

平面



B 3PP9

断面



B 3PP10

断面



B 3PP11

断面



B 3PP12

断面



B 3PP1

断面



B 3PP21

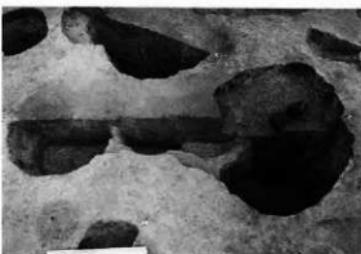
断面

写真図版22 柱穴B 3区



B 3PP24

断面



B 3PP16-17-22-23

断面



B 3PP23

平面

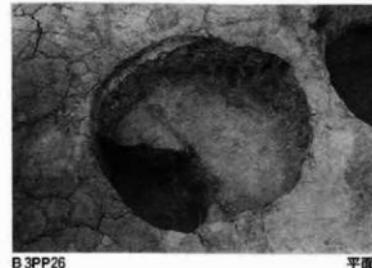


断面



B 3PP23

柱痕路



B 3PP26

平面



断面

写真図版23 柱穴B 3区



C2PP1

断面



C2PP2

断面



C2PP3

断面



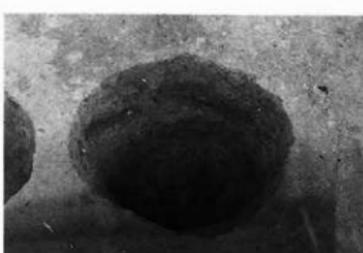
C2PP6

平面



C2PP6

断面



C2PP9

平面



C2PP9

断面



C2PP13

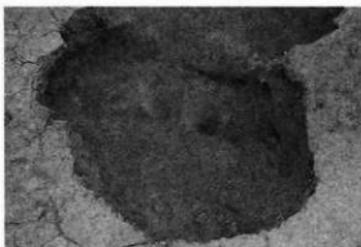
平面

写真図版24 柱穴C 2区



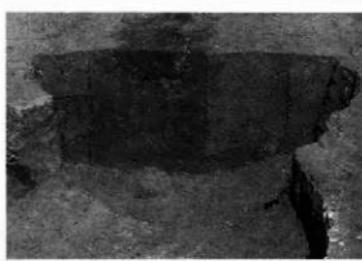
C2PP13

断面



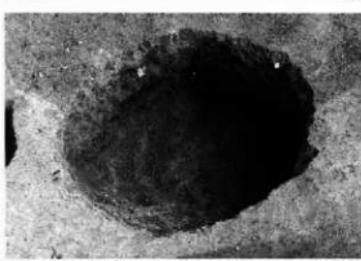
C2PP5

平面



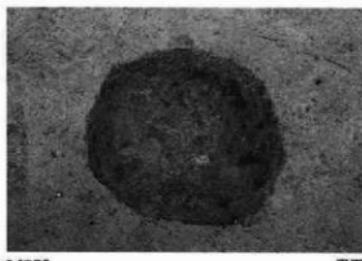
C2PP5

断面



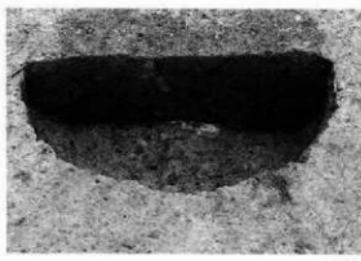
C2PP7

平面

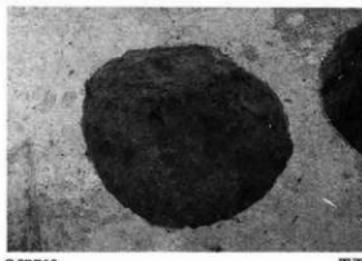


C2PP8

平面



断面



C2PP10

平面



断面

写真図版25 柱穴C 2区



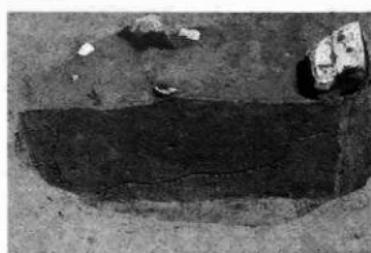
C2PP11

平面



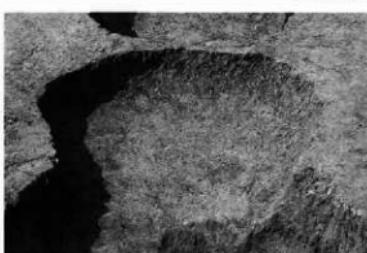
C2PP11

確認状況



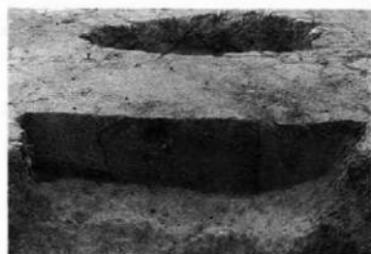
C2PP11

断面



C2PP15

平面



C2PP15

断面



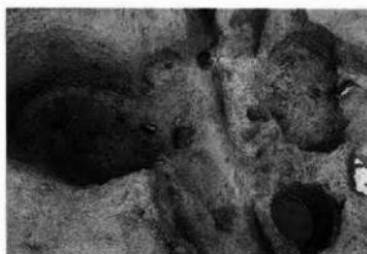
C2PP16

平面



C2PP16

断面



C2PP77

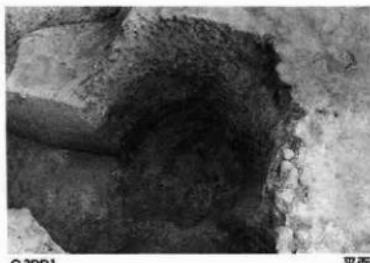
平面

写真図版26 柱穴C 2区



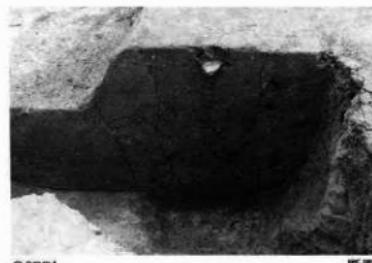
C2PP77

断面



C3PP1

平面



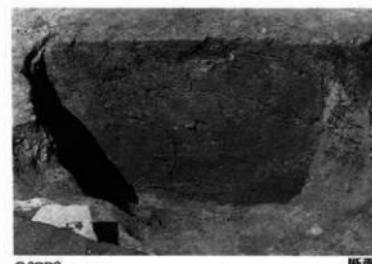
C3PP1

断面



C3PP2

平面



C3PP2

断面



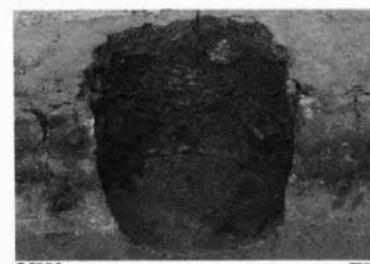
C3PP5

平面



C2PP5

断面



C3PP6

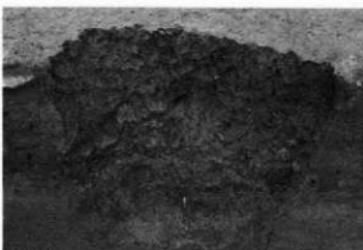
平面

写真図版27 柱穴C 2区・C 3区



C3PP6

断面



C3PP13

平面



C3PP13

断面



C3PP16

断面



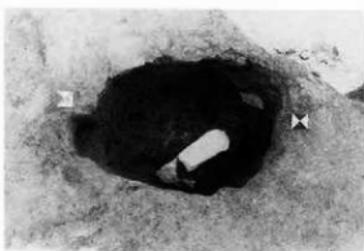
C3PP14

断面



C3PP17

断面



B2PP1

平面



B3PP20

断面

写真図版28 柱穴C 3区・B 2区・B 3区

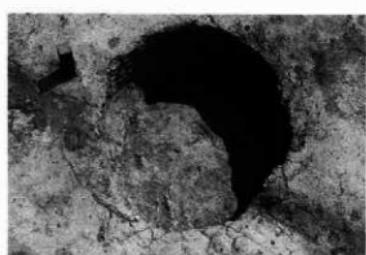


B3PP30

平面

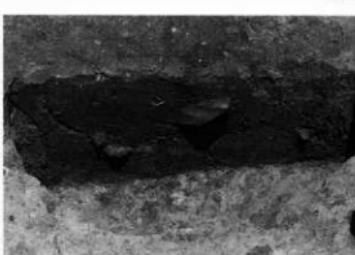


断面

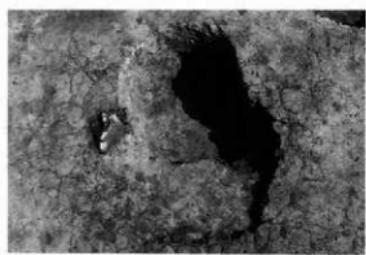


C2PP17

平面

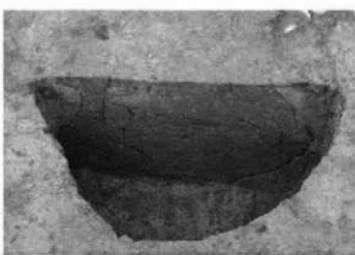


断面

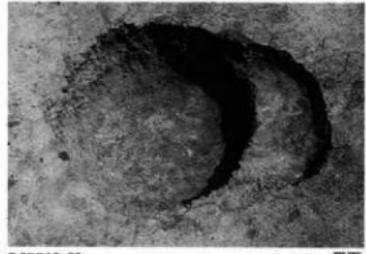


C2PP18

平面

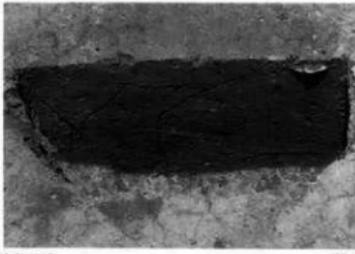


断面



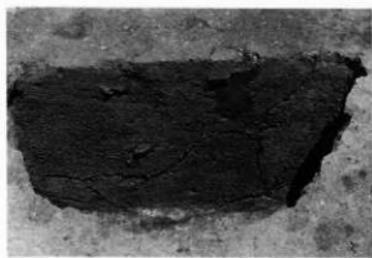
C2PP19·39

平面



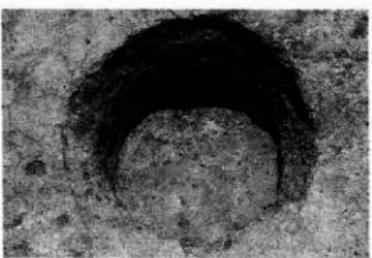
断面

写真図版29 柱穴C 2区・B 3区

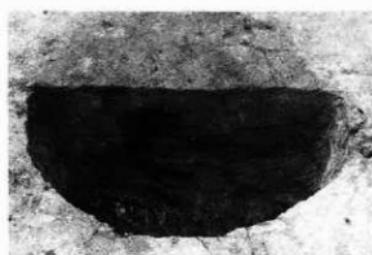


C2PP20

断面

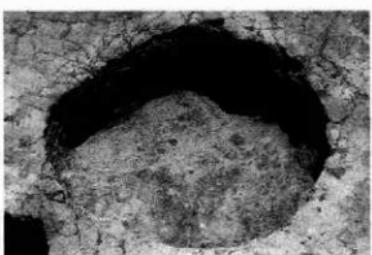


平面



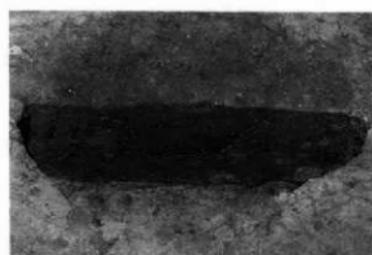
C2PP22

断面



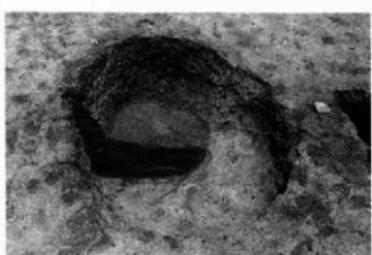
C2PP24

平面



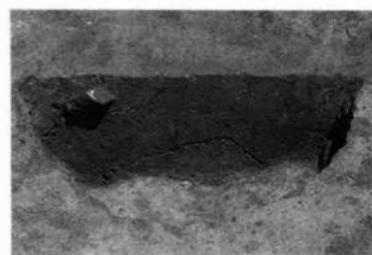
C2PP24

断面



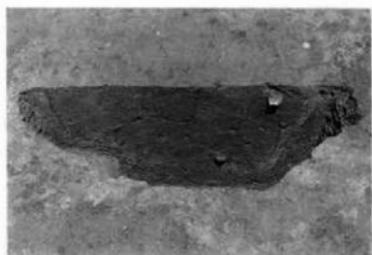
C2PP25

平面



C2PP25

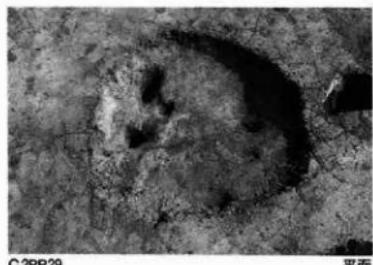
断面



C2PP26

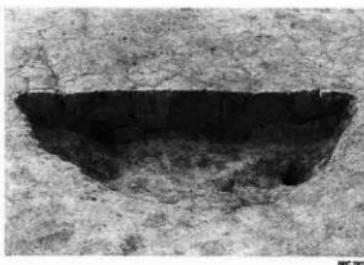
断面

写真図版30 柱穴C 2区

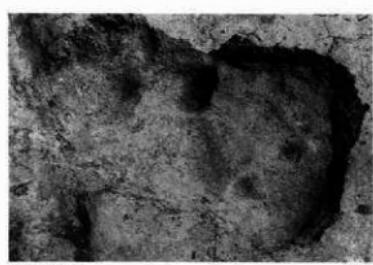


C2PP29

平面

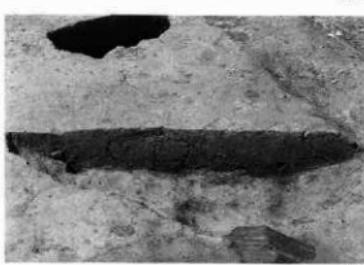


断面

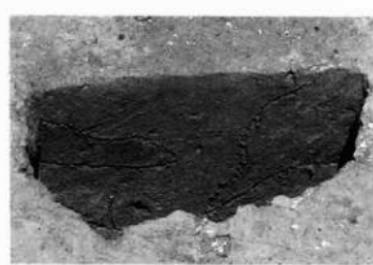


C2PP30-31

平面

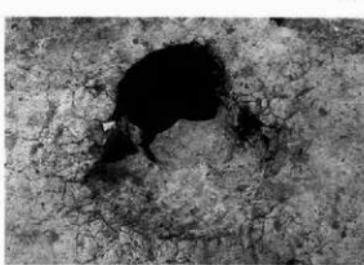


断面

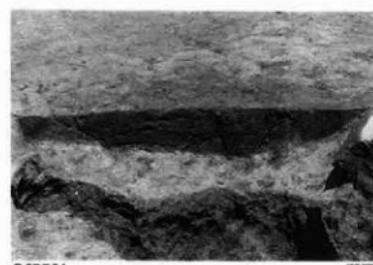


C2PP32

断面

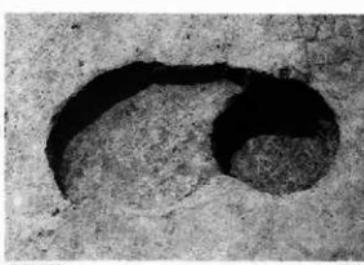


平面



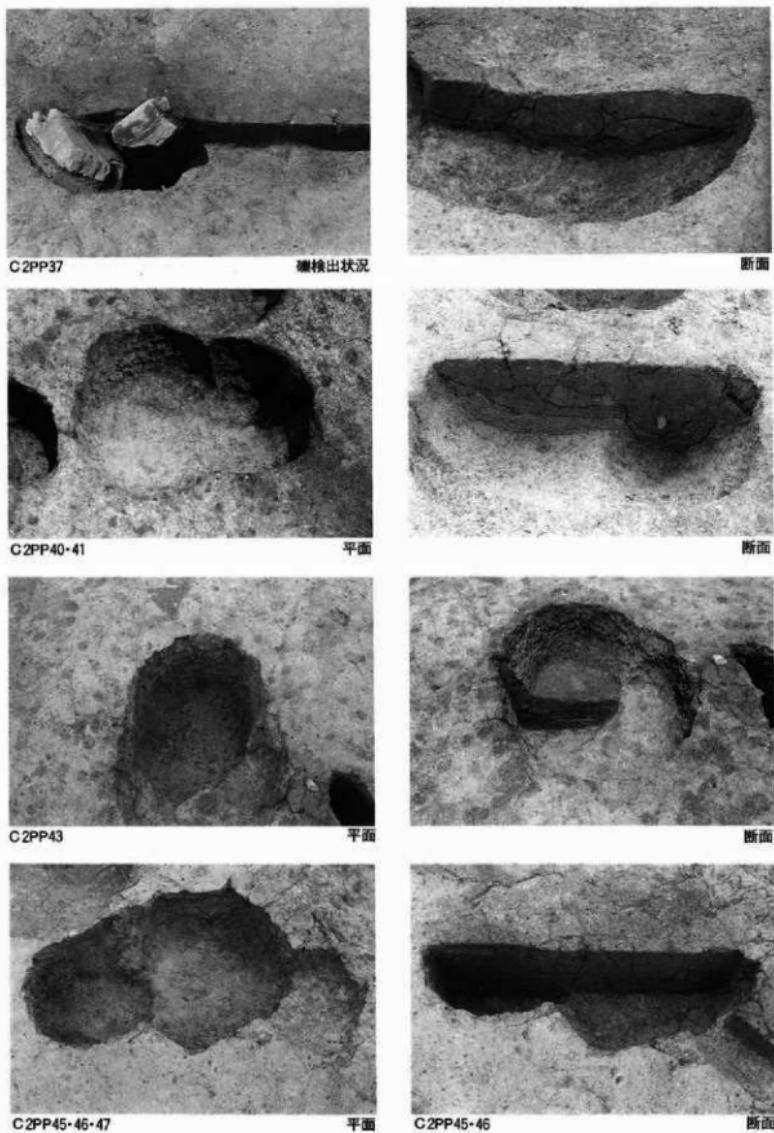
C2PP34

断面

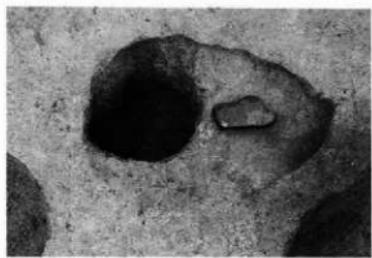


平面

写真図版31 柱穴C 2区



写真図版32 柱穴C 2区

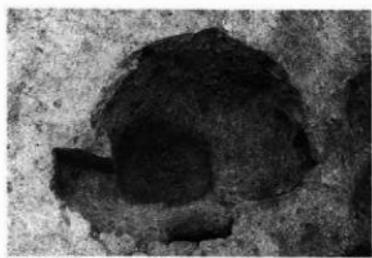


C2PP48-49

平面

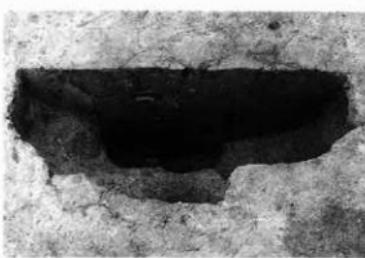


断面

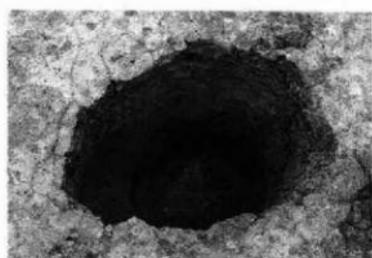


C2PP50-51

平面



断面

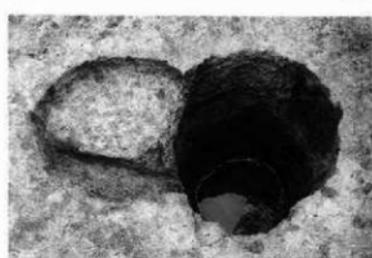


C2PP52-53

平面



断面



C2PP54-55

平面



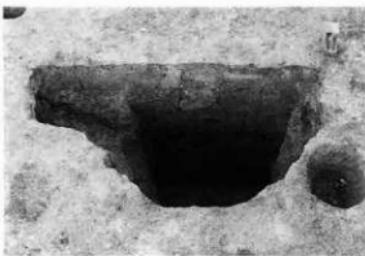
断面

写真図版33 柱穴C 2区

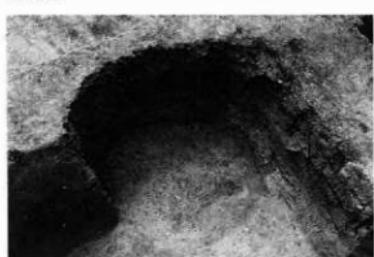


C2PP66

平面



断面



C2PP61

平面



断面



C2PP64

平面



C2PP64

破検出状況



C2PP64

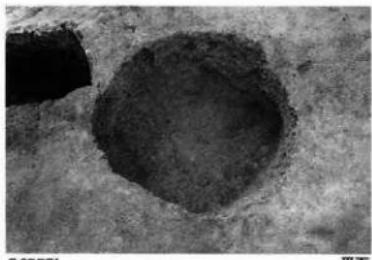
断面



C2PP67

断面

写真図版34 柱穴C 2区

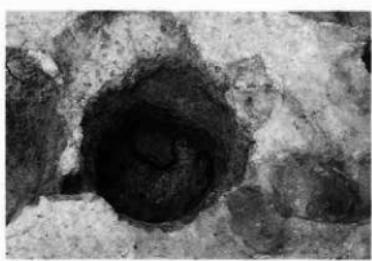


C2PP71

平面



断面



C2PP72

平面

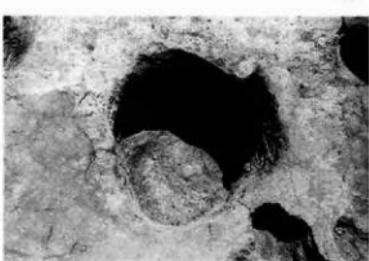


断面



C2PP75

断面



C2PP73

平面



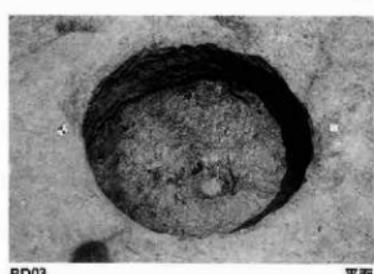
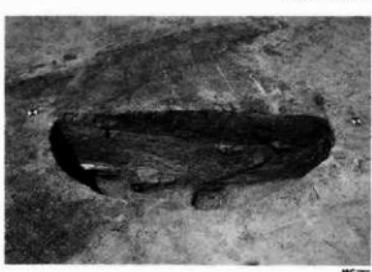
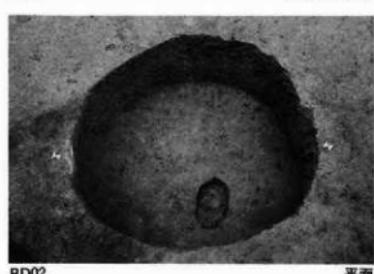
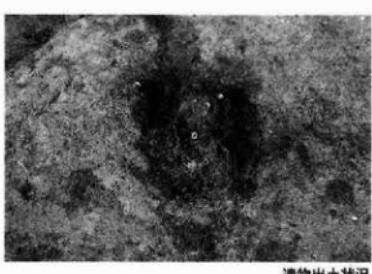
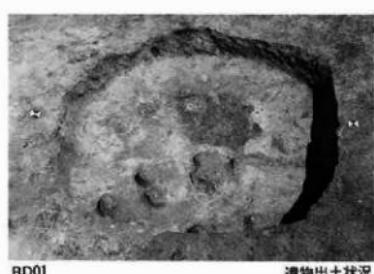
C2PP76

平面



断面

写真図版35 柱穴C 2区



写真図版36 RD01~03

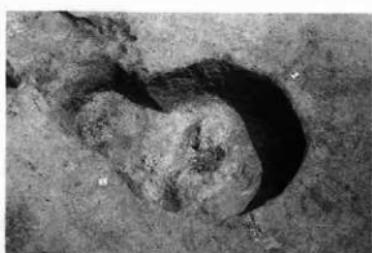


RD04

平面



断面



RD05

平面



断面

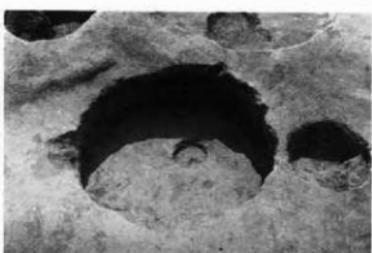


RD06

平面



断面



RD07

平面

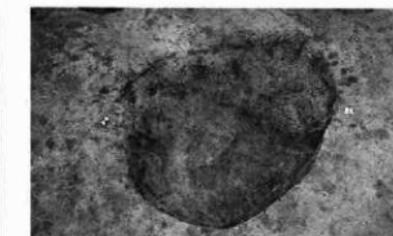


断面

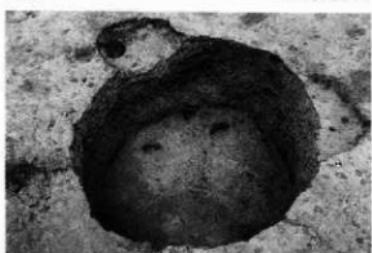
写真図版37 RD04~07



RD07



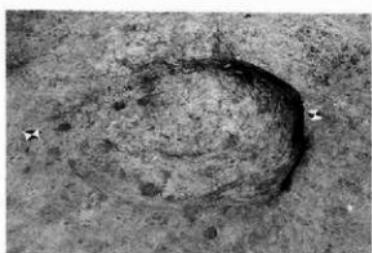
RD08



RD09



断面



RD12



断面



RD13



断面

写真図版38 RD07~09・12・13



RD14

平面



断面



RD16

平面



断面



RD19

平面



断面



RD20

平面



断面

写真図版39 RD14·16·19·20

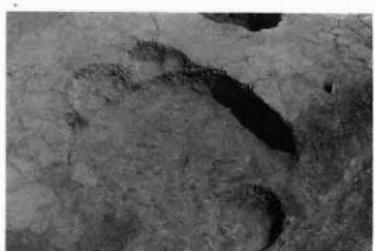


RD21

平面



断面

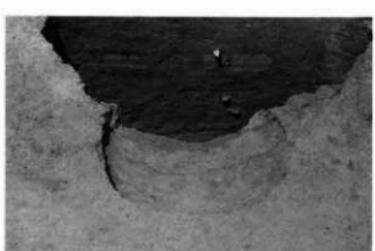


RD22

平面

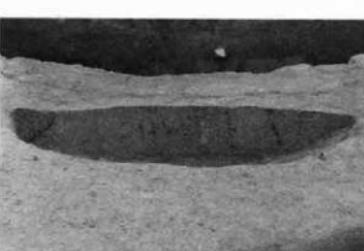


断面



RD23

平面



断面



RD25

平面



RD26

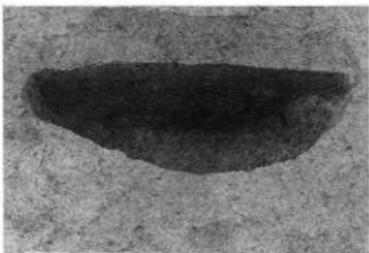
平面

写真図版40 RD21~23·25·26

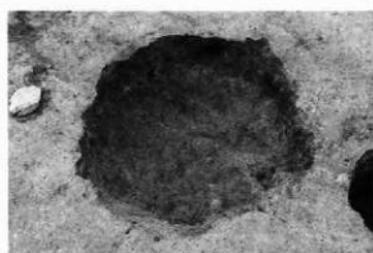


RD27

平面



断面

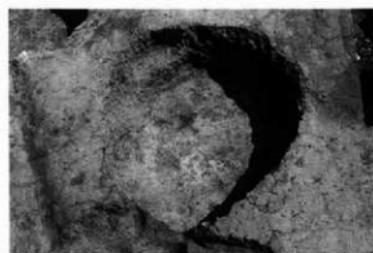


RD28

平面



断面

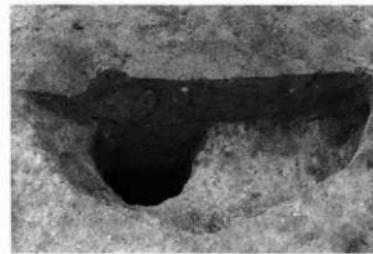


RD29

平面



断面



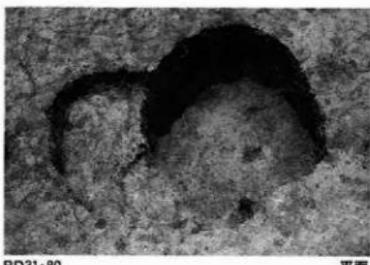
RD30

平面



遺物出土状況

写真図版41 RD27~30

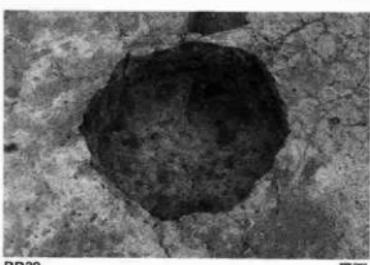


RD31・80

平面

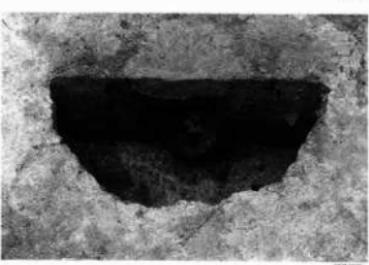


断面

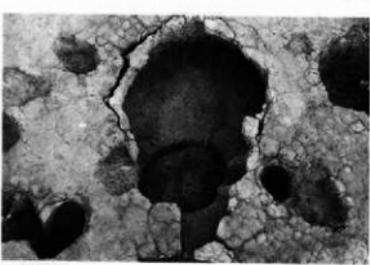


RD32

平面



断面

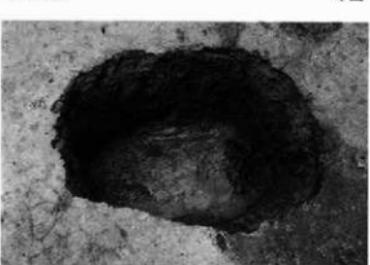


RD33・84

平面



断面



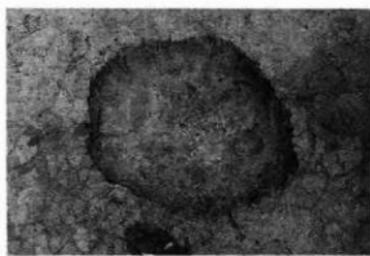
RD34

平面



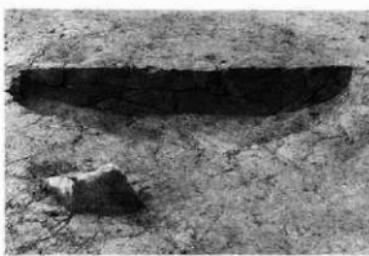
断面

写真図版42 RD31~34・80・84

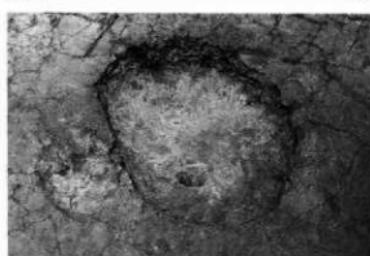


RD35

平面



断面



RD36

平面



断面

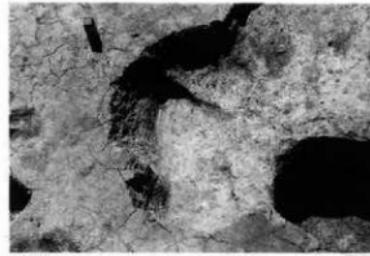


RD37

平面

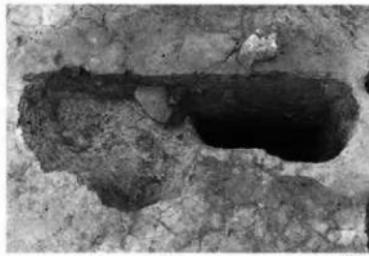


断面



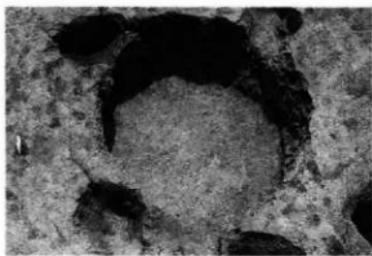
RD40

平面



断面

写真図版43 RD35~37·40

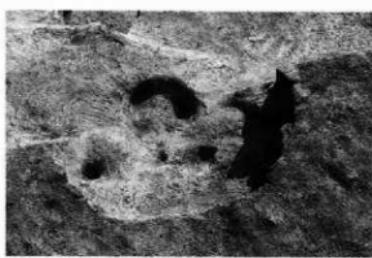


RD41

平面

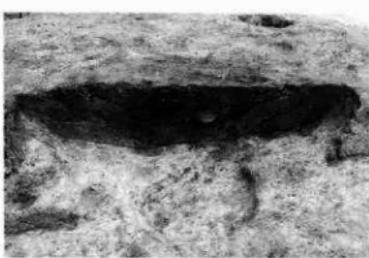


断面

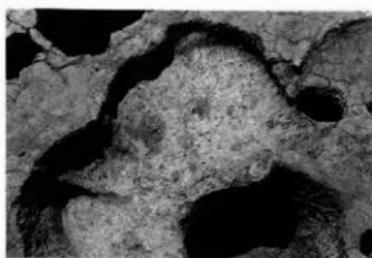


RD42

平面

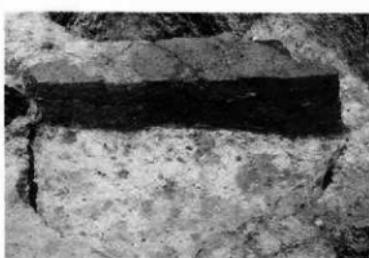


断面

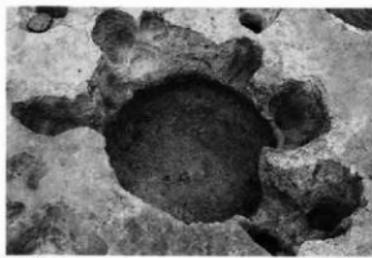


RD43

平面



断面



RD44

平面



断面

写真図版44 RD41~44

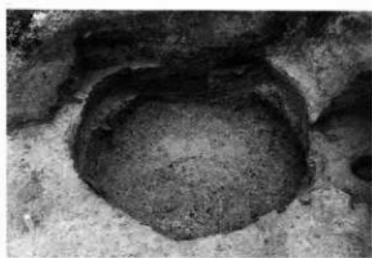


RD45

平面



断面

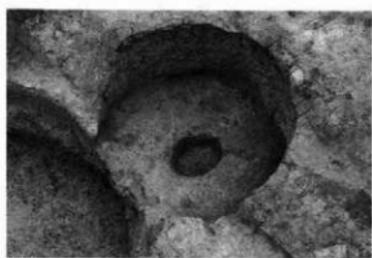


RD46

平面



断面

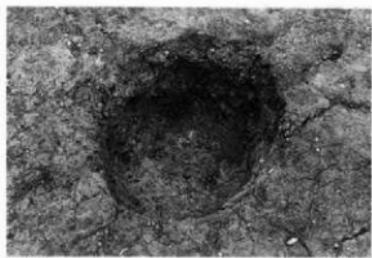


RD47

平面



断面



RD48

平面



断面

写真図版45 RD45~48



RD49

平面



断面



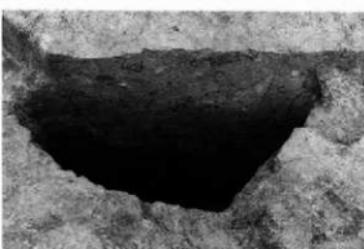
RD50

断面



RD51

平面



断面



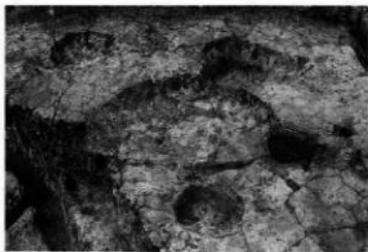
RD52

平面



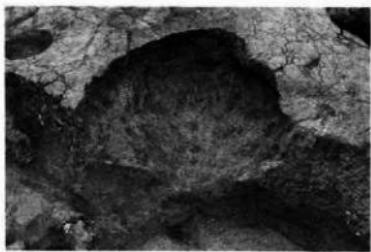
断面

写真図版46 RD49~52



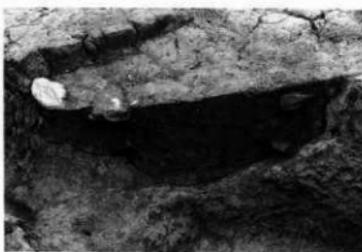
RD53

平面

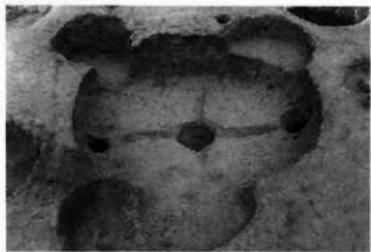


RD54

平面

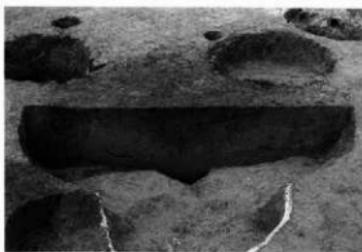


断面

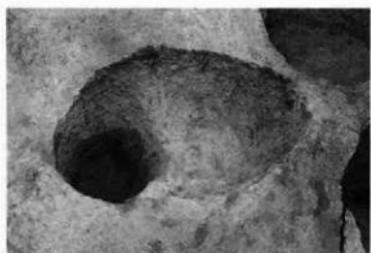


RD55

平面



断面



RD56

平面



断面

写真図版47 RD53~56



RD57

平面

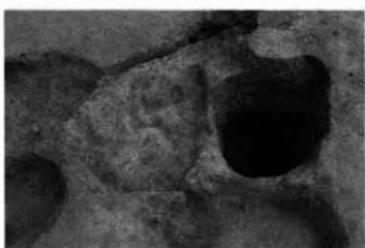


断面



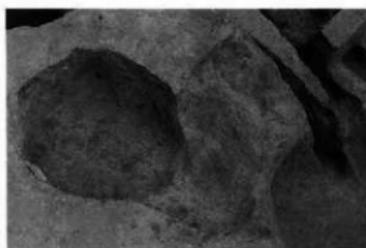
RD57

断面



RD58

平面

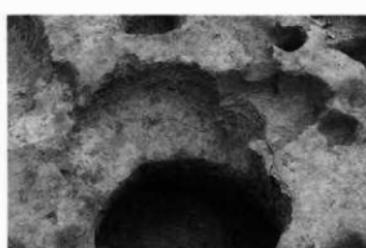


RD59

平面

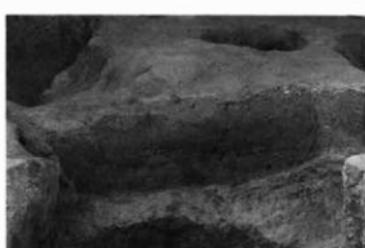


断面



RD60

平面



断面

写真図版48 RD57~60



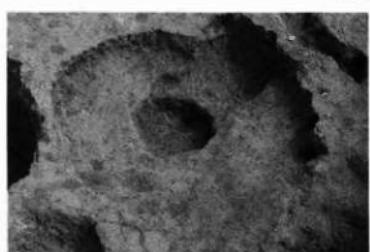
RD61

断面



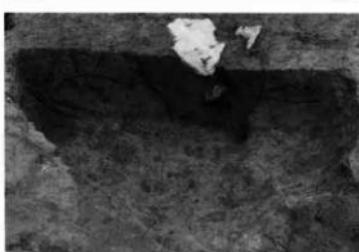
RD62

断面



RD73

平面



断面



RD78

平面



断面



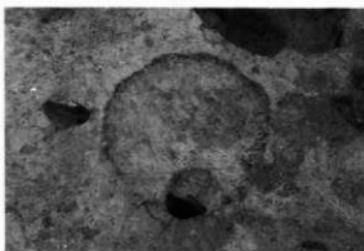
RD79

平面



断面

写真図版49 RD61・62・73・78・79

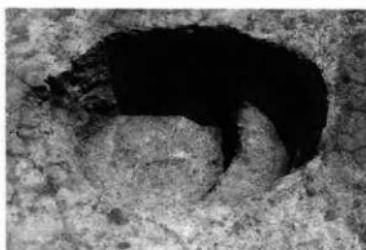


RD81

平面

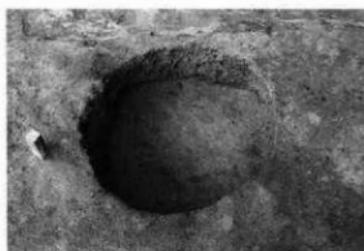


断面



RD82

平面

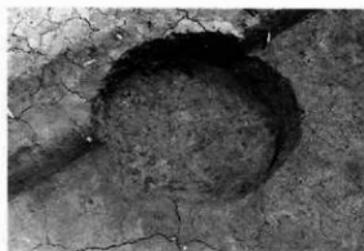


RD83

平面



断面



RD86

平面



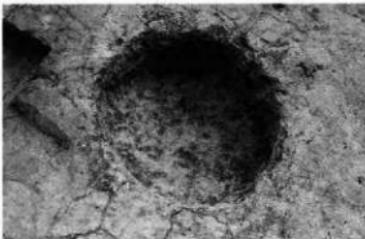
断面

写真図版50 RD81~83・86



RD87

種検出状況

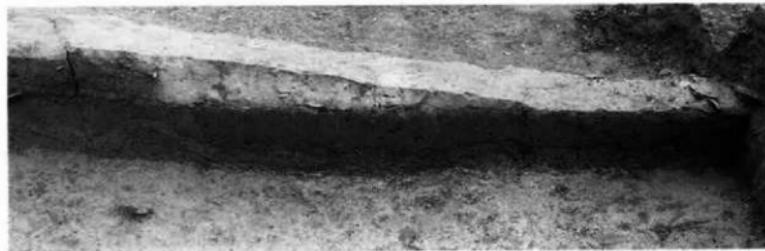


平面



RF01

平面



断面

写真図版51 RD87-RF01

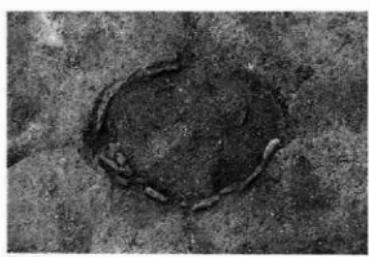


RF02

平面



断面

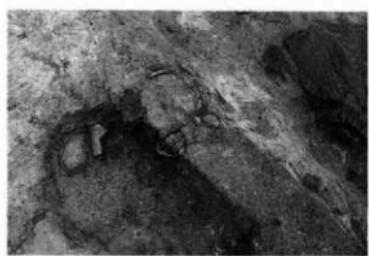


RF03

平面



断面

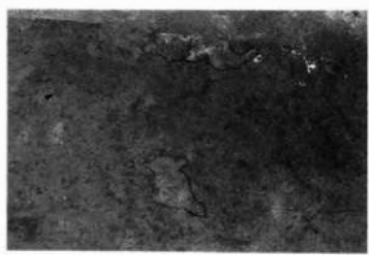


RF04

平面



断面



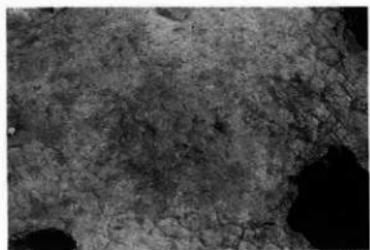
RF05

平面



断面

写真図版52 RF02~05



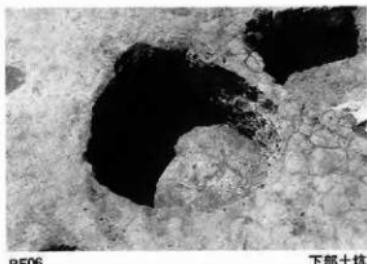
RF06

平面



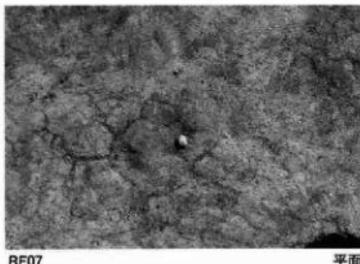
RF06

断面



RF06

下部土坑



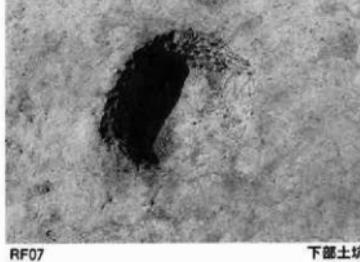
RF07

平面



RF07

断面



RF07

下部土坑



RH01

平面



RH02

平面

写真図版53 RF06・07・RH01・02



RH02

平面



RZ01

平面



断面



遗物包含层断面D II区

写真图版54 RH02·RZ01·D II 区包含层断面



遺物包含層断面 D III IV区



遺物包含層断面 D IV V区



遺物包含層断面 E II 区



遺物包含層断面 E III 区

写真図版55 D III IV V区・E II III区包含層断面



遺物包含層断面E III区



遺物包含層断面F区



遺物包含層断面F II III区



遺物包含層断面F III IV区

写真図版56 E III区・F II III区・F III IV区遺物包含層断面



遺物包含層断面 F IV V区



遺物包含層断面 J II 区



遺物包含層断面 J III IV区



遺物包含層断面 J IV V区

写真図版57 F IV V区・J II III IV V区遺物包含層断面

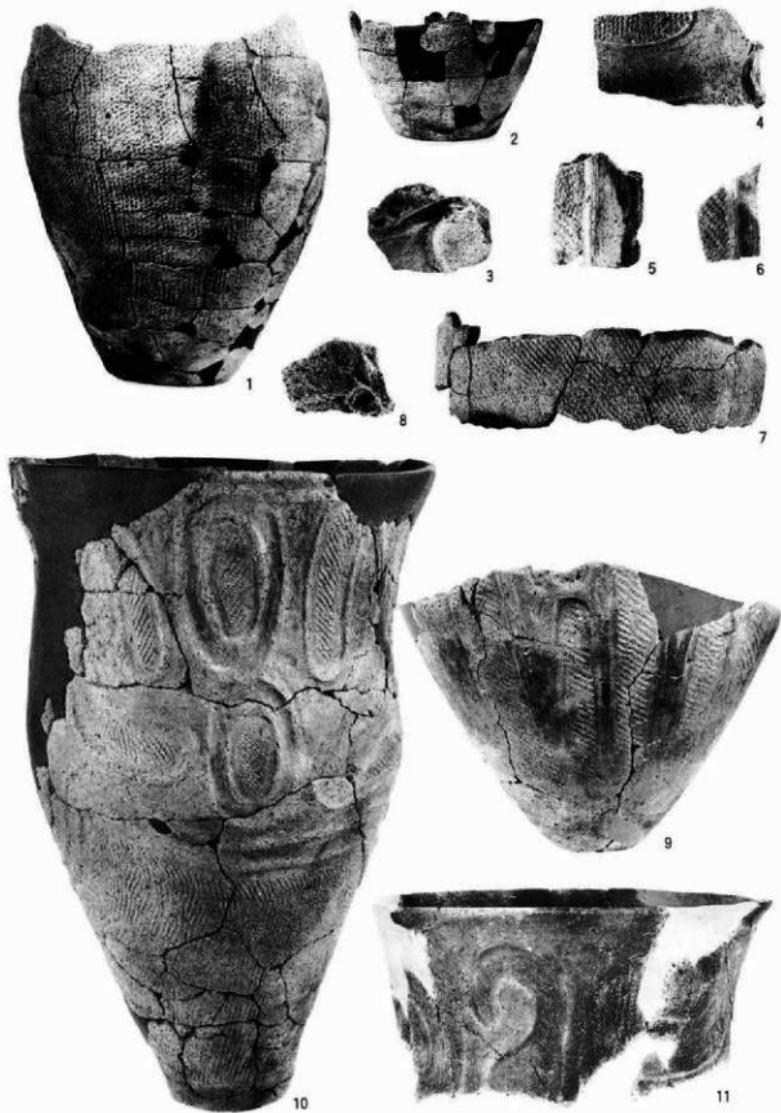


遺跡遠景

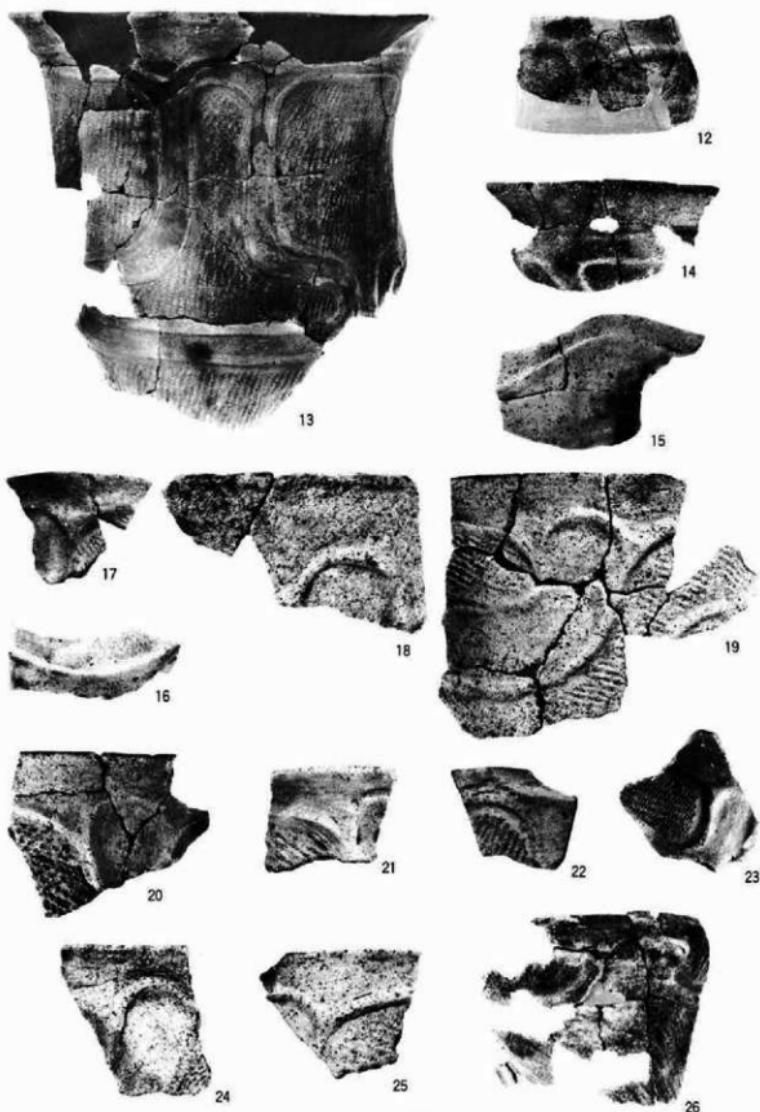


調査風景

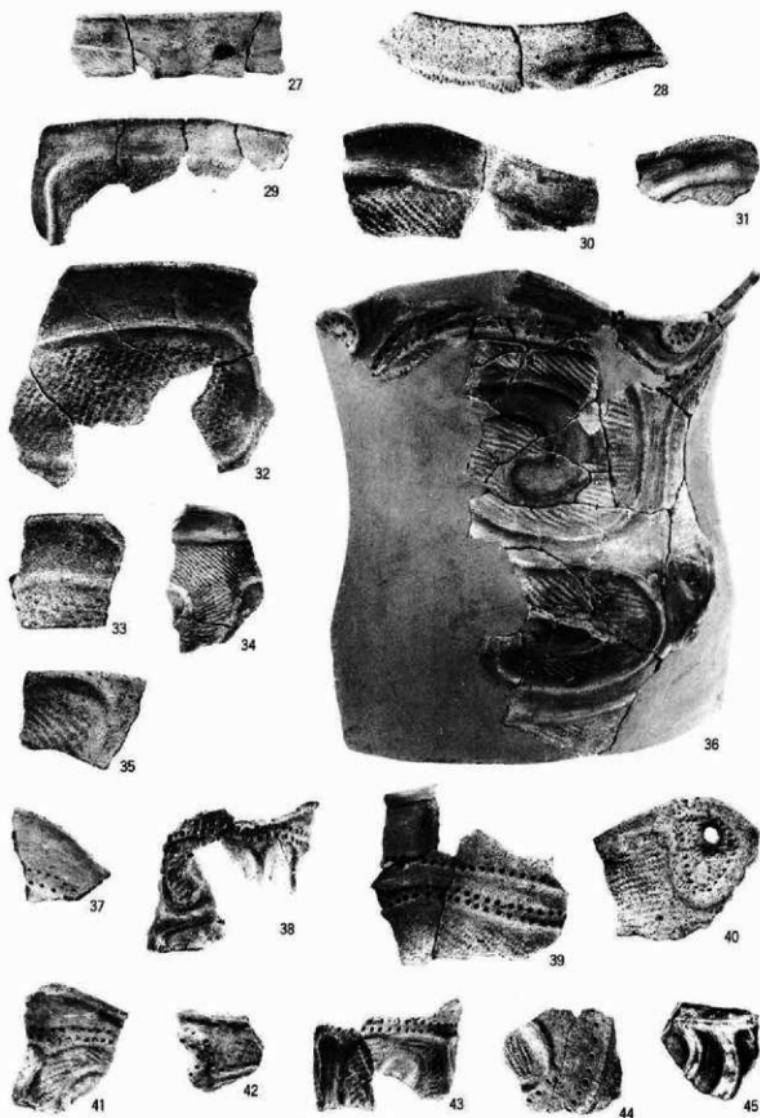
写真図版58 遺跡遠景・調査風景



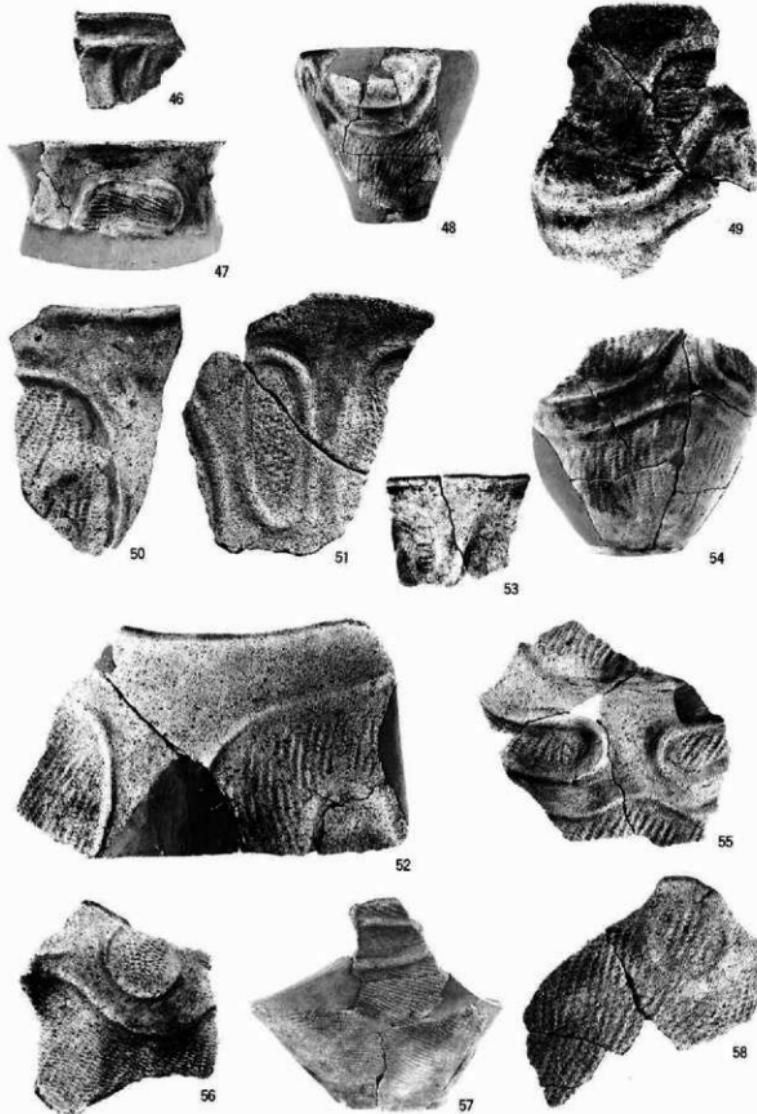
写真図版59 出土遺物 1~11



写真図版60 出土遺物12~26



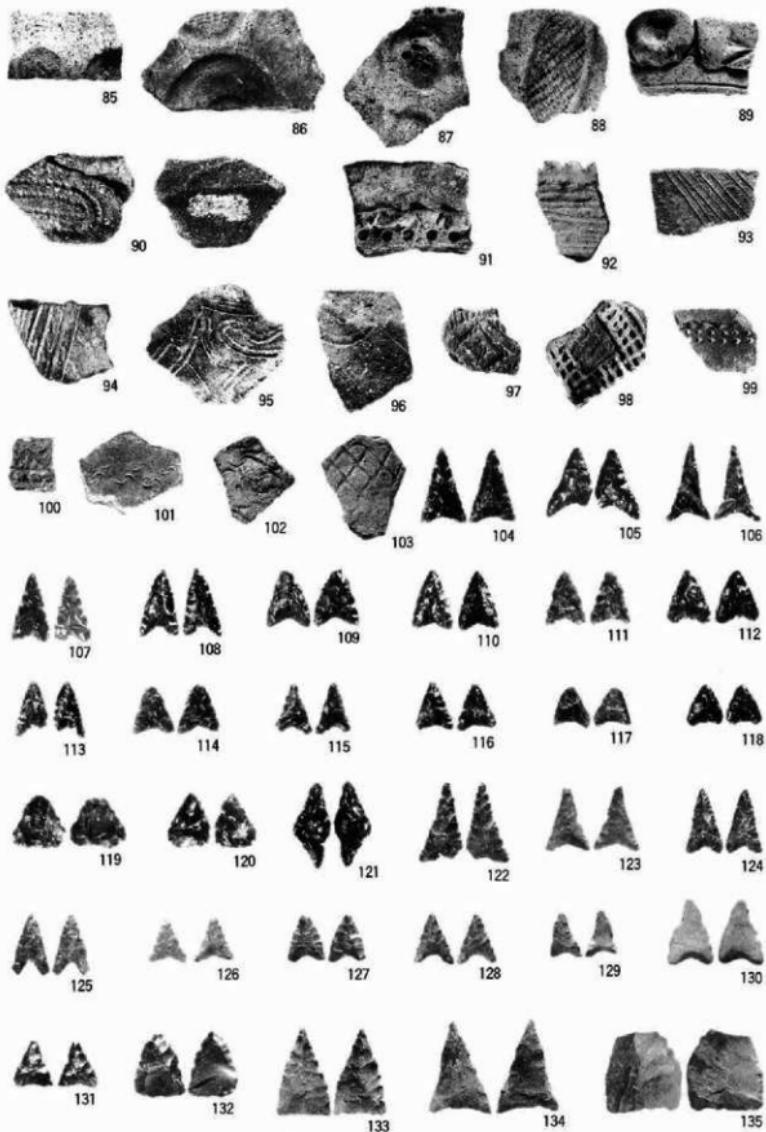
写真図版61 出土遺物27~45



写真図版62 出土遺物46~58



写真図版63 出土遺物59~84



写真図版64 出土遺物85~135



写真図版65 出土遺物136~158



159



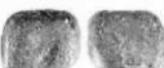
160



161



162



163



165



166



167



168



164



169



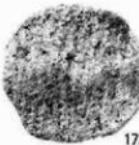
170



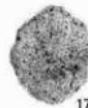
171



172



173



174



175



176



181



177



178

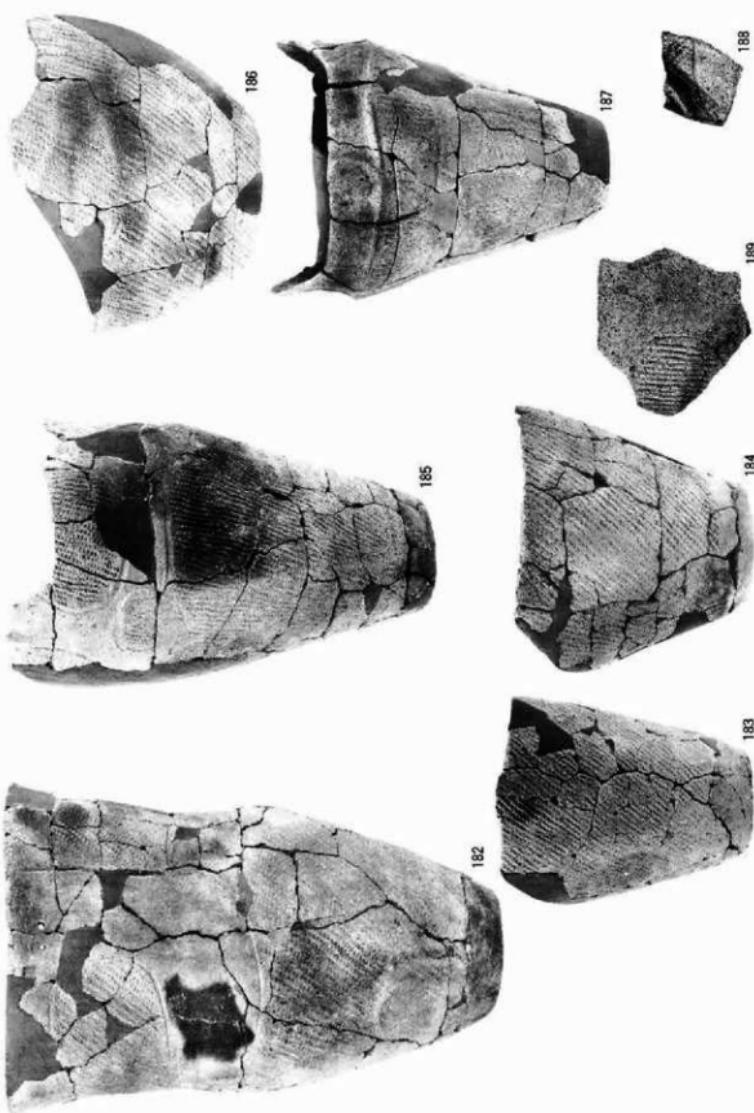


179

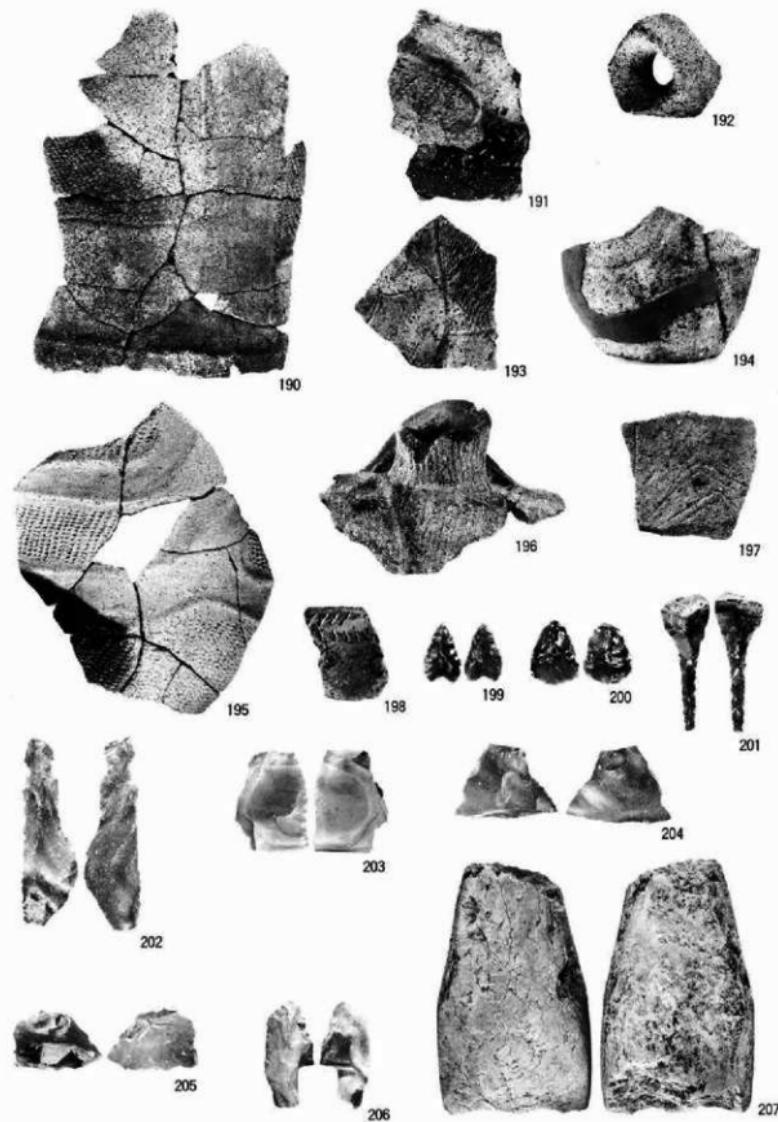


180

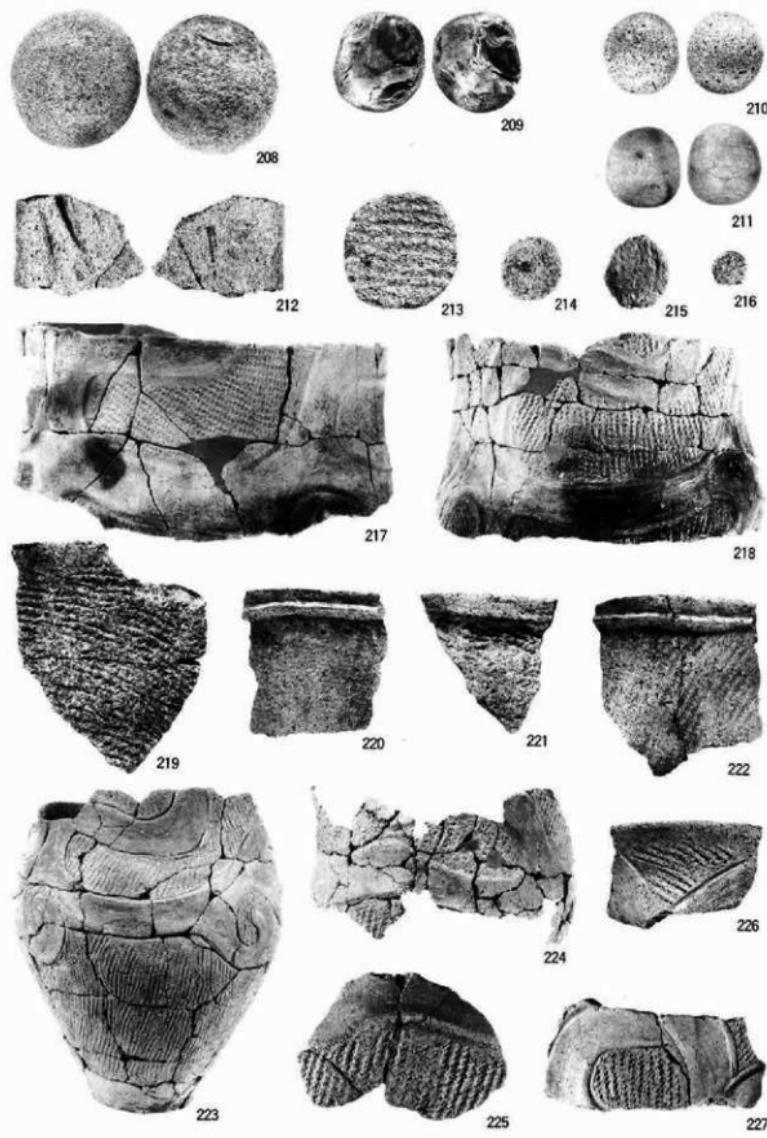
写真図版66 出土遺物159~181



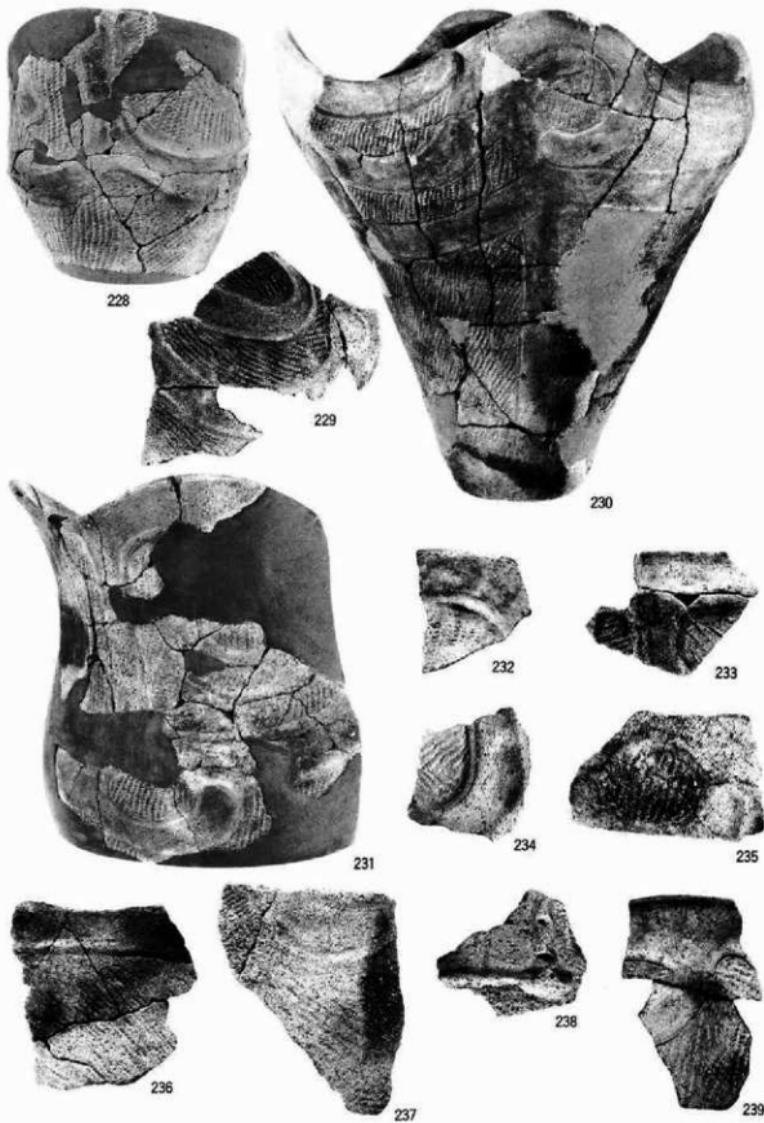
写真図版67 出土遺物182~189



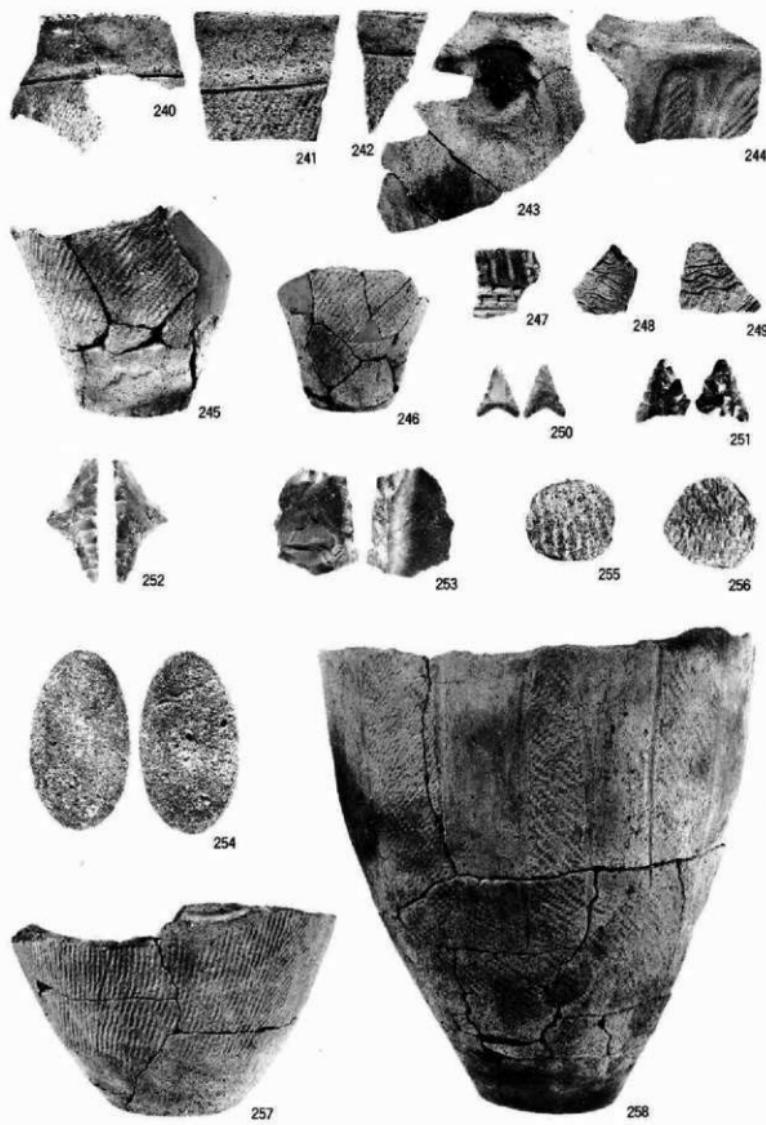
写真図版68 出土遺物190~207



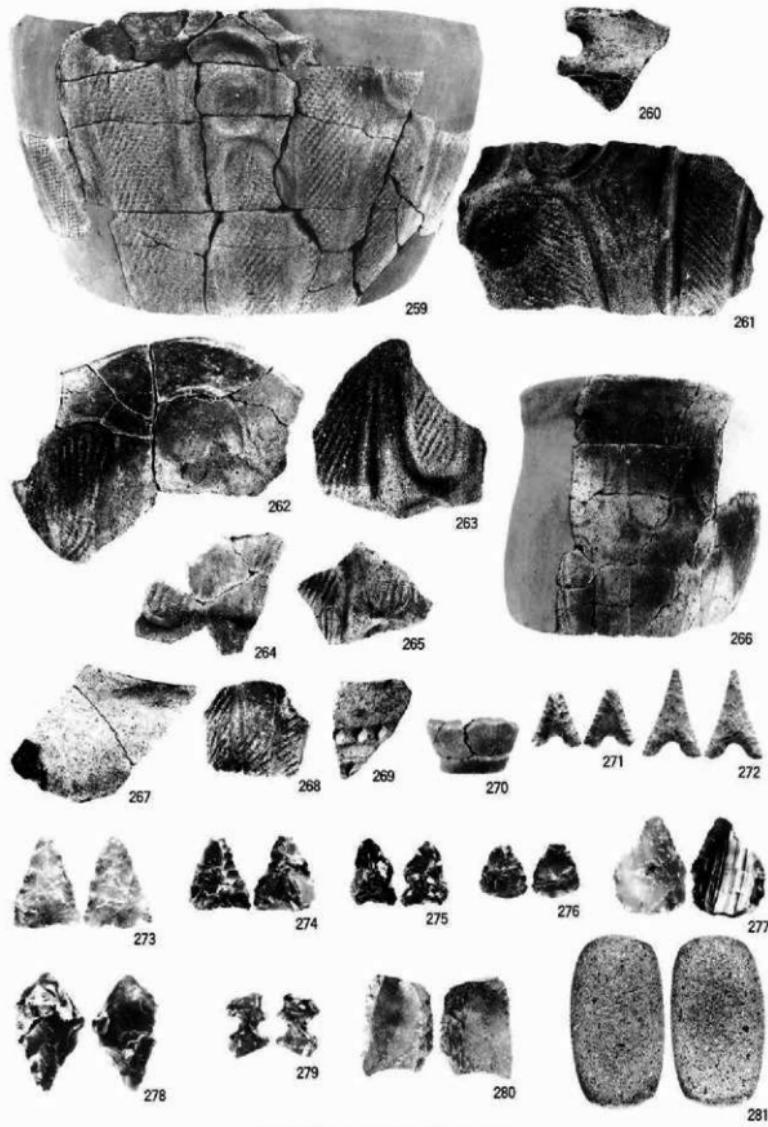
写真図版69 出土遺物208~227



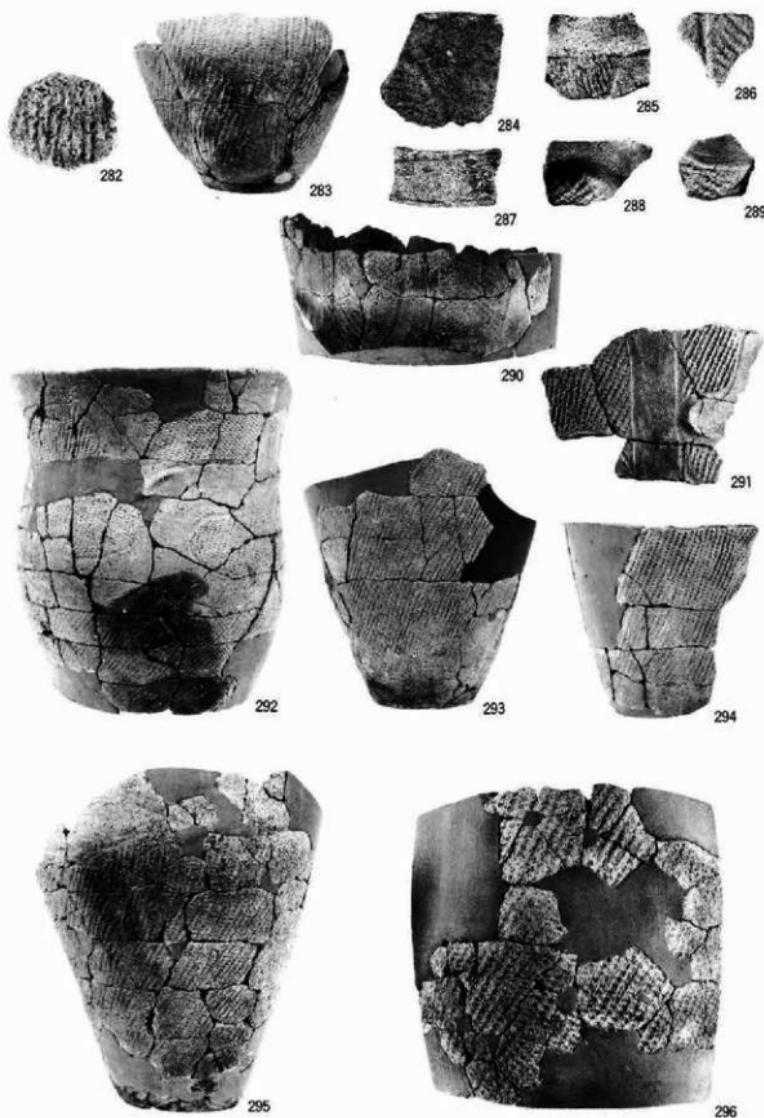
写真図版70 出土遺物228~239



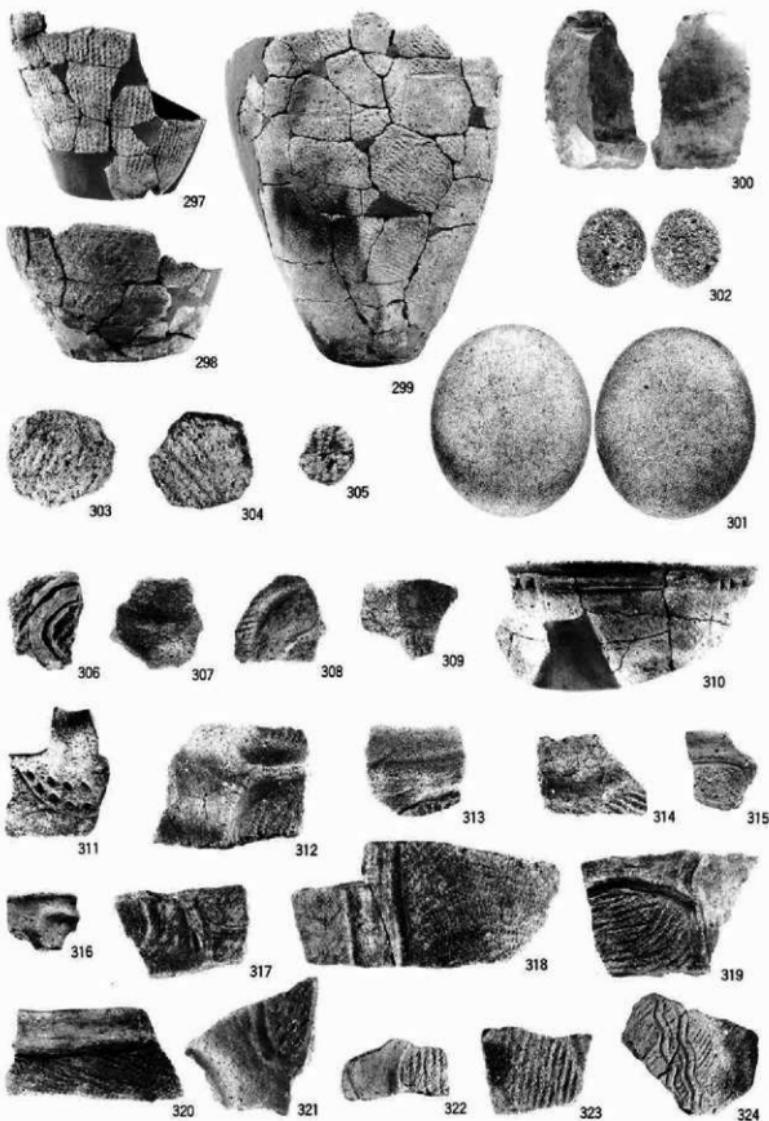
写真図版71 出土遺物240~258



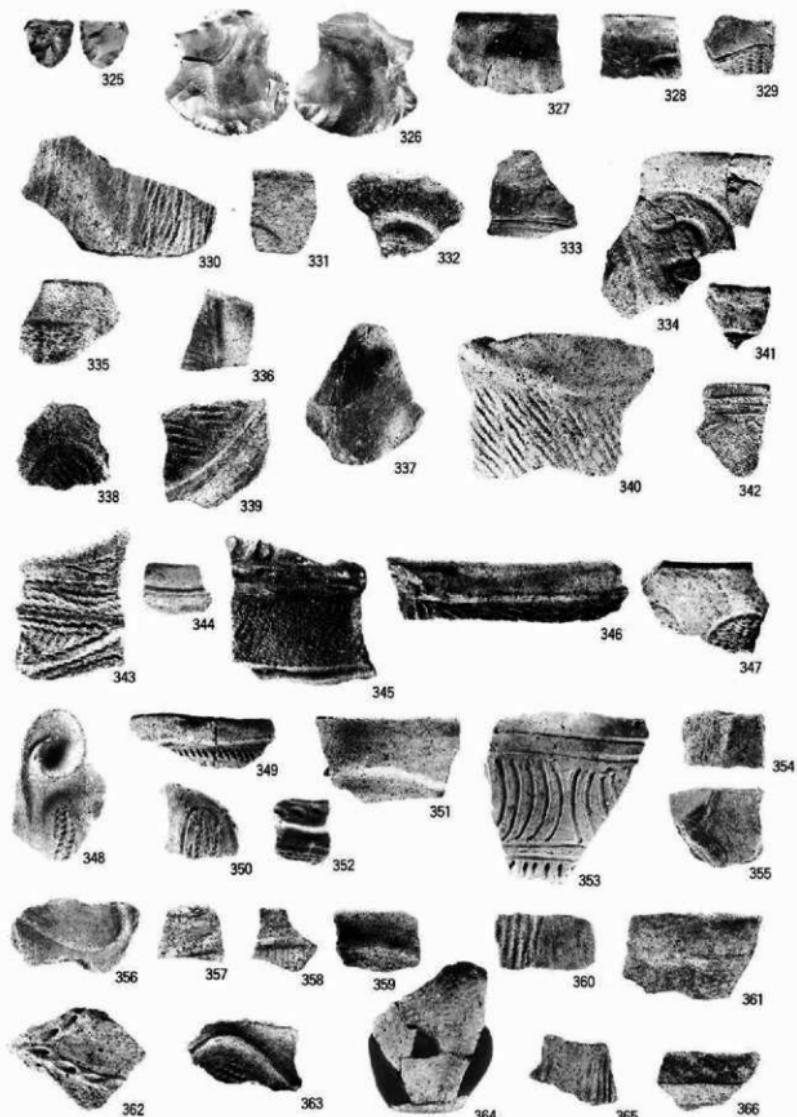
写真図版72 出土遺物259~281



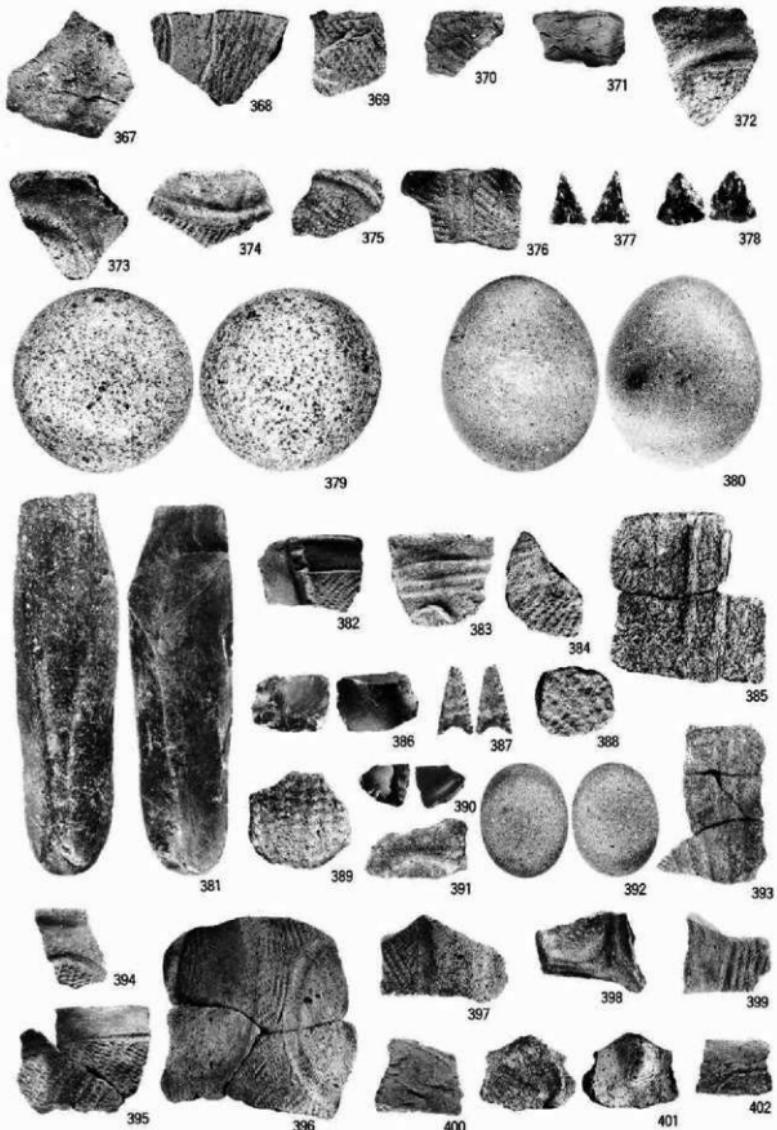
写真図版73 出土遺物282~296



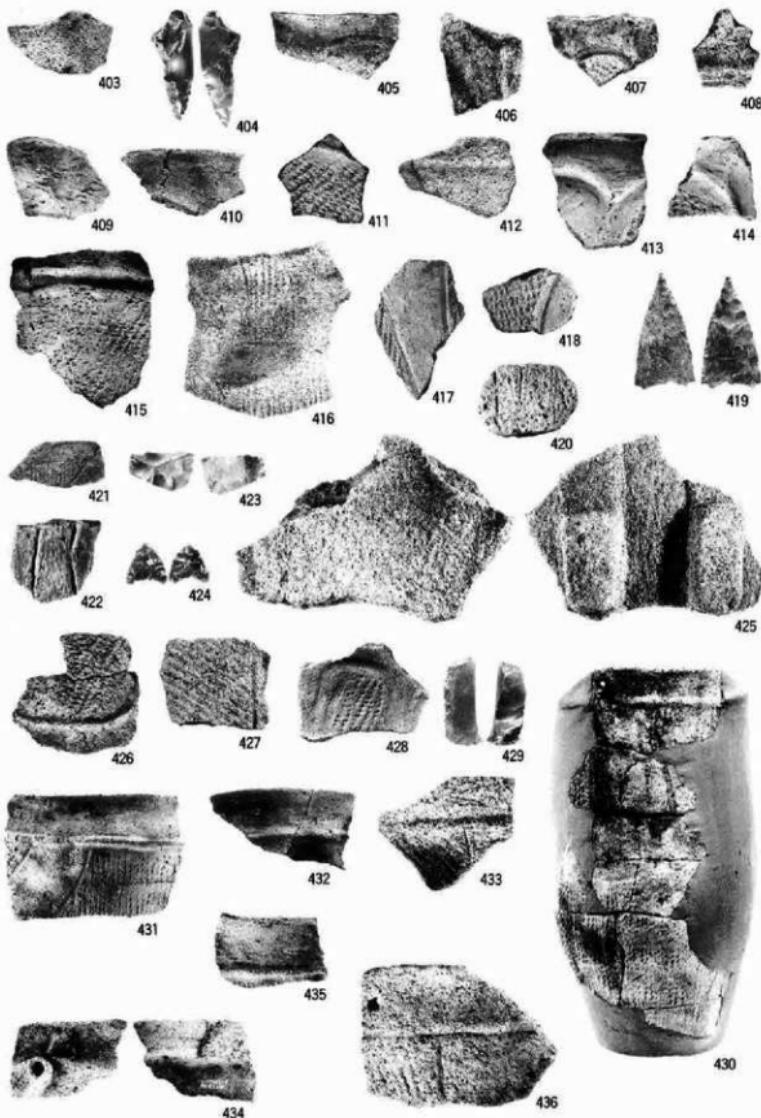
写真図版74 出土遺物297~324



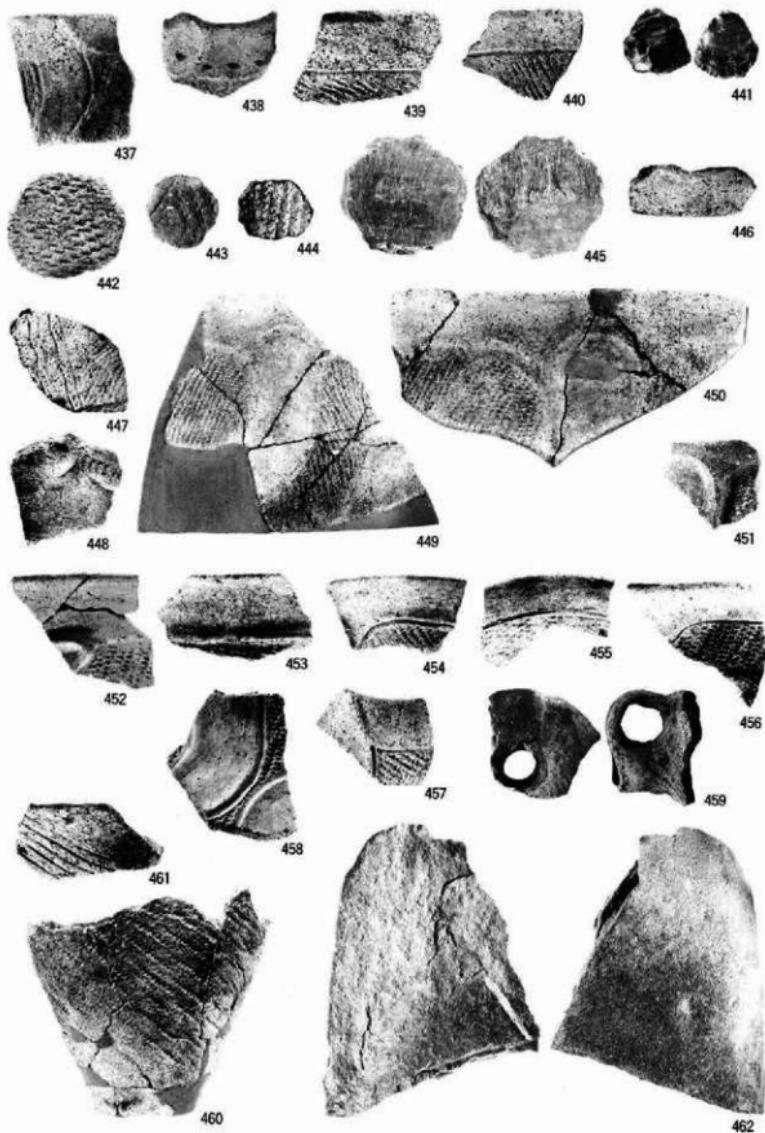
写真図版75 出土遺物325~366



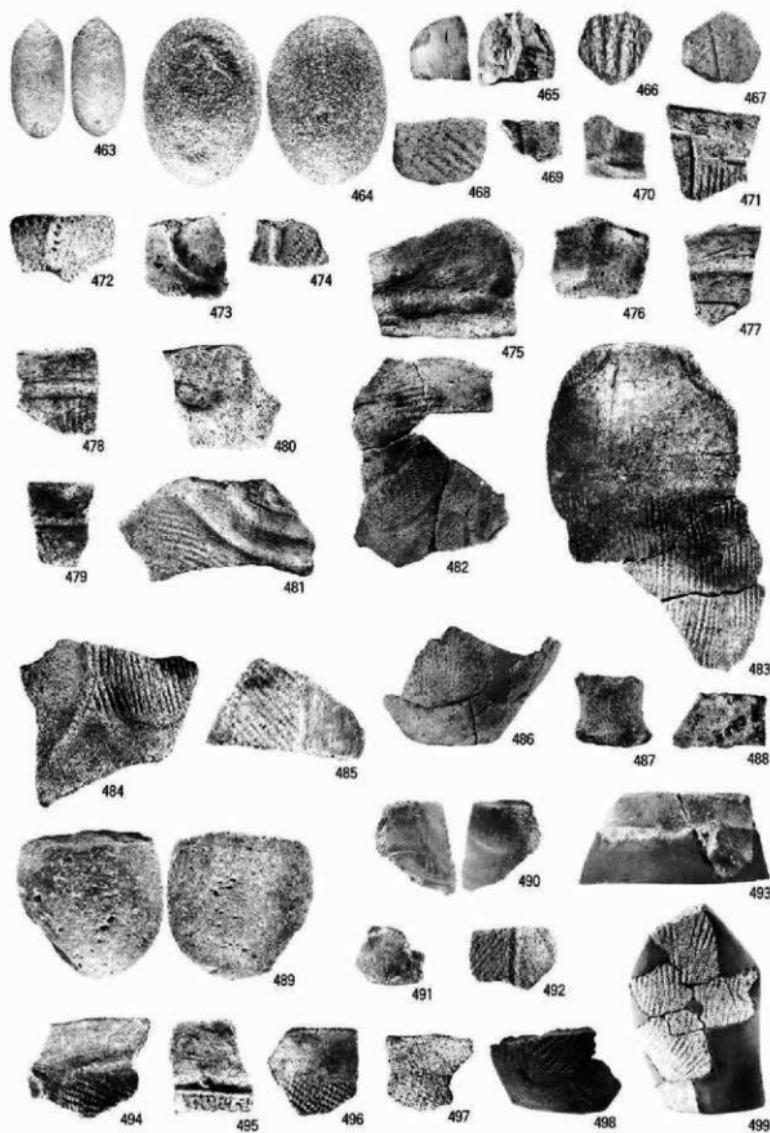
写真図版76 出土遺物367~402



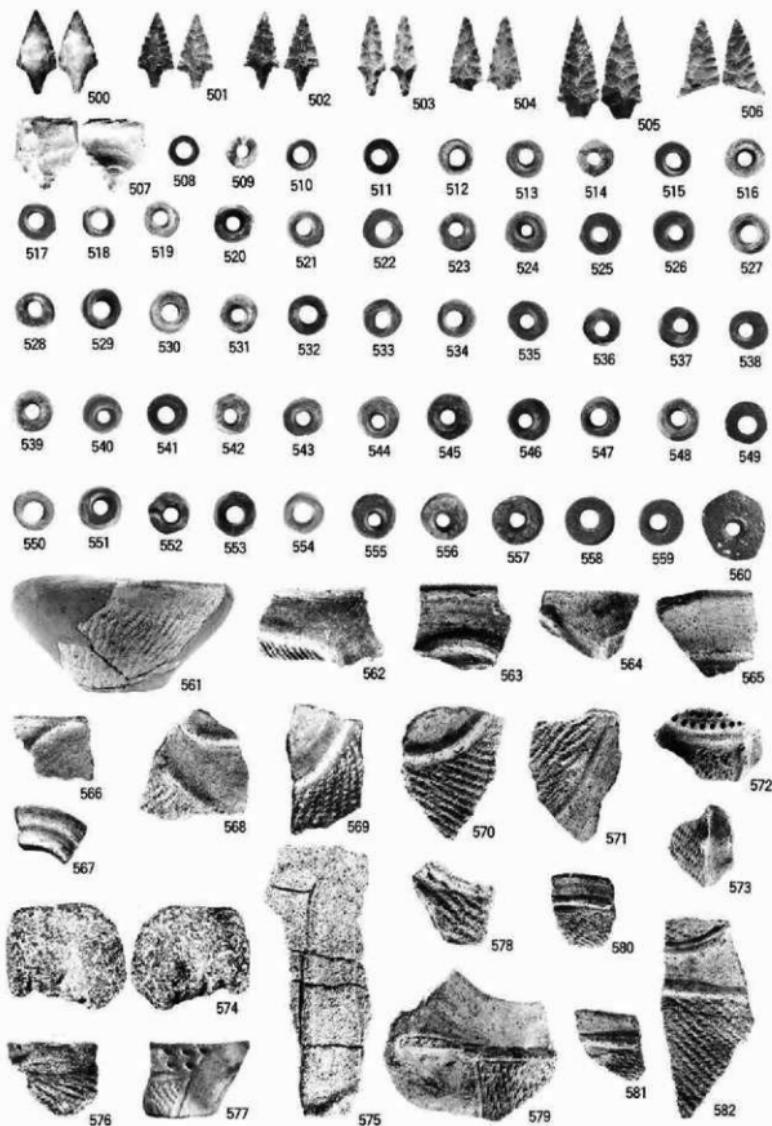
写真図版77 出土遺物403~436



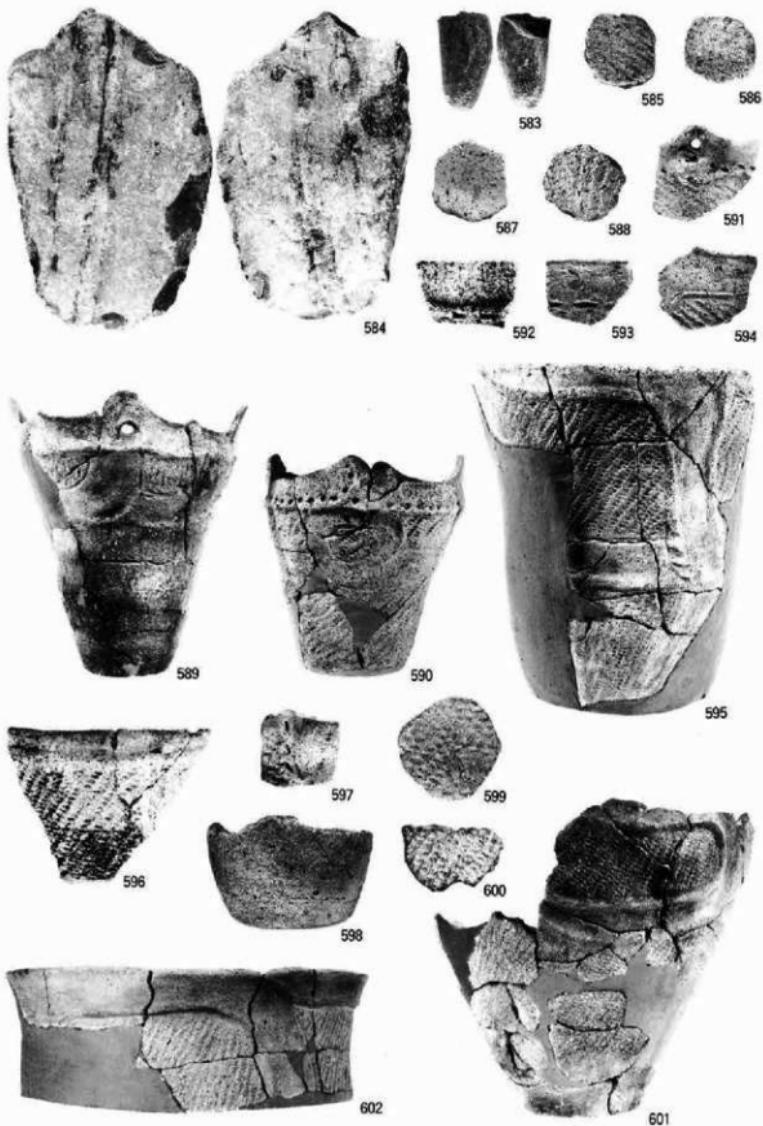
写真図版78 出土遺物437~462



写真図版79 出土遺物463~499



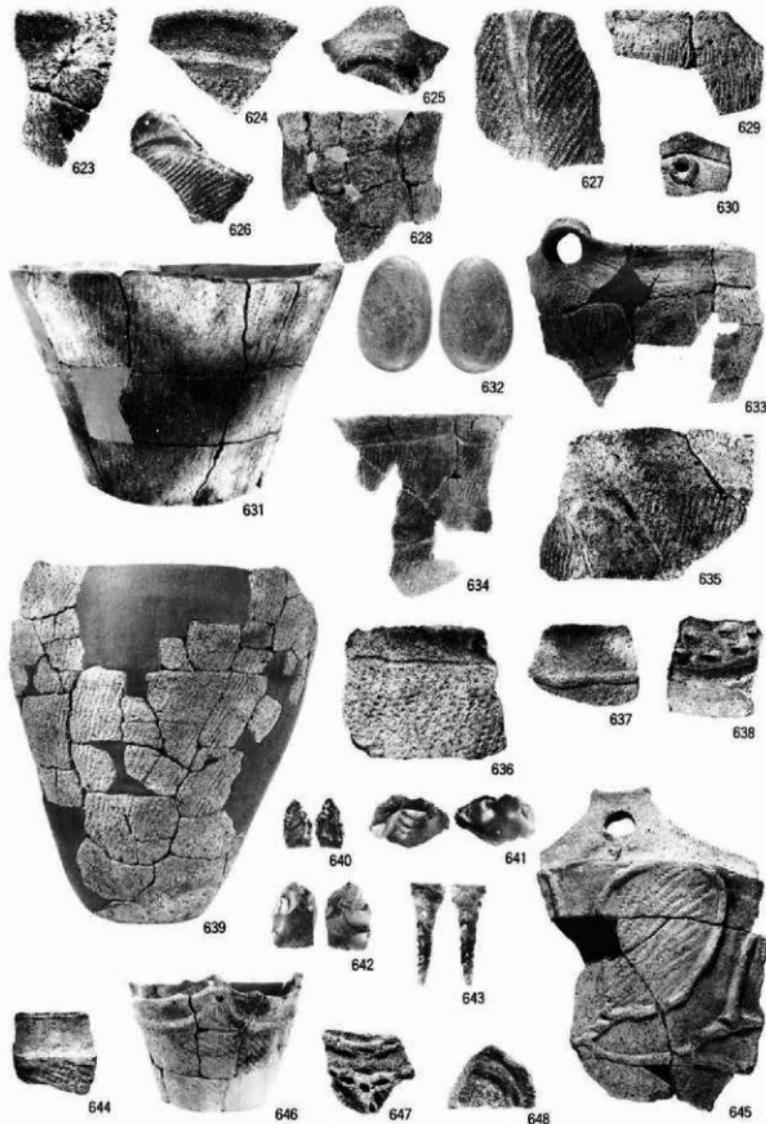
写真図版80 出土遺物500~582



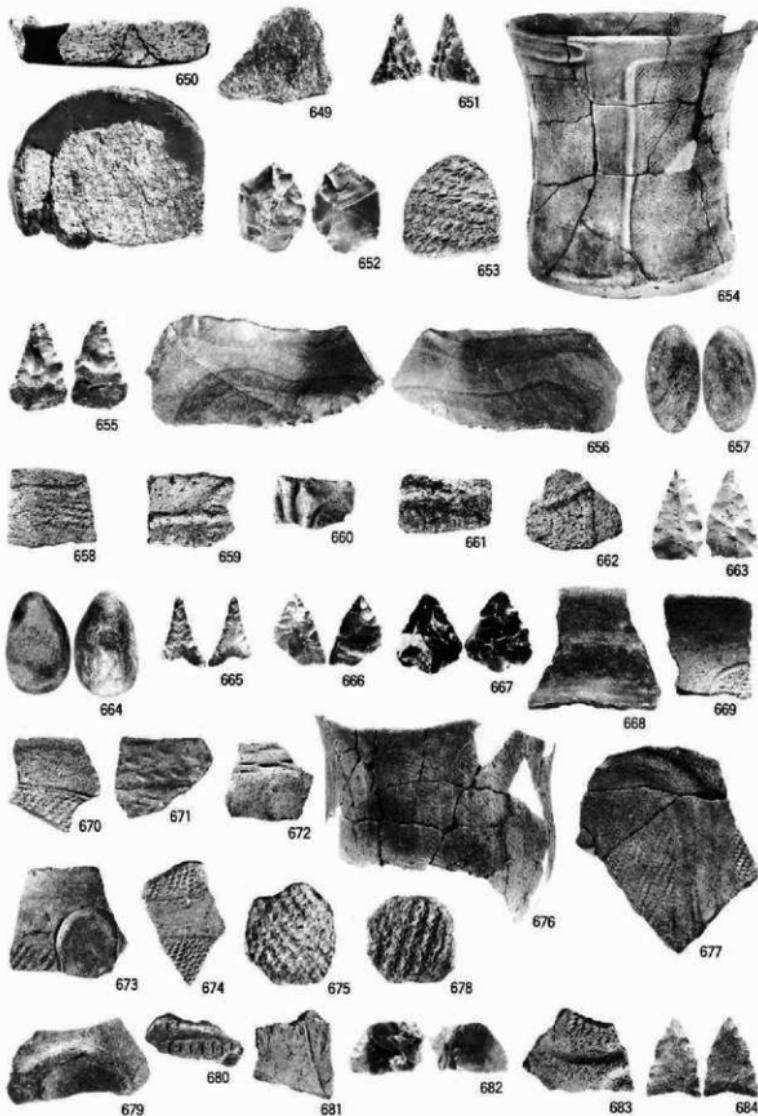
写真図版81 出土遺物583~602



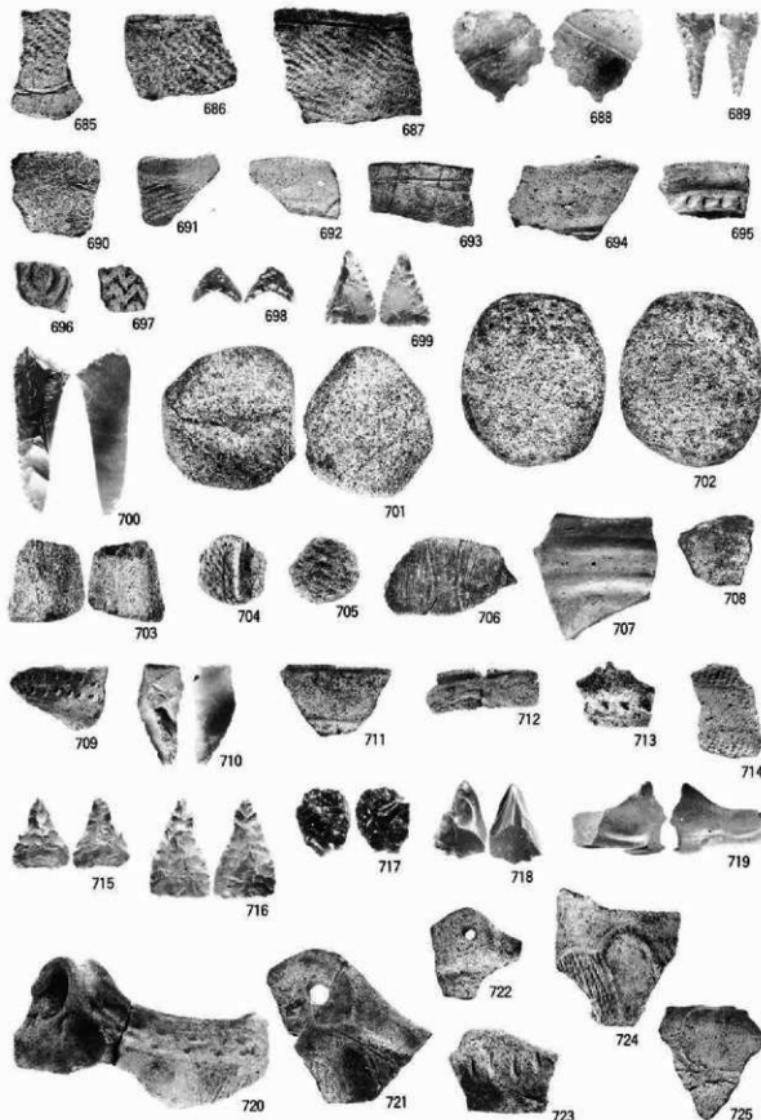
写真図版82 出土遺物603~622



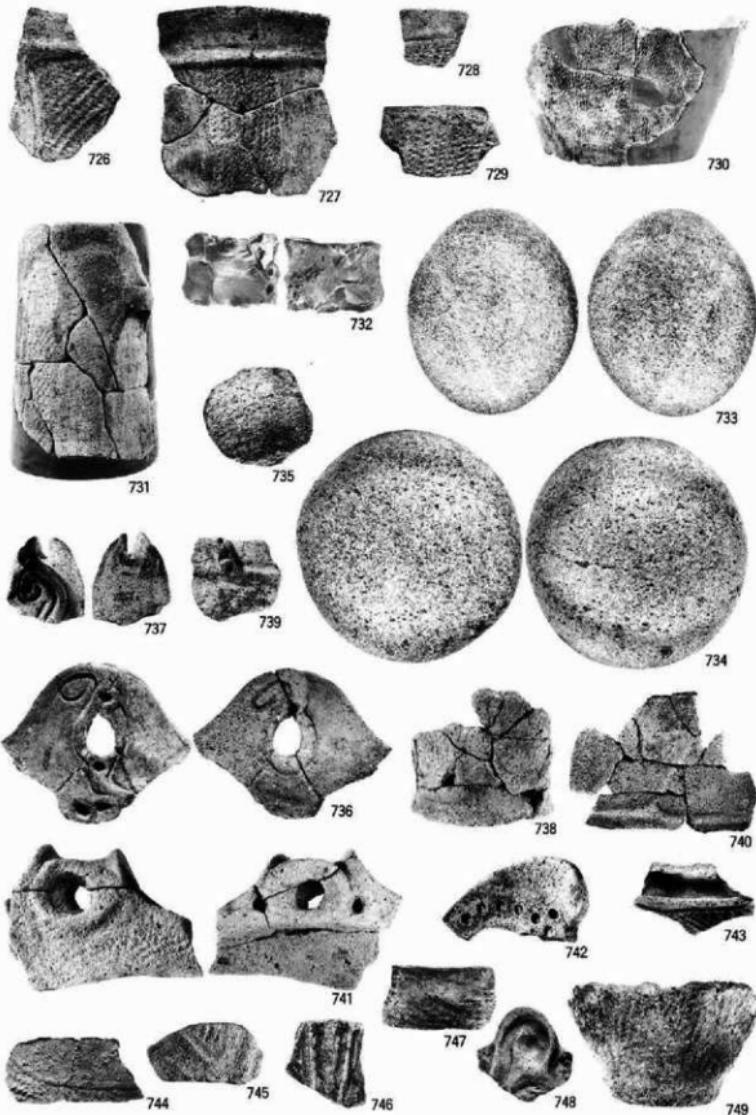
写真図版83 出土遺物623~648



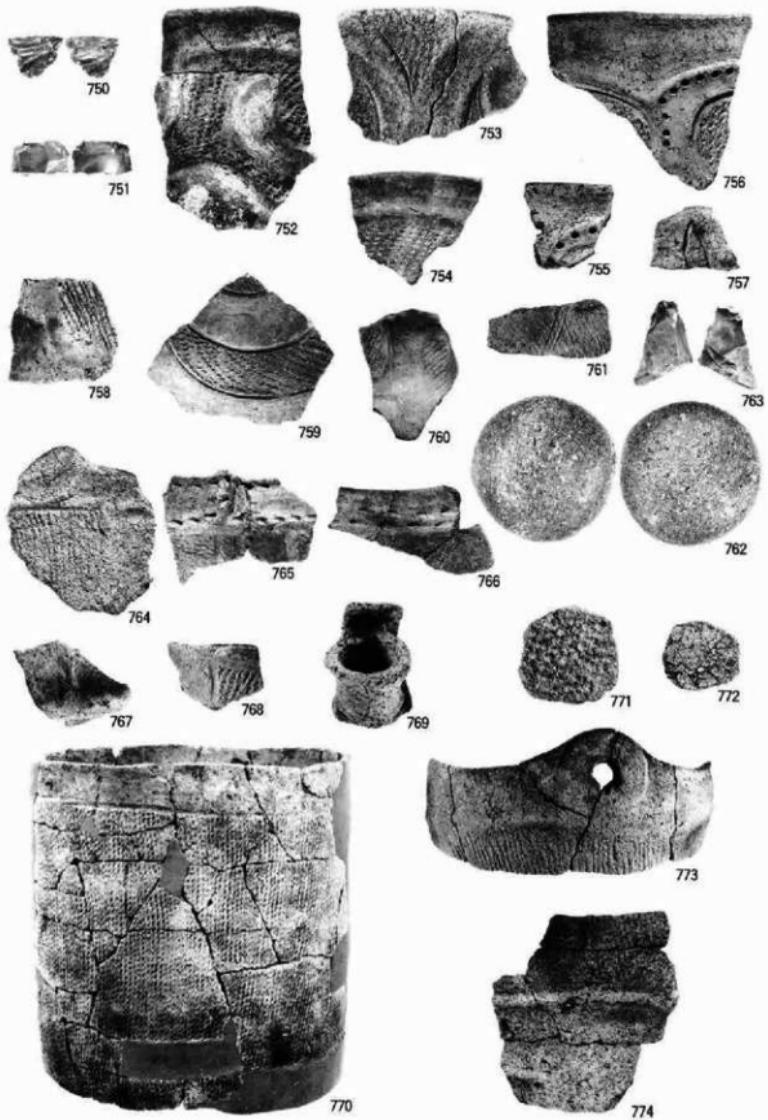
写真図版84 出土遺物649~684



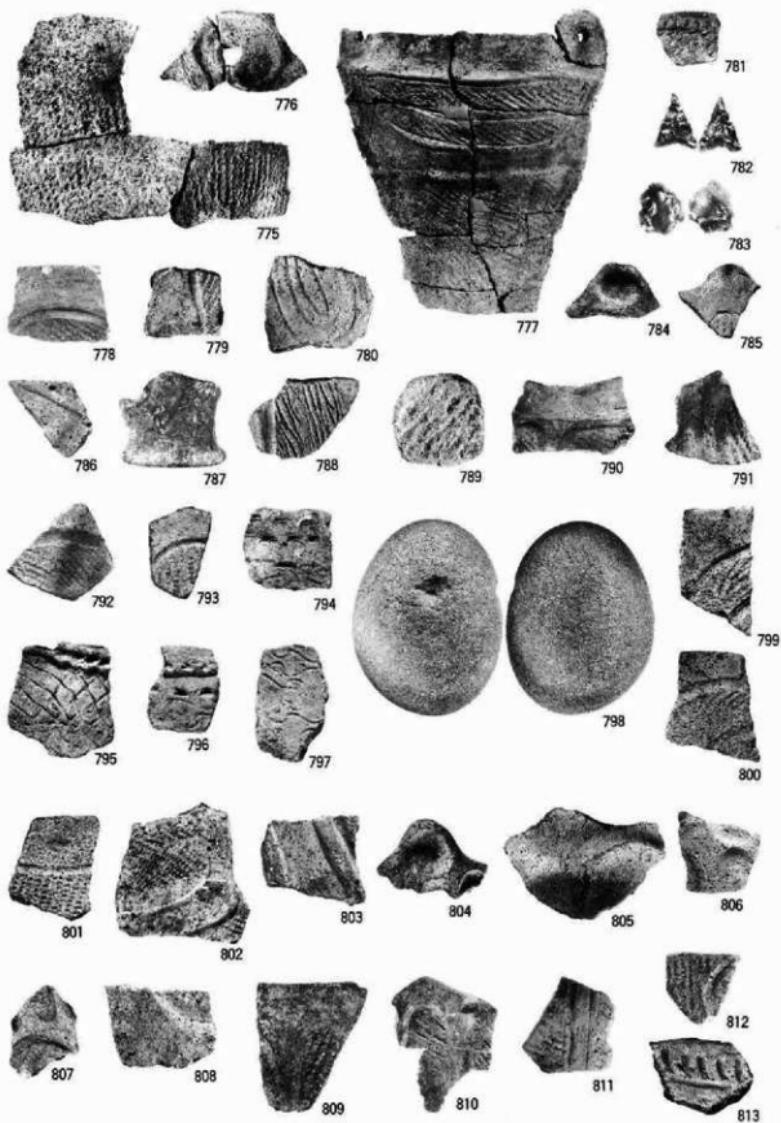
写真図版85 出土遺物685~725



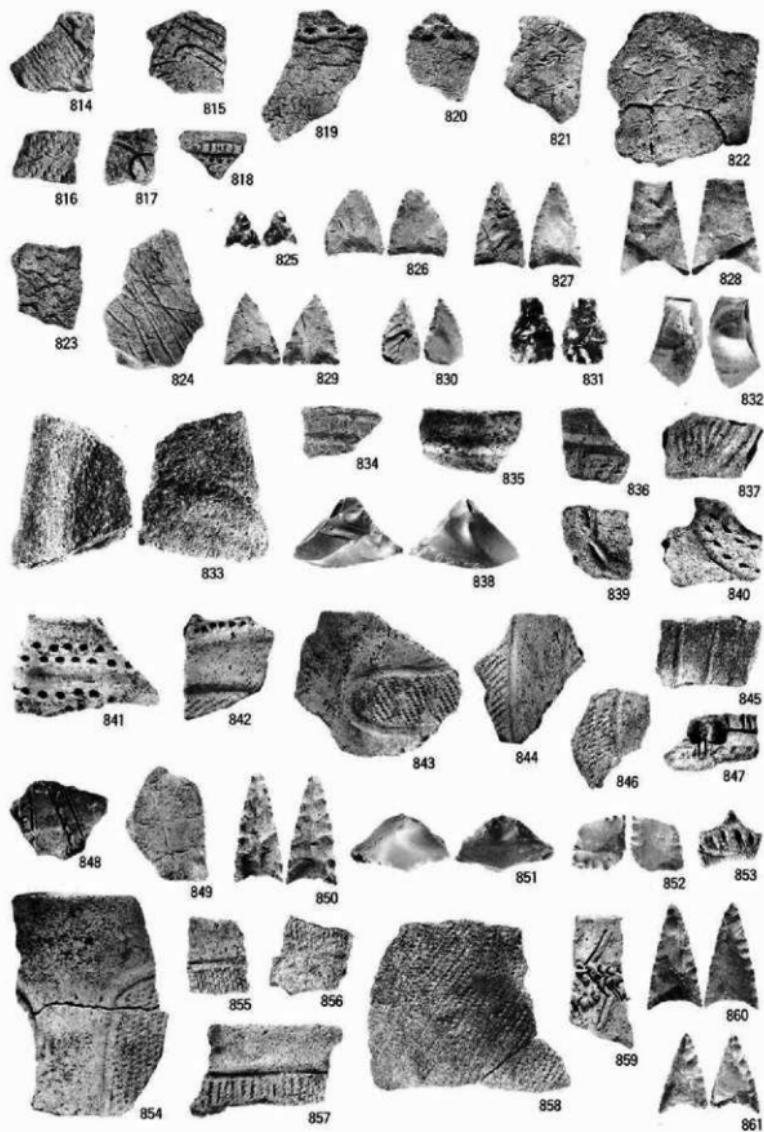
写真図版86 出土遺物726~749



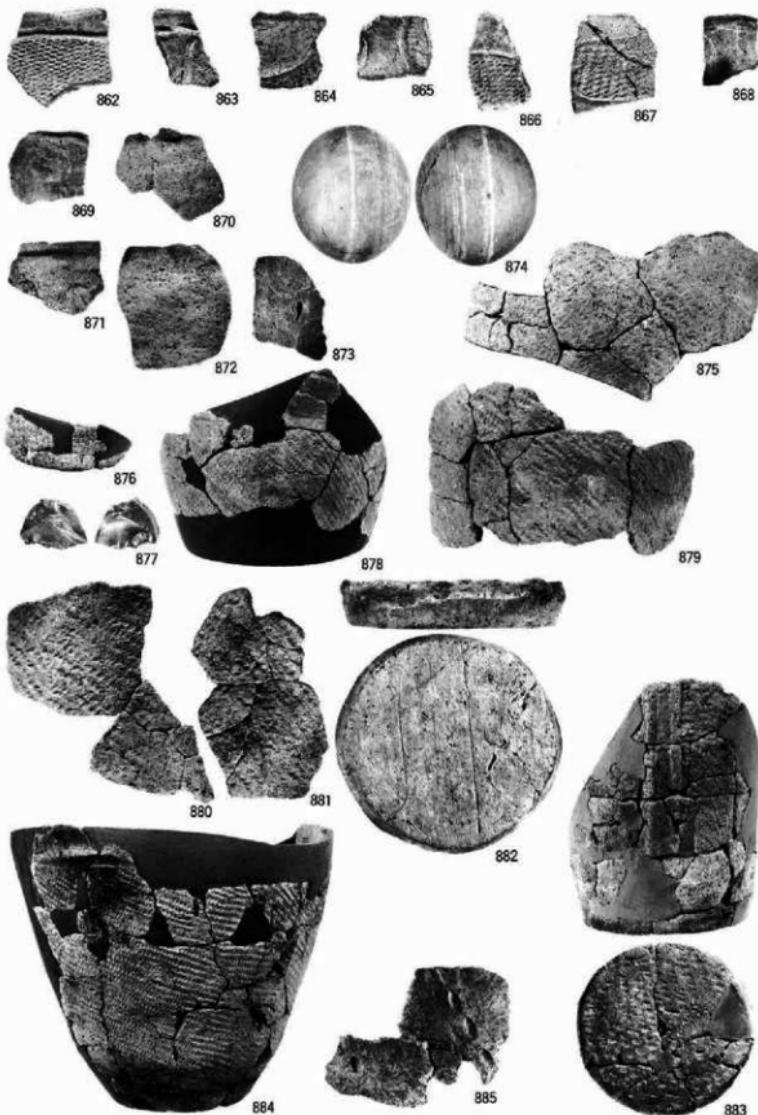
写真図版87 出土遺物750~774



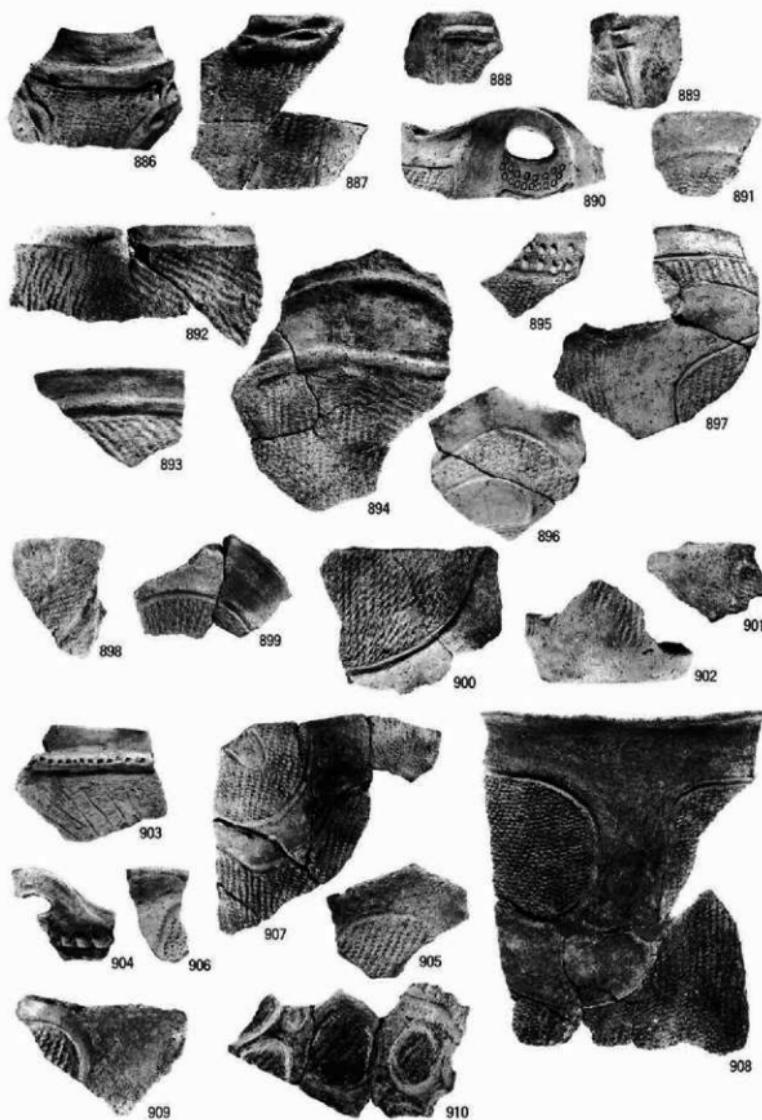
写真図版88 出土遺物775~813



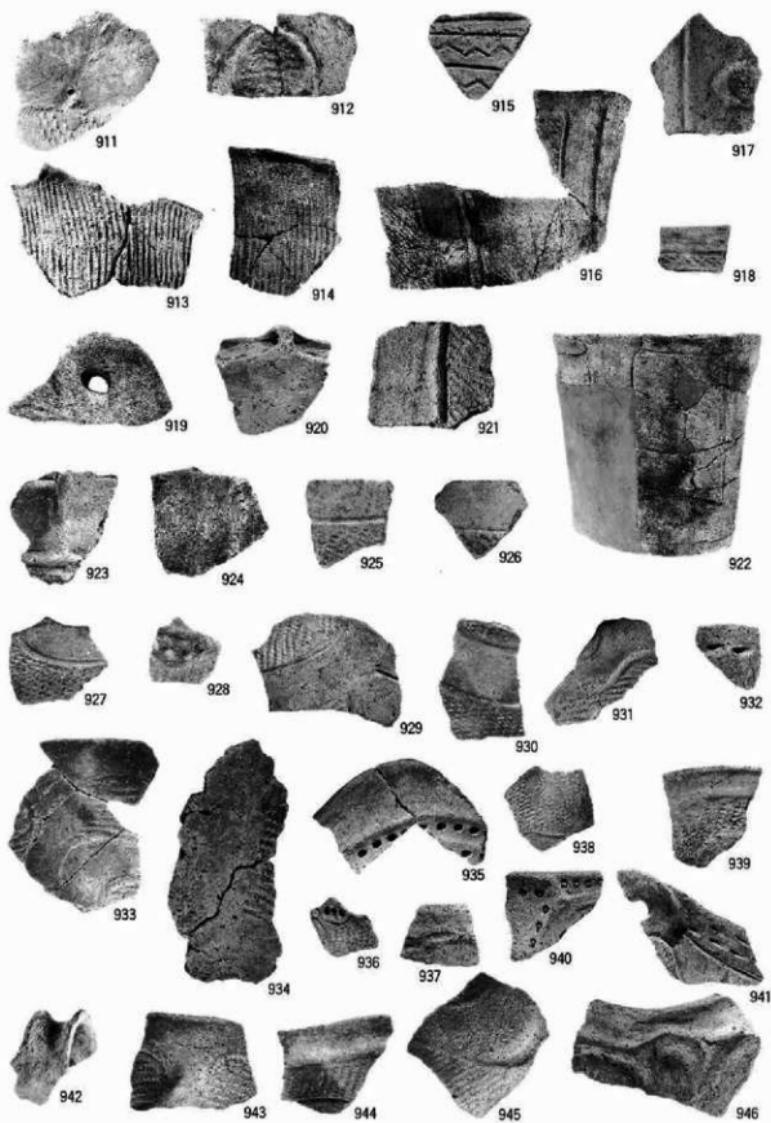
写真図版89 出土遺物814~861



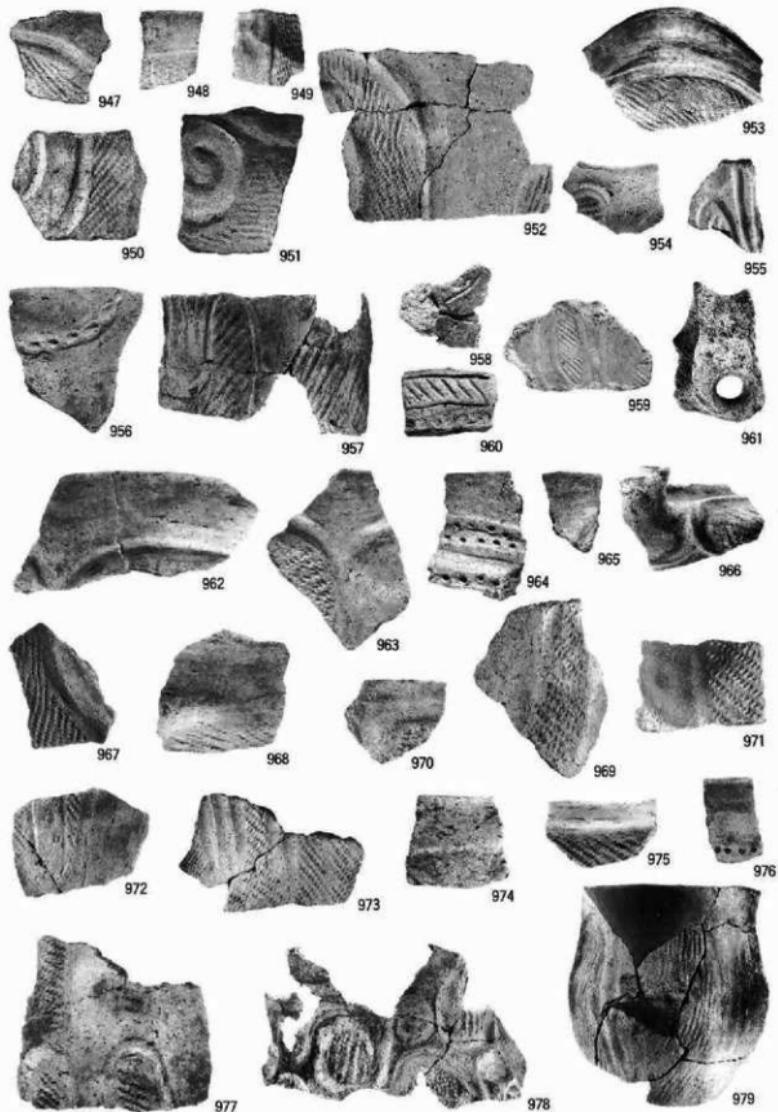
写真図版90 出土遺物862~885



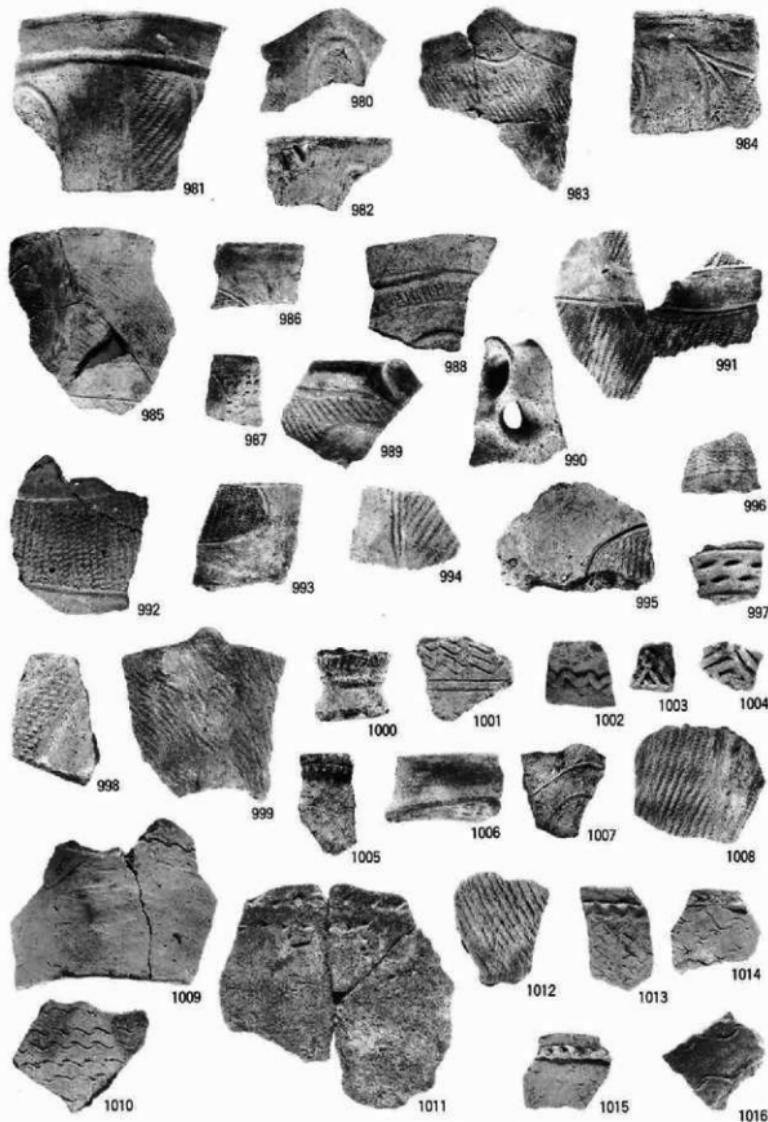
写真図版91 出土遺物886~910



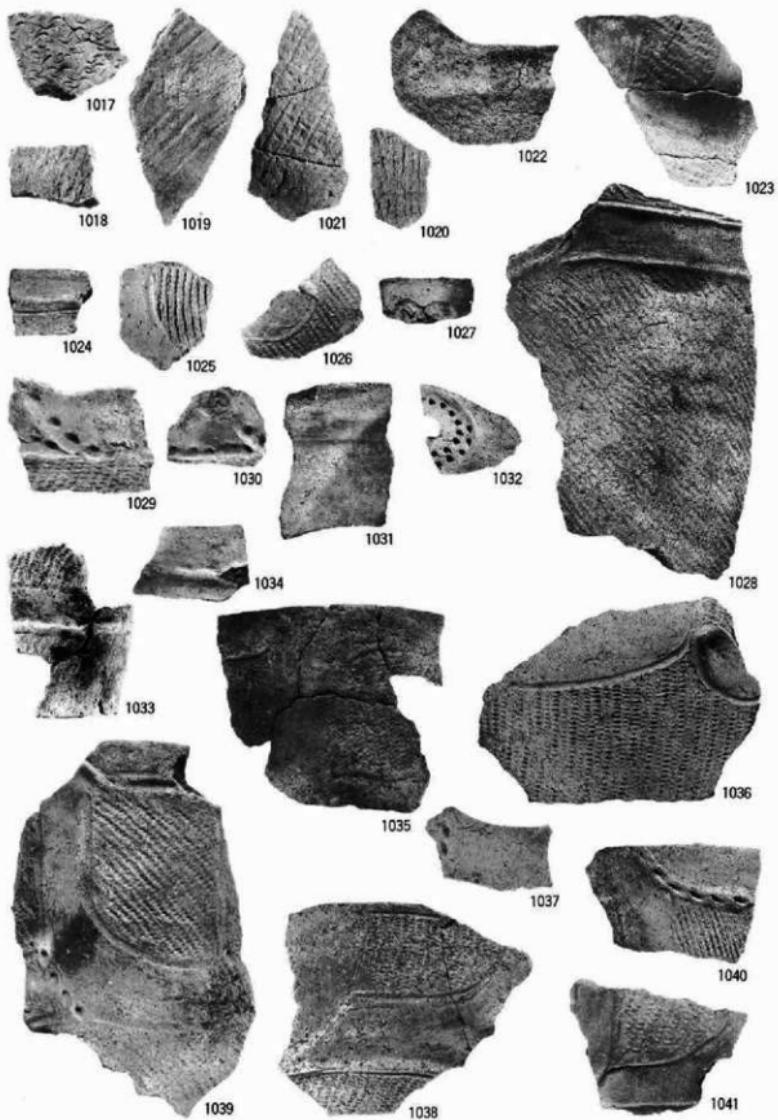
写真図版92 出土遺物911~946



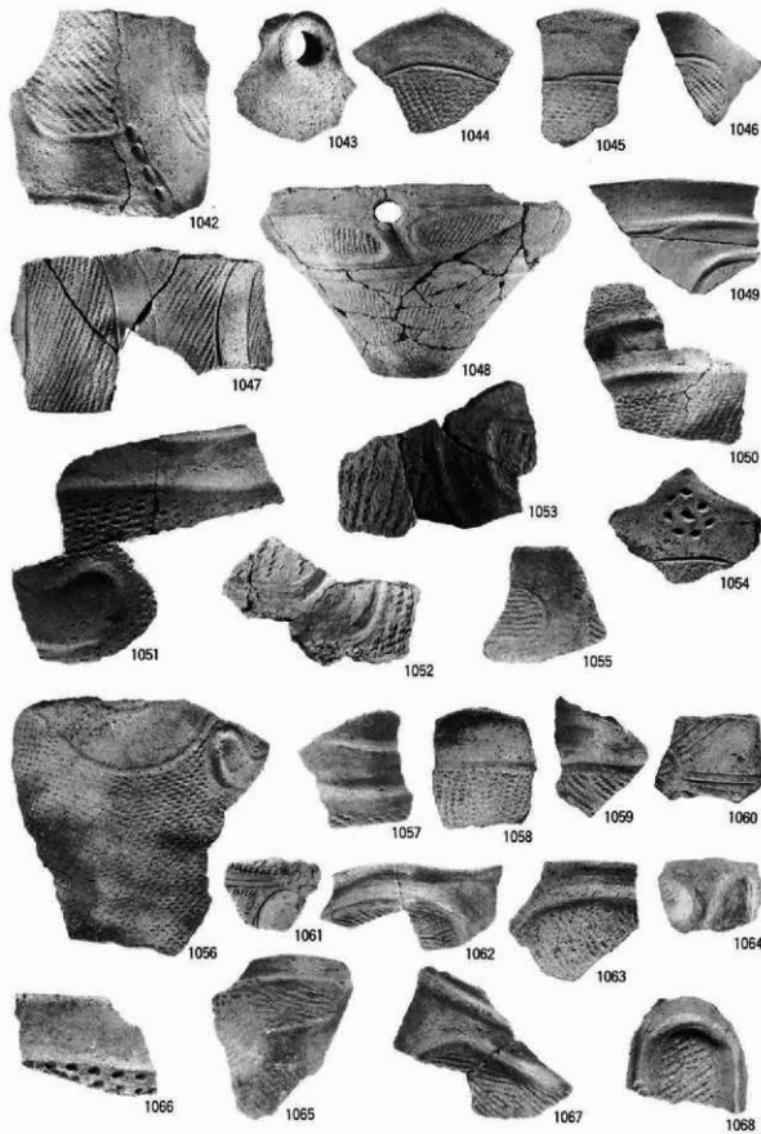
写真図版93 出土遺物947~979



写真図版94 出土遺物980~1016



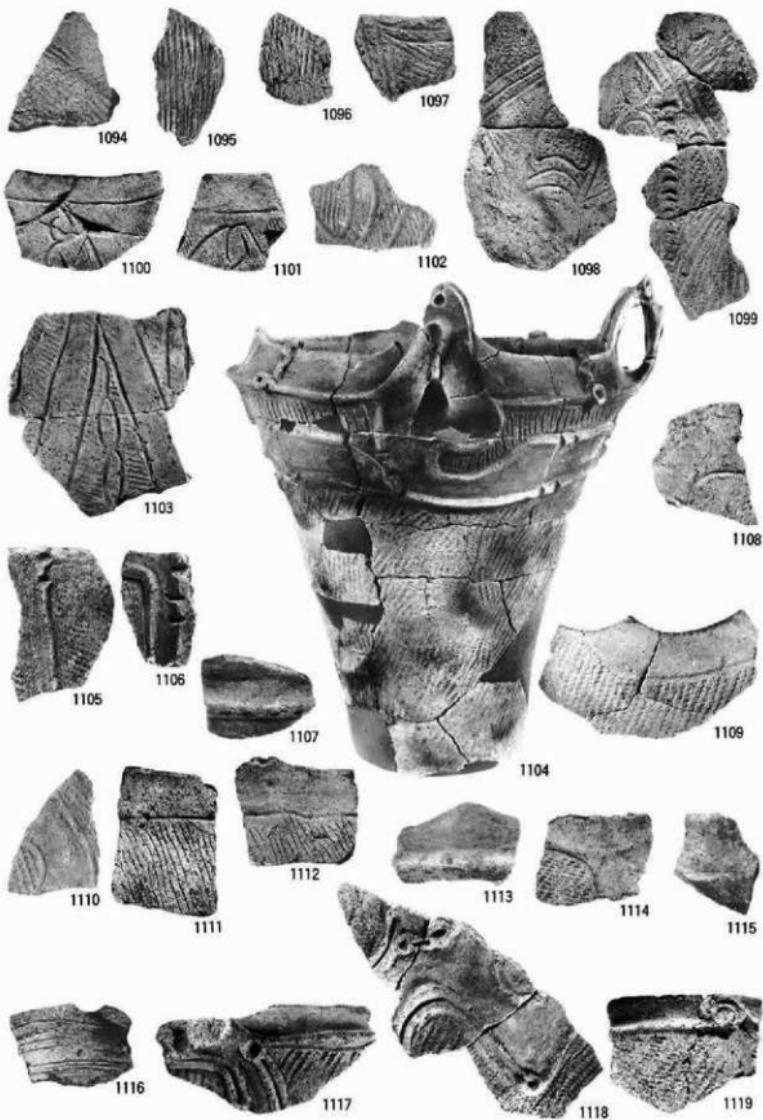
写真図版95 出土遺物1017~1041



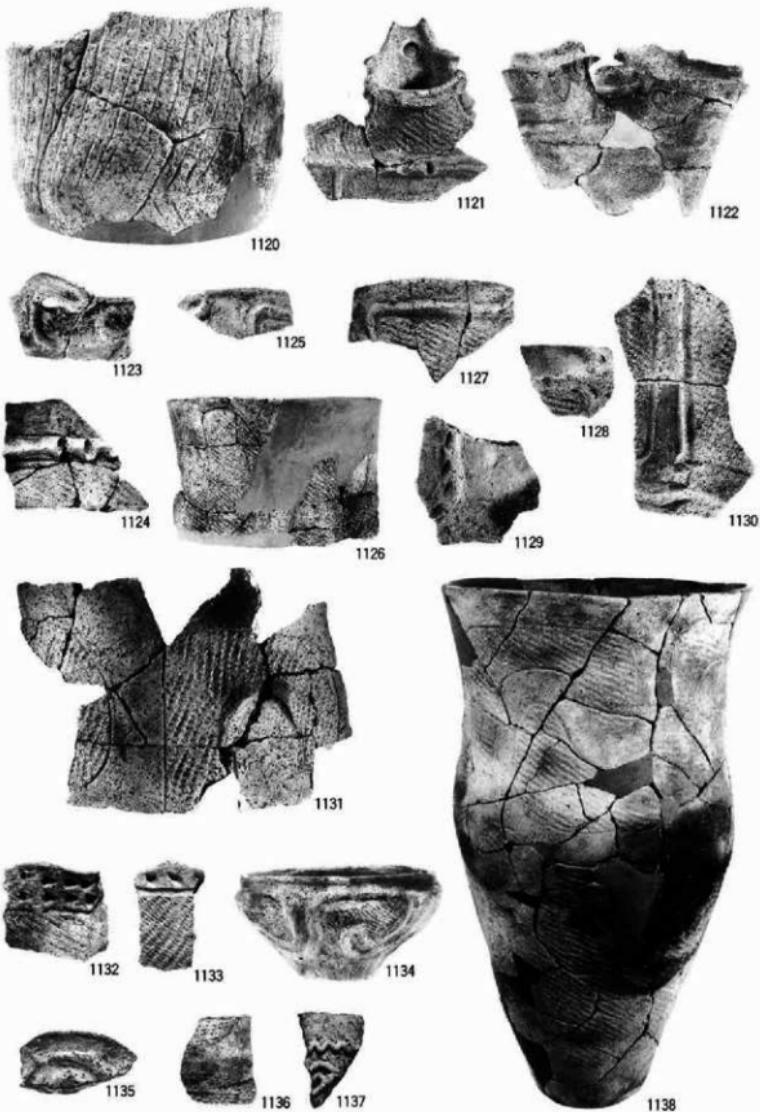
写真図版96 出土遺物1042~1068



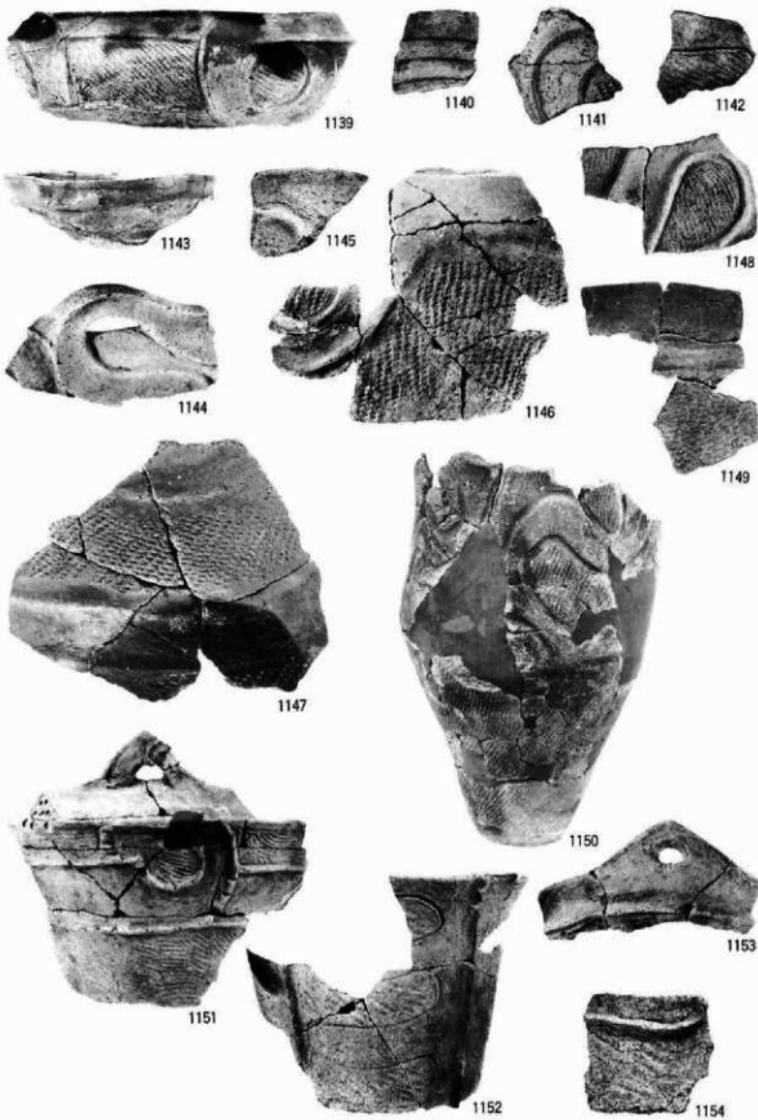
写真図版97 出土遺物1069~1093



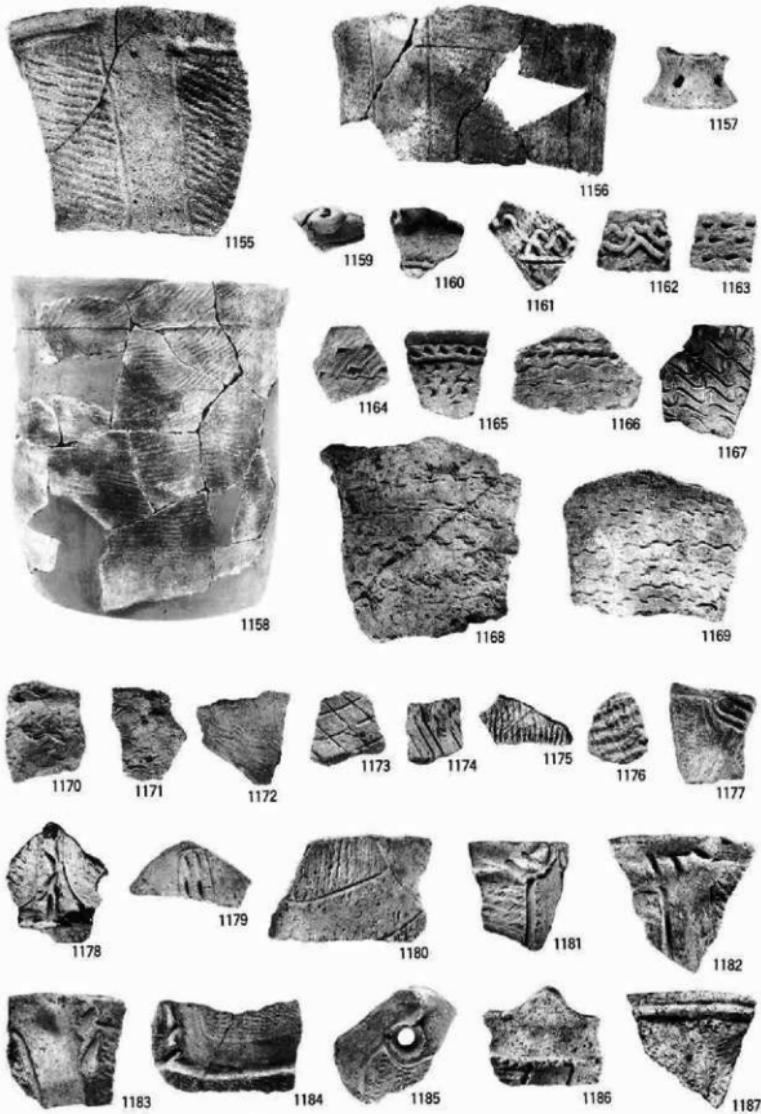
写真図版98 出土遺物1094~1119



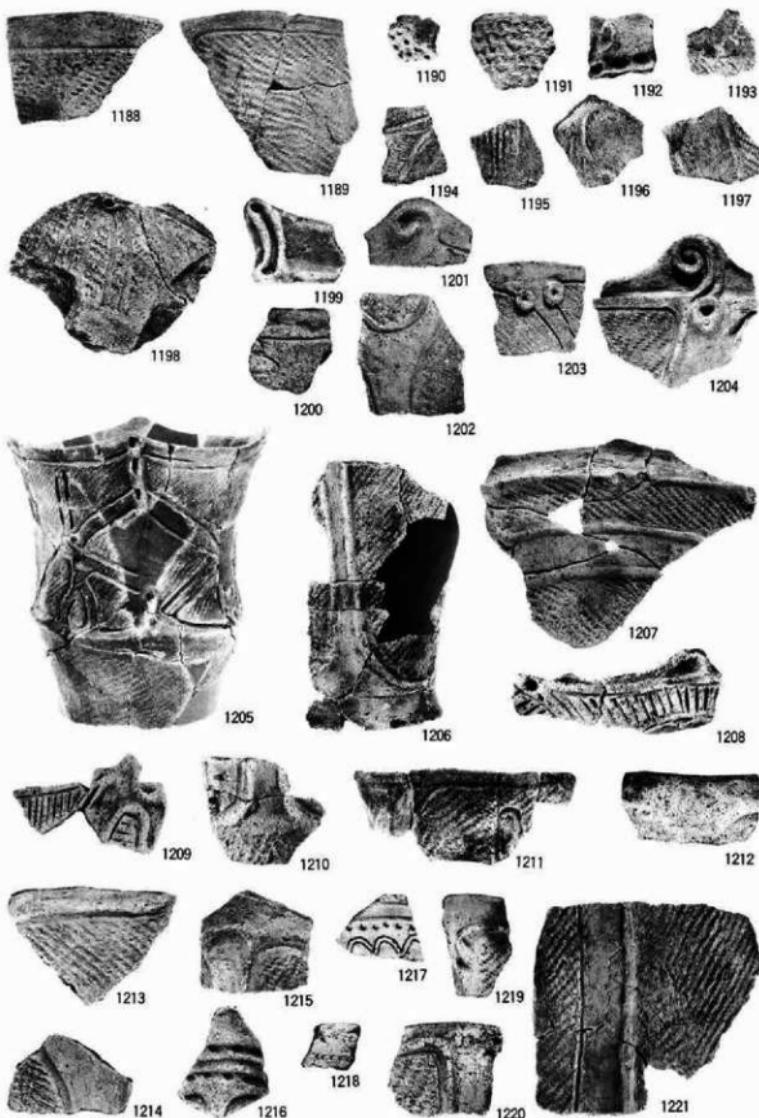
写真図版99 出土遺物1120~1138



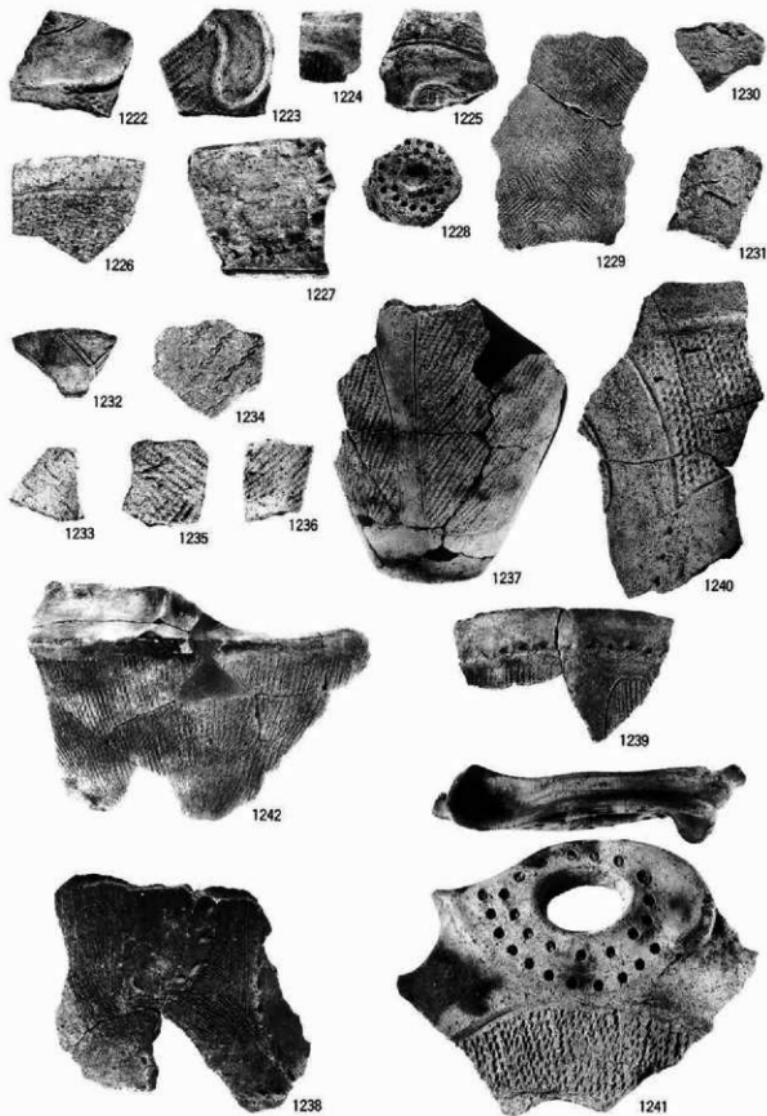
写真図版100 出土遺物1139~1154



写真図版101 出土遺物1155~1187



写真図版102 出土遺物1188~1221



写真図版103 出土遺物1222~1242



1243



1244



1246



1248



1245



1250



1249

写真図版104 出土遺物1243~1250



1251



1252



1254



1253



1255



1260



1256



1257



1258



1259

写真図版105 出土遺物1251~1260



1261



1262



1263



1264



1265



1266



1267



1268



1269



1270



1272



1271

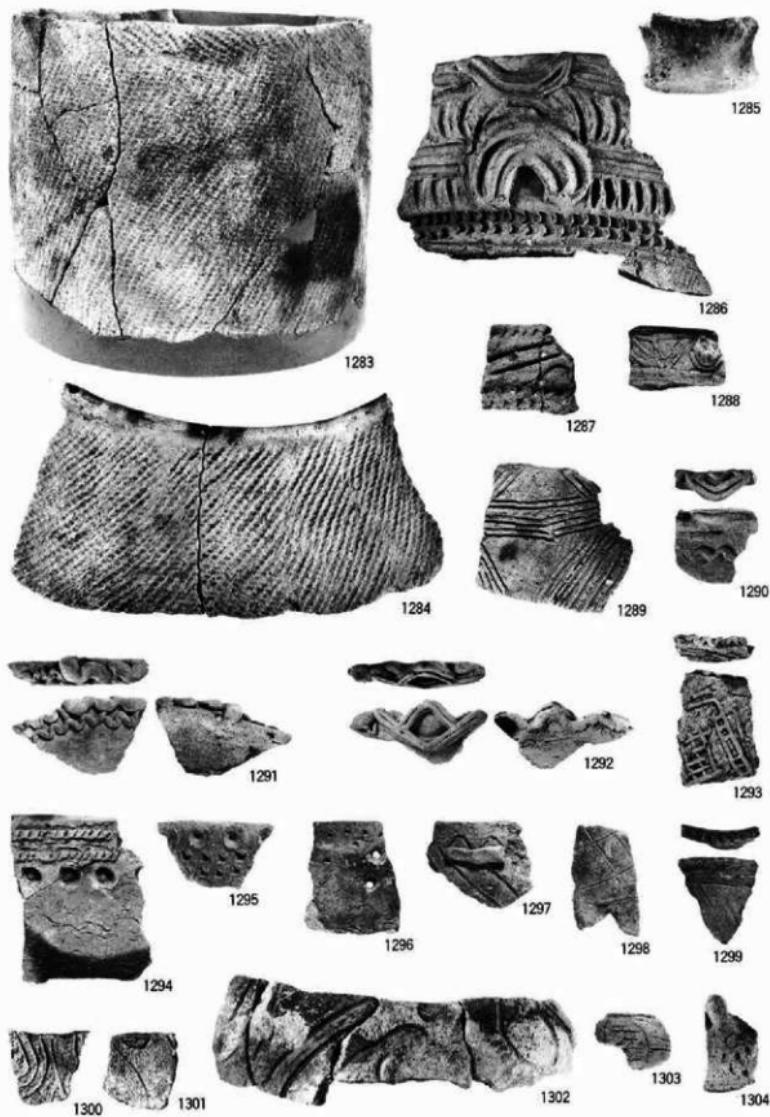


1273

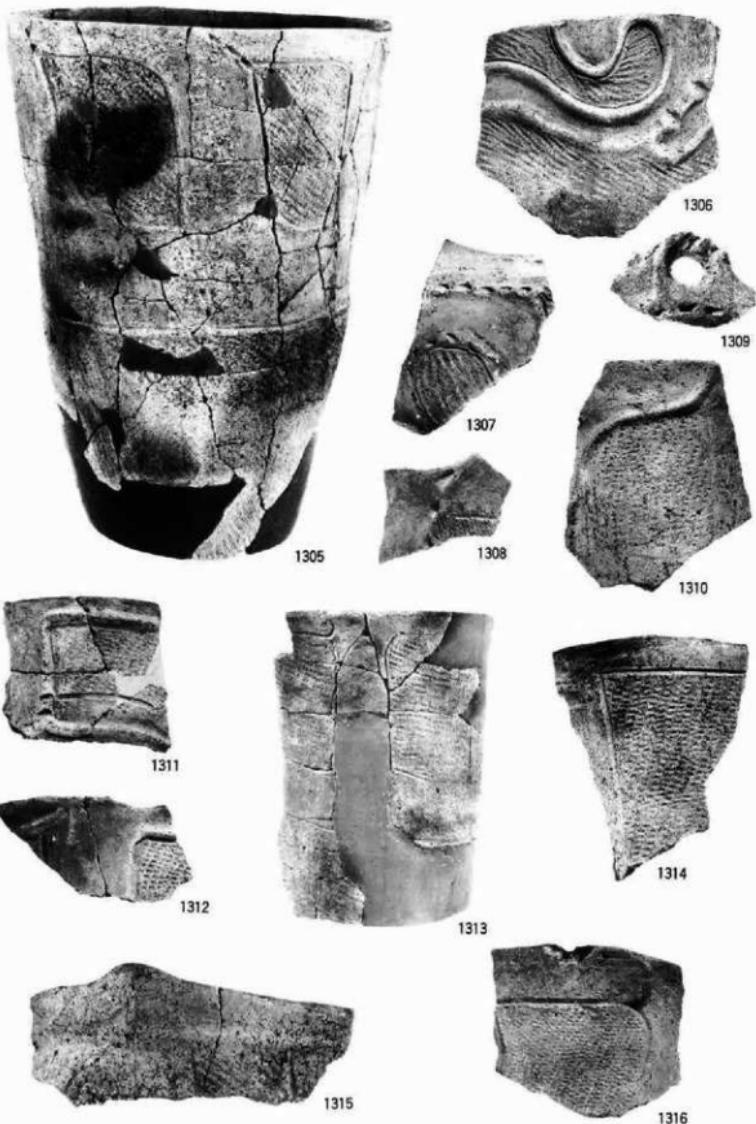
写真図版106 出土遺物1261~1273



写真図版107 出土遺物1274~1282



写真図版108 出土遺物1283~1304



写真図版109 出土遺物1305~1316



1317



1318



1319



1320



1321



1322



1323



1324



1325



1326



1327



1328



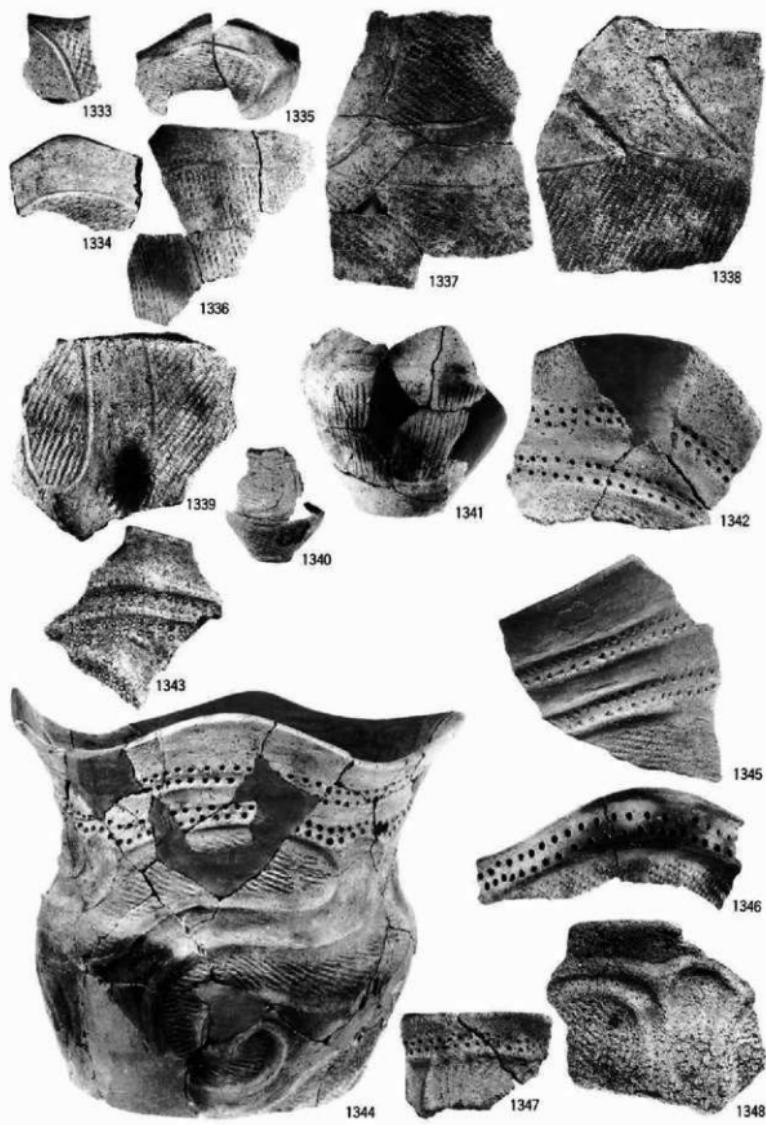
1329



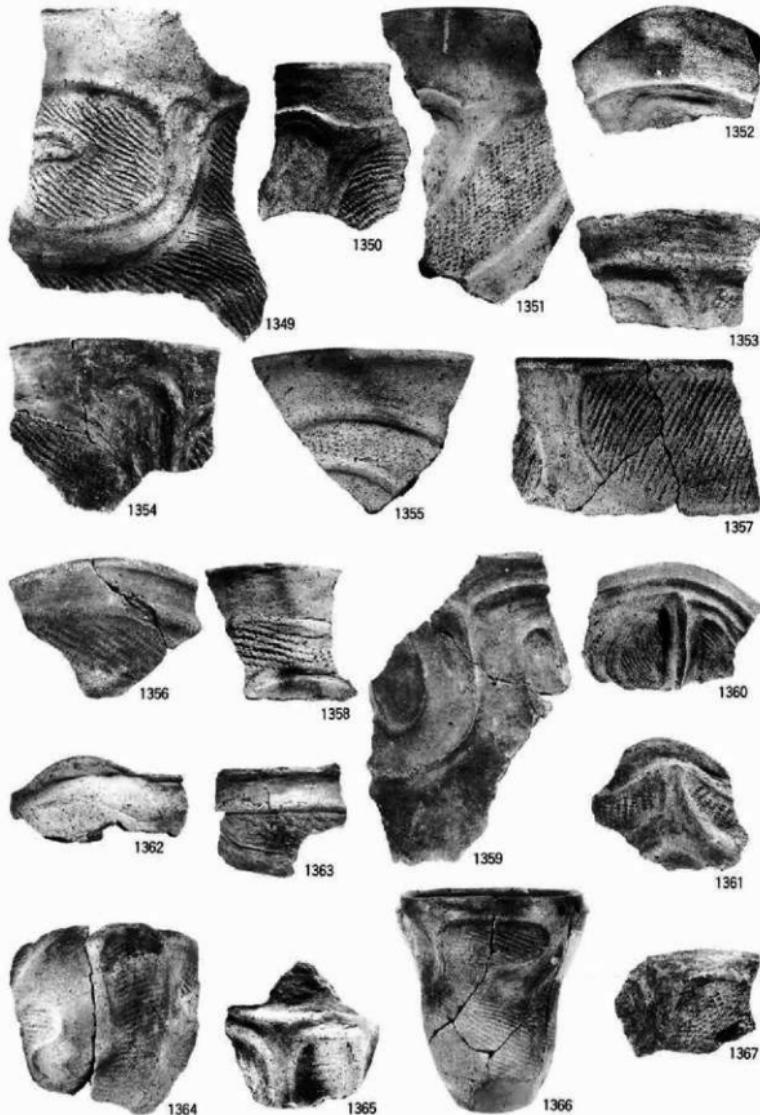
1330



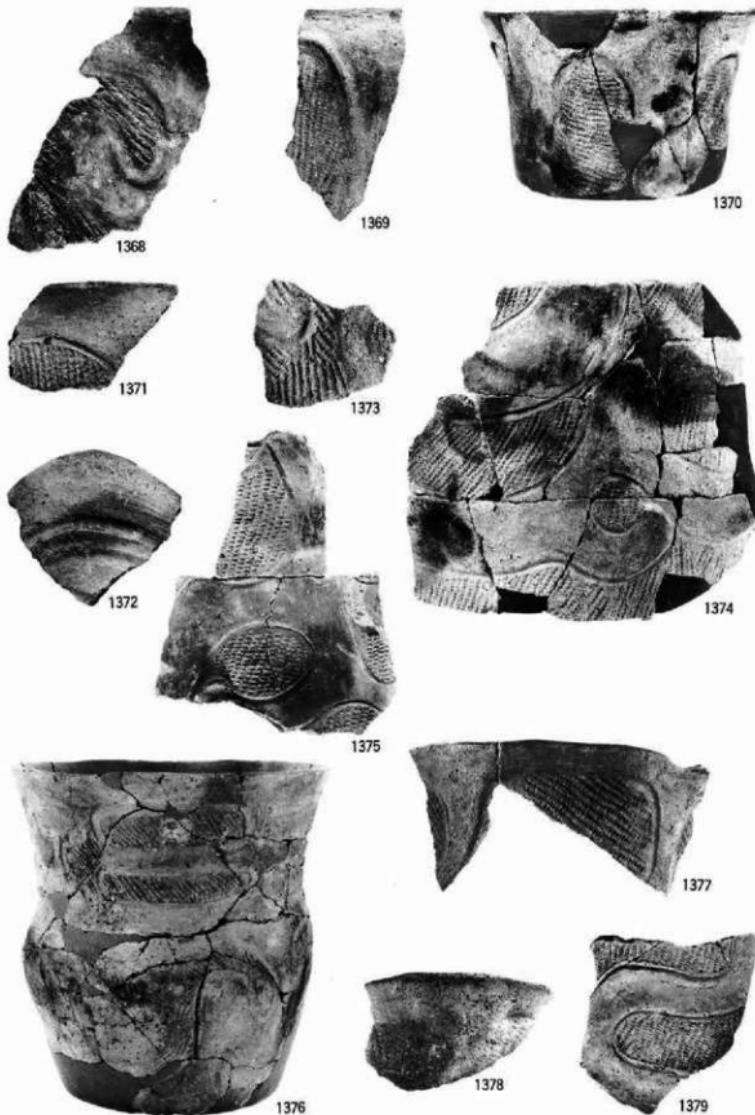
写真図版110 出土遺物1317~1332



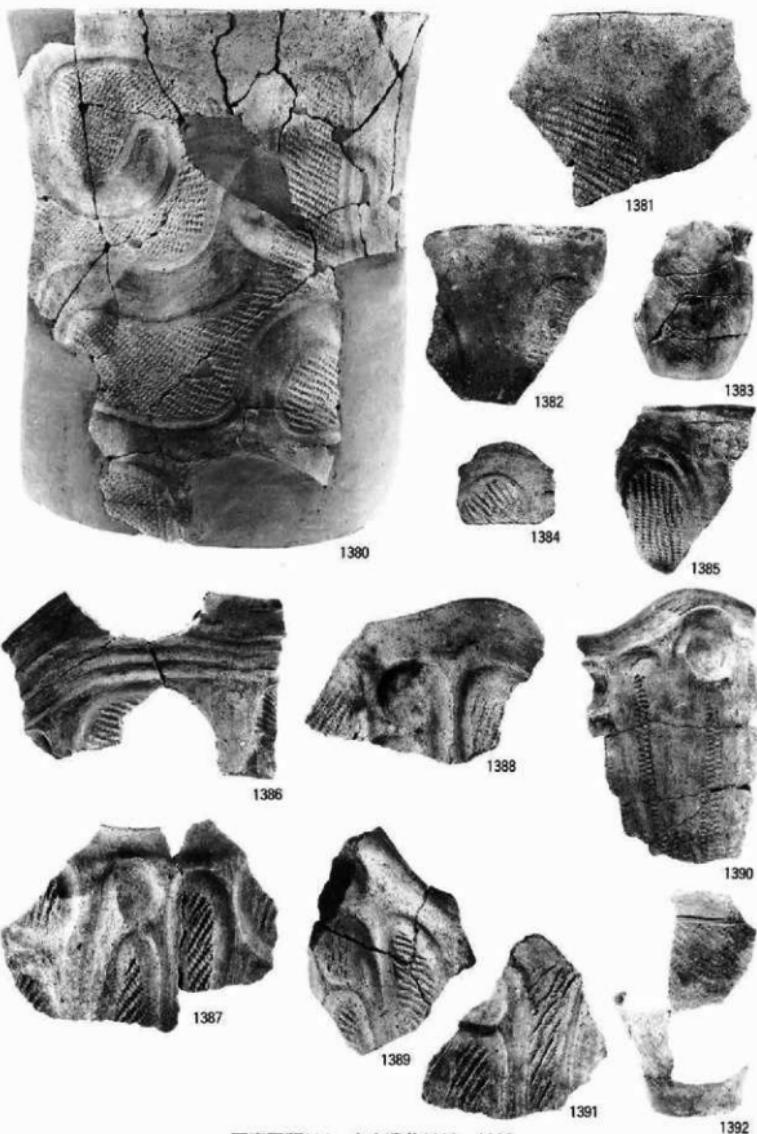
写真図版111 出土遺物1333~1348



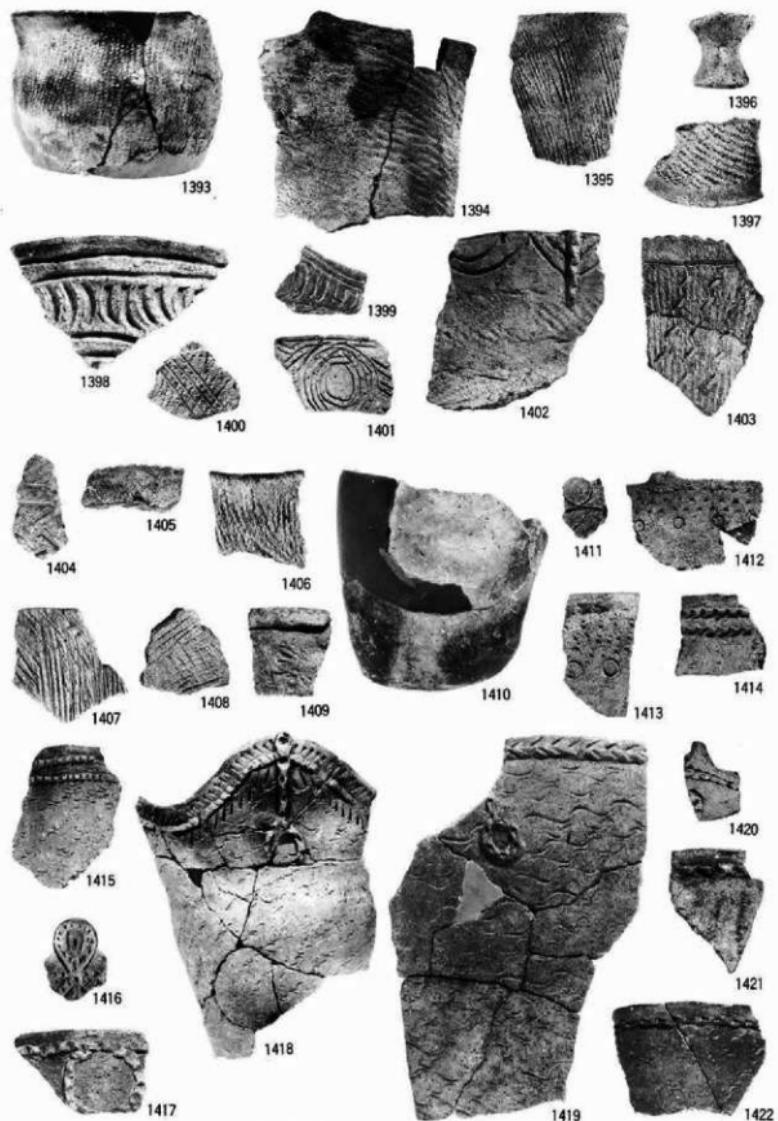
写真図版112 出土遺物1349~1367



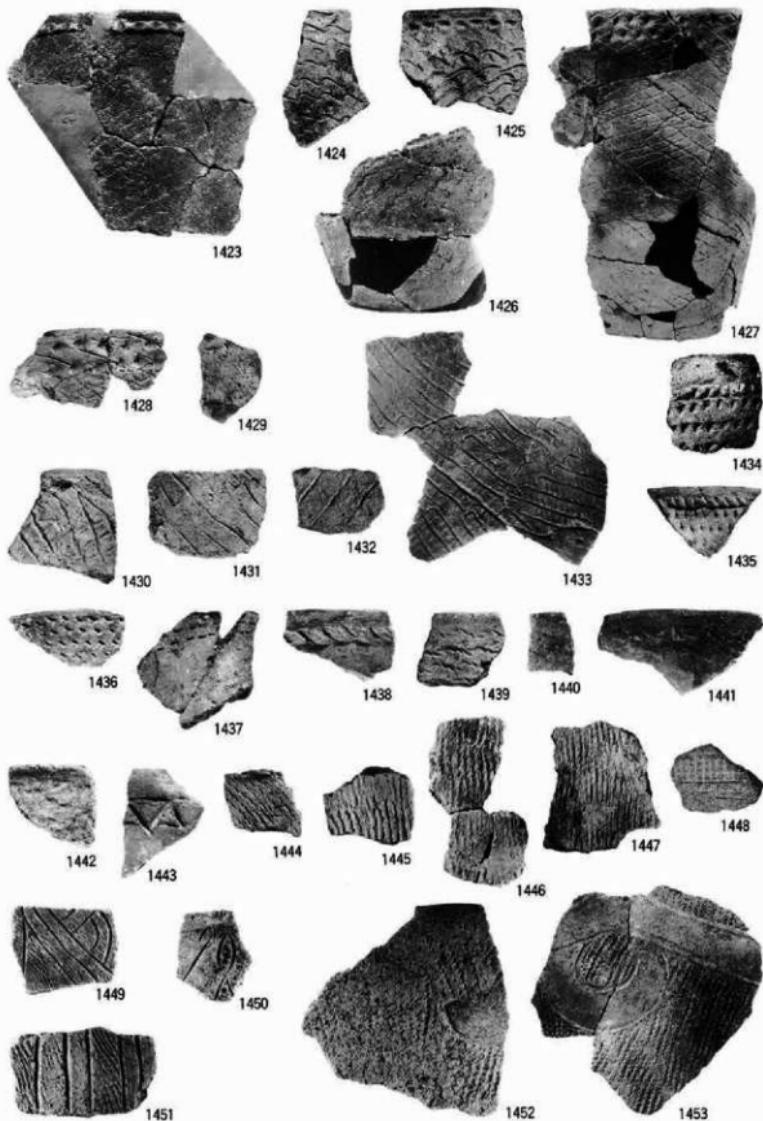
写真図版113 出土遺物1368~1379



写真図版114 出土遺物1380～1392



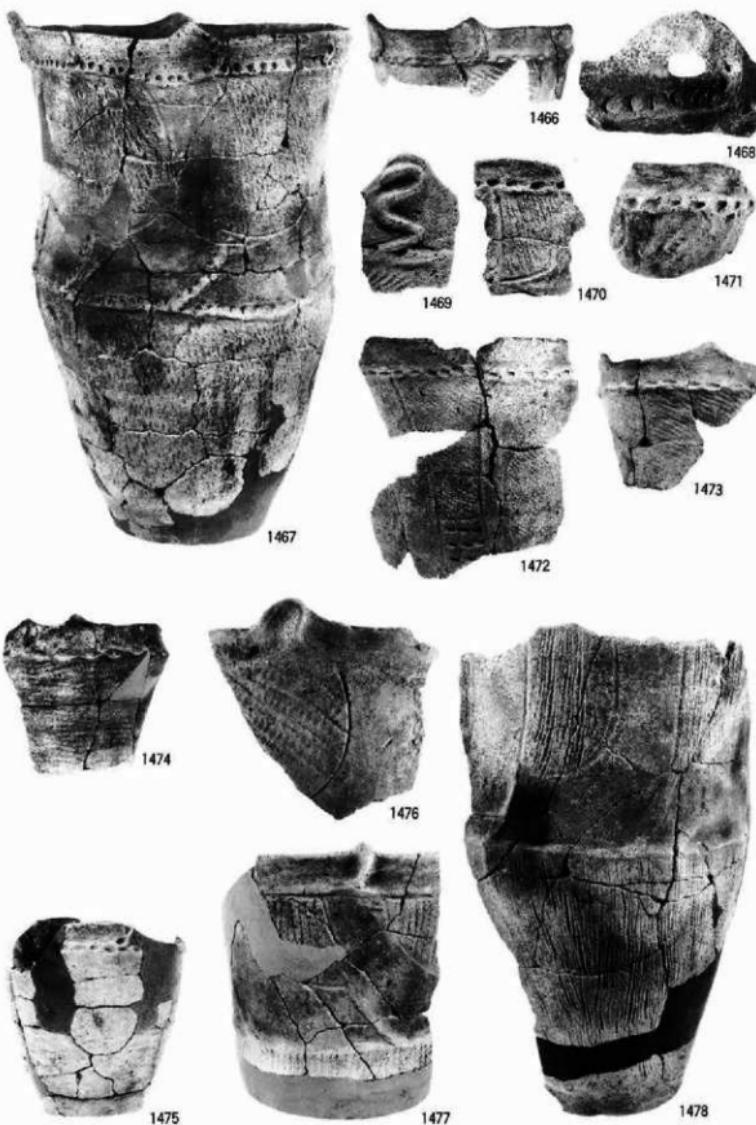
写真図版115 出土遺物1393~1422



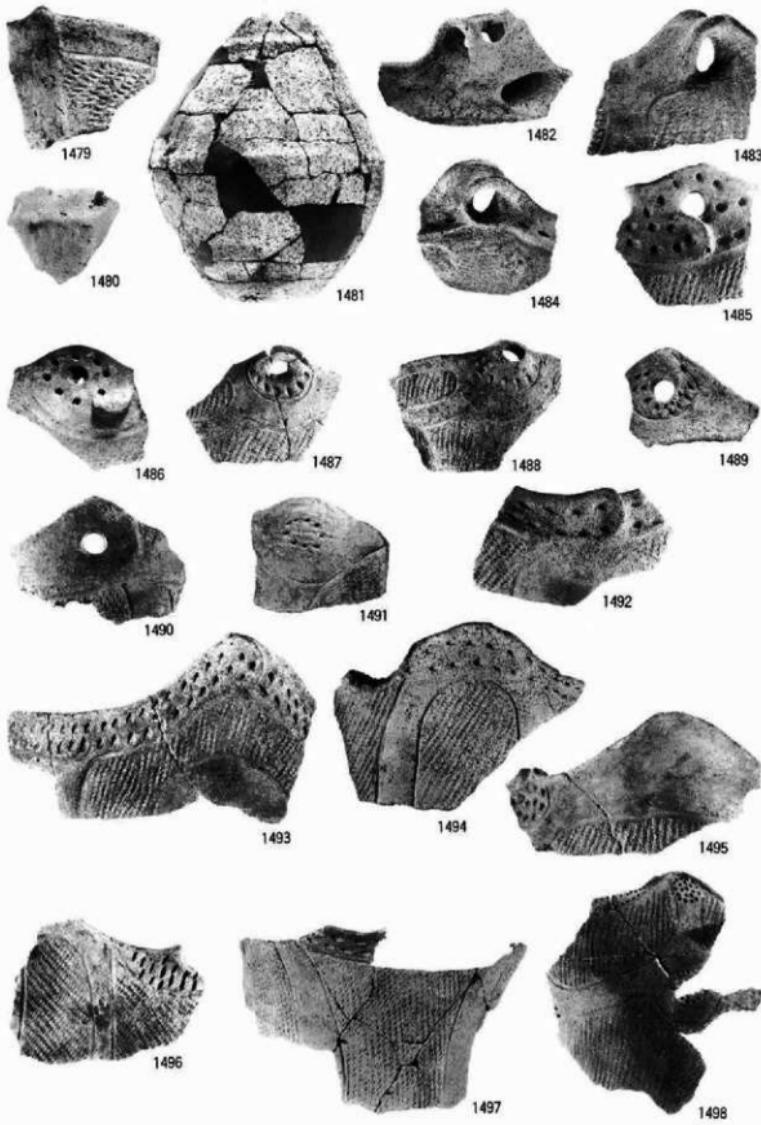
写真図版116 出土遺物1423～1453



写真図版117 出土遺物1454~1465



写真図版118 出土遺物1466～1478



写真図版119 出土遺物1479~1498



1499



1500

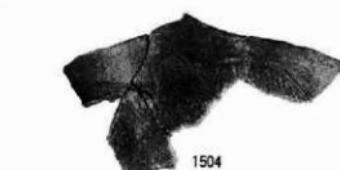


1501

1502



1503



1504



1505



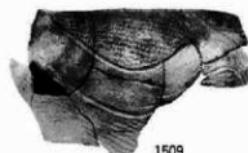
1506



1507

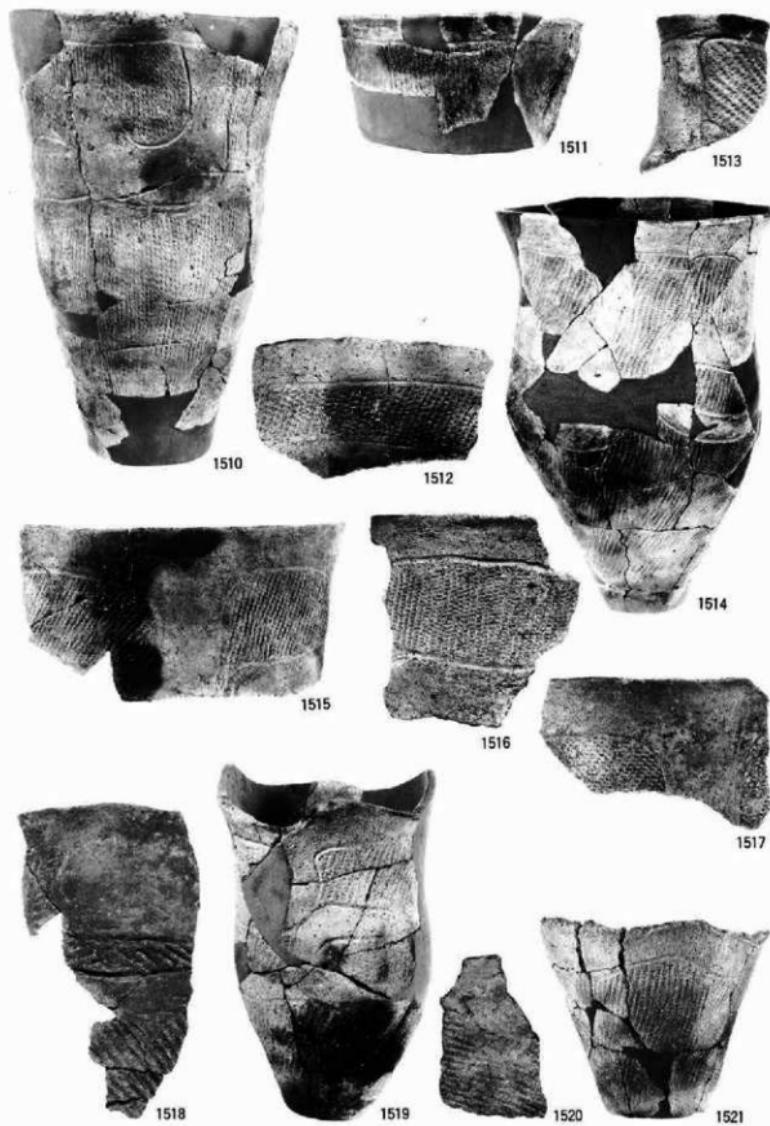


1508

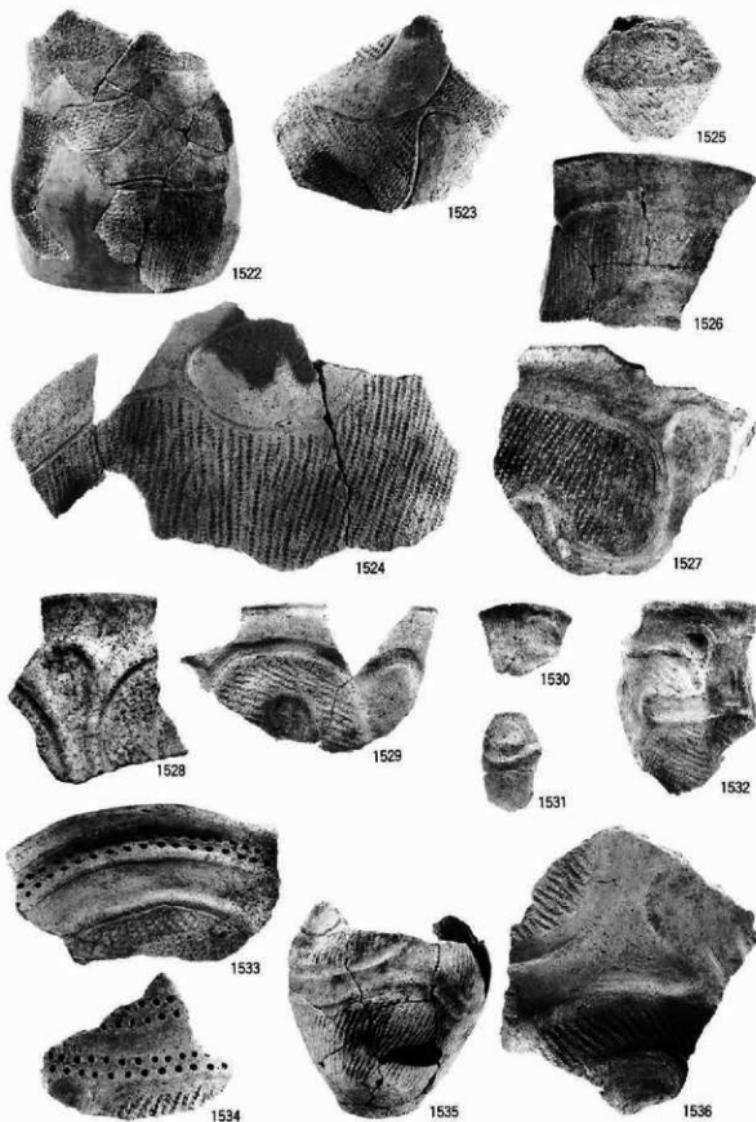


1509

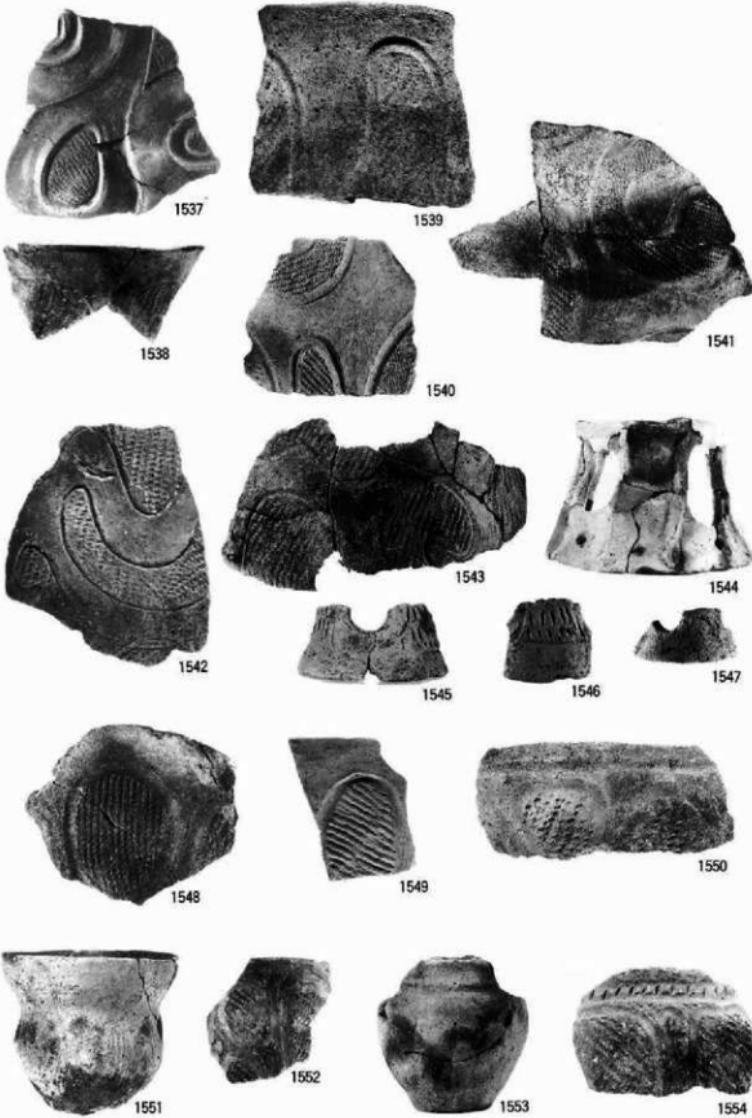
写真図版120 出土遺物1499~1509



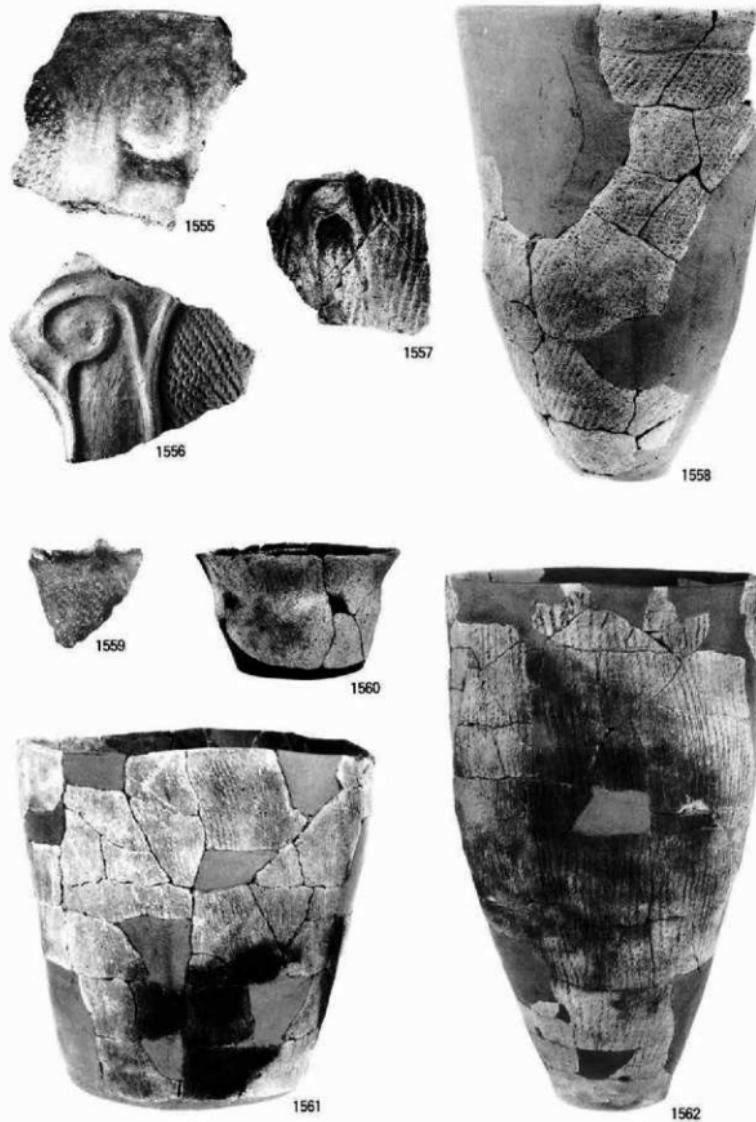
写真図版121 出土遺物1510~1521



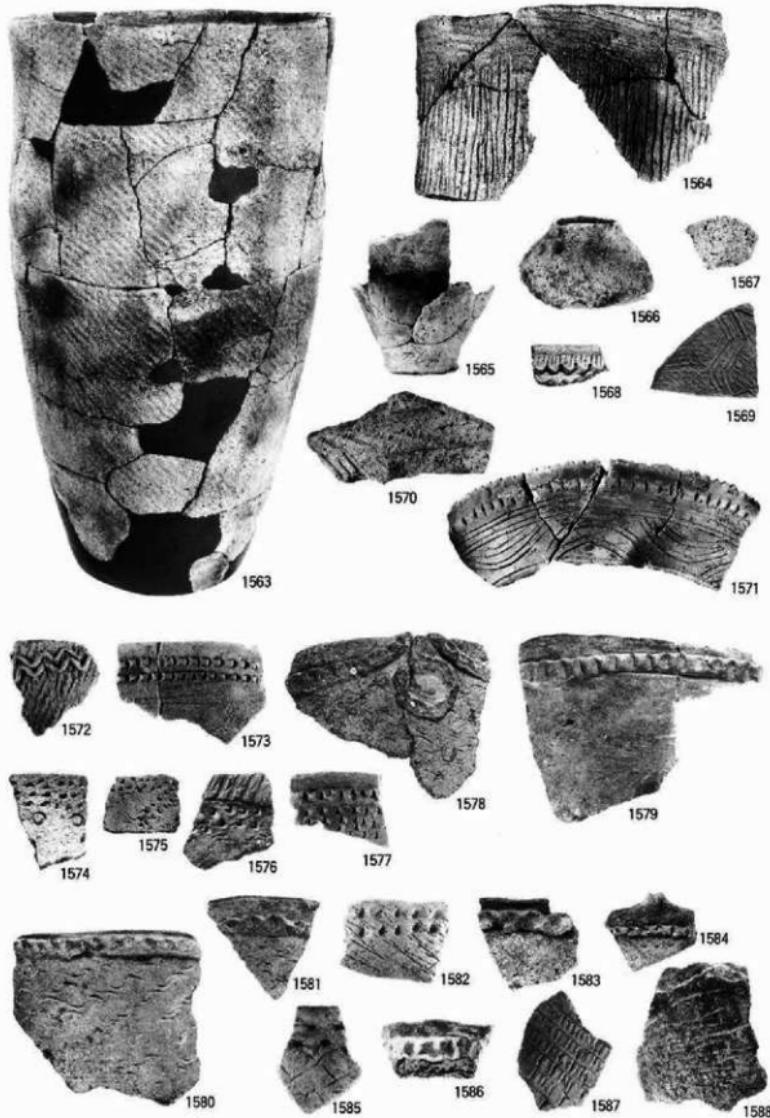
写真図版122 出土遺物1522～1536



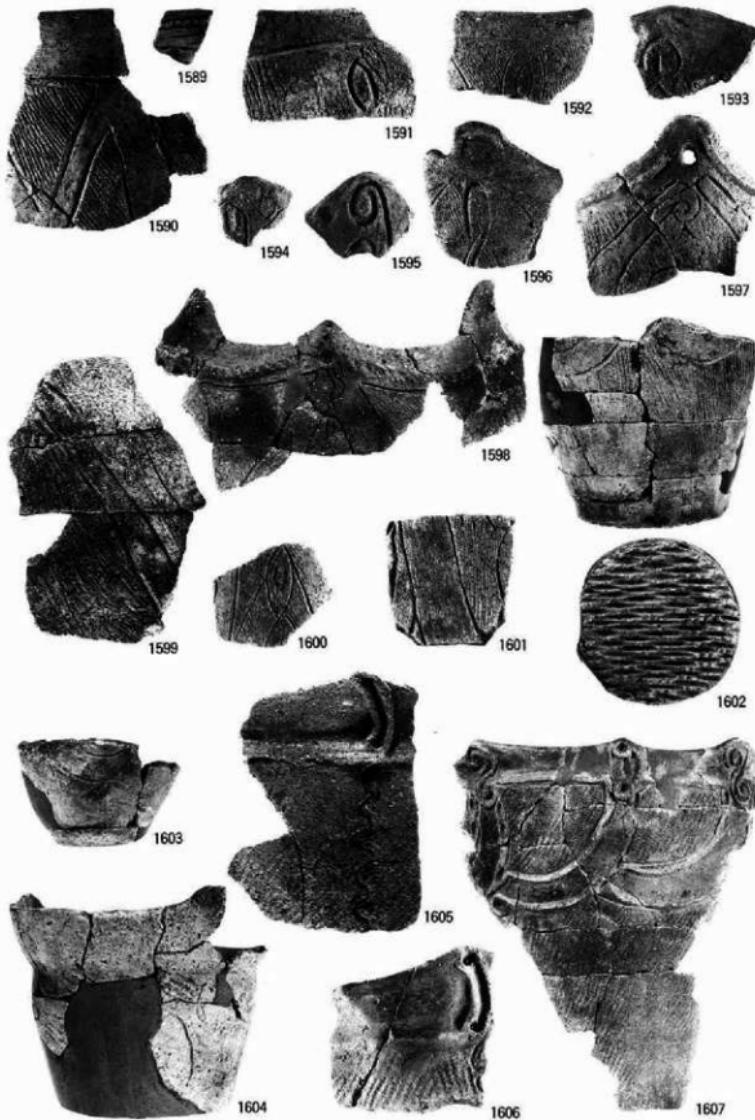
写真図版123 出土遺物1537～1554



写真図版124 出土遺物1555~1562



写真図版125 出土遺物1563~1588



写真図版126 出土遺物1589~1607



1608



1610



1609



1611



1612



1613



1614



1616



1617



1615



1618

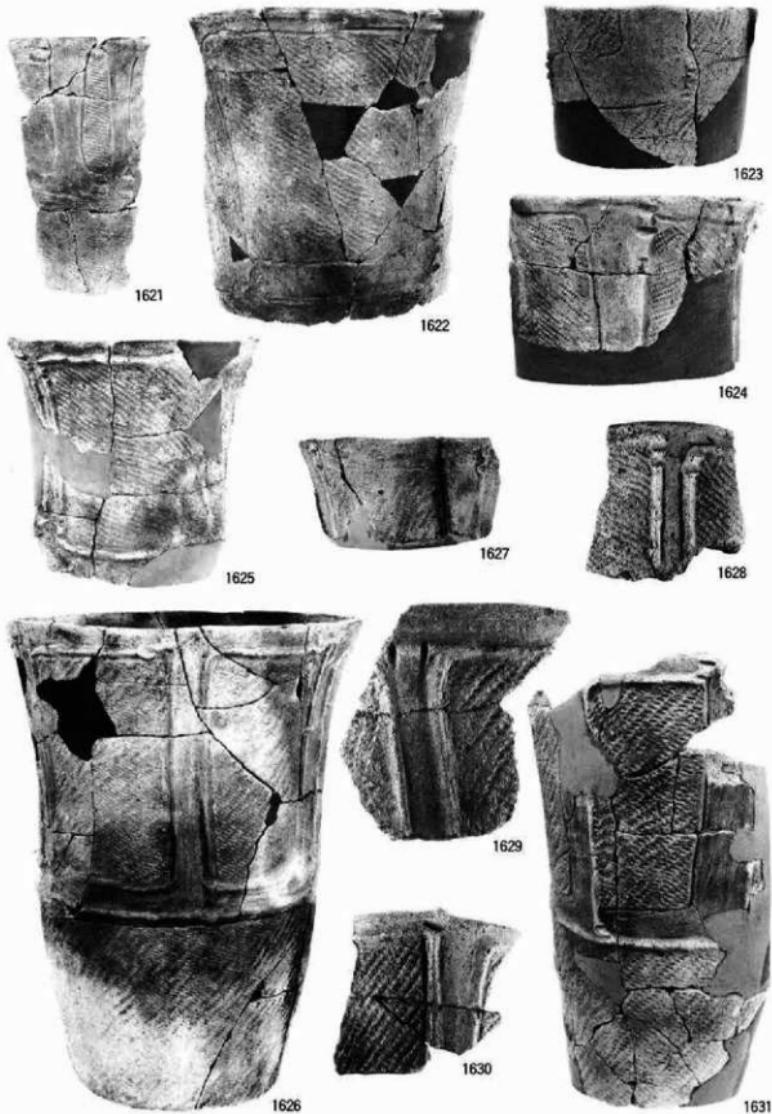


1619



1620

写真図版127 出土遺物1608~1620



写真図版128 出土遺物1621～1631



1632



1633



1635



1634



1636



1637

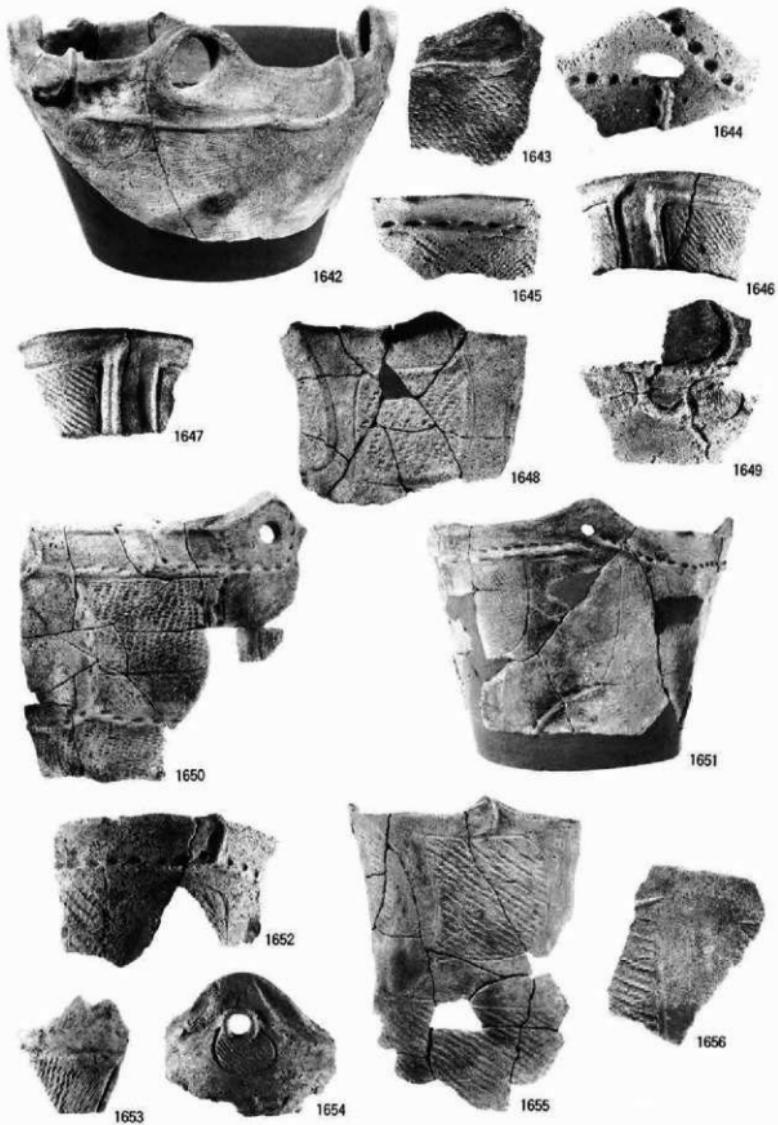


1638

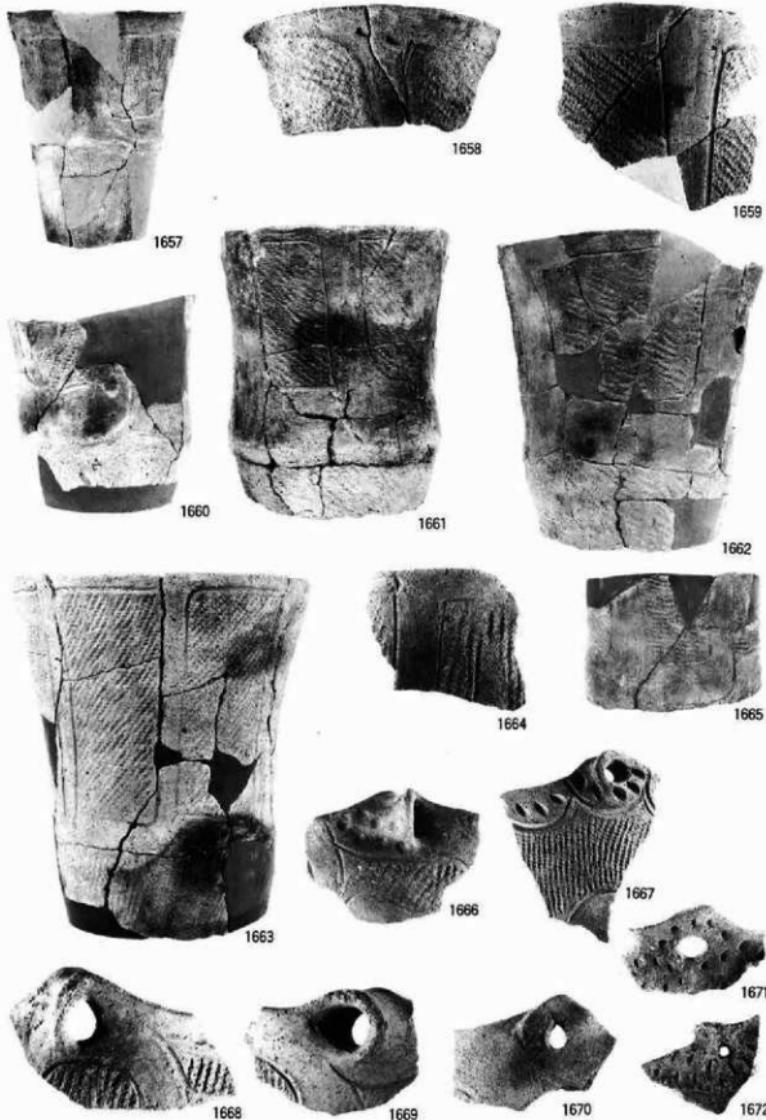


1641

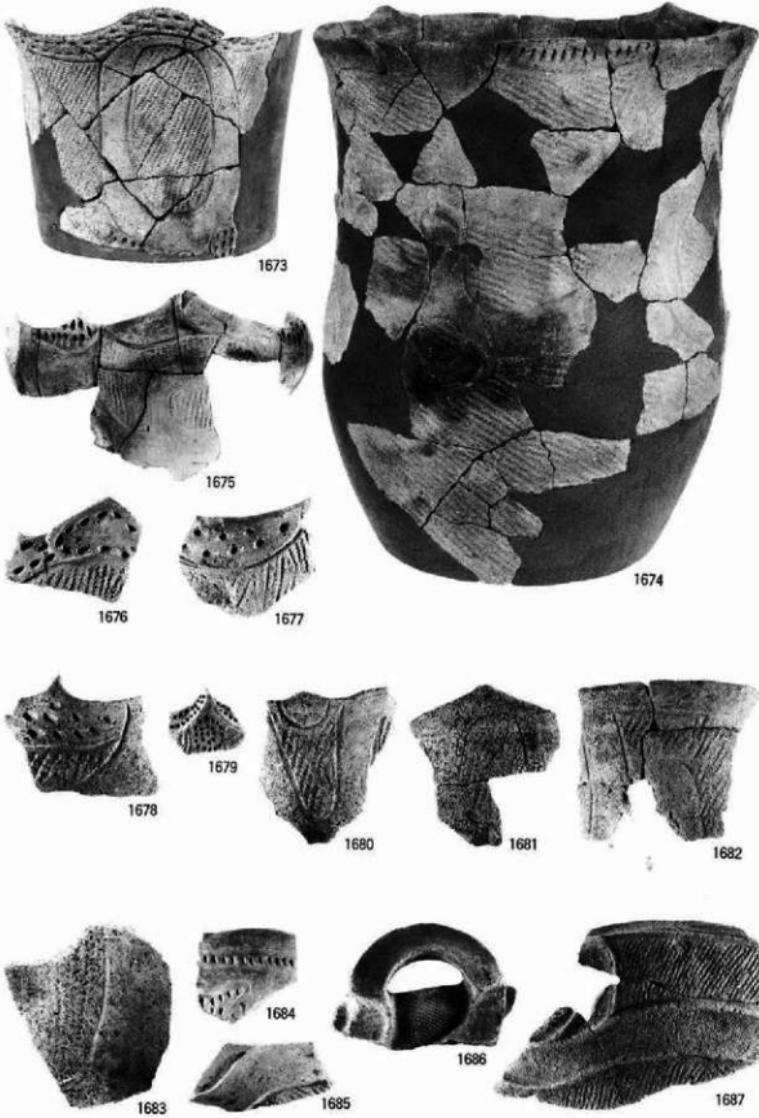
写真図版129 出土遺物1632~1641



写真図版130 出土遺物1642~1656



写真図版131 出土遺物1657~1672



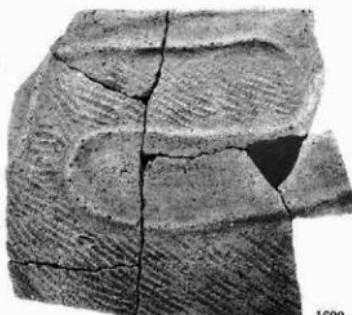
写真図版132 出土遺物1673~1687



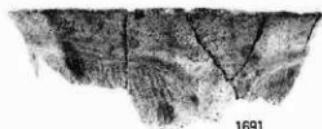
1688



1689



1690



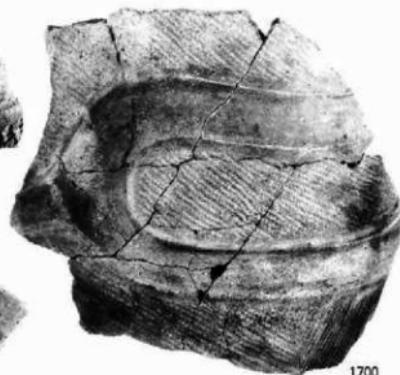
1691



1692



1693



1700



1694



1695



1696



1697



1698

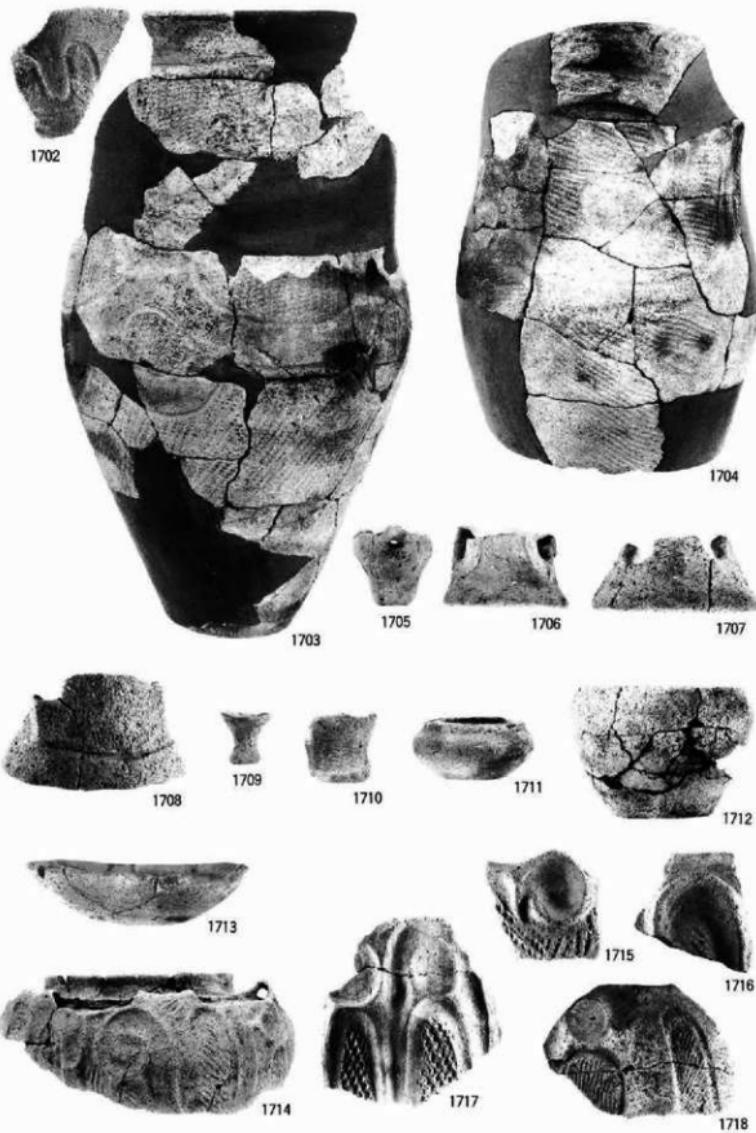


1699



1701

写真図版133 出土遺物1688~1701



写真図版134 出土遺物1702~1718



1719



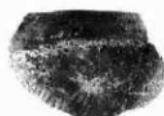
1720



1721



1722



1723



1725



1724



1726



1727



1728

写真図版135 出土遺物1719~1728



1729



1730



1731



1732



1733



1734



1735



1736



1737



1738



1739



1740



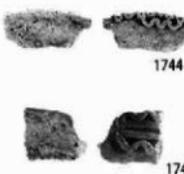
1741



1742

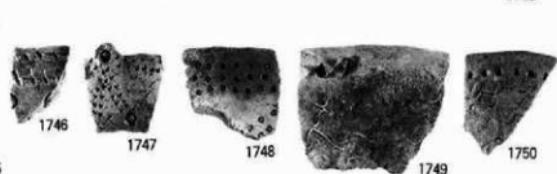


1743



1744

1745



1746

1747

1748

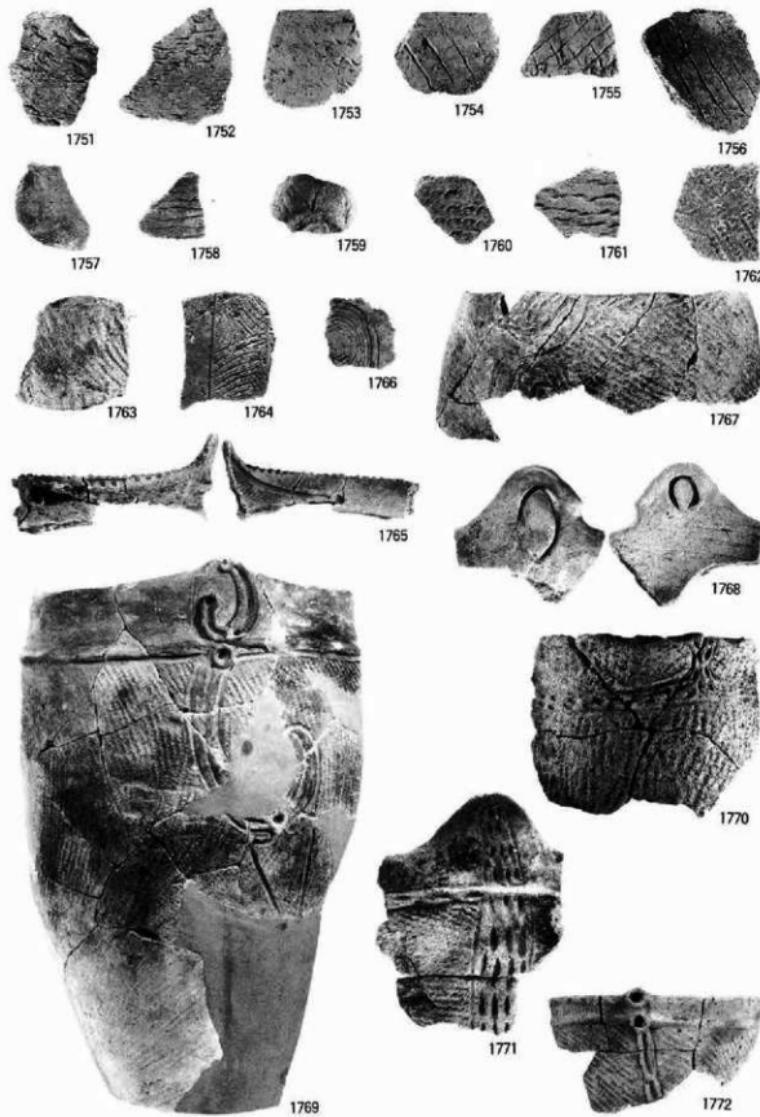


1749

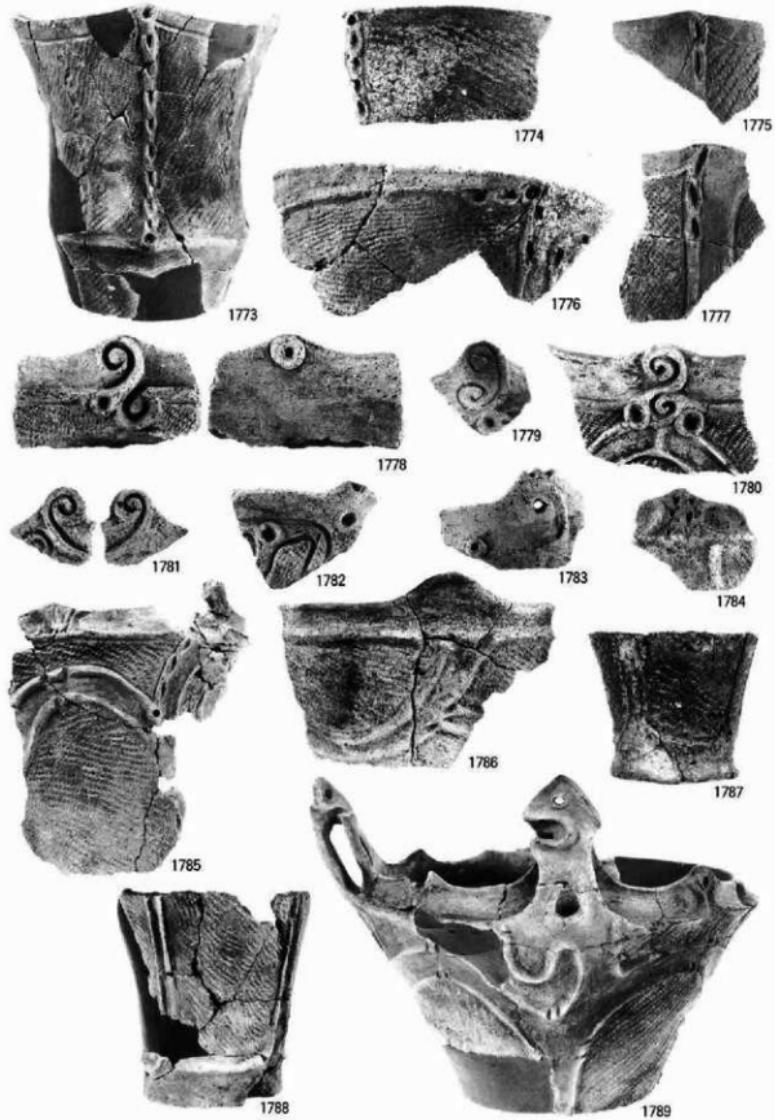


1750

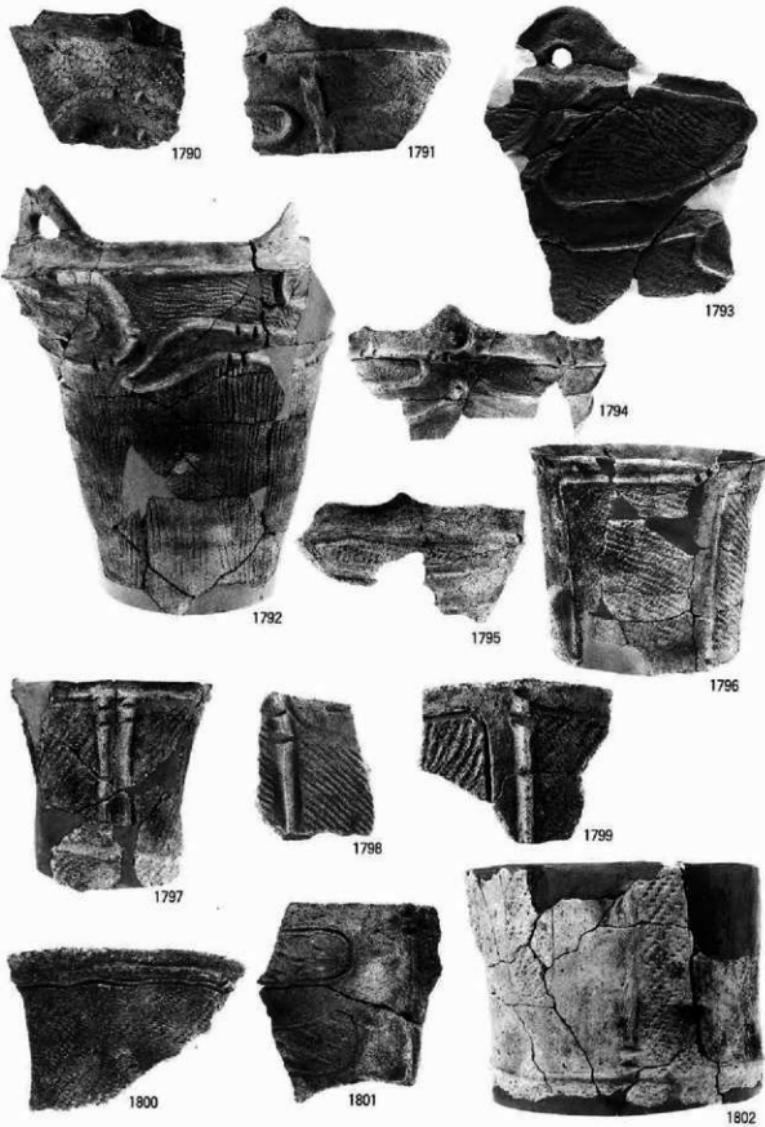
写真図版136 出土遺物1729~1750



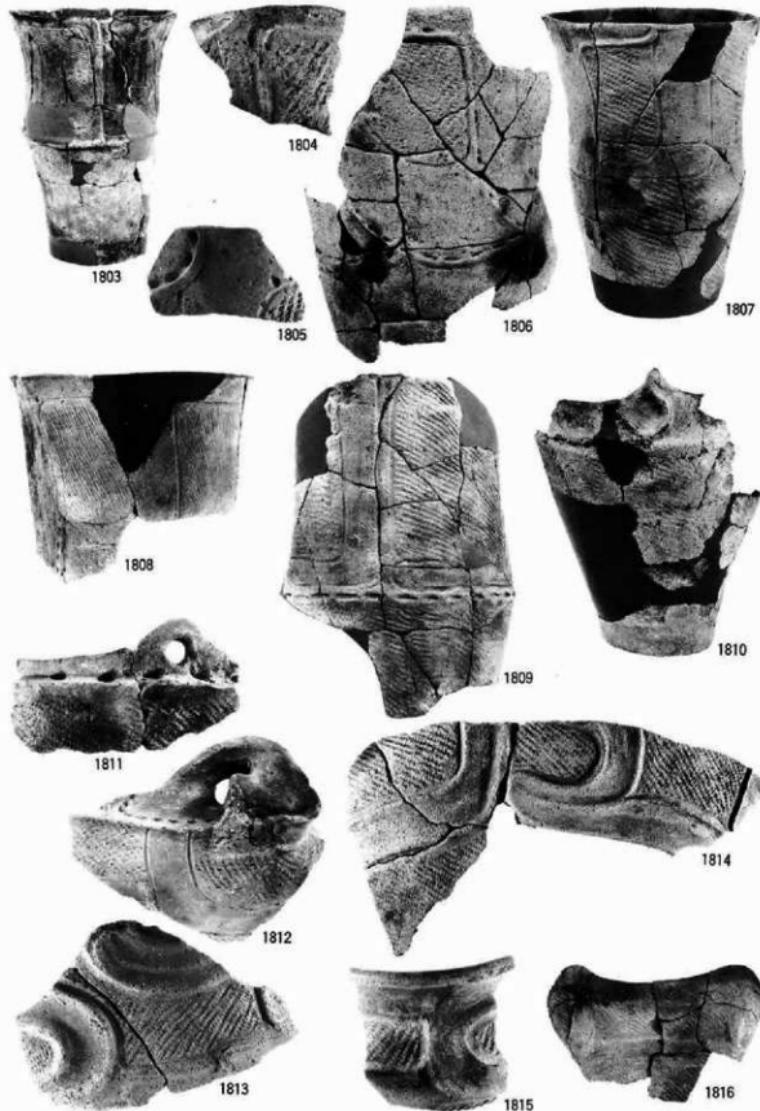
写真図版137 出土遺物1751~1772



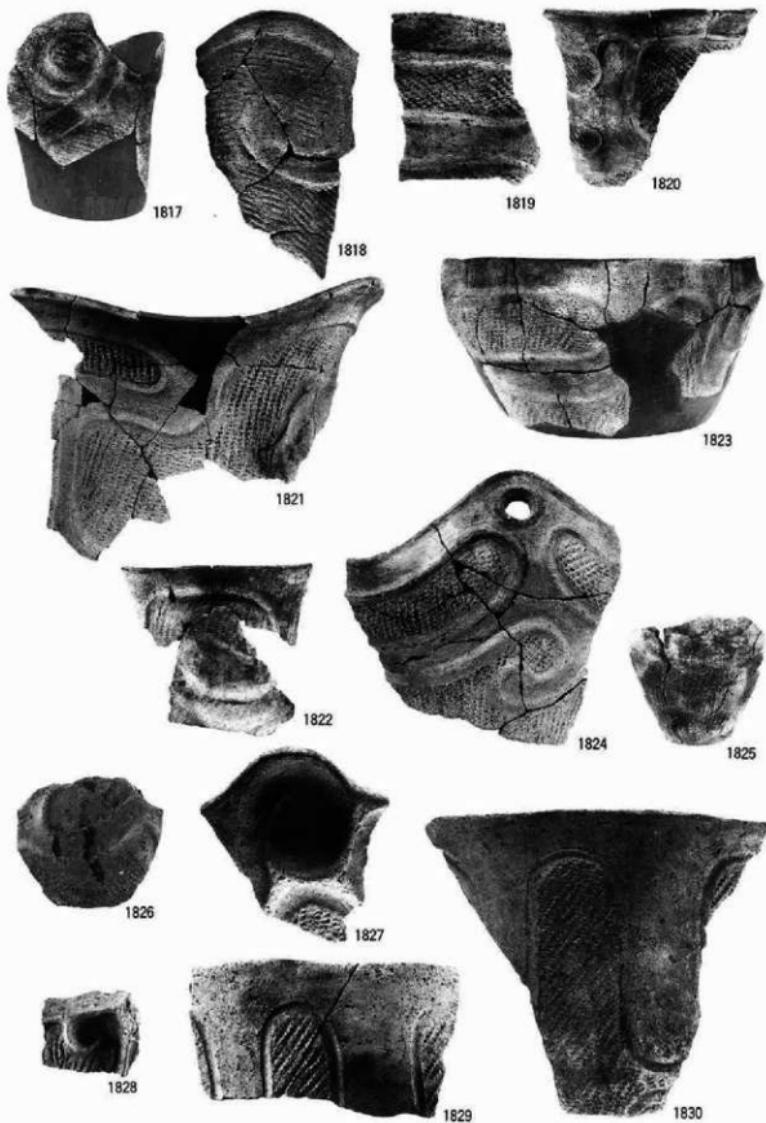
写真図版138 出土遺物1773~1789



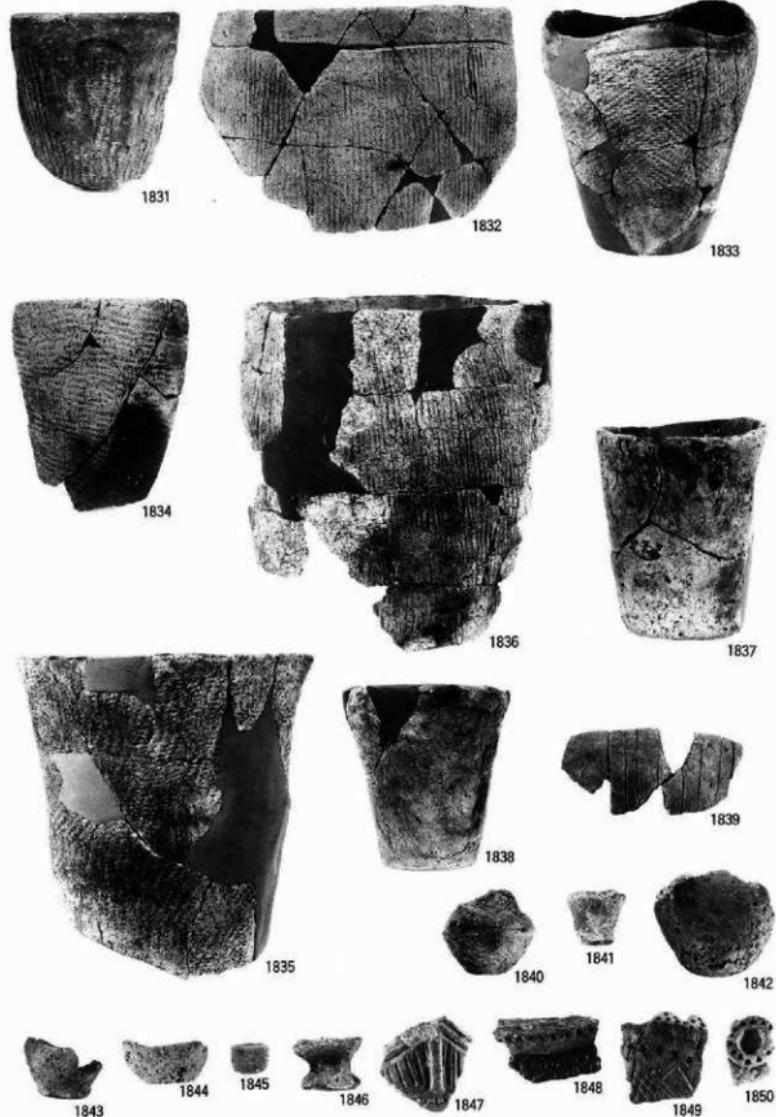
写真図版139 出土遺物1790~1802



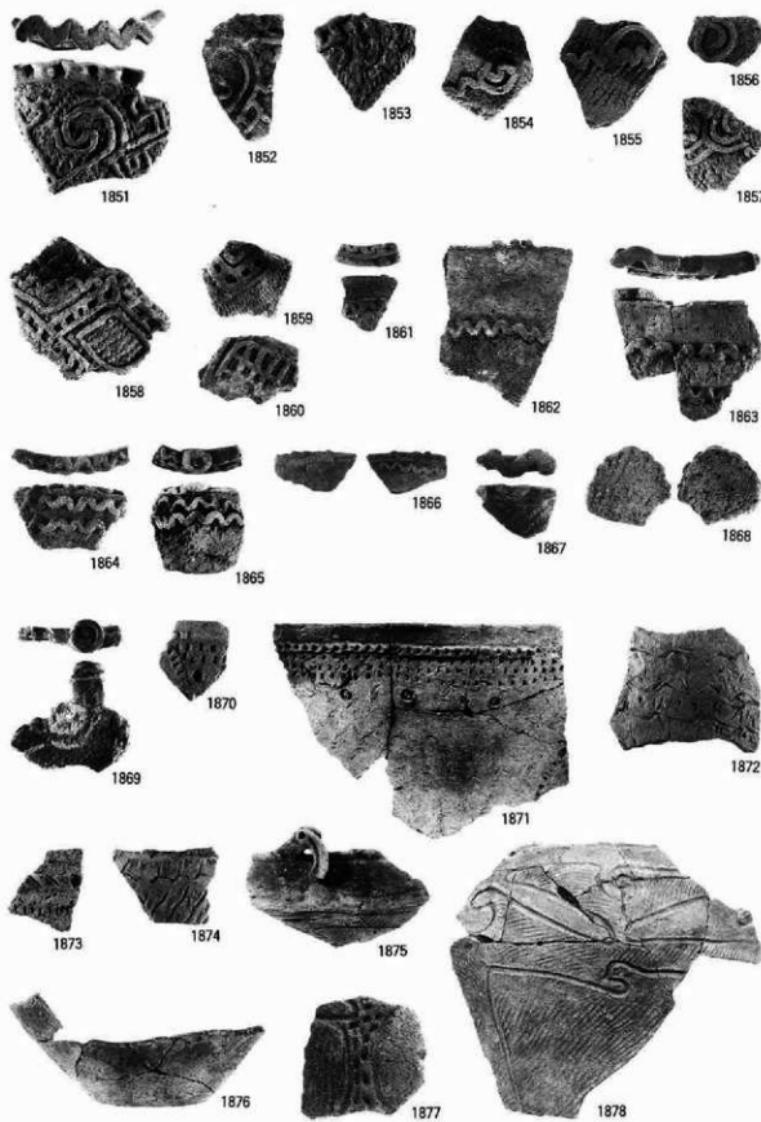
写真図版140 出土遺物1803～1816



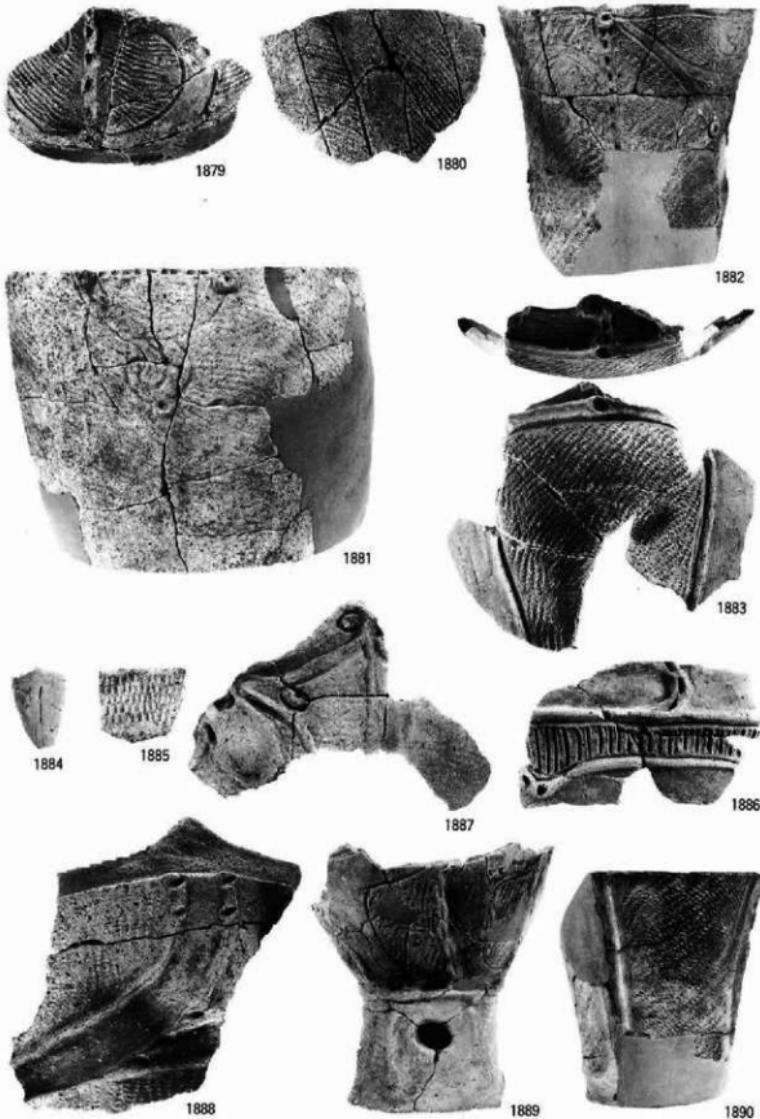
写真図版141 出土遺物1817～1830



写真図版142 出土遺物1831~1850



写真図版143 出土遺物1851~1878



写真図版144 出土遺物1879～1890



写真図版145 出土遺物1891～1894



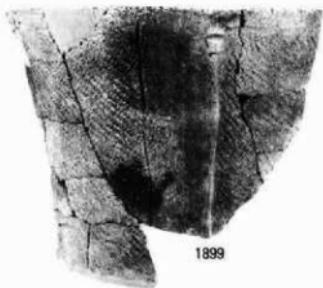
1895



1896



1897



1899



1898

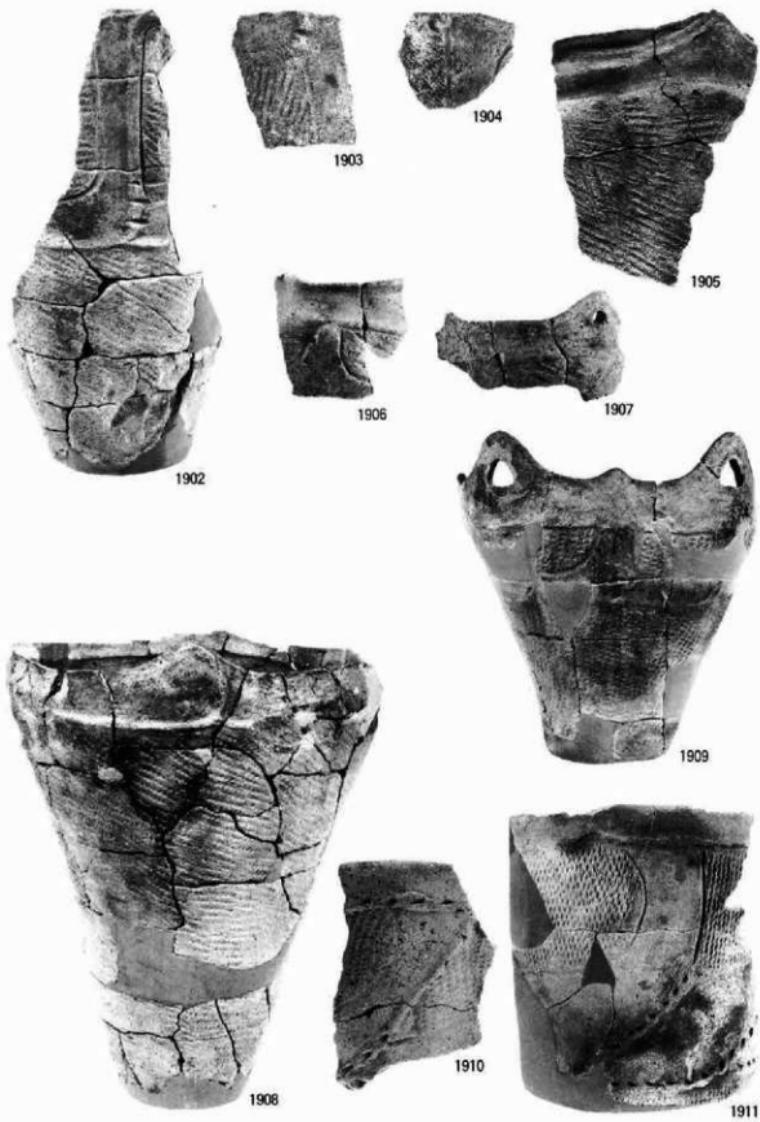


1900

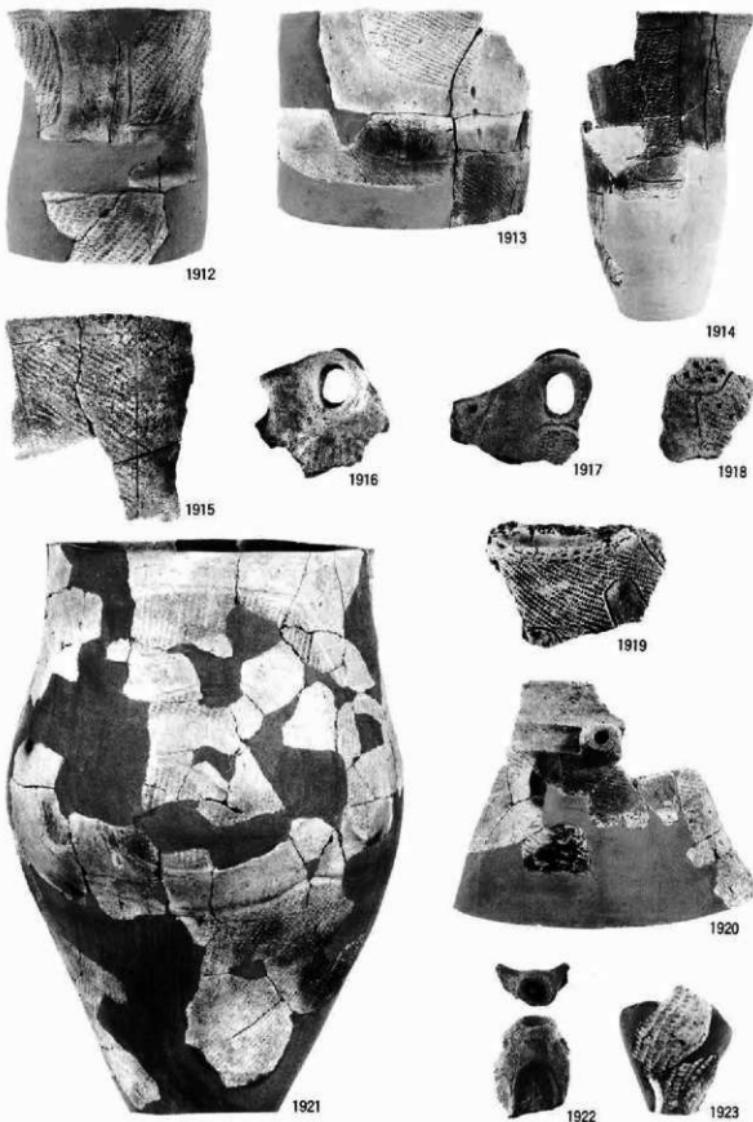


1901

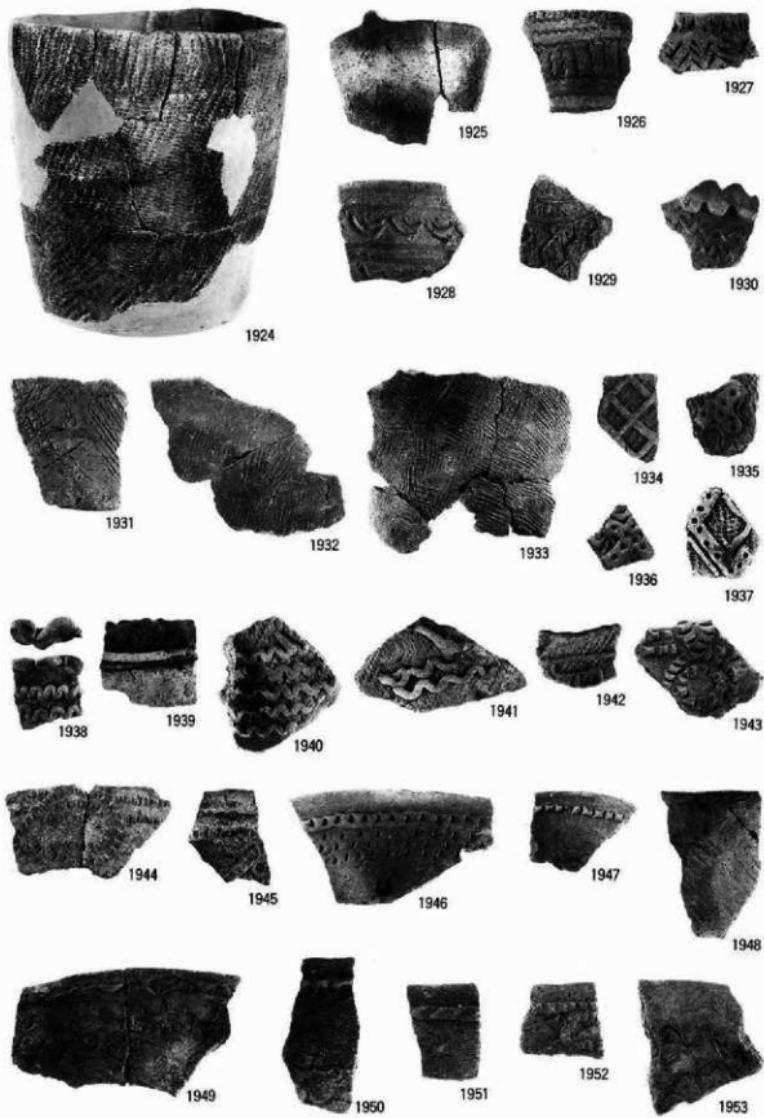
写真図版146 出土遺物1895～1901



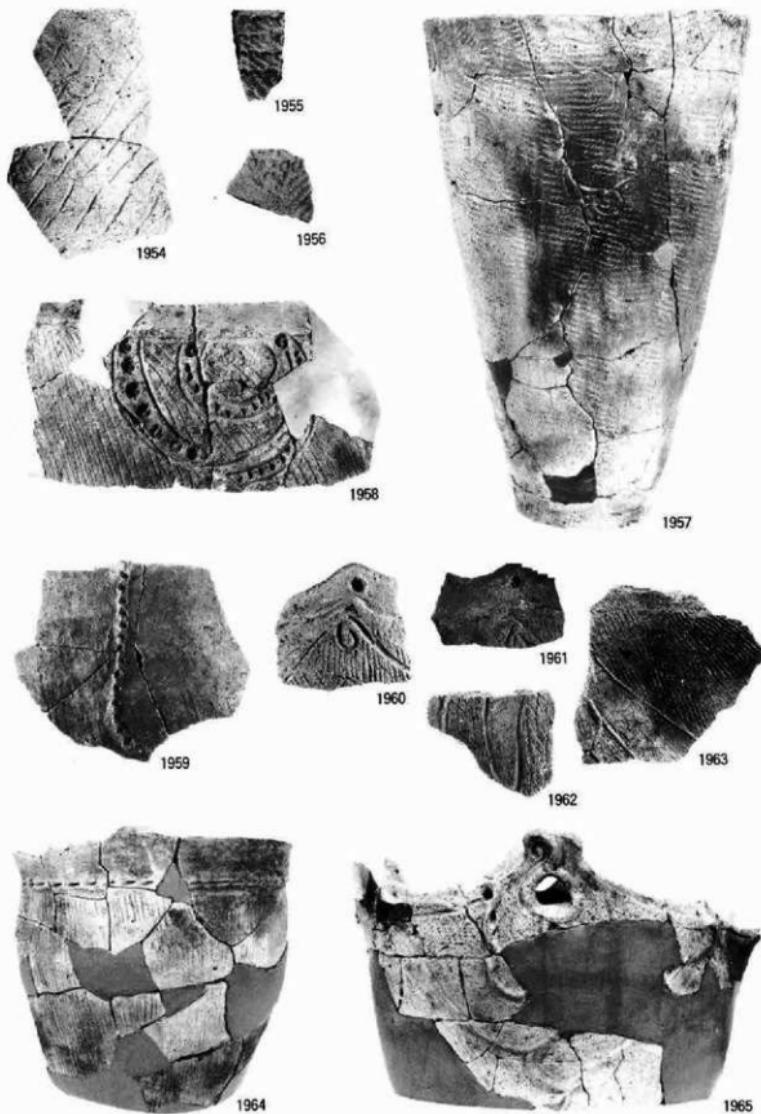
写真図版147 出土遺物1902~1911



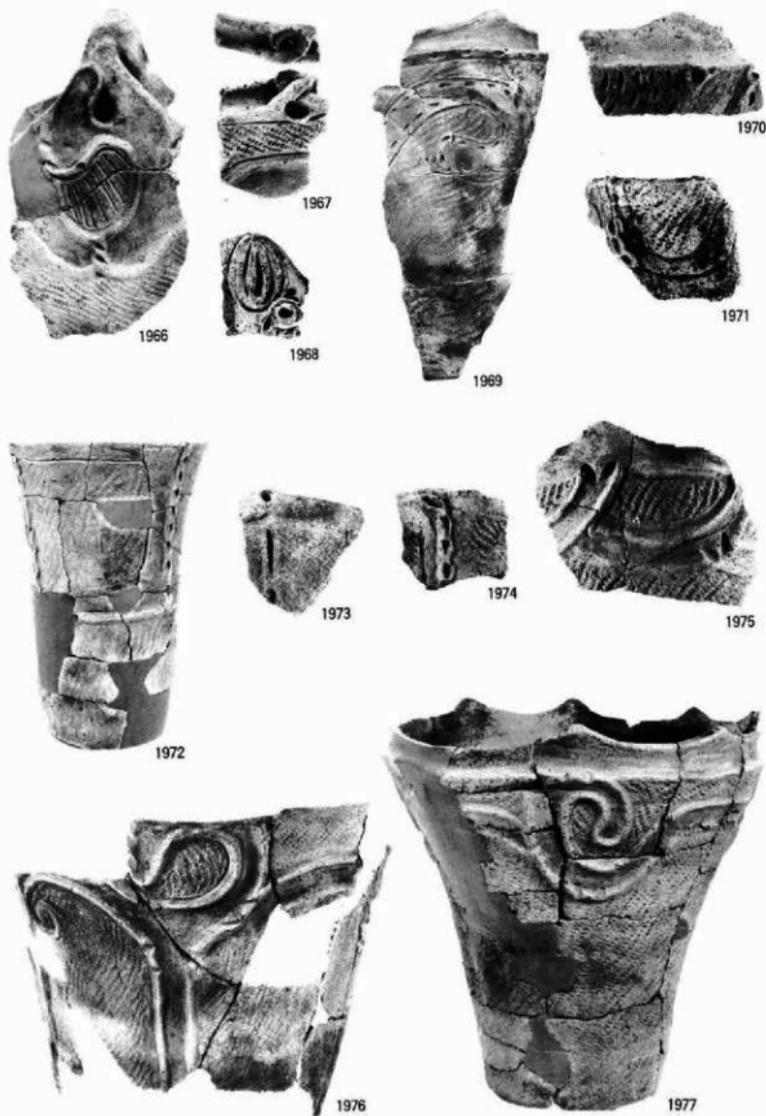
写真図版148 出土遺物1912～1923



写真図版149 出土遺物1924~1953



写真図版150 出土遺物1954～1965



写真図版151 出土遺物1966~1977



1978



1980



1979



1981



1982

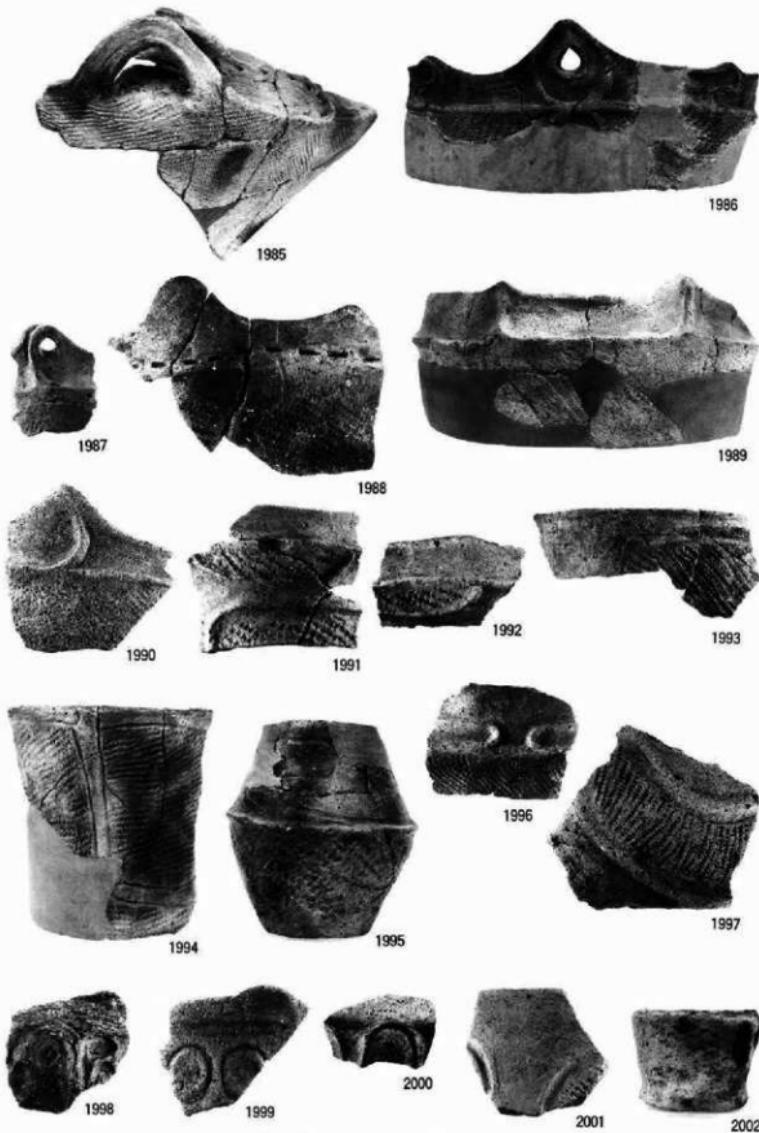


1983

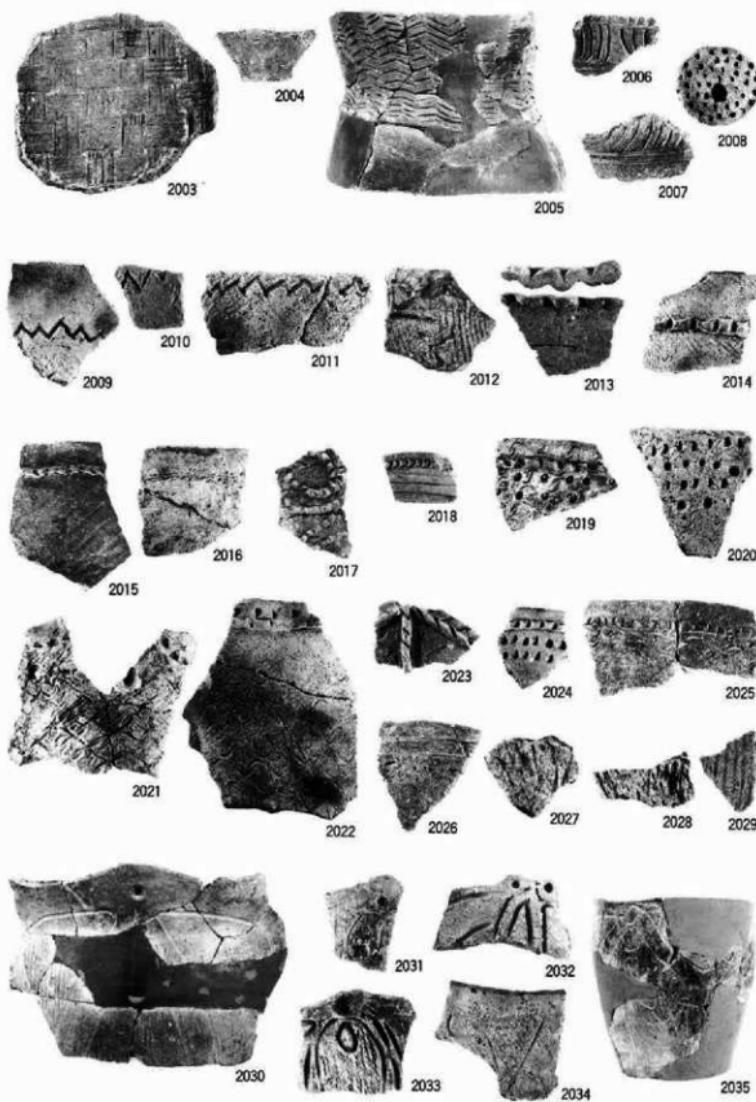


1984

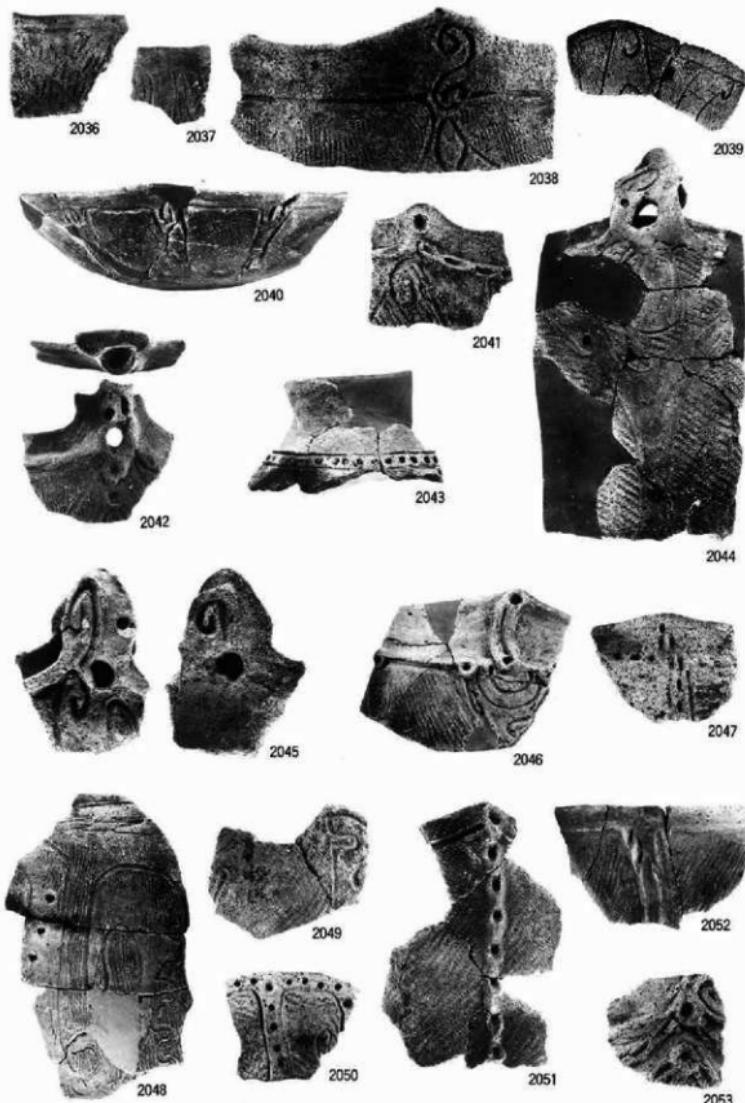
写真図版152 出土遺物1978～1984



写真図版153 出土遺物1985～2002



写真図版154 出土遺物2003~2035



写真図版155 出土遺物2036~2053



2054



2055



2056



2057



2058



2059



2060



2061

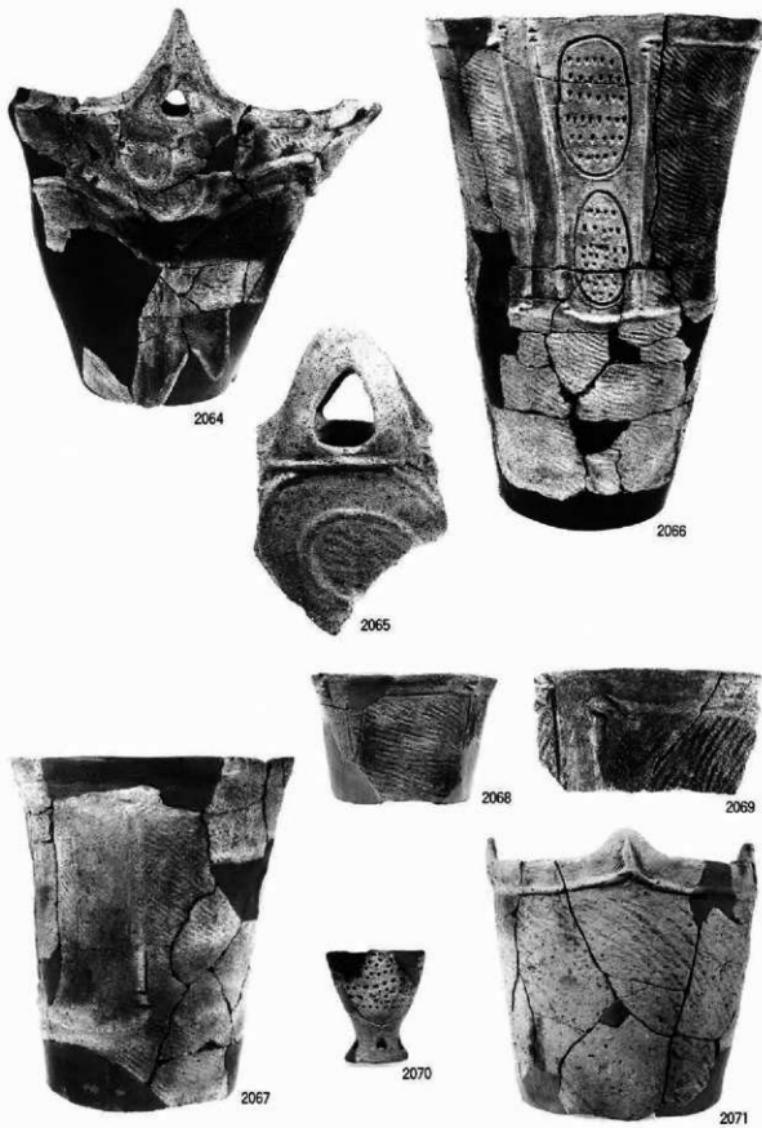


2062



2063

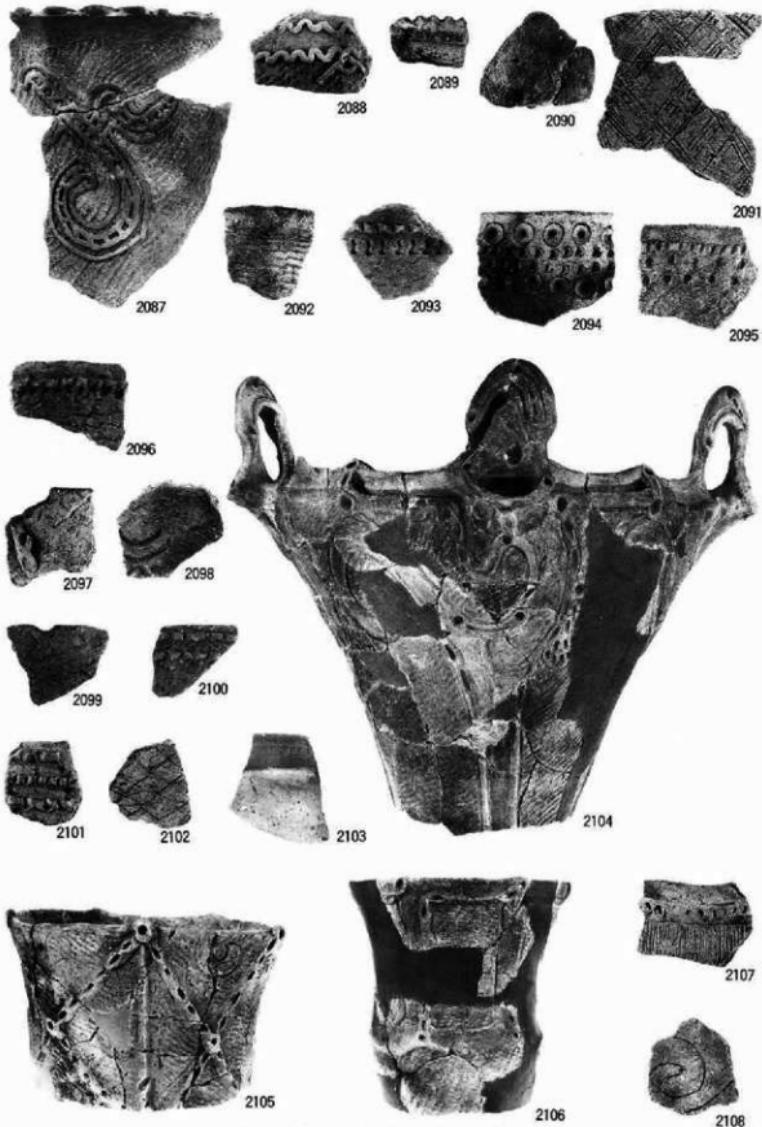
写真図版156 出土遺物2054~2063



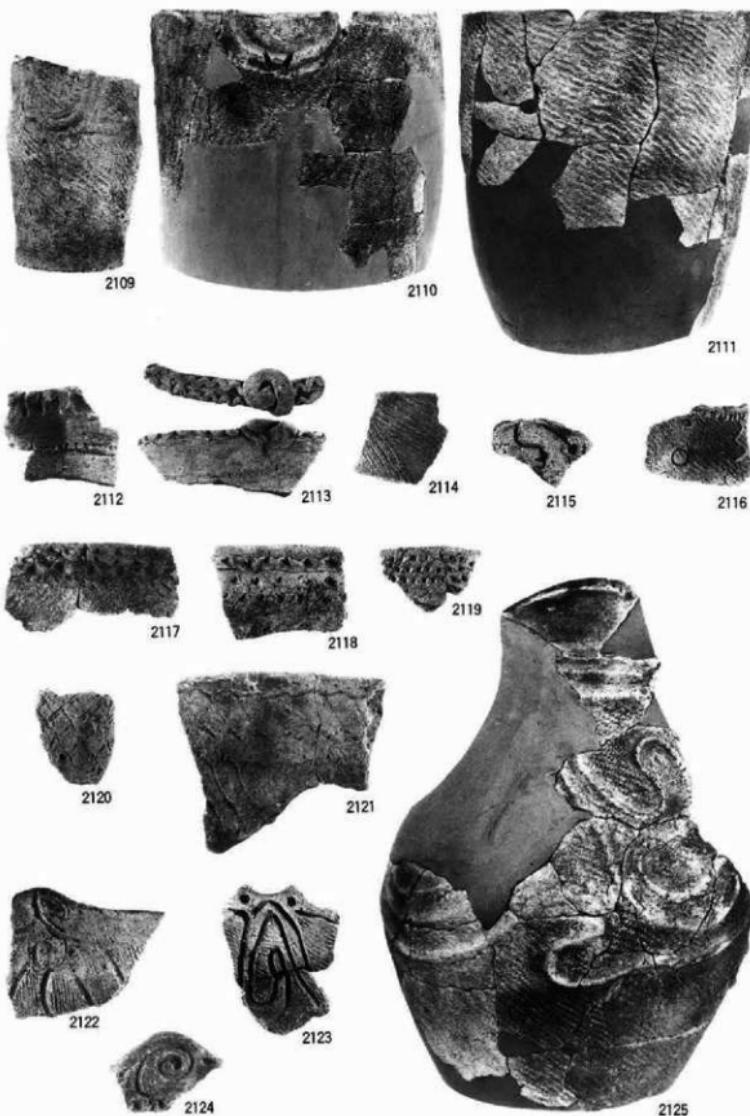
写真図版157 出土遺物2064~2071



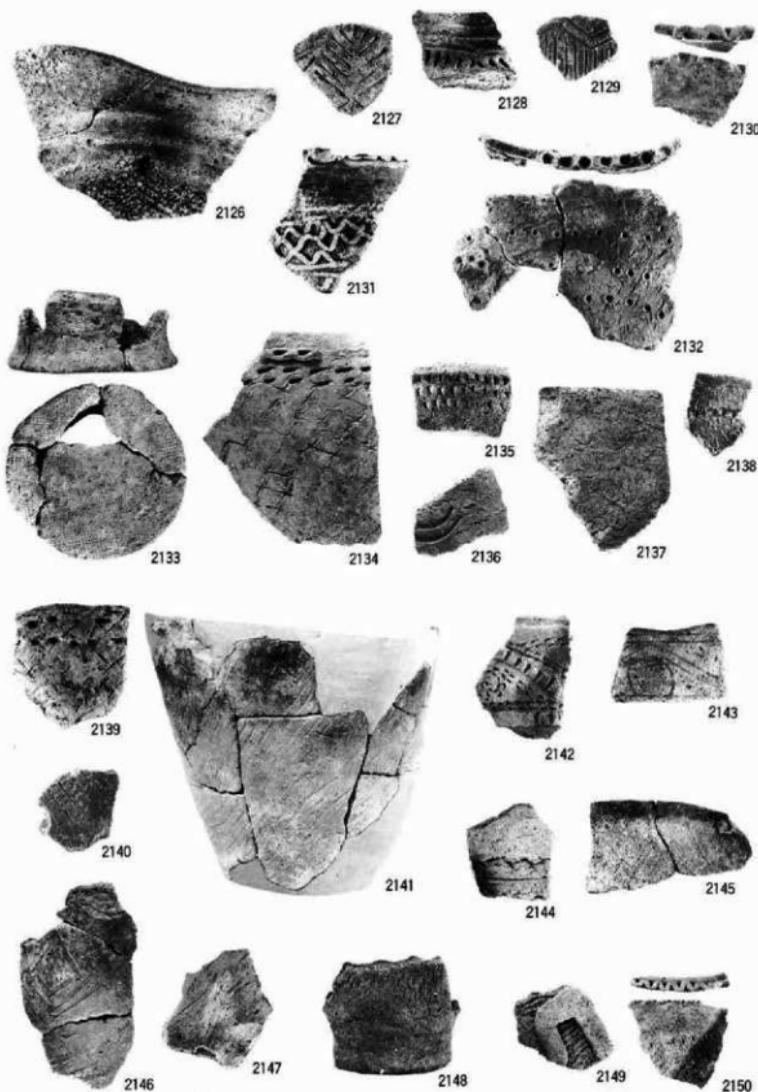
写真図版158 出土遺物2072～2086



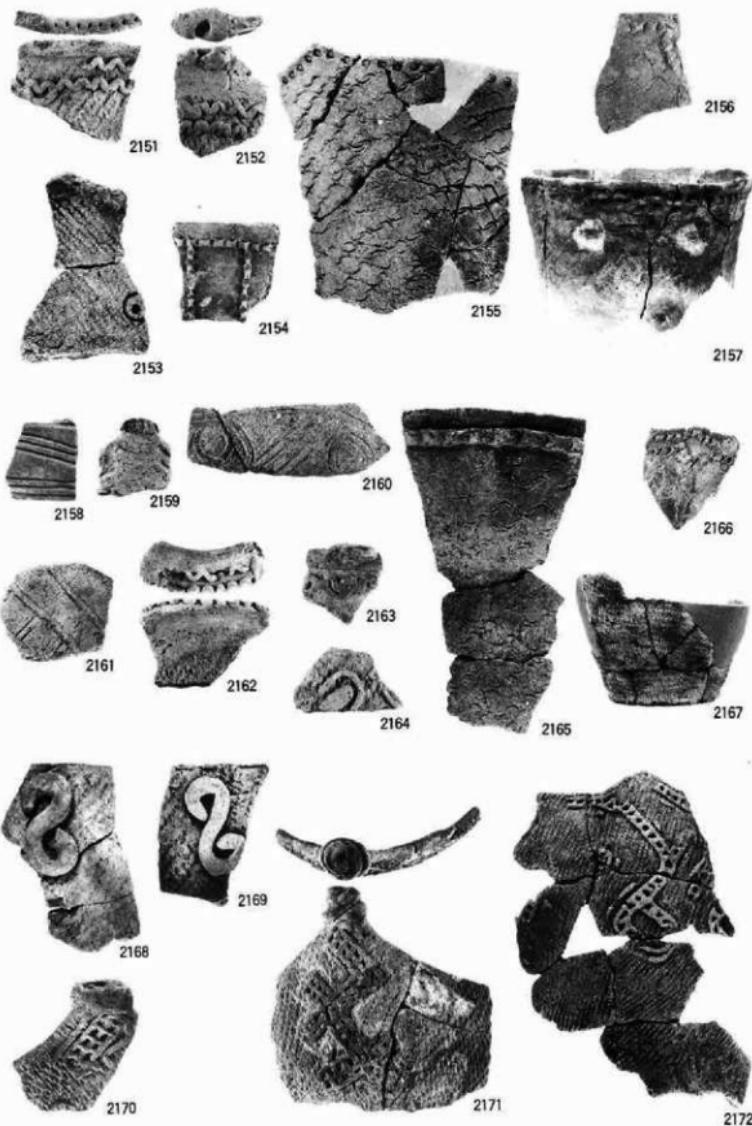
写真図版159 出土遺物2087~2108



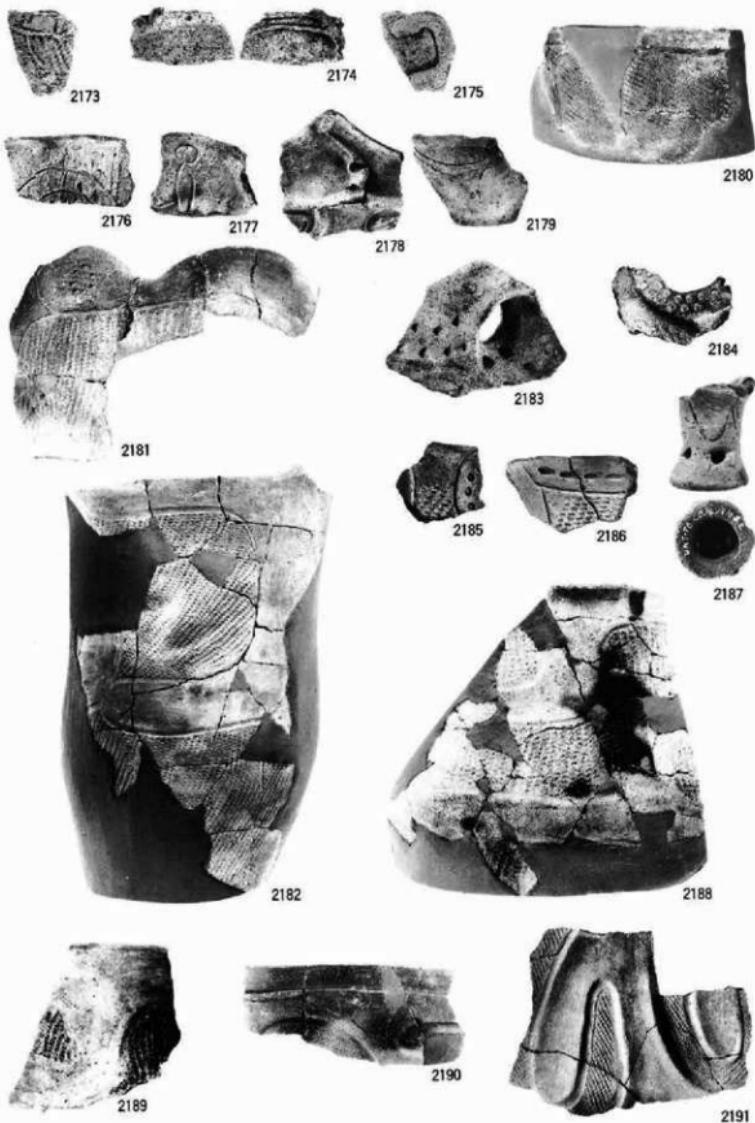
写真図版160 出土遺物2109~2125



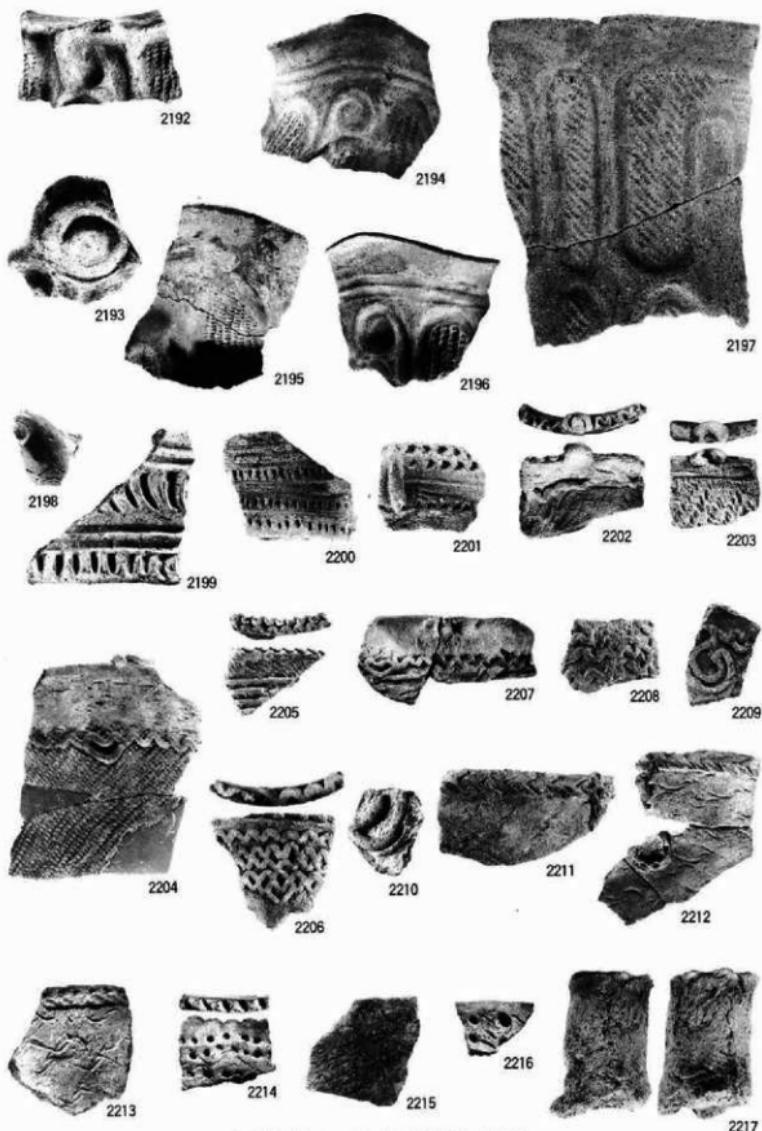
写真図版161 出土遺物2126~2150



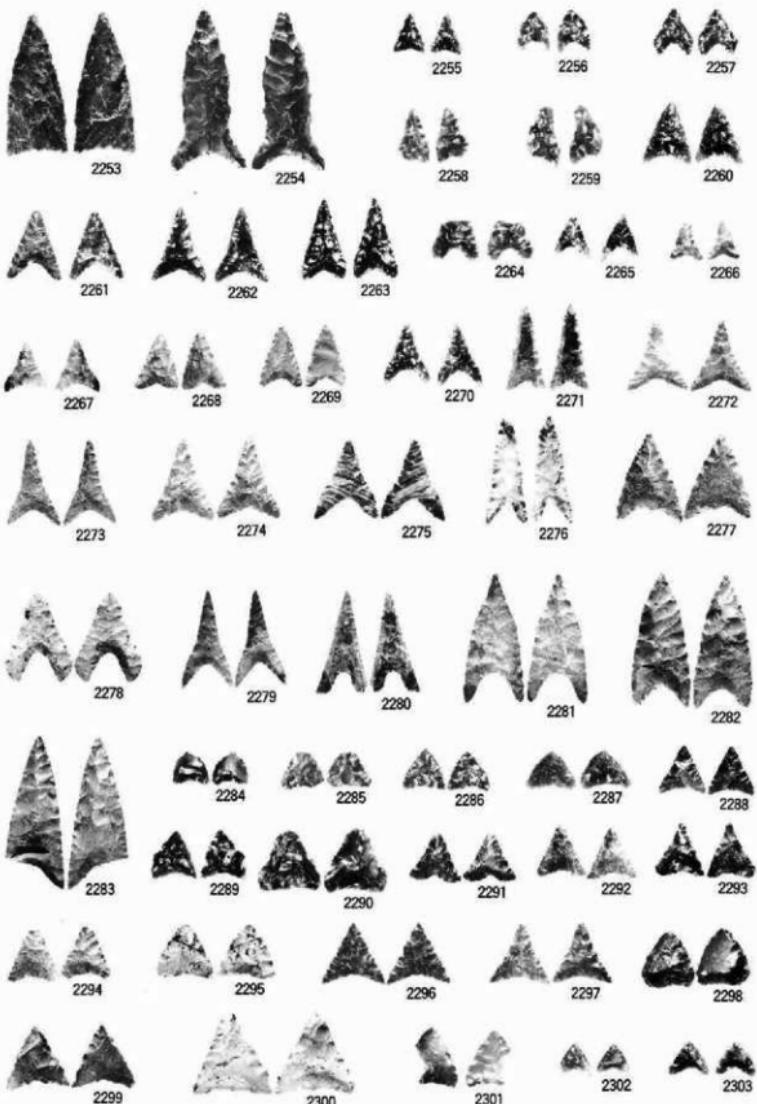
写真図版162 出土遺物2151~2172



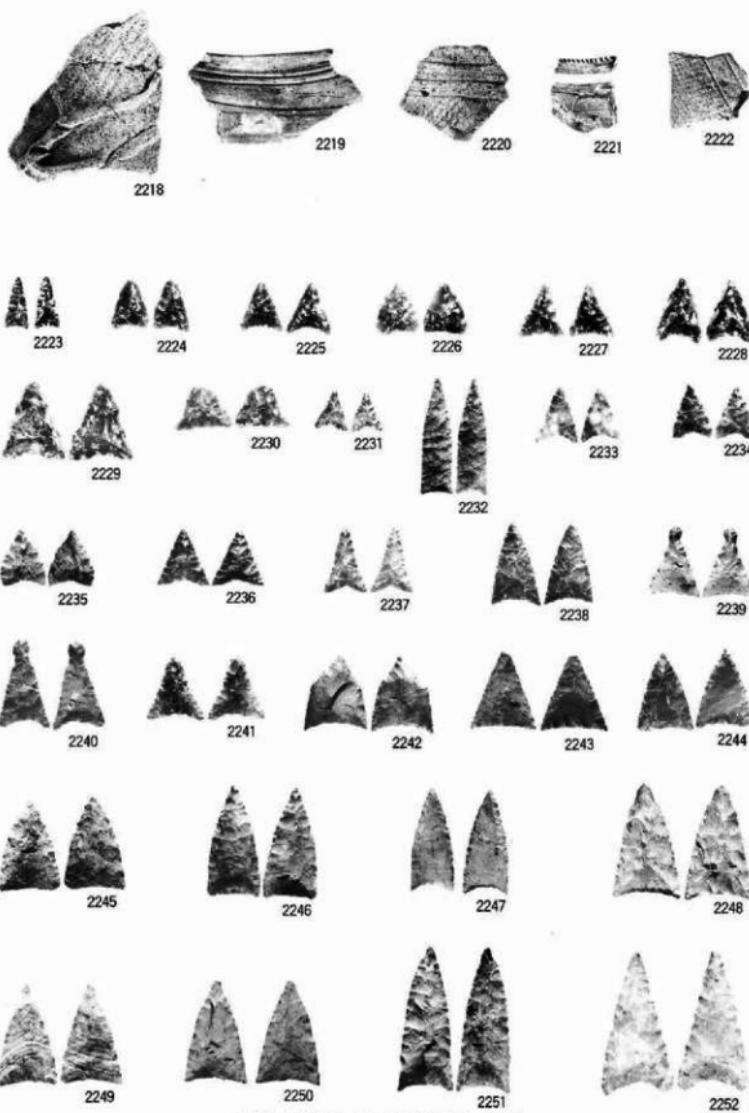
写真図版163 出土遺物2173~2191



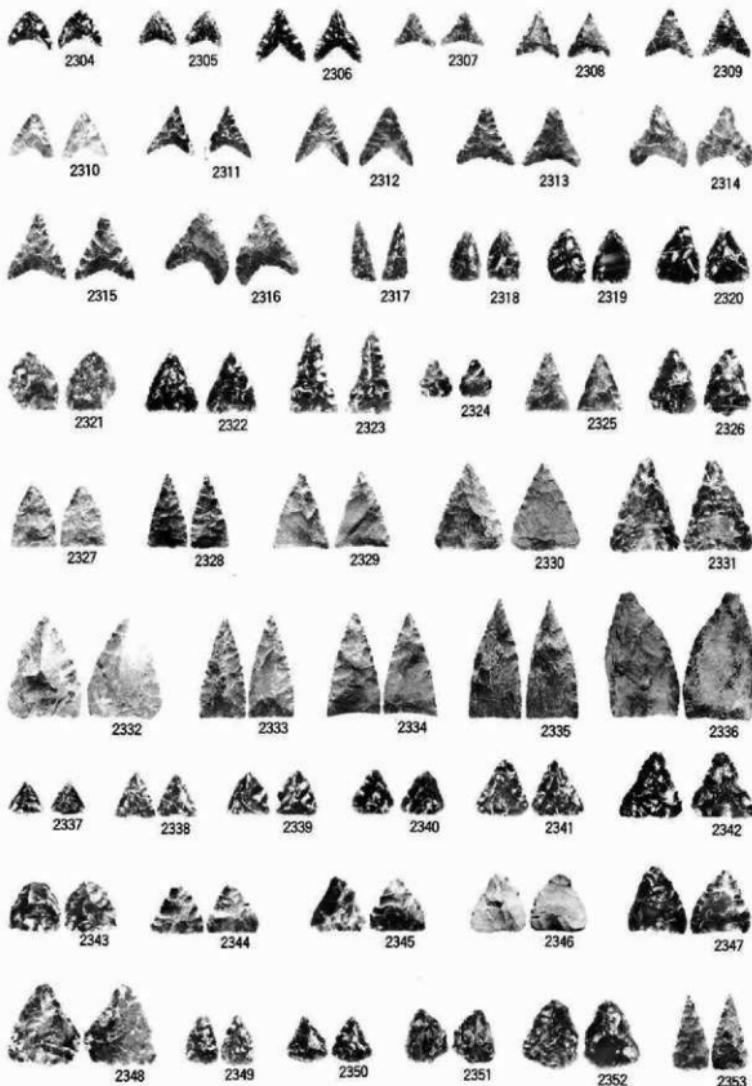
写真図版164 出土遺物2192~2217



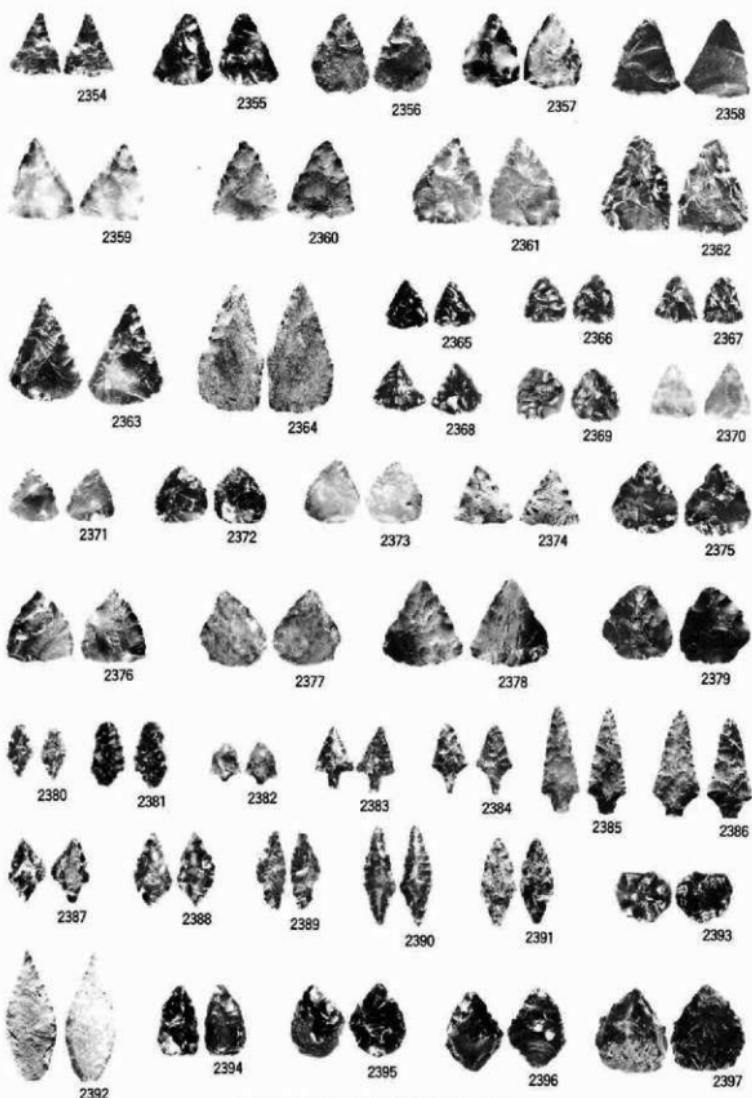
写真図版166 出土遺物2253~2303



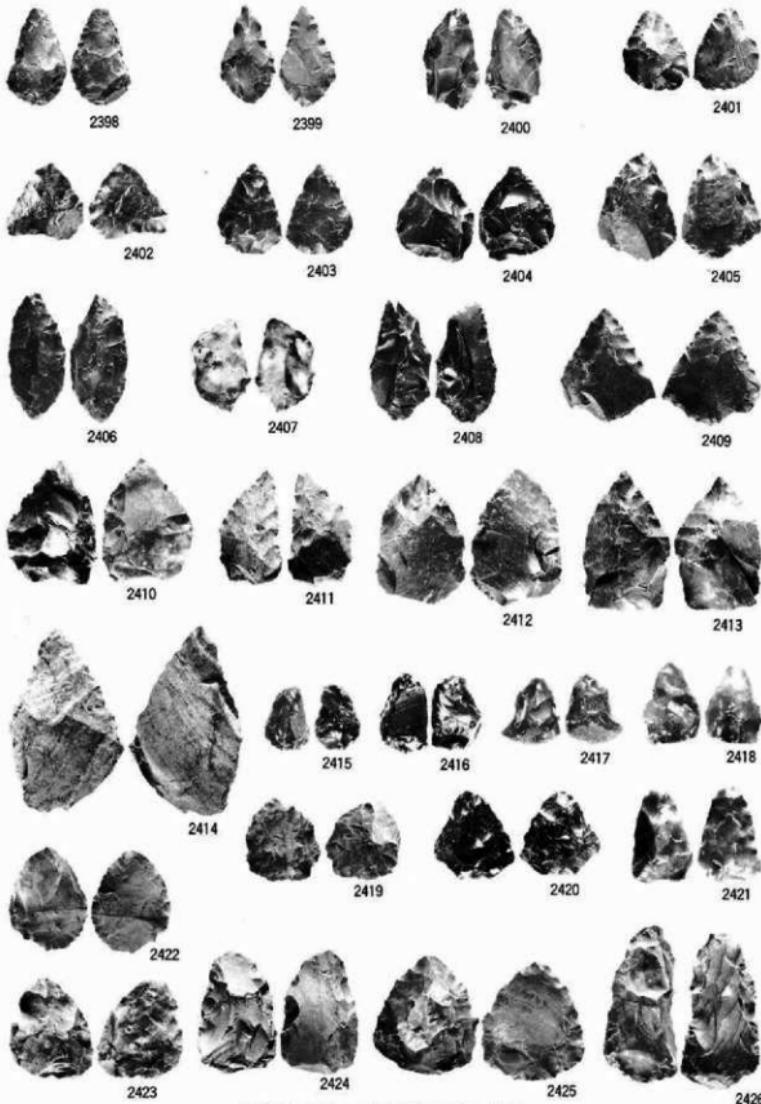
写真図版165 出土遺物2218~2252



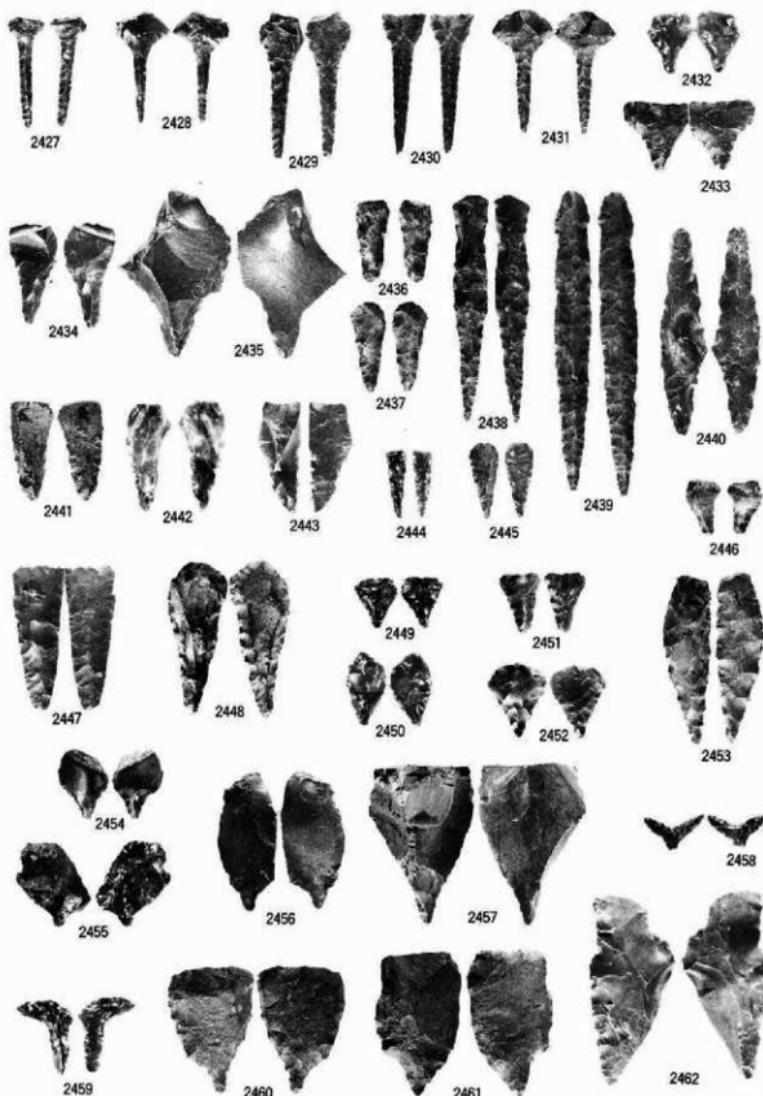
写真図版167 出土遺物2304~2353



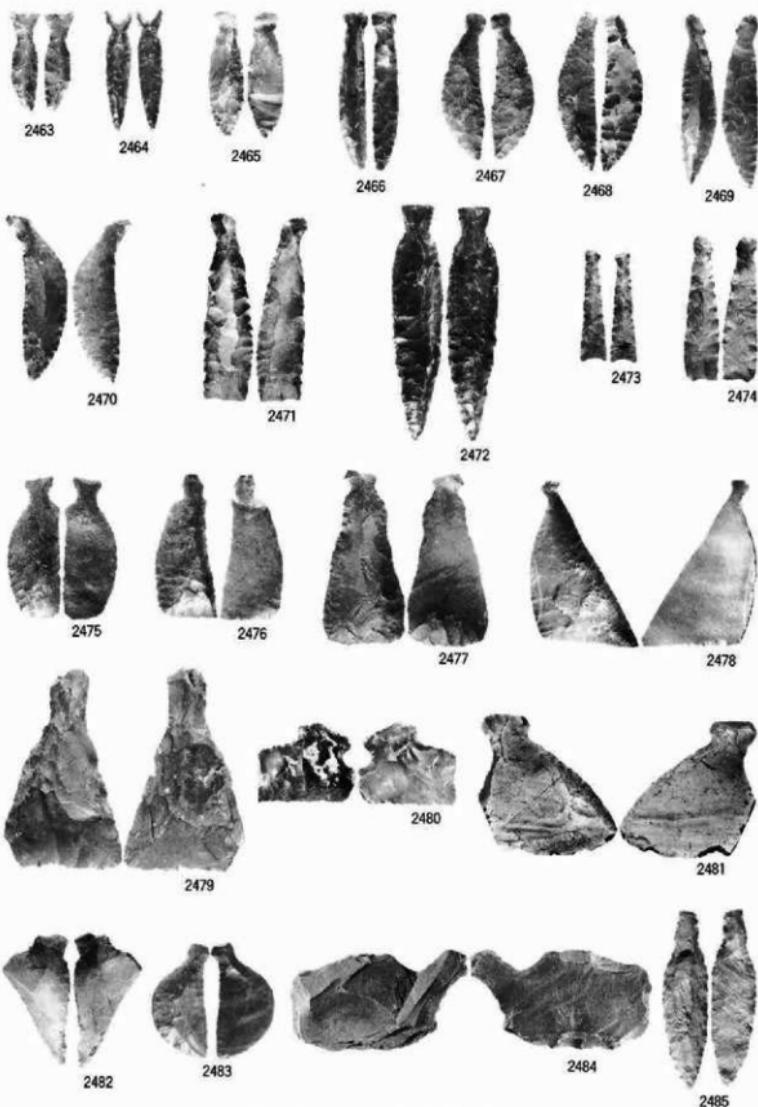
写真図版168 出土遺物2354~2397



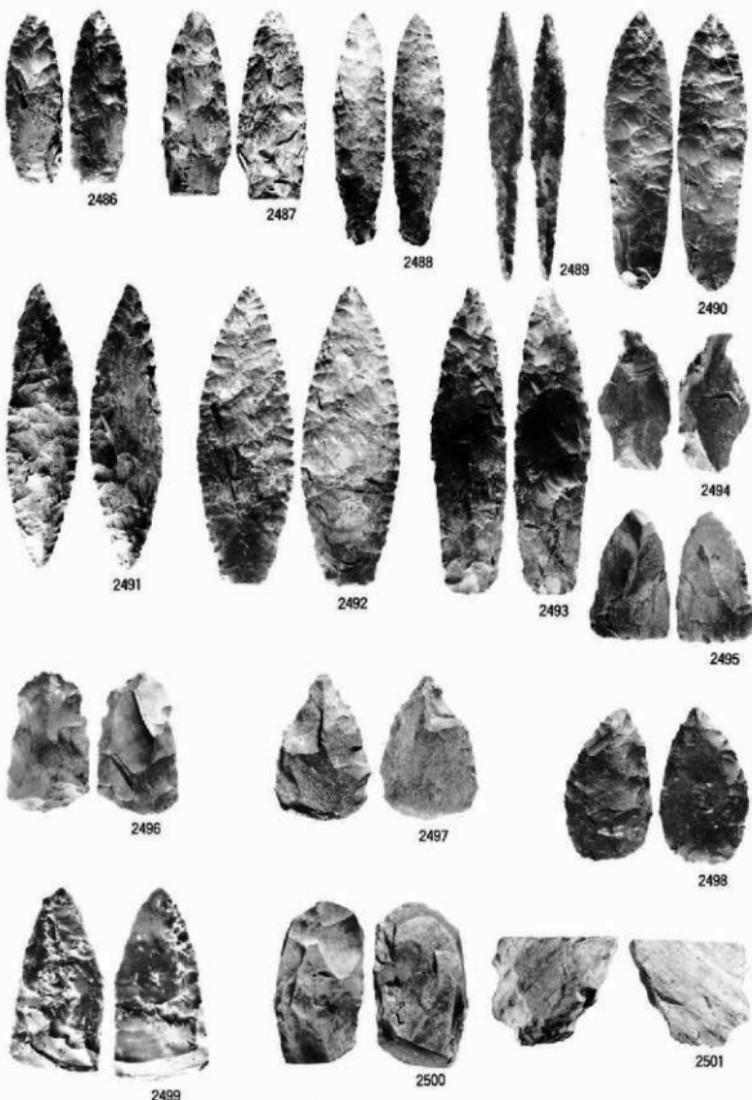
写真図版169 出土遺物2398~2426



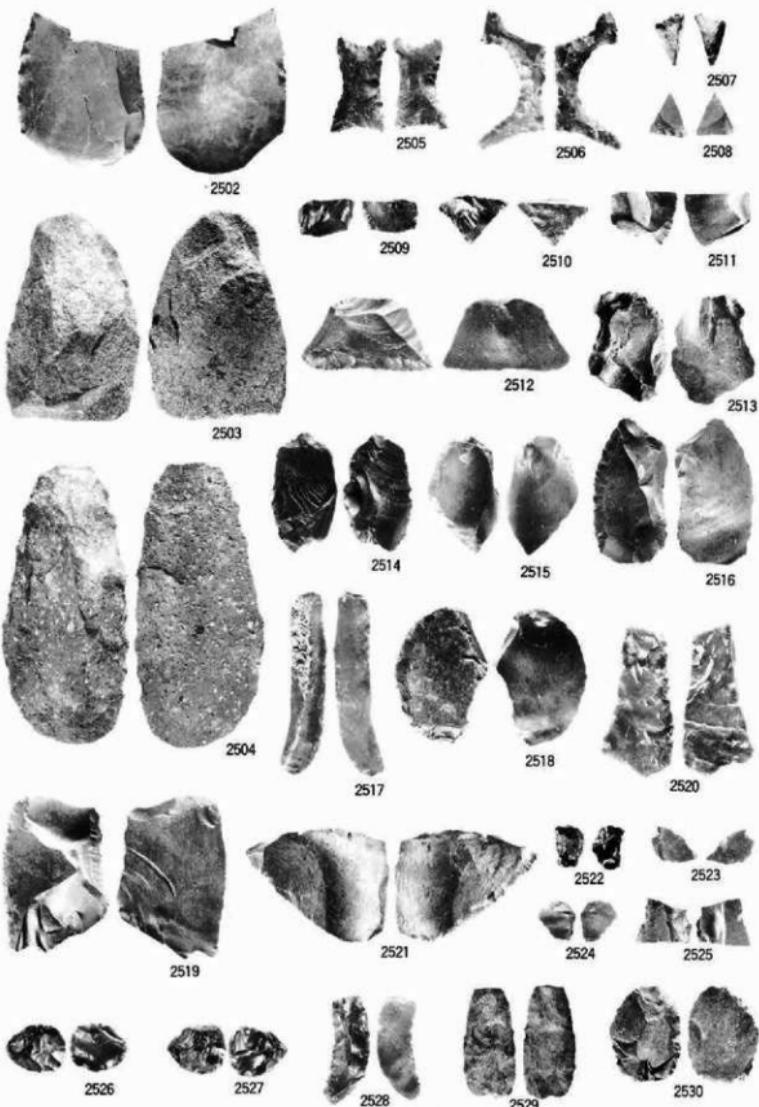
写真図版170 出土遺物2427~2462



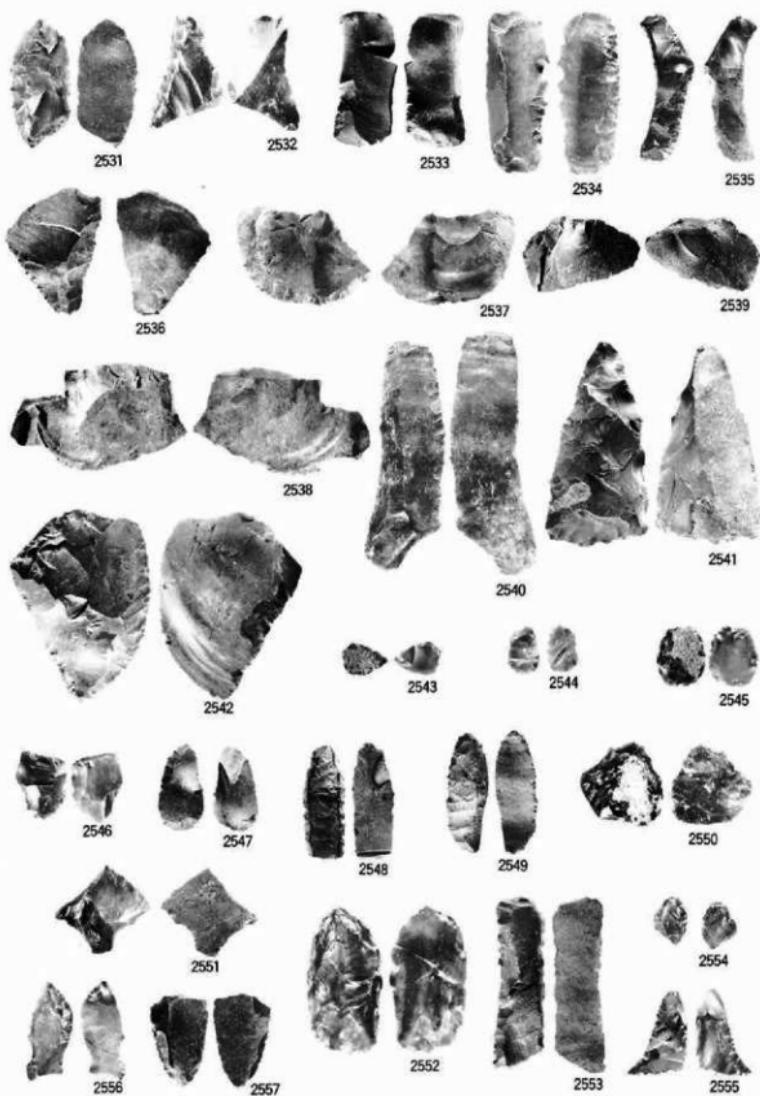
写真図版171 出土遺物2463~2485



写真図版172 出土遺物2486~2501



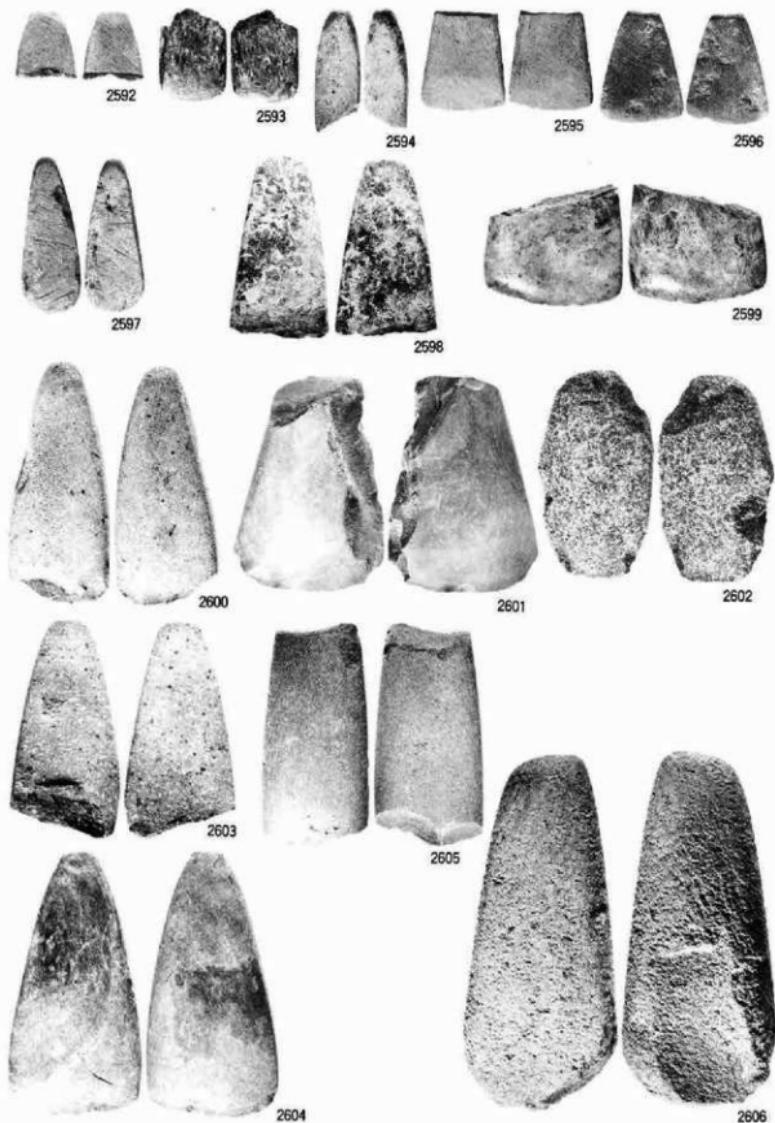
写真図版173 出土遺物2502～2530



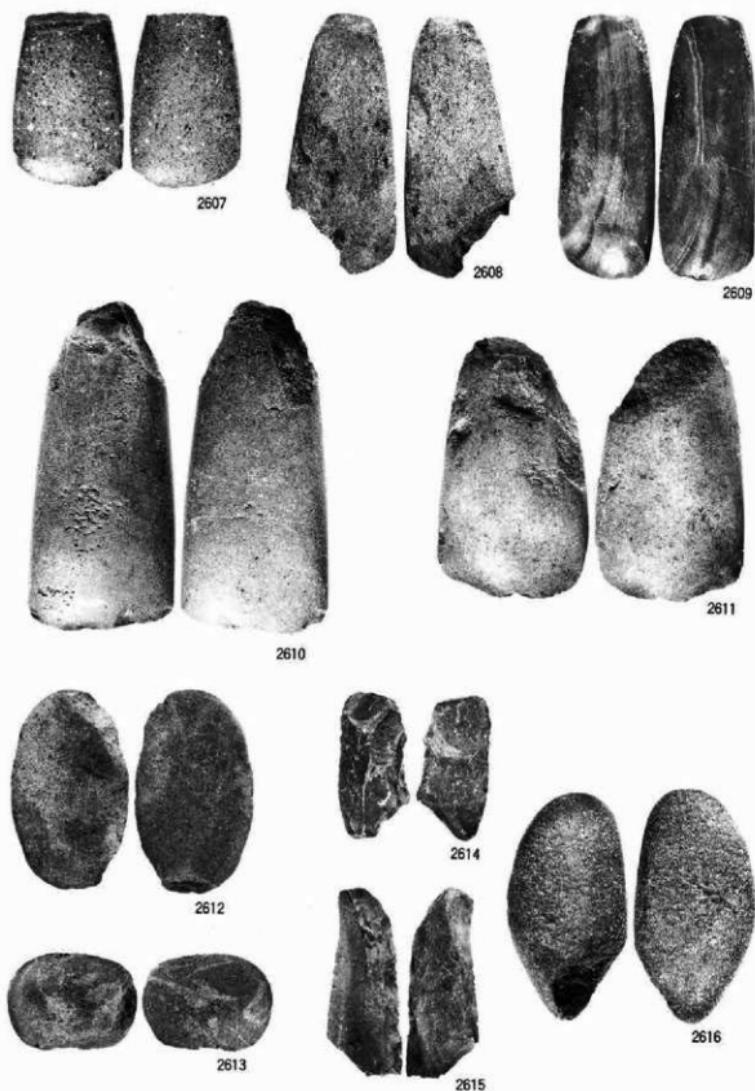
写真図版174 出土遺物2531～2557



写真図版175 出土遺物2558~2591



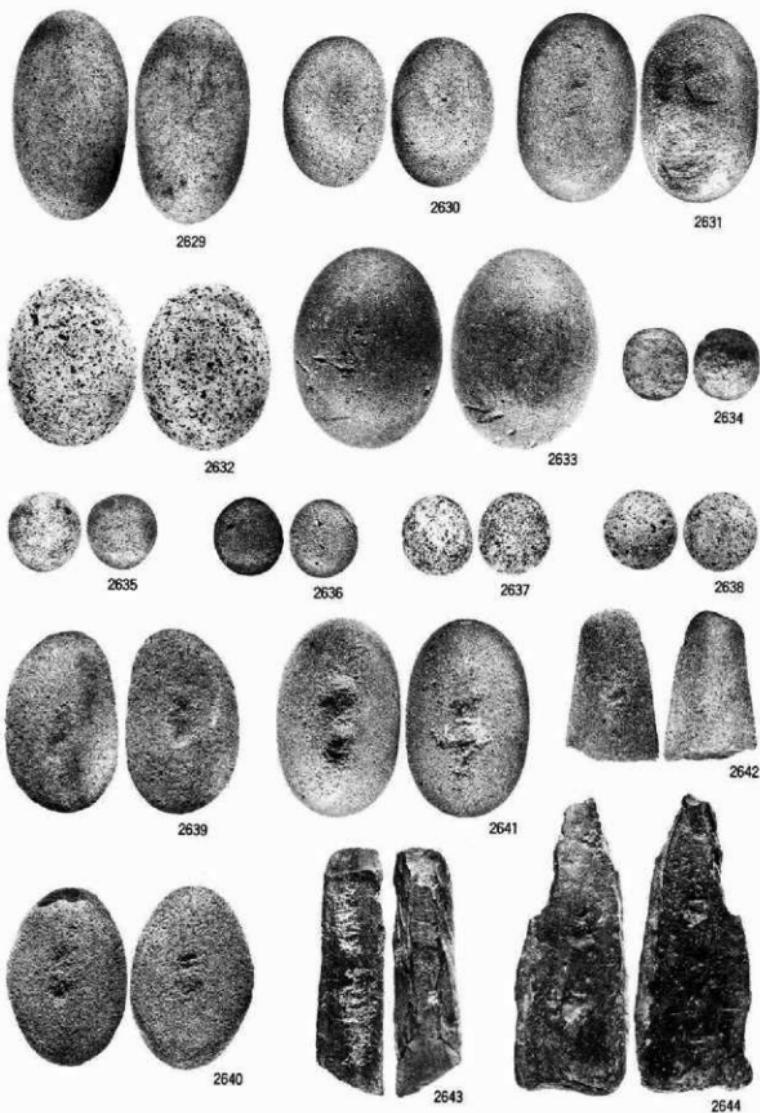
写真図版176 出土遺物2592~2606



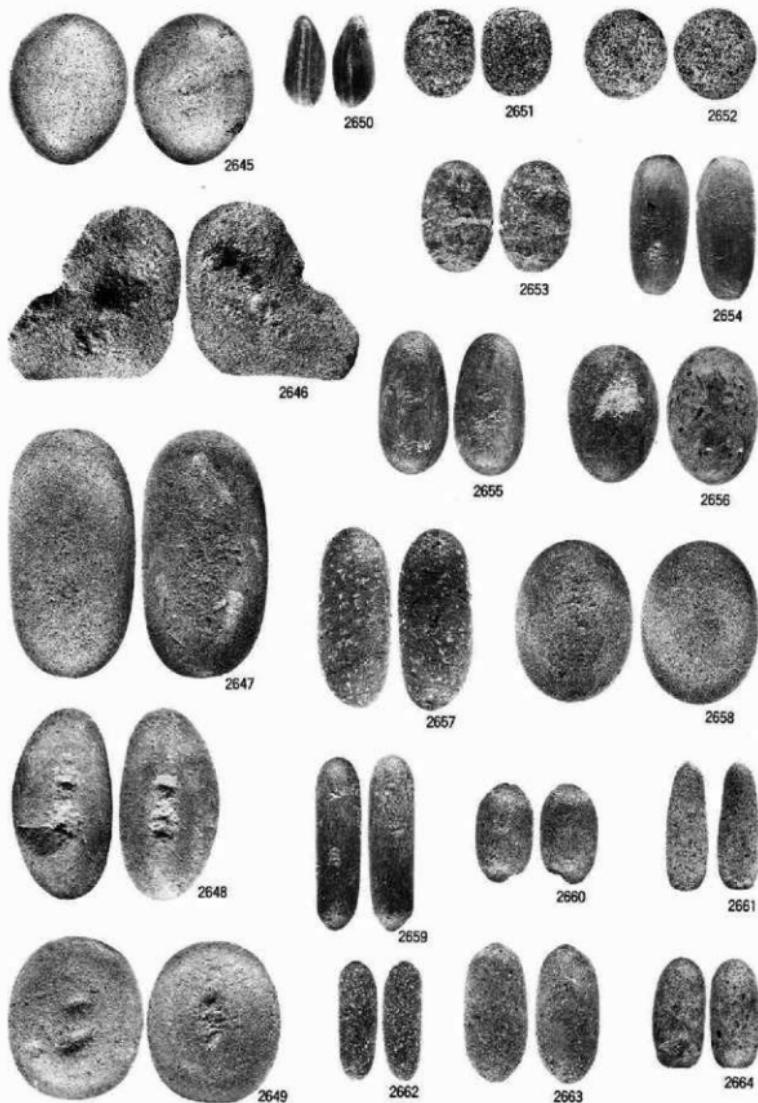
写真図版177 出土遺物2607～2616



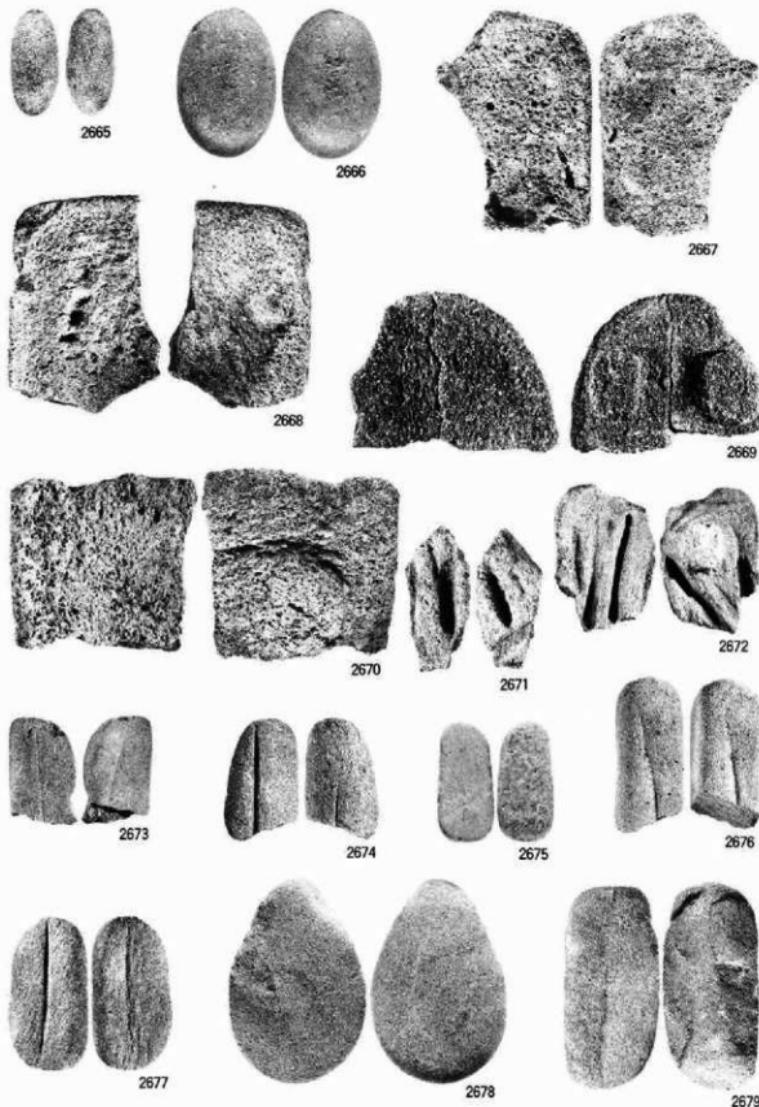
写真図版178 出土遺物2617~2628



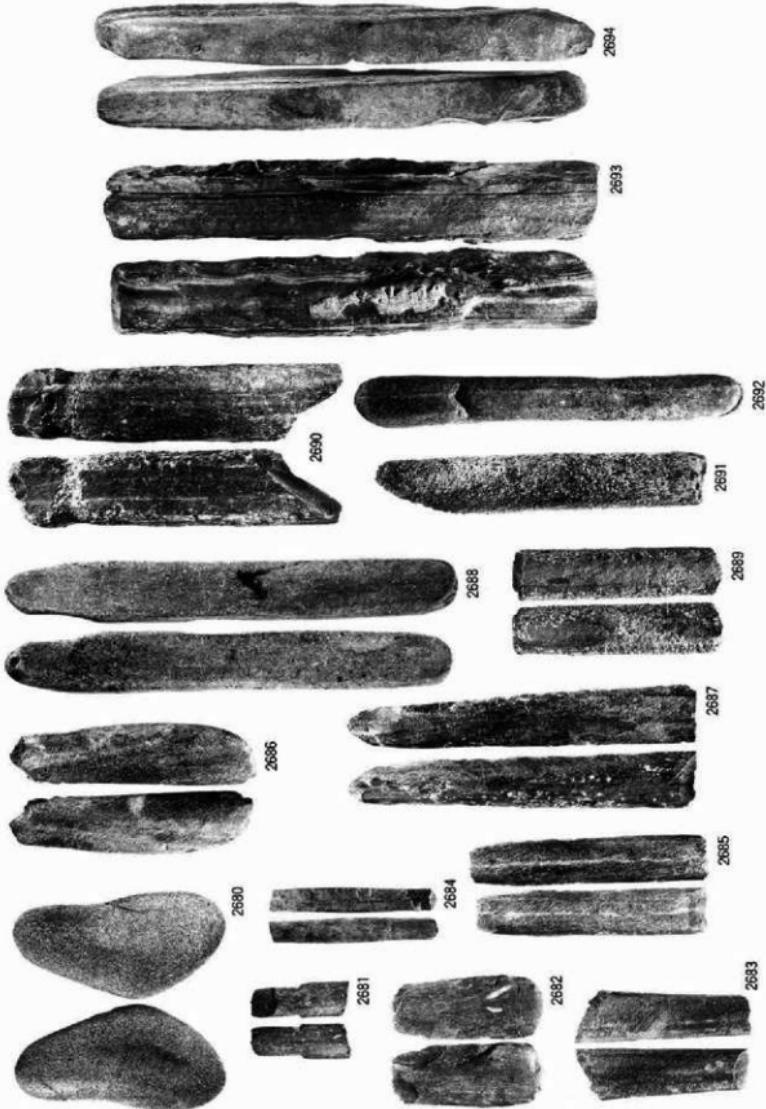
写真図版179 出土遺物2629～2644



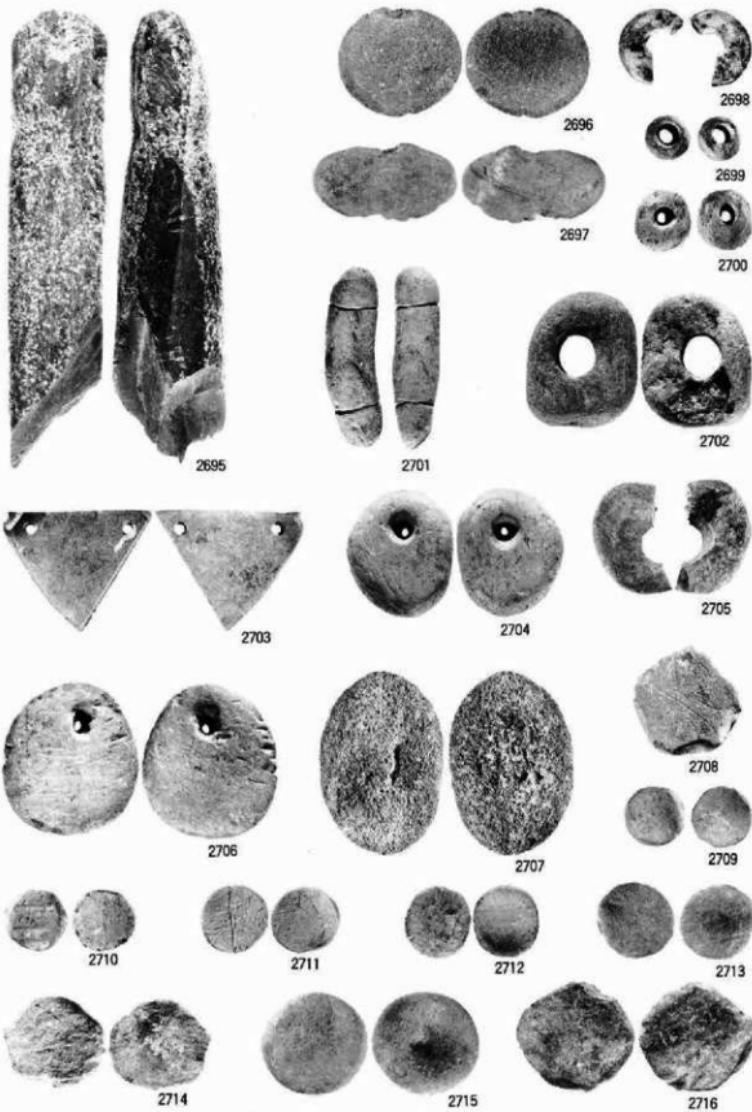
写真図版180 出土遺物2645~2664



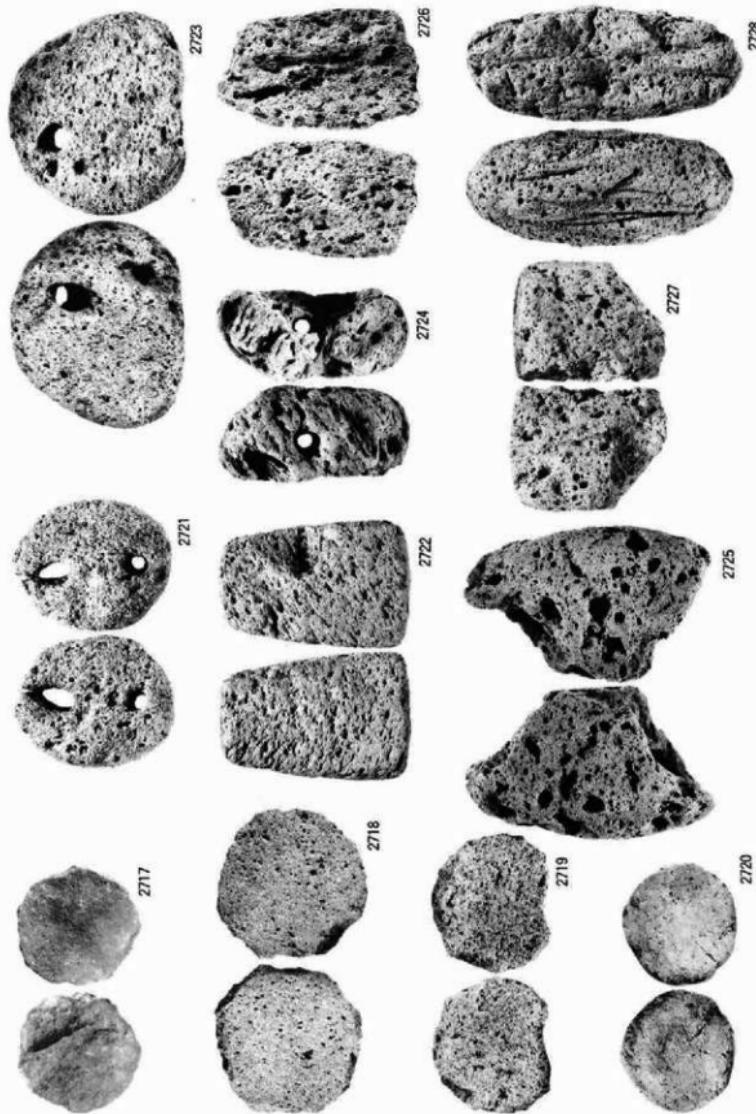
写真図版181 出土遺物2665~2679



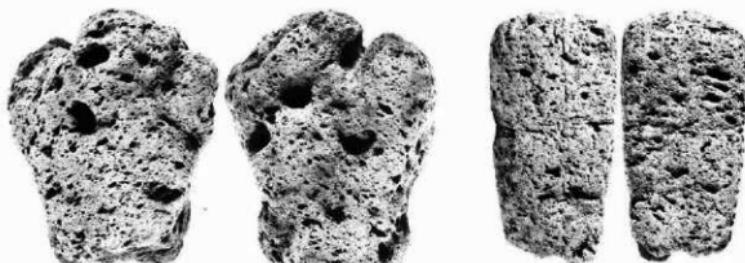
写真図版182 出土遺物2680～2694



写真図版183 出土遺物2695~2716



写真図版184 出土遺物2717~2728



2729

2730



2731



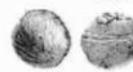
2732



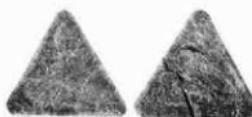
2733



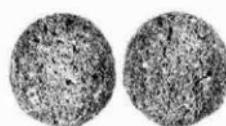
2734



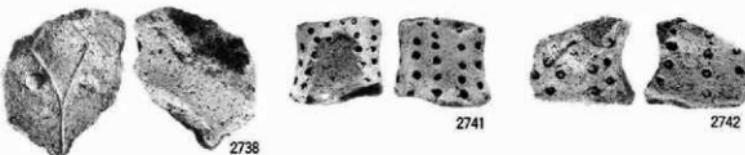
2735



2736



2737



2738

2741

2742



2739

2740

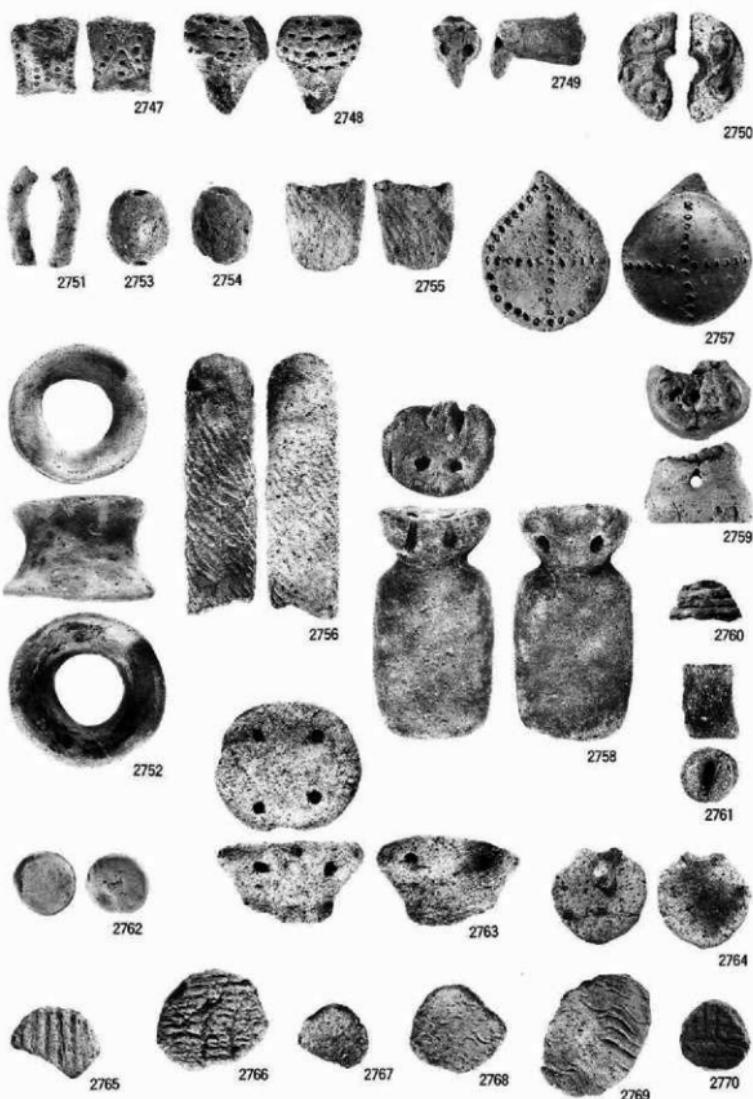
2744

2743

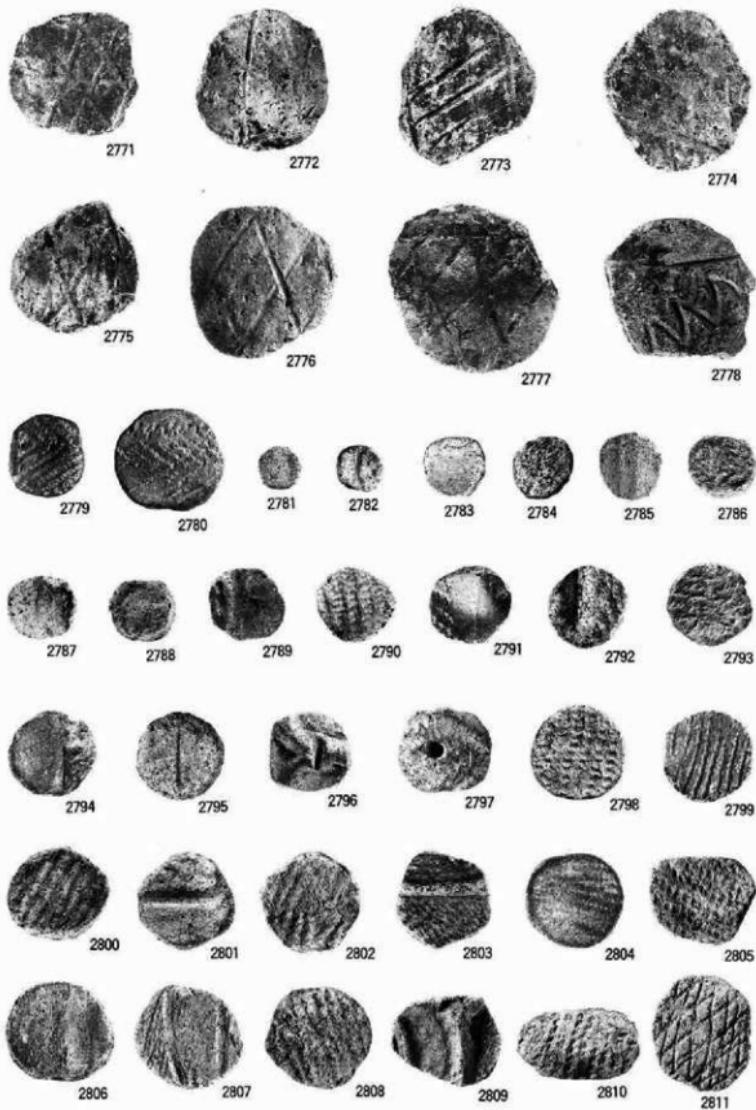
2745

2746

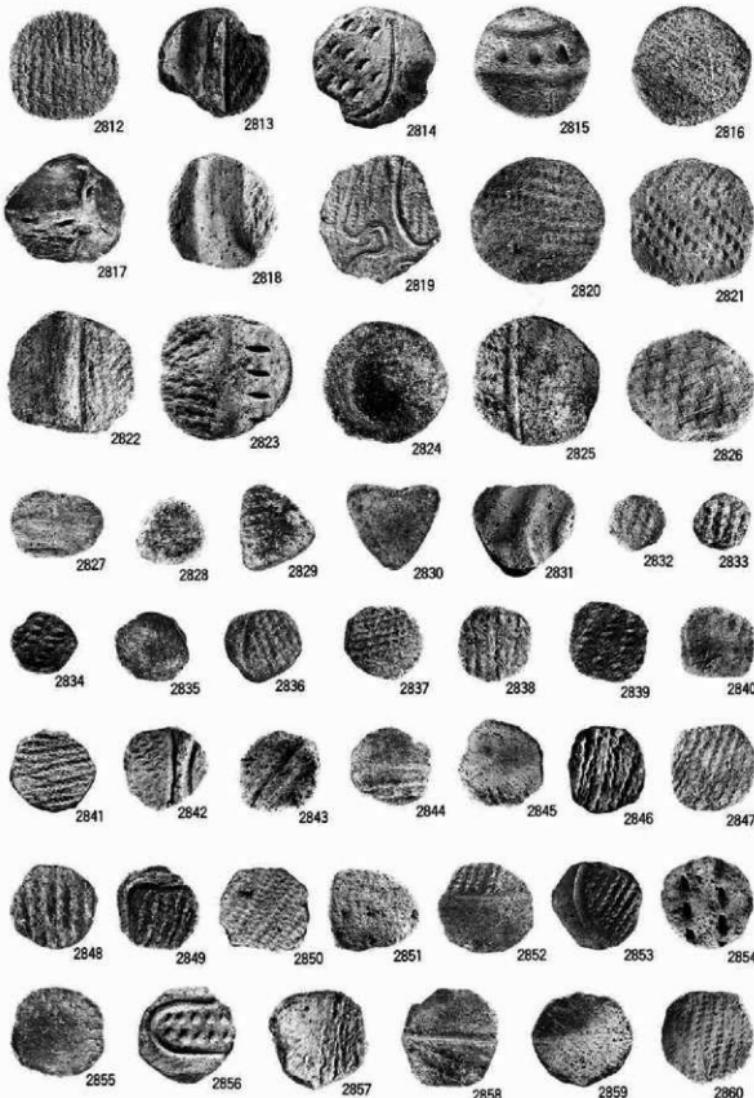
写真図版185 出土遺物2729～2746



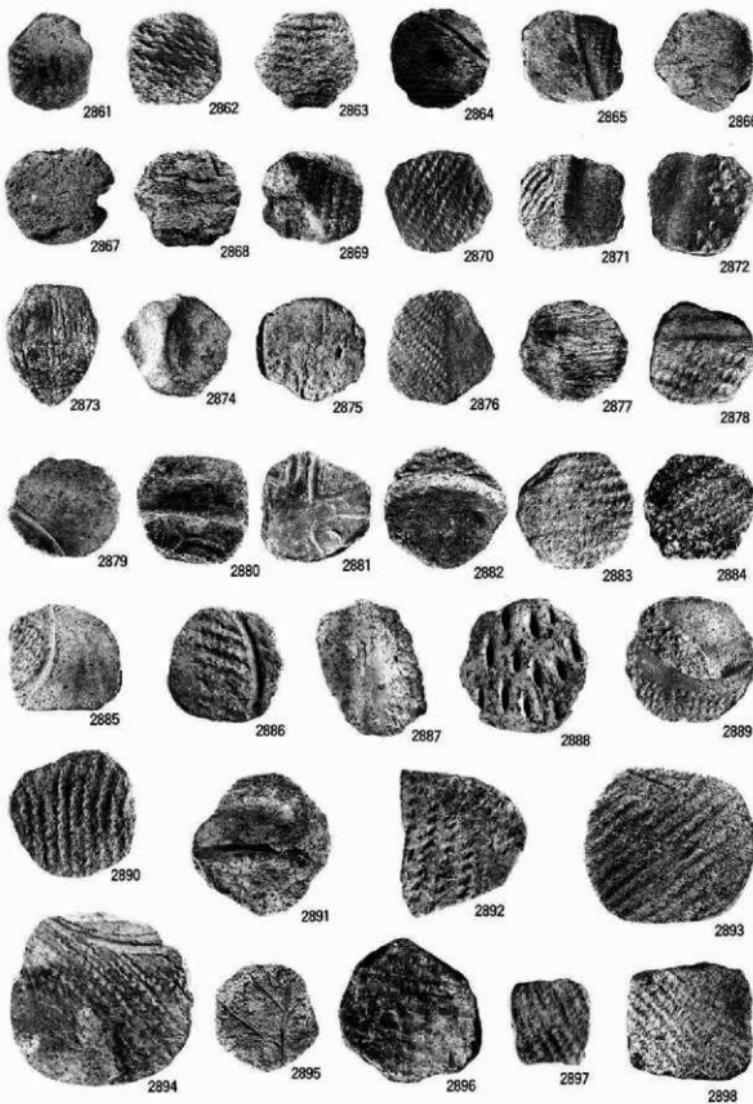
写真図版186 出土遺物2747~2770



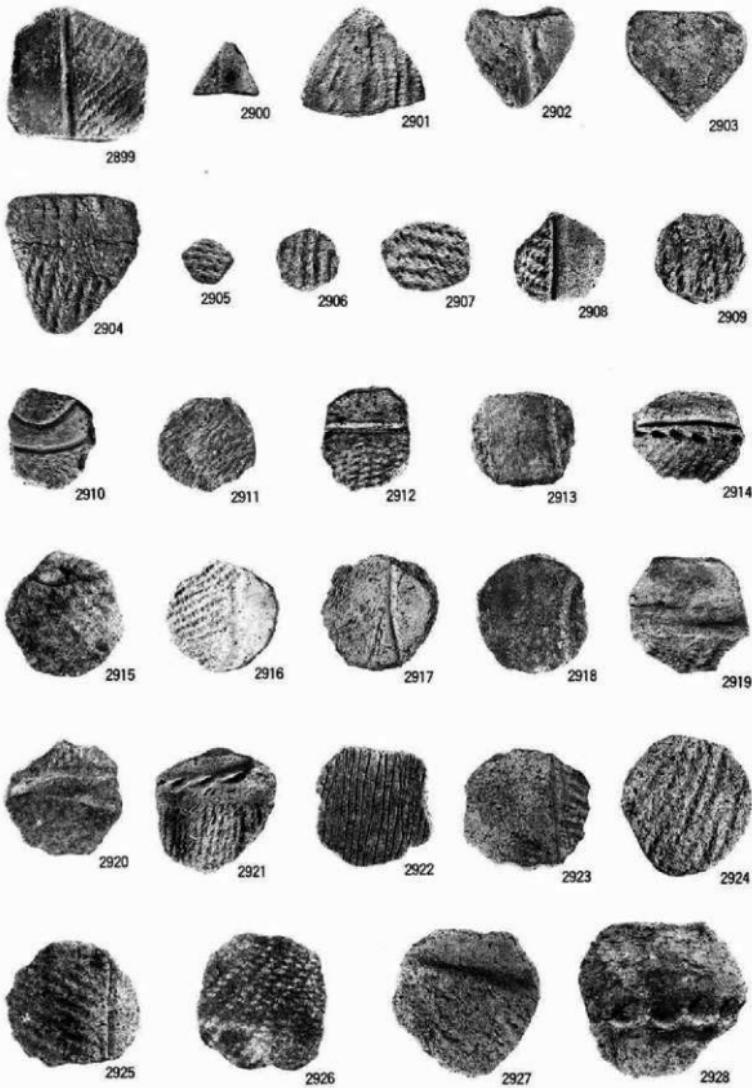
写真図版187 出土遺物2771~2811



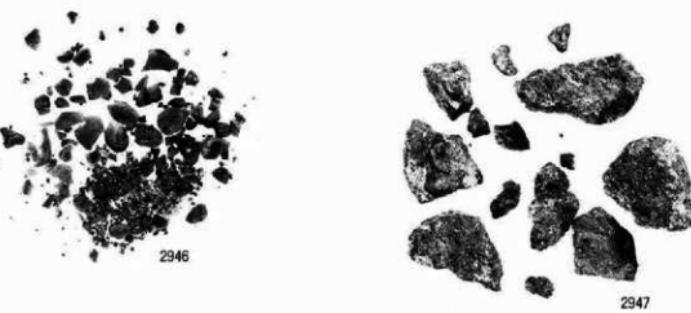
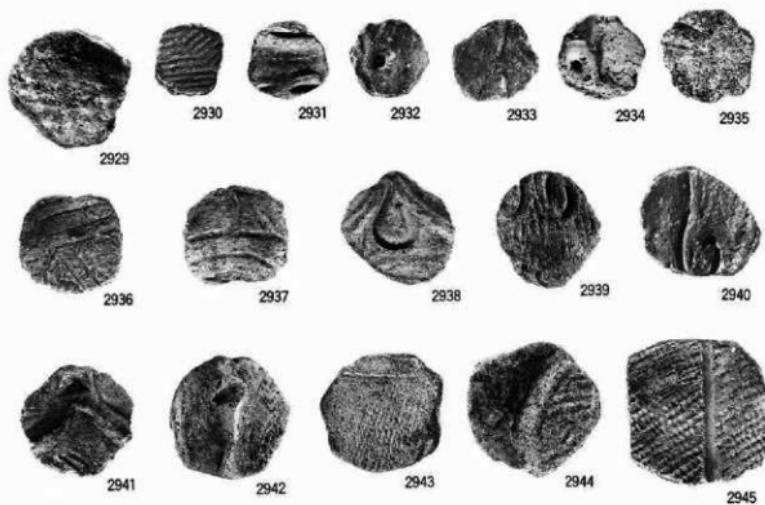
写真図版188 出土遺物2812~2860



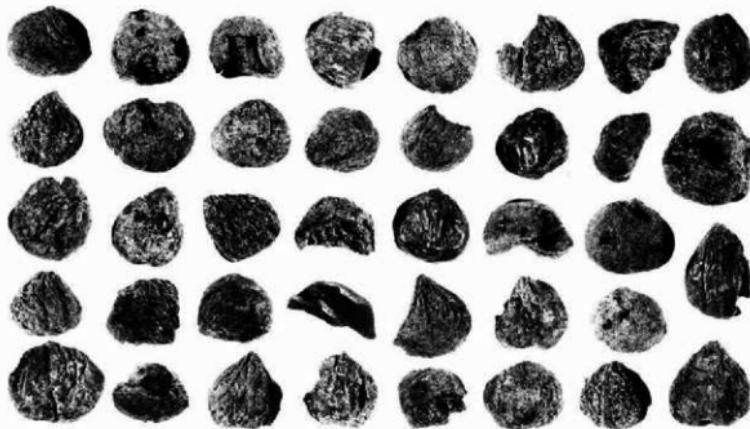
写真図版189 出土遺物2861~2898



写真図版190 出土遺物2899～2928



写真図版191 出土遺物2929～2949



写真図版192 出土遺物2950

財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

所副所長藤佐直司

〔管理課〕

〔調查第一課〕

管 理 課 長 査 事 川 立 日 浪 花 影 清 多 加 志 瞳 德 夫

嘱託 稲島忠子
タ 新田トヨ
タ 佐々木栄重

〔調查第二課〕

課文	主	佐	長	佐	高	橋	川	門	衛	門
主	補	財	貿	員	紀	介	身	與	重	右
文	化	查	易	員	中	義	貞	川	義	衛
專	長	調	化	員	高	古	館	門	介	右
專	課	任	門	門	古					

期 誓 付

専	門	職	員
タ			里
タ			義
タ			彦
タ			俊
タ			佳
タ			里
タ			賢
タ			
タ	木澤	谷口	平
タ	谷	谷田	布
タ	原	原川	山
タ	川		熊吉
タ			藤吉
タ			吉

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第333集

上野平遺跡発掘調査報告書

緊急地方道路藤沢・津谷川線整備事業関連遺跡発掘調査

平成12年3月15日 印刷

平成12年3月24日 発行

発行 財團法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185

電話 (019) 638-9001

FAX (019) 638-8563

印刷 株式会社 吉田印刷

〒020-0016 盛岡市名須川町23-27

電話 (019) 625-2323

